

基本計画書（共同学科等）

事項	記入欄																				
計画の区分	学部の設置				学部の学科の設置				/												
構成大学の設置者	国立大学法人 富山大学				国立大学法人 金沢大学																
構成大学の名称	富山大学 (University of Toyama)				金沢大学 (Kanazawa University)																
構成大学の本部の位置	富山県富山市五福3190				石川県金沢市角間町																
共同学科等の名称	教育学部共同教員養成課程 (Joint Institute of Teacher Education, School of Teacher Education)				人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程 (Joint Institute of Teacher Education, School of Teacher Education, College of Human and Social Sciences)																
共同学科等の目的	教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性に加え、教科等に関する専門知識や技能、それらを教授する基礎的能力、児童生徒理解に関する知識、学校現場における現代的課題に対応した教育活動を構想する能力を重視し、子どもへの教育的愛情と教員としての使命感、責任感、倫理観を身に付けるための教育を行い、多様化・複雑化する教育現場の諸課題の解決に向かって行動する学校教員を組織的及び計画的に養成することを目的とする。																				
共同学科等の概要	入学定員	編入学定員	収容定員	/	入学定員	編入学定員	収容定員	/	修業年限	入学定員 (合計)	編入学定員 (合計)	収容定員 (合計)									
	85	-	340		85	-	340		4	170	-	680									
学位	学士(教育学) 【Bachelor of Education】																				
開設時期及び開設年次	令和4年4月 第1年次																				
教育課程 <small>(各構成大学が開設する授業科目数)</small>	講義	演習	実験・演習	計	講義	演習	実験・演習	計	講義 (合計)	演習 (合計)	実験・演習 (合計)	計									
	349科目	158科目	56科目	563科目	372科目	256科目	108科目	736科目	637科目	359科目	131科目	1127科目									
教員組織の概要	専任教員等				兼任 教員等	専任教員等				兼任 教員等	専任教員等 (合計)				兼任 教員等 (合計)						
	教授	准教授	講師	助教		計	助手	教授	准教授		講師	助教	計	助手		教授	准教授	講師	助教	計	助手
	13人 (19)	18人 (18)	11人 (11)	0人 (0)	42人 (48)	0人 (0)	94人 (94)	26人 (26)	22人 (22)	1人 (1)	0人 (0)	49人 (49)	0人 (0)	108人 (108)	39人 (45)	40人 (40)	12人 (12)	0人 (0)	91人 (97)	0人 (0)	202人 (202)
	研究指導教員等				その 他の 教員	研究指導教員等				その 他の 教員	研究指導教員等 (合計)				その 他の 教員 (合計)						
教授	准教授	講師	助教	計		教授	准教授	講師	助教		計	教授	准教授	講師		助教	計				
-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)		
教員以外の 職員の概要	職	専任	兼任	任	計	専任	兼任	任	計	/											
	事務職員	379人 (379)		63人 (63)	442人 (442)	431人 (431)		469人 (469)	900人 (900)												
	技術職員	955人 (955)		34人 (34)	989人 (989)	1,077人 (1,077)		165人 (165)	1,242人 (1,242)												
	図書館専門職員	18人 (18)		0人 (0)	18人 (18)	10人 (10)		2人 (2)	12人 (12)												
	その他の職員	22人 (22)		15人 (15)	37人 (37)	4人 (4)		543人 (543)	547人 (547)												
	計	1,374人 (1,374)		112人 (112)	1,486人 (1,486)	1,522人 (1,522)		1,179人 (1,179)	2,701人 (2,701)												

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	専用 (合計)	共用 (合計)	共用する他の学校 等の専用 (合計)	計				
	校 舎 敷 地	518,141㎡	0㎡	0㎡	518,141㎡	730,408㎡	0㎡	0㎡	730,408㎡	1,248,549㎡	0㎡	0㎡	1,248,549㎡				
	運 動 場 用 地	105,572㎡	0㎡	0㎡	105,572㎡	115,740㎡	0㎡	0㎡	115,740㎡	221,312㎡	0㎡	0㎡	221,312㎡				
	小 計	623,713㎡	0㎡	0㎡	623,713㎡	846,148㎡	0㎡	0㎡	846,148㎡	1,469,861㎡	0㎡	0㎡	1,469,861㎡				
	そ の 他	89,909㎡	0㎡	0㎡	89,909㎡	1,717,530㎡	0㎡	0㎡	1,717,530㎡	1,807,439㎡	0㎡	0㎡	1,807,439㎡				
合 計	713,622㎡	0㎡	0㎡	713,622㎡	2,563,678㎡	0㎡	0㎡	2,563,678㎡	3,277,300㎡	0㎡	0㎡	3,277,300㎡					
大学全体の収容定員 (うち共同学科に係る収容 定員を除いた数)		8,642人 (8,302)				9,793人 (9,453)											
教 室 等	講義室	演習室			実験実習室	講義室	演習室			実験実習室							
	131室	238室			653室	162室	208室			1,180室							
	情報処理学習施設			語学学習施設			情報処理学習施設			語学学習施設							
	21室 (補助職員 14人)			3室 (補助職員 0人)			11室 (補助職員 0人)			8室 (補助職員 0人)							
専任教員研究室数		42室				49室											
図 書 ・ 設 備	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚 資料	機械 器具	標本	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚 資料	機械 器具	標本					
	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]				[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]								
	冊	種	種				冊	種	種								
1,346,198[424,333]		23,029 (7,203)	15,147 (13,627)	18,448	37	0	1,914,343 (678,557)	35,708 (13,079)	10,744 (9,292)	8,336	8,986	212					
(1,346,198[424,333])		(23,029 (7,203))	(15,147 (13,627))	(18,448)	(37)	(0)	(1,914,343 (678,557))	(35,708 (13,079))	(10,744 (9,292))	(8,336)	(8,986)	(212)					
図 書 館	積 閲 覧 座 席 数			収 納 可 能 冊 数			積 閲 覧 座 席 数			収 納 可 能 冊 数							
	13,840㎡			1,512			1,056,750			19,794㎡			2,185			1,640,536	
経費の見積り及び 維持方法の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次								
		第4年次	第5年次	第6年次		第4年次	第5年次	第6年次									
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		-千円	-千円	-千円		-千円	-千円	-千円							
		共同研究費等	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円							
		図書購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円							
		設備購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円							
			-千円	-千円	-千円		-千円	-千円	-千円								
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次								
		第5年次	第6年次			第5年次	第6年次										
		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円								
		-千円	-千円			-千円	-千円										
	学生納付金以外の 維持方法の概要		-				-										
備 考		国費による				国費による											

既設学部等の状況	大学の名称		富山大学					所在地
	学部の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	
	人文学部 [School of Humanities]	年	人	年次人	人			富山県富山市五福3190番地
	人文学科 [Department of Humanities]	4	170	3年次 7	694	学士 (文学)	昭和52年度	
	人間発達科学部 [School of Human Development]							富山県富山市五福3190番地
	発達教育学科 [Department of Educational Sciences]	4	80	—	320	学士 (教育学)	平成17年度	
	人間環境システム学科 [Department of Environment and Humanity]	4	90	—	360	学士 (教育学)	平成17年度	
	経済学部 [School of Economics]							富山県富山市五福3190番地
	経済学科 [Department of Economics]							
	(昼間主コース)	4	120	3年次 4	488	学士 (経済学)	平成30年度	
	(夜間主コース)	4	10	—	40	学士 (経済学)	平成30年度	
	経営学科 [Department of Business Administration]							
	(昼間主コース)	4	100	3年次 4	408	学士 (経営学)	平成30年度	
	(夜間主コース)	4	10	—	40	学士 (経営学)	平成30年度	
	経営法学科 [Department of Business Law]							
	(昼間主コース)	4	85	3年次 2	344	学士 (法学)	平成30年度	
	(夜間主コース)	4	10	—	40	学士 (法学)	平成30年度	
	理学部 [School of Science]							富山県富山市五福3190番地
	数学科 [Department of Mathematics]	4	50	—	200	学士 (理学)	昭和52年度	
	物理学科 [Department of Physics]	4	40	3年次 1	162	学士 (理学)	昭和52年度	
	化学科 [Department of Chemistry]	4	35	3年次 1	142	学士 (理学)	昭和52年度	
	生物学科 [Department of Biology]	4	35	3年次 1	142	学士 (理学)	昭和52年度	
	地球科学科 [Department of Earth Sciences]	4	—	—	—	学士 (理学)	昭和52年度	
	生物圏環境科学科 [Department of Environmental Biology and Chemistry]	4	30	3年次 1	122	学士 (理学)	平成5年度	

既設学部等の状況	医学部 [School of Medicine]							富山県富山市杉谷2630番地
	医学科 [Department of Medicine]	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	昭和50年度	
	看護学科 [Department of Nursing]	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	平成5年度	
	薬学部 [School of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences]							富山県富山市杉谷2630番地
	薬学科 [Department of Pharmacy]	6	55	—	330	学士 (薬学)	平成18年度	
	創薬科学科 [Department of Pharmaceutical Sciences]	4	50	—	200	学士 (薬科学)	平成18年度	
	工学部 [School of Engineering]							富山県富山市五福3190番地
	工学科 [Department of Engineering]	4	365	3年次 17	1,494	学士 (工学)	平成30年度	
	電気電子システム工学科 [Department of Electronic Engineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成9年度	
	知能情報工学科 [Department of Intellectual Information Engineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成9年度	
	機械知能システム工学科 [Department of Mechanical and Intellectual Systems Engineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成9年度	
	生命工学科 [Department of Life Sciences and Bioengineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
	環境応用化学科 [Department of Environmental Applied Chemistry]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
	材料機能工学科 [Department of Materials Sciences and Engineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
	芸術文化学部 [School of Art and Design]							富山県高岡市二上町180番地
	芸術文化学科 [Department of Art and Design]	4	110	—	440	学士 (芸術文化)	平成17年度	
	都市デザイン学部 [School of Sustainable Design]							富山県富山市五福3190番地
	地球システム科学科 [Department of Earth System Science]	4	40	—	160	学士 (理学)	平成30年度	
	都市・交通デザイン学科 [Department of Civil Design and Engineering]	4	40	3年次 1	162	学士 (工学)	平成30年度	
	材料デザイン工学科 [Department of Materials Design and Engineering]	4	60	3年次 2	244	学士 (工学)	平成30年度	
人文科学研究科 [Graduate School of Humanities]							富山県富山市五福3190番地	
人文科学専攻 [Major of Humanities] (修士課程)	2	8	—	16	修士 (文学)	平成23年度		

既設学部等の状況	人間発達科学研究科 [Graduate School of Human Development]							富山県富山市五福3190番地
	発達教育専攻 [Major of Educational Science]							
	(修士課程)	2	6	—	12	修士 (教育学)	平成23年度	
	発達環境専攻 [Major of Development and Environment]							
	(修士課程)	2	6	—	12	修士 (教育学)	平成23年度	
	経済学研究科 [Graduate School of Economics]							富山県富山市五福3190番地
	地域・経済政策専攻 [Major of Regional and Economic Policy]							
	(修士課程)	2	6	—	12	修士 (経済学)	平成3年度	
	企業経営専攻 [Major of Business Administration]							
	(修士課程)	2	12	—	24	修士 (経営学)	平成3年度	
	芸術文化学研究科 [Graduate School of Art and Design]							富山県高岡市二上町180番地
	芸術文化学専攻 [Major of Art and Design]							
	(修士課程)	2	8	—	16	修士 (芸術文化学)	平成23年度	
	生命融合科学教育部 [Graduate School of Innovative Life Science]							
	認知・情動脳科学専攻 [Major of Cognitive and Emotional Neuroscience]							
(博士課程)	4	9	—	36	博士 (医学)	平成18年度	富山県富山市杉谷2630番地	
生体情報システム科学専攻 [Major of Biological Information Systems]								
(博士課程)	3	4	—	12	博士 (薬科学、理学又は工学)	平成18年度	富山県富山市五福3190番地	
先端ナノ・バイオ科学専攻 [Major of Advanced Nanosciences and Biosciences]								
(博士課程)	3	4	—	12	博士 (薬科学、理学又は工学)	平成18年度	同上	
医学薬学教育部 [Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences]							富山県富山市杉谷2630番地	
医科学専攻 [Major of Medical Science]								
(修士課程)	2	15	—	30	修士 (医科学)	平成18年度		
看護学専攻 [Major of Nursing]								
(博士前期課程)	2	16	—	32	修士 (看護学)	平成27年度		
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (看護学)	平成27年度		
薬科学専攻 [Major of Pharmaceutical Basic Sciences]								
(博士前期課程)	2	35	—	70	修士 (薬科学)	平成22年度		
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (薬科学)	平成24年度		

既設学部等の状況	生命・臨床医学専攻 [Major of Medical Life Science] (博士課程)	4	18	—	72	博士 (医学)	平成18年度	
	東西統合医学専攻 [Major of Integrative Oriental and Western Medical Sciences] (博士課程)	4	7	—	28	博士 (医学)	平成18年度	
	薬学専攻 [Major of Pharmacy] (博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学)	平成24年度	
	理工学教育部 [Graduate School of Science and Engineering]							富山県富山市五福3190番地
	数学専攻 [Major of Mathematics] (修士課程)	2	8	—	16	修士 (理学)	平成18年度	
	物理学専攻 [Major of Physics] (修士課程)	2	12	—	24	修士 (理学)	平成18年度	
	化学専攻 [Major of Chemistry] (修士課程)	2	12	—	24	修士 (理学)	平成18年度	
	生物学専攻 [Major of Biology] (修士課程)	2	12	—	24	修士 (理学)	平成18年度	
	地球科学専攻 [Major of Earth Sciences] (修士課程)	2	10	—	20	修士 (理学)	平成18年度	
	生物圏環境科学専攻 [Major of Environmental Biology and Chemistry] (修士課程)	2	10	—	20	修士 (理学)	平成18年度	
	電気電子システム工学専攻 [Major of Electric and Electronic Engineering] (修士課程)	2	33	—	66	修士 (工学)	平成18年度	
	知能情報工学専攻 [Major of Intellectual Information Engineering] (修士課程)	2	27	—	54	修士 (工学)	平成18年度	
	機械知能システム工学専攻 [Major of Mechanical and Intellectual Systems Engineering] (修士課程)	2	33	—	66	修士 (工学)	平成18年度	
	生命工学専攻 [Major of Life Sciences and Bioengineering] (修士課程)	2	18	—	36	修士 (工学)	平成24年度	
	環境応用化学専攻 [Major of Environmental Applied Chemistry] (修士課程)	2	22	—	44	修士 (工学)	平成24年度	

既設学部等の状況	材料機能工学専攻 [Major of Material Science and Engineering] (修士課程)	2	20	—	40	修士 (工学)	平成24年度					
	数理・ヒューマンシステム科学専攻 [Major of Advanced Mathematics and Human Mechanisms] (博士課程)	3	5	—	15	博士 (理学又は工学)	平成18年度					
	ナノ新機能物質科学専攻 [Major of Nano and Functional Material Sciences] (博士課程)	3	4	—	12	博士 (理学又は工学)	平成18年度					
	新エネルギー科学専攻 [Major of New Energy Science] (博士課程)	3	3	—	9	博士 (理学又は工学)	平成18年度					
	地球生命環境科学専攻 [Major of Earth, Life and Environmental Sciences] (博士課程)	3	4	—	12	博士 (理学又は工学)	平成18年度					
教職実践開発研究科 [Graduate School of Teacher Training Development] 教職実践開発専攻 [Major of Teacher Training Development] (専門職学位課程)	2	14	—	28	教職修士 (専門職)	平成28	富山県富山市五福3190番地					
校舎	専用	228,130 m ² (228,130 m ²)		共用	0 m ² (0 m ²)		共用する他の学校等の専用	0 m ² (0 m ²)		計	228,130 m ² (228,130 m ²)	

既設学部等の状況	大 学 の 名 称		金沢大学					
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設年度	所 在 地
		年	人	年次人	人			
	融合学域 [College of Philosophy in Interdisciplinary Sciences] 先導学類 [School for the Future of Innovation in Society]	4	55	—	55	学士 (学術)	令和3年度	石川県金沢市角間町
	人間社会学域 [College of Human and Social Sciences] 人文学類 [School of Humanities] 法学類 [School of Law] 経済学類 [School of Economics] 学校教育学類 [School of Teacher Education] 地域創造学類 [School of Regional Development Studies] 国際学類 [School of International Studies]	4	141	—	576	学士 (文学)	平成20年度	石川県金沢市角間町
		4	160	3年次 10	690	学士 (法学)	平成20年度	
		4	131	—	536	学士 (経済学)	平成20年度	
		4	85	—	385	学士 (教育学)	平成20年度	
		4	88	—	358	学士 (地域創造学)	平成20年度	
		4	83	—	338	学士 (国際学)	平成20年度	
	理工学域 [College of Science and Engineering] 数物科学類 [School of Mathematics and Physics] 物質化学類 [School of Chemistry] 機械工学類 [School of Mechanical Engineering] フロンティア工学類 [School of Frontier Engineering] 電子情報通信学類 [School of Electrical, Information and Communication Engineering] 地球社会基盤学類 [School of Geosciences and Civil Engineering] 生命理工学類 [School of Biological Science and Technology] 機械工学類 [School of Mechanical Engineering] 電子情報学類 [School of Electrical and Computer Engineering] 環境デザイン学類 [School of Environmental Design] 自然システム学類 [School of Natural System]	4	82	3年次 5	344	学士 (理学)	平成20年度	石川県金沢市角間町
		4	79	3年次 4	330	学士 (理学又は工学)	平成20年度	
		4	97	3年次 10	417	学士 (工学)	平成30年度	
		4	107	3年次 5	447	学士 (工学)	平成30年度	
		4	78	3年次 7	332	学士 (工学)	平成30年度	
		4	98	3年次 7	412	学士 (理学又は工学)	平成30年度	
		4	58	3年次 2	239	学士 (理学又は工学)	平成30年度	
		4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
		4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
		4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
		4	—	—	—	学士 (理学又は工学)	平成20年度	

既設学部等の状況	医薬保健学域 [College of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences]							
	医学類 [School of Medicine]	6	112	2年次 5	697	学士 (医学)	平成20年度	石川県金沢市宝町13-1
	薬学類 [School of Pharmacy]	6	65	—	240	学士 (薬学)	平成20年度	石川県金沢市角間町
	医薬科学類 [School of Medical and Pharmaceutical Sciences]	4	18	—	18	学士 (生命医科学又は創薬科学)	令和3年度	同上
	保健学類 [School of Health Sciences]						平成20年度	石川県金沢市小立野5-11-80
	看護学専攻 [Department of Nursing]	4	79	3年次 10	339	学士 (看護学)		
	放射線技術科学専攻 [Department of Radiological Technology]	4	40	3年次 5	170	学士 (保健学)		
	検査技術科学専攻 [Department of Laboratory Sciences]	4	40	3年次 5	170	学士 (保健学)		
	理学療法学専攻 [Department of Physical Therapy]	4	15	3年次 5	85	学士 (保健学)		
	作業療法学専攻 [Department of Occupational Therapy]	4	15	3年次 5	85	学士 (保健学)		
創薬科学類 [School of Pharmaceutical Sciences]	4	—	—	—	学士 (創薬科学)	平成20年度	石川県金沢市角間町	
人間社会環境研究科 [Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies]								石川県金沢市角間町
人文学専攻 [Division of Humanities] (博士前期課程)	2	23	—	46	修士 (文学又は学術)	平成24年度		
経済学専攻 [Division of Economics] (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (経済学、経営学又は学術)	平成24年度		
地域創造学専攻 [Division of Regional Development Studies] (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (地域創造学又は学術)	平成24年度		
国際学専攻 [Division of International Studies] (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (国際学又は学術)	平成24年度		
人間社会環境学専攻 [Division of Human and Socio-Environmental Studies] (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (社会環境学、文学、法学、政治学、経済学又は学術)	平成18年度		
法学・政治学専攻 [Division of Law and Politics] (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (法学又は政治学)	平成24年度		

既設学部等の状況	自然科学研究科 [Graduate School of Natural Science and Technology]							石川県金沢市角間町
	数物科学専攻 [Division of Mathematical and Physical Sciences]							
	(博士前期課程)	2	56	—	112	修士 (理学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	15	—	45	博士 (理学又は学術)	平成16年度	
	物質化学専攻 [Division of Material Chemistry]							
	(博士前期課程)	2	57	—	114	修士 (理学、工学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士 (理学、工学又は学術)	平成26年度	
	機械科学専攻 [Division of Mechanical Science and Engineering]							
	(博士前期課程)	2	90	—	180	修士 (工学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士 (工学又は学術)	平成26年度	
	電子情報科学専攻 [Division of Electrical Engineering and Computer Science]							
	(博士前期課程)	2	67	—	134	修士 (工学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	18	—	54	博士 (工学又は学術)	平成16年度	
	環境デザイン学専攻 [Division of Environmental Design]							
	(博士前期課程)	2	40	—	80	修士 (工学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (工学又は学術)	平成26年度	
	自然システム学専攻 [Division of Natural System]							
(博士前期課程)	2	67	—	134	修士 (理学、工学又は学術)	平成24年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (理学、工学又は学術)	平成26年度		
システム創成科学専攻 [Division of Innovative Technology and Science]								
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学又は学術)	平成16年度		
医薬保健学総合研究科 [Graduate School of Medical Sciences]								
医科学専攻 [Division of Medical Science]								
(修士課程)	2	15	—	30	修士 (医科学)	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	

既設学部等の状況	医学専攻 [Division of Medicine]								
	(博士課程)	4	64	—	256	博士 (医学)	平成28年度	同上	
	薬学専攻 [Division of Pharmacy]								
	(博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学又は学術)	平成24年度	石川県金沢市角間町	
	創薬科学専攻 [Division of Pharmaceutical Sciences]								
	(博士前期課程)	2	38	—	76	修士 (創薬科学)	平成24年度	同上	
	(博士後期課程)	3	11	—	33	博士 (創薬科学又は学術)	平成24年度	石川県金沢市小立野5-11-80	
	保健学専攻 [Division of Health Sciences]								
	(博士前期課程)	2	70	—	140	修士 (保健学)	平成24年度		
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士 (保健学)	平成24年度		
	脳医科学専攻 [Division of Neuroscience]								
	(博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	
	がん医科学専攻 [Division of Cancer Medicine]								
	(博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成24年度	同上	
循環医科学専攻 [Division of Cardiovascular Medicine]									
(博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成24年度	同上		
環境医科学専攻 [Division of Environmental Science]									
(博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成24年度	同上		
医学系研究科 [Graduate School of Medical Sciences]									
脳医科学専攻 [Division of Neuroscience]									
(博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成13年度	石川県金沢市宝町13-1		
がん医科学専攻 [Division of Cancer Medicine]									
(博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成13年度			
循環医科学専攻 [Division of Cardiovascular Medicine]									
(博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学, 医薬学又は学術)	平成13年度			

既設学部等の状況	環境医科学専攻 [Division of Environmental Science] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成13年度	
	先進予防医学研究科 [Graduate School of Advanced Preventive Medical Sciences] 先進予防医学共同専攻 [Division of Advanced Preventive Medical Sciences] (博士課程)	4	12	—	48	博士 (医学)	平成28年度	石川県金沢市宝町13-1
	新学術創成研究科 [Graduate School of Frontier Science Initiative] 融合科学共同専攻 [Division of Transdisciplinary Sciences] (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (融合科学)	平成30年度	石川県金沢市角間町
	(博士後期課程)	3	14	—	28	博士 (融合科学, 理学又は工学)	令和2年度	
	ナノ生命科学専攻 [Division of Nano Life Science] (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (ナノ科学)	令和2年度	
	(博士後期課程)	3	6	—	12	博士 (ナノ科学)	令和2年度	
	法学研究科 [Graduate School of Law] 法学・政治学専攻 [Division of Law and Politics] (修士課程)	2	8	—	16	修士 (法学又は政治学)	令和2年度	石川県金沢市角間町
	法務専攻 [Division of Legal Affairs] (専門職学位課程)	3	15	—	45	法務博士 (専門職)	平成16年度	
教職実践研究科 [Graduate School of Professional Development in Teacher Education] 教職実践高度化専攻 [Division of Advanced Professional Development in Teacher Education] (専門職学位課程)	2	15	—	30	教職修士 (専門職)	平成28年度	石川県金沢市角間町	
校 舎	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	283,999 m ² (283,999 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	283,999 m ² (283,999 m ²)				

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分								
フリガナ設置者	コリツダ`イカクホクジントヤマダ`イカク 国立大学法人富山大学							
フリガナ大学の名称	トヤマ`イカク 富山大学 (University of Toyama)							
大学本部の位置	富山県富山市五福3190							
大学の目的	<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	計	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>○学生募集の停止</p> <p><u>人間発達科学部 (廃止)</u></p> <p style="margin-left: 20px;"><u>発達教育学科 (△80)</u></p> <p style="margin-left: 20px;"><u>人間環境システム学科 (△90)</u></p> <p>人文科学研究科 (廃止)</p> <p style="margin-left: 20px;">人文科学専攻 (△ 8)</p> <p>人間発達科学研究科 (廃止)</p> <p style="margin-left: 20px;">発達教育専攻 (△ 6)</p> <p style="margin-left: 20px;">発達環境専攻 (△ 6)</p> <p>経済学研究科 (廃止)</p> <p style="margin-left: 20px;">地域・経済政策専攻 (△ 6)</p> <p style="margin-left: 20px;">企業経営専攻 (△12)</p> <p>芸術文化学研究科 (廃止)</p> <p style="margin-left: 20px;">芸術文化学専攻 (△ 8)</p> <p>医学薬学教育部</p> <p style="margin-left: 20px;">医科学専攻 (廃止) (△15)</p> <p style="margin-left: 20px;">看護学専攻 (廃止) (△16)</p> <p style="margin-left: 20px;">薬科学専攻 (廃止) (△35)</p> <p>理工学教育部</p> <p style="margin-left: 20px;">数学専攻 (廃止) (△ 8)</p> <p style="margin-left: 20px;">物理学専攻 (廃止) (△12)</p> <p style="margin-left: 20px;">化学専攻 (廃止) (△12)</p> <p style="margin-left: 20px;">生物学専攻 (廃止) (△12)</p> <p style="margin-left: 20px;">地球科学専攻 (廃止) (△10)</p> <p style="margin-left: 20px;">生物圏環境科学専攻 (廃止) (△10)</p> <p style="margin-left: 20px;">電気電子システム工学専攻 (廃止) (△33)</p> <p style="margin-left: 20px;">知能情報工学専攻 (廃止) (△27)</p> <p style="margin-left: 20px;">機械知能システム工学専攻 (廃止) (△33)</p>							

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	生命工学専攻 (廃止) (△18)	
	環境応用化学専攻 (廃止) (△22)	
	材料機能工学専攻 (廃止) (△20)	
	○設置	
	[学部]	
	教育学部共同教員養成課程 (85) (令和3年9月設置届出予定)	
	[大学院]	
	人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻 (M) (46) (令和3年9月設置届出)	
	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 (M) (66) (令和3年9月設置届出)	
	理工学研究科 理工学専攻 (M) (288) (令和3年9月設置届出)	
持続可能社会創成学環 (M) (18) (令和3年9月設置届出)		
医薬理工学環 (M) (37) (令和3年9月設置届出)		
○名称変更		
令和4年4月名称変更予定		
理学部		
生物圏環境科学科 → 自然環境科学科		
○入学定員変更		
人文学部		
人文学科[定員増] (18) (令和4年4月)		
経済学部		
経済学科[定員増] (15) (令和4年4月)		
経営学科[定員増] (8) (令和4年4月)		
経営法学科[定員増] (7) (令和4年4月)		
理学部		
数学科[定員減] (△5) (令和4年4月)		
生物学科[定員増] (3) (令和4年4月)		
生物圏環境科学科[定員増] (5) (令和4年4月)		
薬学部		
薬学科[定員増] (15) (令和4年4月)		
創薬科学科[定員減] (△15) (令和4年4月)		
工学部		
工学科[定員増] (15) (令和4年4月)		
都市デザイン学部		
都市・交通デザイン学科[定員増] (14) (令和4年4月)		
材料デザイン工科[定員増] (5) (令和4年4月)		

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計	単位			
		科目	科目	科目	科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分		教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
		計							
	既設分	人文学部	人	人	人	人	人	人	人
		人文学科	19 (23)	17 (17)	6 (6)	1 (1)	43 (47)	0 (0)	258 (258)
		経済学部							
		経済学科	9 (13)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (20)	2 (2)	269 (269)
		経営学科	10 (10)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (1)	269 (269)
	経営法学科	5 (7)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	15 (17)	0 (0)	268 (268)	

教 員 組 織 の 概 要	既	理学部								令和3年9月名称 変更届出
		数学科	5 (7)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (11)	0 (0)	296 (296)	
		物理学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	314 (314)	
		化学科	3 (4)	2 (3)	3 (3)	1 (1)	9 (11)	0 (0)	308 (308)	
		生物学科	3 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	12 (13)	0 (0)	306 (306)	
		自然環境科学科	5 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	13 (14)	0 (0)	306 (306)	
	設	医学部								
		医学科	26 (39)	23 (24)	7 (7)	74 (75)	130 (145)	1 (1)	449 (449)	
		看護学科	5 (8)	7 (9)	0 (0)	11 (11)	23 (28)	1 (1)	326 (326)	
	組	薬学部								
		薬学科	9 (12)	8 (8)	1 (1)	12 (12)	30 (33)	0 (0)	362 (362)	
		創薬科学科	5 (6)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	16 (17)	0 (0)	348 (348)	
	織	工学部								
		工学科	23 (33)	26 (27)	8 (9)	19 (19)	76 (88)	1 (2)	302 (302)	
	の	芸術文化学部								
		芸術文化学科	10 (11)	12 (13)	11 (11)	3 (3)	36 (38)	0 (0)	211 (211)	
	概	都市デザイン学部								
		地球システム科学科	8 (11)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (16)	0 (0)	295 (295)	
		都市・交通デザイン学科	6 (8)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	14 (16)	0 (0)	290 (290)	
		材料デザイン工学科	6 (9)	5 (5)	0 (0)	2 (3)	13 (17)	0 (0)	278 (278)	
要	附属病院	12 (12)	6 (7)	27 (29)	59 (59)	104 (107)	0 (0)	0 (0)		
	和漢医薬学総合研究所	5 (6)	5 (6)	0 (0)	10 (10)	20 (22)	0 (0)	0 (0)		
	教育・学生支援機構	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)		
	研究推進機構	7 (7)	4 (4)	2 (2)	5 (5)	18 (18)	0 (0)	0 (0)		
	地域連携推進機構	0 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	4 (5)	0 (0)	0 (0)		
	教養教育院	5 (9)	9 (11)	1 (1)	2 (2)	17 (23)	0 (0)	0 (0)		
	その他センター等施設	2 (3)	8 (8)	4 (4)	2 (2)	16 (17)	0 (0)	0 (0)		
	計	193 (254)	184 (194)	81 (84)	219 (221)	677 (753)	5 (7)	- -		
	合 計	193 (254)	184 (194)	81 (84)	219 (221)	677 (753)	5 (7)	- -		
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種	専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員	379 (379)	人	63 (63)	人	442 (442)	人			
	技 術 職 員	955 (955)		34 (34)		989 (989)				
	図 書 館 専 門 職 員	18 (18)		0 (0)		18 (18)				
	そ の 他 の 職 員	22 (22)		15 (15)		37 (37)				
	計	1,374 (1,374)		112 (112)		1,486 (1,486)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	518,141 m ²	- m ²	- m ²	518,141 m ²					
	運 動 場 用 地	105,572 m ²	- m ²	- m ²	105,572 m ²					
	小 計	623,713 m ²	- m ²	- m ²	623,713 m ²					
	そ の 他	89,909 m ²	- m ²	- m ²	89,909 m ²					
合 計	713,622 m ²	- m ²	- m ²	713,622 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
		228,130 m ² (228,130 m ²)	- m ² (- m ²)	- m ² (- m ²)	228,130 m ² (228,130 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	131 室	238 室	653 室	21 室 (補助職員14人)	3 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		教育学部共同教育課程		42 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	大学全体	1,346,198 [424,333] (1,346,198 [424,333])	23,029 [7,203] (23,029 [7,203])	15,147 [13,627] (15,147 [13,627])	18,448 (18,448)	37 (37)	0 (0)			
	計	1,346,198 [424,333] (1,346,198 [424,333])	23,029 [7,203] (23,029 [7,203])	15,147 [13,627] (15,147 [13,627])	18,448 (18,448)	37 (37)	0 (0)			
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大 学 全 体			
		13,840 m ²		1,512	1,056,750					
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要			大 学 全 体			
		7,112 m ²		弓 道 場 ・ 武 道 館 プール・テニスコート						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		共同研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		図書購入費	-	-	-	-	-	-		-
		設備購入費	-	-	-	-	-	-		-
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	富山大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	人文学部	4 年	170 人	3年次 7 人	694 人	学士 (文学)	1.04 倍	昭和52	富山県富山市五福 3190番地	
										人文学科
	人間発達科学部	4 年	80 人	-	320 人	学士 (教育学)	1.03 倍	平成17	富山県富山市五福 3190番地	
										発達教育学科
	人間環境システム学科	4 年	90 人	-	360 人	学士 (教育学)	1.02 倍	平成17		
	経済学部									
(昼間主コース)						1.02 倍		富山県富山市五福 3190番地		
経済学科	4 年	120 人	3年次 4 人	488 人	学士 (経済学)	1.04 倍	平成30			
経営学科	4 年	100 人	3年次 4 人	408 人	学士 (経営学)	1.01 倍	平成30			

既設大学等の状況	経営法学科	4	85	3年次 2	344	学士 (法学)	1.01	平成30		
	(夜間主コース)							1.03		
	経済学科	4	10	-	40	学士 (経済学)	1.07	平成30		
	経営学科	4	10	-	40	学士 (経営学)	1.02	平成30		
	経営法学科	4	10	-	40	学士 (法学)	1.00	平成30		
	理学部							1.04		富山県富山市五福 3190番地
	数学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.02	昭和52		
	物理学科	4	40	3年次 1	162	学士 (理学)	1.06	昭和52		
	化学科	4	35	3年次 1	142	学士 (理学)	1.05	昭和52		
	生物学科	4	35	3年次 1	142	学士 (理学)	1.05	昭和52		
	地球科学科	4	-	-	-	学士 (理学)	-	昭和52		※平成30年度より 学生募集停止
	生物圏環境科学科	4	30	3年次 1	122	学士 (理学)	1.05	平成5		
	医学部							1.00		富山県富山市杉谷 2630番地
	医学科	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	1.00	昭和50		
	看護学科	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.00	平成5		
	薬学部							1.03		富山県富山市杉谷 2630番地
	薬学科	6	55	-	330	学士 (薬学)	1.04	平成18		
	創薬科学科	4	50	-	200	学士 (薬科学)	1.05	平成18		
	工学部							1.02		富山県富山市五福 3190番地
	工学科	4	365	3年次 17	1,494	学士 (工学)	1.02	平成30		
	電気電子システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より 学生募集停止
	知能情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より 学生募集停止
	機械知能システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より 学生募集停止
	生命工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より 学生募集停止
	環境応用化学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より 学生募集停止
	材料機能工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より 学生募集停止
	芸術文化学部							1.04		富山県高岡市二上 町180番地
	芸術文化学科	4	110	-	440	学士 (芸術文化学)	1.04	平成17		
	都市デザイン学部							1.04		富山県富山市五福 3190番地
	地球システム科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.01	平成30		
都市・交通デザイン学科	4	40	3年次 1	162	学士 (工学)	1.04	平成30			

既設大学等の状況	材料デザイン工学科	4	60	3年次 2	244	学士 (工学)	1.08	平成30	
	大学全体	-	1,770	56	7,527	-	-	-	
	人文科学研究科 (修士課程)						0.93		富山県富山市五福 3190番地
	人文科学専攻	2	8	-	16	修士 (文学)	0.93	平成23	
	人間発達科学研究科 (修士課程)						0.83		富山県富山市五福 3190番地
	発達教育専攻	2	6	-	12	修士 (教育学)	0.58	平成23	
	発達環境専攻	2	6	-	12	修士 (教育学)	1.08	平成23	
	経済学研究科 (修士課程)						0.88		富山県富山市五福 3190番地
	地域・経済政策専攻	2	6	-	12	修士 (経済学)	0.83	平成3	
	企業経営専攻	2	12	-	24	修士 (経営学)	0.91	平成3	
	芸術文化学研究科 (修士課程)						1.24		富山県高岡市二上 町180番地
	芸術文化学専攻	2	8	-	16	修士 (芸術文化学)	1.24	平成23	
	生命融合科学教育部 (博士課程)						0.57		
	認知・情動脳科学専攻	4	9	-	36	博士 (医学)	0.62	平成18	富山県富山市杉谷 2630番地
	生体情報システム科学専攻	3	4	-	12	博士 (薬科学、理学 又は工学)	0.50	平成18	富山県富山市五福 3190番地
	先端ナノ・バイオ科学専攻	3	4	-	12	博士 (薬科学、理学 又は工学)	0.25	平成18	同上
	医学薬学教育部 (修士課程)						0.81		富山県富山市杉谷 2630番地
	医科学専攻	2	15	-	30	修士 (医科学)	0.19	平成18	
	(博士前期課程)						1.00		
	看護学専攻	2	16	-	32	修士 (看護学)	0.40	平成27	
	薬科学専攻	2	35	-	70	修士 (薬科学)	1.28	平成22	
	(博士後期課程)						1.03		
	看護学専攻	3	3	-	9	博士 (看護学)	0.88	平成27	
	薬科学専攻	3	8	-	24	博士 (薬科学)	1.08	平成24	
	(博士課程)						0.73		
	生命・臨床医学専攻	4	18	-	72	博士 (医学)	0.97	平成18	
東西統合医学専攻	4	7	-	28	博士 (医学)	0.42	平成18		
薬学専攻	4	4	-	16	博士 (薬学)	0.25	平成24		

既設大学等の状況	理工学教育部						1.29		富山県富山市五福3190番地
	(修士課程)						1.30		
	数学専攻	2	8	-	16	修士(理学)	0.93	平成18	
	物理学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	0.91	平成18	
	化学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	1.37	平成18	
	生物学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	1.41	平成18	
	地球科学専攻	2	10	-	20	修士(理学)	1.05	平成18	
	生物圏環境科学専攻	2	10	-	20	修士(理学)	1.20	平成18	
	電気電子システム工学専攻	2	33	-	66	修士(工学)	1.19	平成18	
	知能情報工学専攻	2	27	-	54	修士(工学)	1.60	平成18	
	機械知能システム工学専攻	2	33	-	66	修士(工学)	1.52	平成18	
	生命工学専攻	2	18	-	36	修士(工学)	1.10	平成24	
	環境応用化学専攻	2	22	-	44	修士(工学)	1.09	平成24	
	材料機能工学専攻	2	20	-	40	修士(工学)	1.60	平成24	
	(博士課程)						1.33		
	数理・ヒューマンシステム科学専攻	3	5	-	15	博士(理学又は工学)	1.66	平成18	
	ナノ新機能物質科学専攻	3	4	-	12	博士(理学又は工学)	1.66	平成18	
	新エネルギー科学専攻	3	3	-	9	博士(理学又は工学)	0.88	平成18	
	地球生命環境科学専攻	3	4	-	12	博士(理学又は工学)	0.91	平成18	
	教職実践開発研究科						1.03		
(専門職学位課程)									
教職実践開発専攻	2	14	-	28	教職修士(専門職)	1.03	平成28		
大学院全体	-	416	-	943	-	-	-	-	

附属施設の概要

名称： 附属病院
 目的： 診療を通じて医学，薬学の教育及び研究を行うことを目的とする。
 所在地： 富山市杉谷2630
 設置年月： 昭和54年4月
 規模等： 建物 45,302㎡

名称： 和漢医薬学総合研究所
 目的： 和漢薬に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的とする。
 所在地： 富山市杉谷2630
 設置年月： 昭和49年6月（富山大学附置和漢薬研究所）
 昭和53年6月（富山医科薬科大学附置和漢薬研究所）
 規模等： 建物 3,486㎡

名称： 附属図書館
 目的： 大学の理念・目標に基づき，教育及び研究に必要な図書，雑誌，データベースその他の資料を収集し，管理し，職員及び学生の利用に供することを目的とする。
 所在地： （中央図書館）富山市五福3190
 （医薬学図書館）富山市杉谷2630
 （芸術文化図書館）高岡市二上町180
 設置年月： （中央図書館）昭和24年5月
 （医薬学図書館）昭和50年10月
 （芸術文化図書館）昭和62年3月

附属施設の概要

規模等： (中央図書館) 4,557㎡
(医薬学図書館) 3,285㎡
(芸術文化図書館) 966㎡

名称：教育・学生支援機構

目的： アドミッションポリシーで求める人材の確保、教育の質保証及び教育の質の向上並びに学生の充実した修学・生活環境の構築を図るために必要な全学的な施策の推進、調整、支援及び諸課題への対応を総合的に行い、もって人材の育成に寄与する。

所在地： 富山市五福3190
設置年月： 平成27年4月
規模等： 建物 多目的施設・学生会館 2,996㎡の一部

名称：研究推進機構

目的： 富山大学における特色ある研究の推進と、多様な分野での研究の推進を支援するとともに、世界と地域に向けて研究成果を発信し、将来を担う人材の育成に寄与する。

所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630
設置年月： 平成27年4月
規模等： 建物 15,655㎡

名称：地域連携推進機構

目的： 社会人教育による市民生活の充実及び地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点としての機能を果たすことにより、地域社会の発展に寄与する。

所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180
設置年月： 平成20年7月
規模等： 建物 769㎡

名称：国際機構

目的： 国際化推進に係る事業を統括支援し、大学の国際化を推進することを目的としている。

所在地： 富山市五福3190
設置年月： 平成11年4月 (留学生センター)
平成25年10月 (国際交流センター)
平成30年4月 (国際機構)
規模等： 建物 380㎡

名称：総合情報基盤センター

目的： 大学における情報通信、情報処理及び情報共有のためのシステムを円滑かつ効率的に運用管理し、教育研究及びその他の諸活動を支援するとともに、地域社会の発展に資することを目的とする。

所在地： 富山市五福3190
設置年月： 平成8年5月 (総合情報処理センター)
平成15年4月 (総合情報基盤センター)
規模等： 建物 3,296㎡

名称：環境安全推進センター

目的： 環境配慮活動及び安全衛生の推進、薬品管理、排水管理、廃棄物管理、作業環境管理、作業管理及びその指導・助言を行い、教育研究等に伴う環境に配慮した活動を推進することを目的とする。

所在地： 富山市五福3190
設置年月： 平成26年4月
規模等： 建物 459㎡

名称：自然観察実習センター

目的： 大学の共同教育研究施設として野外教育(自然観察・栽培等)の実習に利用すること及び本学の関連領域における教育・研究などの材料を育成管理し、提供することを目的とする。

所在地： 富山市寺町字草山2639-1
設置年月： 昭和56年7月
規模等： 土地 33,208㎡

名称：保健管理センター

目的： 富山大学における保健管理及び健康支援、これに関する研究及び教育を一体的に行い、学生及び職員の心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。

所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180
設置年月： 平成17年10月
規模等： 建物 941㎡

附属施設の概要

<p>名称： 人間発達科学部附属小学校</p> <p>目的： 義務教育として行われる普通教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属小学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属小学校）</p> <p>規模等： 建物 4,870㎡</p>
<p>名称： 人間発達科学部附属中学校</p> <p>目的： 義務教育として行われる普通教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属中学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属中学校）</p> <p>規模等： 建物 7,845㎡</p>
<p>名称： 人間発達科学部附属幼稚園</p> <p>目的： 幼児の保育を行うとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における幼児の保育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属幼稚園） 平成17年10月（人間発達科学部附属幼稚園）</p> <p>規模等： 建物 978㎡</p>
<p>名称： 人間発達科学部附属特別支援学校</p> <p>目的： 知的障害に係る特別支援教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和51年4月（教育学部附属養護学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属養護学校） 平成19年10月（人間発達科学部附属特別支援学校）</p> <p>規模等： 建物 3,655㎡</p>
<p>名称： 人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター</p> <p>目的： 教育臨床・学習環境・教育工学・環境教育の4つの部門からなり、人間発達科学部、他学部、他大学、学校、教育機関、生涯学習施設、企業などと連携しながら研究プロジェクトを推進し、教育実践及び教育臨床に関する理論的、実践的並びに学際的研究を総合的に行う。</p> <p>所在地： 富山市五艘3190</p> <p>設置年月： 昭和57年4月（教育学部附属教育実践研究指導センター） 平成17年10月（人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター）</p> <p>規模等： 建物 531㎡</p>
<p>名称： 薬学部附属薬用植物園</p> <p>目的： 薬用植物を栽培し、学術研究及び教育に資することを目的とする。</p> <p>所在地： 富山市杉谷2630</p> <p>設置年月： 昭和54年6月（富山医科薬科大学薬学部附属薬用植物園）</p> <p>規模等： 土地 13,334㎡</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人富山大学 設置計画等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山大学				富山大学				
人文学部 人文学科	170	7	694	人文学部 人文学科	188	7	766	定員変更(18)
人間発達科学部				人間発達科学部				令和4年4月学生募集停止
発達教育学科	80	-	320	発達教育学科	0	-	0	
人間環境システム学科	90	-	360	人間環境システム学科	0	-	0	
経済学部				経済学部				
3年次				3年次				
経済学科				経済学科				
昼間主コース	120	4	488	昼間主コース	135	4	548	定員変更(15)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
経営学科				経営学科				
昼間主コース	100	4	408	昼間主コース	108	4	440	定員変更(8)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
経営法学科				経営法学科				
昼間主コース	85	2	344	昼間主コース	92	2	372	定員変更(7)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
理学部				理学部				
3年次				3年次				
数学科	50	-	200	数学科	45	-	180	定員変更(△5)
物理学科	40	1	162	物理学科	40	1	162	
化学科	35	1	142	化学科	35	1	142	
生物学科	35	1	142	生物学科	38	1	154	定員変更(3)
生物圏環境科学科	30	1	122	自然環境科学科	35	1	142	定員変更(5) 学科名称変更
医学部				医学部				
2年次				2年次				
医学科(6年制)	105	5	655	医学科(6年制)	105	5	655	
3年次				3年次				
看護学科	80	10	340	看護学科	80	10	340	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	55	-	330	薬学科(6年制)	70	-	420	定員変更(15)
創薬科学科	50	-	200	創薬科学科	35	-	140	定員変更(△15)
工学部				工学部				
3年次				3年次				
工学科	365	17	1494	工学科	380	17	1554	定員変更(15)
芸術化学部 芸術文化学科	110	-	440	芸術化学部 芸術文化学科	110	-	440	
都市デザイン学部				都市デザイン学部				
3年次				3年次				
地球システム科学科	40	-	160	地球システム科学科	40	-	160	
都市・交通デザイン学科	40	1	162	都市・交通デザイン学科	54	1	218	定員変更(14)
材料デザイン工学科	60	2	244	材料デザイン工学科	65	2	264	定員変更(5)
計	1,770	56	7,527	計	1,770	56	7,557	
富山大学大学院				富山大学大学院				
人文科学研究科				人文科学研究科				令和4年4月学生募集停止
人文科学専攻(M)	8	-	16	人文科学専攻(M)	0	-	0	
人間発達科学研究科				人間発達科学研究科				令和4年4月学生募集停止
発達教育専攻(M)	6	-	12	発達教育専攻(M)	0	-	0	
発達環境専攻(M)	6	-	12	発達環境専攻(M)	0	-	0	
経済学研究科				経済学研究科				令和4年4月学生募集停止
地域・経済政策専攻(M)	6	-	12	地域・経済政策専攻(M)	0	-	0	
企業経営専攻(M)	12	-	24	企業経営専攻(M)	0	-	0	
芸術化学研究科				芸術化学研究科				令和4年4月学生募集停止
芸術化学専攻(M)	8	-	16	芸術化学専攻(M)	0	-	0	
人文社会芸術総合研究科				人文社会芸術総合研究科				研究科の設置(設置届出)
人文社会芸術総合専攻(M)				人文社会芸術総合専攻(M)	46	-	92	
(うち、人文社会芸術総合専攻から持続 可能社会創成学環の内数とする入学定 員数及び収容定員数)	(8)	-	(16)	※1				
生命融合科学教育部				生命融合科学教育部				
認知・情動脳科学専攻(4年制D)	9	-	36	認知・情動脳科学専攻(4年制D)	9	-	36	
生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	
先端ナノ・バイオ科学専攻(D)	4	-	12	先端ナノ・バイオ科学専攻(D)	4	-	12	
医学薬学教育部				医学薬学教育部				
医科学専攻(M)	15	-	30	医科学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
看護学専攻(M)	16	-	32	看護学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
薬科学専攻(M)	35	-	70	薬科学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
薬科学専攻(D)	8	-	24	薬科学専攻(D)	8	-	24	
生命・臨床医学専攻(4年制D)	18	-	72	生命・臨床医学専攻(4年制D)	18	-	72	
東西統合医学専攻(4年制D)	7	-	28	東西統合医学専攻(4年制D)	7	-	28	
薬学専攻(4年制D)	4	-	16	薬学専攻(4年制D)	4	-	16	
看護学専攻(D)	3	-	9	看護学専攻(D)	3	-	9	

理工学教育部			
数学専攻(M)	8	-	16
物理学専攻(M)	12	-	24
化学専攻(M)	12	-	24
生物学専攻(M)	12	-	24
地球科学専攻(M)	10	-	20
生物圏環境科学専攻(M)	10	-	20
電気電子システム工学専攻(M)	33	-	66
知能情報工学専攻(M)	27	-	54
機械知能システム工学専攻(M)	33	-	66
生命工学専攻(M)	18	-	36
環境応用化学専攻(M)	22	-	44
材料機能工学専攻(M)	20	-	40
数理・ヒューマンシステム科学専攻(D)	5	-	15
ナノ新機能物質科学専攻(D)	4	-	12
新エネルギー科学専攻(D)	3	-	9
地球生命環境科学専攻(D)	4	-	12
教職実践開発研究科			
教職実践開発専攻(P)	14	-	28
計	416	-	943

総合医薬学研究科			研究科の設置(設置届出)
総合医薬学専攻(M)	66	-	132
(うち、総合医薬学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(8)	-	(16) ※2
理工学教育部			
数学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
物理学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
化学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
生物学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
地球科学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
生物圏環境科学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
電気電子システム工学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
知能情報工学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
機械知能システム工学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
生命工学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
環境応用化学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
材料機能工学専攻(M)	0	-	0 令和4年4月学生募集停止
数理・ヒューマンシステム科学専攻(D)	5	-	15
ナノ新機能物質科学専攻(D)	4	-	12
新エネルギー科学専攻(D)	3	-	9
地球生命環境科学専攻(D)	4	-	12
理工学研究科			研究科の設置(設置届出)
理工学専攻(M)	288	-	576
(うち、理工学専攻から持続可能社会創成学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(10)	-	(20) ※1
(うち、理工学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(29)	-	(58) ※2
持続可能社会創成学環(M)	(18)	-	(36) ※1 研究科等連係課程実施基本組織の設置(設置届出)
医薬理工学環(M)	(37)	-	(74) ※2 研究科等連係課程実施基本組織の設置(設置届出)
教職実践開発研究科			
教職実践開発専攻(P)	14	-	28
計	487	-	1085
※1 持続可能社会創成学環(M)の入学定員及び収容定員は、人文社会芸術総合専攻(M)及び理工学専攻(M)の内数とする。			
※2 医薬理工学環(M)の入学定員及び収容定員は、総合医薬学専攻(M)及び理工学専攻(M)の内数とする。			

教育課程等の概要(共同学科等)

(富山大学教育学部共同教員養成課程, 金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	人間と倫理	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	こころの科学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本の歴史と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	東洋の歴史と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	西洋の歴史と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本文学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	外国文学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	言語と文化	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	音楽	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	美術	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	美術表現A	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	美術表現B	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	言語表現	1前・後	富山大学		2			○								兼1	
	治療の文化史	1前・後	富山大学		2			○		○						兼1	
	異文化間コミュニケーション	1前・後	富山大学		2			○								兼1	
異文化理解	1前・後	富山大学		2			○					1			兼1		
小計(17科目)	—	—	—	0	34	0	—	—	—	—	0	1	0	0	0	兼14	—
社会科学系	現代社会論	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本国憲法	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	国家と市民	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	経済生活と法	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	市民生活と法	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	はじめての経済学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	産業と経済を学ぶ	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	経営資源のとらえ方	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	市場と企業の関係	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	地域の経済と社会・文化	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
小計(10科目)	—	—	—	0	20	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9	—
自然科学系	自然科学への扉-A	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	自然科学への扉-B	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	自然科学への扉-C	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	科学技術への扉-A	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	科学技術への扉-B	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	生命の世界	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	社会と情報の数理	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
デザインと生物	1前・後	富山大学		2		○									兼1		
小計(8科目)	—	—	—	0	16	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼8	—
医療・健康科学系	医療心理学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	概説医療心理学	1前・後	富山大学		1		○									兼1	
	認知科学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	脳科学入門	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	生命科学入門	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	免疫学入門	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	身近な医学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	障害とアクセシビリティ	1前・後	富山大学		2		○					1				兼1	
	医療と地域社会	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
小計(9科目)	—	—	—	0	17	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼6	—
総合科目系	環境	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	ジェンダー	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	技術と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	現代文化	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	人権と福祉	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	環日本海	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	科学と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	アカデミック・デザイン	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	ビジネス思考	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	データサイエンスの世界	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	データサイエンスの実践	1前・後	富山大学		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
総合科目系	教養としての都市デザイン学	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	SDGs入門	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	平和学入門	1前・後	富山大学		2		○				1								
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	富山から考える震災・復興学	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	環境と安全管理	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	万葉学	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	日本海学	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	富山大学学	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	とやま地域学	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	時事的問題	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	災害救援ボランティア論	1前・後	富山大学		2		○				1								
	感性をはぐくむ	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	日本事情／芸術文化	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	日本事情／自然社会	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	学士力・人間力基礎	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	富山学	1前・後	富山大学		2		○									兼1			
	地域ライフプラン	1前・後	富山大学		2		○									兼2			
	産業観光学	1前・後	富山大学		2		○									兼2			
	富山のものづくり概論	1前・後	富山大学		2		○									兼2			
	富山の地域づくり	1前・後	富山大学		2		○									兼2			
薬都とやま学	1前・後	富山大学		2		○									兼1				
小計 (33科目)	—	—	—	0	66	0	—	—	—	0	2	0	0	0	0	兼25	—		
教養教育科目	外国語系	ESP I (Level-based)	1前	富山大学		1			○								兼1		
		ESP II (Interest-based)	1後	富山大学		1			○									兼1	
		基盤英語 I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		基盤英語 II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		ドイツ語基礎 I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		ドイツ語基礎 II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		ドイツ語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		ドイツ語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		フランス語基礎 I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		フランス語基礎 II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		フランス語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		フランス語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		中国語基礎 I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		中国語基礎 II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		中国語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		中国語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		朝鮮語基礎 I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		朝鮮語基礎 II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		朝鮮語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		朝鮮語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		ロシア語基礎 I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		ロシア語基礎 II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		ロシア語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○									兼1	
		ロシア語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○									兼1	
		日本語リテラシー I	1前	富山大学		1			○									兼2	
		日本語リテラシー II	1後	富山大学		1			○									兼2	
		日本語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○									兼2	
日本語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○									兼2			
発展多言語演習ドイツ語	2前	富山大学			1		○									兼1			
発展多言語演習中国語	2前	富山大学			1		○									兼1			
日本語コミュニケーション III	2前	富山大学			1		○									兼1			
日本語／専門研究	2後	富山大学			1		○									兼1			
小計 (32科目)	—	—	—	0	28	4	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼13	—		
保健体育系	健康・スポーツ／講義	1前・後	富山大学		1		○										兼1		
	健康・スポーツ／実技	1前	富山大学		1				○								兼1		
小計 (2科目)	—	—	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	—		
情報処理系	情報処理	1前	富山大学		2		○										兼4		
	応用情報処理	1後	富山大学		2			○									兼1		
小計 (2科目)	—	—	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	1①	金沢大学		1		○			1							
		データサイエンス基礎	1①	金沢大学		1		○			1							
		地域概論	1①	金沢大学		1		○				1						
		小計(3科目)	—		0	3	0	—			1	1	0	0	0	—		
	GS科目	1群 位置(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
			グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1
			グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1
			ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1
			地球生物圏と人間	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1
		2群 自己を鍛える	哲学(自我論)	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1
			パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1
			グローバル時代の文学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1
		3群 価値観を表現する	健康科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1
細胞・分子生物学			1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼2 共同	
エクササイズ&スポーツ 実技			1①・②・③・④	金沢大学		1				○							兼2	
クリティカル・シンキング			1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1	
4群 世界とつながる	価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○					1				兼1		
	芸術と自己表現	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	スポーツ科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	日本史・日本文化	1②・③・④	金沢大学		1		○									兼3		
	異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	異文化体験A	1②・④	金沢大学		1					○						兼1 集中		
	異文化体験B	1②・④	金沢大学		2					○						兼1 集中		
	異文化体験C	1②・④	金沢大学		3					○						兼1 集中		
	異文化体験D	1②・④	金沢大学		4					○						兼1 集中		
5群 未来に取り組む	異文化体験E	1②・④	金沢大学		5					○						兼1 集中		
	異文化体験F	1②・④	金沢大学		6					○						兼1 集中		
	異文化体験G	1②・④	金沢大学		7					○						兼1 集中		
	異文化体験H	1②・④	金沢大学		8					○						兼1 集中		
	グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	統計学から未来を見る	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
6群 新しい社会を生きる	環境学とESD	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	生活と社会保障	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	現代社会と人権	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	インテグレートド科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	AI入門	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
GS言語科目(英語)	情報の科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	デザイン思考入門	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼2		
	小計(38科目)	—		0	66	0	—			0	1	0	0	0	兼33	—		
	GS言語科目(日本語)	TOEIC準備 I	1①	金沢大学		1		○									兼1	
		TOEIC準備 II	1②	金沢大学		1		○									兼1	
		TOEIC準備 III	1③	金沢大学		1		○									兼1	
		TOEIC準備 IV	1④	金沢大学		1		○									兼1	
		TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1	
		English for Academic Purposes I	1①	金沢大学		1		○									兼1	
English for Academic Purposes II		1②	金沢大学		1		○									兼1		
English for Academic Purposes III		1③	金沢大学		1		○									兼1		
English for Academic Purposes IV		1④	金沢大学		1		○									兼1		
English for Academic Purposes (Retake)		2①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
GS言語科目(日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	金沢大学		1		○									兼1		
	アカデミック基礎日本語B	1②	金沢大学		1		○									兼1		
	講義の聴解A	1①・③	金沢大学		1		○									兼1		
	講義の聴解B	1②・④	金沢大学		1		○									兼1		
	口頭発表A	1①・③	金沢大学		1		○									兼1		
	口頭発表B	1②・④	金沢大学		1		○									兼1		
	上級読解I A	1①	金沢大学		1		○									兼1		
	上級読解I B	1②	金沢大学		1		○									兼1		
	上級読解II A	1③	金沢大学		1		○									兼1		
	上級読解II B	1④	金沢大学		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理A	1①・③	金沢大学		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
G S 言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理B	1②・④	金沢大学		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③	金沢大学		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④	金沢大学		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③	金沢大学		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④	金沢大学		1		○									兼1	
	小計 (26科目)	—		0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A1-2	1②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A2-1	1①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A2-2	1②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A3-1	1①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A3-2	1②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A4-1	1①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A4-2	1②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語B-1	2①	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語B-2	2②	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語C-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語C-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語B-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語B-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語C-1	2③	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語C-2	2④	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語B-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語B-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語C-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語C-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
中国語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1		
中国語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1		
中国語B-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1		
中国語B-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1		
中国語C-1	2③	金沢大学		1			○								兼1		
中国語C-2	2④	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語B-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語B-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	朝鮮語C-1	2①・③	金沢大学		1				○							兼1	
	朝鮮語C-2	2②・④	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語A1-1	1①	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語A1-2	1②	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語A2-1	1③	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語A2-2	1④	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語A3-1	2①	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語A3-2	2②	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語A4-1	2③	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語A4-2	2④	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語B-1	3①	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語B-2	3②	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語C-1	3③	金沢大学		1				○							兼1	
	ギリシア語C-2	3④	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語A1-1	1①	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語A1-2	1②	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語A2-1	1③	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語A2-2	1④	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語A3-1	2①	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語A3-2	2②	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語A4-1	2③	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語A4-2	2④	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語B-1	3①	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語B-2	3②	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語C-1	3③	金沢大学		1				○							兼1	
	ラテン語C-2	3④	金沢大学		1				○							兼1	
	スペイン語A1-1	1①	金沢大学		1				○							兼1	
	スペイン語A1-2	1②	金沢大学		1				○							兼1	
	スペイン語A2-1	1①	金沢大学		1				○							兼1	
	スペイン語A2-2	1②	金沢大学		1				○							兼1	
	スペイン語A3-1	1③	金沢大学		1				○							兼1	
	スペイン語A3-2	1④	金沢大学		1				○							兼1	
	スペイン語A4-1	1③	金沢大学		1				○							兼1	
スペイン語A4-2	1④	金沢大学		1				○							兼1		
スペイン語B-1	2①	金沢大学		1				○							兼1		
スペイン語B-2	2②	金沢大学		1				○							兼1		
スペイン語C-1	2③	金沢大学		1				○							兼1		
スペイン語C-2	2④	金沢大学		1				○							兼1		
小計(96科目)		-		0	96	0		-		0	0	0	0	0	0	兼11	-
自由履修科目	アントレプレナーシップI	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	石川県の行政	1③~④	金沢大学		2			○								兼1	
	石川県の市町	1①~②	金沢大学		2			○								兼1	
	健康論実践D	1④	金沢大学		1					○						兼1	
	健康論実践E	1④	金沢大学		1					○						兼1	
	現代社会における保険の制度と役割I	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	現代社会における保険の制度と役割II	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	実践アントレプレナー学	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③~④	金沢大学		2			○								兼1	
	シェルスクリプト言語論	1③~④	金沢大学		2			○								兼1	
	地元学A(地域資源調査)	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	地元学B(聞き書き)	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①	金沢大学		1				○							兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	香りと日本文化	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	心と体の健康A	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	心と体の健康B	1④	金沢大学		1			○								兼1	
地域「超」体験プログラム	1①・②・④	金沢大学		1					○						兼1		
道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	金沢大学		1			○								兼1		
金沢の歴史と文化	1③~④	金沢大学		2			○								兼1		
日本の伝統芸能	1②	金沢大学		1			○								兼1		
地域創造学特別講義C	1③	金沢大学		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	地域創造学特別講義D	1④	金沢大学		1		○									兼1	
	日本国憲法概説	1③	金沢大学		2		○									兼1	
	日本史要説	2①～②	金沢大学		2		○									兼1	
	東洋史要説	2③～④	金沢大学		2		○									兼1	
	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③	金沢大学		1		○									兼1	
	行政学の基礎	1①	金沢大学		2		○									兼1	
	ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	コーヒーと社会	1③	金沢大学		1		○									兼1	
	コーヒーと科学	1④	金沢大学		1		○									兼1	
	地学実験	1②～③	金沢大学		2				○							兼1	
	生物学実験	1①～②	金沢大学		2				○							兼1	
	海洋生化学演習	1①	金沢大学		2			○								兼1	
	英国諸島の地史Ⅰ	1②	金沢大学		1		○									兼1	
	英国諸島の地史Ⅱ	1③	金沢大学		1		○									兼1	
	環境動態学概説Ⅰ	1③	金沢大学		1		○									兼1	
	環境動態学概説Ⅱ	1④	金沢大学		1		○									兼1	
	Pythonデータ分析入門	1②	金沢大学		1		○									兼1	
	プレゼンテーション演習A	1③	金沢大学		1		○									兼1	
	プレゼンテーション演習B	1④	金沢大学		1		○									兼1	
	コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	金沢大学		1				○							兼1	
	コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	金沢大学		1				○							兼1	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	金沢大学		1		○									兼1	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	金沢大学		1		○									兼1	
	プログラミング演習Ⅰ	1③	金沢大学		1				○							兼1	
	プログラミング演習Ⅱ	1④	金沢大学		1				○							兼1	
	Society 5.0 概論	1③～④	金沢大学		2		○									兼1	
	英語セミナー	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1	
	ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A(充実クラスⅠ-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A(充実クラスⅠ-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1	
ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1		
フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1		
フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1		
フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1		
フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1		
中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1		
中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1		
小計(65科目)		-		0	78	0				0	0	0	0	0	0	兼32	-
専門教育科目	初學者 科目	アカデミックスキル	1①	金沢大学		1			○		6	3					オムニバス
		プレゼン・ディベート論	1③	金沢大学		1			○			1					
		小計(2科目)		-		0	2	0			6	3					
	学域俯瞰科目	大学・学問論	1④	金沢大学		1		○									兼1
		ジェンダーと教育	1③・④	金沢大学		1		○			1	2					共同
		異文化理解1	1③	金沢大学		1		○									兼1
		異文化理解2	1④	金沢大学		1		○									兼1
		文学概論1	1③	金沢大学		1		○									兼1
		文学概論2	1④	金沢大学		1		○									兼1
		世界遺産学	1④	金沢大学		1		○									兼1
		ルールリテラシー	1③	金沢大学		1		○									兼1
		人文社会科学における法イメージの比較文化学	1④	金沢大学		1		○									兼1
		防災学入門	1③	金沢大学		1		○									兼1
		防災学入門	1	金沢大学		2		○									兼2
現代日本の文化と社会	2①	金沢大学		1		○									兼1		
地域創造学1	2①	金沢大学		1		○									兼1		
地域創造学2	2②	金沢大学		1		○									兼1		
小計(14科目)		-		0	15	0				1	2	0	0	0	兼11	-	
ンデ 応用 系 科 目	データサイエンスの技術	1③	金沢大学		1		○									兼1	
	国際経済の理論とデータ	2①	金沢大学		1		○									兼1	
	国際貿易の理論とデータ	2①	金沢大学		1		○									兼1	
	情報処理	2④	金沢大学		1		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学域GS科目	計量政治分析実習	3③	金沢大学		2				○								兼1	
	ビジネス・データ分析 (ビジネス・データ・サイ)	1①	金沢大学		1			○									兼1	
	統計データ分析の基本 (多変量解析)	1②	金沢大学		1			○									兼1	
	データで考える日本の未来 (データサイエンス)	1③	金沢大学		1			○									兼1	
	統計ソフトRによるビッグデータ分析	1③	金沢大学		1			○									兼1	
	金融リテラシー	1④	金沢大学		1			○									兼1	
	白書の講読と議論	1④	金沢大学		1			○									兼1	
	地域課題解決と政策立案のための統計データ分析: EBPM (根拠に基づく政策立案)	1④	金沢大学		1			○									兼1	
	統計学技能 I	1~4	金沢大学		2					○	1						集中	
	統計学技能 II	1~4	金沢大学		3					○	1						集中	
	小計 (14科目)	-	-		0	18	0				0	1	0	0	0		兼5	-
	言語学域	学域GS言語科目 I	2①	金沢大学		1			○		2	2						
		学域GS言語科目 II	2②	金沢大学		1			○		2	2						
	小計 (2科目)	-	-		0	2	0				2	2	0	0	0		-	-
共通科目	野外体験活動 I	1②	各大学	1					○	1	1							
	野外体験活動 II	1③	金沢大学			1			○		1							
	基礎ゼミナール	1①~③	富山大学		2			○		1								
	地域教材研究 (富山学)	1③・④	富山大学		2			○		1								
	卒業研究	4通	各大学	4					○	39	40	12						
	地域共生 (福祉) 論 I	3①	富山大学			1		○									兼1	
	地域共生 (福祉) 論 II	3②	富山大学			1		○									兼1	
	スクールソーシャルワーク論 I	3③	富山大学			1		○									兼1	
	スクールソーシャルワーク論 II	3④	富山大学			1		○									兼1	
	主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラシー	2③	富山大学			1		○										兼1
	事例で学ぶ減災・防災教育論	3①	富山大学			1		○										兼1
	プログラミング入門	2①	富山大学			1			○	1	1							
	子どもとのふれあい体験	1①・②・③	富山大学			2			○									兼1
	小計 (13科目)	-	-		5	4	10				46	39	12	0	0		兼3	-
専門基礎科目	教育の思想と歴史 (西洋)	1③	富山大学		1			○				1					メディア	
	教育の思想と歴史 (日本)	1④	金沢大学		1			○		1							メディア	
	教職とこれからの教育	1③	富山大学		1			○									兼2	
	教職と学校	1④	金沢大学		1			○		1	6						メディア・オムニバス	
	教育経営概論 (教育改革と学校経営)	2①・②	富山大学		1			○										兼1
	教育制度概論 (就学保障と学校安全)	2①・②	金沢大学		1			○			1							
	教授・学習心理学 (個別最適化学習の理論と実践)	2②	富山大学		1			○				1					メディア	
	発達と教育 (自己創出としての発達)	2①	金沢大学		1			○			1						メディア	
	特別な支援を要する子どもの理解	1③	富山大学		1			○		1								メディア
	特別支援教育概論	1④	金沢大学		1			○		1								メディア
	未来をつくる教育課程	2③・④	富山大学		1			○				1						
	現在をつくる教育課程	2③・④	金沢大学		1			○			1							
小計 (12科目)	-	-		12	0	0				3	7	3	0	0		兼3	-	
指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳教育論 (理論)	3①	富山大学		1			○				1					メディア	
	道徳教育論 (指導法)	3②	金沢大学		1			○			1						メディア	
	総合的な学習の時間教育論 I	3①	各大学		1			○		1							兼1	
	総合的な学習の時間教育論 II	3②	各大学		1			○		1							兼1	
	特別活動とカリキュラムマネジメント	2①・②	富山大学		1			○				1						
	特別活動における評価と指導の実践	2①・②	金沢大学		1			○			1							
	教育技術学	3①	富山大学		1			○		1							兼1	
	教育方法探究	3②	金沢大学		1			○			1						メディア	
	生徒指導論	2③	富山大学		1			○			1	1					メディア・オムニバス	
	教育相談の理論	2①	富山大学		1			○			1	1					メディア・オムニバス	
	学校カウンセリング	2②	金沢大学		1			○			1						メディア	
子どもの生活とキャリア教育	2④	金沢大学		1			○			1						メディア		
小計 (12科目)	-	-		12	0	0				2	5	3	0	0		兼2	-	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育実践に関する科目	教育実習A(幼・小)(事前事後指導を含む)	3②・4②	各大学		5				○		1	1			兼1	
	教育実習A(中・高)(事前事後指導を含む)	3②・4②	各大学		5				○		1	1			兼1	
	教育実習B(小)	3②・4②	各大学		2				○		1	1			兼1	
	教育実習B(中・高)	3②・4②	各大学		2				○		1	1			兼1	
	教育実習B(特別支援)	3②・4②	各大学		3				○		1	1			兼1	
	教育実習B(幼)	3②・4②	各大学		2				○		1	1			兼1	
	教職実践演習(幼・小・中・高)	4③・④	各大学	2				○		2	1	1			オムニバス・共同	
	学校インターンシップI(小)	1①～④	富山大学			2			○			1			兼1	
	学校インターンシップII(幼・小)	2①～④	金沢大学			2			○			1				
	学校インターンシップII(中・高)	2①～④	金沢大学			2			○			1				
小計(10科目)	—	—	—	2	19	6	—	—	—	2	3	1	0	0	兼2	—
小学校の教科に関する専門的事項	国語科基礎A(書写を含む)(低・中学年の国語科と現代の教育課題)	1③	富山大学	1				○			1	1	1			メディア・オムニバス
	国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む)	1④	金沢大学	1				○			1	3				メディア・オムニバス
	社会科基礎A(中学年の社会科と現代の教育課題)	2①	富山大学	1				○			1	3				メディア・オムニバス
	社会科基礎B(高学年の社会科と現代の教育課題)	2②	金沢大学	1				○			2	2				メディア・オムニバス
	算数科基礎A(低・中学年)	2①	富山大学		1			○			1					メディア
	算数科基礎B(高学年)	2②	金沢大学		1			○				1				メディア
	理科基礎A(理論)	2①	富山大学		1			○			1	2	1			メディア・オムニバス
	理科基礎B(実践)	2②	金沢大学		1			○			3		1			メディア・オムニバス
	生活科基礎A(講義)	2③	富山大学		1			○				1				メディア
	生活科基礎B(実践)	3①	各大学		1				○		1	1				
	音楽科基礎A(講義)	2④	富山大学		1			○					1			
	音楽科基礎B(実践)	2②	各大学		1				○		2	1	1			共同
	図画工作科基礎A	2③	富山大学		1			○							兼1	メディア
	図画工作科基礎B(実践)	2④	各大学		1				○		2	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス・共同
	家庭科基礎A(住居・食物と現代の教育課題)	1③	富山大学	1				○			1	1				メディア・オムニバス
	家庭科基礎B(被服・家庭経営と現代の教育課題)	1④	金沢大学	1				○				2				メディア・オムニバス
	家庭科基礎C(実習)	2①	金沢大学		1				○			1				メディア・オムニバス
体育科基礎A	1③	金沢大学		1			○			1	1				メディア・オムニバス	
体育科基礎B(実践)	2③	各大学		1				○		1	1	1			富大単独/ 金大オムニバス	
英語科基礎A(理論)	2③	金沢大学		1			○			2	1				メディア・オムニバス	
英語科基礎B(実践)	2④	金沢大学		1			○			3					メディア・オムニバス	
小計(21科目)	—	—	—	6	15	0	—	—	—	21	21	5	0	0	兼2	—
小学校の教科指導法	初等国語科教育法I	2①	各大学	1				○			1		1			
	初等国語科教育法II	2②	各大学	1				○			1		1			
	初等社会科教育法I	2③	各大学	1				○			1				兼1	
	初等社会科教育法II	2④	各大学	1				○			1				兼1	
	初等算数科教育法I	2③	各大学	1				○			1	1				富大単独/ 金大オムニバス
	初等算数科教育法II	2④	各大学	1				○			2	1				
	初等理科教育法I	2③	各大学	1				○			1	1				
	初等理科教育法II	2④	各大学	1				○			1	1				
	初等生活科教育法I	3①	各大学	1				○			1	1				
	初等生活科教育法II	3②	各大学	1				○			1	1				
	初等音楽科教育法I	2③	各大学	1				○					1		兼1	
	初等音楽科教育法II	2④	各大学	1				○					1		兼1	
	初等図画工作科教育法I	3①	各大学	1				○			1				兼2	富大単独/ 金大オムニバス
	初等図画工作科教育法II	3②	各大学	1				○				1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス
	初等家庭科教育法I	2①	各大学	1				○			2					富大単独/ 金大オムニバス
	初等家庭科教育法II	2②	各大学	1				○			2					
	初等体育科教育法I	2①	各大学	1				○			1	1	1			富大単独/ 金大オムニバス
初等体育科教育法II	2②	各大学	1				○			1	1	1			富大単独/ 金大オムニバス	
初等英語科教育法I	3①	各大学	1				○			1		1				
初等英語科教育法II	3②	各大学	1				○			1		1				
小計(20科目)	—	—	—	20	0	0	—	—	—	11	4	4	0	0	兼4	—
先進的 共通領域 教育科目	インクルーシブ教育基礎演習I	1③	富山大学	1				○			1					メディア
	インクルーシブ教育基礎演習II	1④	富山大学	1				○			1					メディア
	中学校・高等学校の特別支援教育I	3③	金沢大学	1				○			1					メディア
	中学校・高等学校の特別支援教育II	3④	金沢大学	1				○			1					メディア
遠隔教育実践論	3③	富山大学	1				○			1					メディア	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目 (共通領域)	遠隔教育実践演習	3④	富山大学	1			○			1						兼1 メディア	
	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	2③	富山大学	1			○			1						兼1 メディア・共同	
	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	2④	富山大学	1			○			1						兼1 メディア・共同	
	石川県の教育実践Ⅰ	2③	金沢大学	1			○			5	1					メディア・オムニバス	
	石川県の教育実践Ⅱ	2④	金沢大学	1			○			3	2					兼1 メディア・オムニバス	
	富山県の教育実践Ⅰ	2③	富山大学	1			○			1						メディア	
	富山県の教育実践Ⅱ	2④	富山大学	1			○			1						メディア	
	国際化と学校教育Ⅰ	2③	金沢大学	1			○			1						メディア	
	国際化と学校教育Ⅱ	2④	金沢大学	1			○			1						メディア	
	SDGs教育実践演習Ⅰ	3①	金沢大学	1			○			1						兼1 メディア	
	SDGs教育実践演習Ⅱ	3②	金沢大学	1			○			1						兼1 メディア	
	小計(16科目)	—	—	—	16	0	0	—	—	—	12	6	0	0	0	兼2	—
	専門教育科目 幼児教育 科目	幼児と健康	2③	各大学	1			○			2	1					富大オムニバス/ 金大単独
		幼児と人間関係(社会性のつまずきと支援の現代的課題)	2②	富山大学	1			○			1						メディア
		幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題)	2①	金沢大学	1			○			1						メディア
		幼児と環境	2②	富山大学	1			○			1	1					メディア・オムニバス
幼児と言葉		2①	各大学	1			○			1	1					兼1 オムニバス	
幼児と表現		2③	富山大学	1			○			1	2					メディア・オムニバス	
保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)		2①	富山大学	1			○			2						メディア	
保育内容(健康)(健康に関する現代的課題を含む)		2④	金沢大学	1			○			1						メディア	
健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)		3①	富山大学	1			○				1					メディア・集中	
保育内容(人間関係)		2③	各大学	1			○			1	1					兼1 集中	
人間関係の指導法		2④	各大学	1			○			1	1					メディア	
保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)		2③	金沢大学	1			○			1						兼1 メディア	
環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)		2④	金沢大学	1			○			1						メディア	
保育内容(言葉)(言葉に関する現代的課題を含む)		2②	金沢大学	1			○			1						メディア	
言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)		2③	富山大学	1			○			1						メディア	
保育内容(表現)(表現に関する現代的課題を含む)		2④	金沢大学	1			○			1	1					メディア・オムニバス	
表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)		3①	富山大学	1			○			1	1					兼1 メディア・オムニバス	
幼児教育カリキュラム論Ⅰ		3③	富山大学	1			○			1							
幼児教育カリキュラム論Ⅱ		3④	富山大学	1			○			1							
幼児理解の理論と方法		2②	各大学	1			○			2							
幼児理解と相談支援		2①	各大学	1			○			2							
発達心理学Ⅰ		3③	金沢大学	1			○				1						
発達心理学Ⅱ		3④	金沢大学	1			○				1						
乳幼児心理学特講Ⅰ		3①	金沢大学	1			○				1						
乳幼児心理学特講Ⅱ		3②	金沢大学	1			○				1						
乳幼児心理学演習Ⅰ		3③	金沢大学	1			○				1						
乳幼児心理学演習Ⅱ		3④	金沢大学	1			○				1						
子育てネットワーク論Ⅰ		2②	富山大学	1			○				1						
子育てネットワーク論Ⅱ		2③	富山大学	1			○				1						
子育て支援		2④	富山大学	1			○				1						
保育の心理学		3①	富山大学	1			○			1						集中	
子ども家庭支援の心理学Ⅰ		2①	富山大学	1			○			1							
子ども家庭支援の心理学Ⅱ		2②	富山大学	1			○			1							
子どもの健康と安全		2③	富山大学	1			○			1							
障害児保育		2④	富山大学	1			○				1						
地域子育て支援法Ⅰ		3①	富山大学	1			○			1							
地域子育て支援法Ⅱ		3②	富山大学	1			○			1							
児童福祉論Ⅰ		2①	富山大学	1			○				1						
児童福祉論Ⅱ		2②	富山大学	1			○				1						
社会福祉概論Ⅰ		2③	富山大学	1			○				1						
社会福祉概論Ⅱ		2④	富山大学	1			○				1						
小計(41科目)	—	—	—	0	41	0	—	—	—	4	8	2	0	0	兼2	—	
特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①	金沢大学	1			○			1						メディア	
	特別支援教育基礎論Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②	富山大学	1			○			1						メディア	
	病気・障害・不適応の発達支援論Ⅰ	4①	金沢大学	1			○			1							
	病気・障害・不適応の発達支援論Ⅱ	4②	金沢大学	1			○			1							
	障害児者支援論	2	富山大学	1			○			1						集中	
知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ	2①	金沢大学	1			○			1						メディア		
知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	2②	各大学	1			○			1	1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手					
専 門 教 育 科 目	特別 支 援 教 育	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	3①	富山大学		1		○			1						メディア		
		肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	3②	富山大学		1		○			1							メディア	
		病弱児の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	3③	富山大学		1		○			1							メディア	
		病弱児の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	3④	富山大学		1		○			1							メディア	
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	2③	金沢大学		1		○			1							メディア	
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	2④	金沢大学		1		○			1							メディア	
		知的障害教育課程・指導論Ⅰ	2③	富山大学		1		○				1						メディア	
		知的障害教育課程・指導論Ⅱ	2④	各大学		1		○				2							
		肢体不自由教育論Ⅰ（教育の現代的課題を含む）	3③	金沢大学		1		○				1							メディア
		肢体不自由教育論Ⅱ（教育の現代的課題を含む）	3④	金沢大学		1		○				1							メディア
		病弱児の教育	3	富山大学		2		○										兼1	メディア・集中
		聴覚障害教育課程論Ⅰ	3①	金沢大学		1		○				1							メディア
		聴覚障害教育課程論Ⅱ	3②	金沢大学		1		○				1							メディア
		聴覚障害指導法Ⅰ	3③	金沢大学		1		○				1							メディア
		聴覚障害指導法Ⅱ	3④	金沢大学		1		○				1							メディア
		手話序論Ⅰ	2①	金沢大学		1		○				1							
		手話序論Ⅱ	2②	金沢大学		1		○				1							
		発声発語支援法Ⅰ	3①	金沢大学		1		○				1							メディア
		発声発語支援法Ⅱ	3②	金沢大学		1		○				1							メディア
		知的障害児の教育Ⅰ	3①	富山大学		1		○					1						
		知的障害児の教育Ⅱ	3①	富山大学		1		○					1						
		知的障害教育実地演習Ⅰ	3②	富山大学		1					○		1						
		知的障害教育実地演習Ⅱ	3②	富山大学		1					○		1						
		障害児教育基礎論Ⅰ	2①	金沢大学		1		○				3	2						オムニバス
		障害児教育基礎論Ⅱ	2②	金沢大学		1		○				3	2						オムニバス
		特別支援教育実地演習	2	富山大学		2					○	1	2						共同・集中
		ことばの障害とコミュニケーションⅠ	2③	金沢大学		1		○				1							
		ことばの障害とコミュニケーションⅡ	2④	金沢大学		1		○				1							
		発達障害指導法Ⅰ	3③	金沢大学		1		○					1						
		発達障害指導法Ⅱ	3④	金沢大学		1		○					1						
		発達障害児者支援論Ⅰ	3③	富山大学		1		○					1						
		発達障害児者支援論Ⅱ	3④	富山大学		1		○					1						
		障害児の教育診断臨床Ⅰ	3①	富山大学		1		○				1	1						オムニバス
		障害児の教育診断臨床Ⅱ	3	富山大学		1		○						1					集中
		言語障害指導法	4②	金沢大学		1		○				1							
		発達障害総論	4①	金沢大学		1		○					1						
		重複障害児教育Ⅰ	3①	金沢大学		1		○				1							メディア
		重複障害児教育Ⅱ	3②	金沢大学		1		○				1							
		障害児教育基礎演習Ⅰ	2③	金沢大学		1				○		3	2						共同
		障害児教育基礎演習Ⅱ	2④	金沢大学		1				○		3	2						共同
		障害児支援学演習Ⅰ	3①	富山大学			1			○		1	2						共同
		障害児支援学演習Ⅱ	3②	富山大学			1			○		1	2						共同
		障害児支援学演習Ⅲ	3③	富山大学			1			○		1	2						共同
		障害児支援学演習Ⅳ	3④	富山大学			1			○		1	2						共同
		特別支援教育学演習	3	各大学			2			○		4	4						集中・共同
		小計（52科目）		—		0	49	6		—		4	4	1	0	0	兼1	—	
		国 語 教 育	日本語学概論Ⅰ	2①	富山大学		1			○			1						
			日本語学概論Ⅱ	2②	富山大学		1			○			1						
			日本語学演習Ⅰ	3③	各大学		1				○		1						兼1
			日本語学演習Ⅱ	3④	各大学		1				○		1						兼1
			日本語学演習Ⅲ	4①	富山大学		1				○		1						
			日本語学演習Ⅳ	4②	富山大学		1				○		1						
日本語表現Ⅰ（言語指導におけるデータと理論の融合）	2③		富山大学		1			○			1								
日本語表現Ⅱ（言語指導におけるデータと理論の融合）	2④		富山大学		1			○			1								
日本語史Ⅰ	2③		各大学		1			○			1							兼1	
日本語史Ⅱ	2④		各大学		1			○			1							兼1	
日本語学講読Ⅰ	3①		富山大学		1			○			1								
日本語学講読Ⅱ	3②		富山大学		1			○			1								
日本語学講読Ⅲ	3①		金沢大学		1			○										兼1	
日本語学講読Ⅳ	3②		金沢大学		1			○										兼1	
日本文学概論Ⅰ（教育と文学の関係を含む）	2①	富山大学		1				○		1									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専 門 教 育 科 目	国 語 教 育	日本文学概論Ⅱ (国語教科書と文学理論)	2②	富山大学		1		○			1						
		日本文学演習Ⅰ	3①	各大学		1			○		1	1					
		日本文学演習Ⅱ	3②	各大学		1			○		1	1					
		日本文学演習Ⅲ	3③	各大学		1			○		1	1					
		日本文学演習Ⅳ	3④	各大学		1			○		1	1					
		日本児童文学Ⅰ	2③	富山大学		1			○		1						
		日本児童文学Ⅱ	2④	富山大学		1			○		1						
		日本近現代文学Ⅰ	2①	金沢大学		1			○			1					メディア
		日本近現代文学Ⅱ	2②	金沢大学		1			○			1					メディア
		日本古典文学Ⅰ	2③	金沢大学		1			○			1					メディア
		日本古典文学Ⅱ	2④	金沢大学		1			○			1					メディア
		日本文学史Ⅰ (教育上の現代的課題を含む)	2①	金沢大学		1			○			1					メディア
		日本文学史Ⅱ (教育上の現代的課題を含む)	2②	金沢大学		1			○			1					メディア
		日本文学講読Ⅰ	3①	各大学		1			○			1	1				
		日本文学講読Ⅱ	3②	各大学		1			○			1	1				
		日本文学講読Ⅲ	4①	各大学		1			○			1	1				
		日本文学講読Ⅳ	4②	各大学		1			○			1	1				
		漢文学概論Ⅰ (教育上の現代的課題を含む)	2③	金沢大学		1			○			1					メディア
		漢文学概論Ⅱ (教育上の現代的課題を含む)	2④	金沢大学		1			○			1					メディア
		漢文学演習Ⅰ	3③	各大学		1				○		1					兼1
		漢文学演習Ⅱ	3④	金沢大学		1				○		1					
		漢文学講読Ⅰ	4①	金沢大学		1			○			1					
		漢文学講読Ⅱ	4②	金沢大学		1			○			1					
		書写書道基礎Ⅰ	3③	各大学		1				○		1					兼1
		書写書道基礎Ⅱ	3④	各大学		1				○		1					兼1
		国語科教育法Ⅰ (石川県の教育実践を含む)	2①	金沢大学		1			○			1					メディア
		国語科教育法Ⅱ (石川県の教育実践を含む)	2②	金沢大学		1			○			1					メディア
		国語科教育法Ⅲ (富山県の教育実践を含む)	2③	富山大学		1			○				1				
		国語科教育法Ⅳ (富山県の教育実践を含む)	2④	富山大学		1			○				1				
		国語科教育法Ⅴ	3①	各大学		1			○			1					
		国語科教育法Ⅵ	3②	各大学		1			○			1					
		国語科教育法Ⅶ	3③	各大学		1			○			1					
		国語科教育法Ⅷ	3④	各大学		1			○			1					
		国語科教育演習Ⅰ	3③	金沢大学		1				○		1					
		国語科教育演習Ⅱ	3④	金沢大学		1				○		1					
		国語科教育演習Ⅲ	4①	金沢大学		1				○		1					
		国語科教育演習Ⅳ	4②	金沢大学		1				○		1					
		国語科実践研究Ⅰ	3①	金沢大学			1			○		1	3				オムニバス
		国語科実践研究Ⅱ	3②	金沢大学			1			○		1	3				オムニバス
		国語科実践研究Ⅲ	4①	金沢大学			1			○		1	3				オムニバス
		国語科実践研究Ⅳ	4②	金沢大学			1			○		1	3				オムニバス
「話すこと・聞くこと」指導実践演習	3①	富山大学			1			○			1						
「書くこと」指導実践演習	3②	富山大学			1			○			1						
「読むこと」指導実践演習	3③	富山大学			1			○			1						
メディア・地域教材開発指導演習	3④	富山大学			1			○			1						
国語科教育演習	4①	富山大学			1			○				1					
小計 (61科目)		-		0	52	9		-		2	4	1	0	0	兼5	-	
社 会 科 教 育	日本史学概論Ⅰ	2①	各大学		1			○			1	1					
	日本史学概論Ⅱ	2②	各大学		1			○			1	1					
	日本史学各論 (近世・近代)Ⅰ	2③	富山大学		1			○				1				メディア	
	日本史学各論 (近世・近代)Ⅱ	2④	富山大学		1			○				1				メディア	
	日本史学各論 (古代・中世)Ⅰ	2③	金沢大学		1			○			1					メディア	
	日本史学各論 (古代・中世)Ⅱ	2④	金沢大学		1			○			1					メディア	
	日本史学演習Ⅰ	3①	各大学		1				○		1	1					
	日本史学演習Ⅱ	3②	各大学		1				○		1	1					
	日本史学演習Ⅲ	3③	各大学		1				○		1	1					
	日本史学演習Ⅳ	3④	各大学		1				○		1	1					
	歴史学野外実習	2通	金沢大学		1					○	1						
	西洋史学概論Ⅰ (現代的課題を踏まえて)	2③	富山大学		1				○		1					メディア	
	西洋史学概論Ⅱ (現代的課題を踏まえて)	2④	富山大学		1				○		1					メディア	
	東洋史学概論Ⅰ	3③	金沢大学		1				○							兼2	
東洋史学概論Ⅱ	3④	金沢大学		1				○							兼2		
西洋史学各論Ⅰ	3①	富山大学		1				○		1							
西洋史学各論Ⅱ	3②	富山大学		1				○		1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専 門 教 育 科 目	社 会 科 教 育	西洋史学演習Ⅰ	3①	富山大学		1			○		1							
		西洋史学演習Ⅱ	3②	富山大学		1			○		1							
		西洋史学演習Ⅲ	3③	富山大学		1			○		1							
		西洋史学演習Ⅳ	3④	富山大学		1				○		1						
		人文地理学概論Ⅰ	2①	各大学		1			○			1	1					
		人文地理学概論Ⅱ	2②	各大学		1			○			1	1					
		地誌学Ⅰ	2③	各大学		1			○			1	1					
		地誌学Ⅱ	2④	各大学		1			○			1	1					
		地理学各論Ⅰ	2③	各大学		1			○			1	1					
		地理学各論Ⅱ	2④	各大学		1			○			1	1					
		自然地理学Ⅰ	3①	各大学		1			○									兼1
		自然地理学Ⅱ	3②	各大学		1			○									兼1
		地理学演習Ⅰ	3①	各大学		1				○		1	1					
		地理学演習Ⅱ	3②	各大学		1				○		1	1					
		地理学演習Ⅲ	3③	各大学		1				○		1	1					
		地理学演習Ⅳ	3④	各大学		1				○		1	1					
		地理学巡検	3②	富山大学		1					○	1						集中
		地理学野外実習	2①・②	金沢大学		1					○		1					集中
		法学概論Ⅰ	2③	各大学		1				○		1	1					
		法学概論Ⅱ	2④	各大学		1				○		1	1					
		法学各論Ⅰ	3①	各大学		1				○		1	1					
		法学各論Ⅱ	3②	金沢大学		1				○			1					
		法学演習Ⅰ	3①	富山大学		1					○	1						
		法学演習Ⅱ	3②	富山大学		1					○	1						
		法学演習Ⅲ	3③	金沢大学		1					○		1					
		法学演習Ⅳ	3④	金沢大学		1					○		1					
		政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	2①	富山大学		1				○			1					メディア
		政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	2②	富山大学		1				○			1					メディア
		人間安全保障論Ⅰ	3③	富山大学		1				○			1					メディア
		人間安全保障論Ⅱ	3④	富山大学		1				○			1					メディア
		平和学Ⅰ	2①	富山大学		1				○			1					
		平和学Ⅱ	2②	富山大学		1				○			1					
		地球市民社会論Ⅰ	2③	富山大学		1				○			1					
		地球市民社会論Ⅱ	2④	富山大学		1				○			1					
		政治学演習Ⅰ	3①	富山大学		1					○		1					
		政治学演習Ⅱ	3②	富山大学		1					○		1					
		政治学演習Ⅲ	3③	富山大学		1					○		1					
		政治学演習Ⅳ	3④	富山大学		1					○		1					
		経済学概論	3①	各大学		1				○								兼2
		社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	3①	富山大学		1				○			1					メディア
		社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	3②	富山大学		1				○			1					メディア
		地域社会論Ⅰ	4①	富山大学		1				○			1					
		地域社会論Ⅱ	4②	富山大学		1				○			1					
		社会学演習Ⅰ	3①	富山大学		1					○		1					
		社会学演習Ⅱ	3②	富山大学		1					○		1					
		社会学演習Ⅲ	3③	富山大学		1					○		1					
		社会学演習Ⅳ	3④	富山大学		1					○		1					
		哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	2①	金沢大学		1				○		1						メディア
		哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	2②	金沢大学		1				○		1						メディア
		倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	3③	金沢大学		1				○		1						メディア
倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	3④	金沢大学		1				○		1						メディア		
宗教学Ⅰ	3①	金沢大学		1				○		1						メディア		
宗教学Ⅱ	3②	金沢大学		1				○		1						メディア		
哲学史Ⅰ	3①	金沢大学		1				○		1								
哲学史Ⅱ	3②	金沢大学		1				○		1								
哲学演習Ⅰ	3③	金沢大学		1					○	1								
哲学演習Ⅱ	3④	金沢大学		1					○	1								
青年心理学	3③	金沢大学		1				○			1							
社会科・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	2①	金沢大学		1				○		1		1				メディア		
社会科・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	2②	金沢大学		1				○		1						メディア		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会科学教育	社会科・地歴科教育法Ⅲ	3①	各大学		1		○			1						兼1
	社会科・地歴科教育法Ⅳ	3②	各大学		1		○			1						兼1
	社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	2③	富山大学		1		○									兼1 メディア
	社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	2④	富山大学		1		○									兼1 メディア
	社会科・公民科教育法Ⅲ	3③	各大学		1		○			1						兼1
	社会科・公民科教育法Ⅳ	3④	各大学		1		○			1						兼1
	小計（83科目）	—		0	83	0	—			6	6	0	0	0		兼7
専門教育科目	線形代数学概論Ⅰ（代数と現代の数学教育を含む）	2③	富山大学		1		○			1						メディア
	線形代数学概論Ⅱ（代数と現代の数学教育を含む）	2④	富山大学		1		○			1						メディア
	代数学Ⅰ	3③	富山大学		1		○			1						メディア
	代数学Ⅱ	3④	富山大学		1		○			1						メディア
	数論Ⅰ	3①	富山大学		1		○			1						メディア
	数論Ⅱ	3②	富山大学		1		○			1						メディア
	幾何学概論Ⅰ（幾何学と現代の数学教育を含む）	2①	金沢大学		1		○			1						メディア
	幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	2②	金沢大学		1		○			1						メディア
	線形空間論Ⅰ	3①	金沢大学		1		○			1						メディア
	線形空間論Ⅱ	3②	金沢大学		1		○			1						メディア
	曲線論	3③	金沢大学		1		○			1						メディア
	曲面論	3④	金沢大学		1		○			1						メディア
	位相空間論	4③	金沢大学		1		○			1						メディア
	可微分多様体論	4④	金沢大学		1		○			1						メディア
	解析学概論Ⅰ	2①	各大学		1		○			1	1					
	解析学概論Ⅱ	2②	各大学		1		○			1	1					
	解析学Ⅰ	2③	各大学		1		○			1	1					
	解析学Ⅱ	2④	各大学		1		○			1	1					
	解析学Ⅲ	3③	富山大学		1		○				1					メディア
	解析学Ⅳ	3④	富山大学		1		○				1					メディア
	微分方程式Ⅰ	4①	富山大学		1		○				1					メディア
	微分方程式Ⅱ	4②	富山大学		1		○				1					メディア
	確率論概論（確率論と現代の数学教育を含む）	2③	金沢大学		1		○			1						メディア
	統計学概論（統計学と現代の数学教育を含む）	2④	金沢大学		1		○			1						メディア
	確率論	3③	富山大学		1		○			1						メディア
	統計学	3④	富山大学		1		○			1						メディア
	回帰分析	4③	金沢大学		1		○			1						メディア
	コンピュータ概論Ⅰ（授業への応用を含む）	3①	富山大学		1		○				1					メディア
	コンピュータ概論Ⅱ（授業への応用を含む）	3②	富山大学		1		○				1					メディア
	論理学	3①	金沢大学		1		○			1						メディア
	集合論	3②	金沢大学		1		○			1						メディア
	数学科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	2①	富山大学		1		○			1						メディア
	数学科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	2②	富山大学		1		○			1						メディア
	数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	2③	金沢大学		1		○				1					メディア
	数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	2④	金沢大学		1		○				1					メディア
	数学科教育法Ⅴ	3①	各大学		1		○			1	1					
数学科教育法Ⅵ	3②	各大学		1		○			2	1					富大単独/ 金大オムニバス	
数学科教育法Ⅶ	4③	各大学		1		○			2	1					富大単独/ 金大オムニバス	
数学科教育法Ⅷ	4④	各大学		1		○			2							
算数・数学科教育論	4①	金沢大学		1		○				1					メディア	
算数・数学科授業論	4②	金沢大学		1		○			1						メディア	
算数・数学科教材開発研究	4①	富山大学		1		○			1						メディア	
小計（42科目）	—			0	42	0	—			4	2	0	0	0		—
理科教育	理科内容A（力学概論と現代理科教育）	2①	富山大学		1		○			1						メディア
	理科内容A（電磁気学概論と現代理科教育）	2③	金沢大学		1		○			1						メディア
	理科内容A（熱力学）	2②	富山大学		1		○				1					メディア
	理科内容A（一般物理学）	2④	金沢大学		1		○			1						メディア
	理科内容演習AⅠ（物理学）	3③	各大学		1			○		1	1					
	理科内容演習AⅡ（物理学）	3④	各大学		1			○		1	1					
	理科実験AⅠ（物理学）	3①	各大学		0.5				○	1	1					
	理科実験AⅡ（物理学）	3②	各大学		0.5				○	1	1					
	理科内容B（無機化学概論と現代理科教育）	2①	金沢大学		1		○					1				メディア
	理科内容B（物理化学概論と現代理科教育）	2③	富山大学		1		○			1						メディア
	理科内容B（物性化学）	2②	金沢大学		1		○					1				メディア
理科内容B（一般化学）	2④	富山大学		1		○			1						メディア	
理科内容演習BⅠ（化学）	3③	各大学		1			○		1		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	理科内容演習BⅡ(化学)	3④	各大学		1			○		1		1					
	理科実験BⅠ(化学)	3①	各大学		0.5			○		1		1					
	理科実験BⅡ(化学)	3②	各大学		0.5			○		1		1					
	理科内容C(生物共通性概論と現代理科教育)	2①	富山大学		1		○				1					メディア	
	理科内容C(生物多様性概論と現代理科教育)	2②	金沢大学		1		○				1					メディア	
	理科内容C(ヒトの生物学)	2③	富山大学		1		○				1					メディア	
	理科内容C(一般生物学)	2④	金沢大学		1		○				1					メディア	
	理科内容演習CⅠ(生物学)	3③	各大学		1			○			1	1					
	理科内容演習CⅡ(生物学)	3④	各大学		1			○			1	1					
	理科実験CⅠ(生物学)	3①	各大学		0.5				○		1	1					
	理科実験CⅡ(生物学)	3②	各大学		0.5				○		1	1					
	理科内容D(地球環境科学概論と現代理科教育)	2②	富山大学		1		○						1			メディア	
	理科内容D(地球物質科学概論と現代理科教育)	2①	金沢大学		1		○				1					メディア	
	理科内容D(地球史学)	2④	富山大学		1		○						1			メディア	
	理科内容D(一般地学)	2③	金沢大学		1		○				1					メディア	
	理科内容演習DⅠ(地学)	3③	各大学		1			○			1	1					
	理科内容演習DⅡ(地学)	3④	各大学		1			○			1	1					
	理科実験DⅠ(地学)	3①	各大学		0.5				○		1	1					
	理科実験DⅡ(地学)	3②	各大学		0.5				○		1	1					
	理科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①	金沢大学		1		○				1					メディア	
	理科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む)	2②	金沢大学		1		○				1					メディア	
	理科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	2③	富山大学		1		○					1				メディア	
	理科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)	2④	富山大学		1		○					1				メディア	
	理科教育法Ⅴ	3①	各大学		1		○				1	1					
	理科教育法Ⅵ	3②	各大学		1		○				1	1					
	理科教育法Ⅶ	3③	各大学		1		○				1	1					
	理科教育法Ⅷ	3④	各大学		1		○				1	1					
	理科教育演習Ⅰ	4①	各大学		1			○			1	1					
	理科教育演習Ⅱ	4②	各大学		1			○			1	1					
	理科教育実践研究Ⅰ	3①	金沢大学			1		○			4		1			オムニバス	
	理科教育実践研究Ⅱ	3②	金沢大学			1		○			4		1			オムニバス	
	理科教育実践研究Ⅲ	4①	金沢大学			1		○			4		1			オムニバス	
	理科教育実践研究Ⅳ	4②	金沢大学			1		○			4		1			オムニバス	
	小計(46科目)		—		0	38	4		—		5	3	2	0	0	—	
	音楽教育	ソルフェージュⅠ	2①	金沢大学		1			○			1					
		ソルフェージュⅡ	2②	金沢大学		1			○			1					
		歌唱法Ⅰ	2③	金沢大学		1			○			1					
		歌唱法Ⅱ	2④	金沢大学		1			○			1					
		歌唱法Ⅲ	3①	金沢大学		1			○			1					
		歌唱法Ⅳ	3②	金沢大学		1			○			1					
		アンサンブルⅠ(声楽)	2③	金沢大学		1			○			1					
		アンサンブルⅡ(声楽)	3①	金沢大学		1			○			1					
		アンサンブルⅢ(声楽)	3③	金沢大学		1			○			1					
		日本の伝統的歌唱法	3①・②	金沢大学		1			○								兼1
		歌唱法演習Ⅰ	4①	金沢大学		1			○			1					
		歌唱法演習Ⅱ	4②	金沢大学		1			○			1					
歌唱法演習Ⅲ		4③	金沢大学		1			○			1						
歌唱法演習Ⅳ		4④	金沢大学		1			○			1						
和楽器奏法		3①・②	金沢大学		1			○								兼1	
ピアノ奏法Ⅰ		2③	金沢大学		1			○			1						
ピアノ奏法Ⅱ		2④	金沢大学		1			○			1						
ピアノ奏法Ⅲ		3③	金沢大学		1			○			1						
ピアノ奏法Ⅳ		3④	金沢大学		1			○			1						
ピアノ奏法演習Ⅰ		4①	金沢大学		1			○			1						
ピアノ奏法演習Ⅱ		4②	金沢大学		1			○			1						
ピアノ奏法演習Ⅲ		4③	金沢大学		1			○			1						
ピアノ奏法演習Ⅳ		4④	金沢大学		1			○			1						
アンサンブルⅣ(木管)		2④	金沢大学		1			○								兼1	
アンサンブルⅤ(金管)		3②	金沢大学		1			○								兼1	
アンサンブルⅥ(室内楽)		3	富山大学		1			○					1			集中	
アンサンブルⅦ(室内楽)		3	富山大学		1			○					1			集中	
指揮法	4①・②	金沢大学		1			○				1						
音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む)Ⅰ	2①	金沢大学		1		○					1						
音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む)Ⅱ	2②	金沢大学		1		○					1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
音楽教育	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅲ	2③	金沢大学		1		○				1						
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅳ	2④	金沢大学		1		○				1						
	音楽史Ⅰ（西洋音楽）	3①	富山大学		1		○								兼1	集中	
	音楽史Ⅱ（西洋音楽）	3②	富山大学		1		○								兼1	集中	
	音楽史Ⅲ（日本及び世界の音楽）	3③	金沢大学		1		○								兼1		
	音楽史Ⅳ（日本及び世界の音楽）	3④	金沢大学		1		○								兼1		
	作曲（編曲を含む）演習Ⅰ	4①	金沢大学		1			○			1						
	作曲（編曲を含む）演習Ⅱ	4②	金沢大学		1			○			1						
	作曲（編曲を含む）演習Ⅲ	4③	金沢大学		1			○			1						
	作曲（編曲を含む）演習Ⅳ	4④	金沢大学		1			○			1						
	音楽科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	2①	金沢大学		1		○								兼1	メディア	
	音楽科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	2②	金沢大学		1		○								兼1	メディア	
	音楽科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	2③	富山大学		1		○					1				メディア	
	音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	2④	富山大学		1		○					1				メディア	
	音楽科教育法Ⅴ	3①	金沢大学		1		○								兼1		
	音楽科教育法Ⅵ	3②	金沢大学		1		○								兼1		
	音楽科教育法Ⅶ	3③	金沢大学		1		○								兼1		
	音楽科教育法Ⅷ	3④	金沢大学		1		○								兼1		
	小計（48科目）		—		0	48	0		—		2	1	1	0	0	兼6	—
	専門 教育 科目	美術教育															
絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）		2③	金沢大学		1				○		1						
絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）		2④	富山大学		1				○						兼1	集中	
絵画Ⅰ		3①	金沢大学		1				○		1						
絵画Ⅱ		3②	金沢大学		1				○		1						
絵画Ⅲ		3③	金沢大学		1				○		1						
絵画Ⅳ		3④	金沢大学		1				○		1						
彫刻基礎Ⅰ（現代美術表現を含む）		2①	金沢大学		1				○						兼1		
彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）		2②	富山大学		1				○						兼1	集中	
彫刻Ⅰ		3①	金沢大学		1				○						兼1		
彫刻Ⅱ		3②	金沢大学		1				○						兼1		
彫刻Ⅲ		3③	金沢大学		1				○						兼1		
彫刻Ⅳ		3④	金沢大学		1				○						兼1		
デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）		2③	金沢大学		1				○			1					
デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）		2④	富山大学		1				○		1						
デザインⅠ		3①	各大学		1				○		1	1					
デザインⅡ		3②	各大学		1				○		1	1					
デザインⅢ		3③	各大学		1				○		1	1					
デザインⅣ		3④	各大学		1				○		1	1					
工芸基礎Ⅰ		2①	金沢大学		1				○		1						
工芸基礎Ⅱ		2②	富山大学		1				○						兼1	集中	
工芸論Ⅰ		2①	金沢大学		1		○								兼1		
工芸論Ⅱ		2②	金沢大学		1		○								兼1		
比較美術史Ⅰ（美術理論含む）		3①	金沢大学		1		○								兼1		
比較美術史Ⅱ（美術理論含む）		3②	金沢大学		1		○								兼1		
日本美術史（美術理論含む）		2	富山大学		2		○								兼1	集中	
西洋美術史（美術理論含む）		2	富山大学		2		○								兼1	集中	
美術実地研究		3②	各大学		1				○		3	1			兼2	集中	
美術科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）		2①	金沢大学		1		○				1					メディア	
美術科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）		2②	金沢大学		1		○				1					メディア	
美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）		2③	富山大学		1		○								兼1	メディア	
美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）		2④	富山大学		1		○								兼1	メディア	
美術科教育法Ⅴ		3①	各大学		1		○				3	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス	
美術科教育法Ⅵ		3②	各大学		1		○				3	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス	
美術科教育法Ⅶ	3③	各大学		1		○				3	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス		
美術科教育法Ⅷ	3④	各大学		1		○				3	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス		
造形教育演習Ⅰ	4①	各大学			1			○		1				兼1			
造形教育演習Ⅱ	4②	各大学			1			○		1				兼1			
造形教育演習Ⅲ	4③	各大学			1			○		1				兼1			
造形教育演習Ⅳ	4④	各大学			1			○		1				兼1			
彫刻制作研究Ⅰ	4①	金沢大学		1				○						兼1			
彫刻制作研究Ⅱ	4②	金沢大学		1				○						兼1			
彫刻制作研究Ⅲ	4③	金沢大学		1				○						兼1			
彫刻制作研究Ⅳ	4④	金沢大学		1				○						兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
美術教育	美術史研究Ⅰ	4①	金沢大学			1	○									兼1	
	美術史研究Ⅱ	4②	金沢大学			1	○									兼1	
	美術史研究Ⅲ	4③	金沢大学			1	○									兼1	
	美術史研究Ⅳ	4④	金沢大学			1	○									兼1	
	絵画制作研究Ⅰ	4①	金沢大学			1			○	1							
	絵画制作研究Ⅱ	4②	金沢大学			1			○	1							
	絵画制作研究Ⅲ	4③	金沢大学			1		○		1							
	絵画制作研究Ⅳ	4④	金沢大学			1		○		1							
	デザイン制作研究Ⅰ	4①	金沢大学			1			○		1						
	デザイン制作研究Ⅱ	4②	金沢大学			1			○		1						
	デザイン制作研究Ⅲ	4③	金沢大学			1			○		1						
	デザイン制作研究Ⅳ	4④	金沢大学			1			○		1						
	小計 (55科目)		—		0	37	20			—	3	1	0	0	0	兼9	—
	専門教育科目	体操Ⅰ	2①	各大学		0.5				○		2					
体操Ⅱ		2②	各大学		0.5				○		2						
器械運動Ⅰ		2①	各大学		0.5				○		2						
器械運動Ⅱ		2②	各大学		0.5				○		2						
陸上Ⅰ		2①	各大学		0.5				○		1					兼1	
陸上Ⅱ		2②	各大学		0.5				○		1					兼1	
水泳Ⅰ		3①	各大学		0.5				○							兼1	
水泳Ⅱ		3②	各大学		0.5				○							兼1	
武道AⅠ (剣道)		2③	金沢大学		0.5				○							兼1	
武道AⅡ (柔道)		2④	金沢大学		0.5				○							兼1	
武道BⅠ (柔道)		2③	富山大学		0.5				○							兼1	
武道BⅡ (柔道)		2④	富山大学		0.5				○							兼1	
ダンスⅠ		3①	各大学		0.5				○			1				兼1	
ダンスⅡ		3②	各大学		0.5				○			1				兼1	
球技 (ゴール型) AⅠ (サッカー)		3①	金沢大学		0.5				○		1						
球技 (ゴール型) AⅡ (サッカー)		3②	金沢大学		0.5				○		1						
球技 (ゴール型) BⅠ (バスケットボール)		3①	富山大学		0.5				○							兼1	
球技 (ゴール型) BⅡ (バスケットボール)		3②	富山大学		0.5				○		1						
球技 (ネット型) AⅠ (バレーボール)		3①	金沢大学		0.5				○			1					
球技 (ネット型) AⅡ (バレーボール)		3②	金沢大学		0.5				○			1					
球技 (ネット型) BⅠ (バレーボール)		3①	富山大学		0.5				○			1					
球技 (ネット型) BⅡ (テニス)		3②	富山大学		0.5				○			1					
球技 (ベースボール型)Ⅰ		3①	各大学		0.5				○							兼1	
球技 (ベースボール型)Ⅱ		3②	各大学		0.5				○							兼1	
スポーツ文化論Ⅰ		3①	富山大学		1			○								兼1	
スポーツ文化論Ⅱ		3②	富山大学		1			○								兼1	
スポーツ心理学Ⅰ (最新教育課題を含む)		3①	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツ心理学Ⅱ (最新教育課題を含む)		3②	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツマネジメント論Ⅰ		3①	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツマネジメント論Ⅱ		3②	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツ社会学Ⅰ		2③	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツ社会学Ⅱ		2④	富山大学		1			○			1					メディア	
運動学概論 (運動方法をを含む)Ⅰ		2③	富山大学		1			○			1					メディア	
運動学概論 (運動方法をを含む)Ⅱ		2④	富山大学		1			○			1					メディア	
バイオメカニクスⅠ		2③	各大学		1			○			1					兼1	
バイオメカニクスⅡ		2④	各大学		1			○			1					兼1	
運動生理学Ⅰ (海外の先端事情を含む)		2③	金沢大学		1			○			1					メディア	
運動生理学Ⅱ (海外の先端事情を含む)		2④	金沢大学		1			○			1					メディア	
衛生学及び公衆衛生学Ⅰ		3①	金沢大学		1			○								兼1	
衛生学及び公衆衛生学Ⅱ		3②	金沢大学		1			○								兼1	
学校保健Ⅰ (教科横断で取り組む学校保健)		3①	金沢大学		1			○			1					メディア	
学校保健Ⅱ (教科横断で取り組む学校保健)	3②	金沢大学		1			○			1					メディア		
発育発達Ⅰ	2①	富山大学		1			○				1				メディア		
発育発達Ⅱ	2②	富山大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅰ (石川県の教育実践を含む)	2①	金沢大学		1			○			1					メディア		
保健体育科教育法Ⅱ (石川県の教育実践を含む)	2②	金沢大学		1			○			1					メディア		
保健体育科教育法Ⅲ (富山県の教育実践を含む)	2③	富山大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅳ (富山県の教育実践を含む)	2④	富山大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅴ	3①	金沢大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅵ	3②	金沢大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅶ	3③	富山大学		1			○					1			メディア		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
保健体育	保健体育科教育法Ⅶ	3④	富山大学		1		○									兼1 メディア オムニバス オムニバス
	コーチング論Ⅰ	3③	富山大学			1	○				2					
	コーチング論Ⅱ	3④	富山大学			1	○				2	1				
	バイオメカニクス演習A	3①	金沢大学			1		○			1					
	バイオメカニクス演習B	3②	金沢大学			1		○			1					
	バイオメカニクス演習C	3③	金沢大学			1		○			1					
	バイオメカニクス演習D	3④	金沢大学			1		○			1					
	運動生理学演習A	3①	金沢大学			1		○			1					
	運動生理学演習B	3②	金沢大学			1		○			1					
	運動生理学演習C	3③	金沢大学			1		○			1					
	運動生理学演習D	3④	金沢大学			1		○			1					
	学校保健演習A	3①	金沢大学			1		○			1					
	学校保健演習B	3②	金沢大学			1		○			1					
	学校保健演習C	3③	金沢大学			1		○			1					
	学校保健演習D	3④	金沢大学			1		○			1					
	保健体育科教育演習A	3①	金沢大学			1		○				1				
	保健体育科教育演習B	3②	金沢大学			1		○				1				
	保健体育科教育演習C	3③	金沢大学			1		○				1				
	保健体育科教育演習D	3④	金沢大学			1		○				1	1			
	小計(70科目)		—		0	40	18				2	5	2	0	0	
専門教育科目	家政学原論	2①	金沢大学			1		○				1				メディア
	家庭経営学Ⅰ(家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む)	2②	金沢大学			1		○				1				メディア
	家庭経営学Ⅱ	2③	金沢大学			1		○				1				メディア
	家族関係学(多様な家族と家庭科教育)	2④	金沢大学			1		○				1				メディア
	家庭経営学演習Ⅰ	3①	金沢大学			1			○			1				メディア
	家庭経営学演習Ⅱ	3②	金沢大学			1			○			1				メディア
	被服学概論Ⅰ(現代の衣生活の諸問題を含む)	2③	金沢大学			1		○				1				メディア
	被服学概論Ⅱ	2④	金沢大学			1		○				1				メディア
	被服構成実習	3①	金沢大学			1				○		1				
	被服科学実験	3③	金沢大学			1				○		1				
	被服学演習Ⅰ	3③	金沢大学			1			○			1				メディア
	被服学演習Ⅱ	3④	金沢大学			1			○			1				メディア
	食物学概論Ⅰ(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む)	2①	富山大学			1		○				1				メディア
	食物学概論Ⅱ(栄養学、食品学を含む)	2②	富山大学			1		○				1				メディア
	食物学	3①	富山大学			1		○				1				メディア
	調理実習(地域の食文化比較を含む)	3②	富山大学			1				○		1				
	食物学演習Ⅰ	3③	富山大学			1			○			1				メディア
	食物学演習Ⅱ	3④	富山大学			1			○			1				メディア
	住居学概論Ⅰ	2①	富山大学			1		○				1				メディア
	住居学概論Ⅱ	2②	富山大学			1		○				1				メディア
	住居学Ⅰ(現代の住環境問題を含む)	2③	富山大学			1		○				1				メディア
	住居学Ⅱ(製図及び富山石川の住宅比較を含む)	2④	富山大学			1		○				1				メディア
	住居学演習Ⅰ	3③	富山大学			1			○			1				メディア
	住居学演習Ⅱ	3④	富山大学			1			○			1				メディア
	保育学概論Ⅰ(現代の保育学の諸問題を含む)	2①	金沢大学			1		○				1				メディア
	保育学概論Ⅱ(家庭看護含む)	2②	金沢大学			1		○				1				メディア
	保育学Ⅰ	2③	金沢大学			1		○				1				メディア
	保育学Ⅱ(実習含む)	2④	金沢大学			1		○				1				メディア
	保育学演習Ⅰ	3③	金沢大学			1			○			1				メディア
	保育学演習Ⅱ	3④	金沢大学			1			○			1				メディア
	家庭電気・機械・情報	3②	金沢大学			1		○								兼1 メディア
	家庭科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	2①	富山大学			1		○				1				メディア
	家庭科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②	富山大学			1		○				1				メディア
家庭科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)	2③	金沢大学			1		○				1				メディア	
家庭科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)	2④	金沢大学			1		○				1				メディア	
家庭科教育法Ⅴ	3①	各大学			1		○				2					
家庭科教育法Ⅵ	3②	各大学			1		○				2					
家庭科教育法Ⅶ	3③	各大学			1		○				2					
家庭科教育法Ⅷ	3④	各大学			1		○				2					
家庭科教育演習Ⅰ	4①	各大学			1			○			2					
家庭科教育演習Ⅱ	4②	各大学			1			○			2					
住居学演習Ⅲ	4①	富山大学				1		○			1					
住居学演習Ⅳ	4②	富山大学				1		○			1					
食物学演習Ⅲ	4①	富山大学				1		○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
家政教育	食物学演習Ⅳ	4②	富山大学			1		○			1							
	家庭経営学演習Ⅲ	4①	金沢大学			1		○			1							
	家庭経営学演習Ⅳ	4②	金沢大学			1		○			1							
	被服学演習Ⅲ	4①	金沢大学			1		○			1							
	被服学演習Ⅳ	4②	金沢大学			1		○			1							
	保育学演習Ⅲ	4①	金沢大学			1		○		1								
	保育学演習Ⅳ	4②	金沢大学			1		○		1								
	家庭科教育演習Ⅲ	4①	各大学			1		○		2								
	家庭科教育演習Ⅳ	4②	各大学			1		○		2								
	小計 (53科目)	—	—	—	0	41	12		—		4	3	0	0	0	兼1	—	
	英語教育	英語学概論Ⅰ (文法と現在の英語教育)	2①	富山大学			1		○				1					メディア
		英語学概論Ⅱ (文法と現在の英語教育)	2②	富山大学			1		○				1					メディア
		英語学概論Ⅲ (応用)	3①	各大学			1		○		1		1					
		英語学概論Ⅳ (応用)	3②	各大学			1		○		1		1					
		英語音声学・文法Ⅰ	2③	各大学			1		○		1		1					
		英語音声学・文法Ⅱ	2④	各大学			1		○		1		1					
		英語学演習Ⅰ (個別理論)	3③	各大学			1			○	1		1					
		英語学演習Ⅱ (個別理論)	3④	各大学			1			○	1		1					
		英語文学概論Ⅰ (イギリス文学と現在の英語教育)	2①	金沢大学			1			○		1						
英語文学概論Ⅱ (アメリカ文学と現在の英語教育)		2③	金沢大学			1			○		1							メディア
英語文学概論Ⅲ (イギリス)		2②	金沢大学			1			○		1							メディア
英語文学概論Ⅳ (アメリカ)		2④	金沢大学			1			○		1							メディア
英語学演習Ⅰ (イギリス)		3①	金沢大学			1			○		1							メディア
英語学演習Ⅱ (アメリカ)		3③	金沢大学			1			○		1							メディア
英語学演習Ⅲ (イギリス)		3②	金沢大学			1			○		1							メディア
英語学演習Ⅳ (アメリカ)		3④	金沢大学			1			○		1							メディア
英作文Ⅰ (基礎)		2①	各大学			1			○			1						兼1
英会話Ⅰ (基礎)		2③	各大学			1			○		1							兼1
英作文Ⅱ (応用)		2②	各大学			1			○			1						兼1
英会話Ⅱ (応用)		2④	各大学			1			○		1							兼1
英作文Ⅲ (応用)		3①	各大学			1			○			1						兼1
英会話Ⅲ (応用)		3③	各大学			1			○		1							兼1
英作文Ⅳ (応用)		3②	各大学			1			○			1						兼1
英会話Ⅳ (応用)		3④	各大学			1			○		1							兼1
異文化理解Ⅰ (英語教育の中の異文化理解)		2③	富山大学			1			○			1						メディア
異文化理解Ⅱ (英語教育の中の異文化理解)		2④	富山大学			1			○			1						メディア
異文化理解Ⅲ (応用)		3①	富山大学			1			○			1						メディア
異文化理解Ⅳ (応用)		3②	富山大学			1			○			1						メディア
異文化理解演習Ⅰ		3③	富山大学			1				○		1						メディア
異文化理解演習Ⅱ		3④	富山大学			1				○		1						メディア
英語科教育法Ⅰ (富山県の教育実践を含む)		2①	富山大学			1				○								兼1
英語科教育法Ⅱ (富山県の教育実践を含む)		2②	富山大学			1				○								兼1
英語科教育法Ⅲ (石川県の教育実践を含む)		2③	金沢大学			1				○		1						メディア
英語科教育法Ⅳ (石川県の教育実践を含む)		2④	金沢大学			1				○		1						メディア
英語科教育法Ⅴ		3①	各大学			1				○		1						
英語科教育法Ⅵ		3②	各大学			1				○		1						
英語科教育法Ⅶ	3③	各大学			1				○		1							
英語科教育法Ⅷ	3④	各大学			1				○		1							
英語学特別演習Ⅰ	3③	金沢大学			1				○		1							
英語学特別演習Ⅱ	3④	金沢大学			1				○		1							
英語学特別演習Ⅲ	3①	富山大学			1				○			1						
英語学特別演習Ⅳ	3②	富山大学			1				○			1						
英語文学特別演習Ⅰ	4③	金沢大学			1				○		1	1						
英語文学特別演習Ⅱ	4④	金沢大学			1				○		1	1						
異文化理解特別演習Ⅰ	3③	富山大学			1				○		1						兼1	
異文化理解特別演習Ⅱ	3④	富山大学			1				○		1						兼1	
英語教育学特別演習Ⅰ	4③	金沢大学			1				○		1							
英語教育学特別演習Ⅱ	4④	金沢大学			1				○		1							
英語教育学特別演習Ⅲ	4③	富山大学			1				○								兼1	
英語教育学特別演習Ⅳ	4④	富山大学			1				○								兼1	
英語科教育実践研究Ⅰ	3②	金沢大学			1				○			1						
英語科教育実践研究Ⅱ	4①	金沢大学			1				○		1							
英語科教育実践研究Ⅲ	3③	富山大学			1				○				1					
英語科教育実践研究Ⅳ	3④	富山大学			1				○				1					
小計 (54科目)	—	—	—	0	38	16		—		3	2	2	0	0	兼4	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	教育学・心理学に関する科目	教育心理学データ解析法A	2①	富山大学			1	○						1				
		教育心理学データ解析法B	2②	富山大学			1	○							1			
		教育心理学研究法	2③	富山大学			1			○					1			
		教育心理学実験法	2④	富山大学			1			○					1			
		教育臨床心理学A	2②	富山大学			1	○				1						
		教育臨床心理学B	2③	富山大学			1	○				1						
		教授・学習心理学演習	3③	富山大学			1			○				1				
		臨床心理実習	3通	富山大学			2				○		1	1				
		教育心理学ゼミナール	3通	富山大学			2			○			1	2				
		教育法規A	2・3・4	富山大学			1	○										兼1
		教育法規B	2・3・4	富山大学			1	○										兼1
		教育臨床学A	2・3・4	富山大学			1	○						1				
		教育臨床学B	2・3・4	富山大学			1	○						1				
		教育倫理学A	2・3・4	富山大学			1	○						1				
		教育倫理学B	2・3・4	富山大学			1	○						1				
		教育学ゼミナール	3通	富山大学			2			○				2				兼1
		教育・心理基礎論A	3①	金沢大学			1			○		2	4					オムニバス
		教育・心理基礎論B	3②	金沢大学			1			○		2	4					オムニバス
		教育学・心理学演習A	3③	金沢大学			1			○		2	4					
		教育学・心理学演習B	3④	金沢大学			1			○		2	4					
小計(20科目)		—			0	0	23			—	2	8	4	0	0	兼1	—	
専門教育科目	保育士に関する科目	保育原理I	1③	富山大学			1	○						1				
		保育原理II	1④	富山大学			1	○							1			
		乳児保育I	2③	富山大学			1	○							1			
		乳児保育II	2④	富山大学			1	○							1			
		乳児保育III	3①	富山大学			1			○					1			
		社会的養護I	3①	富山大学			1	○							1			
		社会的養護II	3②	富山大学			1	○							1			
		保育者論	1④	富山大学			1	○							1			
		子どもの保健I	3③	富山大学			1	○				2						オムニバス
		子どもの保健II	3④	富山大学			1	○				2						オムニバス
		子どもの食と栄養I	3③	富山大学			1	○						1				
		子どもの食と栄養II	3④	富山大学			1	○						1				
		社会的養護III	3③	富山大学			1			○				1				
		保育実習I	2④・3④	富山大学			4				○	1	2					兼1
		保育実習指導I	2・3	富山大学			2			○		1	2					兼1
		臨床発達心理学I	4①	富山大学			1	○				1						
		臨床発達心理学II	4②	富山大学			1	○				1						
		発達福祉統計学I	3③	富山大学			1	○				1						
		発達福祉統計学II	3④	富山大学			1	○				1						
		地域子育て支援論演習I	4③	富山大学			1			○		1						
地域子育て支援論演習II	4④	富山大学			1			○		1								
保育実習II	3④	富山大学			2				○	1	2					兼1		
保育実習III	3④	富山大学			2				○	1	2					兼1		
保育実習指導II	3	富山大学			1			○		1	2					兼1		
保育実習指導III	3	富山大学			1			○		1	2					兼1		
小計(25科目)		—			0	0	31			—	2	4	0	0	0	兼1	—	
合計(1127科目)		—			73	1047	152			—	39	40	12	0	0	兼210	—	
学位又は称号		学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係											
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数(必修)			授業期間等										
1. 教養教育科目又は共通教育科目				富山大学	663(47)			1学年の学期区分		4期								
				金沢大学	789(47)			1学期の授業期間		8週								
				1時限の授業時間		90分												
富山大学：教養教育科目 22単位以上				※ 富山大学の教養教育科目はSemester制で授業を実施する。														
(1) 人文科学系 } 10単位以上																		
(2) 社会科学系 } (ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系か																		
(3) 自然科学系 } ら																		
(4) 総合科目系 } 2単位(保健以上を含むこと。)																		
(5) 外国語系 } 6単位以上																		
(6) 保健体育系 } 2単位																		
(7) 情報処理系 } 2単位																		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	金沢大学：共通教育科目 28単位以上 (1) 導入科目 3単位 (2) G S 科目 15単位以上 (3) G S 言語科目 8単位 (4) 自由履修科目 2単位以上														
	2. 専門教育科目														
	[専門科目区分：幼児教育，国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，音楽教育，美術教育，保健体育，家政教育，英語教育]														
	富山大学：114単位以上 (1) 共通科目 9単位以上 (2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (4) 教育実践に関する科目 9単位以上 (5) 小学校教科 12単位以上 (6) 小学校教科指導法 20単位 (7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (8) 専門科目 24単位以上														
	金沢大学：116単位以上 (1) 学域G S 科目 4単位 (2) 学域G S 言語科目 2単位 (3) 共通科目 5単位 (4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (6) 教育実践に関する科目 9単位以上 (7) 小学校教科 12単位以上 (8) 小学校教科指導法 20単位 (9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (10) 専門科目 24単位以上														
	[専門科目区分：特別支援教育]														
	富山大学：114単位以上 (1) 共通科目 9単位以上 (2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (4) 教育実践に関する科目 10単位以上 (5) 小学校教科 12単位以上 (6) 小学校教科指導法 20単位 (7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (8) 専門科目 23単位以上														
	金沢大学：116単位以上 (1) 学域G S 科目 4単位 (2) 学域G S 言語科目 2単位 (3) 共通科目 5単位 (4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (6) 教育実践に関する科目 10単位以上 (7) 小学校教科 12単位以上 (8) 小学校教科指導法 20単位 (9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (10) 専門科目 23単位以上														
	3. 相手大学の開講科目の単位取得 富山大学：上記1及び2のうち、金沢大学が開講する科目31単位以上 金沢大学：上記1及び2のうち、富山大学が開講する科目31単位以上														

教育課程等の概要														
（富山大学教育学部共同教員養成課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文科学系	哲学のすすめ	1前・後		2		○								兼1
	人間と倫理	1前・後		2		○								兼1
	こころの科学	1前・後		2		○								兼1
	日本の歴史と社会	1前・後		2		○								兼2
	東洋の歴史と社会	1前・後		2		○								兼1
	西洋の歴史と社会	1前・後		2		○								兼1
	日本文学	1前・後		2		○								兼1
	外国文学	1前・後		2		○								兼1
	言語と文化	1前・後		2		○								兼1
	音楽	1前・後		2		○								兼1
	美術	1前・後		2		○								兼1
	美術表現A	1前・後		2		○								兼1
	美術表現B	1前・後		2		○								兼1
	言語表現	1前・後		2			○							兼1
	治療の文化史	1前・後		2		○		○						兼1
	異文化間コミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	異文化理解	1前・後		2		○					1			兼1
小計（17科目）		—	0	34	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼14
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○								兼1
	日本国憲法	1前・後		2		○								兼1
	国家と市民	1前・後		2		○								兼1
	経済生活と法	1前・後		2		○								兼1
	市民生活と法	1前・後		2		○								兼1
	はじめての経済学	1前・後		2		○								兼1
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○								兼1
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○								兼1
	市場と企業の関係	1前・後		2		○								兼1
	地域の経済と社会・文化	1前・後		2		○								兼1
小計（10科目）		—	0	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9
自然科学系	自然科学への扉—A	1前・後		2		○								兼1
	自然科学への扉—B	1前・後		2		○								兼1
	自然科学への扉—C	1前・後		2		○								兼1
	科学技術への扉—A	1前・後		2		○								兼1
	科学技術への扉—B	1前・後		2		○								兼1
	生命の世界	1前・後		2		○								兼2
	社会と情報の数理	1前・後		2		○								兼1
	デザインと生物	1前・後		2		○								兼1
小計（8科目）		—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼8
医療・健康科学系	医療心理学	1前・後		2		○								兼1
	概説医療心理学	1前・後		1		○								兼1
	認知科学	1前・後		2		○								兼1
	脳科学入門	1前・後		2		○								兼1
	生命科学入門	1前・後		2		○								兼1
	免疫学入門	1前・後		2		○								兼1
	身近な医学	1前・後		2		○								兼1
	障害とアクセシビリティ	1前・後		2		○				1				兼1
	医療と地域社会	1前・後		2		○								兼2
小計（9科目）		—	0	17	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼6
総合科目系	環境	1前・後		2		○								兼1
	ジェンダー	1前・後		2		○								兼1
	技術と社会	1前・後		2		○								兼2
	現代文化	1前・後		2		○								兼1
	人権と福祉	1前・後		2		○								兼1
	環日本海	1前・後		2		○								兼1
	科学と社会	1前・後		2		○								兼1
	アカデミック・デザイン	1前・後		2		○								兼1
	ビジネス思考	1前・後		2		○								兼1
	データサイエンスの世界	1前・後		2		○								兼1
	データサイエンスの実践	1前・後		2		○								兼1
	教養としての都市デザイン学	1前・後		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合科目目系	SDGs入門	1前・後		2		○									兼1		
	平和学入門	1前・後		2		○				1							
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後		2		○									兼1		
	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○									兼1		
	環境と安全管理	1前・後		2		○									兼1		
	万葉学	1前・後		2		○									兼1		
	日本海学	1前・後		2		○									兼1		
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1		
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1		
	時事的問題	1前・後		2		○									兼1		
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○				1							
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1		
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1		
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1		
	学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1		
	富山学	1前・後		2		○									兼1		
	地域ライフプラン	1前・後		2		○									兼2		
	産業観光学	1前・後		2		○									兼2		
	富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼2		
	富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼2		
葉都とやま学	1前・後		2		○									兼1			
小計 (33科目)		—	0	66	0	—	—	—	0	2	0	0	0	0	兼25	—	
教養教育科目	外国語系	ESP I (Level-based)	1前	1			○								兼1		
		ESP II (Interest-based)	1後	1			○								兼1		
		基礎英語 I	1前	1			○								兼1		
		基礎英語 II	1後	1			○								兼1		
		ドイツ語基礎 I	1前	1			○								兼1		
		ドイツ語基礎 II	1後	1			○								兼1		
		ドイツ語コミュニケーション I	1前	1			○								兼1		
		ドイツ語コミュニケーション II	1後	1			○								兼1		
		フランス語基礎 I	1前	1			○								兼1		
		フランス語基礎 II	1後	1			○								兼1		
		フランス語コミュニケーション I	1前	1			○								兼1		
		フランス語コミュニケーション II	1後	1			○								兼1		
		中国語基礎 I	1前	1			○								兼1		
		中国語基礎 II	1後	1			○								兼1		
		中国語コミュニケーション I	1前	1			○								兼1		
		中国語コミュニケーション II	1後	1			○								兼1		
		朝鮮語基礎 I	1前	1			○								兼1		
		朝鮮語基礎 II	1後	1			○								兼1		
		朝鮮語コミュニケーション I	1前	1			○								兼1		
		朝鮮語コミュニケーション II	1後	1			○								兼1		
		ロシア語基礎 I	1前	1			○								兼1		
		ロシア語基礎 II	1後	1			○								兼1		
		ロシア語コミュニケーション I	1前	1			○								兼1		
		ロシア語コミュニケーション II	1後	1			○								兼1		
		日本語リテラシー I	1前	1			○									兼2	
		日本語リテラシー II	1後	1			○									兼2	
		日本語コミュニケーション I	1前	1			○									兼2	
日本語コミュニケーション II	1後	1			○									兼2			
発展多言語演習ドイツ語	2前			1		○								兼1			
発展多言語演習中国語	2前			1		○								兼1			
日本語コミュニケーション III	2前			1		○								兼1			
日本語／専門研究	2後			1		○								兼1			
小計 (32科目)		—	0	28	4	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼13	—	
保健体育系	健康・スポーツ／講義	1前・後		1		○									兼1		
	健康・スポーツ／実技	1前		1				○							兼1		
小計 (2科目)		—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	—	
情報処理系	情報処理	1前		2		○									兼4		
	応用情報処理	1後		2			○								兼1		
小計 (2科目)		—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通科目	野外体験活動Ⅰ	1②	1					○										
	基礎ゼミナール	1①・②		2				○										
	地域教材研究(富山学)	1③・④		2				○		1								
	卒業研究	4通	4					○	13	18	11							
	地域共生(福祉)論Ⅰ	3①			1			○								兼1		
	地域共生(福祉)論Ⅱ	3②			1			○								兼1		
	スクールソーシャルワーク論Ⅰ	3③			1			○								兼1		
	スクールソーシャルワーク論Ⅱ	3④			1			○								兼1		
	主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラシー	2③			1			○									兼1	
	事例で学ぶ減災・防災教育論	3①			1			○									兼1	
	プログラミング入門	2①			1				○	1	1							
	子どもとのふれあい体験	1①・②・③			2				○								兼1	
小計(12科目)		—	5	4	9			—	13	18	11	0	0	0	0	兼3	—	
教育に関する基礎的理解に	教育の思想と歴史(西洋)	1③	1					○									メディア	
	教職とこれからの教育	1③	1					○									兼2 オムニバス	
	教育経営概論(教育改革と学校経営)	2①・②	1					○									兼1	
	教授・学習心理学(個別最適化学習の理論と実践)	2②	1					○			1						メディア	
	特別な支援を要する子どもの理解	1③	1					○		1							メディア	
未来をつくる教育課程	2③・④	1					○											
小計(6科目)		—	6	0	0			—	1	0	3	0	0	0	0	兼3	—	
道徳、総合的な学習の時間、生徒指導、時間等に関する科目	道徳教育論(理論)	3①	1					○										メディア
	総合的な学習の時間教育論Ⅰ	3①	1					○										兼1
	総合的な学習の時間教育論Ⅱ	3②	1					○										兼1
	特別活動とカリキュラムマネジメント	2①・②	1					○			1							兼1
	教育技術学	3①	1					○		1								兼1
生徒指導論	2③	1					○			1							メディア・オムニバス	
教育相談の理論	2①	1					○			1							メディア・オムニバス	
小計(7科目)		—	7	0	0			—	1	1	3	0	0	0	0	兼2	—	
教育実践に関する科目	教育実習A(幼・小)(事前事後指導を含む)	3②・④②		5				○										兼1
	教育実習A(中・高)(事前事後指導を含む)	3②・④②		5				○										兼1
	教育実習B(小)	3②・④②		2				○										兼1
	教育実習B(中・高)	3②・④②		2				○										兼1
	教育実習B(特別支援)	3②・④②		3				○										兼1
	教育実習B(幼)	3②・④②		2				○										兼1
	教職実践演習(幼・小・中・高)	4③・④	2					○		1								オムニバス・共同
	学校インターンシップⅠ(小)	1①～④			2			○										兼1
小計(8科目)		—	2	19	2		—	2	0	1	0	0	0	0	0	兼2	—	
小学校の教科に関する専門的事項	国語科基礎A(書写を含む)(低・中学年の国語科と現代の教育課題)	1③	1					○										メディア・オムニバス
	社会科基礎A(中学年の社会科と現代の教育課題)	2①	1					○										メディア・オムニバス
	算数科基礎A(低・中学年)	2①		1				○										メディア
	理科基礎A(理論)	2①		1				○										メディア・オムニバス
	生活科基礎A(講義)	2③		1				○										メディア
	生活科基礎B(実践)	3①		1				○										
	音楽科基礎A(講義)	2④		1				○										
	音楽科基礎B(実践)	2②		1				○										
	図画工作科基礎A	2③		1				○										兼1
	図画工作科基礎B(実践)	2④		1				○										兼1
	家庭科基礎A(住居・食物と現代の教育課題)	1③	1					○		1	1							メディア・オムニバス
	体育科基礎B(実践)	2③		1				○										
小計(12科目)		—	3	9	0		—	5	8	4	0	0	0	0	0	兼1	—	
小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅰ	2①	1					○										
	初等国語科教育法Ⅱ	2②	1					○										
	初等社会科教育法Ⅰ	2③	1					○										兼1
	初等社会科教育法Ⅱ	2④	1					○										兼1
	初等算数科教育法Ⅰ	2③	1					○										
	初等算数科教育法Ⅱ	2④	1					○										
	初等理科教育法Ⅰ	2③	1					○										
	初等理科教育法Ⅱ	2④	1					○										
	初等生活科教育法Ⅰ	3①	1					○										
	初等生活科教育法Ⅱ	3②	1					○										
	初等音楽科教育法Ⅰ	2③	1					○										
	初等音楽科教育法Ⅱ	2④	1					○										
	初等図画工作科教育法Ⅰ	3①	1					○										兼1
	初等図画工作科教育法Ⅱ	3②	1					○										兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	小学校の教科指導法	初等家庭科教育法Ⅰ	2①	1			○			1							
		初等家庭科教育法Ⅱ	2②	1			○			1							
		初等体育科教育法Ⅰ	2①	1			○					1					
		初等体育科教育法Ⅱ	2②	1			○					1					
		初等英語科教育法Ⅰ	3①	1			○					1					
		初等英語科教育法Ⅱ	3②	1			○					1					
		小計(20科目)	—	20	0	0	—	—	—	2	1	4	0	0	兼2	—	
	先進的教育科目 (共通領域)	インクルーシブ教育基礎演習Ⅰ	1③	1			○				1					メディア	
		インクルーシブ教育基礎演習Ⅱ	1④	1			○				1					メディア	
		遠隔教育実践論	3③	1			○			1						メディア	
		遠隔教育実践演習	3④	1			○			1						メディア	
		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	2③	1			○			1						兼1 メディア・共同	
		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	2④	1			○			1						兼1 メディア・共同	
富山県の教育実践Ⅰ		2③	1			○			1						メディア		
富山県の教育実践Ⅱ	2④	1			○			1						メディア			
小計(8科目)	—	8	0	0	—	—	—	3	2	0	0	0	兼1	—			
専門教育科目	幼児教育	幼児と健康	2③		1			○			1	1				オムニバス メディア	
		幼児と人間関係(社会性のつまずきと支援の現代的課題)	2②		1			○		1						メディア	
		幼児と環境	2②		1			○		1	1					メディア・オムニバス	
		幼児と言葉	2①		1			○			1						
		幼児と表現	2③		1			○			1	2				兼1 オムニバス	
		保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)	2①		1			○			2						メディア・オムニバス
		健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	3①		1			○				1					メディア・集中
		保育内容(人間関係)	2③		1			○		1							
		人間関係の指導法	2④		1			○		1							集中
		言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	2③		1			○			1						メディア
		表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	3①		1			○			1	1					兼1 メディア・オムニバス
		幼児教育カリキュラム論Ⅰ	3③		1			○			1						
		幼児教育カリキュラム論Ⅱ	3④		1			○			1						
		幼児理解の理論と方法	2②		1			○			1						
		幼児理解と相談支援	2①		1			○			1						
		子育てネットワーク論Ⅰ	2②		1			○				1					
		子育てネットワーク論Ⅱ	2③		1			○				1					
		子育て支援	2④		1				○			1					
		保育の心理学	3①		1			○			1						集中
		子ども家庭支援の心理学Ⅰ	2①		1			○			1						
		子ども家庭支援の心理学Ⅱ	2②		1			○			1						
		子どもの健康と安全	2③		1				○		1						
		障害児保育	2④		1				○	○		1					
		地域子育て支援法Ⅰ	3①		1				○	○		1					
		地域子育て支援法Ⅱ	3②		1				○	○		1					
		児童福祉論Ⅰ	2①		1				○			1					
		児童福祉論Ⅱ	2②		1				○			1					
		社会福祉概論Ⅰ	2③		1				○			1					
		社会福祉概論Ⅱ	2④		1				○			1					
小計(29科目)	—	0	29	0	—	—	—	—	1	5	2	0	0	兼1	—		
特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②		1			○			1						メディア	
	障害児者支援論	2		1			○			1						集中	
	知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	2②		1			○			1							
	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	3①		1			○			1						メディア	
	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	3②		1			○			1						メディア	
	病弱児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	3③		1			○			1						メディア	
	病弱児の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	3④		1			○			1						メディア	
	知的障害教育課程・指導論Ⅰ	2③		1			○				1					メディア	
	知的障害教育課程・指導論Ⅱ	2④		1			○				1					メディア	
	病弱児の教育	3		2			○									兼1 メディア・集中	
	知的障害児の教育Ⅰ	3①		1			○				1						
	知的障害児の教育Ⅱ	3①		1			○				1						
	知的障害教育実地演習Ⅰ	3②		1				○			1						
	知的障害教育実地演習Ⅱ	3②		1				○			1						
特別支援教育実地演習	2		2				○			1	2				共同・集中		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	特別支援教育	発達障害児者支援論Ⅰ	3③		1		○				1					オムニバス 集中 共同 共同 共同 集中
		発達障害児者支援論Ⅱ	3④		1		○				1					
		障害児の教育診断臨床Ⅰ	3①		1		○			1	1					
		障害児の教育診断臨床Ⅱ	3		1		○					1				
		障害児支援学演習Ⅰ	3①			1		○		1	2					
		障害児支援学演習Ⅱ	3②			1		○		1	2					
		障害児支援学演習Ⅲ	3③			1		○		1	2					
		障害児支援学演習Ⅳ	3④			1		○		1	2					
		特別支援教育学演習	3			2		○		1	2					
	小計(24科目)	—	0	21	6		—		1	2	1	0	0	兼1	—	
	国語教育	日本語学概論Ⅰ	2①		1		○				1					兼1 兼1 兼1
		日本語学概論Ⅱ	2②		1		○				1					
		日本語学演習Ⅰ	3③		1			○			1					
		日本語学演習Ⅱ	3④		1			○			1					
		日本語学演習Ⅲ	4①		1			○			1					
		日本語学演習Ⅳ	4②		1			○			1					
		日本語表現Ⅰ(言語指導におけるデータと理論の融合)	2③		1		○				1					
		日本語表現Ⅱ(言語指導におけるデータと理論の融合)	2④		1		○				1					
		日本語史Ⅰ	2③		1		○				1					
		日本語史Ⅱ	2④		1		○				1					
		日本語学講読Ⅰ	3①		1		○				1					
		日本語学講読Ⅱ	3②		1		○				1					
		日本文学概論Ⅰ(教育と文学の関係を含む)	2①		1		○			1						
		日本文学概論Ⅱ(国語教科書と文学理論)	2②		1		○			1						
日本文学演習Ⅰ		3①		1			○		1							
日本文学演習Ⅱ		3②		1			○		1							
日本文学演習Ⅲ		3③		1			○		1							
日本文学演習Ⅳ		3④		1			○		1							
日本児童文学Ⅰ		2③		1		○			1							
日本児童文学Ⅱ		2④		1		○			1							
日本文学講読Ⅰ		3①		1		○			1							
日本文学講読Ⅱ		3②		1		○			1							
日本文学講読Ⅲ		4①		1		○			1							
日本文学講読Ⅳ		4②		1		○			1							
漢文学演習Ⅰ		3③		1			○									
書写書道基礎Ⅰ		3③		1			○									
書写書道基礎Ⅱ		3④		1			○									
国語科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)		2③		1		○					1					
国語科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)		2④		1		○					1					
国語科教育法Ⅴ		3①		1		○					1					
国語科教育法Ⅵ		3②		1		○					1					
国語科教育法Ⅶ		3③		1		○					1					
国語科教育法Ⅷ		3④		1		○					1					
「話すこと・聞くこと」指導実践演習		3①			1		○			1						
「書くこと」指導実践演習		3②			1		○			1						
「読むこと」指導実践演習		3③			1		○		1							
メディア・地域教材開発指導演習		3④			1		○		1							
国語科教育演習		4①			1		○				1					
小計(38科目)	—	0	33	5		—		1	1	1	0	0	兼2	—		
社会科教育	日本史学概論Ⅰ	2①		1		○				1					メディア メディア メディア メディア	
	日本史学概論Ⅱ	2②		1		○				1						
	日本史学各論(近世・近代)Ⅰ	2③		1		○				1						
	日本史学各論(近世・近代)Ⅱ	2④		1		○				1						
	日本史学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	日本史学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	日本史学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	日本史学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	西洋史学概論Ⅰ(現代的課題を踏まえて)	2③		1		○			1							
	西洋史学概論Ⅱ(現代的課題を踏まえて)	2④		1		○			1							
	西洋史学各論Ⅰ	3①		1		○			1							
	西洋史学各論Ⅱ	3②		1		○			1							
	西洋史学演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	西洋史学演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	西洋史学演習Ⅲ	3③		1			○		1							
	西洋史学演習Ⅳ	3④		1			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 専門科目	人文地理学概論Ⅰ	2①		1		○			1							
	人文地理学概論Ⅱ	2②		1		○			1							
	地誌学Ⅰ	2③		1		○			1							
	地誌学Ⅱ	2④		1		○			1							
	地理学各論Ⅰ	2③		1		○			1							
	地理学各論Ⅱ	2④		1		○			1							
	自然地理学Ⅰ	3①		1		○								兼1		
	自然地理学Ⅱ	3②		1		○								兼1		
	地理学演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	地理学演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	地理学演習Ⅲ	3③		1			○		1							
	地理学演習Ⅳ	3④		1			○		1							
	地理学巡検	3②		1				○	1					集中		
	法学概論Ⅰ	2③		1		○			1							
	法学概論Ⅱ	2④		1		○			1							
	法学各論Ⅰ	3①		1		○			1							
	法学演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	法学演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	2①		1		○				1					メディア	
	政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	2②		1		○				1					メディア	
	人間安全保障論Ⅰ	3③		1		○				1					メディア	
	人間安全保障論Ⅱ	3④		1		○				1					メディア	
	平和学Ⅰ	2①		1		○				1						
	平和学Ⅱ	2②		1		○				1						
	地球市民社会論Ⅰ	2③		1		○				1						
	地球市民社会論Ⅱ	2④		1		○				1						
	政治学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	政治学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	政治学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	政治学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	経済学概論	3①		1		○								兼1		
	社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	3①		1		○				1					メディア	
	社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	3②		1		○				1					メディア	
	地域社会論Ⅰ	4①		1		○				1						
	地域社会論Ⅱ	4②		1		○				1						
	社会学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	社会学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	社会学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	社会学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	社会科・地歴科教育法Ⅲ	3①		1		○								兼1		
	社会科・地歴科教育法Ⅳ	3②		1		○								兼1		
	社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	2③		1		○								兼1	メディア	
	社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	2④		1		○								兼1	メディア	
	社会科・公民科教育法Ⅲ	3③		1		○								兼1		
	社会科・公民科教育法Ⅳ	3④		1		○								兼1		
	小計（61科目）		—	0	61	0	—	—	—	3	3	0	0	0	兼4	—
	数学教育	線形代数概論Ⅰ（代数と現代の数学教育を含む）	2③		1		○			1						メディア
		線形代数概論Ⅱ（代数と現代の数学教育を含む）	2④		1		○			1						メディア
		代数学Ⅰ	3③		1		○			1						メディア
		代数学Ⅱ	3④		1		○			1						メディア
		数論Ⅰ	3①		1		○			1						メディア
		数論Ⅱ	3②		1		○			1						メディア
		解析学概論Ⅰ	2①		1		○				1					
		解析学概論Ⅱ	2②		1		○				1					
		解析学Ⅰ	2③		1		○				1					
		解析学Ⅱ	2④		1		○				1					
		解析学Ⅲ	3③		1		○				1					メディア
		解析学Ⅳ	3④		1		○				1					メディア
		微分方程式Ⅰ	4①		1		○				1					メディア
		微分方程式Ⅱ	4②		1		○				1					メディア
		確率論	3③		1		○			1						メディア
統計学		3④		1		○			1						メディア	
コンピュータ概論Ⅰ（授業への応用を含む）	3①		1		○				1					メディア		
コンピュータ概論Ⅱ（授業への応用を含む）	3②		1		○				1					メディア		
数学科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	2①		1		○			1						メディア		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	数学教育	数学科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	2②		1		○			1						メディア
		数学科教育法Ⅴ	3①		1		○			1						
		数学科教育法Ⅵ	3②		1		○			1						
		数学科教育法Ⅶ	4③		1		○			1						
		数学科教育法Ⅷ	4④		1		○			1						
		算数・数学科教材開発研究	4①		1		○			1						メディア
	小計（25科目）	—	0	25	0	—	—	—	2	1	0	0	0	—	—	
	理科教育	理科内容A（力学概論と現代理科教育）	2①		1		○				1					メディア
		理科内容A（熱力学）	2②		1		○				1					メディア
		理科内容演習AⅠ（物理学）	3③		1			○			1					
		理科内容演習AⅡ（物理学）	3④		1			○			1					
		理科実験AⅠ（物理学）	3①		0.5				○		1					
		理科実験AⅡ（物理学）	3②		0.5				○		1					
		理科内容B（物理化学概論と現代理科教育）	2③		1		○			1						メディア
		理科内容B（一般化学）	2④		1		○			1						メディア
		理科内容演習BⅠ（化学）	3③		1			○			1					
		理科内容演習BⅡ（化学）	3④		1			○			1					
		理科実験BⅠ（化学）	3①		0.5				○		1					
		理科実験BⅡ（化学）	3②		0.5				○		1					
		理科内容C（生物共通性概論と現代理科教育）	2①		1		○				1					メディア
理科内容C（ヒトの生物学）		2③		1		○				1					メディア	
理科内容演習CⅠ（生物学）		3③		1			○			1						
理科内容演習CⅡ（生物学）		3④		1			○			1						
理科実験CⅠ（生物学）		3①		0.5				○		1						
理科実験CⅡ（生物学）		3②		0.5				○		1						
理科内容D（地球環境科学概論と現代理科教育）		2②		1		○					1				メディア	
理科内容D（地球史学）		2④		1		○					1				メディア	
理科内容演習DⅠ（地学）		3③		1			○				1					
理科内容演習DⅡ（地学）		3④		1			○				1					
理科実験DⅠ（地学）		3①		0.5				○			1					
理科実験DⅡ（地学）		3②		0.5				○			1					
理科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	2③		1		○				1					メディア		
理科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	2④		1		○				1					メディア		
理科教育法Ⅴ	3①		1		○				1							
理科教育法Ⅵ	3②		1		○				1							
理科教育法Ⅶ	3③		1		○				1							
理科教育法Ⅷ	3④		1		○				1							
理科教育演習Ⅰ	4①		1			○			1							
理科教育演習Ⅱ	4②		1			○			1							
小計（32科目）	—	0	28	0	—	—	—	—	1	3	1	0	0	—		
音楽教育	アンサンブルⅥ（室内楽）	3		1				○			1				集中	
	アンサンブルⅦ（室内楽）	3		1				○			1				集中	
	音楽史Ⅰ（西洋音楽）	3①		1		○								兼1	集中	
	音楽史Ⅱ（西洋音楽）	3②		1		○								兼1	集中	
	音楽科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	2③		1		○					1				メディア	
	音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	2④		1		○					1				メディア	
小計（6科目）	—	0	6	0	—	—	—	—	0	0	1	0	0	兼1	—	
美術教育	絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	2④		1				○							兼1	集中
	彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）	2②		1				○							兼1	集中
	デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	2④		1				○		1						
	デザインⅠ	3①		1				○		1						
	デザインⅡ	3②		1				○		1						
	デザインⅢ	3③		1				○		1						
	デザインⅣ	3④		1				○		1						
	工芸基礎Ⅱ	2②		1				○							兼1	集中
	日本美術史（美術理論含む）	2		2		○									兼1	集中
	西洋美術史（美術理論含む）	2		2		○									兼1	集中
	美術実地研究	3②		1				○		1					兼1	集中
	美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	2③		1		○									兼1	メディア
	美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	2④		1		○									兼1	メディア
	美術科教育法Ⅴ	3①		1		○				1					兼1	
	美術科教育法Ⅵ	3②		1		○				1					兼1	
	美術科教育法Ⅶ	3③		1		○				1					兼1	
美術科教育法Ⅷ	3④		1		○				1					兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
美術教育	造形教育演習Ⅰ	4①			1		○								兼1	
	造形教育演習Ⅱ	4②			1		○								兼1	
	造形教育演習Ⅲ	4③			1		○								兼1	
	造形教育演習Ⅳ	4④			1		○								兼1	
	小計(21科目)	—	0	19	4		—		1	0	0	0	0	0	兼6	
保健体育	体操Ⅰ	2①		0.5			○			1						
	体操Ⅱ	2②		0.5			○			1						
	器械運動Ⅰ	2①		0.5			○			1						
	器械運動Ⅱ	2②		0.5			○			1						
	陸上Ⅰ	2①		0.5			○			1						
	陸上Ⅱ	2②		0.5			○			1						
	水泳Ⅰ	3①		0.5			○								兼1	
	水泳Ⅱ	3②		0.5			○								兼1	
	武道BⅠ(柔道)	2③		0.5			○								兼1	
	武道BⅡ(柔道)	2④		0.5			○								兼1	
	ダンスⅠ	3①		0.5			○				1					
	ダンスⅡ	3②		0.5			○				1					
	球技(ゴール型)BⅠ(バスケットボール)	3①		0.5			○								兼1	
	球技(ゴール型)BⅡ(バスケットボール)	3②		0.5			○								兼1	
	球技(ネット型)BⅠ(バレーボール)	3①		0.5			○			1						
	球技(ネット型)BⅡ(テニス)	3②		0.5			○			1						
	球技(ベースボール型)Ⅰ	3①		0.5			○								兼1	
	球技(ベースボール型)Ⅱ	3②		0.5			○								兼1	
	スポーツ文化論Ⅰ	3①		1			○								兼1	メディア
	スポーツ文化論Ⅱ	3②		1			○								兼1	メディア
	スポーツ心理学Ⅰ(最新教育課題を含む)	3①		1			○			1						メディア
	スポーツ心理学Ⅱ(最新教育課題を含む)	3②		1			○			1						メディア
	スポーツマネジメント論Ⅰ	3①		1			○			1						メディア
	スポーツマネジメント論Ⅱ	3②		1			○			1						メディア
	スポーツ社会学Ⅰ	2③		1			○			1						メディア
	スポーツ社会学Ⅱ	2④		1			○			1						メディア
	運動学概論(運動方法をを含む)Ⅰ	2③		1			○			1						メディア
	運動学概論(運動方法をを含む)Ⅱ	2④		1			○			1						メディア
	バイオメカニクスⅠ	2③		1			○									兼1
	バイオメカニクスⅡ	2④		1			○									兼1
	発育発達Ⅰ	2①		1			○					1				メディア
	発育発達Ⅱ	2②		1			○					1				メディア
	保健体育科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	2③		1			○			1						メディア
	保健体育科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)	2④		1			○			1						メディア
	保健体育科教育法Ⅶ	3③		1			○				1					メディア
	保健体育科教育法Ⅷ	3④		1			○				1					メディア
	コーチング論Ⅰ	3③			1		○				2					兼1
	コーチング論Ⅱ	3④			1		○				2	1				オムニバス オムニバス
	小計(38科目)	—	0	27	2		—		3	2	0	0	0	0	兼6	
家政教育	食物学概論Ⅰ(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む)	2①		1			○			1					メディア	
	食物学概論Ⅱ(栄養学、食品学を含む)	2②		1			○			1					メディア	
	食物学	3①		1			○			1					メディア	
	調理実習(地域の食文化比較を含む)	3②		1				○		1						
	食物学演習Ⅰ	3③		1				○		1					メディア	
	食物学演習Ⅱ	3④		1				○		1					メディア	
	住居学概論Ⅰ	2①		1			○		1						メディア	
	住居学概論Ⅱ	2②		1			○		1						メディア	
	住居学Ⅰ(現代の住環境問題を含む)	2③		1			○		1						メディア	
	住居学Ⅱ(製図及び富山石川の住宅比較を含む)	2④		1			○		1						メディア	
	住居学演習Ⅰ	3③		1				○		1					メディア	
	住居学演習Ⅱ	3④		1				○		1					メディア	
	家庭科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	2①		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅴ	3①		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅵ	3②		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅶ	3③		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅷ	3④		1			○		1						メディア	
	家庭科教育演習Ⅰ	4①		1				○		1						
	家庭科教育演習Ⅱ	4②		1				○		1						
	住居学演習Ⅲ	4①			1			○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 専門科目	家政教育	住居学演習Ⅳ	4②		1		○		1							
	食物学演習Ⅲ	4①		1		○			1							
	食物学演習Ⅳ	4②		1		○				1						
	家庭科教育演習Ⅲ	4①		1		○			1							
	家庭科教育演習Ⅳ	4②		1		○			1							
	小計(26科目)		—	0	20	6		—	2	1	0	0	0		—	
	英語教育	英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育)	2①		1		○					1				メディア
	英語学概論Ⅱ(文法と現在の英語教育)	2②		1		○						1				メディア
	英語学概論Ⅲ(応用)	3①		1		○						1				
	英語学概論Ⅳ(応用)	3②		1		○						1				
	英語音声学・文法Ⅰ	2③		1		○						1				
	英語音声学・文法Ⅱ	2④		1		○						1				
	英語学演習Ⅰ(個別理論)	3③		1			○					1				
	英語学演習Ⅱ(個別理論)	3④		1			○					1				
	英作文Ⅰ(基礎)	2①		1			○									兼1
	英会話Ⅰ(基礎)	2③		1			○									兼1
	英作文Ⅱ(応用)	2②		1			○									兼1
	英会話Ⅱ(応用)	2④		1			○									兼1
	英作文Ⅲ(応用)	3①		1			○									兼1
	英会話Ⅲ(応用)	3③		1			○									兼1
	英作文Ⅳ(応用)	3②		1			○									兼1
	英会話Ⅳ(応用)	3④		1			○									兼1
	異文化理解Ⅰ(英語教育の中の異文化理解)	2③		1			○				1					メディア
	異文化理解Ⅱ(英語教育の中の異文化理解)	2④		1			○				1					メディア
	異文化理解Ⅲ(応用)	3①		1			○				1					メディア
	異文化理解Ⅳ(応用)	3②		1			○				1					メディア
	異文化理解演習Ⅰ	3③		1				○			1					メディア
	異文化理解演習Ⅱ	3④		1				○			1					メディア
	英語科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	2①		1			○									兼1
	英語科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②		1			○									兼1
	英語科教育法Ⅴ	3①		1			○					1				
	英語科教育法Ⅵ	3②		1			○					1				
	英語科教育法Ⅶ	3③		1			○					1				
	英語科教育法Ⅷ	3④		1			○					1				
	英語学特別演習Ⅲ	3①			1			○				1				
	英語学特別演習Ⅳ	3②			1			○				1				
異文化理解特別演習Ⅰ	3③			1			○				1				兼1	
異文化理解特別演習Ⅱ	3④			1			○				1				兼1	
英語教育学特別演習Ⅲ	4③			1			○								兼1	
英語教育学特別演習Ⅳ	4④			1			○								兼1	
英語科教育実践研究Ⅲ	3③			1			○				1					
英語科教育実践研究Ⅳ	3④			1			○				1					
小計(36科目)		—	0	28	8		—	0	1	2	0	0	兼4	—		
教育学・心理学に関する科目	教育心理学データ解析法A	2①		1		○					1					
教育心理学データ解析法B	2②		1		○						1					
教育心理学研究法	2③		1				○				1					
教育心理学実験法	2④		1				○				1					
教育臨床心理学A	2②		1			○				1						
教育臨床心理学B	2③		1			○				1						
教授・学習心理学演習	3③		1				○				1					
臨床心理実習	3通		2					○			1	1				
教育心理学ゼミナール	3通		2				○				1	2				
教育法規A	2・3・4		1			○									兼1	
教育法規B	2・3・4		1			○									兼1	
教育臨床学A	2・3・4		1			○					1					
教育臨床学B	2・3・4		1			○					1					
教育倫理学A	2・3・4		1			○					1					
教育倫理学B	2・3・4		1			○					1					
教育学ゼミナール	3通		2				○				2				兼1	
小計(16科目)		—	0	0	19		—	0	1	4	0	0	兼1	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 専門科目 保育士に関する科目	保育原理Ⅰ	1③			1	○				1						
	保育原理Ⅱ	1④			1	○				1						
	乳児保育Ⅰ	2③			1	○				1						
	乳児保育Ⅱ	2④			1	○				1						
	乳児保育Ⅲ	3①			1		○			1						
	社会的養護Ⅰ	3①			1	○				1						
	社会的養護Ⅱ	3②			1	○				1						
	保育者論	1④			1	○				1						
	子どもの保健Ⅰ	3③			1	○				2						オムニバス
	子どもの保健Ⅱ	3④			1	○				2						オムニバス
	子どもの食と栄養Ⅰ	3③			1	○				1						
	子どもの食と栄養Ⅱ	3④			1	○				1						
	社会的養護Ⅲ	3③			1		○			1						
	保育実習Ⅰ	2④・3④			4			○		1	2					兼1
	保育実習指導Ⅰ	2・3			2			○		1	2					兼1
	臨床発達心理学Ⅰ	4①			1		○			1						
	臨床発達心理学Ⅱ	4②			1		○			1						
	発達福祉統計学Ⅰ	3③			1		○			1						
	発達福祉統計学Ⅱ	3④			1		○			1						
	地域子育て支援論演習Ⅰ	4③			1			○		1						
	地域子育て支援論演習Ⅱ	4④			1			○		1						
保育実習Ⅱ	3④			2				○	1	2					兼1	
保育実習Ⅲ	3④			2				○	1	2					兼1	
保育実習指導Ⅱ	3			1				○	1	2					兼1	
保育実習指導Ⅲ	3			1				○	1	2					兼1	
小計(25科目)		—	0	0	31				3	4	0	0	0	0	兼1	—
合計(563科目)		—	51	516	96				13	18	11	0	0	0	兼99	—
学位又は称号	学士(教育学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係											
卒業要件及び履修方法					授業期間等											
					1学年の学期区分		4期									
					1学期の授業期間		8週									
					1時限の授業時間		90分									
※ 富山大学の教養教育科目はSemester制で授業を実施する。																
1. 教養教育科目又は共通教育科目																
富山大学：教養教育科目 22単位以上																
(1) 人文科学系 10単位以上																
(2) 社会科学系 (ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系から2単位以上を含むこと。)																
(3) 自然科学系 2単位以上を含むこと。)																
(4) 総合科目系 2単位以上																
(5) 外国語系 6単位以上																
(6) 保健体育系 2単位																
(7) 情報処理系 2単位																
金沢大学：共通教育科目 28単位以上																
(1) 導入科目 3単位																
(2) GS科目 15単位以上																
(3) GS言語科目 8単位																
(4) 自由履修科目 2単位以上																
2. 専門教育科目																
〔専門科目区分：幼児教育，国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，音楽教育，美術教育，保健体育，家政教育，英語教育〕																
富山大学：114単位以上																
(1) 共通科目 9単位以上																
(2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位																
(3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上																
(4) 教育実践に関する科目 9単位以上																
(5) 小学校教科 12単位以上																
(6) 小学校教科指導法 20単位																
(7) 先進的教育科目(共通領域) 16単位																
(8) 専門科目 24単位以上																

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域G S 科目 4単位</p> <p>(2) 学域G S 言語科目 2単位</p> <p>(3) 共通科目 5単位</p> <p>(4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位</p> <p>(5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上</p> <p>(6) 教育実践に関する科目 9単位以上</p> <p>(7) 小学校教科 12単位以上</p> <p>(8) 小学校教科指導法 20単位</p> <p>(9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位</p> <p>(10) 専門科目 24単位以上</p> <p>[専門科目区分：特別支援教育]</p> <p>富山大学：114単位以上</p> <p>(1) 共通科目 9単位以上</p> <p>(2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位</p> <p>(3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上</p> <p>(4) 教育実践に関する科目 10単位以上</p> <p>(5) 小学校教科 12単位以上</p> <p>(6) 小学校教科指導法 20単位</p> <p>(7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位</p> <p>(8) 専門科目 23単位以上</p> <p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域G S 科目 4単位</p> <p>(2) 学域G S 言語科目 2単位</p> <p>(3) 共通科目 5単位</p> <p>(4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位</p> <p>(5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上</p> <p>(6) 教育実践に関する科目 10単位以上</p> <p>(7) 小学校教科 12単位以上</p> <p>(8) 小学校教科指導法 20単位</p> <p>(9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位</p> <p>(10) 専門科目 23単位以上</p>														
<p>3. 相手大学の開講科目の単位取得</p> <p>富山大学：上記1及び2のうち、金沢大学が開講する科目31単位以上</p> <p>金沢大学：上記1及び2のうち、富山大学が開講する科目31単位以上</p>														

教育課程等の概要

(金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目	大学・社会生活論	1①		1		○			1						
	データサイエンス基礎	1①		1		○			1						
	地域概論	1①		1		○									
	小計 (3科目)	—	0	3	0	—	—	—	1	1	0	0	0	—	—
GS科目 共通教育科目	1群 (自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史的アプローチ	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○								兼1
	2群 (自己を鍛える)	哲学 (自我論)	1①・②・③・④		1		○								兼1
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		健康科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○								兼2 共同
	3群 (価値観を表現する)	エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④		1				○						兼2
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○								兼1
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○				1				兼1
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○								兼1
	4群 (世界とつながる)	スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
金沢・能登と世界の地域文化		1②・③・④		1		○								兼1	
日本史・日本文化		1②・③・④		1		○								兼3	
異文化間コミュニケーション		1①・②・③・④		1		○								兼1	
異文化体験A		1②・④		1				○						兼1 集中	
異文化体験B		1②・④		2				○						兼1 集中	
異文化体験C		1②・④		3				○						兼1 集中	
異文化体験D		1②・④		4				○						兼1 集中	
異文化体験E		1②・④		5				○						兼1 集中	
異文化体験F		1②・④		6				○						兼1 集中	
5群 (未来の課題に取り組む)	異文化体験G	1②・④		7				○						兼1 集中	
	異文化体験H	1②・④		8				○						兼1 集中	
	グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○								兼1	
6群 (新しい社会を生きる)	統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	環境学とESD	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	生活と社会保障	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	現代社会と人権	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	インテグレートド科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
GS言語科目 (英語)	AI入門	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	情報の科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○								兼2	
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	小計 (38科目)	—	0	66	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼33	—
	GS言語科目 (英語)	TOEIC準備 I	1①		1		○								兼1
		TOEIC準備 II	1②		1		○								兼1
TOEIC準備 III		1③		1		○								兼1	
TOEIC準備 IV		1④		1		○								兼1	
TOEIC準備 (演習)		2①・②・③・④		1		○								兼1	
English for Academic Purposes I		1①		1		○								兼1	
English for Academic Purposes II		1②		1		○								兼1	
English for Academic Purposes III		1③		1		○								兼1	
English for Academic Purposes IV		1④		1		○								兼1	
English for Academic Purposes (Retake)		2①・②・③・④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
GS言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①		1		○									兼1	
	アカデミック基礎日本語B	1②		1		○									兼1	
	講義の聴解A	1①・③		1		○									兼1	
	講義の聴解B	1②・④		1		○									兼1	
	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1	
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1	
	上級読解I A	1①		1		○									兼1	
	上級読解I B	1②		1		○									兼1	
	上級読解II A	1③		1		○									兼1	
	上級読解II B	1④		1		○									兼1	
日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1		
GS言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1	
	小計(26科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語A1-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語A2-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語A2-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語A3-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語A3-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語A4-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語A4-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語B-1	2①		1			○								兼1	
	ドイツ語B-2	2②		1			○								兼1	
	ドイツ語C-1	2①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語C-2	2②・④		1			○								兼1	
	フランス語A1-1	1①		1			○								兼1	
	フランス語A1-2	1②		1			○								兼1	
	フランス語A2-1	1①		1			○								兼1	
	フランス語A2-2	1②		1			○								兼1	
	フランス語A3-1	1③		1			○								兼1	
	フランス語A3-2	1④		1			○								兼1	
	フランス語A4-1	1③		1			○								兼1	
	フランス語A4-2	1④		1			○								兼1	
	フランス語B-1	2①・③		1			○								兼1	
	フランス語B-2	2②・④		1			○								兼1	
	フランス語C-1	2③		1			○								兼1	
	フランス語C-2	2④		1			○								兼1	
	ロシア語A1-1	1①		1			○								兼1	
	ロシア語A1-2	1②		1			○								兼1	
	ロシア語A2-1	1①		1			○								兼1	
	ロシア語A2-2	1②		1			○								兼1	
	ロシア語A3-1	1③		1			○								兼1	
	ロシア語A3-2	1④		1			○								兼1	
	ロシア語A4-1	1③		1			○								兼1	
	ロシア語A4-2	1④		1			○								兼1	
ロシア語B-1	2①・③		1			○								兼1		
ロシア語B-2	2②・④		1			○								兼1		
ロシア語C-1	2①・③		1			○								兼1		
ロシア語C-2	2②・④		1			○								兼1		
中国語A1-1	1①		1			○								兼1		
中国語A1-2	1②		1			○								兼1		
中国語A2-1	1①		1			○								兼1		
中国語A2-2	1②		1			○								兼1		
中国語A3-1	1③		1			○								兼1		
中国語A3-2	1④		1			○								兼1		
中国語A4-1	1③		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目 初習言語科目	中国語A4-2	1④		1				○							兼1	
	中国語B-1	2①・③		1				○							兼1	
	中国語B-2	2②・④		1				○							兼1	
	中国語C-1	2③		1				○							兼1	
	中国語C-2	2④		1				○							兼1	
	朝鮮語A1-1	1①		1				○							兼1	
	朝鮮語A1-2	1②		1				○							兼1	
	朝鮮語A2-1	1①		1				○							兼1	
	朝鮮語A2-2	1②		1				○							兼1	
	朝鮮語A3-1	1③		1				○							兼1	
	朝鮮語A3-2	1④		1				○							兼1	
	朝鮮語A4-1	1③		1				○							兼1	
	朝鮮語A4-2	1④		1				○							兼1	
	朝鮮語B-1	2①・③		1				○							兼1	
	朝鮮語B-2	2②・④		1				○							兼1	
	朝鮮語C-1	2①・③		1				○							兼1	
	朝鮮語C-2	2②・④		1				○							兼1	
	ギリシア語A1-1	1①		1				○							兼1	
	ギリシア語A1-2	1②		1				○							兼1	
	ギリシア語A2-1	1③		1				○							兼1	
	ギリシア語A2-2	1④		1				○							兼1	
	ギリシア語A3-1	2①		1				○							兼1	
	ギリシア語A3-2	2②		1				○							兼1	
	ギリシア語A4-1	2③		1				○							兼1	
	ギリシア語A4-2	2④		1				○							兼1	
	ギリシア語B-1	3①		1				○							兼1	
	ギリシア語B-2	3②		1				○							兼1	
	ギリシア語C-1	3③		1				○							兼1	
	ギリシア語C-2	3④		1				○							兼1	
	ラテン語A1-1	1①		1				○							兼1	
	ラテン語A1-2	1②		1				○							兼1	
	ラテン語A2-1	1③		1				○							兼1	
	ラテン語A2-2	1④		1				○							兼1	
	ラテン語A3-1	2①		1				○							兼1	
	ラテン語A3-2	2②		1				○							兼1	
	ラテン語A4-1	2③		1				○							兼1	
	ラテン語A4-2	2④		1				○							兼1	
	ラテン語B-1	3①		1				○							兼1	
	ラテン語B-2	3②		1				○							兼1	
	ラテン語C-1	3③		1				○							兼1	
	ラテン語C-2	3④		1				○							兼1	
	スペイン語A1-1	1①		1				○							兼1	
	スペイン語A1-2	1②		1				○							兼1	
	スペイン語A2-1	1①		1				○							兼1	
	スペイン語A2-2	1②		1				○							兼1	
	スペイン語A3-1	1③		1				○							兼1	
スペイン語A3-2	1④		1				○							兼1		
スペイン語A4-1	1③		1				○							兼1		
スペイン語A4-2	1④		1				○							兼1		
スペイン語B-1	2①		1				○							兼1		
スペイン語B-2	2②		1				○							兼1		
スペイン語C-1	2③		1				○							兼1		
スペイン語C-2	2④		1				○							兼1		
小計(96科目)		—	0	96	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	アントレプレナーシップ I	1③		1		○									兼1
	石川県の行政	1③～④		2		○									兼1
	石川県の市町	1①～②		2		○									兼1
	健康論実践D	1④		1				○							兼1
	健康論実践E	1④		1				○							兼1
	現代社会における保険の制度と役割 I	1③		1		○									兼1
	現代社会における保険の制度と役割 II	1④		1		○									兼1
	実践アントレプレナー学	1③		1		○									兼1 集中
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④		2		○									兼1
	シェルスクリプト言語論	1③～④		2		○									兼1
	地元学A (地域資源調査)	1①		1		○									兼1
	地元学B (聞き書き)	1②		1		○									兼1
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①		1			○								兼1 集中
	イノベーションを起こして、起業家になろう 1	1①		1		○									兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 2	1②		1		○									兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 3	1③		1		○									兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 4	1④		1		○									兼1
	香りと日本文化	1③		1		○									兼1
	心と体の健康A	1③		1		○									兼1
	心と体の健康B	1④		1		○									兼1
	地域「超」体験プログラム	1⑩・②・④		1				○							兼1 集中
	道德教育および宗教教育をグローバルに考える	1④		1		○									兼1
	金沢の歴史と文化	1③～④		2		○									兼1
	日本の伝統芸能	1②		1		○									兼1
	地域創造学特別講義C	1③		1		○									兼1
	地域創造学特別講義D	1④		1		○									兼1
	日本国憲法概説	1③		2		○									兼1
	日本史要説	2①～②		2		○									兼1
	東洋史要説	2③～④		2		○									兼1
	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③		1		○									兼1
	行政学の基礎	1①		2		○									兼1
	ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①		1			○								兼1
	ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③		1			○								兼1
	コーヒーと社会	1③		1		○									兼1
	コーヒーと科学	1④		1		○									兼1
	地学実験	1②～③		2				○							兼1
	生物学実験	1①～②		2				○							兼1
	海洋生化学演習	1①		2			○								兼1 集中
	英国諸島の地史 I	1②		1		○									兼1
	英国諸島の地史 II	1③		1		○									兼1
	環境動態学概説 I	1③		1		○									兼1
環境動態学概説 II	1④		1		○									兼1	
Pythonデータ分析入門	1②		1		○									兼1	
プレゼンテーション演習A	1③		1		○									兼1	
プレゼンテーション演習B	1④		1		○									兼1	
コンピュータグラフィクス演習 I	1③		1				○							兼1	
コンピュータグラフィクス演習 II	1④		1				○							兼1	
動画配信サービスを用いた情報発信演習 A	1①		1		○									兼1	
動画配信サービスを用いた情報発信演習 B	1②		1		○									兼1	
プログラミング演習 I	1③		1				○							兼1	
プログラミング演習 II	1④		1				○							兼1	
Society 5.0 概論	1③～④		2		○									兼1	
英語セミナー	1⑩・②・③・④		1		○									兼1	
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 1	1③		1			○								兼1	
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 2	1④		1			○								兼1	
ドイツ語A (充実クラス I-1)	1③		1			○								兼1	
ドイツ語A (充実クラス I-2)	1④		1			○								兼1	
ドイツ語A (充実クラス II-1)	1③		1			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	自由履修科目	ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1		
	フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1			○								兼1			
	フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1			○								兼1			
	フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1			
	フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1			
	中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1			
	中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1			
小計(65科目)		-	0	78	0	-		0	0	0	0	0	0	兼32	-		
専門教育科目	初学科目	アカデミックスキル	1①	1			○		6	3					オムニバス		
		プレゼン・ディベート論	1③	1			○			1							
		小計(2科目)		-	0	2	0	-	6	3	0	0	0		-		
	学域GS科目	学域俯瞰科目	大学・学問論	1④	1		○									兼1	
			ジェンダーと教育	1③・④	1		○			1	2					共同	
			異文化理解1	1③	1		○									兼1	
			異文化理解2	1④	1		○									兼1	
			文学概論1	1③	1		○									兼1	
			文学概論2	1④	1		○									兼1	
			世界遺産学	1④	1		○									兼1	
			ルールリテラシー	1③	1		○									兼1	
			人文社会科学における法	1④	1		○									兼1	
			イメージの比較文化学	1③	1		○									兼1	
			防災学入門	1	2		○									兼2	集中・共同
			現代日本の文化と社会	2①	1		○										兼1
			地域創造学1	2①	1		○										兼1
			地域創造学2	2②	1		○										兼1
	小計(14科目)		-	0	15	0	-	1	2	0	0	0		兼11	-		
	学域GS科目	データサイエンス応用系科目	データサイエンスの技術	1③	1		○									兼1	
			国際経済の理論とデータ	2①	1		○									兼1	
国際貿易の理論とデータ			2①	1		○									兼1		
情報処理			2④	1		○									兼1		
計量政治分析実習			3③	2				○							兼1		
ビジネス・データ分析(ビジネス・データ・サイエンス)			1①	1		○									兼1		
統計データ分析の基本(多変量解析)			1②	1		○									兼1		
データで考える日本の未来(データサイエンス)			1③	1		○									兼1		
統計ソフトRによるビッグデータ分析			1③	1		○									兼1		
金融リテラシー			1④	1		○									兼1		
白書の講読と議論			1④	1		○									兼1		
地域課題解決と政策立案のための統計データ分析:EBPM(根拠に基づく政策立案)			1④	1		○									兼1		
統計学技能I			1~4	2				○			1				集中		
統計学技能II	1~4	3				○			1				集中				
小計(14科目)		-	0	18	0	-	0	1	0	0	0		兼5	-			
言語学	学域GS科目	学域GS言語科目I	2①	1			○		2	2							
		学域GS言語科目II	2②	1			○		2	2							
		小計(2科目)		-	0	2	0	-	2	2	0	0	0		-		
専門基礎科目	共通科目	野外体験活動I	1②	1						1							
		野外体験活動II	1③		1					1							
		卒業研究	4通	4						26	22	1					
	小計(3科目)		-	5	0	1	-	26	22	1	0	0		-			
	教育に関する基礎的理解に	教育の思想と歴史(日本)	1④	1			○			1					メディア		
		教職と学校	1④	1			○			1	6				メディア・オムニバス		
		教育制度概論(就学保障と学校安全)	2①・②	1			○				1						
発達と教育(自己創出としての発達)		2①	1			○				1				メディア			
特別支援教育概論	1④	1			○			1					メディア				
現在をつくる教育課程	2③・④	1			○				1								
小計(6科目)		-	6	0	0	-	2	7	0	0	0		-				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 道徳教育論（指導法） 総合的な学習の時間教育論Ⅰ 総合的な学習の時間教育論Ⅱ 特別活動における評価と指導の実際 教育方法探究 学校カウンセリング 子どもの生活とキャリア教育	3②	1			○										メディア		
		3①	1			○			1									
		3②	1			○			1									
		2①・②	1			○				1							メディア	
		3②	1			○				1							メディア	
		2②	1			○				1							メディア	
		2④	1			○				1							メディア	
		小計（7科目）	—	7	0	0	—	—	—	1	4	0	0	0	—	—	—	—
	教育実践に関する科目	教育実習A（幼・小）（事前事後指導を含む）	3②・4②		5				○									
		教育実習A（中・高）（事前事後指導を含む）	3②・4②		5				○									
		教育実習B（小）	3②・4②		2				○									
		教育実習B（中・高）	3②・4②		2				○									
		教育実習B（特別支援）	3②・4②		3				○									
		教育実習B（幼）	3②・4②		2				○									
		教職実践演習（幼・小・中・高）	4③・④	2				○		1	1						オムニバス・共同	
		学校インターンシップⅡ（幼・小）	2①～④			2			○		1	1						
	学校インターンシップⅡ（中・高）	2①～④			2			○		1	1							
	小計（9科目）	—	2	19	4	—	—	—	1	2	0	0	0	—	—	—	—	
	小学校の教科に関する専門的事項	国語科基礎B（書写を含む）（地域の文学を含む）	1④	1			○			1	3						メディア・オムニバス	
		社会科基礎B（高学年の社会科と現代の教育課題）	2②	1			○			2	2						メディア・オムニバス	
算数科基礎B（高学年）		2②		1		○				1						メディア		
理科基礎B（実践）		2②		1		○			3		1					メディア・オムニバス		
生活科基礎B（実践）		3①		1			○		1									
音楽科基礎B（実践）		2②		1			○		2	1						共同		
図画工作科基礎B（実践）		2④		1			○		2	1				兼1		オムニバス・共同		
家庭科基礎B（被服・家庭経営と現代の教育課題）		1④	1			○				2						メディア・オムニバス		
家庭科基礎C（実習）		2①		1				○		1								
体育科基礎A		1③		1		○			1	1						メディア・オムニバス		
体育科基礎B（実践）		2③		1			○		1	1						オムニバス		
英語科基礎A（理論）		2③		1		○			2	1						メディア・オムニバス		
英語科基礎B（実践）		2④		1		○			3							メディア・オムニバス		
小計（13科目）	—	3	10	0	—	—	—	17	15	1	0	0	兼1	—	—	—		
小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅰ	2①	1			○			1									
	初等国語科教育法Ⅱ	2②	1			○			1									
	初等社会科教育法Ⅰ	2③	1			○			1									
	初等社会科教育法Ⅱ	2④	1			○			1									
	初等算数科教育法Ⅰ	2③	1			○				1								
	初等算数科教育法Ⅱ	2④	1			○			1	1							オムニバス	
	初等理科教育法Ⅰ	2③	1			○			1									
	初等理科教育法Ⅱ	2④	1			○			1									
	初等生活科教育法Ⅰ	3①	1			○			1									
	初等生活科教育法Ⅱ	3②	1			○			1									
	初等音楽科教育法Ⅰ	2③	1			○								兼1				
	初等音楽科教育法Ⅱ	2④	1			○								兼1				
	初等図画工作科教育法Ⅰ	3①	1			○			1					兼1		オムニバス		
	初等図画工作科教育法Ⅱ	3②	1			○				1				兼1		オムニバス		
	初等家庭科教育法Ⅰ	2①	1			○			1									
	初等家庭科教育法Ⅱ	2②	1			○			1									
	初等体育科教育法Ⅰ	2①	1			○			1	1							オムニバス	
初等体育科教育法Ⅱ	2②	1			○			1	1							オムニバス		
初等英語科教育法Ⅰ	3①	1			○			1										
初等英語科教育法Ⅱ	3②	1			○			1										
小計（20科目）	—	20	0	0	—	—	—	9	3	0	0	0	兼2	—	—	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目 (共通領域)	中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ	3③	1			○				1					メディア
	中学校・高等学校の特別支援教育Ⅱ	3④	1			○				1					メディア
	石川県の教育実践Ⅰ	2③	1			○			5						メディア・オムニバス
	石川県の教育実践Ⅱ	2④	1			○			3	2					メディア・オムニバス
	国際化と学校教育Ⅰ	2③	1			○			1						メディア
	国際化と学校教育Ⅱ	2④	1			○			1						メディア
	SDGs教育実践演習Ⅰ	3①	1			○									メディア
	SDGs教育実践演習Ⅱ	3②	1			○									メディア
	小計(8科目)	—	8	0	0	—	—	—	10	4	0	0	0	0	兼2
専門教育科目	幼児と健康	2③		1				○							
	幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題)	2①		1				○							メディア
	幼児と言葉	2①		1				○		1					
	保育内容(健康)(健康に関する現代的課題を含む)	2④		1				○		1					メディア
	保育内容(人間関係)	2③		1				○		1					
	人間関係の指導法	2④		1				○		1					集中
	保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)	2③		1				○							兼1
	環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	2④		1				○		1					メディア
	保育内容(言葉)(言葉に関する現代的課題を含む)	2②		1				○		1					メディア
	保育内容(表現)(表現に関する現代的課題を含む)	2④		1				○		1	1				メディア
	幼児理解の理論と方法	2②		1			○			1					メディア・オムニバス
	幼児理解と相談支援	2①		1			○			1					
	発達心理学Ⅰ	3③		1			○				1				
	発達心理学Ⅱ	3④		1			○				1				
	乳幼児心理学特講Ⅰ	3①		1			○				1				
	乳幼児心理学特講Ⅱ	3②		1			○				1				
	乳幼児心理学演習Ⅰ	3③		1				○			1				
	乳幼児心理学演習Ⅱ	3④		1				○			1				
	小計(18科目)	—	0	18	0	—	—	—	3	3	0	0	0	0	兼1
専門教育科目 特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①		1				○							メディア
	病気・障害・不応の発達支援論Ⅰ	4①		1				○							
	病気・障害・不応の発達支援論Ⅱ	4②		1				○							
	知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ	2①		1				○							メディア
	知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	2②		1				○							
	聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	2③		1				○			1				メディア
	聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	2④		1				○			1				メディア
	知的障害教育課程・指導論Ⅱ	2④		1				○			1				
	肢体不自由教育論Ⅰ(教育の現代的課題を含む)	3③		1				○			1				メディア
	肢体不自由教育論Ⅱ(教育の現代的課題を含む)	3④		1				○			1				メディア
	聴覚障害教育課程論Ⅰ	3①		1				○			1				メディア
	聴覚障害教育課程論Ⅱ	3②		1				○			1				メディア
	聴覚障害指導法Ⅰ	3③		1				○			1				メディア
	聴覚障害指導法Ⅱ	3④		1				○			1				メディア
	手話序論Ⅰ	2①		1				○			1				
	手話序論Ⅱ	2②		1				○			1				
	発声発語支援法Ⅰ	3①		1				○			1				メディア
	発声発語支援法Ⅱ	3②		1				○			1				メディア
	障害児教育基礎論Ⅰ	2①		1				○			3	2			オムニバス
	障害児教育基礎論Ⅱ	2②		1				○			3	2			オムニバス
	ことばの障害とコミュニケーションⅠ	2③		1				○			1				
	ことばの障害とコミュニケーションⅡ	2④		1				○			1				
	発達障害指導法Ⅰ	3③		1				○				1			
	発達障害指導法Ⅱ	3④		1				○				1			
言語障害指導法	4②		1				○			1					
発達障害総論	4①		1				○				1				
重複障害児教育Ⅰ	3①		1				○			1				メディア	
重複障害児教育Ⅱ	3②		1				○			1					
障害児教育基礎演習Ⅰ	2③		1					○		3	2			共同	
障害児教育基礎演習Ⅱ	2④		1					○		3	2			共同	
特別支援教育学演習	3			2				○		3	2			集中・共同	
小計(31科目)	—	0	30	2	—	—	—	3	2	0	0	0	0	—	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	日本語学演習Ⅰ	3③		1			○									兼1
	日本語学演習Ⅱ	3④		1			○									兼1
	日本語史Ⅰ	2③		1		○										兼1
	日本語史Ⅱ	2④		1		○										兼1
	日本語学講読Ⅲ	3①		1		○										兼1
	日本語学講読Ⅳ	3②		1		○										兼1
	日本文学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	日本文学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	日本文学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	日本文学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	日本近現代文学Ⅰ	2①		1		○				1						メディア
	日本近現代文学Ⅱ	2②		1		○				1						メディア
	日本古典文学Ⅰ	2③		1		○				1						メディア
	日本古典文学Ⅱ	2④		1		○				1						メディア
	日本文学史Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	2①		1		○				1						メディア
	日本文学史Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	2②		1		○				1						メディア
	日本文学講読Ⅰ	3①		1		○				1						
	日本文学講読Ⅱ	3②		1		○				1						
	日本文学講読Ⅲ	4①		1		○				1						
	日本文学講読Ⅳ	4②		1		○				1						
	漢文学概論Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	2③		1		○				1						メディア
	漢文学概論Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	2④		1		○				1						メディア
	漢文学演習Ⅰ	3③		1			○			1						
	漢文学演習Ⅱ	3④		1			○			1						
	漢文学講読Ⅰ	4①		1		○				1						
	漢文学講読Ⅱ	4②		1		○				1						
	書写書道基礎Ⅰ	3③		1			○			1						
	書写書道基礎Ⅱ	3④		1			○			1						
	国語科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	2①		1		○				1						メディア
	国語科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	2②		1		○				1						メディア
	国語科教育法Ⅴ	3①		1		○				1						
	国語科教育法Ⅵ	3②		1		○				1						
	国語科教育法Ⅶ	3③		1		○				1						
	国語科教育法Ⅷ	3④		1		○				1						
	国語科教育演習Ⅰ	3③		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅱ	3④		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅲ	4①		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅳ	4②		1			○			1						
	国語科実践研究Ⅰ	3①			1		○			1	3					オムニバス
	国語科実践研究Ⅱ	3②			1		○			1	3					オムニバス
	国語科実践研究Ⅲ	4①			1		○			1	3					オムニバス
	国語科実践研究Ⅳ	4②			1		○			1	3					オムニバス
小計（42科目）		—	0	38	4				1	3	0	0	0	兼3	—	
社会科教育	日本史学概論Ⅰ	2①		1		○			1							
	日本史学概論Ⅱ	2②		1		○			1							
	日本史学各論（古代・中世）Ⅰ	2③		1		○			1						メディア	
	日本史学各論（古代・中世）Ⅱ	2④		1		○			1						メディア	
	日本史学演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	日本史学演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	日本史学演習Ⅲ	3③		1			○		1							
	日本史学演習Ⅳ	3④		1			○		1							
	歴史学野外実習	2通		1				○		1						
	東洋史学概論Ⅰ	3③		1		○									兼2	
	東洋史学概論Ⅱ	3④		1		○									兼2	
	人文地理学概論Ⅰ	2①		1		○				1						
	人文地理学概論Ⅱ	2②		1		○				1						
	地誌学Ⅰ	2③		1		○				1						
	地誌学Ⅱ	2④		1		○				1						
	地理学各論Ⅰ	2③		1		○				1						
	地理学各論Ⅱ	2④		1		○				1						
自然地理学Ⅰ	3①		1		○									兼1		
自然地理学Ⅱ	3②		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	地理学演習Ⅰ	3①		1			○			1					集中	
	地理学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	地理学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	地理学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	地理学野外実習	2①・②		1				○		1						
	法学概論Ⅰ	2③		1		○				1						
	法学概論Ⅱ	2④		1		○				1						
	法学各論Ⅰ	3①		1		○				1						
	法学各論Ⅱ	3②		1		○				1						
	法学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	法学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	経済学概論	3①		1		○								兼1		
	哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	2①		1		○				1						メディア
	哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	2②		1		○				1						メディア
	倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	3③		1		○				1						メディア
	倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	3④		1		○				1						メディア
	宗教学Ⅰ	3①		1		○				1						メディア
	宗教学Ⅱ	3②		1		○				1					メディア	
	哲学史Ⅰ	3①		1		○				1						
	哲学史Ⅱ	3②		1		○				1						
	哲学演習Ⅰ	3③		1			○			1						
	哲学演習Ⅱ	3④		1			○			1						
	青年心理学	3③		1		○					1					
	社会科・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	2①		1		○				1					メディア	
	社会科・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	2②		1		○				1					メディア	
	社会科・地歴科教育法Ⅲ	3①		1		○				1						
	社会科・地歴科教育法Ⅳ	3②		1		○				1						
	社会科・公民科教育法Ⅲ	3③		1		○				1						
	社会科・公民科教育法Ⅳ	3④		1		○				1						
	小計（48科目）		—	0	48	0	—	—	—	4	2	0	0	0	兼4	—
	数学教育	幾何学概論Ⅰ（幾何学と現代の数学教育を含む）	2①		1		○			1						メディア
		幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	2②		1		○			1						メディア
		線形空間論Ⅰ	3①		1		○			1						メディア
		線形空間論Ⅱ	3②		1		○			1						メディア
		曲線論	3③		1		○			1						メディア
		曲面論	3④		1		○			1						メディア
		位相空間論	4③		1		○			1						メディア
		可微分多様体論	4④		1		○			1						メディア
		解析学概論Ⅰ	2①		1		○			1						
		解析学概論Ⅱ	2②		1		○			1						
		解析学Ⅰ	2③		1		○			1						
		解析学Ⅱ	2④		1		○			1						
		確率論概論（確率論と現代の数学教育を含む）	2③		1		○			1						メディア
		統計学概論（統計学と現代の数学教育を含む）	2④		1		○			1						メディア
		回帰分析	4③		1		○			1						メディア
		論理学	3①		1		○			1						メディア
		集合論	3②		1		○			1						メディア
		数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	2③		1		○				1					メディア
数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）		2④		1		○				1					メディア	
数学科教育法Ⅴ		3①		1		○				1						
数学科教育法Ⅵ		3②		1		○				1	1				オムニバス	
数学科教育法Ⅶ		4③		1		○				1	1				オムニバス	
数学科教育法Ⅷ		4④		1		○				1						
算数・数学科教育論		4①		1		○				1	1				メディア	
算数・数学科授業論		4②		1		○				1					メディア	
小計（25科目）		—	0	25	0	—	—	—	2	1	0	0	0	—	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	理科内容A (電磁気学概論と現代理科教育)	2③		1		○			1						メディア
	理科内容A (一般物理学)	2④		1		○			1						メディア
	理科内容演習A I (物理学)	3③		1			○		1						
	理科内容演習A II (物理学)	3④		1			○		1						
	理科実験A I (物理学)	3①		0.5				○	1						
	理科実験A II (物理学)	3②		0.5				○	1						
	理科内容B (無機化学概論と現代理科教育)	2①		1			○					1			メディア
	理科内容B (物性化学)	2②		1			○					1			メディア
	理科内容演習B I (化学)	3③		1				○				1			
	理科内容演習B II (化学)	3④		1				○				1			
	理科実験B I (化学)	3①		0.5					○			1			
	理科実験B II (化学)	3②		0.5					○			1			
	理科内容C (生物多様性概論と現代理科教育)	2②		1			○			1					メディア
	理科内容C (一般生物学)	2④		1			○			1					メディア
	理科内容演習C I (生物学)	3③		1				○		1					
	理科内容演習C II (生物学)	3④		1				○		1					
	理科実験C I (生物学)	3①		0.5					○	1					
	理科実験C II (生物学)	3②		0.5					○	1					
	理科内容D (地球物質科学概論と現代理科教育)	2①		1			○			1					メディア
	理科内容D (一般地学)	2③		1			○			1					メディア
	理科内容演習D I (地学)	3③		1				○		1					
	理科内容演習D II (地学)	3④		1				○		1					
	理科実験D I (地学)	3①		0.5					○	1					
	理科実験D II (地学)	3②		0.5					○	1					
	理科教育法 I (石川県の教育実践を含む)	2①		1			○			1					メディア
	理科教育法 II (石川県の教育実践を含む)	2②		1			○			1					メディア
	理科教育法 V	3①		1			○			1					
	理科教育法 VI	3②		1			○			1					
	理科教育法 VII	3③		1			○			1					
	理科教育法 VIII	3④		1			○			1					
	理科教育演習 I	4①		1				○		1					
	理科教育演習 II	4②		1				○		1					
	理科教育実践研究 I	3①			1			○		4		1			オムニバス
	理科教育実践研究 II	3②			1			○		4		1			オムニバス
	理科教育実践研究 III	4①			1			○		4		1			オムニバス
	理科教育実践研究 IV	4②			1			○		4		1			オムニバス
小計 (36科目)		—	0	28	4		—		4	0	1	0	0	—	—
音楽 教育	ソルフェージュ I	2①		1				○							
	ソルフェージュ II	2②		1				○			1				
	歌唱法 I	2③		1				○	1						
	歌唱法 II	2④		1				○	1						
	歌唱法 III	3①		1				○	1						
	歌唱法 IV	3②		1				○	1						
	アンサンブル I (声楽)	2③		1				○	1						
	アンサンブル II (声楽)	3①		1				○	1						
	アンサンブル III (声楽)	3③		1				○	1						
	日本の伝統的歌唱法	3①・②		1				○							兼1
	歌唱法演習 I	4①		1				○	1						
	歌唱法演習 II	4②		1				○	1						
	歌唱法演習 III	4③		1				○	1						
	歌唱法演習 IV	4④		1				○	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 教育 科目	音楽教育	和楽器奏法	3①・②	1				○							兼1		
	ピアノ奏法 I	2③	1				○		1								
	ピアノ奏法 II	2④	1				○		1								
	ピアノ奏法 III	3③	1				○		1								
	ピアノ奏法 IV	3④	1				○		1								
	ピアノ奏法演習 I	4①	1					○	1								
	ピアノ奏法演習 II	4②	1					○	1								
	ピアノ奏法演習 III	4③	1					○	1								
	ピアノ奏法演習 IV	4④	1					○	1								
	アンサンブル IV (木管)	2④	1						○						兼1		
	アンサンブル V (金管)	3②	1						○						兼1		
	指揮法	4①・②	1						○								
	音楽理論及び和声学 (作曲・編曲を含む) I	2①	1				○			1							
	音楽理論及び和声学 (作曲・編曲を含む) II	2②	1				○			1							
	音楽理論及び和声学 (作曲・編曲を含む) III	2③	1				○			1							
	音楽理論及び和声学 (作曲・編曲を含む) IV	2④	1				○			1							
	音楽史 III (日本及び世界の音楽)	3③	1				○								兼1		
	音楽史 IV (日本及び世界の音楽)	3④	1				○								兼1		
	作曲 (編曲を含む) 演習 I	4①	1					○		1							
	作曲 (編曲を含む) 演習 II	4②	1					○		1							
	作曲 (編曲を含む) 演習 III	4③	1					○		1							
	作曲 (編曲を含む) 演習 IV	4④	1					○		1							
	音楽科教育法 I (石川県の教育実践を含む)	2①	1				○								兼1	メディア	
	音楽科教育法 II (石川県の教育実践を含む)	2②	1				○								兼1	メディア	
	音楽科教育法 V	3①	1				○								兼1		
	音楽科教育法 VI	3②	1				○								兼1		
	音楽科教育法 VII	3③	1				○								兼1		
	音楽科教育法 VIII	3④	1				○								兼1		
	小計 (42科目)		—	0	42	0		—		2	1	0	0	0	兼4	—	
	美術教育	絵画基礎 I (映像メディア表現・現代美術表現を含む)	2③	1					○	1							
		絵画 I	3①	1					○	1							
		絵画 II	3②	1					○	1							
		絵画 III	3③	1					○	1							
		絵画 IV	3④	1					○	1							
		彫刻基礎 I (現代美術表現を含む)	2①	1					○							兼1	
		彫刻 I	3①	1					○							兼1	
		彫刻 II	3②	1					○							兼1	
		彫刻 III	3③	1					○							兼1	
		彫刻 IV	3④	1					○							兼1	
		デザイン基礎 I (映像メディア表現・現代美術表現を含む)	2③	1					○								
		デザイン I	3①	1					○								
		デザイン II	3②	1					○								
デザイン III		3③	1					○									
デザイン IV		3④	1					○									
工芸基礎 I		2①	1					○		1							
工芸論 I		2①	1				○								兼1		
工芸論 II		2②	1				○								兼1		
比較美術史 I (美術理論含む)		3①	1				○								兼1		
比較美術史 II (美術理論含む)		3②	1				○								兼1		
美術実地研究		3②	1						○	2	1				兼1	集中	
美術科教育法 I (石川県の教育実践を含む)		2①	1				○			1						メディア	
美術科教育法 II (石川県の教育実践を含む)		2②	1				○			1						メディア	
美術科教育法 V		3①	1				○			2	1				兼1	オムニバス	
美術科教育法 VI		3②	1				○			2	1				兼1	オムニバス	
美術科教育法 VII		3③	1				○			2	1				兼1	オムニバス	
美術科教育法 VIII		3④	1				○			2	1				兼1	オムニバス	
造形教育演習 I	4①			1				○	1								
造形教育演習 II	4②			1				○	1								
造形教育演習 III	4③			1				○	1								
造形教育演習 IV	4④			1				○	1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	美術教育	彫刻制作研究Ⅰ	4①		1			○								兼1	
		彫刻制作研究Ⅱ	4②		1			○								兼1	
		彫刻制作研究Ⅲ	4③		1				○							兼1	
		彫刻制作研究Ⅳ	4④		1				○							兼1	
		美術史研究Ⅰ	4①		1		○									兼1	
		美術史研究Ⅱ	4②		1		○									兼1	
		美術史研究Ⅲ	4③		1		○									兼1	
		美術史研究Ⅳ	4④		1		○									兼1	
		絵画制作研究Ⅰ	4①		1				○	1							
		絵画制作研究Ⅱ	4②		1				○	1							
		絵画制作研究Ⅲ	4③		1			○		1							
		絵画制作研究Ⅳ	4④		1			○		1							
		デザイン制作研究Ⅰ	4①		1				○		1						
		デザイン制作研究Ⅱ	4②		1				○		1						
		デザイン制作研究Ⅲ	4③		1				○		1						
		デザイン制作研究Ⅳ	4④		1				○		1						
	小計(47科目)		—	0	27	20	—	—	—	2	1	0	0	0	兼3	—	
	保健体育	体操Ⅰ	2①		0.5				○		1						
		体操Ⅱ	2②		0.5				○		1						
		器械運動Ⅰ	2①		0.5				○		1						
		器械運動Ⅱ	2②		0.5				○		1						
		陸上Ⅰ	2①		0.5				○							兼1	
		陸上Ⅱ	2②		0.5				○							兼1	
		水泳Ⅰ	3①		0.5				○							兼1	
		水泳Ⅱ	3②		0.5				○							兼1	
		武道AⅠ(剣道)	2③		0.5				○							兼1	
		武道AⅡ(柔道)	2④		0.5				○							兼1	
		ダンスⅠ	3①		0.5				○							兼1	
		ダンスⅡ	3②		0.5				○							兼1	
		球技(ゴール型)AⅠ(サッカー)	3①		0.5				○	1							
		球技(ゴール型)AⅡ(サッカー)	3②		0.5				○	1							
		球技(ネット型)AⅠ(バレーボール)	3①		0.5				○		1						
		球技(ネット型)AⅡ(バレーボール)	3②		0.5				○		1						
		球技(ベースボール型)Ⅰ	3①		0.5				○							兼1	
		球技(ベースボール型)Ⅱ	3②		0.5				○							兼1	
		バイオメカニクスⅠ	2③		1		○				1						
		バイオメカニクスⅡ	2④		1		○				1						
		運動生理学Ⅰ(海外の先端事情を含む)	2③		1		○				1					メディア	
		運動生理学Ⅱ(海外の先端事情を含む)	2④		1		○				1					メディア	
		衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	3①		1		○									兼1	
		衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	3②		1		○									兼1	
	学校保健Ⅰ(教科横断で取り組む学校保健)	3①		1		○				1					メディア		
	学校保健Ⅱ(教科横断で取り組む学校保健)	3②		1		○				1					メディア		
	保健体育科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①		1		○				1					メディア		
	保健体育科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む)	2②		1		○				1					メディア		
	保健体育科教育法Ⅴ	3①		1		○				1					メディア		
	保健体育科教育法Ⅵ	3②		1		○				1					メディア		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
保健体育	バイオメカニクス演習A	3①			1		○			1							
	バイオメカニクス演習B	3②			1		○			1							
	バイオメカニクス演習C	3③			1		○			1							
	バイオメカニクス演習D	3④			1		○			1							
	運動生理学演習A	3①			1		○			1							
	運動生理学演習B	3②			1		○			1							
	運動生理学演習C	3③			1		○			1							
	運動生理学演習D	3④			1		○			1							
	学校保健演習A	3①			1		○			1							
	学校保健演習B	3②			1		○			1							
	学校保健演習C	3③			1		○			1							
	学校保健演習D	3④			1		○			1							
	保健体育科教育演習A	3①			1		○				1						
	保健体育科教育演習B	3②			1		○				1						
	保健体育科教育演習C	3③			1		○				1						
	保健体育科教育演習D	3④			1		○				1						
	小計(46科目)		—	0	21	16		—		2	2	0	0	0	兼7	—	
	専門教育科目	家政学原論	2①		1		○				1						メディア
		家庭経営学Ⅰ(家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む)	2②		1		○				1						メディア
		家庭経営学Ⅱ	2③		1		○				1						メディア
		家族関係学(多様な家族と家庭科教育)	2④		1		○				1						メディア
		家庭経営学演習Ⅰ	3①		1			○			1						メディア
		家庭経営学演習Ⅱ	3②		1			○			1						メディア
		被服学概論Ⅰ(現代の衣生活の諸問題を含む)	2③		1		○				1						メディア
		被服学概論Ⅱ	2④		1		○				1						メディア
		被服構成実習	3①		1				○			1					
被服科学実験		3②		1				○			1						
被服学演習Ⅰ		3③		1			○			1						メディア	
被服学演習Ⅱ		3④		1			○			1						メディア	
保育学概論Ⅰ(現代の保育学の諸問題を含む)		2①		1		○				1						メディア	
保育学概論Ⅱ(家庭看護含む)		2②		1		○				1						メディア	
保育学Ⅰ		2③		1		○				1						メディア	
保育学Ⅱ(実習含む)		2④		1		○				1						メディア	
保育学演習Ⅰ		3③		1			○			1						メディア	
保育学演習Ⅱ		3④		1			○			1						メディア	
家庭電気・機械・情報		3②		1		○								兼1		メディア	
家庭科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)		2③		1		○				1						メディア	
家庭科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)		2④		1		○				1						メディア	
家庭科教育法Ⅴ		3①		1		○				1							
家庭科教育法Ⅵ		3②		1		○				1							
家庭科教育法Ⅶ		3③		1		○				1							
家庭科教育法Ⅷ		3④		1		○				1							
家庭科教育演習Ⅰ		4①		1			○			1							
家庭科教育演習Ⅱ		4②		1			○			1							
家庭経営学演習Ⅲ		4①			1		○				1						
家庭経営学演習Ⅳ		4②			1		○				1						
被服学演習Ⅲ		4①			1		○				1						
被服学演習Ⅳ		4②			1		○				1						
保育学演習Ⅲ		4①			1		○			1							
保育学演習Ⅳ		4②			1		○			1							
家庭科教育演習Ⅲ		4①			1		○			1							
家庭科教育演習Ⅳ		4②			1		○			1							
小計(35科目)		—	0	27	8		—		2	2	0	0	0	兼1	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	英語学概論Ⅲ(応用)	3①		1		○			1							
	英語学概論Ⅳ(応用)	3②		1		○			1							
	英語音声学・文法Ⅰ	2③		1		○			1							
	英語音声学・文法Ⅱ	2④		1		○			1							
	英語学演習Ⅰ(個別理論)	3③		1			○		1							
	英語学演習Ⅱ(個別理論)	3④		1			○		1							
	英語文学概論Ⅰ(イギリス文学と現在の英語教育)	2①		1			○			1						メディア
	英語文学概論Ⅱ(アメリカ文学と現在の英語教育)	2③		1			○				1					メディア
	英語文学概論Ⅲ(イギリス)	2②		1			○			1						メディア
	英語文学概論Ⅳ(アメリカ)	2④		1			○				1					メディア
	英語文学演習Ⅰ(イギリス)	3①		1				○		1						メディア
	英語文学演習Ⅱ(アメリカ)	3③		1				○			1					メディア
	英語文学演習Ⅲ(イギリス)	3②		1				○		1						メディア
	英語文学演習Ⅳ(アメリカ)	3④		1				○			1					メディア
	英作文Ⅰ(基礎)	2①		1				○			1					
	英会話Ⅰ(基礎)	2③		1				○		1						
	英作文Ⅱ(応用)	2②		1				○			1					
	英会話Ⅱ(応用)	2④		1				○		1						
	英作文Ⅲ(応用)	3①		1				○			1					
	英会話Ⅲ(応用)	3③		1				○		1						
	英作文Ⅳ(応用)	3②		1				○			1					
	英会話Ⅳ(応用)	3④		1				○		1						
	英語科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)	2③		1			○			1						メディア
	英語科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)	2④		1			○			1						メディア
	英語科教育法Ⅴ	3①		1			○			1						
	英語科教育法Ⅵ	3②		1			○			1						
	英語科教育法Ⅶ	3③		1			○			1						
	英語科教育法Ⅷ	3④		1			○			1						
	英語学特別演習Ⅰ	3③			1			○		1						
	英語学特別演習Ⅱ	3④			1			○		1						
	英語文学特別演習Ⅰ	4③			1			○		1	1					
	英語文学特別演習Ⅱ	4④			1			○		1	1					
	英語教育学特別演習Ⅰ	4③			1			○		1						
	英語教育学特別演習Ⅱ	4④			1			○		1						
	英語科教育実践研究Ⅰ	3②		1				○			1					
	英語科教育実践研究Ⅱ	4①		1				○		1						
小計(36科目)		—	0	28	8		—		3	1	0	0	0	兼4	—	
教育学・心理学に関する科目	教育・心理基礎論A	3①			1			○		2	4				オムニバス	
	教育・心理基礎論B	3②			1			○		2	4				オムニバス	
	教育学・心理学演習A	3③			1			○		2	4					
	教育学・心理学演習B	3④			1			○		2	4					
小計(4科目)		—	0	0	4		—		2	4	0	0	0	兼1	—	
合計(736科目)		—	51	667	71		—		26	22	1	0	0	兼108	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	学士（教育学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業・修了要件及び履修方法						授業期間等								
1. 教養教育科目又は共通教育科目						1 学年の学期区分		4期						
						1 学期の授業期間		8週						
						1 時限の授業時間		90分						
<p>富山大学：教養教育科目 22単位以上</p> <p>(1) 人文科学系 } 10単位以上 (2) 社会科学系 } (ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位 (3) 自然科学系 } 以上、自然科学系から2単位以上を含むこと。)</p> <p>(4) 総合科目系 2単位以上 (5) 外国語系 6単位以上 (6) 保健体育系 2単位 (7) 情報処理系 2単位</p> <p>金沢大学：共通教育科目 28単位以上</p> <p>(1) 導入科目 3単位 (2) G S 科目 15単位以上 (3) G S 言語科目 8単位 (4) 自由履修科目 2単位以上</p>														
2. 専門教育科目														
〔専門科目区分：幼児教育，国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，音楽教育，美術教育，保健体育，家政教育，英語教育〕														
<p>富山大学：114単位以上</p> <p>(1) 共通科目 9単位以上 (2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (4) 教育実践に関する科目 9単位以上 (5) 小学校教科 12単位以上 (6) 小学校教科指導法 20単位 (7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (8) 専門科目 24単位以上</p> <p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域 G S 科目 4単位 (2) 学域 G S 言語科目 2単位 (3) 共通科目 5単位 (4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (6) 教育実践に関する科目 9単位以上 (7) 小学校教科 12単位以上 (8) 小学校教科指導法 20単位 (9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (10) 専門科目 24単位以上</p>														
〔専門科目区分：特別支援教育〕														
<p>富山大学：114単位以上</p> <p>(1) 共通科目 9単位以上 (2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (4) 教育実践に関する科目 10単位以上 (5) 小学校教科 12単位以上 (6) 小学校教科指導法 20単位 (7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (8) 専門科目 23単位以上</p> <p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域 G S 科目 4単位 (2) 学域 G S 言語科目 2単位 (3) 共通科目 5単位 (4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (6) 教育実践に関する科目 10単位以上 (7) 小学校教科 12単位以上 (8) 小学校教科指導法 20単位 (9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (10) 専門科目 23単位以上</p>														
3. 相手大学の開講科目の単位取得														
富山大学：上記1及び2のうち、金沢大学が開講する科目31単位以上														
金沢大学：上記1及び2のうち、富山大学が開講する科目31単位以上														

教育課程等の概要																
(富山大学人間発達科学部発達教育学科) 【既設】																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文科学系	哲学のすすめ	1前・後		2		○									兼1	
	人間と倫理	1前・後		2		○									兼1	
	こころの科学	1前・後		2		○									兼1	
	日本の歴史と社会	1前・後		2		○									兼2	
	東洋の歴史と社会	1前・後		2		○									兼1	
	西洋の歴史と社会	1前・後		2		○									兼1	
	日本文学	1前・後		2		○									兼1	
	外国文学	1前・後		2		○									兼1	
	言語と文化	1前・後		2		○									兼1	
	音楽	1前・後		2		○									兼1	
	美術	1前・後		2		○									兼1	
	言語表現	1前・後		2			○			1					兼1	
	治療の文化史	1前・後		2		○									兼1	
	異文化間コミュニケーション	1前・後		2		○									兼1	
	異文化理解	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定
小計 (15科目)		—	0	30	0	—			1	1	0	0	0	兼13	—	
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○									兼1	
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼1	
	国家と市民	1前・後		2		○									兼1	
	経済生活と法	1前・後		2		○									兼1	
	市民生活と法	1前・後		2		○									兼1	
	はじめての経済学	1前・後		2		○									兼1	
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○									兼1	
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○									兼1	
	市場と企業の関係	1前・後		2		○									兼1	
	地域の経済と社会・文化	1前・後		2		○									兼1	
小計 (10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—	
自然科学系	地球と環境	1前・後		2		○									兼2	
	生命の世界	1前・後		2		○									兼2	
	物理の世界	1前・後		2		○									兼2	
	化学物質の世界	1前・後		2		○									兼2	
	自然と情報の数理	1前・後		2		○									兼1	
	社会と情報の数理	1前・後		2		○									兼1	
	技術の世界	1前・後		2		○									兼2	
	材料の科学	1前・後		2		○									兼3	
	生活の科学	1前・後		2		○									兼1	
	コンピュータの話	1前・後		2		○									兼2	
	デザインと生物	1前・後		2		○									兼1	
小計 (11科目)		—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	兼19	—	
医療・健康科学系	医療心理学	1前・後		2		○									兼1	
	概説医療心理学	1前・後		1		○									兼1	
	認知科学	1前・後		2		○									兼1	
	脳科学入門	1前・後		2		○									兼1	
	生命科学入門	1前・後		1		○									兼2	
	免疫学入門	1前・後		2		○									兼1	
	身近な医学	1前・後		2		○									兼1	
	障害とアクセシビリティ	1前・後		2		○				1					兼1	
医療と地域社会	1前・後		2		○									兼2		
小計 (9科目)		—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	兼7	—	
総合科目系	環境	1前・後		2		○									兼1	
	ジェンダー	1前・後		2		○									兼1	
	技術と社会	1前・後		2		○									兼2	
	現代文化	1前・後		2		○									兼1	
	人権と福祉	1前・後		2		○									兼1	
	環日本海	1前・後		2		○									兼1	
	科学と社会	1前・後		2		○									兼1	
	アカデミック・デザイン	1前・後		2		○									兼1	
	ビジネス思考	1前・後		2		○									兼1	
	平和学入門	1前・後		2		○									兼1	
東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後		2		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合科目系	新聞投稿に挑戦	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定	
	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○									兼1		
	環境と安全管理	1前・後		2		○									兼1		
	万葉学	1前・後		2		○									兼1		
	日本海学	1前・後		2		○									兼1		
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1		
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1		
	時事の問題	1前・後		2		○									兼1		
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○				1					兼1		
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1		
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1		
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1		
	学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1		
	富山学	1前・後		2		○									兼1		
	地域ライフプラン	1前・後		2		○									兼2		
	産業観光学	1前・後		2		○									兼2		
	富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼2		
	富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼2		
	小計 (29科目)		—	0	58	0	—			0	2	0	0	0	兼22		—
	教養教育科目	外国語系	英語リテラシーⅠ-A	1前	1			○									兼7
英語リテラシーⅡ-A			1後	1			○								兼7		
英語コミュニケーションⅠ-A			1前	1				○							兼7		
英語コミュニケーションⅡ-A			1後	1				○							兼7		
ドイツ語基礎Ⅰ			1前		1			○							兼1		
ドイツ語基礎Ⅱ			1後		1			○							兼1		
ドイツ語コミュニケーションⅠ			1前		1			○							兼1		
ドイツ語コミュニケーションⅡ			1後		1			○							兼1		
フランス語基礎Ⅰ			1前		1			○							兼1		
フランス語基礎Ⅱ			1後		1			○							兼1		
フランス語コミュニケーションⅠ			1前		1			○							兼1		
フランス語コミュニケーションⅡ			1後		1			○							兼1		
中国語基礎Ⅰ			1前		1			○							兼1		
中国語基礎Ⅱ			1後		1			○							兼1		
中国語コミュニケーションⅠ			1前		1			○							兼1		
中国語コミュニケーションⅡ			1後		1			○							兼1		
朝鮮語基礎Ⅰ			1前		1			○							兼1		
朝鮮語基礎Ⅱ			1後		1			○							兼1		
朝鮮語コミュニケーションⅠ			1前		1			○							兼1		
朝鮮語コミュニケーションⅡ			1後		1			○							兼1		
ロシア語基礎Ⅰ			1前		1			○							兼1		
ロシア語基礎Ⅱ			1後		1			○							兼1		
ロシア語コミュニケーションⅠ			1前		1			○							兼1		
ロシア語コミュニケーションⅡ			1後		1			○							兼1		
日本語リテラシーⅠ			1前		1			○								兼2	
日本語リテラシーⅡ			1後		1			○								兼2	
日本語コミュニケーションⅠ			1前		1			○								兼2	
日本語コミュニケーションⅡ			1後		1			○								兼2	
発展多言語演習ドイツ語			2前			1		○								兼1	
発展多言語演習中国語			2前			1		○								兼1	
発展多言語演習ラテン語Ⅰ			2前			1		○								兼1	
発展多言語演習ラテン語Ⅱ			2後			1		○								兼1	
日本語コミュニケーションⅢ			2前			1		○								兼1	
日本語リテラシーⅢ			2前			1		○								兼1	
日本語／専門研究			2後			1		○								兼1	
日本語／ビジネス			2後			1		○								兼1	
小計 (36科目)		—	4	24	8	—			0	0	0	0	0	兼26	—		
保健体育系	健康・スポーツ／講義	1前・後		1			○								兼1	—	
	健康・スポーツ／実技	1前		1											兼1		
小計 (2科目)		—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—		
情報処理系	情報処理	1前		2			○								兼4	—	
	応用情報処理	1後		2				○							兼1		
小計 (2科目)		—	2	2	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	基礎ゼミナール	1前	2						4						
	発達科学概論	1前	2			○				3	1				兼8
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			4	3	1	0	0		兼8
専門共通科目	インスタラクショナルデザイン	3前		2		○									兼2
	インターンシップ	3前		2				○		2	1				兼3
	ボランティア体験	3前		2				○		2	1				兼3
小計(3科目)	—	0	6	0	—			0	2	1	0	0		兼5	
科目共通専門	教育心理学	1前	2			○					1				
	子どもとのふれあい体験	1~4通		6				○		2	5	1			兼4
	教員実地研究	4前		2				○		1					
小計(3科目)	—	2	8	0	—			2	5	2	0	0		兼4	
教職実践に関する科目	幼児教育実習	2・3通		7				○		1					
	初等教育実習	2・3通		7				○		1					
	特別支援学校教育実習	4通		3				○		1					兼1
教職実践演習(幼・小・中・高)	4後		2				○			1				兼1	
小計(4科目)	—	0	19	0	—			1	0	1	0	0		兼1	
教育心理領域科目	生徒・進路指導論	2後	2			○				1	1				オムニバス
	教育相談	2前	2			○				1	1				オムニバス
	心理学研究法	1後	2			○					1				
	心理学実験法	2前	2			○									
	心理統計学	2前	2			○			1						
	心理学ゼミナール	3通	4			○		○	1	2	2				
	学習心理学	2後		2		○		○			1				
	教育の方法と技術	3前	2			○									兼1
	発達臨床心理学	2前	2			○					1				
	青年心理学	2後	2			○				1					
	臨床心理学	2前	2			○				1					
	カウンセリング	2後	2				○			1					
	臨床心理実習	3通	2					○		1	1				
	プロジェクトマネジメント	3通	2			○					1				
	心理学特別講義	3前	2			○			1	2	2				
小計(15科目)	—	16	16	0	—			1	2	2	0	0		兼1	
学校教育領域科目	国語(書写を含む。)	1後	2			○									兼2
	社会	2後	2			○				1					兼5
	算数	2前	2			○									兼1
	理科	2前	2			○									兼4
	生活	2前	2			○			1						オムニバス
	音楽	2後	2			○									兼1
	図画工作	2後	2			○			1						兼1
	家庭	2前	2			○			1						オムニバス
	体育	1前	2			○					1				
	英語	2後	2			○									兼3
	国語科教育論	2前	2			○					1				
	社会科教育論	2後	2			○			1						
	算数科教育論	2後	2			○			1						
	理科教育論	2後	2			○				1					
	生活科教育論	2後	2			○				1					
	音楽科教育論	3前	2			○				1	1	1			
	図画工作科教育論	3前	2			○			1						
	家庭科教育論	2後	2						1						
	体育科教育論	2前	2								1				
	英語科教育論	3前	2												兼1
	教育の思想と歴史	1後	2									1			
	教育哲学	2前		2								1			
	教職と教育	1前	2						1						
	学校の制度と経営	2後	2						1						
	教育法規	2前		2					1						
	学校文化論	2後		2								1			
	教育課程論	2前	1									1			
	道徳教育論	3前	2									1			
	総合的な学習の時間教育論	3前	2												兼1
	特別活動論	2前	1									1			
	学校インターンシップ	1通		2					4	2	1				兼1
	地域教材研究(富山学)	1後	2						1		1				
	地域交流活動論	2後	2				○		1						
	学校教育ゼミナールⅠ	3前		1			○		6	2	5				
	学校教育ゼミナールⅡ	3後		1			○		6	2	5				
小計(35科目)	—	35	31	0	—			6	2	5	0	0		兼20	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	特別支援教育概論	1後	2			○			1	3					オムニバス
	障害児教育総論	1後		2		○			1	2					集中・オムニバス
	特別支援教育学Ⅰ	1後		2		○				1					集中
	特別支援教育学Ⅱ	2前		2		○				1					
	知的障害児の心理Ⅰ	2前		2		○			1						
	知的障害児の心理Ⅱ	4前		2		○			1						
	知的障害児の生理・病理Ⅰ	2後		2		○			1						
	知的障害児の生理・病理Ⅱ	4後		2		○			1						
	肢体不自由児の心理・生理・病理	3前		2		○			1						
	病弱児の心理・生理・病理	3後		2		○			1						
	知的障害教育総論	3前		2		○				1					
	知的障害児の教育Ⅰ	2後		2		○				1					
	知的障害児の教育Ⅱ	3前		2		○				1					
	知的障害児の教育診断臨床Ⅰ	3前		2			○		1	2					
	知的障害児の教育診断臨床Ⅱ	3前		2			○			1					
	知的障害児の教育診断臨床Ⅲ	3前		2			○			1					
	肢体不自由児の教育	3前		2		○								兼1	集中
	病弱児の教育	3後		2		○								兼1	集中
	特別支援教育研究法	3後		2			○		1	2					
	軽度発達障害児教育総論	3後		2		○				1					
	重複障害児教育総論	3後		2		○								兼1	集中
	幼児教育カリキュラム論	3後		2		○				1					
	保育内容総論	2後	2				○			1					
	保育内容(健康)	2後		2			○							兼2	
	保育内容(人間関係)	2前		2			○		1						
	保育内容(環境)	3前		2			○		1						集中
	保育内容(言葉)	2前		2			○			1					
	保育内容(表現)	2後		2			○		1	1					
	保育の指導法	2前		2			○			1					
	表現技術(音楽表現)	2前		2			○		1						
	表現技術(ピアノ奏法)	2後		1			○			1					
	幼児理解と相談支援	1後		2			○		1						
	社会福祉学概論	1後		2			○			1					
	ソーシャルワーク論	3前		2			○			1					
	地域共生論	2後		2			○			1					
	就労支援論	2後		2			○			1					
	保育原理	2後		2			○			1					
	子育て支援	3後		1				○			1				
	社会的養護Ⅰ	3前		2				○			1				
	社会的養護Ⅱ	3後		1				○			1				
	児童福祉論	2後		2			○			1					
	保育者論	2前		2			○			1					
	保育の心理学	2前		2			○			1					
	子ども家庭支援の心理学	3前		2			○			1					
	子どもの理解と援助	2後		1				○		1					
	臨床発達心理学	2前		2			○			1					
	子どもの食と栄養	2前		2				○						兼1	
	子どもの保健	2後		2			○			1					
	子どもの健康と安全	2後		1				○		1					
	子育てネットワーク論	3後		2			○				1				
障害児保育	3後		2				○			1					
乳児保育Ⅰ	2前		2				○			1					
乳児保育Ⅱ	2後		1				○			1					
発達福祉統計学	3前		2			○		1							
表現技術(身体表現)	2後		1				○						兼1		
表現技術(言語・造形表現)	2前		2				○		1	1					
表現技術(歌唱法)	3前		1				○		1						
地域子育て支援法	4前		2			○			1						
地域子育て支援論演習	4後		2				○		1						
保育実習Ⅰ	4通		4					○	2	1					
保育実習Ⅱ	4通		2					○	2	1					
保育実習Ⅲ	4通		2					○	2	1					
保育実習指導Ⅰ	4通		2				○		2	1					
保育実習指導Ⅱ	4通		1				○		2	1					
保育実習指導Ⅲ	4通		1				○		2	1					
保育実践演習	3通		2				○		2	1					
発達福祉演習	3通		4				○		3	5					
小計(67科目)		—	8	120	0		—		3	7	0	0	0	兼6	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	特別研究	4通	6					○	10	10	7			
	小計 (1科目)	—	6	0	0		—		10	10	7	0	0	—
合計 (244科目)		—	79	372	8		—		10	10	7	0	0	兼121
学位又は称号		学士 (教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
卒業に必要な単位数 124単位以上 (履修科目の登録の上限: 50単位 (年間)) 1. 教養教育科目 22単位以上 (1) 人文科学系 } 10単位以上 (2) 社会科学系 } (ただし, 人文科学系から2単位以上, 社会科学系から2単位以上, 自然科学系 (3) 自然科学系 } から (4) 総合科目系 2単位以上 (5) 外国語系 6単位以上 (6) 保健体育系 2単位 (7) 情報処理系 2単位 2. 専門科目 〔教育心理コース〕 82単位以上 (1) 学部共通科目 6単位 (2) 学科共通科目 2単位 (3) 自コース領域科目及び関連科目 68単位以上 (4) 特別研究 6単位 〔学校教育コース〕 78単位以上 (1) 学部共通科目 4単位 (2) 学科共通科目 2単位 (3) 自コース領域科目及び関連科目 66単位以上 (4) 特別研究 6単位 〔発達福祉コース〕 66単位以上 (1) 学部共通科目 6単位 (2) 学科共通科目 2単位 (3) 自コース領域科目及び関連科目 52単位以上 (4) 特別研究 6単位 3. 自由選択 本学部の専門科目及び他学部の専門科目の中から修得する。 (教養教育科目の単位を10単位まで含むことができる。) 〔教育心理コース〕 20単位以上 〔学校教育コース〕 24単位以上 〔発達福祉コース〕 36単位以上								1 学年の学期区分		2期				
								1 学期の授業期間		15週				
								1 時限の授業時間		90分				

教育課程等の概要															
(富山大学人間発達科学部人間環境システム学科)【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文科学系	哲学のすすめ	1前・後		2		○								兼1	
	人間と倫理	1前・後		2		○								兼1	
	こころの科学	1前・後		2		○								兼1	
	日本の歴史と社会	1前・後		2		○								兼2	
	東洋の歴史と社会	1前・後		2		○								兼1	
	西洋の歴史と社会	1前・後		2		○								兼1	
	日本文学	1前・後		2		○								兼1	
	外国文学	1前・後		2		○								兼1	
	言語と文化	1前・後		2		○								兼1	
	音楽	1前・後		2		○								兼1	
	美術	1前・後		2		○								兼1	
	言語表現	1前・後		2			○							兼1	
	治療の文化史	1前・後		2		○								兼1	
	異文化間コミュニケーション	1前・後		2		○								兼1	
	異文化理解	1前・後		2		○								兼1	外国人留学生限定
小計(15科目)		—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	兼15	—
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1前・後		2		○								兼1	
	国家と市民	1前・後		2		○								兼1	
	経済生活と法	1前・後		2		○								兼1	
	市民生活と法	1前・後		2		○								兼1	
	はじめての経済学	1前・後		2		○								兼1	
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○								兼1	
	経営資源のとりえ方	1前・後		2		○								兼1	
	市場と企業の関係	1前・後		2		○								兼1	
	地域の経済と社会・文化	1前・後		2		○								兼1	
小計(10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—
自然科学系	地球と環境	1前・後		2		○								兼2	
	生命の世界	1前・後		2		○								兼2	
	物理の世界	1前・後		2		○								兼2	
	化学物質の世界	1前・後		2		○								兼2	
	自然と情報の数理	1前・後		2		○								兼1	
	社会と情報の数理	1前・後		2		○								兼1	
	技術の世界	1前・後		2		○								兼2	
	材料の科学	1前・後		2		○								兼3	
	生活の科学	1前・後		2		○				1				兼2	
	コンピュータの話	1前・後		2		○								兼2	
	デザインと生物	1前・後		2		○								兼1	
小計(11科目)		—	0	22	0	—			0	1	0	0	0	兼18	—
医療・健康科学系	医療心理学	1前・後		2		○								兼1	
	概説医療心理学	1前・後		1		○								兼1	
	認知科学	1前・後		2		○								兼1	
	脳科学入門	1前・後		2		○								兼1	
	生命科学入門	1前・後		1		○								兼2	
	免疫学入門	1前・後		2		○								兼1	
	身近な医学	1前・後		2		○								兼1	
	障害とアクセシビリティ	1前・後		2		○								兼1	
	医療と地域社会	1前・後		2		○								兼2	
小計(9科目)		—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—
総合科目系	環境	1前・後		2		○								兼1	
	ジェンダー	1前・後		2		○								兼1	
	技術と社会	1前・後		2		○								兼2	
	現代文化	1前・後		2		○								兼1	
	人権と福祉	1前・後		2		○								兼1	
	環日本海	1前・後		2		○								兼1	
	科学と社会	1前・後		2		○								兼1	
	アカデミック・デザイン	1前・後		2		○								兼1	
	ビジネス思考	1前・後		2		○								兼1	
	平和学入門	1前・後		2		○				1				兼1	
東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後		2		○								兼1		
新聞投稿に挑戦	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○								兼1	
	環境と安全管理	1前・後		2		○								兼1	
		1前・後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
総合科目系	万薬学	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定		
	日本海学	1前・後		2		○									兼1			
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1			
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1			
	時事的問題	1前・後		2		○									兼1			
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○									兼1			
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1			
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1			
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1			
	学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1			
	富山学	1前・後		2		○									兼1			
	地域ライフプラン	1前・後		2		○									兼2			
	産業観光学	1前・後		2		○									兼2			
	富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼2			
	富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼2			
	小計 (29科目)	—	0	58	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼23	—			
	教養教育科目	外国語系	英語リテラシーⅠ-A	1前	1		○			1	1						兼5	外国人留学生限定
			英語リテラシーⅡ-A	1後	1		○			1	1						兼5	
			英語コミュニケーションⅠ-A	1前	1		○			2							兼5	
			英語コミュニケーションⅡ-A	1後	1		○			2						兼5		
			ドイツ語基礎Ⅰ	1前		1		○								兼1		
			ドイツ語基礎Ⅱ	1後		1		○								兼1		
			ドイツ語コミュニケーションⅠ	1前		1		○								兼1		
			ドイツ語コミュニケーションⅡ	1後		1		○								兼1		
			フランス語基礎Ⅰ	1前		1		○								兼1		
			フランス語基礎Ⅱ	1後		1		○								兼1		
			フランス語コミュニケーションⅠ	1前		1		○								兼1		
			フランス語コミュニケーションⅡ	1後		1		○								兼1		
			中国語基礎Ⅰ	1前		1		○								兼1		
中国語基礎Ⅱ			1後		1		○								兼1			
中国語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼1			
中国語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼1			
朝鮮語基礎Ⅰ			1前		1		○								兼1			
朝鮮語基礎Ⅱ			1後		1		○								兼1			
朝鮮語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼1			
朝鮮語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼1			
ロシア語基礎Ⅰ			1前		1		○								兼1			
ロシア語基礎Ⅱ			1後		1		○								兼1			
ロシア語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼1			
ロシア語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼1			
日本語リテラシーⅠ			1前		1		○								兼2			
日本語リテラシーⅡ			1後		1		○								兼2			
日本語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼2			
日本語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼2			
発展多言語演習ドイツ語			2前			1	○								兼1			
発展多言語演習中国語			2前			1	○								兼1			
発展多言語演習ラテン語Ⅰ			2前			1	○								兼1			
発展多言語演習ラテン語Ⅱ			2後			1	○								兼1			
日本語コミュニケーションⅢ			2前			1	○								兼1			
日本語リテラシーⅢ			2前			1	○								兼1			
日本語／専門研究			2後			1	○								兼1			
日本語／ビジネス			2後			1	○								兼1			
小計 (36科目)	—	4	24	8	—	—	—	2	1	0	0	0	兼23	—				
保健・体育系	健康・スポーツ／講義	1前・後	1			○								兼1	外国人留学生限定			
	健康・スポーツ／実技	1前	1					○						兼1				
小計 (2科目)	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—				
情報処理系	情報処理	1前	2			○								兼4	外国人留学生限定			
	応用情報処理	1後	2				○							兼1				
小計 (2科目)	—	2	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4	—				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	基礎ゼミナール	1前	2						4						
	発達科学概論	1前	2				○		5	2	1				兼4
	小計(2科目)	—	4	0	0		—		8	2	1	0	0		兼4
専門共通科目	インスタラクショナルデザイン	3前		2			○		1		1				
	インターンシップ	3前		2				○	2	1					兼3
	ボランティア体験	3前		2				○	2	1					兼3
	小計(3科目)	—		0	6	0		—	3	2	2	0	0		兼3
学科共通専門科目	地域スポーツ概論	2後		2			○			1					
	地域と健康	3後		2			○								兼1
	社会学概論	1後		2			○								兼1
	環境科学入門	1前		2			○		1	1					
	平和学	2前		2			○			1					
	ネットワークリテラシー	1前		2			○		1						
	カラーコーディネート論	2前		2			○		1						
	社会問題研究	3前		2			○			1					
	教育時事問題研究	3後		2			○			1					
	児童文学	1前		2			○		1						
	ことばとコミュニケーション	2後		2			○			1					
	小計(11科目)	—		0	22	0		—	4	4	0	0	0		兼2
専門科目	スポーツ文化論	2前		2			○		1						
	スポーツ心理学	2後		2			○			1					
	スポーツ社会学	2後	2				○			1					
	スポーツ史	2後	2				○		1						
	ハイオメガニクス	2前	2				○		1						
	運動生理学	1後	2				○		1						
	解剖学	1後		2			○								兼1
	スポーツ栄養学	2後		2			○				1				
	スポーツと発育発達	3前		2			○				1				
	学校と健康	2後		2			○								兼1
	スポーツ指導論	3後	2				○			1					
	スポーツ運動学	2後		2			○				1				
	スポーツマネジメント	3前	2				○			1					
	スポーツ技術・戦術論	3後		2			○			1					
	メンタルマネジメント	3前		2			○				1				
	救急法	2前		2			○								兼1
	野外活動実習	1後		1					1	3					
	ダンス	1後		2							1				
	体操	2後		2							1				
	器械運動	1前	1	2							1				
	陸上競技	2前	1	2							1				
	バレーボール	2前	1	2							1				
	バスケットボール	2後	1	2						1					
	サッカー	2前		1						1					
	ソフトボール	1前		2											兼1
	テニス	1前		3							1				
	ハンドボール	1後		1						1					
	武道	1前	1	2											兼1
	水泳	1前	1	2						1					兼1
	ゴルフ	2前		3						1					
	地域スポーツゼミナール	3通	4					○		1	3	1			
小計(31科目)	—		22	47	0		—		2	3	1	0	0		兼4
環境社会デザイン領域科目	環境科学技術実験	2後		1				○	1	3	1				
	科学技術社会論	2前		2			○			1					
	科学ジャーナリズム論	1後		2			○			1					
	環境とエネルギー	2前		2			○			1					
	環境測定と誤差	2前		2			○			1					
	熱とエントロピー	3後		2			○			1					
	基礎物理学実験	2前		1				○		1					
	環境物理学実験	3後		1				○		1					
	化学物質の機能と環境	2後		2			○		1						
	物性化学概論	2前		2			○		1						
	生活環境化学	3前		2			○		1						
	基礎化学実験	2前		1				○		1					
	化学計測実験	3後		1				○		1					
基礎生物学	2後		2			○				1					
生命科学	生命科学	2前		2			○			1					
	環境社会生物学	3後		2			○			1					
	基礎生命科学実験	2後		1				○		1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手						
専 門 科 目	環 境 社 会 デ ザ イ ン 領 域 科 目	生命科学実験	3後	1				○			1								
		地球表層変動学	2前	2			○						1						
		地球材料学	2後	2			○							1					
		全地球史	2後	2			○								1				
		基礎地球学実験	2前	1					○							1			
		地球地域学実験	3前	1					○								1		
		栽培技術実習	2前	2						○			1						
		住環境論	2前	2				○					1						
		生活工学	2後	2				○					1						
		都市景観論	2後	2				○					1						
		栄養学	2前	2				○						1					
		食環境論	3前	2				○						1					
		子育てネットワーク論	3後	2				○											兼1
		地球市民社会論	2前	2				○							1				
		国際政治学	3前	2				○							1				
		人間安全保障論	3後	2				○							1				
		地球社会学演習	3後	2					○					1					
		自然環境地理学	3前	2				○							1				
		地理情報学	2前	2				○					1						
		世界環境地理学	2前	2				○					1						
		人間社会の地理学	2前	2				○					1						
		比較地域論	2後	2				○					1						
		地理学フィールドワーク	3前	2						○			1						
		地理学演習	3後	2					○				1						兼1
		地域経済論	2前	2				○											
		環境と行政	2後	2				○					1						
		環境と人権	2後	2				○					1						
		法律学	2後	2				○					1						
		法律学演習	3後	2					○				1						
		日本社会史概論	2前	2				○						1					
		近世日本史	2前	2				○						1					
		基礎地域史	2後	2				○						1					
		歴史情報資料学	2後	2				○						1					
		日本史演習	3後	2					○						1				
		環境歴史学	2前	2				○					1						
		世界システム概論	2前	2				○					1						
		ヨーロッパ地域史論	2前	2				○					1						
		外国史演習	3後	2					○				1						
		哲学	2前	2				○											兼1
		社会調査法	2後	2				○											兼1
		東洋史概論	2前	2				○											兼1
		プロジェクト研究	2後	2	2				○				5	6	1				
		ゼミナール	3通	2	2				○				5	6	1				
			小計 (60科目)	—	4	107	0			—			5	6	1	0	0		兼5
		人 間 環 境 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 領 域 科 目	英語コミュニケーション実践Ⅰ	2前		2			○										兼1
			英語コミュニケーション実践Ⅱ	2後		2			○										兼1
パブリック・スピーキング	2前			2			○										兼1		
コミュニケーション・リーディング	3前			2			○										兼1		
コミュニケーション・ライティング	3後			2			○										兼1		
マスメディア英語	2前			2			○				1								
英語集中演習	1後		2					○			1								
行動としての英語コミュニケーション	2前			2			○				1								
英語学	2前			2			○				1								
コミュニケーション音声学	2後			2			○				1								
異文化理解・交流	2後			2			○					1							
異文化コミュニケーション論	3前			2			○					1							
アメリカ文学	3前			2			○					1							
イギリス文学	3前			2			○					1							
現代アメリカ文学	3後			2			○						1						
現代イギリス文学	3後			2			○					1							
社会言語学	2後		2			○						1							
日本語運用基礎論	2前		2			○					1								
	現代文章表現法	2後		2			○					1							
	日本文学概論	2後		2			○					1							
	日本文学研究法	2前		2			○					1							
	テクニカル・ライティング	1後	2				○					1							
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅰ	3前		2			○					1							
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅱ	3前		2			○					1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	情報コミュニケーション学特別講義Ⅲ	3後		2		○			1									
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅳ	3前		2		○				1								
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅴ	3後		2		○				1								
	アルゴリズムとデータ構造	2後		2		○				1								
	数理システム概論	1後		2		○				1								
	線形システム概論	1後		2		○				1								
	情報代数学	2前		2		○				1								
	情報幾何学	2後		2		○					1							
	情報幾何学演習	3後		2		2		○		1								
	応用数学	3前		2		2		○			1							
	数理解析	2前		2		2		○			1							
	情報数学	2前		2		2		○			1							
	情報数学演習	2前		2		2		○			1							
	モデル化とシミュレーション	3後		2		2		○								兼1		
	基本統計	2後		2		2		○			1							
	確率論	3前		2		2		○				1						
	情報集中演習	2前	2			2		○		1	1							
	コンテンツデザイン概論	2前		2		2		○			1							
	コンテンツデザイン演習	2後		2		2		○			1							
	メディア史	2前		2		2		○			1							
	メディア芸術論	2後		2		2		○			1							
	メディアデータ編集法	1後		2		2		○			2							
	マルチメディアシステム	3前		2		2		○			1							
	マルチメディアシステム演習	3前		2		2		○			1							
	メディアコミュニケーション概論	1後		2		2		○			1							
	メディアコミュニケーション演習	2前		2		2		○			1							
	コンピュータ音楽概論	2前		2		2		○								兼2		
	コンピュータ音楽演習	2後		2		2		○			1					兼1		
	プロジェクトマネジメント	3通		2		2		○			1							
	ゼミナール	3通		4		4		○			5	3						
	小計 (54科目)		—	6	104	0		—		8	3	0	0	0		兼6	—	
特別研究		4通	6					○		15	12	2						
小計 (1科目)		—	6	0	0		—		15	12	2	0	0					
合計 (276科目)		—	50	458	8		—		15	12	2	0	0		兼110	—		
学位又は称号		学士 (教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
卒業に必要な単位数 124単位以上 (履修科目の登録の上限: 50単位 (年間))							1 学年の学期区分		2期									
							1 学期の授業期間		15週									
							1 時限の授業時間		90分									
1. 教養教育科目 22単位以上																		
(1) 人文科学系 } 10単位以上																		
(2) 社会科学系 } (ただし, 人文科学系から2単位以上, 社会科学系から2単位以上, 自然科学系																		
(3) 自然科学系 } から																		
(4) 総合科目系 2単位以上																		
(5) 外国語系 6単位以上																		
(6) 保健体育系 2単位																		
(7) 情報処理系 2単位																		
2. 専門科目																		
〔地域スポーツコース〕 61単位以上																		
(1) 学部共通科目 6単位																		
(2) 学科共通科目 8単位																		
(3) 自コース領域科目及び関連科目 41単位以上																		
(4) 特別研究 6単位																		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	〔環境社会デザインコース〕 55単位以上 (1) 学部共通科目 6単位 (2) 学科共通科目 8単位 (3) 自コース領域科目及び関連科目 35単位以上 (4) 特別研究 6単位 〔人間情報コミュニケーションコース〕 56単位以上 (1) 学部共通科目 6単位 (2) 学科共通科目 8単位 (3) 自コース領域科目及び関連科目 36単位以上 (4) 特別研究 6単位 3. 自由選択 本学部の専門科目及び他学部の専門科目の中から修得する。 (教養教育科目の単位を10単位まで含むことができる。) 〔地域スポーツコース〕 41単位以上 〔環境社会デザインコース〕 47単位以上 〔人間情報コミュニケーションコース〕 46単位以上													

授業科目の概要（共同学科等）				
（富山大学教育学部共同教員養成課程，金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文科学系	富山大学	哲学のすすめ	哲学入門として，哲学の主要3分野である(1)形而上学(存在論，人格の同一性，死)，(2)心の哲学(あるいは認識や知覚・概念の哲学)，(3)科学哲学(科学方法論，個別科学の哲学，科学と倫理)のうちから，それぞれ入門的な話題を取り上げる。各セッションの後に，クリティカル・シンキングの時間を設け，哲学的議論を通じて，より内容を深く理解していく。授業やディスカッションを通じて，哲学的思考を養い，自分にとっての哲学的課題が何であるのかを見出すことがねらいである。	
	富山大学	人間と倫理	西洋の古代から近現代までの倫理思想、及び日本・東洋の倫理思想を素材とし、善悪、正義、幸福、人間関係の規範など、古来、人間が取り組んできた「倫理」をめぐる問題について考える。過去の思想を踏まえながら、現代に生きる我々直面する問題にどのように取り組んでいくか、他者とともによりよく生きるためにはどうすればよいかについても、考える。本授業を通して、主体的に倫理について考える姿勢を身に付けることを目的としている。	
	富山大学	こころの科学	心理学の基礎的な5つの領域(認知・学習・社会・感情・人格)を中心に概観し、心の複雑さや不思議さについて理解する。また、心理学に関するさまざまなトピックスを理解することを通して、自らを取り巻く世界や「ものの見方・考え方」を再認識することで、心だけでなく物事を実証的に検討するための姿勢を学び、自分の興味関心のある分野に対して学際的に生かせることを目的とする。	
	富山大学	日本の歴史と社会	日本の歴史の基本的な知識の修得を目的とし、歴史学の研究法や考え方、研究材料の説明を行った後、日本史全般について近年話題となっている事項の解説を随時加える。さらに、富山県の歴史の個別研究を取り上げ、富山県の遺跡・史跡や立山についての説明を加えることで、学生が地域に寄与することを促すとともに、歴史研究のおもしろさを伝える。	
	富山大学	東洋の歴史と社会	東アジアの核をなす中国の歴史を『史記』や『漢書』あるいは『資治通鑑』などの具体的な文献史料を読み解きながらとるとともに、いわゆる中国文化圏ではギリシア・ローマにはじまるヨーロッパのhistoryとは異なる歴史の語りなが長く行われてきたことを講義する。このことは日中韓の三国でしばしば軋轢を生む歴史問題とも無縁ではないが、高校まで学んできず世界史とは違う視点から歴史を考える姿勢を養う。	
	富山大学	西洋の歴史と社会	ヨーロッパを中心に、ローマ帝国、中世ヨーロッパ、ヨーロッパにおけるキリスト教、ルネサンスと科学革命、18世紀における植民地の拡大、産業革命、近代市民社会の形成など、西洋史に関する基礎的な講義を行う。高校までに学んだ世界史の知識を再確認しつつ、一般教養として知っておくべき歴史上の人物についても、適宜説明する。様々な時代の社会の特質を理解することで時代と社会の変化を学び、現代を相対化できる豊かな視点を養う。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文科学系	富山大学	日本文学	日本文学の中で、上代から近世に至る古典の諸作品を取り上げ、その世界の内容と魅力を、その作品が作られた経緯と絡ませて解説する。その作品成立のドラマや作品の見所や古典作品の現代における再生の姿などについても言及する。日本古典文学作品について理解を深めつつ読解の力を養うとともに、それぞれの作品世界に於いて読み味わう方法を身に付け、古典作品の世界に興味・関心を持つことをねらいとする。	
	富山大学	外国文学	西洋古典古代の文学作品を通して、多様な世界の見方と教養を身に付ける。時代も文化も異なる外国の文学作品を理解するためには、文字を読めたところで十分ではない。その作品の背景にある文化、伝統、教養についての知識を持って初めて理解することができる。作品世界に近づくことにより初めて見える世界を知る喜び、作品と対話するおもしろさを体験することで、他者を理解する感性や本を通して読み取ったことを言葉によって表現する力を身に付けることを目的とする。	
	富山大学	言語と文化	本授業科目では、私たちに身近な日本語や富山県の民俗文化などの事例を含む日本語の諸方言や諸現象の多角的な観察と分析を出発点に、英語や時には世界のあまり馴染みのない言語などの諸現象と関連づけ、言語の多様性と普遍性についての理解を深めることをねらいとする。また、富山県の事例を取り上げ、民俗語彙との関わりを重視しながら一瞥し、日本全体における富山県の位置付け、富山県の東西差や地域差を理解する。	
	富山大学	音楽	本講義により一般的に馴染みのない総合芸術と言われる舞台作品に焦点を当てて、作品の背景や作曲家の特徴等を理解するとともに、音楽を楽しむ心、作品を尊重する心を養う。達成目標は次のとおりである。1. 舞台作品の歴史的流れを理解する。2. 作品を鑑賞し、作品の背景や作曲家の特徴、人間関係等を理解する。3. 原作がある場合は相違点を探る。4. 課題となった合唱曲を楽しんで演奏する。	
	富山大学	美術	本授業科目は、人文科学の一領域である美術史学の視点から、美術とは一体、どのような視覚造型表現なのか、美術という芸術分野を主に構成する絵画の基本的な性格とは何なのか、そして、個々の作品を観るためには、どの程度の知識と心構えが必要となるのかを理解してもらうことを目的としている。いわば、現代の教養人が最低限持ち合わせていなくてはならない美術鑑賞作法の入門講義である。その内容は、歴史・理論系の勉学を志す学生のみならず、創作者たらんとする学生にとっても有益となる。	
	富山大学	美術表現A	本授業科目は、モチーフを描く、イメージを描く、正確に描く、といった課題を通して、多様なものの捉え方と伝え方を学ぶことをねらいとする。学生は、各課題における「描く」ことの基本理解についての説明を受けたうえで、各課題の演習に取り組み、最後にその課題を通して見えてくる「ものの捉え方と伝え方」について考える。多様な視点で事象を捉え、さらにそれを多様な手法を用いて表現するという、どのような専門分野の学生にとっても必要となる能力の素養を身につけることを目指す。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	人文科学系	富山大学	美術表現B	本授業科目は、立体的な造形表現を行う上で基本となる基礎的な手法を学ぶことをねらいとする。具体的には、身近な「紙」という素材を用いて様々な形（連続性のある形、強度のある形、積み上げる形等）を表現することに対する理解を深めたうえで、それらの形を表現する演習（紙立体の制作）に取り組む。達成目標は次のとおりである。1. 基本的な彫刻・立体感覚を養い想像力を身に付ける。2. 紙素材の扱い方の技術や、表現の幅を獲得する。3. 審美性や美しい表現について自らの手を動かしながら探れるようになる。	
		富山大学	言語表現	本授業科目では、大学における図書館活用の仕方を体得し、レポート、論文等の作成に関する基礎的な考え方や具体的な技術を学ぶ。達成目標は、1. 大学における図書館活用の方法について基礎的な知識を理解すること。2. 実際にレポート作成の演習を通じて、レポート・論文等の作成技術を身に付けることである。具体的には、レポート・論文が備えるべき要素や「語句」「文」「段落」レベルでの書き方を学び、研究テーマの発想法や取材・選材活動の方法を知ること、推敲・校正の在り方や論文タイトルと論旨規定文の関係や作成レポートに関する批評に関する知識を身に付ける。	
		富山大学	治療の文化史	現代を生きる私たちにとって、伝統的身心観に基づいた治療行為とは、どのように活用されるべきものなのか。食養生、呼吸法、睡眠や夢への向き合い方など、先人たちの取り組みを辿ることを通して、これからの治療のあり方、その可能性について考察していく。治療行為の選択にみる歴史性や、文化的特性を学ぶことを通して、自らの身心に主体的にはたらきかける姿勢を涵養することが、本授業の目的である。	
		富山大学	異文化間コミュニケーション	本授業科目のねらいは、次のとおりである。1. 言語、文化、コミュニケーション学の基礎理論について概観し、自身のコミュニケーション・ストラテジーを自覚する。2. 外国人研究者や留学生をクラスに招き、インタビューや意見交換から異文化交流を体験し、異文化の視点を意識する。3. 異文化に関する各自のテーマを発見し、資料収集や調査等を通じて、問題解決を図る。4. 異文化に関する様々なテーマについて意見交換し、他者の視点から多角的に考え、自身の意見を確立する。	
		富山大学	異文化理解	単に諸外国の文化を理解するだけでなく、異文化を理解することで自国の文化の深い理解に至ることをねらいとしている。異文化コミュニケーションを通して多文化世界と文化の多様性について考える。グローバル化されつつある社会の文化について学び、異文化を理解し、その対応方法を異文化間コミュニケーションとして身に付け、さらに「異文化」を通して「自文化」への理解を深める。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 社会科学系	富山大学	現代社会論	現代社会は様々な事象であふれている。それを読み解く学問である社会学や文化人類学、国際関係論などでは、それぞれの視座・角度から分析がなされている。本講義では、現代社会の見方を知り、自己の関心を知る中で、社会にある事象をそれぞれの興味関心に引き寄せたり、新たな興味関心を掘り起こしたりしつつ、履修者各自の学問的な追究につなげることをねらいとする。	
	富山大学	日本国憲法	憲法の内容と歴史、日本国憲法の特質、人権論、統治機構の基礎事項を理解し、論点を考察する。 自立した市民として、地域で、国際社会で社会生活を送るうえで、最高規範として位置づけられる憲法の価値を活かす能力を身につけられることが長期的なねらいである。そのために、個別のテーマごとに憲法の目指す理念と複数の考え方が対立する現状を理解したうえで、自分なりの意見を持てるようになることを、授業各回のねらいとする。	
	富山大学	国家と市民	本科目は、近代以降における国家と市民のあるべき関係性について、公法学（刑法学・刑事訴訟法学など）または政治学の観点から洞察を深めるものである。たとえば、刑罰適用、先進医科学技術規制または刑事司法制度などの問題点を掘り下げることによって、また「政治的なもの」に体系的かつ分析的にアプローチすることによってである。こうした洞察を深めることにより、市民として国家をどう構成し規律するのかを理論的かつ主体的に考察できるようになることを達成目標とする。	
	富山大学	経済生活と法	経済活動に密接に関連する法分野としては、商法、経済法、国際取引法など様々なものがあり、自由な経済活動の促進を目的とするものも、社会福祉等のためにその抑制を目的とするものもある。本科目は、それらの全体を俯瞰しまたはその一部分を掘り下げることによって、社会・経済の仕組みを法を通して理解するための手がかりを提供するものである。達成目標は次のとおりとする。 ・経済活動と関わりの深い法領域についての基礎知識を修得する。 ・経済活動に関する法制度の課題について、正確な理解に基づいて議論することができる。	
	富山大学	市民生活と法	法の理念と共に、私法を中心とする現代日本法の概要と体系について説明する。どのような職業についても、必ずそれぞれの業界を規制する法律や規則があり、仕事をする上で、知っておくべき知識を学ぶとともに、細かい法令を作り出す、法の理念や市民法体系と考え方をしっかり理解する。達成目標は次のとおりとする。 ・市民生活からビジネスと関わりの深い法領域についての基礎知識を修得する。 ・現代日本法の理念とその体系について理解する。 ・法の理念が法律の解釈を指導していることを理解する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 社会科学系	富山大学	はじめての経済学	<p>経済学の方法論及び基礎概念と現在の日本経済が抱える諸問題を理解することをねらいとし、経済学の特徴、特にミクロ経済学とマクロ経済学の方法論の違いと後者の成り立ちの歴史的背景や経済活動を測る様々な規則、それに基づくGDPなどの基礎概念を学んだ上で、関連した新聞記事や映像を参考にしながら現在の日本経済が抱える諸問題を理解する。最終的には、基本的な経済用語など、経済に関する基礎的知識を理解して、新聞記事に登場する経済時事を説明できるようになることを目標とする。</p>	
	富山大学	産業と経済を学ぶ	<p>21世紀の基本的特徴の一つは、経済が「人間と自然との共生」に向けて変容・転換していくことである。産業構造、消費構造、そして地域構造の高度化に起因して形成してきた悪循環再生産構造を脱却し、その行方は調和型循環社会の実現であろうと考えられることから、本講義では、人間・経済・自然を含む循環社会の視座に立って、産業連関表などのデータ分析を通じて、循環社会の構造的仕組みをその悪循環側面と調和的循環の側面把握することを目指す。</p>	
	富山大学	経営資源のとらえ方	<p>本授業科目のねらいは現代社会における個人の仕事と企業の目的をより正確に理解し、自分のキャリアを考える力を養うところにある。</p> <p>本講義では、企業とその中で働いている従業員の両方の視点から、現代社会を最も象徴する組織である企業はどのような特徴を持っているか、そして企業のビジョンや経営目標を達成するため、企業組織の中で人々はどのように分業し、協調して仕事を進めているか、更に組織内で個々人の仕事がどのように評価されているかというような問題について、具体的な事例を取り上げて解説する。</p>	
	富山大学	市場と企業の関係	<p>本授業科目の目標は、マーケティングの基本的な知識を体系的に修得し、現実問題に対する応用力を養成することにある。本講義においては、環境条件の分析、標的市場の設定、マーケティング・ミックス（製品やサービスなどの提供物）の創造を主軸とするマーケティング・マネジメントの基本を学習することに主眼を置くこととする。マーケティングの基礎理論を体系的に指導することで、マーケティングの実際を伝える新聞や業界誌を読み解く能力やあらゆる組織のマーケティングを分析する視点や洞察力を養成する。</p>	
	富山大学	地域の経済と社会・文化	<p>この授業では、主に日本の様々な地域を題材とし、地理学的な観点から地域の見方や考え方を検討する。</p> <p>担当教員の専門である地理学のごく初歩的な理論や分析手法を紹介するとともに、市街地再開発やまちなか居住促進、観光開発、文化の伝播、景観紛争など、地域に生起する具体的な課題を取り上げ、地域分析により検討する。それらを通して、地域の様々な現象を空間的に捉え、地域の成り立ちや課題について多角的に理解する力を養うことを授業のねらいとする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然科学系	富山大学	自然科学への扉-A	「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、初等的な物理知識（力学・熱学・波動現象・電磁気学・現代物理）の学修を通じ、自然界に起こる物理現象や身の回りにある電気機器などの機能を理解することを目標とする。	
	富山大学	自然科学への扉-B	「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、初等的な化学知識の学修を通じ、現代社会と化学のつながりについて学ぶ。世界を形作っている物質の基本的な性質について理解し、化学物質がもたらす地球上の環境問題を考えることができるようになることを目標とする。	
	富山大学	自然科学への扉-C	「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、自然科学の基盤となっている数学について、高校までの数学との接続も考慮しながら、「集合と写像」「論理の基礎」など、数学の考え方の基礎、微分積分学と線形代数学の初歩、確率統計の基本事項などを、現代数学の視点に立って解説する。これにより、高校までで学ぶ基本的な数学に関する事項を現代数学の視点でとらえ直して理解できることを目指す。	
	富山大学	科学技術への扉-A	「科学技術への扉」の2つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、技術立国の市民としての科学技術の基礎知識と最先端の科学技術への興味・関心の獲得を目的とする。特にこの科目では、エネルギー技術やマテリアル工学についての基礎知識と先端研究を学習する。これにより、エネルギーや材料技術に関する諸現象や社会における役割を理解することを目指す。	
	富山大学	科学技術への扉-B	「科学技術への扉」の2つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、技術立国の市民としての科学技術の基礎知識と最先端の科学技術への興味・関心の獲得を目的とする。特にこの科目では、コンピュータや通信技術、情報処理システム、情報化社会での衣食住について、その先端研究を含めて学習する。これにより、情報化社会で必要となる基礎知識とリテラシーの獲得を目指す。	
	富山大学	生命の世界	アストロバイオロジーの視点で、まず真の生物学とは何かを考える。更に宇宙における生物を構成する物質の形成、地球型生命の誕生から入り、水の性質と生命における水の重要性を理解することを目指す。生物生体膜の性質から細胞の形成を捉え、原核・真核生物を中心に生物大分類の枠組みを理解した後、植物の世界に入り、植物の機能から細胞を理解し、分類の基礎を学び、植物組織を理解した上で裸子植物・被子植物へと植物の進化を学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学系	富山大学	社会と情報の数理	本講義では、投票を集計する制度を数理的に考察する社会選択理論の入門的な議論を行う。我々が安易に実施する多数決の問題点をはじめとし、様々な投票の集計制度の長所と短所を紹介する。投票は我々の意思を表明する場であるが、そこで得られる結論は一般的に集計制度に依存することになることを解説する。本講義を通して、1. 基本的な推論を厳密に行う能力、2. 投票制度を抽象的に考える能力、3. そのメリットや問題点を論理的に議論できる土台を身に付けることを目標とする。	
	富山大学	デザインと生物	様々な生物は、そのかたちを合理的にデザインすることで、生存能力を高め、環境に適応してきた。本講義では、生物学的視点から生物の形態や構造を説明すると同時に、芸術学的視点から、生物のかたちの表現法や美について説明する。これらを通し、生物への理解を深めるとともに、機能美や生物デザインについての知識を得ることを目的とする。	
教養教育科目 医療・健康科学系	富山大学	医療心理学	心の機能について科学的に扱う心理学分野について、基本的な考え方や理論、法則などについて基本的な部分の修得を目指す。具体的には、心理学の基本的な考え方、研究方法、歴史だけではなく、神経生物学的観点から心理学や本能行動と学習行動、生理的動機、内発的動機及び社会的動機、社会的学習、欲求とフラストレーション・葛藤との関連などを解説し、概説できる能力を身に付けることを目標とする。	
	富山大学	概説医療心理学	心の機能について科学的に扱う心理学分野について、基本的な考え方や理論、法則などについて基本的な部分の修得を目指す。具体的には、心理学への導入、歴史や考え方、心理学の分類、研究方法、感覚と知覚、学習、記憶、動機付、適応、欲求とフラストレーション、矯正医療、情動などの基礎的な知識を身に付けることで、各項目の概説ができる知識を身に付けることを目標とする。	
	富山大学	認知科学	人間の知的活動（外界の認識、記憶、推論や意思決定、意識の働き）について、心理学を基礎に、脳科学や計算機科学からの知見と併せて理解する。達成目標は次のとおりとする。1. 人間の認知機能について、その特性を理解する。2. 人間の認知機能について、その研究手法を理解する。3. 人間の認知特性の現実場面への応用について考察できる。認知科学とは何か、また、感覚・知覚の過程、注意、記憶と知識の構造、言語と文章の理解、推論と意思決定、社会的認知、意識と無意識の科学を学ぶとともに、認知科学の応用についても触れる。	
	富山大学	脳科学入門	神経科学の発達に伴い、脳機能に関する研究報告が増加している。これらの研究成果は、新薬開発や臨床への応用が試みられている。しかし、世の中には“脳科学神話”が氾濫し、マスコミをにぎわしている「脳科学」には証明されていないことも多く含まれている。本講義では、脳機能に関する最新の研究成果に触れつつ、感情、注意、記憶などの脳科学研究の実際について知り、その基礎を学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 医療・健康科学系	富山大学	生命科学入門	現代社会における生命科学を理解するうえで必要なエッセンスを学ぶ。生命の起源、生物の多様性と生態系での物質の循環、ライフサイクルと死の概念、遺伝の法則、生物の増殖と生活環、生体内部環境の恒常性と生体防御の機構などを学ぶ。前半は、生命科学の大まかな概念を理解することに重きをおき、後半は、私たちの生活に関わるテーマや発展的なテーマを紹介する。	
	富山大学	免疫学入門	近代免疫学は、マウスとヒトを中心とする医学の一分野として急速に進歩したが、生物の持つ生体防御の機構は、細胞が誕生した時点で既に生じていた。本講義では、細胞が自己と非自己を識別する機構に始まり、植物界・動物界といった広い視点から、生物が持つ生体防御の機構と進化について考察する。また、初期の講義で担当教員が生体防御機構の概説を行った後は、講義受講者が各個にこの分野の関するテーマを定め、チュートリアル形式の講義とする。	
	富山大学	身近な医学	医学を学ぶ必要があるのは医学部の学生だけではない。なぜなら、誰でも医学の恩恵にあずかり、健康で文化的な生活を送る権利があるからである。しかし、医学を学ぼうとしても、専門的な知識を有していないと難解に感じてしまう。本授業科目では、主に医学部の教員により、我々の身近にある疾患等を対象として医学を解説する。本授業科目により、医学についての正しい知識を得て、自分の生活を見直し、正しい予防態度を身に付け、健康維持の大切さを認識することを目的とする。	
	富山大学	障害とアクセシビリティ	今日的な課題を踏まえ、近年の新たな障害観について学ぶことによって、ダイバーシティや異文化に対する理解を深めることを目的とする。大学における障害のある学生への支援についても触れ、共に学ぶ上で必要な理解と配慮についても考える。障害者権利条約や障害者差別解消法などの障害に関する社会的動向や、障害の概念と様々な障害の特性について理解し、実際に必要な支援や配慮について検討するとともに、グループディスカッション等を通じて、社会的な課題への探求心と解決力を養う。	
	富山大学	医療と地域社会	本授業科目ではグローバル（グローバル＋ローカル）な観点から「医療と地域社会」の現在・過去・未来を考察する。この考察は「医療と環境を包括するQOL(生活の質)」理念を導きとし、地域社会の「幸福度」に関する議論およびユネスコの「生命倫理15原則」を参照にする。講義の全体構成は、第I部で「風土と健康」の世界医療史、第II部で富山の医療事情に関する人文社会科学の考察、第III部で医療事情の文化多元論的考察を展開し、最後に「SDGs推進と地域共生社会の模索」に即して「医療と地域社会」の未来像を描く。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	富山大学	環境	環境問題には、大気汚染、騒音、振動、ゴミ問題などの日常生活に関わる問題から、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、更に環境ホルモンなど地球規模の問題まで、非常に広範囲の内容が含まれている。本講義では、いろいろな専門分野の先生による輪講形式で、「環境」に対する多面的、学際的なアプローチを通して、我々の現代生活と環境との関わりを学び、現在及び将来に向けて我々がどのように行動すべきかを考える起点となることを目指す。	
	富山大学	ジェンダー	現代社会のジェンダーに関わる問題について考える視点を確立するとともに、様々な領域におけるジェンダー問題を考える。安易に結論を出すのではなく、問題を多角的にとらえて深く考察する姿勢を育む。ジェンダーに関する通俗的な考え方（例えば「女らしさ」や「男らしさ」に関するステレオタイプなど）を相対化することが最低限の目標とする。また、ジェンダーという問題が現代社会に深く関わっていることを理解する。	
	富山大学	技術と社会	近年の世界は一見、原始時代と異なるように見られるが、基本的には全く変わっていない。火はエネルギーと言葉を換え、道具のものは材料と総称されている。しかし、時代とともに科学は進歩し、火=暖かい=エネルギーという単純な構図から、人間の生死、宇宙の構成そのものをエネルギーで解釈するようになってきている。ここでは深淵で広大なエネルギー理論の解説ではなく、より生活に密着し、日頃の生活の中をふと見回すと、エネルギーがあちこちで生きている事を講義を通して実感することを目的とする。	
	富山大学	現代文化	本講義では、地方における政治参加とまちづくりについて扱う。社会に積極的に関わるためには、その地域が抱える問題を的確につかみ、解決の方向を考え、その実現に向けて動く、という3つの力が欠かせない。「現状把握」「将来構想」「将来実践」と呼べるこれら3つを養うに当たり、授業では、講義とグループワークを通して、good citizenとなるための力を追求する。	
	富山大学	人権と福祉	人権と福祉に関わる様々な問題に対して、多様な視点から問題提起を行うことで、それらへの認識を深める。具体的には、介護の現場に関する知識、日本における先住民問題、歴史からみた在日朝鮮人問題、被差別部落問題、障害者問題などにおける事例を紹介することで、社会でその認識を活かすことができる能力を養うことを目的とする。	
	富山大学	環日本海	本講義では、自然・社会・経済・医療などの様々な視点から、環日本海地域及び日本海沿岸地域について学ぶ。さらに、日本海や対岸諸国、日本海沿岸地域のことについて学び、専門教育での学修に活かす能力を養う。環日本海地域について、自然・社会・経済・経営・医療などの様々な視点から分析する。まずは、北陸3県の産業構造の特徴とその成り立ちを分析し、主要企業を紹介する。次に北陸企業のグローバル化の現状を、アジアを中心にいくつかの企業の事例で紹介する。最後に、狭い分野で日本あるいは世界でのトップシェアを誇る、北陸のニッチトップ企業を紹介する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	富山大学	科学と社会	本講義は2つの講義内容から構成する。一つは、科学の発展や進歩を歴史的に捉えながら、科学の理論や技術の現時点における到達点を、科学を身近に体験してもらいながら多くの実例で解説することである。もう一つは、地球規模のレベルでの環境破壊や環境汚染問題について触れながら、科学の発展そのものに対する理解と評価の目を積極的に養うべく、さまざまな課題を投げかける。科学と社会生活との関わり合いという観点から、現状を再認識及び再確認するとともに未来社会のあるべき姿を展望してもらうことが、本講義の目的である。	
	富山大学	アカデミック・デザイン	本講義では、最後まで真剣に付き合う過程を通して、自己や他者や社会と向き合い、自分が成長できたと実感できることを目指す。①自分を振り返る②アカデミックな学び③虚偽と欺瞞に満ちた世界と向き合う④大学精神の堅持を学ぶ。具体的には、富山県と五福キャンパス（学問体系）、大学で何を誰に学ぶのか（真の学問）、なぜ“Education first”なのか（偏見と差別）、自由研究って何だったんだろう（学問の創造性）、学問の中立性とは何か（学問と政治）などの事例を紹介する。	
	富山大学	ビジネス思考	自らの職業（進路）を考える際には、実際の社会やビジネスの仕組み、そしてそこで働く人々の情報が不可欠です。しかしながら、情報が不足している中で、卒業が近づくと学生は自らの職業を選択することが求められる。本講義では、将来の職業選択に備え、次の講義内容を設定する。1. ビジネス思考とは何かを考える。2. ビジネスの仕組みを学ぶ。3. ソーシャルビジネスを考える。4. ビジネス現場の実際を学ぶ。5. 私にとって職業とは何か。人生や社会との関わりの中で、「職業とは何か」について知る。自らの人生体験を振り返りながら職業が持つ意義を考える。	
	富山大学	データサイエンスの世界	様々な分野において資料やデータがどのように利活用されているかを学ぶことを通じて、今後の社会で活躍するにはデータサイエンスの素養を持つことが重要であることを理解することを目標とする。大学の各部署または外部機関から講師を招き、その専門分野でのデータ利活用の実際とデータを適切に扱うことの重要性及びそこで用いられるデータサイエンスの技術につき学ぶ。	
	富山大学	データサイエンスの 実践	データを利活用するにあたっては、統計、コンピュータを用いたデータ処理、プログラミング基礎等の知識と技術が重要になる。本授業では必修科目である「情報処理」で学んだIT技術をベースとして、それをさらに発展させたデータサイエンスの基礎技術を身につけることを目標とする。LMSを用いたオンデマンド型の授業で理論を学び、それを端末室での対面授業で実践する形式で授業を行う。	
	富山大学	教養としての都市デザイン学	21世紀は都市の時代と言われ、2050年には世界の人口の7割が都市に居住すると予測されています。また、世界は少子・高齢化、地球温暖化という問題に直面しています。したがって、人口問題、環境問題に対応する、「持続可能な都市の実現」は、人類共通の課題となっています。この授業では、はじめに、現在世界が直面している共通の課題について学びます。そのあとで「持続可能な都市の実現」とはどのようなことなのか、そのためにはどのように都市をデザインすべきなのか、実践例を通して学びます。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	富山大学	SDGs入門	この科目では、SDGs (sustainable development goals) という、2015年9月25日、第70回国連総会において採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」の内容を学びます。「持続可能な開発目標」(SDGs)とされているのは、17の目標に当たります。この全体像を把握し、また一部についてそれぞれの専門分野の教員から解説を受け、これからの日本や世界を生きて行くみなさんにSDGsを意識した「ものの見方」を身につけてもらいたいと意図しています。学内の教員が持ち回りで専門分野とSDGとの関連に触れながら講義形式で紹介します。	
	富山大学	平和学入門	平和は、平和でないときに初めて実感できるものである。しかし、平和が損なわれているとき、それが何かを考える暇はない。力の前に脆く、その歴史は短く、求める人の声がかき消されがちである。平和を考えることは、平和な社会に生きている者が得られる特権であり、また責任でもあることから、本講義では、平和を真剣に考え、実現するために、現代世界が抱えている問題を的確につかみ、あるべき世界の姿を描き、その実現に向けて動く力を身に付ける。	
	富山大学	東アジア共同体論－政治・経済・文化－	本授業科目は、富山大学の学部の枠を超えた多様な学問領域である国際経済学、国際経営論、国際政治、歴史、観光、環境、国際政治から見た地域統合、金融危機の影響、アジアの社会福祉、国際分業の方向性、観光政策、歴史認識、文化政策などの多様な内容を取り挙げる。アジア共同体論の背景と関連した政治、経済、文化の現状を知るとともに、東アジアの地域統合に向けた現状の動きに関する基礎的な知識を理解する。	
	富山大学	富山から考える震災・復興学	本授業科目においては、被災地の災害や復興の現状や今後の計画について、富山という地点・視点から主体的、積極的に学び、今一度大震災を認識し、多角的な観点から考察する。そして、被災地との連帯感を高め、自分たちのありようを主体的に考えることが目標である。また、今後の人生の中で、東日本大震災のような未曾有な災害が発生した時の心構えについて学び、東日本大震災について、文系および理系から多角的に考える。様々なアクティブラーニング（主体的学習）により、発言力・傾聴力・論理的思考力を高める。	
	富山大学	環境と安全管理	本授業科目では、環境マネジメントシステムについての理解を深め、環境に関連した法律についての知識や、国内外の環境問題について概要を解説するとともに、公害や労働災害の事例紹介や環境に関連した法律・国際条約、リスクマネジメントや安全衛生についても取り扱う。身の回りの環境に配慮した生活を行うために必要な知識や考え方を身に付ける。特に、環境問題や省エネルギー、リサイクルなどについて具体的な提案や取り組みができるようになることを目指す。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目目	富山大学	万葉学	<p>現存する日本最古の和歌集である「万葉集」は世界に誇るべき文化遺産である。それは日本文学の原点であり、日本人の心のふるさとである。本授業科目では、「万葉集」の時代区分に従って、それぞれの時代の代表的な歌人を取りあげて、有名な歌を中心に代表作を深く読み込んでいく。日本文学の原点である「万葉集」を代表的な歌人とその代表作を中心に読み進め、その時代区分ごとの特徴等を学ぶことによって、古代文学の豊かさやおもしろさを知り、日本文学史の主流であった和歌の世界の原点を知ることができる。</p>	
	富山大学	日本海学	<p>富山県は、環日本海地域全体を、日本海を共有する一つのまとまりのある圏域として捉え、過去、現在、将来にわたる本地域の人間と自然との関わりや地域間の人間との関わりを、総合学として学際的に研究しようと「日本海学」を推進している。本講義では、この日本海学と連携を保ちながら、自然科学と経済学の視点から様々な角度で北東アジアの環境を取り上げる。本地域の自然の価値を再認識し、環境問題のメカニズムや原因を知り、そして問題解決に関わる手法について理解を深め、北東アジア地域における人と自然との在り方について、自分なりの考え方ができるようになることを目標とする。</p>	
	富山大学	富山大学学	<p>明治期以降の全国及び富山県における高等、中等教育機関設置に向けての動きを踏まえながら、旧富山大学の各前身校、戦後の新制富山大、富山医科薬科大学、高岡短期大学、そして三大学の統合による新富山大学設置から現在に至るまでの富山大学の歩み（歴史、教育、研究、社会貢献等）の理解を深める。これを受け、各学部の歩み（歴史、教育、研究、社会貢献等）を学び、社会的使命感を持つことを目指す。さらに、富山大学のこれまでの歩みを知り、その概要を説明できるようになる。</p>	
	富山大学	とやま地域学	<p>本授業科目は、大学コンソーシアム実施科目として、富山国際大学が主催となり富山県内高等教育機関の全ての学生を履修対象者として開講する。本講義では、3つの分野から富山について学ぶ。一つは富山の歴史・文化、産業を歴史的な視点から学ぶ。次に富山の特徴でもある自然環境に着目し、水、災害、くらしなどから富山の特徴を学ぶ。これらを踏まえ、富山の将来を展望するため、富山県のデータ分析や富山県知事の政策をお聞きしながら、年配の方から若者まで活力ある富山の地域づくりについて各自が考える。</p>	
	富山大学	時事的問題	<p>本授業科目では、社会がデジタルネットワークの発達により大きく変革しようとしている21世紀に、どのような視点と考え方そして行動が求められているか、いかに学修することが重要であるかを今後の大学生活に新しい視点を与える講義である。各界で研鑽と活躍をしている方の経験を事例として、その方の人生観も含めて解説することで、学生生活の価値を上げるための考え方を伝達する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目目	富山大学	災害救援ボランティア論	本授業科目では、災害救援ボランティア育成のカリキュラムをコアに、富山県の災害と防災対策、富山大学の研究者による独自の研究内容などを加えて、地域防災においてリーダーシップを発揮できる人材となるための学修を提供する。講義においては、危機管理医学や災害ボランティア活動の基本、地形と災害の予測、都市における減災対策、災害時の医療救援活動などを学ぶ。実習においては、普通救命(心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法)や倒れている人をどう救うかというトレーニングを実施する。	
	富山大学	感性をはぐくむ	「感性をはぐくむ」と言うキーワードを基に、芸術やデザイン、人の脳や生理、哲学など各教員の専門分野からの切り口で「感性」について考察する。豊かな感性をはぐくむために自然や社会の中に存在するいろいろな要素について考察を深める。各分野の教員から言及される感性に対しての考え方を理解し、感覚や精神が果たす役割を生活の中で意識して考えられるようになること、人の持つ感性の多様性や豊かな感性から生まれるものの可能性を知り、充実した人生を切り開くための糧に出来ることを目標とする。	
	富山大学	日本事情／芸術文化	本授業科目では、日本の文化や芸術について、伝統的なものから現代のものまで幅広く扱う。様々な日本の文化に触れ、日本文化への理解を深めるとともに、母国の文化を客観的に見る目を養うことを目指す。最初の4回は、インターネットを使って、伝統芸能、美術、音楽などの芸術や文化をテーマに情報を収集し、各自レポートを作成し、グループごとにポスター発表する。これらを通じて芸術や文化に関わる基礎知識を得る。視聴覚教材の利用、書道や華道については実技、民謡や落語では実演を通して、日本文化への理解を深める。	
	富山大学	日本事情／自然社会	本授業科目では、統計資料や視聴覚教材を利用しながら、日本の自然、産業、社会、文化等についての理解を深め、世界と照らし合わせて、北陸地方や富山の事情についても学ぶ。具体的なテーマとしては、日本の化学と工業、環日本海地域における環境協力、日本に分布する昆虫の多様性、小泉八雲と日本の自然、木育と食育、漆ジャパンと各国の漆事情、日本の素粒子物理学への貢献、日本のパワーエレクトロニクス技術、北陸の産業と企業、日本の地殻変動と海底資源、日本のパワーエレクトロニクス技術などについて解説する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	富山大学	学士力・人間力基礎	本学学生が入学後の早い段階で、在学中の学修や学生生活に関する基礎や展望を学び、高い使命感と創造力のある人材となる必要性を意識することは、今後、大学生を送る上で非常に有益である。本授業では、多様な個性や経験を有した履修者全員が、自ら学修上や学生生活上の計画を立てて、正課内外及び学内外において主体的に学びや取組みを実践できるよう指導・支援する観点から、多種多様な事象や知見等に対して学生が能動的に向き合い、理解し、責任を持って自己を管理する重要性を学ぶ機会を提供する。	
	富山大学	富山学	「富山県」という地域が、どのような自然的・文化社会的基盤の上に成り立ってきたのか、その過去・現在・未来について理解を深める。さらに、富山県が世界や日本の中でどのような独自性・固有性を打ち立てているのかを理解し、地域の課題解決や活性化に向けて学生自らが考え、行動する意識を持つようになることを狙いとする。また、フィールドワークや地域の人々との対話を通して富山の歴史的・文化的な成り立ちと現状について理解し、住環境や生活にみられる富山の価値に対する理解を深める。	
	富山大学	地域ライフプラン	本授業科目は、富山県内の各地方公共団体と連携し、地域の人々と対話する機会を提供することにより、地元富山への意識・愛情・愛着を醸成し、地域における自らのライフプランを想定・作成することを目的としている。地域の魅力や課題などを地方公共団体における施策を事例として取り上げることで、富山に住むというライフプランを具体的に想定したり、単に「住む」を超えて地域に求められる人材として地域課題にコミットするために必要な意欲や見識とはどのようなものかを考えることを促す。	
	富山大学	産業観光学	産業観光とは、産業活動に触れることを通じて製品の製造工程などを見学・体験し、知的好奇心を満足させる観光活動のことであり、企業にとっても信頼感を増し、新たな顧客の開拓や将来の人材育成、地域貢献につながる活動である。本授業科目では、産業観光や富山の産業構造を理解すると同時に、産業観光を実際に体験することで、現在の富山県内企業を知り、富山県の既存産業の再生や新たな産業を創生することで発展してきた富山の地域イノベーションを理解することで、県内企業が共通して求める「進取の気性」「富山県を愛する心」を涵養する。	
	富山大学	富山のものづくり概論	本授業科目は、富山の重要産業の一つである素材産業を題材にして、その歴史や現状を工学的視点で理解し、富山のものづくりの魅力を学ぶ。到達目標は次のとおりとする。1. 身の回りにある製品に使われている素材の種類と機能を説明できること、2. 富山の素材産業の特徴を説明できること、ならびに3. アルミニウム製品の特徴が説明できることを到達目標とする。さらに、現場技術者との対話の場を設けて富山のものづくりの底力と魅力そして発展性を理解し、富山でのものづくりに強い興味を持たせる構成とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目系	富山大学	富山の地域づくり	富山県や市町村などの地方公共団体や国は、我々が暮らすまちを住みよいものにするために、様々なサービスを提供している。かつて、まちづくりは御上が行うもので、市民がそれに対して意見を出したり、自分たちでまちづくりに取り組んだりすることはなかった。しかし、現在では行政は市民の声を取り上げたり、まちづくりへの市民の参画を呼びかけたりしている。そのような流れの中、国土交通省、富山県、富山市、高岡市、魚津市はどのようなまちづくりに取り組んでいるのかを事例として取り上げる。	
	富山大学	薬都とやま学	300年以上の歴史を有する「くすりの富山」の始まりは配置薬業である。配置薬業が基盤となり、現在の富山県は「薬都とやま」として、製薬産業に加えて多様な製薬関連産業が発達している。本授業では、全国的に例をみない「薬都」について、医薬理工学および人文社会的見地から多角的に紹介・考察し、富山県の特長を学ぶ機会を提供する。	
教養教育科目 外国語系	富山大学	ESP I (Level-based)	本授業では、高校までに習得した英語力の基盤の上に、習熟度別に編成したクラスにおいて、「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと（遣り取り）」「話すこと（発表）」の四技能・五領域についてバランスよく能力を伸ばすことを目標とし、後期開講のESP IIへの授業選択のための礎を構築し、さらにはその先にある、将来の専門教育に向けての基礎力を養うことを目指す。	
	富山大学	ESP II (Interest-based)	前期ESP I および基盤英語 I で鍛えた英語の四技能五領域におけるスキルについて、以下の方法でさらにそれらを伸ばし、2年次以降の専門課程に必要な英語力にかなげることを目標とする。 1) 担当教員の得意・専門分野ごとに「テーマ」を設定する。 2) 受講生は各自興味のある「テーマ」の授業を選択する。 3) 教員はテーマごとに受講生の興味を喚起させ、そのテーマに関する英語表現の習得を中心に英語力を向上させる。	
	富山大学	基盤英語 I	本授業では以下の2つの目標を設定し授業を展開する。 1) e-ラーニングを活用したTOEIC得点アップ [受講生]4月受験時の得点に対し、各受講生が5%から10%の得点アップを目標値として設定し、その目標達成にむけて大学が整備したeラーニングを活用する。 [教員] 各受講生のeラーニングの学習ログを点検しつつ、各担当者の方で受講生のeラーニングを支援する。eラーニングの学修状況を一定の割合で成績に加味する。 2) 英語の「読み」の方略の習得と「ライティング力」向上 習熟度別に緩やかに選定したテキスト群から教員はレベルに合致したものを選定し、各自のアプローチによって上記の目標を達成する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	基盤英語Ⅱ	本授業では以下の2つの目標を設定し授業を展開する。 1) e-ラーニングを活用したTOEIC得点アップ [受講生]4月受験時の得点に対し、各受講生が5%から10%の得点アップを目標値として設定し、その目標達成にむけて大学が整備したe-ラーニングを活用する。 [教員] 各受講生のe-ラーニングの学習ログを点検しつつ、各担当者の方で受講生のe-ラーニングを支援する。1月受験TOEIC得点と4月得点の伸びを一定の割合で成績に加味する。 2) 英語の「発信力」向上 習熟度別に緩やかに選定したテキスト群から教員はレベルに合致したものを選定し、各自のアプローチによって上記の目標を達成する。	
	富山大学	ドイツ語基礎Ⅰ	基本的なドイツ語の文法の規則を理解して応用できるようになることがねらいである。本講義では、教科書で学んだドイツ語の文法事項を基に、簡単なドイツ語の文を現在形で作ることができるようになること、辞書を使いながらドイツ語が理解できるようになることを目標とする。動詞の現在人称変化、名詞と冠詞、不規則変化動詞、命令形、冠詞類、疑問代名詞、人称代名詞、前置詞、形容詞、分離動詞、不定詞句、従属接続詞の知識を修得し、整理しながら授業をすすめる。	
	富山大学	ドイツ語基礎Ⅱ	ドイツ語基礎Ⅰで身に付けた能力を前提に、更に高度なドイツ語の文法の規則を理解して応用することがねらいである。教科書で学んだドイツ語の文法事項を基に、複合動詞や再帰動詞を使った文、受動形、副文など、より複雑なドイツ語の文を作ることができるようになることを目標とする。比較変化、話法の助動詞、話法の助動詞・未来形、従属接続詞、分離動詞、非分離動詞、zu不定詞句、再帰動詞、分詞、関係代名詞、不定関係代名詞、受動形の知識を修得し、整理しながら授業を進める。	
	富山大学	ドイツ語コミュニケーションⅠ	ドイツ語の基礎を学ぶ。単語の発音練習や簡単な会話的表現の口頭練習と、辞書を引ながら文章を読解する練習を2つの柱として授業を進める。ドイツ語のアルファベットや単語を発音できる。基本語彙を習得して、簡単なドイツ語文を読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭または筆記で表現できる。さらに、ドイツ語およびドイツ語圏、ヨーロッパ文化について、ある程度の知識を獲得する。	
	富山大学	ドイツ語コミュニケーションⅡ	ドイツ語基礎Ⅰ（入門修了程度）で身に付ける能力を前提に、単語の発音練習や簡単な会話表現の口頭練習と、辞書を引ながら文章を読解する練習を2つの柱として授業を進める。基本語彙をさらに修得して、前期よりは少し難しいドイツ語文でも読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭又は筆記で表現できるようになることを目標とする。また、ドイツ語及びドイツ語圏、ヨーロッパ文化についての知識を更に増やす。	
	富山大学	フランス語基礎Ⅰ	フランス語を初めて学ぶ方を対象に、アルファベットの読み方から文の組み立て方まで、フランス語の決まりを解説する。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験5級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を更に固めると同時に、日常生活に必要な会話表現を理解し、運用できるようになる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	フランス語基礎Ⅱ	フランス語基礎Ⅰで身に付けた能力（入門修了程度）を前提に、日常生活に必要な会話表現を、さらに深く学ぶ。本授業科目の履修により実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要な基本的な会話表現を理解できるようにする。	
	富山大学	フランス語コミュニケーションⅠ	フランス語を初めて学ぶ方を対象に、アルファベットの読み方から始め、発音の基礎を解説すると同時に、日常生活に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験5級合格程度の実力が身に付けられることを目標とし、併せてフランス人やフランスの文化についての知識も深める。毎回の授業では、場面に応じた会話を聴き、フランス語の会話表現、新しい単語の発音・意味・用法などについて解説する。最後に、ペアを組んで会話を復唱しながら練習することで、会話する力を身に付ける。	
	富山大学	フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語基礎Ⅰで身に付けた能力（入門修了程度）を前提に、日常生活に必要な会話表現を、さらに深く学ぶ。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を更に固めると同時に、日常生活に必要な会話表現を理解し運用できる。後期修了の時点で、実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力を身に付ける。前期同様、毎回の授業では、場面に応じた会話を聴き、フランス語の会話表現、新しい単語の発音・意味・用法などについて解説する。最後に、ペアを組んで会話を復唱しながら練習することで、会話する力を身に付ける。	
	富山大学	中国語基礎Ⅰ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。ピンインと呼ばれる発音記号に基づき、声調を含めて正確な発音の方法を学修する。次に、基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学修し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身に付ける。テキストに沿って肯定文、否定文、疑問文や動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文といった文の基本構造や時間表現などの初歩的な文法を学んで理解し活用できるようにすることを旨とする。	
	富山大学	中国語基礎Ⅱ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。ピンインと呼ばれる発音記号に基づき、声調を含めて正確な発音の方法を学修する。次に、基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学修し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身に付ける。テキストに沿って前置詞・助詞・助動詞・補語などの基本構造や比較・使役・受身などの文法を学んで理解し活用できるようにすることを旨とする。	
	富山大学	中国語コミュニケーションⅠ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。本授業科目では、基本的な会話文の理解と発音練習、例文を中心とした言い回しの解説、ヒアリング・スピーキングなど表現の練習のサイクルを繰り返し行う。これらを通し、発音をマスターすることを目指す。また、言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などの映像教材も利用する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	中国語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、テキストの本文や例文の朗読を通して、ピンインの読み方を繰り返し復習し、中国語がより正確に発音できるようになることを目指す。併せて、自己紹介や簡単な旅行会話や手紙文などの中国語表現を修得する。基本的な会話文の理解と発音練習、例文を中心とした言い回しの解説、ヒアリング・スピーキングの練習のサイクルを繰り返すことにより、発音をマスターすることを目指す。また、言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などの映像教材も利用する。	
	富山大学	朝鮮語基礎Ⅰ	本授業科目では、文法の理解と修得に比重を置き、文字の読み書き、発音のルール、現在終止形、否定表現、疑問表現を解説する。これらを学ぶことで、朝鮮語の文字、発音、短い文章を理解し、作文できるようにすること、また、朝鮮語を表す文字であるハングルを修得し、作文できるようにすることを目指す。また、朝鮮語の基礎を学ぶと同時に、言葉の学修を通じてその背景にある文化についても取り上げる。	
	富山大学	朝鮮語基礎Ⅱ	本授業科目では、朝鮮語基礎Ⅰで身に付けた能力を前提に、文法の理解と修得に比重を置く。連体形、接続形、補助用言、待遇法[上称・略待上称・下称・略待]、尊待表現、未来終止形、間接話法を解説する。これらを学ぶことで、複雑な文法を理解し、表現の幅を広げるとともに、音の連続である朝鮮語を聞いて、意味のまとまりに区切る力を養うことを目標とする。また、朝鮮語の基礎を学ぶと同時に、言葉の学修を通じてその背景にある文化についても取り上げる。	
	富山大学	朝鮮語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、言語知識の基礎を学びながら、韓国語、韓国の社会・文化に触れるとともに、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)を総合的に学修することで、韓国語能力試験(TOPIK 1)の合格を目指す。具体的には、韓国語の概説、文字、助詞、指定詞、存在詞、位置名詞、否定形、不可能形、数詞についてを学んだ後、挨拶や感謝の言葉、有声音化を学んだ後、定型的な謝罪や電話のかけ方、日付を尋ねる、地図を見ながらの簡単な会話を身に付ける。	
	富山大学	朝鮮語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、朝鮮語コミュニケーションⅠで身に付けた能力を前提に、韓国語、韓国の社会・文化に触れるとともに、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)を総合的に学修することで、韓国語能力試験(TOPIK 1)の合格を目指す。具体的には、日常生活における会話を学んだ後、日記の書き方や朗読を通して、作文や発音を学ぶ。また、韓国の映画やドラマ、歌を用いて、台詞の社会的・文化的背景を考察する。	
	富山大学	ロシア語基礎Ⅰ	現代ロシア語の初級文法を学修する。ロシア語のアルファベットの読み方・書き方からはじめ、名詞の性・数と格変化、人称、所有代名詞、動詞の活用、形容詞・副詞の使い方など初歩的な事項を修得する。ロシア語のアルファベットの読み方・書き方を学ぶことや基本的な文法を理解し、短文が書けるようになることを目指すとともに、ロシア語の語彙力をつけ、簡単な文の意味が理解できる能力を養う。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	ロシア語基礎Ⅱ	現代ロシア語の初級文法を学修する。「ロシア語基礎Ⅰ」で身に付けた能力を前提に、定動詞と不定動詞、動詞の未来形、完了体と不完了体、数詞を使った表現など、より高度な文法事項を修得する。本的な文法を理解し、短文が書けるようになることを目指すとともに、ロシア語の語彙力をつけ、簡単な文の意味が理解できる能力を養う。また、辞書で単語を調べることができるようになる。	
	富山大学	ロシア語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、ロシア語の文字、音声、アクセント、イントネーションなどの基礎知識を学び、その上で、挨拶・自己紹介・家族紹介などの慣用表現を学修する。日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、活用できる能力を身に付ける。毎回、発音練習、ヒアリングから始め、テキストに沿ってペアワーク、ロールプレイ、口頭練習を繰り返す。教科書を使って単語からフレーズへ、フレーズからミニテキストへと徐々に難度を高めていき、毎回の小テストや課題を通し、理解度をチェックする。	
	富山大学	ロシア語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、「ロシア語コミュニケーションⅠ」で身に付けた能力を前提に、ロシア語の音声、アクセント、イントネーションなどを反復学修する。また、語彙力・文法能力の向上に合わせて、ロシアへ旅行すると想定し、どのように場所を尋ねるか、どのようにお店や市場で買い物するかなどをシミュレーションしながら、高度なロシア語会話ができるようになることを目指す。毎回、発音練習、ヒアリングから始め、テキストに沿って、ペアワーク、ロールプレイ、口頭練習を繰り返す。教科書を使って単語からフレーズへ、フレーズからミニテキストへと徐々に難度を高めていき、毎回の小テストや課題を通し、理解度をチェックする。	
	富山大学	日本語リテラシーⅠ	本授業科目は、外国人留学生を対象にした授業科目であり、大学での学修に必要な日本語力、特に「読む」「書く」力と日本語でレポートや小論文を書くために基礎的能力を養う。論理的な思考及び論理的な文章の展開方法などを学び、テーマに沿ってレポートや小論文を書くための適切な文や文章を書くことができることを達成目標とする。具体的には、説明的・論述的な文章を読んで、その内容を正しく理解するとともに、文章の構成や論理の組み立て方などを学ぶ。	
	富山大学	日本語リテラシーⅡ	本授業科目は、外国人留学生を対象にした授業科目であり、日本語で理工系の専門科目の授業を受講する際に必要となる科学技術用語の修得を目標とする。本授業科目の履修により、専門教育の授業科目を履修する際に必要な専門的な教科書に対する読解力、レポートを作成する能力、基礎的な科学技術用語の語彙（専門用語）を身に付ける。また、日本語特有の言い回しや、適切な言葉の選び方を学ぶとともに、専門用語を使うに当たりニュアンスの違いや日常会話で使われる言葉との使い分けを身に付ける。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	日本語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、アカデミック・ジャパニーズを軸に学ぶことで、学生生活に必要な大学での勉学や研究に寄与する日本語を修得する。論文の読解を中心に授業を進めることで、必要に応じて自分で情報収集や考察する。その上で、適宜「読む」「聞く」「話す」「書く」あるいは文化的なことがらを含めた総合的な「日本語」の修得を目指す。特に、「話す」では、自分の調べたことや考えたことを人の前で話すというパブリック・スピーキングのトレーニングをする。なお、本授業科目は外国人留学生を対象とした授業科目である。	
	富山大学	日本語コミュニケーションⅡ	「日本語コミュニケーションⅠ」で身に付けた能力を前提に、本授業科目では、更にアカデミック・ジャパニーズを軸に発展的実践的に学ぶ。それにより、今後の大学生活における大学生としての勉学と研究に寄与するような日本語を修得する。読解を中心に授業を進めているが、必要に応じて自分で情報収集や考察する。また、「読む」以外の「聞く」・「話す」・「書く」あるいは文化的なことがらを含めた総合的な「日本語」の修得も目指す。自分で調べたことや考えたことを、人前で口頭発表ができるようになることもねらいである。なお、本授業科目は外国人留学生を対象とした授業科目である。	
	富山大学	発展多言語演習ドイツ語	本授業科目は、1年次にドイツ語に関する科目を2単位修得することを基礎履修要件とする。ドイツ語を続けたい、オペラ、ドイツ文化に関心ある者に対し、オペラを題材にドイツ語のより複雑な言い回しを学ぶ。一年次に学んだドイツ語の力をさらに発展させ、ドイツ語圏の文化や実用的教養の一つとしてオペラ鑑賞に親しむことをねらいとする。オペラを通してドイツ語の発音やリズムに慣れ、歌詞に現れた語彙・構文を学修し、ドイツ語の語彙・表現力を増やすことで、ドイツ文化・歴史及び芸術と社会の関係について理解を深める。	
	富山大学	発展多言語演習中国語	本授業科目は、1年次に中国語に関する科目を2単位修得することを基礎履修要件とする。会話力、表現力、読解力のさらなる向上を目指す。ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話すの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させる。中級程度の読む、聞く、話すの中国語の運用能力を身に付け使いこなせるようにするとともに、文章が正しく理解できること、日常会話力が身に付くこと、中国語の文法を体系的に理解し応用できることを目指す。	
	富山大学	日本語コミュニケーションⅢ	大学での研究活動に必要な日本語力の育成を目指す。自分の興味ある分野や専門分野に関連のあるテーマを選定し、そのテーマについて書かれた文章を読み、語彙や表現を増やす。テーマに基づいたアンケート調査を行い、口頭発表する。調査結果について口頭発表することで、協同的活動が効果的にできるとともに、自己評価や他者の評価を通して建設的な意見を述べる能力を身に付ける。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	外国語系	富山大学	日本語／専門研究	外国人留学生を対象として、本授業科目では、大学で学修・研究活動する上で必要な科学技術文章に対する、読む・書く・聞く・話す能力を向上することを目的とする。ここでは、それぞれの専攻する専門分野だけでなく、一般的な科学技術文章も教材として用い、内容を正しく理解する力及び同じ専門分野の人以外にもわかりやすく伝えるための力を養う。様々な分野の教材から科学技術文章を学び、読解力をつけるとともに、科学技術文章をレポート形式でまとめることやスピーチのために構成する能力を身に付ける。	
		富山大学	健康・スポーツ／講義	現代社会におけるスポーツの現状と課題について学び、そこから現代社会におけるスポーツの意義について、スポーツ原理、スポーツ史、スポーツ社会学の視点から考察する。また、運動や種々の環境に対する身体適応、各ライフステージでの健康・体力の維持や向上のために必要な運動処方に関する最新の知識と、その実践方法について学修する。また、発育発達や加齢によるヒトの身体の生理学的変化や運動に対する身体適応の差異を学ぶことで人間理解、他者を理解する能力を養う。	
	保健・体育系	富山大学	健康・スポーツ／実技	若い時からの運動は将来の生活習慣発症予防に効果的であることが明らかとなっているが、全ての種類の身体活動やスポーツにその効果が認められているわけではない。過激なスポーツや運動は、時として健康に対し悪影響を及ぼすし、低レベルの運動負荷では効果が認められないこともある。本授業科目では、健康・体力づくりに効果的な運動に関する基礎的な知識を修得するとともに、各自で運動プログラムを作成し、トレーニングを行う。	
		富山大学	情報処理	本授業科目は、大学生に必要とされる情報リテラシーとして、情報とネットワーク・システム環境の習熟・活用、インターネット通信に関するITスキルの修得と、学習・研究に活用できる文書処理・データ処理・表現技術などのアカデミック・スキルを身に付けることを目標とする。大学のIT設備やネットワークを活用し、表計算ソフト等を用いてデータの集計やグラフを作成するなどの能力を養うとともに、情報セキュリティやルール、マナー等の基礎知識を有し、情報倫理を遵守し、情報の管理・安全を確保することができることを目指す。	
	情報処理系	富山大学	応用情報処理	近年の急速にビッグデータ化する情報化社会において、より専門的な情報通信技術(ICT)のスキルを有する人材が求められている。本授業科目では、情報処理において身に付けた技術を応用し、Cプログラミング、HTML&CSS、UNIXなどの入門を学ぶ。具体的にUNIXを例を挙げると、UNIX系OSの基本的な概念の解説とコマンドライン操作を通して、教養教育科目としてのUNIX、Linuxの初歩を学ぶことができる内容とする。	
		富山大学	情報処理	本授業科目は、大学生に必要とされる情報リテラシーとして、情報とネットワーク・システム環境の習熟・活用、インターネット通信に関するITスキルの修得と、学習・研究に活用できる文書処理・データ処理・表現技術などのアカデミック・スキルを身に付けることを目標とする。大学のIT設備やネットワークを活用し、表計算ソフト等を用いてデータの集計やグラフを作成するなどの能力を養うとともに、情報セキュリティやルール、マナー等の基礎知識を有し、情報倫理を遵守し、情報の管理・安全を確保することができることを目指す。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	導入科目	金沢大学	大学・社会生活論	<p>本授業では、学生諸君が大学における学習方法・目的や社会的責任を果たす上で必要な常識・知識などを学んで早期に大学生活のありようを体得すること、さらに大学のなかに自己発見・自己開発の契機が多々存在することに気づき、それらを利用しながら将来イメージをより明確にできるようにすることを目標とする。</p> <p>具体的には、以下を学生の学修目標とする。</p> <p>①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学修態度・学習技術・生活態度及び自己管理能力を身につける</p> <p>②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する</p> <p>③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、大学4年間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようになる</p>		
		金沢大学	データサイエンス基礎	<p>データサイエンスの産業利用が活発な状況で、データサイエンスに関わる基本的知識の習得は重要である。本授業では、これに加え、データサイエンスの学習に必要な学内ネットワークの適切利用、セキュリティ、コンプライアンス・モラル、および基礎的情報リテラシー等を学修する。</p>		
		金沢大学	地域概論	<p>本授業の目標は、所属する学類（一括入試入学者にとっては該当する学域）の専門分野を社会との繋がり、地域への貢献という視点から理解し、学生としての決意を持って、大学4年間の学修をデザインできるようになること。</p> <p>この授業科目を通じて次の学修成果を獲得する。</p> <p>① 学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。</p> <p>② 自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。</p> <p>③ 将来の働く姿を描きつつ、大学4年間の学修を主体的にデザインできるようになること。</p> <p>④ 石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。</p>		
	GS科目	1群（自己の立ち位置を知る）	金沢大学	現代世界への歴史学的アプローチ	<p>現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは、そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており、それを正しく把握できなければ、問題も正しく理解できない。したがって、現代世界の理解のためには、世界史の基本的な知識と歴史学的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識を再確認しつつ、歴史学的発想法・分析視角を学ぶ。</p> <p>獲得した知識と発想法・分析視角を使って、自己の置かれた歴史的状況を正しく認識し、現代世界の問題を読み解くことができるようになることを学修目標とする。</p>	
			金沢大学	グローバル時代の政治経済学	<p>グローバル化が進行する現代社会において、政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあつて、学生はグローバルな政治経済に関する具体的な事例に則しながら、いかにして国際社会に平和を構築していけばいいのかという、人類共通の課題解決に向けた科学的思考を習得する。</p> <p>秩序ある国際社会の構築という、人類共通の課題解決に資する問題発見と問題解決のための科学的思考基盤の習得を学修目標とする。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る）	金沢大学	グローバル時代の社会学	身の回りとその背後にある社会に批判的思考を働かせてみる、社会学という学問の世界に触れる。この講義においては、各回に具体的事例に即しながら、グローバル化する社会や社会学の知識を生かして、社会の中で協働しつつ生きていくあり方を学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・社会学の重要な語句や視点について説明できる。 ・社会学の基本的な見方、考え方を理解している。 ・日常生活の中での経験を、社会学的な視点から分析できる。 ・新しい社会のできごとについて、自ら探求し様々な可能性を考えることができる。	
		金沢大学	ケーススタディによる応用倫理学	個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、医療倫理、工学倫理、企業倫理、環境倫理などの領域において、いくつかの事例を手がかりにして、倫理的問題に対するこのような取り組み方を学ぶ。 応用倫理学を事例を通して学ぶことによって、自ら直面する倫理的問題に対して、事実認識と価値判断を区別し、自らの道徳的感覚に自覚的になることが期待される。	
		金沢大学	地球生物圏と人間	地球はその内部、表層から気圏に至るまで常に動的であり、私たちを含む生物は、その変動する地球の上に暮らしている。本授業では、地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な、地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を学ぶ。 具体的には、以下について学ぶ。 ・地球システムにおける人類の位置づけ ・地球での様々な出来事とプレートテクトニクスの関連 ・地球のダイナミクスと人間社会への影響（特に災害） ・水と大気の動きをと人間社会への影響 ・地球生命史の概略と生命と地球の相互作用 ・種の共存と生物群集の成立のしくみ ・生物集団の進化の仕組み及び種の形成 ・遺伝情報学、分子系統学	
	2群（自己を知り、自己を鍛える）	金沢大学	哲学（自我論）	〈私〉とは何かといった自己をめぐる問いは、日常生活の中で改めて問われることはあまりないが、いざ答えようとしても容易には答えられない難問であり、しかも実は人にとってきわめて切実な問いである。 本授業では自己をめぐる形而上学的、存在論的、認識論的な問題を、代表的な哲学者たちの見解を批判的に検討しながら考察し、自己の本質を探究することで、哲学がどのような学問であるかを知ること、自己の存在と様態、自己同一性、独我論、心身問題など自己をめぐるさまざまな哲学的問題の所在を理解すること、哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶことを目的とする。	
		金沢大学	パーソナリティ心理学	パーソナリティ心理学は、人間の性格に関するさまざまな問題を科学的に研究することを目的とする分野で、現代心理学のもっとも重要な研究領域の一つである。本授業ではパーソナリティとは何か、パーソナリティと性格、気質など他の類似概念との違いや、パーソナリティを客観的に測定するために開発されてきた心理学的査定の方法、パーソナリティの機能（はたらき）と構造（しくみ）に関する主要なパーソナリティ理論等について解説するとともに、パーソナリティを記述するために提唱されてきた類型論と特性論の特色について考察する等、パーソナリティ心理学の主要な理論とパーソナリティの研究方法について概観する。 本授業では、パーソナリティに対する知識・理解を深め、科学的に考える能力を養うとともに、得た知見を基に、自己理解、他者理解を深め、人間関係の発展を目指す。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	2群 (自己を知り、自己を鍛える)	金沢大学	グローバル時代の文学	<p>グローバル時代においては、様々な文学体験をすることで、自己を知り、自己を鍛えることが可能となる。世界各地の文学作品を直に読む文学体験を実践して、批判的な思考を可能にし、豊かな想像力を養うとともに、世界各地の文学作品を読解するための方法や物事を他者の視点で見ること＝自己を相対化することを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は以下のとおり。</p> <p>①作られた小説を読み、フィクション世界を自らの「心」の内部に構築できる、豊かな想像力を身に着ける。</p> <p>②世界各地の文学作品を読み、それら作品の背後（深層）にある意味（社会・文化・思想）を理解するために必要な知識と能力を獲得する。</p> <p>③文学解釈という行為を通して、物理的な対象ではない人間の「心」についての思索を深め、自己を知り、他者を知るための経験的な基盤を構築する。</p>	
		金沢大学	健康科学	<p>我々を取り巻く環境・生活習慣は、健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには、これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。WHOは、健康は「肉体的、精神的及び社会に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示し、「計画的な努力によって得られる状態であり、よりバランスの取れた健康的な生活を得ようとする行動そのもの」と定義している。</p> <p>本授業では、健康を守る身体のメカニズムと社会の仕組みを学ぶと共に、健康的な生活を送るために必要な知識を身に着け、日常生活の中に取り入れて、実践していくことを目指す。健康を守りさらに積極的に増進するために必要な社会全体としての目標・取組から、個人として実践可能な正しい食事、運動や休養の知識、日常生活、メンタルヘルスに関する知識について学ぶ。</p>	
		金沢大学	細胞・分子生物学	<p>私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振舞いや、細胞の構造と機能、その多様性を解説することにより、細胞の構造と機能制御のメカニズムを分子レベルで学習するとともに、生命科学の基礎知識を理解することを目的とする。</p>	共同
		金沢大学	エクササイズ&スポーツ 実技	<p>心身の鍛錬は自律の基本である。本授業では、運動を通して、身体形成の必要性を知り、体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって、自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることを目的とする。</p>	
	3群 (考え・価値観を表現する)	金沢大学	クリティカル・シンキング	<p>日本語は、他の言語と同様に、もちろん十分に論理的である。しかし、その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため、＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには、英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。</p> <p>本授業では、受講者間の文化的背景と価値観の多様性についての相互理解を深めた上で、批判的思考の方法や、関係する新しい概念や理論、方法を身につけ、実践的課題に取り組むことにより各人の問題解決能力の向上をめざし、クリティカル・シンキングの概念だけでなく、それを実践すること、つまり批判的に考えるとはどういうことかを学び、論理的な＜思考・表現＞の能力を高めることを目的とする。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	3群 (考え・価値観を表現する)	金沢大学	価値と情動の認知科学	<p>行動や表現を引き起こすのは、最終的には理性というより、行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは、往々にして非合理的な要素を多く含み、しかも行為者本人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし、他者の行動や表現を適切に理解するためには、価値や情動に関する〈認知・行動〉の仕組みに関する理解が必要となる。</p> <p>本授業では、人間の認知能力の様々な観点から、ヒトの認知能力には、私たちが常識的にとらえているのとは異なる意外な側面があるのだということについて、自分で考えながら、整理し、ヒトという動物である自分の認知能力についての、より深い理解を確立すること、さらに、以上のことを自分自身の言葉で説明し、表現できるようになることを目的とする。</p>	
		金沢大学	芸術と自己表現	<p>人間の最も根源的で洗練された自己表現は、絵画、音楽、演劇、舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に、人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては、鑑賞するにせよ創作するにせよ、自己と表現との愚直な関係が求められる。</p> <p>本授業においては、様々な芸術の実際を体験することによって、自己表現の真摯なあり方を知ることを目的とする。</p>	
		金沢大学	スポーツ科学	<p>本授業では、保健体育の意義や、身体の理(ことわり)と自然・生活様式などとの関係についての理解を深めるとともに、これらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。</p>	
	4群 (世界とつながる)	金沢大学	金沢・能登と世界の地域文化	<p>グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びやすく、また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには、地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。</p> <p>本授業では、私たちの住む金沢・能登および世界の文化を事例に地域文化の豊かさと変容を学ぶとともに、それらの地域について自ら調査する。</p> <p>自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め、その内容を情報発信するとともに、それらを相対化する視点を得ることを目的とする。</p>	
		金沢大学	日本史・日本文化	<p>現代社会では、人は必ず国家に帰属することが求められ、海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方、国家の歴史や文化についての一般的言説には誤りが含まれているものもあり、時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。</p> <p>本授業では、日本の古代から近現代に至る歴史と文化について、各時代ごとの重要トピックを取り上げ、それを「世界の中の日本」という視角で考察することを通じて概観することにより、日本の歴史・文化の特色を理解するのみならず、世界の他地域との差異と共通性を理解する。加えて日本の古代から近現代に至る政治・社会・文化の、変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	4群 (世界とつながる)	金沢大学 異文化間コミュニケーション	<p>グローバル化した社会では、自らの育った文化を知り、その特徴を自覚した上で、自らの特殊性を認め、さらに、自らと異なる文化、人種、民族への理解を深めることが重要である。</p> <p>本授業では、「①異文化と自文化に関する知識」「②異文化に対する態度」「③コミュニケーション・スキル」の異文化間コミュニケーションで特に重要視される3つの概念についての理解を深める。①の知識については、文化的価値観と非言語行動における異文化と日本文化との類似点と相違点を理解する。②の態度については、偏見や自民族中心主義に陥らないで、異文化に対する寛容で柔軟な姿勢を持つことの重要性について学ぶ。③のスキルについては、傾聴力の必要性について学習する。</p> <p>偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって、他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ、異質な他者と共生する能力を身につけることを目的とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験A	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外における短期のボランティア等を通し、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>45時間相当の留学を対象とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験B	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の語学学校等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>90時間相当の留学を対象とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験C	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の研究機関等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>135時間相当の留学対象とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験D	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>180時間相当の留学対象とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験E	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>225時間相当の留学対象とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	4群 (世界とつながる)	金沢大学 異文化体験F	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 270時間相当の留学対象とする。	
			金沢大学 異文化体験G	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 315時間相当の留学対象とする。	
			金沢大学 異文化体験H	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 360時間相当の留学対象とする。	
			金沢大学 グローバル時代の国際協力	ボーダーレス化が進む国際社会では、ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。 本授業では、貧困や紛争、災害など、国際社会が直面する様々なグローバル・ 이슈の解決に向けて活動を展開する様々な「ボランティア」の形を知り、その独自性や課題に対する理解を深めることにより、日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか、国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を、実践例に基づきながら理解することを目的とする。	
			金沢大学 グローバル社会と地域の課題	学生はいま学生として、あるいは将来地域社会を担っていく者として、グローバルな視野に立ちつつ、地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり、他者と協力しながらそれに取り組む力である。 本授業では、グローバル化が進行する現代社会において、どのような地域課題が発生しているのか、どのように解決をしていくべきか、そして自らどのように関わっていくのかを考え、地域社会の現状と課題を総合的に学びながら、地域の課題解決と活性化の理論と実践について理解を深めることを目的とする。	
		5群 (未来の課題に取り組む)	金沢大学 科学技術と科学方法論	人類の未来は、希望も絶望も、科学技術がそのカギを握っている。したがって、科学という「世界の捉え方」、技術という「ものの作り方・使い方」を知らずしては、人類の課題も解決も見えてこない。また、科学は、私達の住む世界を記述・説明する世界共通語のひとつである。この言語を操る能力、すなわち「科学的思考力・科学的表現力」は、私達の自然や社会に対する深い理解をもたらす。 本授業では、科学の方法を構成するコアとなる考え方について、議論や実験など実践的な活動を通して理解し、活用できるスキルを修得することを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	5群 (未来の課題に取り組む)	金沢大学 統計学から未来を見る	世界の人口問題とそれに伴う食料や資源、エネルギーの問題、また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など、私たちを取り巻く現状を数値化して分析し、それに基づいて未来を予測するために、統計学はすべての学問分野において必要とされている。 本授業では、統計データに基づいて現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる諸課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることを目的とする。	
			金沢大学 環境学とESD	気候変動等、現代社会が直面する地球環境問題の現状を把握するとともに、その解決方法と「持続可能な社会」のあり方及び実現方法を多角的に学ぶ。 本授業では、わが国における公害問題の発生と克服、環境政策の展開について学ぶとともに、近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応、今後取り組むべき対策などを理解することによって、地球環境問題の解決と「持続可能な社会」の実現を達成するために必要な肯定的な未来志向性および環境リテラシー（環境知識、論理的・多面的・総合的思考力、創造的・実践的問題解決能力等）の向上を図ることを目的とする。	
			金沢大学 生活と社会保障	日本を含む世界の少なからぬ国々は今、人口減少、人口分布の地域的偏在、及び高齢化という局面を迎えながら、社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。 本授業では、少子・高齢化など人口変動やグローバル化に伴う社会経済の変動のなかで、社会保障が果たす役割と課題について、国民生活の視点から検討することで、世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉えるとともに、社会保障のあゆみ、制度の概要、直面する問題、少子・高齢化のもとでの社会保障の課題について考えるための基礎知識を身につけることで、有効な解決策に向けた議論を展開することを目的とする。	
			金沢大学 現代社会と人権	未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていくうえで、人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが、現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。 本授業では、人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ、これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は、その理解を通して、未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることを目的とする。	
	6群 (新しい社会を生きる)	金沢大学 インテグレートド科学	物質の構成要素となる元素を対象とした科学の世界は、その構造、性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では、人類の物質に関する理解はどの様に進歩して、現代化学における物質観につながってきたのか。 本授業では、科学的に考えるための基礎として、物質の成り立ちや基本事項について概観し、巨視的な現象と原子・分子・イオンなどの微視的な粒子の挙動との関係や、暮らしの中の色、味、匂いを題材とし、感覚発生のメカニズムや分子構造との関係について学ぶ。化学の世界に関するこうした理解を通して、多種多様な世界観が存在する現代において、客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることを目的とする。		
		金沢大学 AI入門	Artificial Intelligence (AI, 人工知能)とは何かをその歴史と実例を調査して学ぶ。AIを支える技術(コンピュータの性能、機械学習・ディープラーニング、パターン認識、自然言語処理)の進歩について理解する。AIを利用することの利点や問題点を理解し、AIの普及により変化する未来社会、AIの限界とシンギュラリティについて考察する。		

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 GS科目 6群（新しい社会を生きる）	金沢大学	情報の科学	<p>世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し、今後の展望を見極めるためには、情報に踊らされることなく、正しい情報を見極めて、それを収集し発信していくことが必要である。</p> <p>本授業では、情報とは何か、情報収集・発信の有効性と危険性、情報のモラル、セキュリティなどを学ぶことによって、情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得し、研究や生活・仕事において問題発見・問題解決に役立てる情報の科学の幅広い知識を身につけることを目的とする。</p>		
	金沢大学	デザイン思考入門	<p>高度化・複雑化する現代社会では、狭い分野の専門知識や技術では解決できない課題に対する有効なアプローチ法が、デザイン思考 (Design Thinking) である。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くという意味ではなく、課題解決のプロセスとその設計を意味している。デザイン思考の基本的なプロセス（共感、問題定義、アイデア創造、試作、テスト）について、その概念を理解し、実例を検証しながら修得する。</p>		
	金沢大学	論理学と数学の基礎	<p>数学は多くの学問分野において、その法則を適切に表現するための言葉として用いられ、文系、理系を問わず必要なリテラシーとされている。</p> <p>本授業では、数学を活用する事例を通して、数学の基礎概念のいくつかを学ぶ。具体的には、統計を活用する例として、平均や分散と数ベクトルと内積の関連の基礎を学び、また整数を活用する例として、情報化社会に欠かせない暗号理論の基礎を学ぶ。</p> <p>学生は、数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって、数学の思考方法を習得し、根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることを目的とする。</p>		
	GS言語科目（英語）	金沢大学	TOEIC準備 I	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な聞き取りのテクニックを学び、リスニング能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリスニングパート セクション1, 2, 3及び4対応。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力をつけることを、学習目標とする。</p>	
		金沢大学	TOEIC準備 II	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な英文読解のテクニックを学び、読解能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリーディングパート セクション5, 6, 及び7対応。</p> <p>読解力を磨くためのトレーニングを通じて、リーディングパートの対策を学び解答テクニックを身につけるだけでなく、語彙や慣用句を増やすし、英文読解力をつけることを、学習目標とする。</p>	
		金沢大学	TOEIC準備 III	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I, IIで伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I, IIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 G S 言語科目（英語）	金沢大学	TOEIC準備 IV	授業は英語で行われる。 TOEIC準備 I～IIIを通して伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」の更なる開発と、それら能力を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。 TOEIC準備 I～IIIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施。	
	金沢大学	TOEIC準備（演習）	TOEIC L&Rテストにおけるハイスコア獲得のために必要なリスニング能力、リーディング能力、解答テクニック向上を目指し、実際のテストで実践できる力を育てる。基本的な試験対策と、TOEICハイスコアを獲得するために必要な言語能力を開発する。 様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力を身につけることを、学習目標とする。	
	金沢大学	English for Academic Purposes I	このアクティブラーニングコースでは、自分のアイデアを論理的に書いて表現する方法を学ぶ。具体的には、英語で文章を書き、的確な文章構造と構成を学ぶ。 文章の構成要素に焦点を当てることで、文章の形式を考察し、書くための構想を練る。コースの後半では、理由とたとえを用いることに焦点を当て、洗練された文章を作ることを、学習目標とする。	
	金沢大学	English for Academic Purposes II	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、プレゼンテーションの計画、実施、評価を学習することで、人前で話す際に必要な自信を育てる。 学生に英語で全クラスメイトの前で発表する機会を十分に与え、口頭でのコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの両方を学ぶことにより、英語での発表能力を向上させる。 有益なプレゼンテーションを計画し発表する能力の開発やプレゼンテーションのカギとなる技術に気付き、評価することができるようになるほか、批判的思考を獲得する。	
	金沢大学	English for Academic Purposes III	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、EAP IとEAP IIで学んだスキルを統合し、その統合したスキルを用いて学術的課題や現代の社会問題の分析する。 このコースは主にサマリーライティング（要約文章の作成）と、授業内で読んだ教材に対して分析的な反応に焦点を当てる。 学術論文の正確な要約ができる能力、評価分析、対照分析または相対分析等の分析手法を学ぶことで、分析的な視点を培う。 ディスカッションの質問に対し口頭で答えることで、コミュニケーションにおける相互作用的な能力を伸ばす。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS 言語科目 (英語)	金沢大学	English for Academic Purposes IV	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、先のEAPの授業で学んだ能力・技術用いながらさらに発展させ、学術的テーマか現代社会の課題について小論文を書く。 与えられたトピック、要約された様々な意見について、批判的立場で議論を交わし、系統立てて自分の意見を表現する。 与えられたトピックについて、論文や要約及び口頭で、詳しい見解を述べるができるようになる。 書かれている文章の内容のみならず、根底にある関心や視点に目を向けるようにする。 アカデミックな環境で英語を使えるようにすることが期待される。	
	金沢大学	English for Academic Purposes (Retake)	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、学術的な文章を読む練習と、グループディスカッションや発表という形で、学術文書への対処の仕方を学ぶ。 学術論文を読むことに重点を置き、より難しい論文に取り組んでもらう。グループワークで論文の内容を把握し、ディスカッションをする。題材を探求するための基礎として論文を使い、発表をする。その中で、リスニング・スピーキング能力を伸ばし、自信を得ることが期待され、リサーチ能力を伸ばし、学術的語彙の知識を増やすことを求める。	
共通教育科目 GS 言語科目 (日本語)	金沢大学	アカデミック基礎日本語A	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力(アカデミック日本語)を獲得するため、ノートの取り方や情報検索等、複合的な能力を養成することを目的とする。	
	金沢大学	アカデミック基礎日本語B	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力(アカデミック日本語)を獲得するため、論理的な内容の読解を中心に、レジュメの作成やプレゼンテーションなど、さらに高度で複合的な能力を養成することを目的とする。	
	金沢大学	講義の聴解A	大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーを習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	金沢大学	講義の聴解B	「講義の聴解A」に引き続き行うことで、大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーをさらに高いレベルで習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	金沢大学	口頭発表A	本授業では、留学生に向け、日常で使用する可能性のある内容について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議することにより、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントの理解を深めることを目的とする。	
	金沢大学	口頭発表B	本授業では、留学生に向け、大学での発表に関する内容等について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議する。「口頭発表A」からさらにアカデミックなスピーチ内容を検討することで、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントを共に討議しさらに理解を深めることを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS言語科目（日本語）	金沢大学	上級読解 I A	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、わかりやすく説明できるようになることを目的とする。	
	金沢大学	上級読解 I B	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、説明できるのみならず、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解する等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	金沢大学	上級読解 II A	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解することを目的とする。	
	金沢大学	上級読解 II B	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深め、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解したする等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	金沢大学	日本語で学ぶ論理A	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。そして、実際に日本語で書かれた文章の読解を行いながら、論理の展開と構成について学ぶことにより、論理トレーニング（論証と演繹）を通じて、日本の大学での学習や研究に必要となる論理的思考力を日本語で修得することを目的とする。	
	金沢大学	日本語で学ぶ論理B	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。「日本語で学ぶ論理A」の内容を発展させ、否定、条件構造、推論の技術（存在文の扱い方、消去法、背理法）について学び、最後に形式論理学の基礎についても学ぶことにより、日本の大学での学習や研究に必要となる論理的思考力をさらに高度なレベルで日本語で修得することを目的とする。	
	金沢大学	日本事情A	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を歴史や地理等を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識を増やし、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	金沢大学	日本事情B	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を宗教や文化、季節感等特に日本人の内面を形成している部分を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識をより深め、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS 言語科目 (日本語)	金沢大学	アカデミック・ライティングA	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、レポート作成にかかる適切な資料の引用方法や、図表の説明の仕方を学び、自分の興味関心に従ってレポートを作成することで、資料探索や、図表の適切な説明方法とともに、レポートの基本的な表現と構成を身に着けることを目的とする。	
	金沢大学	アカデミック・ライティングB	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、資料等に対し考察や分析を述べたり、要約を書くことにより、文章の主となる部分を見つけ出す力を身に着けるとともに、文章を適切に引用し、考えと理由をレポートとして論理的に書けることを目的とする。	
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ドイツ語A1-1	文法を中心としてドイツ語の基礎を学ぶ。 文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じてドイツ語の文や表現に触れることで、ドイツ語初級文法の基本的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
	金沢大学	ドイツ語A1-2	本授業では、ドイツ語の初歩的な文法を学んでいく。 ドイツ語の文法は、英文法に多くの点で類似しているため、英語の知識が活用できるような方式で授業を進めていく。 最終的には、ドイツ語の基礎単語の発音ができ、辞書があれば、ドイツ語で書かれた簡単な新聞や雑誌の文章が読める程度のミニマルな文法知識を習得することを目指す。	
	金沢大学	ドイツ語A2-1	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 授業で取り上げる内容は下記の通り。 ドイツ語のアルファベットと発音、基本構文、自己紹介	
	金沢大学	ドイツ語A2-2	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 本授業で取り上げる内容は下記の通り。 趣味関する表現、将来の目標に関する表現（人称変化、前置詞等）	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ドイツ語A3-1	<p>ドイツ語初級文法の最初舗段階の修得を目指す。 ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 自己紹介、趣味について（動詞の現在人称変化と語順）／生ツの描写・持ち物について（名詞の性と格変化等）／動詞の活用・格変化／曜日・時間・年齢の表現（前置詞、再帰代名詞、再帰動詞等）／用事・希望・過去のことを話す（過去形、現在完了形、zu不定詞等）</p>	
	金沢大学	ドイツ語A3-2	<p>ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 好みについて話す（形容詞の格変化、比較級、最上級）／部屋にある物について話す（関係代名詞、命令形）／仮定の話をする（接続法）等</p>	
	金沢大学	ドイツ語A4-1	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、趣味、家族、職業、自分にできる事できない事等、自分の身の回りのことを表現することについて学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	
	金沢大学	ドイツ語A4-2	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、買い物での場面、欲しいものの表現、気持ちの表現、指示・依頼の表現等、自分の考えを伝える表現について学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	
	金沢大学	ドイツ語B-1	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。 主に、挨拶について、バス・駅・鉄道、地図、レストラン、買い物、ホテルなど日常生活や旅行に役立つ表現を学習する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・会話で自己紹介をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・辞書を用いて平易なドイツ語の文章を読むことができる。 ・日常生活の場面での簡単な質問や指示、話、アナウンスや短い会話を理解できる。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ドイツ語B-2	ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。 主に、ドイツ語圏に関する文章を読み、旅行計画を立て、プレゼンとディスカッションを実施する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・短い広告などから、自分にとって大切な情報を取り出せる。 ・簡単なものであれば、所定の用紙に記入することができる。 ・短い個人的な文章を書くことができる。	
	金沢大学	ドイツ語C-1	既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。 授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。 ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、個人ワーク、プレゼンテーションなどを通して、日常的なコミュニケーションを簡単なドイツ語でできることを目標とする。	
	金沢大学	ドイツ語C-2	既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。 授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。 街での案内や過去の出来事等について、ドイツ語を使用したコミュニケーションを学ぶことで、ドイツ語圏の文化に関心を持ち、ドイツ語のコミュニケーション能力を養成することを目的とする。	
	金沢大学	フランス語A1-1	フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。 このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。 国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。 主に、発音、綴り字と音声の対応、er動詞、etre, avoir、数字、名詞のジェンダー等基本的な文法事項を学ぶ。	
	金沢大学	フランス語A1-2	フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。ヨーロッパ文化の一番面白いところを正確に理解し、楽しむためにもフランス語は有益なツールとなるだろう。 このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。 国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。 主に、ir動詞、動詞の活用、過去分詞、指示代名詞、単純未来等の文法事項を学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	フランス語A2-1	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、名前を言う・尋ねる・綴りを言う、職業・身分・国籍について、家族について、年齢の言い方、好みについて等、自分の事を話し、相手について尋ねる方法を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の発音ルールを身につけ、文字を見て発音できる。 ・基本語彙、基本表現及び文法を学習し応用することで、フランス語で身近な話題について会話ができる力を養う。 	
	金沢大学	フランス語A2-2	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、用紙や服装について、交通手段について、時刻や値段の尋ね方、食習慣について等、コミュニケーションをとるために必要な表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ初歩的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 ・フランスとフランス語圏について紹介する。 	
	金沢大学	フランス語A3-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、代名動詞、動詞の活用、強調構文、非人称構文、疑問形容詞、半過去、大過去等の文法事項を習得する。</p>	
	金沢大学	フランス語A3-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、指示代名詞、関係代名詞、現在分詞、比較級・最上級、条件法、接続法等の文法事項を習得する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	フランス語A 4-1	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、習慣、日常の活動について、過去のこと・過去の習慣についてトピックを立て、学習する。</p>		
	金沢大学	フランス語A 4-2	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、許可や禁止について、未来について、願望、比較、条件・仮定についてトピックを立て、学習する。</p>		
	金沢大学	フランス語B-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、満潮時のみ島になるモン・サン・ミッシェルに関する論説文や、「よつば」などの日本の漫画のフランス語訳をとりあげ、初級文法を復習しながら、相手の言いたいことを的確に理解し、自分の言いたいことを的確に表現する自然なフランス語が基本的にどういうものか体得することを目指す。</p>		
	金沢大学	フランス語B-2	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、エッフェル塔やルーブル美術館について書かれた平易な論説文などをとりあげ、フランス語話者の書いていることの真意が実感をもって分かること、こちらからフランス語話者へ効果的に意思を通じさせられるような書き方（話し方）を身につける。</p>		
	金沢大学	フランス語C-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、ラグビーにおける国籍や観光地におけるフランス等の論説文などをとりあげ、ネットを使わなくても、ある程度の難易度を持ったフランス語の文章を読み聞きし、理解できるようにすること。フランス語話者とコミュニケーションし、ガイドできることを目指す。また、フランス語と英語の知識を結び付け、両言語でのレベルアップを目指す。</p> <p>将来のフランス語検定試験（仏検）やフランス語圏（フランス、カナダ等）留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p>		

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	フランス語C-2	<p>総合的なフランス語力の一応の完成を目指す。フランス語でEメールを書き、ホットなラジオ・ニュースを聞き、論説文を読み、必要な文法知識の完成を目標とする。</p> <p>フランス語による国際的コミュニケーション力を磨くため、また大学卒業後も少しずつフランス語力を自力で高めるようにするための体制を整えていく。フランス語と英語の知識が有機的に結びき、両方のレベルが向上することを目指す。フランス語圏での勉学、仕事に必要なDELTA/DALFの上の級に合格する態勢についても考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む、書く、聞く能力を伸ばし、話された言葉、書かれたテキストからできるだけ情報がとれるノウハウを体得する。 ・フランス語の基礎知識をしっかりと固め、生涯的スパンでのフランス語学習の展望を得る ・国際的コミュニケーションの言葉としてのフランス語の広がりを知る。 ・フランス語の知識と英語の知識を有機的に結びつけて、両方のレベルを向上させる。 	
	金沢大学	ロシア語A1-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、ロシア語のアルファベットと発音、文法性、ロシア人の名前、簡単な現在形の肯定・否定・疑問文、形容詞、副詞、人称代名詞等、基礎的な知識や文法事項を学ぶ。</p>	
	金沢大学	ロシア語A1-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、名詞の複数形、現在形の動詞の人称変化、重要な不規則動詞、方向の表現、数字等、基礎的な文法事項を学ぶ。</p>	
	金沢大学	ロシア語A2-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 <p>本授業では、ロシア語の発音とアルファベット、挨拶、自己紹介、「これは何/誰ですか」「誰のものですか」等基本的な知識と表現を学ぶ。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ロシア語A2-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、位置・場所の表現、時間についての表現、好みや能力の表現等基本的な会話表現を学ぶ。</p>	
	金沢大学	ロシア語A3-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>名詞、人称代名詞の単数・複数、命令形、重要な不規則動詞、形容詞・名詞・代名詞の格変化、順序数詞等</p>	
	金沢大学	ロシア語A3-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>重要な不規則動詞、再帰動詞、移動の動詞、時間表現、比較級・最上級、無人称文等</p>	
	金沢大学	ロシア語A4-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>金額を尋ねる、数字、好き嫌いについて、色の表現、所有物について等</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ロシア語A 4-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>好き嫌いについて、方向・道案内、交通手段、天気や行動について過去形、未来形を用いた表現等</p>	
	金沢大学	ロシア語B-1	<p>ロシア語Aで学んだ文法の復習から、中級文法の習得を目指し、より高度な文法・表現の解説、その応用練習を行う。平易な会話の聞き取り能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の合間に、短く比較的簡単なテキストを読み、ロシア語の読解にも慣れる。 ・やや複雑な構文を使ったロシア語の文が読解できる。 ・基本語彙と平易な表現を用いてゆっくり話されるロシア語会話を、聞き取ることができる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>時間の表現、数詞の格変化、仮定法、一般二人称、不定形の用法等</p>	
	金沢大学	ロシア語B-2	<p>実際にロシアに行ったら遭遇するであろうシチュエーションにおいて、ロシア語でどう表現すればよいか、実践的なロシア語の修得を目指す。</p> <p>シチュエーションごとの簡単な会話の聞き取り、ネイティブのナチュラルスピードに耳を慣らす練習をし、会話内容の理解を通して、ロシア語Aの文法の復習・発展的学習を行う。</p> <p>実際にロシアに行った場合に最低限必要なフレーズや語彙を学び、自分の言いたいことを表現するにはどのような言葉を使ったらよいかを学ぶ。またこれを応用して、日本の状況についても説明できるようになる。</p> <p>日本と異なるロシアの生活・文化様式についても解説する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア旅行で最低限必要となる語彙・表現を用いて話すことができる。（空港・ホテル・両替所・ファストフード店等での場面で） ・ごく基本的な語彙・表現の範囲であれば、ナチュラル・スピードで話される内容を把握できる。 ・ロシア語でロシアに関する情報収集を自分でできる。 	
	金沢大学	ロシア語C-1	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは新聞・雑誌記事、インターネット上の書き込み等を例にジャンル、テーマ等問わずに幅広い種類の文章を読むことで読解力を鍛える等、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題にも取り組むことにより、辞書を使えば新聞レベルのロシア語テキストが読解できることを目指す。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	初習言語科目	金沢大学	ロシア語C-2	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>授業では短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは学術論文、文学などから、ジャンル、テーマ、書かれた時期を問わず、幅広く扱う予定である。</p> <p>複雑な構文を把握できるよう、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題に取り組む。ナチュラル・スピードのロシア語の聞き取り能力を高め、また聞き取った文を自分で言えるようになることを目指す。</p>	
		金沢大学	中国語A1-1	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。</p> <p>発音練習、常用表現、”是”構文、動詞述語文、完了表現他</p>	
		金沢大学	中国語A1-2	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。</p> <p>疑問視疑問文、形容詞述語文、近未来表現、方位詞、名詞述語文、動量補語等。ディクテーションや作文も行う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	中国語A 2-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業で学習する内容は以下の通り。</p> <p>発音練習，常用表現，国籍を尋ねる</p> <p>トピック：「町にはホテルもお店も銀行もあます」「どこで食事をしますか」</p>	
	金沢大学	中国語A 2-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本学で学習する内容は以下の通り。</p> <p>交通手段を尋ねる，距離を表現する，日にち・月の表現</p> <p>「お箸どうぞ」，「疲れたら休もう」，「北京は人も車も多い」</p>	
	金沢大学	中国語A 3-1	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習する内容は下記のとおり。</p> <p>結果補語，助動詞，疑問視の応用表現，方向補語，進行表現など。</p> <p>ディクテーション，作文練習も行う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	中国語A3-2	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>授業で学習する内容は下記のとおり。 可能補語，比較表現，受身表現，使役表現など。 ディクテーション，作文練習も行う。</p>	
	金沢大学	中国語A4-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「車で来たので飲みません」 「午後に病院へ行くつもりです」 「いつから腹痛が始まりましたか」 「彼女は何をしていますか」</p>	
	金沢大学	中国語A4-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「財布が見つかりました」 「壁に古い写真が貼ってある」 「このパソコンはあれより重い」 「1月1日を元旦と呼びます」 「私に切符を買わせて」 スピーチ，暗唱などの練習を行う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	中国語B-1	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 レストランでの会話、買い物時の会話、大学の授業について、 個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	金沢大学	中国語B-2	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 インターネットについて、恋人に関して、転職について、日本と中国の文化・習慣比較等 作文、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	金沢大学	中国語C-1	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。</p> <p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。</p> <p>授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいないが、中国における外国人と同じ題材で学べます。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 ・日中力国の国際交流がどのように行われるべきかについて、自分の意見を持つことができる。 <p>本授業で取り上げる内容。トピックは以下の通り。 中国国内でのニュース報道に関するHPや、動画を講読・視聴し、ディスカッションを行う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	中国語C-2	より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。 中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。 授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げる内容・トピックは以下の通り。 生活と健康について、男女平等、環境保護と資源節約、ビジネス中国語（財務・国際入札・待遇） 中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。	
	金沢大学	朝鮮語A1-1	基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。 韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・母音と子音の組み合わせ方を理解する。 ・韓国文化について理解することができる。	
	金沢大学	朝鮮語A1-2	基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。 韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話することができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。	
	金沢大学	朝鮮語A2-1	韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。 基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、自己紹介等身近な事柄について日常生活の簡単な会話ができることを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話することができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	朝鮮語A2-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、道を尋ねる、電話をかける、日付を尋ねる、値段を尋ねるなど日常生活の簡単な会話ができるようになることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話することができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	朝鮮語A3-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に自己紹介など日常生活の簡単な会話から、動詞の活用までを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話することができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	朝鮮語A3-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>文章を理解できる力を養うと同時に、K-POPや韓国の食べ物などの題材を使用し、形容詞の活用や短文の作成ができるようになることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話することができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	朝鮮語A4-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、</p> <p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、挨拶、好き嫌いを尋ねる、電話をかける等様々な日常にある様々トピックの中で簡単な会話ができる力を養う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話することができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	初習言語科目	金沢大学	朝鮮語A4-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、家族の紹介、食文化比較等様々なトピックの中で簡単な日常会話ができる力を養う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。 	
		金沢大学	朝鮮語B-1	<p>朝鮮語で趣味や友人など身の回りの物事についてスピーチやディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。 	
		金沢大学	朝鮮語B-2	<p>朝鮮語で、訪問客に対して観光案内や日本の紹介についてスピーチとディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。 	
		金沢大学	朝鮮語C-1	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景や経緯及びその意義について学び、東アジアの文化交流に焦点を当てて、その意義について検討する。</p>	
		金沢大学	朝鮮語C-2	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景及びその意義について学び、還流の国家的戦略、将来像を考える。また、日本が世界に広めようとしている「クールジャパン」とは何か、中国の「華流」の可能性等も考える。</p> <p>東アジアの文化交流に焦点を当て、その意義を検討し、東アジアにおけるソフトパワー競争時代について考える。</p>	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目		金沢大学 ギリシア語A 1-1	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・主に文字の読み方、名詞の変化、動詞の変化等の初級文法。 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
		金沢大学 ギリシア語A 1-2	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・形容詞、前置詞の用法、動詞の変化等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
		金沢大学 ギリシア語A 2-1	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・疑問代名詞、不定名詞等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	金沢大学	ギリシア語A 2-2	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・第三変化名詞、流音幹動詞、接続法能動相、母音交換等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	
	金沢大学	ギリシア語A 3-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・接続法能動相、予想未来を示す条件文、不定法等初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる。 ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。 	
	金沢大学	ギリシア語A 3-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・希求法能動相等、分子の用法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる。 ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。 	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ギリシア語A 4-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・命令法、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。</p>	
	金沢大学	ギリシア語A 4-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・否定法、動詞の変化、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。</p>	
	金沢大学	ギリシア語B-1	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察する。</p> <p>学習目標は以下の通り。 ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れている芸術思想を理解すること</p>	
	金沢大学	ギリシア語B-2	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察し、芸術思想を理解する。</p> <p>学習目標は以下の通り。 ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れている芸術思想を理解すること</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	初習言語科目	金沢大学	ギリシア語C-1	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>主にテキストの読解と内容に関するディスカッションを行う。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解すること 	
		金沢大学	ギリシア語C-2	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>主にテキストの読解と内容に関するディスカッションの後、ソクラテスの思想についてディスカッションを行う。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解すること 	
		金沢大学	ラテン語A1-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・動詞変化、形容詞変化、名詞変化等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ラテン語A 1-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・指示代名詞、疑問代名詞、動詞変化等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	金沢大学	ラテン語A 2-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・不定法、数詞、説速報等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	金沢大学	ラテン語A 2-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・間接疑問文、条件文、比較文等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ラテン語A3-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・数詞・ギリシア系名詞の変化、非人称代名詞等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	金沢大学	ラテン語A3-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・文単位のみで音読することができる。 ・同形容詞、接続法・完了・過去完了、間接疑問文等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。</p>	
	金沢大学	ラテン語A4-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学び終える。辞書を用いて自学自習を続けるための基礎となる 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・比較文、理由文、条件文、譲歩文等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ラテン語A 4-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学び終える。辞書を用いて自学自習を続けるための基礎となる</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・関係文、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。 	
	金沢大学	ラテン語B-1	<p>比較的易しい、ローマの歴史に関わる文章を読む。ラテン語文法の理解を確実なものにするとともに、ローマノア歴史や文化についても関心をもつことが目標である。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <p>第1回から第7回まで、簡単な散文テキストを読み進めることによりラテン語の文法事項をしっかりと修得する。まとまった長さの簡単な原文が読めるようになる。</p> <p>テキストは以下を使用する。 M. Hammond and A. Amory, Aeneas to Augustus. (Harvard University Press)</p>	
	金沢大学	ラテン語B-2	<p>比較的易しい、ローマの歴史に関わる文章を読む。ラテン語文法の理解を確実なものにするとともに、ローマノア歴史や文化についても関心をもつことが目標である。ラテン詩及び中世ラテン語作品数編を選び学修する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <p>簡単な散文テキストを読み進めることにより、ラテン語の文法事項をしっかりと修得する。まとまった長さの簡単な原文が読めるようになる。</p> <p>使用するテキストは以下のとおり。 第1回～第2回 M. Hammond and A. Amory, Aeneas to Augustus. (Harvard University Press) 第3回～第7回 ラテン詩および中世ラテン語作品数編</p>	
	金沢大学	ラテン語C-1	<p>ラテン語のまとまった原文の読解ができるようになることを目指す。</p> <p>カエサル『ガリア戦記』を最初から読み進めながら、これまでの文法学習、易しいラテン語文の読解訓練基礎に、ラテン語散文の原文をきちんと読めるようにすることを目指す。</p> <p>自分の力でラテン語散文の原文に取り組むことが出来るようになり、同時に辞書も使えるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では、ガリア戦記 (Gallic War) 第1巻のチャプター1～15までを読み、解説をする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ラテン語C-2	ラテン語のまとまった原文の読解ができるようになることを目指す。 カエサル『ガリア戦記』を最初から読み進めながら、これまでの文法学習、易しいラテン語文の読解訓練基礎に、ラテン語散文の原文をきちんと読めるようにすることを目指す。 自分の力でラテン語散文の原文に取り組むことが出来るようになり、同時に辞書も使えるようになることを目標とする。 本授業では、ガリア戦記 (Gallic War) 第1巻のチャプター16～30までを読み、解説をする。	
	金沢大学	スペイン語A1-1	スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・発音、数字、名詞の性、冠詞、規則動詞、 tenen/haverの用法等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。	
	金沢大学	スペイン語A1-2	スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・不規則動詞、前置詞、動詞の変化等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。	
	金沢大学	スペイン語A2-1	スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、人物描写、家族についての表現を学び平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 スペイン語の発音・数字・スペル、国籍の言い方、程度を表す表現、人の描写、家族・親族、定冠詞・不定冠詞、estar、規則動詞等	
	金沢大学	スペイン語A2-2	スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、街中の描写や、位置関係、日常生活を表す描写を学び、平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 位置関係、Haverの用法、mucho/poco、大学内や周辺の建物・場所を表す動詞、交通機関、街中の描写、月と季節、現在進行形等	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	スペイン語A3-1	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	金沢大学	スペイン語A3-2	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接的／間接的人称代名詞、比較表現等初級文法の修得。 ・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	金沢大学	スペイン語A4-1	<p>スペイン語を学ぶなかで、異文化に触れる。</p> <p>スペイン語の正しい発音及び初歩的な会話の修得を目標とし、ペアワークやグループワークを通じて会話の練習をしながら、単語や表現力を定着させる。</p> <p>スペイン語の文章を正しく発音することを目標とする。</p> <p>天気や住居のこと、料理のレシピ、レストランでの会話などについて学び、ゆっくり話される身近な話題についての簡単なことを尋ねたり、答えたりできるようになることを目指す。</p>	
	金沢大学	スペイン語A4-2	<p>A3での文法の授業の内容とも関連した実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>グループによるゲーム、オーラル練習を通して単語を増やし、DVD教材などでスペイン語の表現を学び会話をステップアップしていくことを目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て正しく発音することができる。 ・自分の背景や身の回りの状況を簡単な言葉で話すことができる。 ・短いはっきりとしたメッセージ、アナウンスの要点を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	スペイン語B-1	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再帰動詞、関係詞、直接法現在完了等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
初習言語科目	金沢大学	スペイン語B-2	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接法過去完了、命令形、無人称表現等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
	金沢大学	スペイン語C-1	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続法現在、命令形、接続法現在完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
	金沢大学	スペイン語C-2	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続法過去、条件文、接続法過去完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
自由履修科目	金沢大学	アントレプレナーシップ I	<p>アントレプレナーシップは、事業を新しく創造するため、高い創造意欲を持ち、リスクや困難に挑戦していく姿勢、発想、レジリエンス等を総合的に示す能力（起業家精神）を意味する。学生が入学当初に起業家精神の重要性と必要性を理解し、学生自らがモチベーションを持ちながら、大学時代に様々な機会を利用して、アントレプレナーシップを涵養する必要がある。</p> <p>本授業では、学生がアントレプレナーシップを学ぶ最初のステップとして、様々な観点から、21世紀の社会で生き抜くために、アントレプレナーシップを学ぶ機会を提供することにより、アントレプレナーの社会的意義とそのために必要な素養となるアントレプレナーシップを体得するを目的とする。</p>	

共通教育科目

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	石川県の行政	<p>本授業では、石川県の行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことにより、地方自治体が取り組む政策課題と、課題に対処するために政策が形成されて実施・評価されるプロセス（政策過程）についての理解を深めることや、地方自治・行政に関連する基礎的および実務的な知識を習得し、自ら地方自治や政策課題について深く考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>また公務員志望の学生については、行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことで、将来のキャリア形成の参考になることを期待する。</p>	
	金沢大学	石川県の市町	<p>本授業では、石川県の市町からのゲストスピーカーの話聞くことで、石川県の市や町が抱える課題を理解し、その課題解決の方策や、今後の大学や学生と地域との連携のあり方を考え、各市町に提言を出せるようになることを目的とする。</p>	
	金沢大学	健康論実践D	<p>本授業では、調理実習等気づきをもたらすような様々な講義、実習を通して、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
	金沢大学	健康論実践E	<p>本授業では、角間の里において多彩なゲストスピーカーとの共同作業やグループワークを通して、教育実習や就職活動、日常の人間関係に役立つ内容を学ぶ。健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができることや社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神等を修得することを目的とする。</p>	
	金沢大学	現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、損害保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、損害保険の種類（火災保険・地震保険・自賠責保険・自動車保険等）とその概要について学ぶ。</p>	
	金沢大学	現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、生命保険や社会保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、社会保険の種類（医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険・労災保険等）とその概要と、生命保険におけるライフプランニング設計について学ぶ。</p>	
	金沢大学	実践アントレプレナー学	<p>アントレプレナーとは、ベンチャー企業を開業する者、また、産業構造の変革を担うベンチャー企業の実践者とも言われ、その育成および起業家精神の醸成は、国の再生と経済活性化に重要な役割をもつものとして位置づけられている。過去のベンチャーブームは、オイルショック、円高不況そしてバブル崩壊などの社会・経済の転換期と大きく関わっている。</p> <p>本授業では、大学生と就職して起業家精神の育成の一つの方向性示すとともに、大学の勉学と研究への取り組みのあり方を解説することで、「イノベーション」とは」から始めて、「産学官連携とは」「知的財産と特許とは」、さらに「ベンチャー育成と企業化とは」までを理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	クラウド時代の「ものグラミング」概論	<p>Society5.0時代を迎えるにあたって、これまで個人が余暇に楽しんでいた「ものづくり」と、仕事や趣味などで行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではなくなる。それらは渾然一体となって、相互に連携し、利活用可能となる。このような社会で必要となる技法を、「ものづくり」と「プログラミング」を掛け合わせた「ものグラミング」という言葉で表現している。</p> <p>この「ものグラミング」こそが、Society5.0に向けた人材に必要な技法であると考え、この技法を、講義と実習を通じて学ぶことを本授業の主題に据える。</p> <p>本授業では、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを講義と体験を通じて述べ、「ものグラミング」全体の理解を受講者に促すことを目的とする。</p>	
	金沢大学	シェルスクリプト言語論	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10、macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>POSIX環境におけるシェルスクリプトについて新しい視点で学ぶとともに、「Win/Mac/UNIXすべてで25年後も動く普遍的なプログラム」を書く方法について会得し日頃の問題解決に適用できるようになることを目的とする。</p>	
	金沢大学	地元学A（地域資源調査）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークの基礎的な知識や技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	
	金沢大学	地元学B（聞き書き）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークに最も重要である、聞き込みの知識と技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	自由 履修 科目	金沢大学 シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	<p>近年では、インターネット上に大量の情報が集積され、これらを活用するサービスも用意されている。一方、小型のコンピュータ等が安価に普及し、これまでは手軽には手の届かなかった機器が当たり前のように利用できる。このような時代にあっては、従来なら個人が余暇に趣味で楽しんでいた「ものづくり」と、日常の仕事で行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」と、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではない。このような世界で必要となる技法を「ものづくり」と「プログラミング」を掛け合わせた「ものグラミング」という言葉で表現する。</p> <p>本授業では、「ものグラミング」のもとで、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを理解し、併せて、POSIX環境におけるシェルスクリプトを用いてプログラミングなどについて学ぶ。</p>	
		金沢大学 イノベーションを起こして、起業家になろう1	<p>「イノベーション」を生み出すメソッドとして世界的に注目を浴びている「デザイン・シンキング」（前例の無い問題や未知の課題に対し、最適な解決を図るための思考法）を中心に、「イノベーション」の核となる「クリエイティビティ」について理解する。</p> <p>本授業では、「デザイン・シンキング」の基本的なプロセスを理解し、複数のワークショップを実施することで、クリエイティブな考えを生み出すということ等を体感的に理解し、習得することを目的とする。</p>	
		金沢大学 イノベーションを起こして、起業家になろう2	<p>本授業では、大学の内外で行われている起業に関連したイベント・研修紹介や起業家との対話を行い、イノベーションや起業、海外経験の重要性について学ぶ。また、身に付けるべきスキルや研修機会について理解した上で、キャリアアップを図ることを目的とする海外留学計画を実際に自身で立案することにより、長期的なキャリアの形成についても学ぶ。</p>	
		金沢大学 イノベーションを起こして、起業家になろう3	<p>情報産業（IT/ICT）は、近年は電子機器（ハードウェア）と密接に関連することで、IoT（モノのインターネット）やAIという形で、新たな産業の核となりつつある。これらの分野では、テクノロジーという理系的な視点だけでなく、価値あるサービスを見出し創造するという文系的な視点も重要になる。</p> <p>本授業では、ハードウェアの試作（プロトタイプング）の習得と、それを用いたアイデア出しと試作による具体化のサイクルを通じたデザイン・シンキングを実践し、その知見を積むことを目的とする。</p>	
		金沢大学 イノベーションを起こして、起業家になろう4	<p>少子高齢社会となった先進諸国において、高齢者の生活を効果的に且つ低コストで支える仕組みづくりが多方面から求められている。中でも高齢者の健康問題は重要課題であり、健康寿命を延ばす医療の制度、技術、サービスの革新が期待されている。</p> <p>本授業では、現代日本における超高齢社会やそれを支える医療の現状と課題を理解し、課題解決方法の1つである医療機器・サービスの技術革新について学ぶことにより、高齢者医療を取り巻く社会的環境や多様な課題を理解し、グループワークを通して、課題解決に向けた新しい手法を主体的且つ具体的に導き出すことを目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	香りと日本文化	日本三大芸道の一つである香道。香道は日本独自の香りを楽しむ芸術で、約1500年前にその歴史は始まり、約500年前には現存する形となった。 本授業では、この香道を切り口に、日本文化への理解を深めていくことを目的とする。	
	金沢大学	心と体の健康A	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、一元論と二元論の考え方や認知等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
	金沢大学	心と体の健康B	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、音楽や神経経済学等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
	金沢大学	地域「超」体験プログラム	本授業では、学長と一緒に「合宿」することで、金沢大学に学ぶ意義を理解する。「プログラム」では、地域の歴史や文化を学び、地域住民との交流や社会活動を通して地域理解や人間力の涵養を図るとともに、地域社会の中に身を置いて考えることを通じて各人の就業観を養うことを目的とする。	
	金沢大学	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	本授業では、日本の「特別の教科 道徳」、イングランドおよびデンマークでの「宗教」科目を対象として、各国の教育過程での位置づけ、教育内容、評価方法を紹介し、類似点、相違点を中心に討論を行うことで、学生の道徳教育、宗教教育の世界におけるあり方についての知識・理解を深め、そのことについて考えるきっかけを与えることを目標とする。	
	金沢大学	金沢の歴史と文化	金沢市内にはその歴史と文化を伝えるさまざまな石川県や金沢市の施設が存在し、観光施設としてだけではないさまざまな役割を担っている。 本授業では、そうした施設を訪ねてその担当者から直接に施設の概要・役割や職員の仕事内容等を聞き、また各施設やその所蔵品などを見たり、触れたり、体験したりすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解するとともに、こうした文化施設の有効性や今後の文化行政のあるべき姿等を考えることを目的とする。	
	金沢大学	日本の伝統芸能	本授業では、日本の伝統芸能の一つである能楽（能と狂言）を通して、日本の伝統文化について学ぶ。具体的には、三味線や篠笛等、伝統楽器の体験や、能や狂言の歴史的背景の学修により、日本文化への理解を深めることを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	地域創造学特別講義C	労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、適正な労働時間や、行政から見た労働、ブラック企業等について講義する。	
	金沢大学	地域創造学特別講義D	本授業では、労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、男女共同参画や労働組合の基礎知識等について講義する。	
	金沢大学	日本国憲法概説	本授業では、人としての基本的な権利や民主政治の講義を通して、日本国憲法の基本的な解釈・考え方を学ぶことにより、憲法の目的や人権、統治機構の基礎を理解することを目的とする。	
	金沢大学	日本史要説	本授業では、日本の歴史を古代から近現代に至るまで、政治・経済・社会・文化・宗教のみならず、民衆史、女性史などを含めて、相互の関連性に基づいて通観し、その過程において、周辺民族の歴史および関連性、東アジアおよび世界各地との関係性についても講義することで、日本の古代から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいか。また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義をどのように捉えればよいであろうかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	
	金沢大学	東洋史要説	本授業では、中国を中心にして東アジア文化圏の歴史を古代から現代までを通観し、東アジア文化圏の歴史的特質を明らかにすることにより、「東アジア、とりわけ中国や朝鮮半島における政治・社会・文化の特徴は何処に見いだせるであろうか」や「世界史のなかでの東アジアの歴史的特質と歴史的意義をどのように捉えればよいであろうか」といった課題に対し、本授業を通して理解を深めることを目的とする。	
	金沢大学	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	本授業では、Skypeによるビデオ会議を通して、海外の大学で日本語を学ぶ大学生と、両国の社会、文化などのテーマについて日本語で深く話し合うことで、互いの国や文化を理解し、自己と自国と世界に関する見識を深めることを目的とする。	
	金沢大学	行政学の基礎	本授業では、行政とは何かや行政の範囲、国や地方の行政の違い等の講義を通じ、行政のしくみやはたらきについて学び、行政現象に関する基本的な事柄を、受講者に認識させ考えさせることを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	ゼミ／角間の里山づくり 春編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、春の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	金沢大学	ゼミ／角間の里山づくり 秋編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、秋の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	金沢大学	コーヒーと社会	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、SDGsや社会・文化とのかかわり等について講義する、	
	金沢大学	コーヒーと科学	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、コーヒーにかかる抽出や焙煎、化学や健康等について講義する。	
	金沢大学	地学実験	わが国日本海側のほぼ中央に位置する金沢には、約2000万年前に始まる日本海の形成から現在にいたるまでの自然環境のうつりかわりが地層の中に記録として閉じこめられている。 本授業では、金沢の恵まれた地質資産を存分に活かし、これらの地層が分布する場所を実際に野外実習で訪れたり、自分で採集してきた岩石や化石を、実験室の中で顕微鏡を用いてさらに細かく観察したり、分析用試料を作成したりすることで、金沢の自然環境の地質学的なうつりかわりを理解するとともにいまの自然環境について考えることを目的とする。	
	金沢大学	生物学実験	本授業では、現在、生物がどのように分類されているか、それはどのような基準に基づいて行われているか等、細胞や動物・植物などの個体や組織・器官の観察、細胞が行う化学反応の観察、生態系や共生・寄生といった生物間の相互作用などを通して、生物の構造と機能の関係、生物集団の特性等を理解するとともに、さまざまな進化段階にいる生物を材料にすることで、授業で観察している材料が全生物界の中で、どのような進化的位置にいるのかを理解することを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	自由履修科目	金沢大学	海洋生化学演習	<p>生化学実験では、既存の操作方法を重視し、原理をあまり理解しないで実験を行う学生が多い。しかし卒業論文実験では、既存の方法だけでは成功しない例が多い。</p> <p>本授業では、海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行うとともに、特に原理を重視した教育・指導を行い、実験の原理を理解し、実験を進めるといった姿勢を習得させることを目的とする。</p>	
		金沢大学	英国諸島の地史 I	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習とおし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史 I」では地球の誕生から古生代までをおもに取り扱う。</p>	
		金沢大学	英国諸島の地史 II	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習とおし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史 II」では、中生代から現代にかけてを取り扱う。</p>	
		金沢大学	環境動態学概説 I	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスとそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学 I」ではプレートテクトニクスとそれともなう自然災害問題を主に取り扱う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	環境動態学概説Ⅱ	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学Ⅱ」では地下資源とヒトの問題を主に取り扱う。</p>	
	金沢大学	Pythonデータ分析入門	<p>近年の情報化社会において、人工頭脳の発展もあり、一般社会においてもデータを分析する機会が増えている。日常生活にも、様々なシステムが利用されており、様々な多くのデータが蓄積されている。データ分析を行うことで、集まったデータをもとに推測したり予測を行い、物事の因果関係を分析したり、シミュレーションを行うことが可能になる。</p> <p>解析した内容から、アイデアを生み出したり、ある仮説を立てたり、マーケティング等に利用することで、企業のビジネスに活かせることも多い。それに伴い、多くのデータから何かを導こうとするデータサイエンスの存在感が増してきている。</p> <p>本授業では、プログラム言語としてPython言語を利用して、サンプルデータを用いて、データ分析の実習を行い、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることで、Python言語の基礎的な知識を理解し、データ分析を行うことが可能となり、ビッグデータの扱い方、データ分析手法、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>	
	金沢大学	プレゼンテーション演習A	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となることを目的とする。</p>	
	金沢大学	プレゼンテーション演習B	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となるとともに、PowerPoint等を使用したプレゼンテーション用資料の作成スキルの獲得や様々なシチュエーションに合わせたプレゼンテーションを準備・実践ができることを目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	コンピュータグラフィックス演習Ⅰ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>コンピュータグラフィックスの基礎やアピアランス、文字とフォント等について講義する。</p>	
	金沢大学	コンピュータグラフィックス演習Ⅱ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>演習Ⅰで学んだ基礎を基に練習課題を行うほか、3DCADによる作画等を学ぶ。</p>	
	金沢大学	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	動画配信サービスを用いた情報発信演習B	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。さらに、「単に動画を作れば良い」と言うのではなく、作業毎のアウトカム作成に重点をおき、社会・企業の中で求められている（であろう）、プロジェクト立案・推進の方法も学びます。</p>	
	金沢大学	プログラミング演習I	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>HTMLやCSS、PerlによるCGIの基本、インタラクティブ処理等について学ぶ。</p>	
	金沢大学	プログラミング演習II	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>サブルーチンや正規表現、JavaScript等について学ぶ。</p>	
	金沢大学	Society5.0 概論	<p>日本政府が謳っているSociety5.0がどのようなものかを理解し、Society5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。</p>	
	金沢大学	英語セミナー	<p>この授業は、英語の文法や語彙をよく理解し、実生活の中で英語を学ぶことに興味のある学生を対象とし、一般的なトピックについて英語で意見を交換できるようになることと目標とする。</p> <p>授業では、意見を伝えるためだけでなく、他者と同意したり反対したりするためのフレーズや表現を学び、学んだ表現等のテクニックを用いて、導入したトピックについて、ディスカッションする。</p> <p>題材には、配布物、記事、TEDプレゼンテーションを使用し、様々なトピック、例えば、幸せについて、環境、本、映画、健康とフィットネス、社会問題を取り上げる。</p> <p>ディスカッションは少人数のグループで行い、全て英語で進行する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	自由履修科目	金沢大学	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を主に、特にワールドミュージックとは何かから始め、カリブ海の歴史・現状とその音楽等の視点から、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
		金沢大学	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を、特にコンゴとリンガラ・ポップやアフリカと日本の世界音楽について、世界音楽の問題等に主点を置き、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
		金沢大学	ドイツ語A（充実クラスⅠ－1）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、以下のような文法事項等を学習する。</p> <p>初級文法の確認、再帰代名詞、zu不定詞、形容詞の格変化、受動態、関係代名詞等</p>	
		金沢大学	ドイツ語A（充実クラスⅠ－2）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>文法事項の確認・練習、ドイツ語テキストの講読・読解</p>	
		金沢大学	ドイツ語A（充実クラスⅡ－1）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（趣味、家族、職業、買い物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	
		金沢大学	ドイツ語A（充実クラスⅡ－2）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（ほしい物、自分の部屋、家事、好きな食べ物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	フランス語A（充実クラスⅠ－1）	フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。 フランス語を習得するために、初級での学習項目のうち最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 ・基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 本授業では、以下の文法事項等について学習する。 フランス語の文字と発音、基本語彙、冠詞、etreとavoir、第一群規則助動詞とfaire、文型SVAとSVO、形容詞、prendre等	
	金沢大学	フランス語A（充実クラスⅠ－2）	フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。 フランス語を習得するために、初級での学習項目のうち最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 ・基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 本授業では、以下の文法事項等について学習する。 第二群規則動詞、direと文型SVOO、代名詞、rendreと文型SVOA、直接他動詞と間接他動詞、複合過去等	
	金沢大学	フランス語A（充実クラスⅡ－1）	フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。 フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。 本授業では、職業・身分・国籍について、住んでいる所、アルバイト、交通手段、ペット、科目や教科等についてトピックとして取り上げる。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 ・授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	フランス語A（充実クラスⅡ－2）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、家事・余暇・習慣・週末/休暇の予定、地理について、過去について等をトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話することができる。 ・授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	中国語A（充実クラスⅡ－1）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。また、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。</p> <p>中国語の発音、キャンパス・学食での会話、コンビニや喫茶店での会話等</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目	金沢大学	中国語A（充実クラスⅡ－2） A1/A2で学習した文法事項と語彙を定着させ、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。 具体的な学習目標は以下の通り ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 居酒屋・中華料理屋での会話、タクシー乗り場、電車の中での会話、電話をかける、温泉旅行について等	
		金沢大学	アカデミックスキル 大学で学ぶ上で欠かすことのできない主体的・自主的学習を動機づけ、初年時のみならず専門分野においても学習をデザインでき能動的に学習できる能力を育むことを目標とする。 本授業では、学校教育が直面する問題をはじめ教員に求められる基礎的知識について講義し、その後、学生と教員および学生同士のディスカッション等を通して、大学生としての自己表現能力や日本語力、論理的な思考方法を育成する。 (オムニバス方式/全8回) ※複数クラスで実施 (34 鳥居和代, 25 川幡佳一, 71 大野順子 / 1回) ガイダンス (34 鳥居和代, 66 飯島洋, 37 松原道男 / 2回, 3回) 学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「学校に行けなかった子どもたち―戦後初期の記録映画に学ぼう」等) (34 鳥居和代, 25 川幡佳一, 71 大野順子 / 4回) 「教師になるためのノート」の活用方法を学ぶ。 (35 長谷川和志, 73 田部絢子, 71 大野順子 / 5回, 6回) 学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「発達障害と合理的配慮」等) (26 黒田智, 25 川幡佳一, 33 土井妙子 / 7回, 8回) 学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「教育勅語と教育基本法―教育は誰のためのもの?―」等)	オムニバス方式
専門教育科目	学域GS科目 初学者科目	金沢大学	プレゼン・ディベート論 大学で学ぶ上でかかすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションおよびプレゼンを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。 本授業では、学校教育が直面する問題、学校教育の今日的課題、教員に求められる基礎的知識などのテーマに基づいたグループに分かれて研究活動を行い、発表を行う。	
		金沢大学	プレゼン・ディベート論 大学で学ぶ上でかかすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションおよびプレゼンを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。 本授業では、学校教育が直面する問題、学校教育の今日的課題、教員に求められる基礎的知識などのテーマに基づいたグループに分かれて研究活動を行い、発表を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学域GS科目	学域俯瞰科目	金沢大学	大学・学問論	本授業では、大学における学問の淵源をたどりつつ、大学における学問は全体としてどのように構想されているかという問題について、カリキュラムの面から考え、世界各地における大学が直面している諸問題についてアクティブ・ラーニングの手法を活用しながら、さらに人文社会学域の学問について学生一人一人が主体的に考察していく。	
			金沢大学	ジェンダーと教育	ジェンダー研究の成果を紹介すると同時に、ジェンダーの視点をともにこれまでの教育のあり方を問い直すことを目的としている。学校や家族では日常的にどのような「男らしさ」「女らしさ」が生成されており、そのもとでどのような人々（子どもたち）の存在が脅かされ、どのような人々の存在が忘れ去られているのかを検討する。また、性的な抑圧を少しでも少なくしていくために、どのような社会をつくっていけばいいのか、またそのために、学校教育に何ができるのか、について考える。	共同
			金沢大学	異文化理解1	単一事象的に物事を捉えるのではなく、「異文化」という関係性に視座をおいて、文化・社会を再考する。日本、中国等の各エリアにおける文化事象を「異文化理解」というコンテキストに置いて相対的な視点からとらえ直す。学生は、そのような視点から、具体的な事象をとりあげ多様な観点から観察および考察をする力が求められる。	
			金沢大学	異文化理解2	単一事象的に物事を捉えるのではなく、「異文化」という関係性に視座をおいて、文化・社会を再考する。アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ等の各エリアにおける文化事象を「異文化理解」というコンテキストに置いて相対的な視点からとらえ直す。学生は、そのような視点から、具体的な事象をとりあげ多様な観点から観察および考察をする力が求められる。	
			金沢大学	文学概論1	古今の世界文学の重要な作家、作品の概要に触れながら20世紀のフランスで活躍し世界に影響を及ぼした思想家＝文学研究家たちの生涯や考え方にも接し、21世紀の文学の方向性を考えていきます。20世紀までの文学者の試みを知り、文学の歩みをフランス、イギリス、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本などいくつかの文学伝統にまとめておさらいし、グローバル化した現代の世界文学のあり方について考察します。文学周辺のジャンル（映画、マンガ、歌詞など）についても適宜考察を行います。	
			金沢大学	文学概論2	現代世界で広く知られる文学、文学研究のあり方、楽しみ方について理解を深めるために、文学や文学研究の方法について基礎知識を得ます。それは今日世界中のさまざまな文学を研究する際に用いられる方法論の多くが、現代フランスで活躍した人たちがフランスおよび世界の未来について真剣に考えて作り上げた思想から生まれたものだからです。そこから世界全体の未来の文学のあり方について考察します。	
			金沢大学	世界遺産学	日本、中国、南アジア、西アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸と、世界各地の世界遺産を取り上げる。ひとつの文化遺産の背景には、幾重にも折り重なった歴史があり、そのひとつひとつを読み解くことで、文化遺産が生み出され、受け継がれてきた背景を知る。人類が作り出した文化がいかなるものか、そして、人々はそれとどのように関わってきたかを示す文化遺産は、決して「過去の遺物」ではない。現代社会が積極的に文化を活用しようとするときに、はじめて文化遺産としての評価が与えられる。文化遺産を通して人間や社会のあり方を学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学域 G S 科目	学域俯瞰科目	金沢大学	ルールリテラシー	<p>法令（条文）と判例（判決文）を素材として、ルール作り、ルールの改正、ルールの運用、ルールと言語の関係等を明らかにし、ルールの背後にある価値・条文の趣旨に遡ってルールの意味を考える習慣を身につける。</p> <p>なお、この科目は、「学域俯瞰（ふかん）科目」に区分されているので、文系の諸学問と法学・政治学（政策学）との接点についても言及する。例えば、法令や判例は「文字」によって作られており、よく言われるように、法学は「ことば」による説得の学問である点で、日本語（国語）学に関連するほか、中学校の社会科（公民的分野）や高等学校の現代社会、政治・経済といった科目における法関連学習（法教育）との接続とその発展という点で、教育学（社会科教育）にも関連する。</p>	
			金沢大学	人文社会科学における法	<p>基礎法学の概観を提供することを目的とする。基礎法学とは、法学の諸分野のうち、自国の現行法を研究対象とする実定法学（憲法学、民法学、刑法学など）を除く全ての分野を包括する総称であり、法制史学、外国法学、法理学、法社会学などが含まれる。法制史学は過去の自国または他国の法を、外国法学は外国の法を、法理学（法哲学）は国や時代が異なっても変わらない法の本質を、法社会学は社会現象としての法を対象として学ぶ。</p>	
			金沢大学	イメージの比較文化学	<p>世界各地の視覚イメージ、とくに宗教的な美術を中心に、人間が生み出したさまざまな文化を読み解く。イメージの背景にある思想、信仰、社会、美意識などを明らかにし、人間の文化の持つ多様性と普遍性を探る。美術史、文化史、宗教学、哲学、文学、歴史学、神話学など、人文学の複数の領域を学際的に横断しながら学んでいく。</p>	
			金沢大学	防災学入門	<p>地震・津波・台風等の大規模災害が相次ぐ中、災害や防災・減災に関する知識と意識をもつ人材の養成が求められる。当科目は、防災士取得に向けての入り口として、防災活動や災害ボランティアに参加する上で最低限必要な知見・技術を獲得させることを目的とし、集中講義で行う。</p> <p>また、講義だけではなく、災害ボランティア入門講習、救命救急講習、避難所運営机上訓練HUG等も行う。</p>	共同
			金沢大学	現代日本の文化と社会	<p>政治や経済、家族・社会関係、信仰など生活のさまざまな側面における戦後日本の変化を概観的に把握することで、現在の日本で生起しているさまざまな文化社会現象を認識し分析する上での基礎的知識を習得し、説明できるようにする。公式統計や社会調査の集計結果などの図表を読み取り、そこから社会の変化について把握するスキルを身につける。国際比較の着眼点を理解する。</p>	
			金沢大学	地域創造学 1	<p>地域の課題や可能性を、事例を通じて、多面的具体的に紹介し、地域への関心を高める。その際、社会学、経済学、政治学、地理学などの社会科学等にもとづく解説を行い、地域をさまざまな科学にもとづいて理解するための手がかりを提供する。</p> <p>本授業では、①コミュニティをめぐる問題（社会）では、つながりの喪失、排除と包摂、コミュニティの維持困難、共生の課題、②地域経済をめぐる問題（経済）では、グローバル化・東京一極集中と地域、観光業・創造都市の光と影、③働く人をめぐる問題（経済・労働）では、格差と絶望、労働者の人権、④行政運営にかかわる問題（政治・行政）では、広域合併のもたらしたものの、民営化の功罪、自治体と住民参画、⑤地域を襲う環境の危機（環境）では、資源争奪、異常気象の進行、漁業資源の保全、⑥地域を運営すること（政治・自治、社会）では、行政・企業・NPOの協働の意義を学ぶ。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学域俯瞰科目	金沢大学	地域創造学 2	<p>地域とは何か、地域創造とはいかなる意味・意義を持つのかといった問いを考える視点を概観し、地域の構造を生活、行政、経済などとの関連で取り上げ、そのような地域を分析する手法・方法論を紹介する。具体的な目標としては、①地域とは何か、地域創造とは何かを考える視点を学ぶ、②地域の基本構造として、地域の生活構造と自治の範囲を中心に取り上げ、経済や行政等の社会制度を概観する、③地域構造形成に影響を及ぼす諸要因である自然環境、社会的インフラストラクチャー、社会資源などに言及する、④地域分析のための諸統計の活用方法と調査手法に関する基本を紹介する。</p> <p>本授業では、生活構造・生活圏、地域の構造と情報、システムとしての地域、地域コミュニティと自治、地域分析手法（質的調査）、地域解析手法（統計）を学ぶ。</p>	
		金沢大学	データサイエンスの技術	<p>データサイエンスは機械学習・統計学だけではなく、非常に広い範囲のコンピュータサイエンス諸分野に関連する、取扱範囲が大きな分野である。本授業では初学者がデータサイエンスを理解するうえで必要となる基礎知識全般について考察する。ソフトウェア技術、アルゴリズム、統計学の知識といった基礎的なコンピュータリテラシーのみならず、機械学習やディープラーニング、さらには最近話題となることが多いビッグデータといった話題についても考察する。</p>	
	金沢大学	国際経済の理論とデータ	<p>国際経済学に関するマクロ的な問題についての理論を学び、国際収支、為替レート、財政、金融政策などについての理論を理解する。</p> <p>本授業では、世界貿易概観、国民所得勘定、国際収支、外国為替市場（アセットアプローチ）、外国為替市場における均衡（アセットアプローチ）、貨幣、利子率、為替レートなどについて学修する。</p>		
	金沢大学	国際貿易の理論とデータ	<p>国際貿易の理論を学ぶ。本授業では、主体的な学びを重視し、テキストの割り当て箇所について担当者による口頭発表およびディスカッションを行う。内容については、①データを用いた計量経済学的な実証分析の方法について学ぶ、②データの収集、加工、ソフトウェアを用いた分析について講義を行う、③国際機関が公表している実際のデータを用いて実践的なトレーニングを行う。</p>		
	金沢大学	情報処理	<p>さまざまな不確定現象（経済、経営、工学、自然科学等）を確率現象として捉え、その確率現象の構造を解明し、データ解析、評価、予測の理論とモデルの構築を学修する。その理論をファイナンス、経済学、経営学で用いた応用も行う。基礎からじっくりと学び、統計解析とデータ分析に精通した専門家となる素養を身につけることを目標とする。</p>		
	金沢大学	計量政治分析実習	<p>計量分析とは、例えば世論調査のように、数字で表現された数量データを多くの事例や人について集めて分析することによって、社会現象を明らかにしたり、そのメカニズムを解明しようとする分析方法であり、最近では、民間企業や行政機関においても、社会現象を数量データに基づいて客観的に把握して問題解決に役立てるため、計量分析を用いた報告書の読解や、調査・分析の能力が求められるようになってきている。</p> <p>本授業では、政治関係の数量データをパソコンの表計算ソフトの「Microsoft - Excel」や統計解析ソフトの「SPSS」や「R」を使って分析する実習を通じて、社会現象の計量分析の技法の基礎を修得することを目指す。</p>		

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学域GS科目 データサイエンス応用系科目	金沢大学	ビジネス・データ分析（ビジネス・データサイエンス）	この授業では、ビジネスに用いられる統計データであるビジネス・データ分析について学習し、ビジネス・データを正しく読み取り、活用できることを目的とする。焦点をあてるテーマは、①ビジネスと設備投資、②ビジネスと販売予測、③ビジネスと市場分析、とする。さらに、この授業では、統計ソフトRについて実習を通して学ぶ。	
	金沢大学	統計データ分析の基礎（多変量解析）	統計学は、大学における文系・理系の双方の専門科目の基礎となる不可欠の素養である。本授業では、調査・観察・実験の際に必要な統計スキル（多変量解析編）を学習し、得られたデータを統計的に正しく推論を行う力を身に付ける。焦点をあてるテーマは、①回帰分析、②主成分分析、③因子分析、④分散分析、⑤クラスター分析、とする。さらに、この授業では統計ソフトRについて実習を通して学びます。	
	金沢大学	データで考える日本の未来（データサイエンス）	本授業では、地域の人口・観光・産業・農業等について地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供しているRESASからデータを収集し、地域の現状を分析するとともに、地域の課題解決に向けた政策アイデアを提案できるようになることを目標とする。	
	金沢大学	統計ソフトRによるビッグデータ分析	日米の経済や金融に関する統計データ及びビッグデータの活用方法および分析手法を学習し、国内外のデータを収集、比較、分析を通して、グローバルな経済や金融の動きをデータに基づいて俯瞰することができるようになることを目的とする。 日本の統計データベースについては、RESAS、e-Statを活用し、米国はUSCensus、BEA、IPMUSを活用する。	
	金沢大学	金融リテラシー	個人の金融行動を通じてライフプランニング能力やキャリア開発能力を身に着けることのできるための、基礎的な金融に関する知識や実践力を習得し、自立した個人として行動ができるための資質を養うことを目標とする。 本授業では、次の内容について学ぶ。 1. ガイダンスと基本事項Ⅰ（金融リテラシーの基本要素） 2. 基本事項Ⅱ（基本となる生活経済知識） 3. 人生の選択 4. 収入と税・社会保険 5. 購買行動と信用履歴 6. 車の購入とペイメントオプション 7. 為替と海外旅行 8. 住宅購入とローン価値 9. リスクマネジメント（健康と病気） 10. リスクマネジメント（交通事故と損害賠償） 11. 資産管理と運用 12. 失業とセーフティネット 13. リタイアメントプログラム 14. 不確実性の理論 15. 持続可能性とパーソナルファイナンス	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学域GS科目	金沢大学	白書の講読と議論	本授業では、地域の少子化問題について少子化社会対策白書を中心に現状と課題の理解を深めるとともに、統計データを収集して地域の現状を把握する。さらに、少子化対策に関する定量的な政策評価の事例を通して、EBPM (Evidence-Based Policy Making: 証拠に基づく政策立案) について学ぶ。焦点をあてるテーマは、①総人口と人口構造の推移、②出生数、出生率の推移、③婚姻・出産の状況、④結婚をめぐる意識等、⑤出産・子育てをめぐる意識等、⑥結婚や子育てに関する意識、⑦地域比較、とする。	
		金沢大学	地域課題解決と政策立案のための統計データ分析: EBPM (根拠に基づく政策立案)	本授業では、我が国の経済社会構造が急速に変化する中、限られた資源を有効に活用し、国民により信頼される行政を展開することを目指すための取組であるEBPM (エビデンスに基づく政策立案) について学習する。①EBPMとは何かについて説明できること、②政策評価手法について説明することができること、③データを活用して政策評価を行うことができることを目的とする。	
		金沢大学	統計学技能 I	一般社団法人 統計質保証推進協会が実施している統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験である「統計検定」の3級に合格すること。例えば統計検定3級では、大学基礎統計学の知識として求められる統計活用力を評価するものです。「統計検定」に関する基本的な概要および対策方法については、ガイダンスを行って、主体的に各自で準備が進められるように配慮を行う。	
		金沢大学	統計学技能 II	一般社団法人 統計質保証推進協会が実施している統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験である「統計検定」の2級以上に合格すること。例えば統計検定2級では、大学基礎統計学の知識と問題解決力について大学基礎課程(1・2年次学部共通)で習得すべきことを検定するものです。「統計検定」に関する基本的な概要および対策方法については、ガイダンスを行って、主体的に各自で準備が進められるように配慮を行う	
	学域GS言語科目	金沢大学	学域GS言語科目 I	学域GS言語科目 I では1年次のGS言語科目で培った英語運用能力をさらに伸ばすことを目的としている。さらに、専門とする教育分野で必要となる基本的知識や概念を英語で学び、理解・表現ができるようになることを目的とする。この授業は学域GS言語科目 II と連携しており、特に学問分野の英語による基本的理解に重点を置いている。それに付随して英語の運用練習も行う。	
		金沢大学	学域GS言語科目 II	学域GS言語科目 II では1年次のGS言語科目で培った英語運用能力をさらに伸ばすことを目的としている。さらに、専門とする教育分野で必要となる基本的知識や概念を英語で学び、理解・表現ができるようになることを目的とする。この授業は学域GS言語科目 I と連携しており、特に学問分野に関わる内容を英語によって表現することに重点を。それに付随して分野に関する基本的概念についての英語表現も学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	各大学	野外体験活動Ⅰ	小学校や中学校で実施されることの多い野外体験活動についてその活動の目的や学習効果につて、実際に自然体験や合宿を通して実践的に学ぶ。また、野外体験活動の指導に必要な知識や技術を、実際に児童・生徒が宿泊に利用する施設において直接活動内容についての指導を受け、子どもの発達段階に対応した活動のあり方を、学生同士のディスカッションも取り入れながら学んでいく。	
			金沢大学	野外体験活動Ⅱ	野外体験活動Ⅰで学んだ知識や技術、活動の在り方を実際の小学校や中学校が実施する宿泊体験活動にアシスタントとして参加することによって活かすことを目的とする。合わせて、集団行動の管理、安全確保の方策、アクシデント発生時の対応といった実際の宿泊体験活動で起こりうる事態に対処する方法論および教室外での児童・生徒たちとの接し方なども実地に学んでいく。	
			富山大学	基礎ゼミナール	1年生を対象とした講義で、大学や学部の概要を理解して教員免許取得や指導教員の選択に役立てるとともに、大学での学びの技法を習得する。具体的には、図書館の利用方法や、ネットワークリテラシー、情報の整理法、レポートの書き方、プレゼンテーションのスキルなどを身につけ、大学での学びを発展させていく基盤を整えることを目的とする。	
			富山大学	地域教材研究（富山学）	本講義は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、(i)教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに、(ii)教材開発などの実践的指導力の向上を図ることである。実施にあたっては、富山県教育委員会と連携を取りながら、第3回から14回までの内容で、小・中・高のいずれかの校種の実務経験教員である指導主事が、学校教育の実情を踏まえた上で、富山県内の地域教材研究のあり方について講義を行う内容となっている。なお、第1回「『富山学』とは何か」2回「地域教材研究とは何か」および第15回「富山学」まとめは富山大学の教員が担当する。	
			各大学	卒業研究	履修者が自ら課題を設定し、研究目的や研究方法を明らかにするために研究計画を立てる。この計画に基づき、先行研究等を踏まえた上で、指導教員のもとで研究を進めるが、その際に倫理的な配慮の重要性についても学ぶ。また、このような研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解するとともに、主体的に研究に取り組む態度や問題解決能力を習得することを目的とする。	
			富山大学	地域共生（福祉）論Ⅰ	近年、社会構造・生活構造の変化に伴い、人々の生活が急激な変化を迎えている。今後考えられる変化として、外国人労働者が持ち込む考え方や文化も踏まえた共生社会をどのように構築できるかを考えていくことは急務である。高齢者、児童、障害者という従来の福祉分野にのみならず、教育や司法の分野、性別や国籍といったありとあらゆる差異を乗り越えて地域を基盤とした共生社会構築をしていくための理論と方法を学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	富山大学	地域共生（福祉）論Ⅱ	様々な分野は地域を基盤として成立しているとも考えられる。多様化・複雑化する地域の課題に対応しつつ、地域社会の一員としての学校が、『地域共生社会』をどのように構築できるか、地域住民とはなにか、地域生活とは何かを基礎に、ゲマインシャフト・ゲゼルシャフトを超える概念を考えつつ、地域住民の意識の変化や意識改革を通して共生社会構築にどのように学校、教職員が取り組むべきかを学ぶ。	
			富山大学	スクールソーシャルワーク論Ⅰ	近年、急速な少子化の進行、児童虐待問題の深刻化、少年事件に関する問題など児童福祉領域の問題は、非常にクローズアップされている。学校、教職員として問題にどのように対処しうるのか、学校をめぐる課程なども含めた複雑な問題を分析し、教育の枠だけではなく、関連領域の枠組みの諸制度を利用できる実践力を身につける必要がある。教員がスクールソーシャルワーカーと連携し、問題を解決に導くための方法を理解する。	
			富山大学	スクールソーシャルワーク論Ⅱ	文部科学省「スクールソーシャルワーク活用事業」では『いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行う、スクールソーシャルワーカーを教育委員会・学校等に配置し、教育相談体制を整備する。』としている。チーム学校を構築し、システムとして問題に対応する方法を学ぶ。	
			富山大学	主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラシー	教科書や資料の内容を直接的に理解する機能的リテラシーだけでは、市民社会（市民を主権者とする民主社会）の構成員、すなわち主権者に必須な高次リテラシーは発揮できない。多様な思考、経験を持った市民が集まる社会で、批判的思考力、読解力を発揮し、物事を表からも裏からも多面的に吟味する能力の育成が、各国で市民性教育の柱として重要視されている。メディア報道や具体事例を教材に、討論型授業を実施する。	
			富山大学	事例で学ぶ減災・防災教育論	緊急時には、学校の教員組織の一体となった協力関係が求められる。一方、情報不足が決断を遅らせる事態も発生する。東日本大震災・原発震災では、巨大津波や原発事故の影響で学校現場でも被害や影響が広がった。学校現場で何が起こったのか、多発する自然災害の減災・防災のために、事前の備えを含む、必要な知見を具体事例を通して検討、習得していく。	
			富山大学	プログラミング入門	この講義では、コンピュータは清書やインターネットを閲覧する為の道具ではなく、煩雑な作業を合理化し、効率化する為のツールであるという視点に立ち、プログラミングの考え方をマスターしながら、実際に煩雑な作業に対して自ら解決策を考え、それを簡潔に処理するプログラムを作成出来るようになることを目指す。	
			富山大学	子どもとのふれあい体験	本演習は、社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあい体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供することを目的とする。ここでは、単に大学内にとどまらず、地域社会に出て、関係団体・施設等におけるさまざまなボランティア活動を通して、人を育てる人を育成する科目とする役割を果たしている。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 教育の基礎的理解に関する科目	富山大学	教育の思想と歴史(西洋)	西洋社会における古代から現代にいたるまでの学校や子育ての歴史、教育や学校を支える思想・理念の展開、子ども・家族・教師・学校の関係やその変化などを取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷を辿る。それらを背景となる政治や社会とのかかわりから考察する。これによって、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識・技能を身につけ、教育の原理的問題にかかわる基礎教養を習得することが目標である。	メディア
	金沢大学	教育の思想と歴史(日本)	教育の思想と実践の変化を、日本の教育の歴史の中に位置づけて考える。日本社会における古代から現代にいたるまでの教育の理念や思想・実践を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷を辿る。各時代の教育を日本社会のあり方と関連づけながら考察することによって、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識・技能を身につけ、教育の原理的問題にかかわる基礎教養を習得することが目標である。	メディア
	富山大学	教職とこれからの教育	教育委員会事務局及び学校管理職経験を活かし、教員をめざす学生が、学校教育や教職について基礎的な事柄を広範な視野で学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解するとともに、これから求められる教員の資質・能力について考え、展望と課題意識をもってその後の教職科目が学べるようにする。 (オムニバス方式/全8回) (131 西島健史/1回, 2回, 3回, 4回) 教員を目指す学生が、教員の仕事や教職の意義について、基礎的な事項を学び、その後の教職課程での学びの全体像をつかむとともに、教師はやりがいと満ちたすばらしい仕事であると、志高く進んでいけるようにする。 (133 林 誠一/5回, 6回, 7回, 8回) 中央教育審議会等から多くの教育改革提言・改革案が提出され、教育の在り方、学校・教員の仕事に大きな変化が求められている。教育改革の動向を踏まえ、教師に求められる資質・能力、学校における働き方改革、チームとしての学校づくりなど、これからの教育について考える。	オムニバス方式
	金沢大学	教職と学校	教育学、および、心理学を代表とする隣接諸学の知見を領域横断的に参照しながら教師という存在を対象化して学的にとらえることを第一の目標とする。受講者は、本講義を通じて、これまでの被教育経験からの教師像からいったん自由になり、あらためて「教師とはどういう存在か」という根本的な問いと向き合うことが求められる。 【オムニバス形式/全8回】 (78平石晃樹/1回, 2回) 公教育の目的と教師の存在意義 (34鳥居和代/1回, 3回) 教職の職業的特徴と教職観の変遷 (70上森さくら/5回) 学校における主権者教育 (74土屋明広/7回) 教員の一、生活上・身分上の義務、身分保障 (77原田克巳/6回) チーム学校の一員としての校外資源 (79本所恵/4回) 国際比較から見る教職 (80森慶恵/8回) 学校保健と学校安全	メディア オムニバス方式
	富山大学	教育経営概論(教育改革と学校経営)	近年の教育改革の動向を検証しながら、教育行政の仕組みを理解し、教育経営や学校経営に関する諸問題について関心を持ち、問題解決への展望について考察する。また、学校と地域の協働についての意義や方法について理解し、開かれた学校づくりの成果や課題についての認識を深める。さらに、学校管理下で起こる事故や災害について、具体的事例を踏まえながら、危機管理や事故への対処方法についての理解を深める。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 教育の基礎的理解に関する科目	金沢大学	教育制度概論（就学保障と学校安全）	公教育制度の基本理念と基本的な制度を、就学保障と学校安全を基軸に据えて講義していく。公教育は子どもの就学を保障するために教育行政、教育課程、教科書、就学支援など様々な制度を、その基盤として子どもの安全を保障するための法制度を整備している。本講義は就学支援と学校安全に関する法制度を中心に講義することで、教職に就く者が必要とされる視点や知識を修得することを目標とする。	
	富山大学	教授・学習心理学（個別最適化学習の理論と実践）	近年、一人ひとりの能力や適性に合わせた「公正に個別最適化された学び」の重要性が指摘されている。この授業では、個別最適化学習の重要性を押えた上で、幼児・児童及び生徒の学習や、個別最適化学習に関する基礎的な知識や理論を身につけることを目的とする。また、学習者の発達の状態や能力・適性をふまえた効果的な指導方法についても概説する。	メディア
	金沢大学	発達と教育（自己創出としての発達）	乳幼児期から青年期までの自己創出された発達の特徴を理解するとともに、発達の状態をふまえた指導方法について概説する。前半部分では、教育を行ううえでの発達について学ぶ意義、自己創出としての発達とはどのようなものか、進化の過程でどのような能力や特性を獲得してきたのか見ていく。後半部分では、乳幼児期、児童期、青年期の発達時期に分けて、それぞれの時期に見られる認知、社会性、人格の特徴について理解を深めていく。	メディア
	富山大学	特別な支援を要する子どもの理解	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解するため、本授業では特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、発達障害や知的障害をはじめとする障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。	メディア
	金沢大学	特別支援教育概論	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育の制度と指導・支援について理解するため、本授業では、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども及び、障害はないが、特別の教育ニーズのある子ども）に対する教育の理念や特別支援教育の制度（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、特別支援教育コーディネーター、「チーム学校」による支援等）及び、指導・支援について概説する。	メディア
	富山大学	未来をつくる教育課程	本授業は、教育課程編成の基本原則や方法についての基本的な考え方を学び、教育課程の具体的実践例について検討することを通して、教育現場における現在と未来の教育課程について、制度レベルだけではなく実践レベルにおいても考察できるようになることを目的とする。子どもの豊かな学びを実現するために、教師はどのように教育課程に向き合い、実践しているのか、また、子どもたちの未来の社会のために、教師はどのように教育課程を編成する必要があるのかについて、日常的な教師の授業感覚を捉えながら、ともに理解を深める。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教育の基礎的理解に関する科目	金沢大学	現在をつくる教育課程	本授業は、現在の教育課程がどのような歴史と理念の上に成立しているのか、その教育課程がどのように現在の教育や社会と関わっているのかを学ぶ。そのために、学習指導要領の変遷を、教育実践の具体例および各時代の社会との関わりに触れながら辿り、現在の教育や社会の成り立ちを理解する。また、国内外にある実際の教育課程の具体例を多く取り上げ、その中にある理論を学ぶ。そして実際に教育課程を実施・改善する上での重要事項や留意点など、カリキュラム・マネジメントに関わる基礎知識を具体例から学ぶ。	
		富山大学	道徳教育論（理論）	道徳の教科化は、読み物資料に登場する人物の心情読解に傾斜しがちだった従来の指導法の一面性に対して根本的な反省を促すものであった。このような認識に立つならば、道徳の多様な指導法を学習するのみならず、道徳教育に関する理論的な理解を深めることで、「心の教育」といった一面的理解から脱さねばならない。以上の問題意識に沿いつつ本講義では、道徳の本質に関する哲学、道徳性の発達に関する心理学、道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題、道徳教育および道徳科の目標、道徳科の主な内容について解説する。また、模擬授業を導入的に実践しつつ、「道徳の指導法」の学習に向けた基礎的能力を涵養する。	メディア
	金沢大学	道徳教育論（指導法）	道徳の教科化は、読み物資料の人物の心情読解に傾斜しがちだった従来の指導法の一面性に反省を促すものであった。これを受け、本講義では道徳の多様な指導法を紹介・検討することをベースに、いわゆる定番教材を多く取り上げながら、教材研究の意義と手法、創造的な発問の必要性、指導案作成による授業の構造化の重要性等について解説する。最終的には模擬授業の実施を通じて道徳教育の実践力と授業改善の視点を涵養する。	メディア	
	各大学	総合的な学習の時間教育論Ⅰ	「総合的な学習（探究）の時間」設置の意義、ねらい、内容構成について理解する。さらに、この総合的な学習（探究）の時間で最も重視すべき点の一つである探究的な学習の在り方について把握した上で、その学習の進め方に関わり、課題設定の方法、追究の方法、整理・分析・課題解決の方法、まとめ・表現の方法等について、それぞれの校種の具体例を取り上げながら、理解を深めていく。また、その際に必要となる教師の指導や支援の方法も検討することにより、実際にこの授業を実施するための基本的な力を身に付ける。		
	各大学	総合的な学習の時間教育論Ⅱ	新しい時代にふさわしい総合的な学習（探究）の時間の授業の在り方について、追究にふさわしい新しい時代に向けた課題の設定方法、追究の具体的な方法、課題解決に向けた取り組み等から検討を行い、理解を深める。さらに地域の小中高等学校における授業実践例を知るとともに、年間指導計画・学習指導案の作成方法や、学習活動における評価の考え方や方法について理解することを通して、実際にこの授業を実施するために必要な力を身に付ける。		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	富山大学	特別活動とカリキュラムマネジメント	本授業は、学校教育における特別活動の意義や目標を理解するとともに、具体的な内容と特質、各教科等との関連（カリキュラム・マネジメント）について学ぶことを目的とする。それぞれの子どもたちの成長や子どもたちの人間関係形成に寄与する特別活動の在り方について、また、特別活動に求められる教師の役割や力量について、さらには、特別活動における生活指導と各教科の授業での学びとのつながりについて、実践事例をもとに教師の視点から理解を深めることを目指す。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	金沢大学	特別活動における評価と指導の実際	学校教育における特別活動の指導の在り様を考察していくために、社会的背景や教育政策との関連をふまえて、その位置と役割を理解しつつ、子どもたちの生きる現実を切り拓いていくための特別活動としての今日的課題を明らかにしていく。さらに、学級活動や学校行事など各活動における具体的な評価と指導の在り様や、学校外の資源の活用について、実践記録を共同で分析し合うことを通して、特別活動の指導原理の理論的・実践的な見識を深める。	
		富山大学	教育技術学	主体的・対話的で深い学びや探究的な学習活動、プログラミング的思考の育成等大きく変わろうとしている学校とそこで行われている授業について、教育の方法、指導技術、授業を支援するメディアの役割、情報機器の活用等について理解する。本科目では実習的な活動も取り入れ、授業を受けるだけでなく教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、教材作成、単元開発等、授業実施の準備を自ら行えるよう支援する。	メディア
		金沢大学	教育方法探究	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力とは何かを、さまざまな教育論議や教育実践を通して考え、それらの能力を育成するために必要な、教育の方法に関する知識・技能を学ぶ。創造的な教育実践の思想や取り組みを学び、自分の教育実践を評価し改善する視点を持ちながら、実際の教育を計画・実施できるようになることを目指す。	メディア
		富山大学	生徒指導論	生徒指導の理論的側面と実践的側面について解説する。前者では教育課程上の位置づけ、目指すべき方向、他の教育実践との異同、関連する法律などを講義する。後者では個別指導と集団指導の視点、いじめや虐待といった現代的課題への対応などを講義する。 (オムニバス方式/全8回) (91 近藤龍彰/第1回, 2回, 3回, 7回担当) 生徒指導の定義と位置づけ、体罰と懲戒に関する法令、多動に着目した個別指導と集団指導、虐待への対応について解説する。 (47 石津憲一郎/第4回, 5回, 6回, 8回担当) 対人関係面への生徒指導、個別指導と集団指導の視点、いじめへの対応、外部機関との連携協力の在り方について解説する。	メディア オムニバス方式
		富山大学	教育相談の理論	教育現場で教師が使える教育相談の考え方(哲学)と技法の習得および、外部機関との連携について学校心理学の視点から学ぶ。また、児童期から青年期までの発達について触れることで、子どもたちが成長していくことについて心理学的な側面から理解を深めていく。 (47 石津憲一郎/第4回, 5回, 6回, 8回担当) 学校における心理教育的援助サービスの理論について概観した後、チームとしての支援の実際を解説する。 (91 近藤龍彰/第1回, 2回, 3回, 5回担当) 教育相談の理念と定義、子供の発達に即した支援の実際について開設する。	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	金沢大学	学校カウンセリング	学校教育現場において、教職員（スクールカウンセラーを含む）が向き合うこととなる主要な教育的課題の中から、いじめ、不登校、虐待、貧困をテーマとして取り上げる。統計資料から実態を把握し、関係する法令等から国が示す施策の方針と対応の指針を理解する。その上で、諸問題に関わっての児童生徒の心理的苦痛や背景要因について紹介し、教職員として児童生徒および保護者に対する指導と支援を、協働・連携の視点を含めてどのように行えばよいかを考察する。また、指導・支援を考察し、自らの技能とするために、学校カウンセリングの基本的な理論と技法を紹介する。	メディア	
		金沢大学	子どもの生活とキャリア教育	学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むキャリア教育のために、若年労働市場の変容、格差・貧困の拡大、消費社会化、家族・地域の変容といった現代社会における諸課題と共にあるキャリア教育の課題を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付け、指導の在り方を具体的に構想する。	メディア	
	専門基礎科目	教育実践に関する科目	各大学	教育実習A(幼・小) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、園児・児童の実態や、学校・学級経営及び幼稚園・小学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	
			各大学	教育実習A(中・高) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、生徒の実態や、学校・学級経営及び中学校・高等学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	
			各大学	教育実習B(小)	小学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 教育実践に関する科目	各大学	教育実習B(中・高)	中学校・高等学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
	各大学	教育実習B(特別支援)	特別支援学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童・生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
	各大学	教育実習B(幼)	幼稚園における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、園児と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
	各大学	教職実践演習(幼・小・中・高)	<p>「履修カルテ」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己の到達点を確認するとともに、教職についての考えを深めるためのグループワークや模擬授業等を通して、教員として必要な資質・能力を確認し、それらの向上を図る。学生は、この科目を通して以下ができるようになる。①教職に関する様々な課題についてグループで議論しつつ取り組む。②教育実習等の振り返りを行い、自分自身の資質・能力を評価して、教師になるために適切な目標を設定する。③特定の学年・教科のための指導案を書く。④授業参与観察や現職・退職教員の講義をもとに、学校での教育に関して理解を深める。とりわけ、教員として重要な(1)使命感や責任感、教育的愛情等、(2)社会性や対人関係能力、(3)児童生徒理解や学級経営等、(4)教科等の指導力の4項目に関して自己評価を行い、これらの資質・能力を身につける。</p> <p>(共同・オムニバス方式/全15回)</p> <p>(70 上森さくら:金大クラス/1回~10回, 12回~15回, 96 増田(田中)美奈:富大クラス/1回~10回, 12回~15回)</p> <p>教員の役割や教職に必要とされる社会性、児童生徒理解や学級経営等について講義とグループワークを行い、授業参与観察の指導をする。</p> <p>(39 守屋哲治:金大クラス/1回, 11回~13回, 15 徳橋曜:富大クラス/1回, 11回~13回)</p> <p>教育実習等を振り返らせた上で、指導案の作成や検討について講義とグループワークを行い、模擬授業の助言指導を行う。</p> <p>※1回, 12回, 13回は共同で実施 1回/当該授業のオリエンテーションを共同で行う。 12回, 13回/指導案の発表に係るグループワーク及び模擬授業の指導助言等を共同で行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教育実践に関する科目	富山大学	学校インターンシップⅠ（小）	<p>本授業は、教員志望学生が実際の学級担任教師の日常的職務活動の具体的場面に直接参加し、学級担任としての学級経営や、学習・行動上気になる子どもの支援についてのリアリティを獲得することを通して、自身の教師としての資質・能力などの向上を図るものである。また、担当者に小学校、中学校、特別支援学校の実務経験教員を含んでおり、前半の講義部分の一部を担当しながら、中間発表会、配置校でのフィールドワーク報告において現場の経験に基づいてアドバイスをを行う。</p> <p>なお、本授業は富山県教育委員会との連携事業であり、県内教育事務所及び地方教育委員会の協力を得て実施されている。</p>	
		金沢大学	学校インターンシップⅡ（幼・小）	<p>授業補助、放課後学習、その他校務の手伝いを通して、子ども理解や教師としての指導技術、校務について学び、教師としての実践的な能力を身につける。この授業では幼稚園・小学校においてインターンとして活動し、教師の日常的職務活動を補助することを通して学級経営や子どもの支援について学び、自身の教師としての資質・能力などの向上を図る。</p>	
		金沢大学	学校インターンシップⅡ（中・高）	<p>授業補助、放課後学習、その他校務の手伝いを通して、子ども理解や教師としての指導技術、校務について学び、教師としての実践的な能力を身につける。この授業では中学校・高等学校においてインターンとして活動し、教師の日常的職務活動を補助することを通して学級経営や生徒の学習支援等のあり方を学び、自身の教師としての資質・能力などの向上を図る。</p>	
	富山大学	国語科基礎A（書写を含む）（低・中学年の国語科と現代の教育課題）	<p>（概要）知識及び技能、「読むこと」「書くこと」領域の内容理解を目標とした授業を実践するための国語科の各分野の基礎知識を概説する。先行研究で基礎を固めた上で、エビデンスに基づく計量的な研究成果も踏まえて、現代的な国語科の授業・研究のあり方を提案する。知識だけではなく、十分な実践力を育成するために、必要に応じて簡単な課題の作成、発表など行う場合もある。受講者と一緒に、地域・現代の文学作品、方言、伝統芸能を題材に地域に根差した国語科の学習を創造する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（59 宮城信／1回，2回，3回，4回） 初回に、学習指導要領における各講義の位置づけを確認する。2回～4回は、日本語の小さな単位（文字）から、大きな単位（文章の種類）まで概観しながら、言葉のシステムとしての日本語を捉え、国語教育でどのような知識を扱う必要があるかを検討する。</p> <p>（94 武田裕司／5回） 5回は、国語科における書写指導の目標を確認するとともに、その指導のあり方について検討する。</p> <p>（17 西田谷洋／6回，7回，8回） 6～8回は物語・詩歌・評論・随筆など様々なジャンルの文学教材を概観しながら、地域教材あるいは文字教材以外のメディア教材をとりあげ、論理と創作を接続するなど先進的なテーマにとりあげることで、どのように国語教育で文学に取り組むかを検討する。</p>	メディア オムニバス方式	
	小学校の教科に関する科目				

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	金沢大学 国語科基礎B（書写を含む）（地域の文学を含む）	<p>小学校国語科を担当するのに必要な国文学・国語学の基礎知識の習得と書写指導の基礎を修得する。日本近代文学・日本古典文学・漢文学についての基礎的な教養を習得し、作品はいかに読むべきなのかという問題を検討する。小学校国語科を担当するのに必要な国文学・国語学の基礎知識の習得と書写指導の基礎を修得する。日本近代文学・日本古典文学・漢文学についての基礎的な教養を習得し、作品はいかに読むべきなのかという問題を検討する。また国語科高学年の書写に関する基礎知識を習得する。北陸出身、あるいはゆかりの文学者の作品についても取り上げ、地域の文学への理解と関心を深めるようにする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（66 飯島洋／1回、2回、3回、4回） 小説と詩歌を取り上げ、論理的・構造的な読解のありかたについて検討する。北陸にかかわる文学作品についても取り上げ、地域への理解を深めるようにする。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古典文学の基礎的な読解について修得する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化および、日本文化における漢語の影響について修得する。</p> <p>（24 折川司／7回、8回） 国語科書写の位置と役割および国語科書写において指導する内容について理解の深化を図る。また国語科高学年の書写に関する基礎知識を習得する。北陸出身、あるいはゆかりの文学者の作品についても取り上げ、地域の文学への理解と関心を深めるようにする。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	富山大学	<p>社会科学基礎A（中学年の社会科と現代の教育課題）</p> <p>（概要）富山・石川両県に関する地域研究の成果も踏まえ、地域学習が重視される小学校中学年の社会科授業を行う上で必要な知見を教授する。各担当教員が、地理学・歴史学・社会科学3分野の知見を小学校社会科教育の目標・内容に反映させた授業構成の方法について、必要な視点や考え方を提供する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（19 山根 拓／1回, 2回, 3回） まず、学習指導要領から小学校中学年社会科教育の狙いと現代的課題を探る。次に、地理的見方・考え方に基づく身近な地域や都道府県の教え方・学び方について教授する。最後に、初等中等教育における地理教育の意義を、地誌教育・地図教育・野外学習等をキーワードに講義する。</p> <p>（53 中村只吾／4回, 5回） 歴史の見方・学び方・伝え方について説明し、その上で小学校歴史教育で重視される内容・方法・素材について講義する。</p> <p>（51 志賀文哉・46 池田丈佑／6回） 小学校中学年社会科における社会科学的アプローチの意義を、特に主権者教育の観点から講義する。</p> <p>（51 志賀文哉／7回） 社会的な見方・考え方の連続性に注目して、小学校学習指導要領を解説する。</p> <p>（46 池田丈佑／8回） 小学校教員が、地域社会の諸事象を政治・経済学的にどのように捉え、どのように教えればよいのかについて講義する。</p>	メディア オムニバス方式
			金沢大学	<p>社会科学基礎B（高学年の社会科と現代の教育課題）</p> <p>（概要）法学、地理学、哲学、日本史からそれぞれ小学校の社会科を教える上で基礎となるテーマを選び出し、解説する。授業においてはグループによる発表や討論を取り入れ、問題を参加者と協働で探究する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（68 石川多加子／1回, 2回） 日本国憲法の制定過程、その基本原理、および各条文について、戦後どのような裁判が争われてきたかの事例を紹介する。</p> <p>（84 吉田国光／3回, 4回） 「地理学」の方法から初等教育における社会科地理を学ぶ方法を問い直す。「知らない地域」をどのように学のか、なぜ学ぶ必要があるのかを、教えられる教師となるための方法を習得する。</p> <p>（40 山本英輔／5回, 6回） 現代の環境思想を学び、環境教育を問い直す。また環境問題と食の連関を理解し、食を哲学的に考察する。</p> <p>（26 黒田智／7回, 8回） 私たちが生きる現在の歴史的位置を相対化しながら、歴史を学ぶ愉しさと意義、多様な史料から構築される歴史研究の基本的な方法を理解する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科に関する科目	富山大学	算数科基礎A（低・中学年）	この授業では、小学校で算数を教える際に必要となる数学の基礎を学ぶ。数の分類を理解し、特に素数と約数の問題を深く学ぶ。連分数展開を通して分数の計算方法を再確認し、計算力を養う。論理については、必要十分条件などの仕組みを理解し、背理法を用いた命題の証明を学ぶ。また、関数と方程式の基礎を学び、身の回りの現象を数学的に説明できるようになる。	メディア
		金沢大学	算数科基礎B（高学年）	算数科の高学年の内容と、それに関連する事象に関する知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の主に高学年の各領域・内容に関する教育的な分析に取り組む。具体的には、数学的な概念や構造、アイデアと、それらによって説明される、日常生活や社会の事象や数学の事象との関係について、児童の学習過程を踏まえて検討する。	メディア
		富山大学	理科基礎A（理論）	（概要）小学校理科の授業を担当できる力を養うために、理科の4分野（物理・化学・生物・地学）について基礎的な知識・技能を習得する。 （オムニバス方式／全8回） （54 成行泰裕／1回、2回） 物理分野の基礎理論として、力と運動・物質の性質・音と光の性質・電気と磁石について講義する。 （6 片岡弘／3回、4回） 化学分野の基礎理論として、物質の構成と変化について講義する。 （60 安本（和田）史恵／5回、6回） 生物分野の基礎理論として、生物の構造と機能・生命の連続性および生物と環境の関わりについて講義する。 （88 河村愛／7回、8回） 地学分野の基礎理論として、固体地球表層・気象・天文について講義する。	メディア オムニバス方式
		金沢大学	理科基礎B（実践）	（概要）小学校の理科授業において必要な知識・技能と実験・観察の方法を、物理・化学・生物・地学の各分野において習得する。 （オムニバス方式／全8回） （32 辻井宏之／1回、2回） 物理分野の実践について学ぶ。 （97 小松田（佐藤）沙也加／3回、4回） 化学分野の実践について学ぶ。 （25 川幡佳一／5回、6回） 生物分野の実践について学ぶ。 （28 酒寄淳史／7回、8回） 地学分野の実践について学ぶ。	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	富山大学	生活科基礎A（講義）	小学校生活科において必要な基礎的知識・技能を取得することを目的に、生活科の各内容のまとめり毎の学習対象、内容構成の具体的視点についての知識と技能の習得を図る。その際、生活科全体の指導計画を理解し、見直しをもって学習を進められるようにするために、各領域に関する内容の授業特性について学び、授業実践力の育成を目指す。生活科と他教科との関連や学問領域との関係にも触れ、小学校における生活科の意義についても学んでいく。	メディア
		各大学	生活科基礎B（実践）	自然体験や栽培などの様々な体験は豊かな学力形成の基盤となるが、近年の子どもたちの体験不足は指摘されて久しい。これも背景となって、とりわけ小学校生活科は体験活動が重視されている。教員になった際に授業で実施する体験活動の実践力を高めることを目的に、生活科で特に重視されている花や野菜等の栽培に関する実践を掘り下げて研究したり、地域学習等としてフィールドワークに出かけたりして、小学校教員としての具体的な授業構想が可能になる力を育成することを目標とする。	
		富山大学	音楽科基礎A（講義）	教科書に掲載されている教材の演習、講義または鑑賞を通して、小学校音楽科の指導に必要な基本的知識を習得する。講義では、楽曲を演奏する技能や歴史的・文化的背景といった知識の習得にとどまらず、取り上げる楽曲について教科内容の視点から検討し、授業実践において教材化するための知識・技能を習得することを目指す。また、鑑賞教材の学修にあたっては必ず音を通して、音楽づくりについては実際の創作を通してそれぞれ理解する。	
		各大学	音楽科基礎B（実践）	（概要）初級者と中級者以上にグループ分けをし、初級者ではバイエル教則本と弾き歌いの個人レッスンをし、中級者以上には、修得しているピアノの演奏技術を前提に、鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。 （93 多賀秀紀／23 小野隆太、20 安藤常光） 初級者を担当し、バイエル教則本から14番、15番、25番、29番、40番、48番、49番、52番、56番、60番と弾き歌い（茶つみ）の個人レッスンをし。 （64 浅井（橋場）暁子） 中級者を担当し、修得しているピアノの演奏技術を前提に、楽典基礎、基本的なカデンツの基礎と応用、借用和音の理解と利用、コードネームの基礎と習得、曲調に合わせた伴奏形のアレンジ基礎と応用、メロディー譜を用いた伴奏づけ実践、オリジナル伴奏による発表などの鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。	共同
		富山大学	図画工作科基礎A	本講義は、できるだけ小学校教育の現場における取り組みを想定した内容の紹介を目指して構成している。そのために、小学校の図画工作科を担当するために現在の図画工作科指導における課題を踏まえて、学習指導要領に示された領域および内容項目に指導するために必要な専門的で基礎的な知識および技能を獲得することを目的とする。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	各大学	図画工作科基礎B (実践) 小学校図画工作科における表現技能の要点理解を目標とし、中学校美術科との連結をねらいに造形遊び的・絵画的・彫刻的・デザインの・工芸工作的な図画工作科題材とその作品制作をおこなうとともに受講者自身の造形表現技能のスキルアップを図る。 (オムニバス方式/全8回) (22 大村雅章と151 江藤望/1回, 2回, 3回, 4回) 図画工作科教科書より絵画・彫刻的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、絵画・彫刻的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、絵画・彫刻的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第4回では絵画・彫刻的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 (大村雅章) 絵画 (江藤望) 彫刻 (67 池上貴之と44 鷺山靖/5回, 6回, 7回, 8回) 図画工作科教科書よりデザイン・工作工芸的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、デザイン・工作工芸的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、デザイン・工作工芸的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第8回ではデザイン・工作工芸的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 (池上貴之) デザイン (鷺山靖) 工作	オムニバス方式・共同 (金沢クラスのみ)
			富山大学	家庭科基礎A (住居・食物と現代の教育課題) (概要) 小学校家庭科の食生活および住生活分野の内容を理解し、その背景となる基礎知識や考え方を深め、家庭科における現代の教育課題を踏まえ実践につなげて考えることができることを到達目標とする。授業では食生活および住生活分野を中心に、小学校家庭科に関連する基礎的・基本的な知識について講義する。また両分野の各内容において、現代の教育課題についても取り上げる。 (オムニバス方式/全8回) (57 藤本孝子/1回, 2回, 3回, 4回) 食生活、調理、栄養素、栄養バランスについて、現代の教育課題を踏まえながら講義する。 (1 秋月有紀/5回, 6回, 7回, 8回) 住まいの歴史、計画、環境・設備、安全・管理について、現代の教育課題を踏まえながら講義する。	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	金沢大学	家庭科基礎B（被服・家庭経営と現代の教育課題）	<p>（概要）小学校家庭科において、「家族・家庭生活」、「消費生活・環境」および「衣食住の生活」について扱われている。家族・家庭生活、消費生活および衣生活に関する基礎的な知識を習得し、学校教育において地域・環境へ配慮した生活の送り方を念頭においた授業展開ができるようになることを授業目標とする。本授業では、小学校家庭科における家族・家庭生活、消費生活および衣生活に関する指導目標および指導内容に応じた基礎的な内容を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（75 花輪由樹／1回, 2回, 3回, 4回） 消費生活に関する講義において、家族・家庭と暮らし、ものやお金の使い方などを解説し、これからの消費生活や地域での工夫の仕方を検討していく。</p> <p>（81 森島美佳／5回, 6回, 7回, 8回） 衣生活に関する講義において、衣服の種類、役割、素材や取扱い方などを解説し、環境に配慮した衣生活における工夫の仕方を検討していく。</p>	メディア オムニバス方式
			金沢大学	家庭科基礎C（実習）	<p>学校教育で被服製作実習を展開していくために必要な基礎知識と技能を習得し、ICTを活用した適切な実習計画、材料や用具の準備および安全性に配慮した授業展開ができるようになることを授業目標とする。本授業の前半では手縫いによる製作と教示用の動画を作成し、後半では不要な布を用いたミシン縫いによる小物製作を行う。</p>	
			金沢大学	体育科基礎A	<p>（概要）体育科教育および学校保健の各研究領域の理論を踏まえ、それを活かした授業実践について検討し、学習指導方法に関する理解を深めていく。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（83 横山剛士／1回, 2回, 3回, 4回） 体育科の指導方法論の「よい体育授業の条件」「運動が苦手な児童への学習指導」等に関して理解を深める。</p> <p>（21 岩田英樹／5回, 6回, 7回, 8回） 体育科保健領域の「健康な生活」、「体の発育・発達」、「心の健康・けがの防止」、「病気の予防」で取り扱う教材等を取り上げ、保健領域における学習方法に関する理解を深める。</p>	メディア オムニバス方式
			各大学	体育科基礎B（実践）	<p>（概要）本科目では体育科教育においてみんながわかり、うまくなることをめざして開発されてきた教材群を体験しながら、多様な教材群を指導する上で必要となる基礎的な戦術・技術の方法や、教材づくりの方法を理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（82 山田哲／1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回） 「体づくりの運動」、「器械運動」、「水泳」の学習指導方法について演習を行う。</p> <p>（36 増田和実／7回, 8回） 「ボール運動（ゴール型）」や「ボール運動（ネット型）」の学習指導方法について演習を行う。</p>	オムニバス方式 （金沢クラスのみ）

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科に関する科目	金沢大学	英語科基礎A（理論）	<p>（概要）小学校での授業実践に必要なコミュニケーション力を涵養するとともに、英語の音声・正書法や第二言語習得、児童文学などの事項を学習する。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、適宜英語による発表やディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（30 滝沢雄一／1回，2回） コミュニケーションの構成要素、及びコミュニケーション能力、第二言語習得について学習し、それを踏まえた授業実践における言語活動のあり方について議論、考察する。</p> <p>（39 守屋哲治／3回，4回） 英語の指導の基盤となる英語の音声及び文字について、基礎となる知識、技能について解説や実技を通して学ぶ。</p> <p>（72 久保拓也／5回，6回，7回，8回） 英語の正書法、絵本や歌・詩などについて学習し、授業での活用について議論、検討する。</p>	メディア オムニバス方式
		金沢大学	英語科基礎B（実践）	<p>小学校での授業実践に必要なコミュニケーション力を涵養するとともに、英語の語彙・文法や第二言語習得、異文化理解などの事項を学習する。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、適宜英語による発表やディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（30 滝沢雄一／1回，2回） クラスルーム・イングリッシュや授業で英語を話して聞かせるために必要な知識を学び、演習等を通して活用できる技能を身に付ける。</p> <p>（39 守屋哲治／3回，4回） 英語の指導の基盤となる英語の語彙や文法について、基礎となる知識、技能について解説や実技を通して学ぶ。</p> <p>（41 山本卓／5回，6回，7回，8回） 世界及び日本における英語の役割や位置づけ、異文化理解などについての知識を学び、それらを踏まえた授業について議論、検討する。</p>	メディア オムニバス方式
	各大学	初等国語科教育法Ⅰ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」を扱う。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>		

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	各大学	初等国語科教育法Ⅱ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「読むこと」を扱い、加えて「知識及び技能」の内容や学習評価についても整理する。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	
			各大学	初等社会科教育法Ⅰ	<p>小学校の学習指導要領の「社会科」を解説する。とりわけ小学校3～4年は地域学習、5年生は産業学習、6年生は日本史と憲法学習であることを説明する。日本史は42人の具体的な名前を挙げて「例えばこの人物を教えること」と例示されており、それぞれの人物がどのような業績を上げた人物なのか、具体的な模範授業を通じて示す（例として杉田玄白、ペリー、野口英世）。</p>	
			各大学	初等社会科教育法Ⅱ	<p>子どもの心を揺さぶるような社会科の授業はどのようにして設計されるのか、その基本的なノウハウを教授する。社会科の授業の面白さの本質は、アクティブラーニングなどの学習方法以前に、教育内容の「意外性」と「ストーリー性」であることを講義し、意外性を盛り込むためにはどのようなリサーチが必要なのかを説明する。そのうえで、実際に学生にリサーチを行わせ、模擬授業プランをレポートとして提出させる。</p>	
			各大学	初等算数科教育法Ⅰ	<p>算数科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域における授業の視聴とその検討を通して、個別の学習内容における児童の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科の指導法についての知見を得る。</p>	
			各大学	初等算数科教育法Ⅱ	<p>算数科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、算数科の授業を設計することができるようになるために、算数科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価についての知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、さらに算数科の実践研究とその課題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回、7回、8回) 算数科における教材研究とその方法、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価、算数科の実践研究とその課題について講義し、本科目を総括し展望を示す。</p> <p>(43 米田力生／5回、6回) 算数科授業の構想と学習指導案の作成、模擬授業とその振り返りを行う。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	各大学	初等理科教育法Ⅰ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や具体的な授業実践例を通して、理科の目標、子どもに育成する能力、指導技術、教材内容について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。とくに、小学校理科の目標については、理科を学ぶ意義について、内容については、具体的な教材を例に教材の工夫や内容区分の意義について理解する。また、理科における見方・考え方に基づく思考と問題解決の能力、さらに、主体的な学習のための工夫について授業実践事例を通して理解する。	
			各大学	初等理科教育法Ⅱ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や授業実践例を通して、理科の指導計画、指導技術、教材内容、評価方法について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。小学校の教材を例に具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。その際、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のありかたについて検討する。また、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	
			各大学	初等生活科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			各大学	初等生活科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			各大学	初等音楽科教育法Ⅰ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案の作成につなげることができる。講義では、音楽科教育に関する理論的内容を中心に扱い、授業を組織するための基礎的な内容を学修する。特に、目標論と評価論、音楽科の授業構成についての歴史の変遷を踏まえ、学習指導要領を相対化し、今後の授業のあり方を展望できるための素地を身につける。講義の期間中にはレポート課題によって、学修内容の定着をはかる。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	各大学	初等音楽科教育法Ⅱ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案を作成し模擬授業として実践する。講義では、音楽科基礎AB及び初等音楽科教育法Ⅰでの学修をもとに、学習指導要領における教科内容やそれらを踏まえた学習指導計画を、授業構成に関する理論を援用しつつ作成できるようにする。また、模擬授業の実践を通して、授業を省察するための視点を獲得し、自律的な授業改善を実現するための素地も身につける。	
			各大学	初等図画工作科教育法Ⅰ	(概要) 小学校図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (44 鷲山靖/1回、2回、3回、4回) 算小学校図画工作科の意義、目的を学ぶ。 (151 江藤望/5回、6回、7回、8回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	初等図画工作科教育法Ⅱ	(概要) 初等図画工作科教育法Ⅰの学習に基づき、引き続き図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (151 江藤望/1回、2回、3回、4回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する (67 池上貴之/5回、6回、7回、8回) 情報機器及び教材の活用を含む基礎的な授業方法を理解するとともに模擬授業等の演習を通して授業技能を身につける。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	初等家庭科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			各大学	初等家庭科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。この講義では、小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科指導法	各大学	初等体育科教育法Ⅰ	<p>(概要) 本科目では体育科教育における教科目標論、教科内容論、学習指導論、教育課程論の基礎理論を理解し、体育科教育の全体構造を理解する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科教育に関する基本的事項である目標・内容論、学習指導要領の変遷・特徴、学習指導論等について理解する。 (21 岩田英樹/7回, 8回) 体育科保健領域における授業づくりと、模擬授業と省察を演習形式で行う。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
		各大学	初等体育科教育法Ⅱ	<p>(概要) 体育科教育の各領域における目標・内容・方法・評価について検討することで、各領域における具体的な指導上の留意点について理解する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科における指導実践に関わる授業計画、学習評価を演習形式、模擬授業・省察で学習する。 (21 岩田英樹/7回, 8回) 中学年、および高学年を対象とした体育科保健領域における具体的な指導上の留意点について取り上げる。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
		各大学	初等英語科教育法Ⅰ	<p>英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主にコミュニケーション、第二言語習得理論、学習指導要領、インプットとアウトプット等を中心に取り上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識を踏まえて議論できる機会を設ける。</p>	
		各大学	初等英語科教育法Ⅱ	<p>英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について、主に5領域の言語活動及び評価等を中心に取り上げ、実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則を踏まえながら、模擬授業やリフレクションを通して、指導法・指導技術を確立することを目指す。</p>	
	先進的教育科目(共通領域)	富山大学	インクルーシブ教育基礎演習Ⅰ	<p>インクルーシブ教育では、すべての子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けることのできる教育が求められている。本授業では通常の学級及び特別支援学級におけるインクルーシブ教育のあり方、アクセシビリティの理解とICT活用、それに基づく児童生徒の学習や生活上の支援の工夫についての基礎的な知識・技能を身に着けることを目的とする。</p>	メディア
		富山大学	インクルーシブ教育基礎演習Ⅱ	<p>インクルーシブ教育では、すべての子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けることのできる教育が求められている。本授業では通常の学級及び特別支援学級において、その実践に必要な個別の教育的ニーズの把握、困難に応じた指導内容や指導方法の工夫に関する基礎的な知識・技能を身に着けることを目的とする。</p>	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	金沢大学	中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ	インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び教育課程を踏まえ、中学校・高等学校段階における特別な支援を必要とする生徒の障害等の特性と心身の発達、ならびに支援の方法を理解することを目的として、本講義では中学校・高等学校段階における個別の教育的ニーズを理解するために必要な知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	メディア
	金沢大学	中学校・高等学校の特別支援教育Ⅱ	インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び教育課程を踏まえ、中学校・高等学校段階における特別な支援を必要とする生徒の障害等の特性と心身の発達、ならびに支援の方法を理解することを目的として、本講義では中学校・高等学校段階における個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び家庭や関係者と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	メディア
	富山大学	遠隔教育実践論	本授業では、新しい生活様式や小規模学校の増加に伴い、初等中等教育においても導入が進められている遠隔教育について、その実践に必要となる、教育の方法、教育の技術、遠隔教育システムの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。遠隔教育により変わる学校と、そこで行われている授業について、教育の方法、指導技術や評価方法、著作物の取り扱い等について理解する。	メディア
	富山大学	遠隔教育実践演習	本授業では、新しい生活様式や小規模学校の増加に伴い、初等中等教育においても導入が進められている遠隔教育について、その実践に必要となる、教育の方法、教育の技術、遠隔教育システムの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。本授業では模擬授業、教材作成等実習的な活動も取り入れ、教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、その準備を自ら行えるよう支援する。	メディア
	富山大学	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	小学校プログラミング教育導入の背景や、学習指導要領等における位置づけとねらいについて、講義やグループ活動により理解する。その上で、児童が実際に使用すると考えられるブロック型プログラミング言語について、基本的な操作方法、基本的なプログラムの作成方法、マイコンボード等と接続する際のプログラムの作成方法、発展的なプログラムの作成方法等について、学生自身がプログラミングを体験しながら理解する。さらに、自由課題のプログラム作成にも取り組み、理解を深める。	メディア 共同
	富山大学	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	小学校プログラミング教育の発展的な内容として、テキスト型プログラミング言語によるプログラミングを体験する。その上で、学習指導要領に例示された内容に加えて、それ以外の内容例について理解する。そして、これらの教材研究や指導計画の作成を通して、実際の授業の在り方を考える。さらに、具体的な授業の進め方を検討しながら、学習指導案を作成することを通して、小学校においてプログラミング教育の授業を行う力を身に付ける。	メディア 共同

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	金沢大学	石川県の教育実践Ⅰ	<p>石川県の魅力ある教育実践を主に各教科の指導法の教員が講義する。石川県は全国的にみて非常に学力の高い県である。一方で、江戸時代・加賀藩による手厚い文化政策の歴史は進取の気性をもって現在まで息づき、能登半島の里山里海は世界農業遺産に指定された豊かな生物資源や農林漁法、歴史ある農耕に関連する文化・祭礼、美しい景観をもつ。「美しい金沢・石川」の教育実践は、こういった稀な地域性を基盤としてあり、地元ならではの特徴ある実践と普遍的な学力形成への取り組みについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(24 折川司／1回) 国語の指導法における石川県の実践的な取り組み (69 伊藤伸也／2回) 算数・数学の指導法における石川県の実践的な取り組み (37 松原道男／3回) 理科の指導法における石川県の実践的な取り組み (38 村井淳志／4回) 社会科の指導法における石川県の実践的な取り組み (45 綿引伴子／5回) 家庭科の指導法における石川県の実践的な取り組み (29 滝口圭子／6回) 幼児教育の指導法における石川県の実践的な取り組み (24 折川司／7回) 県内市町教育委員会取り組みや学校現場の最新の実践 (全員／8回 ※まとめ) 各教科の取り組みを比較し、教科を超えた多様な視点から取り組みを理解する。</p>	メディア オムニバス方式
		金沢大学	石川県の教育実践Ⅱ	<p>「石川県の教育実践Ⅰ」に引き続き、石川県の魅力ある教育実践を主に各教科の指導法の教員が講義する。石川県は全国的にみて非常に学力の高い県である。一方で、江戸時代・加賀藩による手厚い文化政策の歴史は進取の気性をもって現在まで息づき、能登半島の里山里海は世界農業遺産に指定された豊かな生物資源や農林漁法、歴史ある農耕に関連する文化・祭礼、美しい景観をもつ。「美しい金沢・石川」の教育実践は、こういった稀な地域性を基盤としてあり、地元ならではの特徴ある実践と普遍的な学力形成への取り組みについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(44 鷺山靖／1回) 石川県教育委員会の取組や学校現場の最新の実践 (287 篠原秀夫／2回) 音楽教育の指導法における石川県の実践的な取り組み (44 鷺山靖／3回) 図画工作・美術の指導法における石川県の実践的な取り組み (83 横山剛士／4回) 体育の指導法における石川県の実践的な取り組み (33 土井妙子／5回) 生活科の指導法における石川県の実践的な取り組み (30 滝沢雄一／6回) 英語の指導法における石川県の実践的な取り組み (80 森慶恵／7回) 保健指導や保健学習における石川県の実践的な取り組み (全員／8回 ※まとめ) 各教科等の取り組みを比較し、教科を超えた多様な視点から取組を理解する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）		富山大学	富山県の教育実践Ⅰ	<p>小学校指導法の観点から、富山県の特徴的な教育実践や地域的特性、たとえば富山で実践されている小規模校や僻地教育への対応、イタイタイ病をはじめとする環境教育などを受講者に紹介し、理解させると共に、地域によって異なる教育課題が存在すること、また類似の教育課題であっても地域によってアプローチの方法が異なりうることを認識させ、教育実践の「比較」の視点の重要性を論じ、第2回～第7回で、富山大学大学院教職実践開発研究科の実務家教員や院生（小学校の現職教員）、退職校長等の特任教授や客員教授、連携している富山県総合教育センターの연구원などをゲストスピーカーとして、最新の教育事情や実践例を紹介してもらう。第8回のディスカッションでこれらの実践の比較の視点を論じ、まとめる。これにより受講者は富山県の教育の多様な実践や視点を認識できる。</p>	メディア
		富山大学	富山県の教育実践Ⅱ	<p>小中連携や校種を跨いだ教育の連続の重要性を理解させると同時に、校種間に存在する教育事情や教員の認識等の差異をも認識させるために、富山県の小学校のみならず、中学校、高等学校の教育現場に関わっているゲストスピーカーから、小学校・中学校・高等学校の特徴的な教育実践や教育事情、課題などを紹介してもらう。これにより、富山県の特徴的な実践を知って、他地域と「比較」する視点を持たせると共に、校種によって異なる教育の視点や認識を理解して、それらを「比較」する視点を養う。第1回で授業の狙いを説明し、第2回～第7回の授業では富山大学大学院教職実践開発研究科の実務家教員、特任教授や客員教授、富山県総合教育センターの연구원などをゲストスピーカーとして、最新の教育事情や実践例を紹介してもらう。そして第8回のディスカッションを通じて、校種による教育の認識や状況の異同や、それらの校種をつなぐ連携の視点の重要性を理解させる。</p>	メディア
		金沢大学	国際化と学校教育Ⅰ	<p>学校において外国語を教えることの意味を考えるために、国際化との関連から学校教育を概観する。この授業では、海外（アメリカ・台湾・スウェーデン）の小学校における外国語教育と、日本における外国語教育の現状の比較を軸にして、日本における外国人児童に対する日本語教育の現状などとも比較しながら考察する。受講生は地域における非日本語母語話者の就学状況を調査し、学校現場の対応方策についてレポートを作成していく。</p>	メディア
		金沢大学	国際化と学校教育Ⅱ	<p>この授業では、国際化と学校教育の関連という視点から、二言語併用（バイリンガリズム）を軸として日本語母語話者に対する外国語教育、および非日本語母語話者に対する日本語教育について考察する。また、海外では移民の子どもに対してどのような外国語教育が行われているかを受講生はおのおの調査し、日本の現状との比較・分析等を行う。</p>	メディア
		金沢大学	SDGs教育実践演習Ⅰ	<p>2015年に国連サミットで制定された持続可能な開発目標であるSDGsは、学校教育においても実施すべき必須の課題である。本授業ではまず、金沢市におけるSDGsの実践を学ぶことでSDGsへの理解を深める。次に、専攻する教科のメンバーでプロジェクトチームを編成し、その教科の視点から身近なSDGsの課題設定と課題解決に向けた具体的なプランを作成する。最後に提案したSDGsのプランが学校教育の実践にいかん展開できるかを考察する。</p>	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目 (共通領域)	金沢大学	SDGs教育実践演習Ⅱ	教科を横断したメンバーでグループ(計24グループ)を編成し、さまざまな専門の立場から協働してSDGsの実践に取り組む。まず、各グループで地方自治体が抱えるSDGsの課題を調査する。その課題に対して関係者にインタビュー調査を実施し、課題となっている具体的な問題を浮彫にする。さらに、課題解決に向けた具体的なプロジェクトを計画し、最後に自治体の担当者にその計画を提案する。	メディア	
	専門科目	幼児教育	各大学	幼児と健康 (概要) 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動の発達などの専門的事項についての知識・理解の獲得と指導法を身につけることを目標としている。幼児期の健康に関する現代的課題についての基本的な考え方を講義形式で学んだ後、実際に運動を体験し、幼児の多様な動きを理解し、これらの動きを引き出す環境構成について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、運動の発達について解説・実演する。 (55 西館有沙/4回, 5回) 乳幼児の怪我や病気の特徴やそのリスクについて、ヒヤリハット事例や事故事例、症例等を用いた演習を行う。また、子どもへの安全教育や安全および健康の管理について解説し、環境構成や実際の援助について演習を行う。	オムニバス方式 (富山クラスのみ)	
			富山大学	幼児と人間関係(社会性のつまずきと支援の現代的課題)	まず、領域「人間関係」に基づいた保育を行うための基礎となる乳幼児期の人間関係の発達過程を学ぶ。さらに、社会性のつまずきの原因(愛着の問題・発達障害等)や、不適切な養育が脳機能の発達に及ぼす最新の研究成果を学ぶ。また、個性が強い子ども(不安が高い子どもや感情の制御が苦手な子どもなど)を理解するための心理学の理論と、集団の中での位置づけの評価方法を学ぶ。これらの知識を踏まえて、保育における幼児理解と発達支援の基本的な考え方を習得する。	メディア
			金沢大学	幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題)	領域「人間関係」の指導の前提となる乳幼児期に発達する社会性に関する専門的事項についての知識を身に付けるために、乳幼児期に発達する社会性の能力および特性を取り上げる。特に幼児期に発達が著しい自己と他者の理解、他者への援助といった向社会的行動、自己主張や自己抑制を含むセルフコントロール、対人関係の葛藤場面における社会的問題解決能力の発達について概説する。上記の内容に併せて、仲間や保育者とのどのような関係を築くのか概説する。	メディア
			富山大学	幼児と環境	(概要) 幼児と環境の関わりを理解するために、環境の持つ意義、環境を生かした科学的思考・概念の発達について学ぶ。また領域「環境」の内容である、生命の尊重、数量や図形との関わり、文字や標識との関わりについても実践事例を通して学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (10 小林真/1回, 4回~8回) 幼児を取り巻く環境と幼児の発達、幼児と生物・自然、数量・図形、文字・標識とのかかわり、幼児を取り巻く環境の現代的課題 (49 月僧秀弥/2回, 3回) 幼児の身近な環境と科学体験、思考・科学的概念の発達	メディア オムニバス方式
各大学	幼児と言葉	幼児期の言葉の発達に関する基礎的専門的事項について、次に、幼稚園における言語環境や言葉に関する教材について、さらに、小学校との接続を視野に入れた言葉の指導について講義する。そして、幼児期の言葉の発達を促し支える保育内容、保育における周囲の幼児とのかかわり、保育者とのかかわりに関する基礎的な知識や態度を伝え、具体的な保育場面を想定しながら検討する。				

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	富山大学	幼児と表現 (概要) 幼児の表現(身体・音楽・造形)における次のトピックについて学ぶ。幼児の表現の実際の姿、その発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊び、幼児の感性や創造性を豊かにする環境の構成である。 (オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回) 幼児の感性や創造性を豊かにする様々な身体表現遊びの実践を通して、幼児の身体表現の実際の姿、発達を促す要因や環境構成について学ぶ。 (62 若山育代/3回・4回) 幼児の造形表現の実際の姿とその発達の状態、及びそれを促す要因と幼児の造形表現における感性や創造性を豊かにする表現遊びと環境構成について学ぶ。 (13 千田恭子, 93 多賀秀紀/5回, 6回, 7回) 幼児が感じたことや考えたことを、音楽を楽しみながら自由に表現する為の援助を行うには、指導者が幼児の発達や感性・感覚を理解し共感するとともに、音楽の特性を知り、自分自身の諸感覚を磨くことが必要であることを学ぶ。 (92 澤聡美・62 若山育代・13 千田恭子・93 多賀秀紀/8回) 幼児の表現に関する基礎的専門的な事項についての総合的なまとめ	オムニバス方式	
			富山大学	保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)	幼稚園教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連付けながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。具体的には、次の3つについて学修する。まず、幼稚園教育の基本を踏まえた幼稚園の指導の考え方を理解する。次に、幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。そして、幼児の興味・関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。 (55 西館有沙/1回～4回) 最新動向をふまえた幼小接続の現状や課題、乳幼児期の子どもの遊びとその意義、総合的な指導と教師の役割について扱う。 (62 若山育代/5回～8回) 幼児教育における計画とその作成、記録や評価のあり方、物や人との関わりを深める教材作りについて扱う。	メディア オムニバス方式
			金沢大学	保育内容(健康)(健康に関する現代的課題を含む)	幼児の身体発育や精神発達、幼児期の疾病や起こりやすい事故を理解し、健康観察、保健管理・安全管理、保護者への指導について説明することができるようになることを目的とする。幼児の心身の健康から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に考えることを目指して、乳幼児期の身体発育と生理機能や運動機能、心身の健康状態とその把握、安全に対する配慮と応急処置、乳幼児の疾病の予防と対応などについて学ぶ。	メディア
			富山大学	健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について基本的知識・理解の獲得を目標とする。現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例や、他の領域や小学校との接続と関連させた事例を紹介し、主体的・対話的で深い学びを通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 幼児教育	各大学	保育内容(人間関係)	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解すること、領域「人間関係」が、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものであることを理解する。くわえて、遊びの中の人とのかかわり、保育の中の協同的活動、園外での人との関わり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「人間関係」の関係について概説する。	
	各大学	人間関係の指導法	初めに領域「人間関係」のねらいと内容を習得する。次に、設定保育における人間関係の指導法(ソーシャルスキル教育・ルールのあるゲーム遊び等)の指導事例を通して、保育の指導法を学ぶ。さらに、人間関係の形成に配慮を要する幼児の特徴や、情報機器を活用した指導法を学ぶ。これらの知識を踏まえて設定保育の指導案を立案し、模擬保育を通して指導上の配慮点・留意点などを体験的に習得する。さらにいくつかの指導事例を通して、自由遊び場面における保育者の言葉かけや指導の方法を習得する。	
	金沢大学	保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)	幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、現代的課題も考慮しながら、子どもの環境と乳幼児期の発達との関連性を理解し、保育環境のあり方を考察することを授業目標とする。本授業では、領域「環境」のねらいと内容を踏まえた上で、事例検討や体験学習を通して、保育環境を構成する要素を知り、身近な環境を活かした保育の方法や室内外の環境構成について検討する。	メディア
	金沢大学	環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい、内容、指導上の留意点を理解し、保育を具体的に構想する方法を身に付けることを授業目標とする。本授業では、領域「環境」のねらい、内容、指導上の留意点等を踏まえた上で、石川などの地域の幼稚園教育実習の録画を、保育指導案と照合しながら視聴し、領域「環境」の視点から協議する。その後、保育指導案を作成し、模擬保育に基づいて討論する。	メディア
	金沢大学	保育内容(言葉)(言葉に関する現代的課題を含む)	幼稚園教育要領に示されている幼稚園教育の基本及び、領域「言葉」のねらい・内容・全体構造・指導上の留意点・評価の考え方、小学校教科等との繋がり、言葉に関する現代的課題として、障害や外国籍等により言葉に遅れや困難がある幼児の配慮や援助について解説する。また、ラーニングマップ作りを通して、領域「言葉」を中心とした幼児教育のねらいや内容、全体構造等について、言葉に関する現代的課題を含め、具体的に検討する。	メディア
	富山大学	言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。扱うトピックとしては、領域「言葉」のねらい及び内容、幼児の発達の側面としての他領域と領域「言葉」の関連、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面の想定、領域「言葉」のねらい及び内容に基づく保育の構想である。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 幼児教育	金沢大学	保育内容(表現) (表現に関する現代的課題を含む)	<p>(概要) 幼児期の表現の発達を学び、「表現」の自由さや楽しさを体験的に理解し、互いの「表現」を鑑賞することの喜びを味わう。「表現」の支援、現代的課題、情報機器及び教材の活用を図る保育を考え、指導法の基礎知識・技能を身につけることを授業目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(44 鷲山靖/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回)</p> <p>領域「表現」の「ねらい、内容、内容の取扱い」を解説し、合奏指導の実際を説明した後、楽器の指導における情報機器の活用を検討する。また、造形表現の素材・用具、教材の特性と現代的課題を解説し、指導における情報機器及び教材の活用を検討する。</p> <p>(82 山田哲/4回, 5回)</p> <p>身体表現と幼児期の発達を解説し、幼児期の身体表現と表現に関する現代的課題とその指導における情報機器及び教材の活用を検討する。</p>	メディア オムニバス方式
	富山大学	表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	<p>(概要) 幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。扱うトピックとしては、領域「表現」のねらい及び内容、幼児の発達の側面としての他領域と領域「表現」の関連、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面の想定、領域「表現」のねらい及び内容に基づく保育の構想である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(92 澤聡美/1回, 2回) 身体表現の指導法及び保育の構想(身体の観点から具体化したねらいと内容)、身体表現の指導法及び保育の構想(最新指導事例の身体表現についての主体的・対話的で深い学び)について学ぶ。</p> <p>(62 若山育代/3回, 4回, 5回) 造形表現の指導法及び保育の構想(造形の観点から具体化したねらいと内容)、造形表現の指導法及び保育の構想(他領域のねらいと内容との総合性)、造形表現の指導法及び保育の構想(現代的課題としての主体的・対話的で深い学び)について学ぶ。</p> <p>(13 千田恭子/6回, 7回) 音楽表現の指導法及び保育の構想(領域「表現」のねらいと音楽)、音楽表現の指導法及び保育の構想(幼児の表現と諸感覚の重要性)について学ぶ。</p> <p>(92 澤聡美・62 若山育代・13 千田恭子/8回) 幼児の表現に関するまとめと地域の保育実践の事例について学ぶ。</p>	メディア オムニバス方式
	富山大学	幼児教育カリキュラム論Ⅰ	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各幼稚園等において編成される教育課程や全体的な計画の意義や編成の方法を理解する。具体的には、幼稚園教育等において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する、教育課程や全体的な計画が社会において果たす役割や機能を理解する。	
	富山大学	幼児教育カリキュラム論Ⅱ	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各学校等において編成される教育課程や全体的な計画について、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。具体的には、領域や学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育等の課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	幼児教育	各大学	幼児理解の理論と方法	幼児理解の意義、基本的な理論や態度を習得し、具体的な場面で適切な方法を選択するよう努める態度を獲得することを授業目標とする。本授業では、幼児理解の意義、理論及び方法、遊びを通しての総合的な指導、環境を通して行う教育を踏まえて適切な方法を選択することを学ぶ。そして、個と集団の関係や発達につまずきのある幼児の理解、保護者支援についての基礎知識、幼小接続期の実態と課題等について学ぶ。	
		各大学	幼児理解と相談支援	初めに幼稚園教育要領等に基づき、幼児理解の意義・必要性を学ぶ。次に、幼児理解に必要な心理学理論を学ぶ。具体的には、気質の理論・愛着の理論・学習理論（行動理論）、集団の中での幼児の関係性の発達のとらえ方を学ぶ。さらに幼児理解の方法（行動観察・チェックリスト等）について学び、こうした情報に基づいた保育カンファレンスの意義についても学ぶ。これらを踏まえて、幼児理解に基づいた保育における支援方針を立案できるようになる。さらにカウンセリングに関する基礎知識と保護者支援に関する基礎知識を習得する。	
		金沢大学	発達心理学Ⅰ	最新の乳幼児期の発達に関する理論や知見を体系的に理解するとともに、学生自身が調べて発表することを通じて、プレゼンテーションの技術の向上も目指す。乳幼児期の発達として取り上げる内容としては、発育の基盤となる感覚と運動の発達、養育者との安定した関係を意味するアタッチメントの発達、知的な能力を含む認知の発達、人間関係などの社会性の発達、感情と自己の発達、幼児期の活動として最も重要なものとして考えられている遊びの発達をとりあげる。	
		金沢大学	発達心理学Ⅱ	最新の児童期以降の発達に関する理論や知見を体系的に理解するとともに、学生自身が調べて発表することを通じて、プレゼンテーションの技術の向上も目指す。児童期の発達として取り上げる内容としては、読み書き算数を含む言語と思考をめぐる発達、アイデンティティの確率に代表される青年期の心身の発達、キャリア形成と中年に聞きを含む成人期の心身の発達、死を迎えるにあたって老年期の発達、発達障が等を含む非定形の発達、発達の生物学的基礎についてとりあげる。	
		金沢大学	乳幼児心理学特講Ⅰ	乳幼児の心身の発達を理解する上で不可欠となる基礎知識ならびに技術を身につけるために、乳幼児の発達をとらえるための具体的な方法を概観する。特に発達には量的側面と質的側面の変化があることや、子どもの発達を理解する上での注意点について理解を深めるとともに、具体的な方法として、子どもを第3者の視点から捉える観察法、および子どもを取り巻く社会的環境や家庭環境を理解するための調査法を取り上げ、その概要と実際について学ぶ。	
		金沢大学	乳幼児心理学特講Ⅱ	乳幼児の心身の発達を理解する上で不可欠となる基礎知識ならびに技術を身につけるために、乳幼児の発達をとらえるための具体的な方法を概観する。具体的な方法として、直接対面して子どもの言葉を引き出す面接法、および知能検査などの検査道具を用いて子どもの状況や得意不得意をするための診断法を取り上げ、その概要と実際について学ぶ。また、近年では、担任保育士一人で子どもを理解するのではなく、園としてチームで子どもを理解することが推奨されていることから、チームで発達を捉えるための方法についても学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	幼児教育	金沢大学	乳幼児心理学演習Ⅰ	乳幼児の心身の発達を理解したり、子育てや教育・保育を考えたりする上でエビデンスとなる教育・保育の統計データを読み解くことは不可欠であり、そのために必要な統計的基礎知識・技術をみにつけ、自身で子どもを取り巻く生活環境と人間関係に関するデータが示す意味を読み取れるようになることを目指す。特に、エビデンスが一体何を指すのか、記述統計や推測統計の意味、教育・保育の量的データの読み解き方について、実際の教育・保育の統計データを参照しながら学んでいく。	
		金沢大学	乳幼児心理学演習Ⅱ	乳幼児の心身の発達を理解したり、子育てや教育・保育を考えたりする上でエビデンスとなる教育・保育の統計データを読み解くことは不可欠であり、そのために必要な統計的基礎知識・技術をみにつけ、自身で子どもを取り巻く生活環境と人間関係に関するデータが示す意味を読み取れるようになることを目指す。特に、教育・保育における多変量の量的データの読み解き方や、記述されたデータ等の質的データの読み解き方について、実際の教育・保育の統計データを参照しながら学んでいく。	
		富山大学	子育てネットワーク論Ⅰ	子育て支援が幼稚園教諭や保育教諭、学校教員、保育士等に求められている現状をふまえ、現代の子育て家庭を取り巻く現状や課題についてデータや資料を示して説明する。また、子育て家庭に対する支援の意義や目的、子育ての支援体制として公私のネットワークを形成することの意義、インフォーマルな子育てネットワークが果たす機能と課題、フォーマルな子育てネットワークとそれぞれの機関・施設の概要について解説し、これらに関する知識の習得を目指す。	
		富山大学	子育てネットワーク論Ⅱ	教育や保育の専門職として子育て家庭にどのようにかわり、いかなる支援を提供すればよいのかを学ぶ。授業では、幼児教育・保育の専門性を生かした子育て支援の意義と、日々の関係を構築するために求められる基本的なかわりや支援について扱う。また、子育て家庭のさまざまなニーズについて扱うとともに、貧困、虐待、障害児やその傾向のある子どもや疾患のある子どもの子育て、外国籍の家庭における子育てなど、それぞれの家庭のニーズに応じた支援の展開について扱う。これにより、子育て支援の実施や展開についての知識化を促す。加えて、関係機関との連携や協力についても学ぶ。	
		富山大学	子育て支援	子育て家庭を支援するための実践力を身につけることを目標とする。授業では、保育所等を利用する子育て家庭や、地域の子育て家庭のそれぞれに提供される支援を取り上げる。その中で、さまざまなニーズをもつ子育て家庭に対する支援や、支援の展開における関係諸機関との連携・協力について、具体的な事例を用いたディスカッションやロールプレイ、調べ学習を行う。また、支援計画の立案や記録についてワーク、カンファレンスのシミュレーションを行う。これらを通して子育て支援への理解を深めるとともに、技術を習得する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	幼児教育	富山大学	保育の心理学	「教授・学習心理学」と「発達と教育」で学んだ子どもの発達と学習の過程を踏まえて、まず、幼児教育・保育における子どもの学びをどのように保障すべきかについて学ぶ。具体的には、子どもの権利条約に基づく子ども観・発達観の変遷が学習指導要領や幼稚園教育要領等にどのように反映されているか、遊びを通じた主体的な学びの意義を知る。次に乳幼児期の諸領域（身体・運動、認知、自我・自己意識、社会性-情動、言語）の発達の経過を学ぶ。さらに発達支援の事例を通して遊びを通じた保育の重要性を学ぶ。	
			富山大学	子ども家庭支援の心理学Ⅰ	まず発達心理学の立場から、生涯発達の道筋と発達段階の概要を学ぶ。具体的には、乳幼児期の初期経験の大切さ、学童期前期・学童期後期・青年期・成人期の発達の危機にはどのようなものがあるかを学ぶ。こうした発達に関する知識を踏まえて、子どもの精神保健についての基礎知識を習得する。具体的には、新生児期から乳児期に生じやすい心身の健康上の問題、幼児期に生じやすい行動上の問題などについて医学的知見も参考にしながら学ぶ。最後に、子どもの心の健康を支えるネットワークづくりの大切さについて学ぶ。	
			富山大学	子ども家庭支援の心理学Ⅱ	子ども家庭支援の必要性の根拠となる、現代社会が抱える様々な問題について学ぶ。具体的には、日本が抱える少子化・地域社会の関係性の希薄化といった社会現象を正しく理解する。次に、若者が親になる際に習得すべき準備性（親レディネス）を高める要因と、低める要因について学ぶ。さらに成人が親になることによってどのような発達を遂げるかを学ぶ。その知識を踏まえて、子育てに困難を抱える家庭（若年者の過程、高齢者の家庭、精神的な問題を抱える保護者）に対する支援のあり方を学ぶ。	
			富山大学	子どもの健康と安全	保育現場において子どもの心身の健康と安全を守るために必要な基礎知識を習得し、演習によって学びを深める。具体的には、安全な保育環境づくり、安全管理と事故防止、アレルギー疾患の理解と保育における対応、感染症の理解と保育における対応、母子保険制度について学ぶ。これらを踏まえて、幼児教育施設における組織的対応の必要性について学ぶ。様々な資料の講読や保育所（幼保連携型認定こども園を含む）における聞き取り調査などを通して、年間保健計画を立案できるようになる。	
			富山大学	障害児保育	幼児教育や保育においても特別な配慮を必要とする子どもへの適切な対応が求められていることを受けて、障害児保育の理念や現状、課題、援助の実施や展開について扱う。その中で、障害児保育への理解を深めること、さまざまな特性や状態、心身の発達等に応じた援助や配慮を理解すること、個別計画の作成、援助の具体的な方法を理解することを目指す。また、家庭への支援や関係機関との連携・協働についても学ぶ。	
			富山大学	地域子育て支援法Ⅰ	まず、子育て支援の様々な制度・機関について学ぶ。次に地域子育て支援センターや児童館等の子育てサロンを利用する保護者の心情について学ぶ。特に子育てサークルを利用しながら途中でやめてしまった保護者の心情についても理解する。さらに、子育てサロンを利用する保護者への聞き取り調査などを通して保護者のニーズを把握し、これらのニーズに対応する方法を演習を通して学ぶ。最後に、地域の子育てサロンにおいて短時間の保育体験を行うことで、実践力の基礎を身に付ける。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	幼児教育	富山大学	地域子育て支援法Ⅱ	地域子育て支援法Ⅰで学んだ様々な知識と体験を元に、児童館等が実施する子育てサロンにおける子育て支援サービスの企画・運営の仕方を習得する。また実際に子育てサロンの運営に参加することで、親子が安心感を感じたり楽しく遊んだりするための環境の構成について体験的に学ぶ。まず子どもが楽しく遊べる保育活動、次に子どもと保護者が交流できるような保育活動の実践を行う。さらにその振り返り活動を通して、子育て支援サービスを提供する職員が配慮すべき点を学ぶ。	
		富山大学	児童福祉論Ⅰ	教育者が知っておくべき福祉に関する知識を身につけることを目的とする。授業では、子どもや家庭の福祉を取り巻く現状や課題、子ども家庭福祉に関する法律や制度、実施体系について理解する。また、少子化や地域の子育て支援、保育サービスの現状、課題、動向、展望について理解する。加えて、母子保健や子どもの健全育成のための施策やサービスについても理解する。	
		富山大学	児童福祉論Ⅱ	子どもの人権や権利擁護について、その歴史的変遷や現状、課題の学習を通して理解する。児童福祉施設や子ども家庭福祉に携わる専門職に関する知識を身につけるとともに、貧困や虐待・DVのある家庭にいる子ども、非行等を行う子ども、障害のある子どもの福祉について理解する。	
		富山大学	社会福祉概論Ⅰ	第二次世界大戦後のわが国の社会福祉の形成・発展の概要を中心に理解し、その中に示される福祉的ニーズをとらえることが目的である。幼児教育・保育に関連する内容にとどまらず、わが国の社会福祉の法・制度の概要を基礎学習し、その中で日本の社会福祉の発展を、特に高齢者・障がい者・児童の対象と地域福祉・国際福祉の現況を中心に理解し基礎事項を習得したうえで、それぞれの対象や領域のなかで個別具体的なニーズを捉え理解する。	
		富山大学	社会福祉概論Ⅱ	わが国の社会保障全般を理解し、今後の日本社会における社会福祉のあり方を考えることが目的である。社会保障の全体像をもとに、共生社会をキーワードとした日本における社会福祉の将来のあり方を学習する。幼児教育・保育に関連する内容にとどまらず、日本社会の変化に対応することが求められる社会保障について、その法制度とそれを実行する福祉サービス、またそれを支える行財政・計画について理解し、今後の日本の社会福祉を共生社会と関連づけて捉える。	
	特別支援教育	金沢大学	特別支援教育基礎論Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	障害・疾病・発達困難等の特別な教育的ニーズを有する子どもの教育と発達支援について探求していくための基本的知識・理解や原理的視座の獲得を目標として、本講義では特別支援教育・特別ニーズ教育の歴史的経緯および国内外の動向を視野に入れながら、特別支援教育・特別ニーズ教育に関わる基本的理念・原理・歴史について講義を行う。	メディア
		富山大学	特別支援教育基礎論Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	本講義は、障害・疾病・発達困難等の特別な教育的ニーズを有する子どもの教育と発達支援について探求していくための基本的知識・理解や原理的視座の獲得を目標として、「特別支援教育」を中心に、全国だけでなく富山県における障害児・者のライフステージにおける諸課題や社会の側が抱える諸問題とその解決策について講義を行う。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	特別 支援 教育	金沢大学	病気・障害・不適応の発達支援論Ⅰ	病気・障害・不適応等の特別な教育的ニーズのある子ども・若者の発達の理解を深め、発達支援の必要性に関する理論・知識の習得と理解の深化を目的として、本講義では 病気・障害・不適応の当事者の手記や当事者への調査研究、国内外の動向を視野に入れながら、病気・障害・不適応の子ども・若者が有する発達上の困難と教育的ニーズを理解することに焦点をあてて講義を行う。	
		金沢大学	病気・障害・不適応の発達支援論Ⅱ	病気・障害・不適応等の特別な教育的ニーズのある子ども・若者の発達の理解を深め、発達支援の必要性に関する理論・知識の習得と理解の深化を目的として、本講義では 病気・障害・不適応の当事者の手記や当事者への調査研究、国内外の動向を視野に入れながら、個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係者と連携しながら組織的に対応していくために必要な理論・知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	
		富山大学	障害児者支援論	「働く」「暮らす」「遊ぶ」「学ぶ」という生活領域において、障害のある当事者とその家族がこうありたいと思いたいもの社会との相互作用の中で困難としている事情を具体的に取り上げながら、障害児・者ならびにその家族をめぐる諸問題とその解決の方策について障害児の教育に限らず広く関連するさまざまな事象を支援者の視点から考える演習を行う。	
		金沢大学	知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害のある子どもの心理及び生理・病理面について、発達的な観点から理解する。また、知的障害・発達障害のある子どもの心理学的特性及び生理・病理面の特徴に関する評価法を概説し、特性を踏まえた支援や配慮について検討する。	メディア
		各大学	知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害の原因の背景にある脳の発生、構造、機能について理解するとともに、その障害によって生じる疾患、やその原因・病態および評価法を概説する。	
		富山大学	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ (教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では肢体不自由児の原因の背景を理解するために必要な運動機能の基礎、肢体不自由の原因となる脳性まひを解説する。そして、肢体不自由児の自立を支援するための教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
		富山大学	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ (教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では肢体不自由児の原因となる主な疾患と重度重複障害の病態および生活・学習上の問題を解説する。そして、重度重複障害児の医療的ケアに関わる教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	富山大学	病弱児の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では病弱児の背景を理解するために必要な体の解剖生理の基礎、障害の原因となる疾患、教育の意義・配慮について解説する。そして、病弱児の自立を支援するための教育・医療・福祉の制度について概説する。	メディア
	富山大学	病弱児の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では通常学級においても対応が必要となる病弱児、および教育の意義・配慮について解説する。そして、病弱児の自立を支援するための教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
	金沢大学	聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	特別支援教育の聴覚障害者領域の専門知識・技能を深め、聴覚障害の医療的な側面と心理的な側面について理解を深めることを目標として、本講義では音声信号の伝達経路をたどり、聞こえの仕組みと聴覚障害の発生機序およびリハビリテーションについての基本的な知識について講義を行う。また純音聴力検査の実習や簡単な手話についての学習を行う。	メディア
	金沢大学	聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	特別支援教育の聴覚障害者領域の専門知識・技能を深め、聴覚障害の医療的な側面と心理的な側面について理解を深めることを目標として、本講義では聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰの学習内容をふまえ、語音聴力検査の方法や実習、聴覚障害児の言語や認知の特性やその評価法、手話の獲得とその評価、ろう重複障害の心理的特性について講義を行う。	メディア
	富山大学	知的障害教育課程・指導論Ⅰ	知的障害教育に関する歴史的経緯と現状、知的障害教育の教育課程の編成、個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式や内容について理解するため、本講義では特別支援学校に関する学習指導要領について概要を説明し、特に知的障害を教育する特別支援学校の教育課程の編成及び実施における留意事項について実際の授業の様子に基づいて概説する。	メディア
	各大学	知的障害教育課程・指導論Ⅱ	知的障害のある子どもの発達特性や知的障害に伴う困難性をふまえた教育内容・方法や学校教育として必要な教育実践について理解することを目標として、本講義では国内外の動向を視野に入れながら、知的障害を有する子どもの発達の理解を深め、知的障害を有する子どもが能動的に学べるような教育目標設定や教育課程編成の理論と方法について講義を行う。	
	金沢大学	肢体不自由教育論Ⅰ（教育の現代的課題を含む）	この授業では「生活」と発達に焦点をあて、障害者と自己決定権の育成について考える。肢体不自由のある子どもの発達環境としての生活実態と課題、運動機能に障害がある子どもの認知発達を理解し、自己に対する適正な認識と自己理解に基づく社会的認知発達の視点から、自己決定能力を育成する「生活」のあり方と支援について講義を行う。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	金沢大学	肢体不自由教育論Ⅱ (教育の現代的課題を含む)	この授業では「学校教育」と発達に焦点をあてる。まず、障害者と自己決定権について確認する。自己決定には自己認識と生活世界の知識が必要である。その上で、肢体不自由のある子どもの学習・発達環境としての教育の課題を整理する。これらを踏まえ、幼児期・小学部から高等部に至るライフステージに即した教育活動を教育課程と指導法の視点から吟味し、自己決定する力を育成する学校教育について講義を行う。	メディア
		富山大学	病弱児の教育	病弱児の心身の状態に即応した教育を行うための基本的知識・理解の獲得を目標とし、本講義では病弱児の教育に関する基本的事項から現代的課題までを説明し、その中で生じやすい教育的課題および、その支援方法について、具体的事例を用いながら説明する。そのことで、多様な場で学んでいる病弱児への教育に関する高度な専門性の獲得をめざす。	メディア
		金沢大学	聴覚障害教育課程論Ⅰ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけ、知識の獲得だけでなく、背後にある理念や制度と教育実践との関連を具体的にイメージし、自ら洞察を深めていく態度を養うことを目標とし、本講義では聴覚障害児教育における教育課程の歴史の変遷、理念、目的を概説し、聴覚障害児教育のあり方について理解を深める。	メディア
		金沢大学	聴覚障害教育課程論Ⅱ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけ、知識の獲得だけでなく、背後にある理念や制度と教育実践との関連を具体的にイメージし、自ら洞察を深めていく態度を養うことを目標とし、本講義では聴覚障害児教育における教育課程及び指導法を概説し、聴覚障害児教育のあり方について講義を行う。	メディア
		金沢大学	聴覚障害指導法Ⅰ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけるため、この授業では教育学的、心理学的な側面から、ろう児の指導方法や心理的側面について扱う。ろう教育の歴史の変遷やろう児の言語獲得について講義を行い、聴覚障害児教育について自ら考えるために必要な基本的な知識を得る。	メディア
		金沢大学	聴覚障害指導法Ⅱ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけるため、この授業では教育学的、心理学的な側面から、ろう児の指導方法や心理的側面について扱う。ろう教育の指導方法の実際、補聴器の役割、人工内耳など聴覚障害児の教育と指導法について講義を行い、聴覚障害児教育について自ら考えるために必要な基本的な知識を得る。	メディア
		金沢大学	手話序論Ⅰ	近年、ろう教育の中にも手話が導入され、聴覚障害児を指導する上で教員の手話力が求められている。本講義は手話に関する基本的な知識を習得すると同時に、簡単な手話表現を学習し、以後の手話習得の意欲を高めるための講義である。手話の言語的特徴、手話と手話に関わる諸問題についての理解、自己紹介程度の簡単な手話表現の学習を主な目標とする。	
		金沢大学	手話序論Ⅱ	近年、ろう教育の中にも手話が導入され、聴覚障害児を指導する上で教員の手話力が求められている。本講義では手話序論Ⅰで学んだ内容をふまえ、手話の言語的特徴、手話と手話に関わる諸問題についての理解、自己紹介程度の簡単な手話表現の学習を手話スキットの練習を通して、手話文法の理解を深め、またろう者にかかわる文化や社会についてもあわせて学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	金沢大学	発声発語支援法Ⅰ	発声発語(speech)の特徴や発声発語産出のメカニズム及び、聴覚障害のある児童生徒の発声発語の特徴や、評価、指導・支援方法の概要を理解するため、本授業では聴覚障害がある児童生徒の多くが困難を示す発声発語(speech)について、生理学、言語学、心理学等の様々な側面から、その特徴やメカニズムを解説する。さらに、聴覚障害のある児童生徒の発声発語の特徴やその指導・支援の概要を解説する。	メディア
		金沢大学	発声発語支援法Ⅱ	聴覚障害のある児童生徒の評価、指導・支援方法及び、知的障害、言語障害等がある児童生徒の発声発語の特徴や評価、指導・支援方法を理解するため、本授業では聴覚障害のある児童生徒の発声発語(speech)の評価、指導・支援方法について、具体例を示しながら解説する。さらに、知的障害や言語障害(構音障害、吃音等)がある児童生徒の発声発語の特徴や評価、指導・支援方法について解説する。	メディア
		富山大学	知的障害児の教育Ⅰ	知的障害児の発達支援理論及び知的障害児の教育方法の概要と、支援の考え方について理解するため、本講義では知的障害児の教育を支える理論と支援に関する考え方を解説する。学級編成の実態やティームティーチングによる授業の実際などの参観機会を確保するため、講義の一部は特別支援学校にて実施し、特別支援学校における具体的な実践をとおして理解を促す。	
		富山大学	知的障害児の教育Ⅱ	知的障害教育における学習形態や集団に応じた支援の考え方及び、知的障害教育における保護者や関係機関との連携のあり方について理解するため、本講義では特別支援学校での見学や学校教師との具体的な質疑応答を通して、知的障害児の教育を支える理論を実践に生かす具体的な考え方を獲得し、将来、その教育に携わる者としての資質を高める。	
		富山大学	知的障害教育実地演習Ⅰ	特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加を行い、知的障害のある児童生徒の実態把握から指導計画を作成し、特別支援学校において実際に実行・評価することで、知的障害児童生徒の実態把握や評価のあり方、指導計画立案、授業計画作成と教材研究、および知的障害児に対する支援方法について特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加を行い実践的に学ぶ。	
		富山大学	知的障害教育実地演習Ⅱ	特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加、知的障害のある児童生徒の実態把握に関わる情報収集や指導計画の作成、計画に基づく実地演習と振り返りまでの一連の流れをチームで行い、特別支援学校において実際に実行・評価することで、知的障害教育における実践の進め方を知り、具体的な評価と分析について実践的に学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	金沢大学	障害児教育基礎論Ⅰ	<p>(概要) 障害のある子どもたちの教育について学ぶにあたって、各障害の基礎的な知識やそれぞれの障害児の応じた教育の現状について理解するために、本講義では、聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害について、生理、心理、教育の側面からその特性を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>5人の特別支援教育関係教員が各障害の生理・心理・教育的側面から概説する。</p> <p>(42 吉川一義/1回, 2回, 8回)</p> <p>肢体不自由、病弱についての概説的な講義を行うとともに、講義の全体的なコーディネートを担当する。</p> <p>(27 小林宏明/6回)</p> <p>言語障害についての概説的な講義を行う。</p> <p>(31 武居渡/3回, 4回)</p> <p>視覚障害、聴覚障害についての概説的な講義を行う。</p> <p>(85 吉村優子/7回)</p> <p>発達障害に関する概説的な講義を行う。</p> <p>(73 田部絢子/5回)</p> <p>知的障害に関する概説的な講義を行う。</p>	オムニバス方式
		金沢大学	障害児教育基礎論Ⅱ	<p>(概要) 障害のある子どもたちの教育について学ぶにあたって、子どもたちが学ぶ特別支援学校や特別支援学級の具体的な実践について現場教員から学ぶため、本講義では聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害について、特別支援学校や特別支援学級の具体的な子どもたちの姿と実践を取り上げ、講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>各障害について、学校現場等で実際に指導にあたっている教員や支援者から、各障害に応じた具体的な実践や指導について解説をする。</p> <p>(42 吉川一義/4回, 5回, 8回)</p> <p>病弱児及び肢体不自由児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p> <p>(27 小林宏明/6回)</p> <p>言語障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p> <p>(31 武居渡/1回, 2回)</p> <p>視覚障害児、聴覚障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p> <p>(85 吉村優子/第7回)</p> <p>発達障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p> <p>(73 田部絢子/3回)</p> <p>知的障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	特別支援教育	富山大学 特別支援教育実地演習	<p>(概要) 本授業では視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、病虚弱児教育を行っている特別支援学校の施設及び授業見学を行ない、特別支援教育の概要や障害種に応じた教育施設・教育内容、支援者のあるべき姿について理解する。</p> <p>(18 宮一志) 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の特性についての助言指導。特別支援学校への引率。</p> <p>(58 水内豊和) 知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。特別支援学校への引率。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。特別支援学校への見学の実施計画策定、引率。</p>	共同
			金沢大学 ことばの障害とコミュニケーションⅠ	本授業では言語やコミュニケーションに困難のある児童生徒の特徴や困難、その背景にある障害（言語障害、発達障害、知的障害、聴覚障害等）について解説する。さらに、これらの児童生徒との関わりや指導・支援における留意点について、事例を示しながら解説したり、グループディスカッションを通して具体的に検討したりする。	
			金沢大学 ことばの障害とコミュニケーションⅡ	本授業では、言語やコミュニケーションに困難のある児童生徒に対する特別支援教育の制度（通級指導、特別支援学級の弾力的運用、「チーム学校」による指導・支援等）について解説する。さらに、通級指導等で行われる個別の指導・支援の目的や内容、方法について、事例を示しながら解説したり、グループディスカッションを通して具体的に検討したりする。	
			金沢大学 発達障害指導法Ⅰ	発達障害のある子どもへの指導・支援を推進していくためには、個々の特性を理解し、特性から生じる生活上及び学習上の困難さ、支援ニーズをもとに支援を行っていく必要がある。本講義では発達障害のうち、特に自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害の定義や実態（困難さと背景要因）について概説し、発達障害のある子どもの支援の在り方、実践指導法について理解を深める。	
			金沢大学 発達障害指導法Ⅱ	発達障害のある子どもへの指導・支援を推進していくためには、個々の特性を理解し、特性から生じる生活上及び学習上の困難さ、支援ニーズをもとに支援を行っていく必要がある。本講義では、発達障害のうち、主に学習障害、協調運動の障害等の定義や実態（困難さと背景要因）を理解し、発達障害のある子どもの支援の在り方、実践指導法について理解を深める。	
			富山大学 発達障害児者支援論Ⅰ	生涯を通じた発達障害児者とその家族の心理や生活上の困難の理解とその支援のあり方について理解するために、本講義では発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害等）児・者とその家族が、家庭生活や学校生活、地域生活などで直面する諸課題について、合理的配慮、基礎的環境整備、個別の支援について講義を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	特別 支援 教育	富山大学	発達障害児者支援論 II	生涯を通じた発達障害児・者とその家族の心理や生活上の困難の理解とその支援のあり方について理解するために、講義では、発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害等）児・者とその家族が、家庭生活や学校生活、地域生活などで直面する諸課題について、合理的配慮、基礎的環境整備、個別の支援の観点から、どのように対応するのか、演習を通して具体的に考え、理解を深めることを目的とする。	
		富山大学	障害児の教育診断臨床 I	（概要）特別な支援を要する児童・生徒の特性を評価する方法、および発達検査、心理検査の概要と利用法を理解するために、本授業では特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に欠かすことのできない諸検査について理解を深めるとともに、実際に体験することによりその実施法および利用法について学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （18 宮一志／1回, 2回, 3回, 4回, 5回） 特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に使用される心理検査とその意義・適用について解説し、乳幼児の発達評価法、発達障害の評価法を説明、実演する。 （58 水内豊和／6回, 7回, 8回） 幼児・児童・生徒の能力評価法（KIDS、PVT-Rなど）、生活能力評価（Vineland-II適応行動尺度）を説明、実演する。	オムニバス方式
		富山大学	障害児の教育診断臨床 II	特別な支援を要する児童・生徒の特性を評価する方法として知能検査の基礎と利用法を理解するために、本授業では特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に欠かすことのできない知能検査（WISC-IV）について解説を行い、実際に体験することによりその実施法および教育現場における実践的な利用法について学ぶ。	
		金沢大学	言語障害指導法	本授業では、吃音、言語発達の遅れを中心とした言語・コミュニケーション障害のある児童生徒に対する指導・支援（在籍学級での支援及び、通級指導や自立活動などの個別の支援）評価、指導・支援の目的や内容、方法について解説する。さらに、個別の指導の実際について、教育相談等の個別の指導場面の参観・参加、言語・コミュニケーション障害のある児童生徒の指導・支援に関する文献購読を通して体験的に学修する。	
		金沢大学	発達障害総論	特別な支援を必要とする子どもへの教育実践には、障害の特性、心身の発達を理解する必要がある。本講義では、発達障害について、その背景となる生物学的要因、発達段階や特性に関するアセスメント法、支援法について、近年の動向を踏まえて概説する。さらに、事例を通して支援の方略を検討するとともに、各発達段階における教育的対応について学ぶ。	
		金沢大学	重複障害児教育 I	今日、障害者の自己決定権の尊重と生活の質が叫ばれている。自分の意思を表明することが極めて困難な障害の重い子の場合、生活の質の向上とは、どのような内容なのか。誰が何に基づいて決めるのか。この授業では、障害の重い子どもを対象に外的環境の認知を促し、対人関係の成立を援助する取り組みについての基礎を学ぶ。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	金沢大学	重複障害児教育Ⅱ	今日、障害者の自己決定権の尊重と生活の質が叫ばれている。自分の意思を表明することが極めて困難な重症児の場合、生活の質の向上とは、どのような内容なのか。誰が何に基づいて決めるのか。この授業では、重症児を理解すること（重複障害児教育Ⅰ）に基づき、重症児の外的環境の認知を促し、対人関係の成立を援助する取り組みについて考察する。	
		金沢大学	障害児教育基礎演習Ⅰ	<p>（概要）聴覚特別支援学校、知的障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校での教育実践活動に参加し、上記の障害のある子どもへの教育の各シーンを通して、</p> <p>（1）子どもの障害と心理について学ぶ、（2）教師から関わり方を学ぶ、（3）教育の問題と課題を見つけ、今後の専門課程での学修への問題意識を得る。</p> <p>（42 吉川一義） 肢体不自由特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（27 小林宏明） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（31 武居渡） 聴覚障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（85 吉村優子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（73 田部絢子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p>	共同
		金沢大学	障害児教育基礎演習Ⅱ	<p>（概要）聴覚障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校、知的障害特別支援学校での教育実践活動に参加し、上記の障害のある子どもへの教育の各シーンを通して、</p> <p>（1）子どもの障害と心理について学ぶ、（2）教師から関わり方を学ぶ、（3）教育の問題と課題を見つけ、今後の専門課程での学修への問題意識を得る。</p> <p>（42 吉川一義） 肢体不自由特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（27 小林宏明） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（31 武居渡） 聴覚障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（85 吉村優子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（73 田部絢子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p>	共同

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	富山大学	障害児支援学演習Ⅰ	<p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを实践しながら、研究方法、研究倫理についての基礎を学ぶ。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。</p>	共同
		富山大学	障害児支援学演習Ⅱ	<p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを实践しながら、研究方法、研究倫理についての実践力を身に付ける。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。</p>	共同
		富山大学	障害児支援学演習Ⅲ	<p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを实践しながら、研究方法、研究倫理を踏まえた課題解決法の基礎を学ぶ。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。</p>	共同

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	富山大学	障害児支援学演習Ⅳ	<p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わるフィールドワーク、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理を踏まえた課題解決法の実践力を身に付ける。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。医療・福祉施設でのフィールドワーク。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。保育・福祉施設でのフィールドワーク。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。学校・福祉施設でのフィールドワーク。</p>	共同
		各大学	特別支援教育学演習	<p>(概要) 本授業では、一人一人の障害の種類・程度等の困難性をふまえた教育内容・方法を理解したうえで、障害を有する子どもが能動的に学べるような教育方法を模擬的に実践し、協働省察することで特別支援教育に関わるうえでの専門的な力量を身に付ける。</p> <p>(42 吉川一義) 肢体不自由、重複障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(27 小林宏明) 言語障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(31 武居渡) 聴覚障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(85 吉村優子) 発達障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(73 田部絢子) 知的障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(18 宮一志) 病弱児の特性及び他機関との連携に関する助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 発達障害の特性及び生活支援に関する助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害の特性および指導法に関する助言指導。</p>	共同
	国語教育	富山大学	日本語学概論Ⅰ	日本語学の基礎知識を体系的に学ぶ。講義を通じて、新しい現象を発見する方法、日本語を分析的に見る方法、学術的に捉える観点、など日本語に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語に関する資料や調査結果を活用して、日本語の生態を観察する。現代語はもとより、一部古典語まで範囲を広げて、日本語学の知見について体系的に学習する。本講義では、日本語の文字・単語レベルでの分析を中心としている。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	富山大学	日本語学概論Ⅱ	日本語学の基礎知識を体系的に学ぶ。講義を通じて、新しい現象を発見する方法、日本語を分析的に見る方法、学術的に捉える観点、など日本語に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語に関する資料や調査結果を活用して、日本語の生態を観察する。現代語はもとより、一部古典語まで範囲を広げて、日本語学の知見について体系的に学習する。本講義では、日本語の文の構造や文末表現、文章の構成の分析を中心としている。	
	各大学	日本語学演習Ⅰ	優れた文章を書くためには名文を読むことも大切であるが、児童・生徒をはじめ一般の人にとっては名文を書くことよりも、悪文を書かないことの方が大切である。そして、自身が悪文を書かないようにするためには、身の回りの悪文に気づける能力の養成が重要である。この演習では、参考書『悪文 伝わる文章の作法』によって悪文の原因を概観し、その後は受講生が身の回りで見つけた悪文と思われるものを持ち寄って、悪文たる理由を発表し、受講生全員でそれが適切な指摘かを検討し、どのように直せば良いかについてディスカッションする。	
	各大学	日本語学演習Ⅱ	類義語の意味分析の方法を参考文献等から学び、受講生各自が選択した類義語の意味の違いを明らかにするために、従来の国語辞典の意味記述を批判的に検討するとともに、多くの用例を採集して分析し、レジュメにまとめて発表する。そして発表内容についての他の受講生とのディスカッションを通して、ことばの意味を記述することの面白さ、難しさを知るとともに、児童・生徒にもそのような体験をさせるための基礎知識を習得する。	
	富山大学	日本語学演習Ⅲ	社会言語学は、既存の文法や語彙の知識とは異なり、社会の中でことばがどのように運用されているのかを探る学問分野である。個人の自省に頼る言語分析ではなく、社会における言語生活の実態から自分なりのテーマを発見して適切な方法で調査を行う。調査・発表の過程を一通り学ぶことで、卒業研究に向けて調査研究の基本スキルを身に付けることができる。また、全員に発表を科しているため、適切な形でまとめ、説明する技術を身につけることができる。	
	富山大学	日本語学演習Ⅳ	日常の様々な会話の場面におけるコミュニケーションスキル、会話の方略について議論・考察する。テーマに即したロールプレイ（会話実演）を行い、実践力を養う演習である。会話の方略や理論を実際の場でためしてみ、有効性を検証し独自の修正を行う。授業で学んだコミュニケーションスキルを実生活で実践して有効性を確かめられる。話し下手・交渉下手（と思っている人）、会話の駆け引きを理論的に学びたい人に受講してほしい。	
	富山大学	日本語表現Ⅰ（言語指導におけるデータと理論の融合）	国語教師は授業を効果的な授業展開を行うにあたって資料や知識を活用するが、思い込みや経験則に偏りがちなのが作文指導・評価である。優れた文章を書くためには名文を読む（読ませる）ことも大切であるが、実際に児童が（教師自身も）書いてみる経験が重要である。さらに本講義では、児童や生徒が書いた実際の作文の大規模データを活用して、児童・生徒の文章作成能力を解明する。客観的なデータも併用することで、経験の不足を補うだけでなく、これまれば気づかれにくかった児童・生徒の特性を抽出した新しい作文指導のあり方に言及する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	富山大学	日本語表現Ⅱ（言語指導におけるデータと理論の融合）	国語教師は授業を効果的な授業展開を行うにあたって様々な資料や知識を活用する必要がある。特に思い込みや経験則に偏りがちなのが作文指導・評価である。実際どれだけの教員が文種の書き分けや指導を的確にすることが可能だろうか。本講義では、文種別に実際に作文を書くための準備から作文完成までの過程を実践しながら、注意点を指摘して、有効な支援のあり方を検討する。その際、実際の大規模作文データを活用する探索的な分析法を習得する。併せて、現役教師に対する調査結果を資料として文章評価の実情に言及する。
			各大学	日本語史Ⅰ	古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。本授業では、日本語史に関する客観的な見方、音韻変化の年代および前後の変化との関係に関する知識、文字に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益でもあるので、講義ではその点にも留意する。
			各大学	日本語史Ⅱ	古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。この授業では、文法・語法に関する変化、および各事項の相互関係に関する知識、書き言葉と話し言葉に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益であることに留意する。
			富山大学	日本語学講読Ⅰ	学校文法と周辺の文法論を比較しながらその特性について理解を深める。現場での学習状況に鑑みるに、これまでしっかりと学習がなされていないことが予想されるため、学校文法の基本事項から体系的に学習を進める。さらに学校文法学習時の問題点、現場における指導の状況について確認し、問題点と指導法改善のについて詳述する。
			富山大学	日本語学講読Ⅱ	前半は語用論的分析手法の基礎を学習する。後半は実際の会話例からコミュニケーションの分析を行う。具体的には、相手に対する「配慮」がどのように言語活動（または非言語的なものとして）として表現されるのかを学ぶ。本講読全体を通して、日本語のコミュニケーションのルールについての理解を深め、国語表現の授業時に活用できるよう理解を深める。
			金沢大学	日本語学講読Ⅲ	国語科の教員をめざす者には、日本語という言語そのものに対する深い興味と理解が求められる。そこで、本授業では世界の中の一言語としての日本語の言語的特徴について、主として現代日本語の音声・音韻に関する諸問題を概観しながら、日本語の相対的な位置づけを確認した上で、日本語学の知見の応用可能性についても検討する。それによって、国語教育に必要な日本語の基礎知識を身につけることを目的とする。

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	日本語学講読Ⅳ	国語科の教員をめざす者には、日本語という言語そのものに対する深い興味と理解が求められる。そこで、本授業では世界の中の一言語としての日本語の言語的特徴について、主として現代の日本語の文字・表記、そして、語彙・意味に関する諸問題を概観しながら、適宜国語教育に関わるトピックを取り上げ、日本語学の知見の応用可能性についても検討する。それによって、国語教育に必要な日本語の基礎知識を身につけることを目的とする。	
			富山大学	日本文学概論Ⅰ（教育と文学の関係を含む）	中学校・高等学校国語科を担当するに必須の、日本文学研究の基礎的な知識を習得するために、文学研究に必要な姿勢、文献収集・本文異同等の調査、読解のポイント、評価の枠組み等を学ぶと共に、作品分析の実例を確認し、実際のテキストを方法論に基づいて読み、独創的な見解をレポート等で表現する。文学がいかに書き手や社会の価値観を反映・創出しているのかを検討し、文学と教育の相関について学ぶ。	
			富山大学	日本文学概論Ⅱ（国語教科書と文学理論）	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。特に国語においてPISA型読解力の育成において論理が重視され、その手立てとして文学作品の分析を行うことが必須であるため、詩・物語の論理性と論説文・日常言説の修辭性を確認し、それが何を意味しているかを、国語教科書教材として採録される作品に即して文学理論を学びながら検討し、自らの見解を作品分析レポートとして豊かに表現する。	
			各大学	日本文学演習Ⅰ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。おもに詩歌に関連する作品を対象とし、自分の言葉で作品の読み方をまとめていく。その過程を発表資料やレポートに書くことによって、考えを深めることを目指す。演習形式で授業を行う。それぞれ担当を定め、教員があらかじめ指定したテキストについての発表と討議をすすめていく。	
			各大学	日本文学演習Ⅱ	「日本文学演習Ⅰ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につけることを目指す。教員が指定したテキスト（詩歌に関連するものを対象とする。）についての発表と討議を行う。担当者の発表を叩き台とし、教室全体で議論を交わし分析を深める。文献の入手・整理法や、立論・分析の方法などについて、模範発表や実際の発表過程で指導する。	
			各大学	日本文学演習Ⅲ	明治期から戦前昭和までの文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。作品中の言葉が担う意味を、読み手が各自恣意的に理解するのではなく、作品が書かれた時代において、また作品の文脈においていかに理解するべきかを、客観的・論理的に理解する。各界で担当が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
			各大学	日本文学演習Ⅳ	アジア・太平洋戦争終結後の文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。戦後文学はそれ以前の文学と比較して内容の多様性が増し、方法やメタファーも多岐に亘っている。作品の言葉が持つ意味を詳細に検討し、その世界を理解する分析力を修得する。各界で担当が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	富山大学	日本児童文学Ⅰ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能の基礎を身につける。児童を主人公／読者とする児童文学・ファンタジーの諸相について専門的な視点から考える能力を育てるために、児童文学の定義、児童文学の様々なジャンルについて学ぶと共に、児童文学作品、特にあまんきみこ・安房直子をはじめとする女性児童文学の教材や非教材の代表作を、方法論に基づいて分析・検討することで、受講生自らが独創的な見解をレポート等で表現することができるようになる。	
			富山大学	日本児童文学Ⅱ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。児童を主人公／読者とする児童文学・ファンタジーの諸相について専門的な視点から考える能力を育てるために、児童文学作品、特に新美南吉などの戦前の男性作家の児童文学から村上春樹・江國香織をはじめとする戦後児童文学・現代児童文学の教材や非教材の代表作を、方法論に基づいて分析・検討することで、受講生自らが独創的な見解をレポート等で表現することができるようになる。	
			金沢大学	日本近現代文学Ⅰ	日本近現代文学が捉えた人間の生を、精緻な実証的分析と理論的枠組みの双方に目配りしながら分析する能力を修得する。日本近現代文学のテキストを、その根差す時代、社会、文化、場所をめぐる様々な問題に目を向けながら分析し、テキストの持つ世界構造を明らかにし、それが照らし出す問題について考察する。これによって小説や詩歌を精確に読解する能力を修得する。	メディア
			金沢大学	日本近現代文学Ⅱ	日本近現代文学の諸作品を構造や語り、細部の描写に注意しながら解釈し、文学作品が捉えた諸問題を理解し考察する能力を修得する。戦争、大災害、虐待その他個人的体験など、危機的体験の後を生きる人間の生を描いた文学テキストを取り上げ、文学を通じてこそ語られる諸問題について分析する。これによって小説や詩歌を精確に読解する能力を修得する。	
			金沢大学	日本古典文学Ⅰ	和歌を読み解く能力を養うことは、古典文学に対する理解を深める上でも重要なことである。なかでも勅撰集は当代の政治的・文化的潮流と強く関わっている。そこで本授業では、勅撰集成の成立事情や歌風等を起点として中古・中世和歌および各時代の著名な古典文学について学び、中学校・高等学校国語科の国文学分野で役立つ知識を身につける。	メディア
			金沢大学	日本古典文学Ⅱ	本授業では、「日本古典文学Ⅰ」で学んだ古典文学に関する基礎知識を活用しつつ、和歌作品の調査と分析を行う。発表担当者は事前に発表資料を示し、他の受講者はその資料を十分予習した上で発表と討議に取り組む演習形式の授業を行っていく。これらの活動を通じて、問題を自ら発見し、掘り下げ、解決していく力の獲得を目指す。	
			金沢大学	日本文学史Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	中学校、高等学校の国語科を担当するに必須の、日本文学に関する基本的な知識と読解力を得られるよう、日本文学史と日本文学をめぐる諸問題（昨今、話題となっている古典不要論などの現代的な課題を含む）を概観する。本授業では、中学校、高校の古典教材に取りあげられる作品を中心に学び、伝統的言語文化と文学の特質についての理解を深めていく。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	日本文学史Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	日本近現代文学分野の基礎知識・分析能力を修得し、日本文学をめぐる諸問題について認識を深め、教育上の現代的課題に対応する力を身につける。中学校、高等学校の国語科を担当するに必須の、日本近現代文学に関する基本的な知識と読解力を修得し、日本文学史と日本文学をめぐる諸問題を概観する。その上で、文学史の視点から教育の現代的課題を分析する。	メディア
			各大学	日本文学講読Ⅰ	明治から戦前昭和にいたる小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそれのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			各大学	日本文学講読Ⅱ	アジア・太平洋戦争終結後の小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそれのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			各大学	日本文学講読Ⅲ	中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。本授業では、時代を問わず韻文やそれに関連する作品について適切に把握し、基礎的な知識を得る。また、それらを得ることによって平易な言葉で生徒に説明できること、作品の背景や韻文特有の言い回しなどについて、必要に応じて生徒に解説できることも目指す。	
			各大学	日本文学講読Ⅳ	「日本文学講読Ⅲ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。韻文はひとつひとつが短いゆえに、複数「集」としてまとめたり、他の作品に組み込まれたりすると、解釈が変化することがある。本授業では、そうしたテキストの構造や享受等に注意をはらいつつ読み解き、韻文やそれに関連する作品への理解を深めていく。	
			金沢大学	漢文学概論Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	漢文の基礎知識である経書全体を概説しつつ、特に『論語』『孟子』『荀子』を取り上げて講読する。訓読・読解を通して各時代の文化・歴史の様相とそこに表れる普遍性を考え、かつ、そこから教育上の現代的課題を見つめ直す。それによって、理論的かつ実践的に漢文を教授する力を養う。また、毎回内容に基づく小テストを実施する。基本的に講義形式だが、事前にはっきりと準備をする必要がある。	メディア
			金沢大学	漢文学概論Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	経書を学んだことを踏まえ、その対比として老荘思想について講読する。また、『春秋左氏伝』や『史記』などの史書を取り上げる。それぞれの訓読・読解を通して各時代の文化・歴史の様相とそこに表れる普遍性を考え、かつ、そこから教育上の現代的課題を見つめ直す。それによって、理論的かつ実践的に漢文を教授する力を養う。毎回、講義した内容に基づく小テストを実施する。基本的に講義形式だが、事前にはっきりと準備をする必要がある。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	国語教育	各大学	漢文学演習Ⅰ	中国最古の文学である『詩経』から六朝、そして、唐代の作品のうち、しばしば教科書に教材として取り上げられている作品を演習形式で精読する。それによって、漢詩の修辞法を学び、かつ、影響を受けた後世の詩文にも触れつつ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の基礎的な知識・技能を習得する。また、発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識の基礎を形成させる。	
		金沢大学	漢文学演習Ⅱ	唐代から宋代にかけて、日本に流伝した詩人の詩文集は多く、大きな影響を及ぼした。そこで、演習形式でそれらの詩を精読し、漢詩の修辞法を学ぶ。また、漢詩に影響を受けて創作を行った日本の詩についても取り上げ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の総合的な知識・技能を習得する。発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識を深める。	
		金沢大学	漢文学講読Ⅰ	漢王朝のために匈奴に嫁いで両国の架け橋となった王昭君について扱った、漢から宋代までの歴代の作品を取り上げて講義する。基本的な中国古典の修辞法と辞書の使い方などを指導するほか、各作品の鑑賞を通して、それぞれの時代の政治の理想像や、そこに表れる志操や悲哀、普遍性を理解する。基本的に講義形式だが、事前しっかりと準備をする必要がある。	
		金沢大学	漢文学講読Ⅱ	三国時代の蜀の宰相である諸葛亮について扱った、三国時代から宋代までの歴代の作品を取り上げて講義する。基本的な中国古典の修辞法と辞書の使い方などを指導するほか、各作品の鑑賞を通して、それぞれの時代の政治の理想像や、そこに表れる志操や悲哀、普遍性を理解する。基本的に講義形式だが、事前しっかりと準備をする必要がある。	
		各大学	書写書道基礎Ⅰ	中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。 教育現場におけるカリキュラムの連続性を考えて、小学校国語科書写についての知識とその指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に小中の各教育現場で教壇に立っている書写指導担当教員を複数迎えて実施する。	
		各大学	書写書道基礎Ⅱ	中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。 教育現場におけるカリキュラムの連続性を考え、高等学校芸術科書道についての知識、指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に高等学校の教育現場で教壇に立っている芸術科書道を担当する教員を迎えて実施する。	
		金沢大学	国語科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	中等教育における学習指導要領〔国語〕の目標及び内容を整理するとともに、小学校から高等学校に至る国語科の内容的繋がりや高等学校の科目編成等について把握する。また、中学校及び高等学校における石川県の国語科指導の実践事例を聞き、内容の解説を通して、中等教育における国語科の実際を理解する。それにより、中学校及び高等学校の教員として国語科学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につける。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	国語科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	中等教育における国語科学習指導の動画を視聴し、その分析を通して、授業の展開やそれを推進する教師の言動、用いられた教材教具などの意味や価値を理解し、自らが実践する際に活かせる知識を得る。また、石川県の教育実践を踏まえて国語科の単元を構想し、学習指導案として表現することを通して、国語科教員としての授業実践の基礎力をつける。	メディア
			富山大学	国語科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	中学校・高等学校における国語科教育の概要を知り、教材研究法を習得する。また、実際の教科書教材について「教材研究」を体験するとともに、中学校・高等学校での国語科教員として実務経験を生かして、理論的側面を踏まえた中学校・高等学校国語科学習指導案を作成する力量を身に付ける。また富山県の郷土教材や富山県内の教育実践も取り上げる。	
			富山大学	国語科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	中学校・高等学校における国語科教育の概要を知り、教材研究法を習得する。また、実際の教科書教材について「教材研究」を体験し、中学校・高等学校国語科学習指導案を作成する力量を身に付ける。中学校・高等学校における国語科授業の実務経験を活かし、模擬授業を実施するとともに振り返りを行う。これらの講義を通して、国語科授業を行うにあたって必要な実践的知識の獲得を目指す。さらに富山県の郷土教材や富山県内の教育実践も取り上げる。	
			各大学	国語科教育法Ⅴ	中等教育における音声言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における音声言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教師としての実践力を高める。	
			各大学	国語科教育法Ⅵ	中等教育における文字言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における文字言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教師としての実践力を高める。	
			各大学	国語科教育法Ⅶ	パソコンやタブレット端末といった新しい教具やデジタル教材などを取り入れた国語科学習指導の現状や可能性を知り、指導事項を効率よく効果的に実現するためにどのような場でどのように活用できるかを協議する。また、アナログ教具の進化についても目を向け、特に思考ツールの活用方法について検討する。そして、情報機器や新しいアナログ教具を導入した指導構想を提案し、有効性を協議することを通して国語科教師としての実践力を高める。	
			各大学	国語科教育法Ⅷ	中等教育、特に高等学校の国語科学習指導において誤解されやすく、苦手意識をもたれやすい「知識及び技能」の扱い方、古文の学習指導、学習評価について焦点化し、それらを行う際の留意点を理解する。そして、実際に教壇に立ったときに適切に対応できるように指導方法を考えたり、模擬評価を行ったりして国語教師としての実践力をつける。	
			各大学	国語科教育法Ⅷ	中等教育、特に高等学校の国語科学習指導において誤解されやすく、苦手意識をもたれやすい「知識及び技能」の扱い方、古文の学習指導、学習評価について焦点化し、それらを行う際の留意点を理解する。そして、実際に教壇に立ったときに適切に対応できるように指導方法を考えたり、模擬評価を行ったりして国語教師としての実践力をつける。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 国語教育	金沢大学	国語科教育演習Ⅰ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、小学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕、特に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の学習指導・学習評価に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについてグループや全体で議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方を検討する。	
	金沢大学	国語科教育演習Ⅱ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、小学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕、特に「読むこと」と「知識及び技能」の学習指導・学習評価に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについてグループや全体で議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方を検討する。	
	金沢大学	国語科教育演習Ⅲ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、中学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の3領域、及び〔知識及び技能〕における特に「(3)我が国の言語文化に関する事項」の「読書」に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについて検討するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方等を検討する。	
	金沢大学	国語科教育演習Ⅳ	『日本語学』（明治書院）や『月刊国語教育研究』（日本国語教育学会）等に掲載された国語科教育学の実践論文の中から、高等学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の学習指導・学習評価に関するものを各自で1編選択し、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論者の主張の是非や可能性などについて議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導や学習評価の在り方等を検討する。	
	金沢大学	国語科実践研究Ⅰ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）専門の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かす基本的能力を修得する。教育実習に向け、小学校国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、5回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、現代文及び国語と伝統文化に関する授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化に関する教材研究と授業実践について検討する。</p> <p>（71 大野順子／7回） 国語と伝統文化に関する教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	国語科実践研究Ⅱ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。教育実習に向け、中学校・高等学校の国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、6回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／7回） 漢文分野の教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式
			金沢大学	国語科実践研究Ⅲ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）専門の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かす基本的能力を修得する。教育実習を受け、小学校国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、5回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、現代文及び国語と伝統文化に関する授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化に関する教材研究と授業実践について検討する。</p> <p>（71 大野順子／7回） 国語と伝統文化に関する教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	国語科実践研究Ⅳ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。教育実習を受け、中学校・高等学校の国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、6回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／7回） 漢文分野の教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式
			富山大学	「話すこと・聞くこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「話すこと・聞くこと」領域においては、表現力とともに、論理的に伝える、情報を選択的に収集する技術も求められる。本領域の内容は教科書では不十分で、新任教師では対応できない。そこで、アナウンサーや報道記者などプロの話し手・聞き手の協力も得て、人に伝わる話し方の実際と実践的な演習を行い、中学校での学習への接続を意識した、より高度な内容・指導法を学ぶ。さらに手話や読み聞かせなど現場で活用できる会話の技術についても学ぶ。</p>	
			富山大学	「書くこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「書くこと」領域においては、教師自身も知識だけではなく、取材から交流まで実際に体験してみることが肝要である。そこで、Webライターや新聞記者などプロの書き手の協力も得て、人に伝える文章の実際と実践的な演習を行い、中学校での学習への接続を意識した、より高度な内容・指導法を学ぶ。さらにNIE（新聞教育活用）など現場で活用できる教材の活用についても学ぶ。</p>	
富山大学	「読むこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「読むこと」領域において本科目では、オーソドックスな文学的文章・説明的文章について扱う。PISA型読解力を高めるために高等学校学習指導要領では文学的文章と説明的文章とを区別し後者を重視しているが、しかしPISAの原文では小説などの論理構造を把握することで読解力を高めることが求められ、また論理的文章もレトリックなどの文学性を持つ点で、指導要領を補完・発展させ、評論・小説に対するレトリックと論理の把握が国語科教員には今後必要であり、そのための演習を評論文を中心に小説・詩まで展開する。</p>				

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	国語教育	富山大学	メディア・地域教材開発指導演習	県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。 「読むこと」領域において、本科目では、映像・音声・画像・絵画などのマルチメディア・地域テキストを検討・分析することで、今日的課題に対応した先進的教材を開発したり、物語創作等の「読むこと」領域と「書くこと」領域の架橋を行いうる領域について実践することで、より発展・複合した内容を学ぶ。	
		富山大学	国語科教育演習	文部科学省は、これからの教員に求められる資質能力として、教科指導の充実と専門性の向上を指摘している。そのため、教材分析や授業実践、またリフレクションのあり方について教科指導の専門性をより向上させる必要があるため。単元の構想・実践といった授業力の育成を目標とし、文献講読・教材分析・模擬授業を通して国語科授業のあり方についての見識を深める。 先行研究の講読を通し、国語科の教育課程や指導法の理解を深めるとともに、そこで得られた知識を基に主体的な教材分析や模擬授業の構想・実践を行う。模擬授業においては、指導上の工夫や教材研究のあり方に対して受講生同士で評価し合うことを通して、国語科教師としての授業力向上を目指す。	
	社会科教育	各大学	日本史学概論Ⅰ	中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方や方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅱに接続するものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。	
		各大学	日本史学概論Ⅱ	中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方や方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅰを前提としたものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。	
		富山大学	日本史学各論（近世・近代）Ⅰ	特定の地域を焦点にした歴史（地域史）の見方・捉え方を学ぶ。それに加えて、地域史と現代社会との関係についても考えていく。時代としては近世・近代を中心に、本学の所在する越中・富山を含めたさまざまな地域の事例を扱う。たとえば、木造和船と地域の関係、マグロ漁やカツオ一本釣り漁に特徴づけられた地域などの事例を取り上げることを考えている。日本史学各論（近世・近代）Ⅱへとつながるものである。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目 社会科学教育	富山大学	日本史学各論（近世・近代）Ⅱ	日本史学各論（近世・近代）Ⅰに引き続いて、特定の地域を焦点にした歴史（地域史）の見方・捉え方や、地域史と現代社会との関係についても考えていく。時代としては近世・近代を中心に、本学の所在する越中・富山を含めたさまざまな地域の事例を扱う。たとえば、近世庶民の移動・旅行と地域の関係、酒田沖の島、廻船と定置網で賑わう湾などの事例を取り上げる。	メディア
		金沢大学	日本史学各論（古代・中世）Ⅰ	日本古代・中世史について、特に近年の研究で大きな進展がある諸問題をピックアップして学ぶ。学校教育で取り上げられることの多い史料を紹介しながら、それらのテーマを授業として実践するための工夫や方法について習得する。	メディア
		金沢大学	日本史学各論（古代・中世）Ⅱ	近年の日本史研究は、史科学の時代を迎えている。古文書・古記録や、石造物、木簡・木札・埋蔵文化財・絵画・地名・景観といった古代・中世史を考えるための多様な史料と、それを読み解くための基本的な技術とさまざまな方法について概説する。	メディア
		各大学	日本史学演習Ⅰ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある資料活用に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究が必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、日本史の文献（著書・論文）の収集と読解、研究史の整理と批判的検討を行い、日本史的思考と叙述の方法を学ぶ。	
		各大学	日本史学演習Ⅱ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある史料読解に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究が必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、古文書・古記録を中心にくずし字（変体仮名）の判読を行い、日本史史料を読解するための基礎的技術を習得する。	
		各大学	日本史学演習Ⅲ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目標としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。史料や先行研究の読解を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆するための準備を行う。日本史学演習Ⅳに接続するものである。	
各大学	日本史学演習Ⅳ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目的としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。日本史学演習Ⅲを前提としている。史料の輪読を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆する。			

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	金沢大学	歴史学野外実習	地域史研究と授業実践のために、富山県、石川県、福井県を中心とする任意の地域を選定してフィールドワークを実施する。古文書・古記録や絵画・彫刻といった文化財の調査・収集、現地調査と景観復原の方法を学ぶ。合わせて、フィールドワークに関する能力を養い、授業実践に応用できるような能力を涵養する。	
	富山大学	西洋史学概論Ⅰ（現代的課題を踏まえて）	日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、近代世界システム論やアプー＝ルゴドの議論を援用して、随時ディスカッションをしながら、アジアとのつながりに目を向けて古代から中世までの西洋史を概観する。このように西洋史に比重を置きつつ、現代のグローバルな視野・課題意識をもって世界各地の経済的・文化的交流を古代から中世まで概観することで、現在の西洋史学における研究動向や歴史教育の課題を踏まえて、西洋史に関する一般的包括的な認識・知識を修得すると共に、西洋史の視点を利用しながら、地域史に拘泥せずに世界の歴史を広く捉える歴史観を持てる。	メディア
	富山大学	西洋史学概論Ⅱ（現代的課題を踏まえて）	日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、ウォーラステインの近代世界システム論を思考のツールとして援用し、随時ディスカッションをしながら、西洋史という視点から16世紀以降の世界の連関と一体化を概観する。このように現代的な国際課題を踏まえて、西洋史に比重を置きながら近世以降の世界各地の経済的・文化的な相互連関、世界の一体化を包括的に学修・理解することで、現在の研究動向や歴史教育の課題を踏まえつつ近世以降の西洋史に関する一般的包括的な知識と歴史認識を修得すると共に、西洋史の視点を利用しながら、地域史に拘泥せずに世界の歴史を広く捉える歴史観を持てるようになる。	メディア
	金沢大学	東洋史学概論Ⅰ	主に政治と社会の歴史を採りあげ、中国史・東アジア史の展開と特質を理解させる。「東洋史」の範囲について講義し、中核は中国であるが、朝鮮半島、東南アジア、南アジアとの関係にも留意すべき点を強調する。その後、中国の政治の展開、歴史の特質、中国社会の特徴などを講義する。中国史は漢民族と周辺民族との攻防が歴史の大きな部分を占め、王朝の交代が続くが、その中にも一貫した文化的技術的特質を維持している。この点を豊富な映像・文書資料を紹介しつつ詳説する。	
	金沢大学	東洋史学概論Ⅱ	主に経済と国際関係の歴史を採りあげ、中国史・東アジア史の展開と特質を理解させる。中国は、世界において最も早く文明を生み出した地域の一つであり、それは乾燥地帯であると同時に大河が流れているという独特の地形において、鉄器を持たない技術が濃厚を開始するうえで適した地域であった。鉄器が開発されるとより温暖な南部の開発が始まり、その後も、紙や火薬、印刷といった重要な技術開発が中国でなされた経緯や必然性について講義する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科教育	富山大学	西洋史学各論Ⅰ	西洋史の専門研究の成果を通して、中学校・高等学校の歴史教育の基盤となる歴史的事実を認識するとともに、歴史学の方法論や認識を理解するために、西洋史学の専門的な営みの一つとして過去の人々の日常生活を検証し、過去の「日常」を再構築することで、歴史的に社会や文化を考え、認識を深めることを目標とする。そのために、中世のヨーロッパなかんずくイタリアを主たる対象として、随時ディスカッションをしながら中世社会の「日常」を多面的に検証し、歴史的考察を学ぶと共に、我々が一般に持つ「中世ヨーロッパ」のイメージの妥当性を検討する。これにより、西洋史学が特定の視角から明らかにしてきた歴史的事象に関する知識を修得すると共に、西洋史研究の知見・解釈から我々自身や我々の社会を捉え直すという歴史学的営みを理解できる。	
		富山大学	西洋史学各論Ⅱ	西洋史の専門研究の成果を通して、中学校・高等学校の歴史教育の基盤となる歴史的事実を認識するとともに、歴史学の方法論や認識を理解するために、西洋史学の専門的な営みの一つとして過去の人々の日常生活を検証し、過去の「日常」を再構築することで、歴史的に社会や文化を考え、認識を深めることを目標とする。そのために西洋史学各論Ⅰで学修した内容を踏まえて、中世のイタリアを主たる対象として、随時ディスカッションをしながら中世社会の「日常」を多面的に検証し、歴史的考察を学ぶと共に、我々が一般に持つ「中世ヨーロッパ」のイメージの妥当性を検討する。これにより、西洋史学が特定の視角から明らかにしてきた歴史的事象に関する知識を修得すると共に、西洋史研究の知見・解釈から我々自身や我々の社会を捉え直すという歴史学的営みを理解できる。	
		富山大学	西洋史学演習Ⅰ	外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学研究のための基本的技術、特に英語をはじめとする欧語文献や史料を読解するための語学力を文献講読を通して修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論について学ぶ。まず歴史学の方法論を理解するために、指定された日本語の文献を読んで受講者が発表し、ディスカッションを行う。次に欧米の歴史研究の欧語（基本的は英語）文献について、受講者に毎回の発表を割り当てながら講読する。これによって、文献検索や欧語文献・史料の一定の理解能力を修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論を理解し、活用できるようになる。	
		富山大学	西洋史学演習Ⅱ	原則的に西洋史学演習Ⅰでの学修を踏まえて、外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学研究のための基本的技術、特に欧語の文献や史料を読解するための語学力を文献講読を通して修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論について学ぶ。そのために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）文献を講読し、ディスカッションをして、当該文献の成果や意義、方法論への理解を深めていく。また欧語文献とは別に、西洋史学研究に対する問題関心を喚起するために、受講者は割り当てられた西洋史の論点に関して調べて発表したり、各自の関心に応じた西洋史学関連の日本語文献を読んで、その内容や視点について発表する。これによって、文献検索や欧語文献・史料の一定の理解能力を修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論を理解し、活用できるようになる。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	富山大学	西洋史学演習Ⅲ	外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学を学ぶために必要な日本語及び外国語の文献を理解する力を身に着けるために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）の文献を講読し、歴史学の専門的文献を読みこなせる理解力を修得すると共に、その研究成果の意義や方法論を理解する。また受講者が割り当てられた日本語論文の内容や方法論について発表して議論したり、各自が選んだ西洋史学に関する日本語論文・文献の内容や喚起された問題意識を報告し、それについて議論したりする機会を設けることで、西洋史学の近年の動向や方法論を主体的・対話的に学ぶ。これによって、日本語や欧語（基本的に英語）で書かれた一定の分量の専門的文献を比較的短時間で読み、内容を把握し、要点を理解できる力を修得すると共に、日本語や外国語の文献を通じて、西洋史学の研究動向や方法論を理解できるようになる。	
			富山大学	西洋史学演習Ⅳ	原則的に西洋史学演習Ⅲでの学修を踏まえ、外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学を学ぶ上で必要な日本語および外国語の文献を理解する力を身に着けるために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）の文献を講読し、歴史学の専門的文献を読みこなせる理解力を修得すると共に、その研究成果の意義や方法論を理解する。また受講者各自が、割り当てられた西洋史学上の論点や、自分で選んだ西洋史学に関する日本語論文・文献について報告し、全員で議論する機会を設けることで、西洋史学の近年の動向や方法論を主体的・対話的に学ぶ。これによって、日本語や外国語（基本的に英語）で書かれた一定の分量の専門的文献を比較的短時間で読み、内容の概要を把握し、要点を理解できる力を修得すると共に、日本語や外国語の文献を通じて、西洋史学の研究動向や方法論を理解でき、また問題意識を深める。	
			各大学	人文地理学概論Ⅰ	本講義では、まず地理学が社会の中でどのように捉えられているのかを示し、その世俗的地理(学)観が育まれてきた背景を考える。続いて現代地理学の学問的体系を示し、初等・中等学校教育における地理学の位置付けを考える。地理学は人文社会科学と自然科学に跨る文理融合的分野であるが、それが人間社会と自然環境の相互作用をどのように捉えてきたのかを学ぶ。そして、人間社会の様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブを適用する人文地理学研究の見方・考え方・成果について、実際の研究事例を参照しながら示したい。受講者が、本講義を通じ「地理学とは何か？」という問題への一定の解答を得ることができるようになりたい。	
			各大学	人文地理学概論Ⅱ	人文地理学概論Ⅰの履修を前提に、人間社会を構成する様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブをどのように適用し、地理学的な研究を構築してゆくのかについて、具体的な研究を取り上げながら説明する。それによって、「地理学に何ができるのか？」という問題への何らかの解答を得たいと思う。最後に人文地理学と自然地理学を比較対照しながら、地理学の特性について再び考えたい。また、授業の中では講義のみならず、学外のフィールドワークも実施する。地域の実地観察によって、地理学的「知」を得る方法の習得を目指す。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	各大学	地誌学Ⅰ	本講義ではまず、中学校・高等学校の社会科/地理歴史科地理で学ぶ「地誌」と学問としての「地誌学」の違いについて学ぶ。国内地域の研究事例を中心に取り上げながら「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性(＝地域性)を描く方法を学ぶことで、初等・中等教育で学習してきた社会科「地誌」が、どのような学問的理解のもとに成立しているのかを理解する。	
		各大学	地誌学Ⅱ	本講義では、社会科(地理歴史科)地理の「地誌」と「地誌学」の違いについて、世界地誌を事例に考え学ぶ。「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性(＝地域性)を描く方法を世界各地の地誌を通じて学ぶことで、暗記科目である物産地理とは異なる科学的地誌について理解を深める。本講義を通じて、受講生が、地誌の説明の意味と方法を理解し、「ある地域の地誌を描く場合、どのような記述が的確なのか」についての的確に考え判断する能力を向上させることが、本科目の目標である。	
		各大学	地理学各論Ⅰ	人文地理学・自然地理学・地誌学など地理学の諸分野の研究で、位置を含む空間情報は「地図」によって表現される。地図の無い地理学研究は考えられない。本講義では、地図の歴史・機能・役割を理解し、地図の利用・様々な地図応用の方法を習得する。さらに、地理学の学術研究のみならず行政や企業など社会全般に近年急速に普及し、今や初等・中等教育の学校現場でも地理教育の必須アイテムとなったGIS(地理情報システム)について、その原理や利用方法について学ぶ。	
		各大学	地理学各論Ⅱ	景観論、環境論、災害論、歴史地理学の各研究領域を取り上げ、それらの内容と意義を学ぶ。とくに(1)「地域」や「空間」と並ぶ地理学の基本的概念である「景観」や「環境」についてより明確な理解を得る。(2)今日の世界で頻発する多様な自然災害の把握や対応策に地理学がどのように関わっているのかを理解する。(3)歴史地理学という歴史的観点をもつ地理学の手法と意義を理解する。	
		各大学	自然地理学Ⅰ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、気候分野を中心に解説を行う。その上で、自然環境と人間生活との関わりについても着目しながら、自然地理学的な見方・考え方を身に付けることを目指す。また、高等学校「地理総合」必修化にあわせて、高校地理総合・地理探究における気候学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を用いながらグループワークで整理し、高校教員として自然地理学の内容をどのように教えるべきかについて考える。	
		各大学	自然地理学Ⅱ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、地形分野を中心に解説を行う。その上で、自然地理学Ⅰの学修内容も含めて、防災・減災や人間生活との関わりについても着目しながら理解を深めていく。また、高等学校「地理総合」必修化に伴い、高校地理総合・地理探究における地形・防災学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を使いながらグループワークで整理し、教員として自然地理学の内容や視点・考え方をどのように教えるかを考える。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	各大学	地理学演習Ⅰ	初学者が地理学研究に取り組むうえで、研究テーマの設定を行うために必要な基礎的技術を学修することが、本科目の目的である。とくに、学校科目「地理」の学習内容の基礎を成す学術的な地理学的研究に取り組む際に真先に必要となる地理学固有の初歩的ないくつかの視点と技法が、本演習において習得される。具体的には、文献探索手法と文献読解による地理学的知見の取得の方法などの基礎的な見方・技法を受講者が身につけることが、期待される。	
	各大学	地理学演習Ⅱ	地理学研究では地域的・空間的事実を明らかにするために、実地調査や文献資料調査などの様々なやり方で定性的・定量的なデータ等を収集する。「データ」は様々な形で存在するが、それを扱うためにはデータ収集の方法、データ分析の方法、データ分析の結果を空間的に表現する方法、そこから地理学的事実を読み解く方法を理解しておく必要がある。本演習では、研究の初段階においてデータを収集・活用するために必要な基礎的な見方・技法を学ぶことをその目的とする。こうした地理学の見方・技法に習熟しておくことは、中学校・高等学校で「地理」を教授する教師が授業前に行う教材研究でも有用である。本演習で習得すべき基礎的な見方・技法は、具体的には、地域統計や統計分析結果を表現するために用いるベースマップ、文書資料等の収集方法とデータを用いた主題図作成法等である。本演習を修了した際には、これらがある程度習得されていることが期待される。	
	各大学	地理学演習Ⅲ	地理学演習Ⅰ・Ⅱから引き続き、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。本演習では、各回の授業において、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る参考文献を批判的に検討することを学ぶ。さらにフィールド調査やインドア調査等の地理学的な調査方法、地域データを分析して作成する主題図の作成方法等について、一層深く学ぶ。さらに受講者は既往研究を参照して野外調査の実践例を学ぶ。具体的には土地利用調査や聞き取り調査等の定性的調査の実践例を参考に、文献を通じてその見方や手法について理解を深めたい。さらにその内容を各人が学んだうえで、個々の見解を発表し、ディスカッションを経て、受講者間で共有する。こうした中で、受講者は相互に地理学研究の遂行能力を涵養する。	
	各大学	地理学演習Ⅳ	地理学演習Ⅰ～Ⅲの学修内容を引き継ぎ、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。各回の授業では、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る研究論文等の参考文献を批判的に検討すること、地理学的野外調査（フィールドワーク）の方法、既存の地域データや自ら実地収集したデータを分析して作成する主題図作成法等について、一層深く学ぶ。地理学演習Ⅲで学んだ野外調査（フィールドワーク）に関する知識・手法を活かして、本科目では、受講生は、一定の研究課題を定め、野外調査を実践する。野外調査によって得られたデータや事実を基に、受講者はデータ分析・主題図作成等の作業に取り組む。さらに、各受講者が自らの分析結果やそれに関する考察内容を相互に発表・報告し、受講者間でディスカッションを通じて共有する。それにより地理学研究における課題の発見や設定の方法、研究遂行のプロセスや技法に関する理解が涵養される。地理学演習Ⅰ～Ⅳを通じて、地理学研究の出来る・解る学校地理教師の素養を育成したい。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 社会科教育	富山大学	地理学巡検	地理学において、フィールドワークは研究過程で欠かせない要素である。巡検とは、研究のために現地でフィールドワークを行うことであり、現地での調査実践やその前後の一連の過程を指す。この授業では、巡検を計画・実践する過程を各受講者が経験し、地理学的な目で地域を観察し、地域で考え、地域を理解し、それを説明し伝えることの意義を体感し、自ら地理学の調査研究に従事することの出来る力を養うことを目指す。	
	金沢大学	地理学野外実習	地理学で不可欠な技能となる野外での観測、観察、調査を実施する。「地域」を地理学的に探求する能力のうち、とくにフィールドワークに関する能力を養う。さらに受講者が教師となった将来、フィールドワークを授業実践に応用できるような能力を涵養する。任意の地域を選定してフィールドワークを実施する。対象地域は富山県、石川県、福井県を中心とする。具体的には景観観察や聞き取り調査、土地利用調査を実施し、初学者に対するフィールドワーク入門実習である。将来、教師として科目横断的に野外観察の授業を立案できるように、現地調査は歴史学野外実習と連続・協働して1泊2日で行う。	
	各大学	法律学概論Ⅰ	法律学入門。法とは何か、法の解釈や、刑法を初めとする主要な法律の概要等、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。法とは何か、法と道徳の違い、法の分類（公法・私法）、国家と憲法、行政と法、裁判制度、法と犯罪という側面から授業を進める。	
	各大学	法律学概論Ⅱ	法律学入門。民法の原則、労働法、国際法の原則など、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。契約と法（民法・契約）、財産と法（民法・物権、債権）、損害賠償（民法・不法行為）、家族と法（民法・親族）、経済と法（会社法、知財法、競争法）、仕事と法（労働法）、国際社会と法（国際法）という側面から授業を進める。	
	各大学	法律学各論Ⅰ	現代社会が直面する環境問題に関して、法と行政がどのように対応しているか、市民の権利はどのように守られるかを知り、その課題を探り、環境法の基本的概念と骨子を講義する。「環境問題」とは何か、公害・環境保全史概観、環境法の基本的考え方（環境権、持続可能性、予防原則、汚染者負担原則など）、環境汚染を規制する法（大気、水質など）、自然環境の保全のための法（自然公園、生物多様性、野生動物など）、循環型社会形成のための法（廃棄物管理）、環境保護の担い手（行政、市民、NPOの役割（環境アセスメントを例に））、環境問題と訴訟という内容を取り上げる。	
	金沢大学	法律学各論Ⅱ	国の行政組織、国会制度などを行政法の観点から解説していく。「行政」とはどういう行為なのか、それをつかさどる「行政法」とは法体系の中でどのような位置づけなのかを講義する。次に、行政法には、行政組織法、行政作用法、行政救済法などの区別があることを詳説する。さらに、それぞれの方について、具体的に戦後日本でどのような裁判が争われたか、その判例資料に基づき、ディスカッションを行う。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	富山大学	法律学演習Ⅰ	環境法及び環境法政策に関する講義を行う。自然環境を中心とした現代の環境問題を研究することとし、必要な法的思考や地域社会への理解について教授する。具体的には、現代社会の直面する環境問題概観、自然保護法1（国立公園等）、自然保護法2（鳥獣保護管理等）、自然保護法3（希少種保全、外来生物問題）、河川・海岸の保全の法と行政、農業・農村と法、入会権とコモンズを題材として取り上げる。	
	富山大学	法律学演習Ⅱ	環境法及び環境法政策に関する講義を行う。公害、リサイクル、景観など現代の環境問題を研究することとし、必要な法的思考や環境行政への理解について教授する。具体的には、公害の歴史、公害の規制（水質、大気）、循環型社会形成への取組（廃棄物処理）、循環型社会形成への取組（リサイクル）、景観問題と都市計画、アメニティ、環境アセスメント、市民参加、環境訴訟、環境正義を題材として取り上げる。	
	金沢大学	法律学演習Ⅲ	過去の行政法に関する訴訟の具体的事例を取り上げ、判例を検討し、研究者の批判を踏まえ、どのような問題点が残っているかを究明する。行政が国民の権利、学問の自由、基本的人権などの憲法諸原理と衝突した具体例を取り上げ、その判例を精査し、判例に対して研究者がどのような批判を寄せているかも併せて検討する。憲法と行政法がどのような関係にあるかを討論する。	
	金沢大学	法律学演習Ⅳ	地方自治の本旨、条例制定権、首長制等について検討する。憲法が地方自治についてどのように規定しているか。地方財政の悪化が地方自治の内実をどのように空洞化させているのか。その中でも主張の工夫によって注目すべき成果を上げている事例があるのか。こうした点を具体的な事例に即して討論することで、地方自治についてより発展的な理解を促す。	
	富山大学	政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	この授業では、政治の基本原則である「民主主義」を扱う。具体的には、アリストテレスによって「逸脱した政治」とみなされた古代ギリシアの政治観からスタートし、近代以降、自由主義との結合をへて民主主義が「逆転勝利」を収めてゆくまでの過程を思想的・歴史的に概観する。あわせて、20世紀以降、「勝利」したはずの民主主義が立たされた「試練」についても触れ、最終的に現代日本で進行中の課題へとつなげて考えてゆく。	メディア
	富山大学	政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	「政治学概論Ⅱ」では民主主義の現在と将来について考える。授業では、代議制民主主義の成立と展開、それに対する大衆政治（ポピュリズム）の勃興を、授業全体を貫く軸として設定する。その上で代議制民主主義の動揺、政党の意義、政治改革の意味、政治的無関心等、政治の現代的課題と目される項目を扱い、代議制民主主義の限界と可能性を明らかにする。	メディア
	富山大学	人間安全保障論Ⅰ	この授業では「国家による、国家のための安全保障」の基本的考え方と、それを支える制度を概観する。まず理論として、国家・国際安全保障の土台となる主権国家の思想をふり返る。その上で、国際安全保障体制の変遷を①同盟と勢力均衡、②集団安全保障、③国連平和維持活動の順で扱い、それぞれの仕組みが持つ基本的特徴を理解する。最後に、こうした国家・国際安全保障の限界が何かを提起して、「人間安全保障論Ⅱ」へとつなげる。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	富山大学	人間安全保障論Ⅱ	「人間安全保障論Ⅰ」で提起した内容を受けて、「Ⅱ」では、「人間による、人間のための安全保障」に関する基本的考え方と、その具体的事例を検討する。はじめに人間安全保障の歴史的発展として、1970年代以降の安全保障論の変遷を概括する。その上で①水・食料、②居住環境、③感染症、④ジェンダー、⑤教育という5つを具体例としてあげ、新しい脅威が何か、それから人びとを救う「保障」の仕組みがどうなっているかを考える。	メディア
	富山大学	平和学Ⅰ	この授業では、戦争と平和をめぐる歴史的発展と思想について扱う。はじめに、「戦争と平和の歴史」として人類史のなかで重要な転回点となったものを3つ（正戦論、総力戦、新しい戦争）とりあげ、それぞれの時代状況を把握する。つづく「理論」においては、戦争と平和を考える上で大きな影響をもった①グロティウス、②クインシー・ライト、③E. H. カーの3名を取り上げ、それぞれの思想がどのような内容であったのか、戦争と平和の問題を考える上でいかなる影響を及ぼしたのかについて概説する。	
	富山大学	平和学Ⅱ	「平和学Ⅰ」の内容を受けて、この「Ⅱ」では実際の事例に則して平和の問題を掘り下げて考える。具体的には①核兵器・通常兵器、②貧困の拡大、③ジェンダー暴力、④地球環境問題、の4つである。その上で、より日本の文脈にひきつけた事例として（ア）広島・長崎と原爆投下、（イ）沖縄戦と米軍基地問題、（ウ）日本国憲法と平和主義、の3つを加え、日本の立場から平和学をどう発展できるかについて考え、授業を総括する。	
	富山大学	地球市民社会論Ⅰ	授業では「市民社会とは何か」を考える。具体的には社会形成の歴史を古代、中世から近代、近代以降という3つのフェーズで理解する。その上で、社会を形成する基本的な考え方として①ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、②社会契約、③社会契約のグローバル化を紹介し、歴史的思想（理論）的観点から、市民社会の大枠が理解できる内容に設計する。	
	富山大学	地球市民社会論Ⅱ	「歴史と理論」を踏まえた「Ⅰ」の内容を受けて、「Ⅱ」では地球市民社会の現代的展開を、事例と実践の観点から考える。授業の前半では資本主義の加速に伴う諸問題、新自由主義対福祉国家の相克、経済成長と持続可能性、という3つに注目し、市民社会が直面する課題が何か、それにどう立ち向かうかを考える。後半は具体的な参画・問題解決の方法として近年注目されている①ソーシャル・キャピタル、②キュレーションとソーシャル・デザイン、③シティズンシップ、の3つを取り上げ、「どう参加するか」という疑問に答えられる内容とし、授業をしめくくる。	
	富山大学	政治学演習Ⅰ	授業では、古典の精読を通して法と政治に関するより深い考え方を身につける。具体的には法の理念、自然法、政治権力の本質などがここに含まれる。これらに関連して日本で刊行された本のなかから、古典的価値を持つと判断できる書籍を取り上げ、精読する。教材としては尾高朝雄の著作『法の窮極に在るもの』を予定し、毎週1章を講読する形で、法と政治の関係、法のあるべき姿と理想的な政治の有り様について考える。	
	富山大学			

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	富山大学 政治学演習Ⅱ	授業で行う内容は「演習Ⅰ」と同じであるが、「Ⅰ」の内容を受けた続編という位置づけとなる。教材として上述した『法の窮極に在るもの』をテキストに設定し、法・政治と経済の関係や、法・政治と国際関係とのつながりについて考える。セッションは、書籍の精読に加え、現代的問題と連携した討議を毎回盛り込み、今日の分脈から法と政治をめぐる関係を掘り下げる。	
			富山大学 政治学演習Ⅲ	「演習Ⅰ,Ⅱ」同様、法と政治をめぐる古典を精読し、両者の有り様についてより深く考えることを目指す。教材として清宮四郎による『権力分立制の研究』をテキストとする。別に開講する政治学演習「Ⅰ」「Ⅱ」の流れに沿って、権力分立という仕組みの思想的制度的基盤を理解し、併せて英米における権力分立について概観する。	
			富山大学 政治学演習Ⅳ	「演習Ⅰ～Ⅲ」同様の内容である。「Ⅳ」では『権力分立制の研究』の後半を精読し、フランス公法の文脈を新たに加味した上で、法と政治の接点として権力分立を捉え、その歴史的・今日的状況を把握する。終盤では、伊藤正己『法の支配』についても部分的に講読し、法の支配という考えに関する専門的知識を習得・理解する。以上の内容に、現代日本における状況を加味し、これらをどう社会科教育のなかに反映させてゆけば良いかを考える。	
			各大学 経済学概論	経済学とは、家計や企業が合理的に行動するという仮定のもとに、経済活動によってどのような社会的帰結が実現するかを理論的に分析する学問である、ということをもととして、ミクロ経済学の分野の内容を中心に入門的な経済学を学ぶ。具体的には経済学の基本的な考え方、市場と政府の役割、需要と供給の理論、市場の効率性の理論的説明について学び、また授業内容に関する例題を受講者自身が計算して解くことで、授業内容の理解を深める。こうした学修によって、基本的な経済学の知識を修得し、身の回りの経済現象を経済学の知識を用いて理解できるようになる。	
		富山大学 社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	現代社会を、社会学を通して理解することを目的とする。地域社会の変容や人間関係の変化に注目し、その特徴を捉え、生起する社会問題に対するアプローチの方法を探る。社会学の入門的な内容を学びつつ、主に地域社会学・社会福祉学でのとらえ方を用いて地域社会における地域資源の変化や社会的な孤立に現れる人間関係の希薄化とそれに関連する諸問題（セルフネグレクトや8050問題など）について、現代的課題を含めて学習する。	メディア	
		富山大学 社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	現代社会にある種々の問題を主に「社会問題の社会学」の視点から捉え、その実情に即した解決や軽減を考察することを目的とする。地域共生社会づくりが進められるなかで、さまざまな社会問題が指摘されるようになってきている。その背景や原因としてどのような問題があるかを考え、実態を明らかにする。その過程では、問題の解決や軽減のための方策を探ることになるが、国や地方自治体が行き届く政策的な対応のみならず、NPOなど民間で取り組まれている独自の取り組みにも目を向け、より実践的な問題解決に役立つ方法を学ぶ。	メディア	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	富山大学	地域社会論Ⅰ	日本の地域社会の変化を捉え、種々の問題をもとに、今後のあり方を考えることが目的である。ひきこもりの課題や8050問題への対応、障がい者の社会参加の促進、地域包括ケアシステムの構築への対応など、変容する地域社会の様相を捉え、その中で明らかになる諸問題を地域共生政策における「我が事」としての把握に近づけ、また地域単位で「丸ごと」解決に向けていくためには、どのように対応しうるかに注目しつつ学習する。	
	富山大学	地域社会論Ⅱ	さまざまにある問題の中で、「貧困」「生きづらさ」にかかわる地域社会における生活の実情を踏まえ、その解決や改善についてアプローチを明確にできることが目的である。地域社会での生活の具体的な困難状況を取り上げ、その具体例を手掛かりにしながら現行の法制度やそれを補う新たな社会資源の必要を考え、問題の解決や改善のためにどのような方策があるかを学習する。内容により、海外での事例も取り上げつつ学習の効果を高める。	
	富山大学	社会学演習Ⅰ	社会学(社会福祉学を含む)の理論にかかわる文献について、検討を加えながら読解する。受講者が持っている関心も考慮しながら文献を選定し、受講者が分担して読み、その内容をまとめ、授業内で共有し検討することを基本として読解する。受講者はそれぞれの担当部分だけでなく、文献の全体を理解したうえで、それに基づいて社会を観察できることが到達目標である。社会学理論を理解し、それに基づいて社会を観察する基礎力を養う。	
	富山大学	社会学演習Ⅱ	社会学演習Ⅰと関連させつつ、社会学関連の理論に基づく調査にかかわる論文等を読解する。受講者同士で読解した内容を授業内で発表共有し、検討を加えたうえで整理しまとめることが目的である。論文の選定については、あらかじめ提示するものに加え、受講者が関心に基づいて自ら探し出したものや最新の論文(海外での研究も適宜含める)も取り入れて対象とする。社会学の研究論文の読解により得た知識等に基づいて、社会を観察する基礎力を養う。	
	富山大学	社会学演習Ⅲ	地域社会の中にある問題について、当事者の語り(ナラティブ)をもとにして実態を捉える。当事者は困窮高齢者・災害被害者を主な対象とする。受講者が当事者の生活の変化や現状にかかわる具体的な語りについて整理し、授業内で発表共有できることが目的である。語りを得る過程では、可能な範囲で、受講者が当事者に直接にインタビューする。地域社会の問題について、文献や論文から概要を把握しつつ、当事者の語りを中心に実態を捉えることを通して社会を観察する応用力・実践力を養う。	
富山大学	社会学演習Ⅳ	地域社会の中にある問題に目を向けてその解決や改善の方策を検討し、授業内で熟議する中で最も望ましいと考えられる方策を見出すことが目的である。その際には、可能な範囲で、当事者の議論への参加を得る。方策の学習にあたり、具体的な方法には、社会福祉的アプローチや実践的ソーシャルワークを含める。社会学演習Ⅲから引き続き、社会を観察し改善・変革する応用力・実践力を養うものとし、演習Ⅲとの連続的な学習による効果を得るものとする。		

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	金沢大学	哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	古代ギリシアの哲学思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。哲学という学問について、科学や芸術とは異なる本質について学習しながら、哲学の特性について基本的な理解を身につける。またソクラテス以前から始まる古代ギリシアの壮大な思想史を概観することによって哲学の起源・元型を学び、かつ現代的教育状況について、古代ギリシア哲学の視点から批判的に把握する。	メディア
		金沢大学	哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	古代ギリシアの哲学思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。特にプラトンとアリストテレスの思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。また、Philosophy for Childrenの実践を知るとともに、哲学的な討論を経験し、現代的教育状況における哲学的問いの可能性を探究する。現代的教育問題をより根本的に分析・思考するための基礎を培う。	メディア
		金沢大学	倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	倫理学という学問についての基本的理解を習得する。とりわけカント倫理学や功利主義などの学説、倫理学の根本諸概念について学ぶ。さらには「人格」「他者」「責任」という概念が今日問いなおされるべきものになっていることに触れ、現代応用倫理学の諸問題を把握する。具体的に、個々人の倫理判断が鋭く問われるようなケーススタディを豊富に取り上げる。	メディア
		金沢大学	倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	生命倫理の諸問題について理解し、その理解をもとに自ら考察し討論する力を養う。現代応用倫理学における生命倫理の諸問題（インフォームド・コンセント、安楽死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、パーソン論、優生思想）について理解し、自ら考察することができるようにする。またこれらの諸問題に関連するかたちで、研究倫理や企業倫理、工学倫理の問題についても学ぶ。	メディア
		金沢大学	宗教学Ⅰ	宗教現象および三大宗教についての基礎理解を固める。グローバル化した現代社会において宗教を理解することをきわめて重要である。この講義では、呪術と宗教との異同、宗教現象の本質性格について学んだ上で、キリスト教（原始キリスト教と宗教改革）、仏教（原始仏教と大乘仏教）、イスラム教についての基礎理解を固める。なぜ宗教対立は激化する一途なのか。それは宗教に内在することなのか、それとも本質的理解が不足しているからなのか。そうしたセンシティブな論点も積極的に取り上げる。	メディア
		金沢大学	宗教学Ⅱ	宗教現象のなかからテーマを選び出し、それについて自ら調べ、発表を行う。グローバル化した現代社会において宗教を理解することをきわめて重要である。宗教学Ⅰでの学習を踏まえて、各自が伝統的な三大宗教に限らず広く宗教現象のなかから関心のあるテーマを選び出し、それについて自ら調べ、発表を行う。そして他の学生の発表と討論を通して、宗教についてのさらなる理解を深める。	メディア
		金沢大学	哲学史Ⅰ	デカルトから19世紀までの哲学の流れを概観する。17世紀から19世紀までの西洋近代哲学の流れを概観する。具体的には、デカルト、大陸合理論、イギリス経験論、カント、ドイツ観念論、ヘーゲル、19世紀の思想潮流を取り扱う。それぞれの哲学が登場する背景及びその必然性、相互の関係などを丁寧に学ぶ。こうした学習を通して、公民の「倫理」の基礎を固めるとともに、私たちの世界観を批判的に吟味することを学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 社会科教育	金沢大学	哲学史Ⅱ	20世紀以降の現代哲学の流れと状況を概観する。具体的には、ニーチェ、生の哲学、分析哲学、マルクス主義、実存主義、フッサールと現象学、ハイデガー、フランス現代思想を取り扱う。それぞれの哲学の搭乗にはどのような必然性があったのか。それぞれの哲学はどのように批判しあい、相互に受容しあって言ったのか。これらの学習を通して、公民の「倫理」の基礎を固めるとともに、私たちの世界観を批判的に吟味することを学ぶ。	
	金沢大学	哲学演習Ⅰ	『存在と時間』の概要をふまえて、2ページから27ページまで精読する。20世紀ドイツのマルティン・ハイデガーの思索を通して、世界や人間の本質について考察することを狙いとする。ハイデガーの主著『存在と時間』とはどのような著作なのか。どのような意味で20世紀哲学の頂点と言えるのか。なぜこれほど多岐にわたって影響を与え続けているのか。こうした学習によって、難解な哲学書を読解する方法を身につけ、自らの思考の幅を広げる。	
	金沢大学	哲学演習Ⅱ	『存在と時間』の概要をふまえて、27ページから59ページまで精読する。20世紀ドイツのマルティン・ハイデガーの思索を通して、世界や人間の本質について考察することを狙いとする。哲学演習Ⅰでの学習内容を踏まえて、ハイデガーの主著『存在と時間』とはどのような著作なのか。どのような意味で20世紀哲学の頂点と言えるのか。なぜこれほど多岐にわたって影響を与え続けているのか。こうした問いをさらに深め、難解な哲学書を読解する方法を身につけ、自らの思考の幅を広げる。	
	金沢大学	青年心理学	不登校の事例を紹介しながら、児童生徒がなぜ「学校に居場所がない」と感じるのか、その心理的メカニズムと対処実践例を豊富に紹介しながら、青年のアイデンティティ形成に関する一般的な展望を開示する。「青年」が歴史的概念であり、近代であること、青年期がどのような不安定さを抱えているか、その現象例として不登校を取り上げる。不登校は、児童・生徒が「学校に居場所がない」と感じることに起因している馬、どのようなケースでそのような事例が発生するのか、小学校の場合、中学校の場合、高等学校の場合のケーススタディを検討する。事例とアイデンティティをめぐる学説史と突き合わせることで、その意味を明らかにする。	
	金沢大学	社会科・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の歴史について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。歴史過程を説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。律令制の支配が北陸地域ではどのように展開したか（初期荘園の開発）、北陸地域での近世領国制、幕末維新期の北陸地域などについてはとりわけ詳しく概説する。	メディア
	金沢大学	社会科・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の地理について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。単に現状を説明するのではなく、それぞれの地域の営みがなぜ存在するのか、説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。日本の諸地域と世界の諸地域について全般的に概説するが、北陸地域の気候や産業動態については豊富な事例とともに詳説する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	各大学	社会科・地歴科教育法Ⅲ	各受講生に、日本と世界の歴史について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。縄文時代については、石川県の代表的な縄文遺跡である真脇遺跡、律令制については県内の荘園跡、近世については加賀藩の資料など、生の資料を十分に消化したうえで、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
			各大学	社会科・地歴科教育法Ⅳ	各受講生に、日本と世界の地理について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。とりわけ北陸地域については、日本海側の特徴的な気候、一次産業から第三次産業までを、例えば県の農業試験場やJA、代表的な製造業などへの実地取材や調査に基づき、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
			富山大学	社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。具体的には、「問題解決」型社会科授業・「理解」型社会科授業・「説明」型社会科授業・「意思決定」型社会科授業それぞれの特色と作り方を理解させ、事例単元をもとに発問や板書計画などアイデアを考えさせる。その際、富山県の授業実践例や作成した学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。なお、公立・附属学校教員としての実務経験を活かし、具体的実践例を挙げて講義する。	メディア
			富山大学	社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。中学校学習指導要領社会及び高等学校学習指導要領公民に示された目標・内容・方法、「改訂の趣旨及び要点」を理解させた上で、「公民とは何か」「取り入れるべき学習内容とは何か」について主体的に考えさせたい。その際、富山県の授業実践例や作成した学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。なお、公立・附属学校教員としての実務経験を活かし、具体的実践例を挙げて講義する。	メディア
			各大学	社会科・公民科教育法Ⅲ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。「公民科とは何か」について歴史から学んだり、目標設定の異なる公民科授業類型について考えたり、また教育実習生の授業記録を視聴することによって必要とされる資質・能力を考えたりすることを通して、主体的に学ばせる。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	
各大学	社会科・公民科教育法Ⅳ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。高等学校公民科「公共」「倫理」「政治経済」それぞれの目標と内容の特性を理解させた上で、ロールプレイング教材やディベート教材の効果的な活用法を考えさせながら模擬授業を行わせ、主体的な学びを保障する。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。				

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	数学教育	富山大学	線形代数学概論Ⅰ (代数と現代の数学教育を含む)	本授業では、行列の基本的性質とその応用を学ぶ。行列が正則であるための必要十分条件を証明する(二次の行列に限定)。行列の基本変形を利用した連立一次方程式の解法を理解する。行列の基本変形を利用し逆行列を求める。また、行列の階数とその応用を学ぶ。代数学の考え方がどのように応用されているかを理解し、現代の数学教育についての重要性を学ぶ。	メディア
			富山大学	線形代数学概論Ⅱ (代数と現代の数学教育を含む)	本授業では、行列式の基本的性質とその応用を学ぶ。行列が正則であるための必要十分条件を証明する(n次の行列で)。行列式を利用した連立一次方程式の解法を理解する(クラメールの公式)。ある方程式が自明解以外の解をもつための必要十分条件も学ぶ。代数学の考え方がどのように応用されているかを理解し、現代の数学教育についての重要性を学ぶ。	メディア
			富山大学	代数学Ⅰ	この授業では、群の基礎と周辺事情を学ぶ。整数における不思議な現象は、群の観点から眺めるとごく自然に説明がつくことがある。最初に群の定義を理解し、具体例を述べるができるようにする。同値関係と類別の考えを学び、商群を理解する。既約剰余類群などの様々な群を学んだ後にラグランジュの定理の証明を行う。群論の観点からフェルマーの小定理を証明する。	メディア
			富山大学	代数学Ⅱ	この授業では、環、体の基礎と周辺事情を学ぶ。整数の集合、有理数の集合、実数の集合など、これまで扱ってきた対象を、環や体という観点から眺め、その構造を理解することを目指す。そのために、環の定義と諸性質を理解し、具体例を述べるができるようにする。イデアルの諸性質を理解し、その関連する問題の証明を学ぶ。体の定義を理解し、具体例として二次体の性質を学ぶ。	メディア
			富山大学	数論Ⅰ	この授業では、数の基礎と周辺事情を学び、理解を深めることを目的とする。素数と約数についての諸性質を理解し、関連した問題の証明を学ぶ。具体的には、素数は無限に存在する事を証明し、素数の出現する頻度も検討する。特殊な素数や約数の諸問題も学ぶ。ユークリッド互除法と不定方程式の関係を理解する。合同式の性質を学び、フェルマーの小定理の初等的な証明をする。	メディア
			富山大学	数論Ⅱ	この授業では、数の基礎と周辺事情を学び、理解を深めることを目的とする。整数に関する問題は一見易しく解けるように思える。しかし、実際に解こうとすると難しい問題が多いことに気づく。連分数展開を通して様々な数を分類し、特殊な数とその性質を学ぶ。様々な数論的関数とその挙動評価を行う。数論的関数の平均を考察し、主要項の大きさとその係数に現れる量を学ぶ。	メディア
			金沢大学	幾何学概論Ⅰ(幾何学と現代の数学教育を含む)	高等学校で学んだベクトルの概念を一般化した行列の考え方について深く理解するとともに、幾何学的に捉えることができることを目標とする。具体的には、行列の演算や基本的性質を理解するとともに、小学校の算数科における幾何学の位置づけを講義する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	数学教育	金沢大学	幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	幾何学概論Ⅰで学んだ行列の考え方についてさらに理解するとともに、行列式の基本的性質を理解することを目標とする。具体的には、行列式の定義および基本的な計算方法を理解する。また、基本的な性質を学習し、外積代数的側面の理解進めるとともにその幾何学的意味についても講義する。さらには、中学・高校数学における幾何学の位置づけについて講義する。	メディア
		金沢大学	線形空間論Ⅰ	内積空間の基礎的な性質を理解し、線形空間や線形写像をより視覚的、幾何学的に捉えることを目標とする。具体的には、線形写像の核や像を定義しその次元に関する性質を学ぶことで、連立一次方程式に関する理解を一段進める。内積空間については、ベクトルの長さや2つのベクトルがなす角度が初めから備わっているものではなく、内積に依存する概念であることに留意させる。また、グラム・シュミット直交化法はじめとして諸概念を幾何学的視点に重点をおき講義する。	メディア
		金沢大学	線形空間論Ⅱ	これまで、幾何学概論Ⅰ、Ⅱ、線形代数学Ⅰ、Ⅱおよび線形空間論Ⅰで学習してきたことを踏まえ、行列の固有値と固有ベクトルの計算を自在に行うとともに、線型写像の表現行列に応用することで、線型写像をより視覚的、幾何学的に捉えることができることを目標とする。具体的には、固有値、固有ベクトルの扱いになれ行列の対角化やケーリー・ハミルトン定理を理解できるように講義する。	メディア
		金沢大学	曲線論	平面曲線および空間曲線の基本的な幾何学量である曲率を定義し、それらの幾何学的意味を理解することを目標とする。具体的には、円などの身近な例について曲がり具合を表すための基本的な考え方を学ぶ。それを踏まえ、曲率を定義し様々な曲線の曲率を計算できるようにする。さらに、フレネ・セレの公式を使いこなすとともに、曲線の存在と一意性定理を通して実社会への応用例も含めて講義をする。	メディア
		金沢大学	曲面論	三次元ユークリッド空間内の曲面の基本的な幾何学量であるガウス曲率や平均曲率が計算でき、それらの幾何学的意味を理解することを目標とする。具体的には、平面や球面などの例を通して、曲面の曲がり具合を表すための基本的な考え方を学習する。それを踏まえ、曲面のガウス曲率や平均曲率を定義し、様々な曲面のガウス曲率と平均曲率を計算できるようにする。その際、曲面の視覚的理解を重視し講義をする。	メディア
		金沢大学	位相空間論	位相空間の基礎を学ぶとともに、このような抽象化された概念を論理的に精密に取り扱えるようになることを目標とする。具体的には、位相空間を定義し具体例を数多く紹介する。その中で、距離空間についてはより詳しく講義する。また、このような一般化や抽象化の必要性についても理解できるようにする。また、コンパクト性やハウスドルフ性および連続写像について講義する。	メディア
		金沢大学	可微分多様体論	現代幾何学の重要概念である可微分多様体の基礎を学び、抽象化された概念を論理的に精密に取り扱えるようになることを目標とする。具体的には、可微分多様体を定義し例を数多く与える。これにより、位相空間上で微積分学を展開するための考え方を理解する。また、はめ込み等の多様体間の種々の写像を講義する。また、Lie群も紹介し数学の各分野が独立に存在するものではなく互いに密接に関連していることを学習する。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	各大学	解析学概論 I 微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の基本を学習する。 最初に、関数の極限という考え方を導入し、それに基づき関数の連続性や微分可能性を定義する。次に、微分法に関するいくつかの公式や初等関数に関する導関数の公式を導く。これらの公式の導出方法を理解すること、および得られる公式を自在に利用し、様々な計算を行えるようになることが目標である。	
			各大学	解析学概論 II 微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の応用を扱う。 微分法の応用は、言い換えれば平均値の定理やそこから派生する定理、あるいは平均値の定理を拡張した定理を応用することである。この講義ではロルの定理を出発点とし、各種の定理を証明し、それらを具体的な問題へ応用する方法を学習する。	
			各大学	解析学 I 微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎を扱う。 最初に解析学概論Iの復習として、いくつかの初等関数に対する不定積分の公式を確認する。次に、部分積分法や置換積分法といった不定積分を計算するための道具を用意する。以上の準備の下で、有理関数の不定積分をシステムティックに求める方法を用意し、得られた方法を三角関数、指数関数、無理関数に適用する。	
			各大学	解析学 II 微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎と応用を扱う。 解析学Iの学習内容を踏まえて、定積分を定義する。定積分を利用することで、図形も面積や曲線の長さを求めることが可能となる。その仕組みを確認し、応用としていくつかの不等式を導く。また、定積分の概念を拡張した広義積分とその応用についても学習する。	
			富山大学	解析学 III 数列の収束や関数の連続性を厳密に扱うには「実数の連続性」を理解する必要がある。「実数の連続性」は、有理数全体の集合と実数全体の集合の間に明確な違いを与える実数全体の集合に固有の性質である。 この講義では「デデキントの切断」を公理に採用し、それを出発点として「実数の連続性」を表現する様々な定理を証明する。更に、数列の極限をイプシロン・デルタ論法によって精密に表現し、これまで事実として認めてきた数列の極限に関する基本定理に対する証明を与える。	メディア
			富山大学	解析学 IV 解析学 IIIに引き続き、「実数の連続性」に基づいて関数の連続性や連続関数の性質を精密に議論する方法を扱う。 最初に、関数の連続性をイプシロン・デルタ論法を用いて特徴づけ、次に閉区間上の連続関数の有するいくつかの著しい性質を明らかにする。さらに、関数の一様連続性という概念を導入し、閉区間上の連続関数が一様連続であることやその応用を扱う。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	富山大学 微分方程式 I	我々の身の回りにおける様々な現象は「微分方程式」を用いることで数学的に定式化（数理モデル化）される。現象のモデル方程式である微分方程式の解を調べることで、現象のメカニズムを数学的な立場から議論することが可能となる。 この講義では、微分方程式論の入門的な話題として、解の表現を具体的に求めることが可能なタイプの常微分方程式だけを扱い、具体的な計算を通して現象の数学解析について学ぶ。	メディア
			富山大学 微分方程式 II	微分方程式 I では解の具体的な表現を求めることが可能な微分方程式ばかりを扱ったが、応用上重要な微分方程式の多くは非線形であり、解の具体的な表示が得られることは稀である。そこで解の具体的な表示を求めることなく微分方程式の解の性質を解明する方法が必要となる。 この講義では、非線形問題を扱う基本として、(1) 一階正規形微分方程式系に対する解の存在と一意性に関する定理を証明し、(2) 自律系微分方程式の平衡点に対する漸近安定性を線形化解析によって解明する方法を学ぶ。	メディア
			金沢大学 確率論概論（確率論と現代の数学教育を含む）	高等学校で学んだ確率をより厳密により深く理解することを到達目標とする。具体的には、確率の定義を厳密に行い、条件付き確率、独立事象、確率変数、分布関数について基本的な性質を講義する。また、データサイエンスの考え方を念頭におき、行列をはじめとする線形代数的な視点も加え中学・高校数学における確率論の位置づけについても講義する。	メディア
			金沢大学 統計学概論（統計学と現代の数学教育を含む）	推定について深く理解することを到達目標とする。特に、近年はビッグデータの利用については必須であるので、それも踏まえ標本調査、各種統計量、正規分布等について基本的性質を講義をする。また、確率論との関係も学習し、データサイエンスの考え方も念頭におき講義する。さらに、中学・高校数学における統計学の位置づけについても講義する。	メディア
			富山大学 確率論	本授業では確率論の基本を学び、確率論の観点から様々な現象を説明できるようになることが狙いである。場合の数の数え方を再確認し、確率の考え方を理解する。確率の諸性質を理解し、平均や分散などの問題を解くことができるようにする。確率変数と確率分布の考え方を学び、関連した問題を解く。二項分布の基礎と具体例を学び、関連した問題を解く。	メディア
			富山大学 統計学	本授業では統計の基本を学ぶ。様々なデータを整理、分析し、背後にある数学的原理をみぬく力を身につけることがねらいである。統計の考え方を理解し、資料の平均と分散を学ぶ。二変量の解析では、共分散、相関係数、回帰直線の考えを理解し問題を解けるようにする。正規分布とその諸性質を学び、身の回りの現象で正規分布とみなせるものを実際に分析できるようにする。	メディア
			金沢大学 回帰分析	授業のテーマ及び到達目標は、回帰分析、統計学の考え方を理解し、推定と検定の定義を理解し、説明できるようになることである。そして相関係数と回帰直線の定義を理解し、それが説明でき、決定係数の定義を理解し、説明できるようになれば、回帰係数の区間推定と検定の問題を解くことができる。そして本授業では統計学、中でも特に回帰分析の基本を学ぶ。様々なデータを整理、分析し、背後に存在する数学的原理を見抜くことが狙いである。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 数学教育	富山大学	コンピュータ概論Ⅰ (授業への応用を含む)	この講義では、汎用的なプログラミング言語の一つである Python 3 を用いたコンピュータ・プログラミングを学習する。コンピュータ概論Ⅱにおいて数学の諸問題へプログラミングを応用することを意識し、Python プログラミングやその周辺の基礎固めを行うことが第一の目標である。また、実際のプログラミングを通して、コンピュータに的確に指示を与える方法を獲得し、複雑な処理を自動化するためのプログラマ的な思考を獲得することが第二の目標である。学習内容を数学の教材作成へ応用することについても扱う。	メディア
	富山大学	コンピュータ概論Ⅱ (授業への応用を含む)	この講義では、数値計算法の初歩的な話題を学習し、コンピュータを数学の諸問題へ応用することを目指す。微分積分学や線形代数学を利用し、いくつかのトピックに対する数値解法(アルゴリズム)を作り、更にそれらの特徴を明らかにする。また、得られたアルゴリズムを元にして実際にプログラムを作成し、数理の諸問題へコンピュータを応用することを体験する。学習内容を数学の教材作成へ応用することについても扱う。	メディア
	金沢大学	論理学	数学の基礎となる論理について厳密に学びコンピュータ分野の考え方の基礎を捉えることを目標とする。具体的には、命題論理と述語論理についてそれらの基本的な事項を学ぶ。特に、これらの扱いになれることで、対偶法や背理法等の構造を理解することで、実際の学校での授業における留意点も理解できるようにする。また、コンピュータの扱いも念頭におきブール代数や回路図についても説明する。	メディア
	金沢大学	集合論	現代数学の基礎となる集合や写像について厳密に扱えることを目標とする。具体的には、集合の和集合、共通集合、差集合等の基本的な扱いをベン図も使いながら講義し、写像についても単射性や全射性についても詳しく説明する。さらに、同値関係についても講義し、例えば小学校の分数の扱いについての理解が深まるようにする。	メディア
	富山大学	数学科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	中学校数学科・高校数学科において情報機器の活用の観点から、諸数学教育用ソフトの実習を通して操作方法を学習するとともに、数学教育用ソフトを用いた授業づくりを行うことができるように指導案の作成上の留意点や模擬授業を通して、数学教育用ソフトの活用法について学習する。具体的には、インターネットにある数学教育コンテンツの活用法、作図作成ソフトCabri-Geometry、数式処理ソフトMathemticaなどのソフトを取り上げる。本講義では主に数学教育用ソフトの取り扱いを学習する。	メディア
	富山大学	数学科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	中学校数学科・高校数学科において情報機器の活用の観点から、諸数学教育用ソフトの実習を通して操作方法を学習するとともに、数学教育用ソフトを用いた授業づくりを行うことができるように指導案の作成上の留意点や模擬授業を通して、数学教育用ソフトの活用法について学習する。具体的には、インターネットにある数学教育コンテンツの活用法、作図作成ソフトCabri-Geometry、数式処理ソフトMathemticaなどのソフトを取り上げる。本講義では主に数学教育用ソフトを活用した指導案の作成及び模擬授業を行う。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	金沢大学	数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	中学校及び高等学校数学科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、中学校及び高等学校数学科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、各領域・内容における石川県の教育実践を含む学習指導の検討を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点等、数学科の指導法についての知見を得る。	メディア
			金沢大学	数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	中学校及び高等学校数学科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、数学科の授業を設計することができるようになるために、中学校及び高等学校数学科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価について、石川県の教育実践を含む知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、数学科の実践研究とその課題について学ぶ。	メディア
			各大学	数学科教育法Ⅴ	数学科の授業を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学科授業の分析のための枠組みを基に、各領域における授業の視聴とその分析を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点についての理解を深め、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を得る。	
			各大学	数学科教育法Ⅵ	小学校算数科、中学校高等学校数学科の教材と学習指導を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に、教育実習に向けて、受講者が協力して、各領域・内容の教材や学習指導案を検討し、模擬授業を行い、相互評価し振り返る。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」及び「図形」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。 (43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	各大学	数学科教育法Ⅶ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計し教材を開発するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に教育実習における授業の経験を振り返り、各領域・内容の学習指導の過程について検討し、そのような授業の設計の枠組みへと洗練させ、各領域・内容における教材開発に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程を検討するとともに、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練させる。</p> <p>(43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程の検討と教材開発に取り組み、数学的活動全般を通して、学生自身が主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練し構築していく。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	数学科教育法Ⅷ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計するための実践的な知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みと教材開発による知見を基に、教育実習における授業の経験を振り返り、受講者が協力して、授業を構想し学習指導案として再構成し、その模擬授業を行い、相互評価し振り返る。</p>	
			金沢大学	算数・数学科教育論	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の教育実践とその研究の基盤となる、数学教育に関する知識及び技能や考え方を体系的に身につけ、算数・数学科教育の今日的課題の解決のための展望を得ることを目指す。そのために、小学校算数科、中学校高等学校数学科の教育実践とその研究の基盤となる数学教育論から、算数・数学科教育への視座を得て、その視座から、算数・数学科教育の今日的課題を見出し、その解決のための展望を得る。</p>	メディア
			金沢大学	算数・数学科授業論	<p>算数・数学科の指導法に関する知識や技能を身につけ、活用できる算数科、数学科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基にして、各領域における授業の視聴およびその検討を通して、個別の学習内容における児童、生徒の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科・数学科の指導法についての知見を得て、それを実際の授業で活用できるようになることを目指す。</p>	メディア
			富山大学	算数・数学科教材開発研究	<p>中学校数学科・高校数学科において指導案の作成とその指導案に基づいた模擬授業を通して各領域における教材開発の視点や技能を身につけることを目的とする。具体的には、各領域ごとの目標の特徴、一斉授業・グループ学習・個別学習などの授業形態、コンピュータなどの情報機器の活用の仕方などの視点や技能を身につける。小学校算数科では、数と計算・図形・測定・データの活用の領域を取り上げ中学校数学科では、数と式・図形・関数・データの活用の領域を取り上げ、高校数学科では、主に数学A、数学Iの内容の中から取り上げる。</p>	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	富山大学	理科内容A (力学概論と現代理科教育)	中学校・高等学校の理科教員として必要な力学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる力や運動の捉え方や力学の考え方・計算方法の基礎について学ぶ講義科目である。具体的には、力の概念、運動と座標、質点の運動(自由落下、放物運動等)、力学的エネルギー保存則、運動量保存則、角運動量保存則、剛体のつり合いなどについて学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
		金沢大学	理科内容A (電磁気学概論と現代理科教育)	中学校・高等学校の理科教員として必要な電磁気学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる電磁気学の基礎的な概念や、基本的な問題を解く方法について学ぶ。具体的には、電磁気学の基礎的内容として、電荷に働く力、静電場の性質、ガウスの法則、電場と電位の関係、静電エネルギー、電気容量、電流と電気抵抗、電気回路などについて学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
		富山大学	理科内容A (熱力学)	中学校・高等学校の理科教員にとって重要な熱力学の考え方を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科をエネルギーの視点から理解するために重要な熱力学の体系について学ぶ講義科目である。具体的には、質点系のエネルギー、熱運動、物質の熱力学的性質、理想気体の状態方程式、熱力学第一法則、断熱曲線、アルキメデスの原理、ステファン・ボルツマンの法則、ケルビンの原理、カルノーの定理、熱力学第二法則、エントロピーと熱、熱力学関係式などについて学ぶ。	メディア
		金沢大学	理科内容A (一般物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な電磁気学の発展的内容、初等量子力学の基礎、及び波動の性質について理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる電磁気学、初等量子力学の概念や、波動の性質を理解し、基本的な問題を解く方法について学ぶ。具体的には、電磁気学の発展的内容として、磁場の発生、磁場によって生じる力、電磁誘導、交流回路について学び、音と光、波動と電磁波の関係などについて学ぶ。	メディア
		各大学	理科内容演習A I (物理学)	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(力、物体の運動、熱、エネルギー)に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、まず物理数学の基礎を修得した上で、力と運動の関係、力のつり合い、圧力と浮力、力学的エネルギーの保存、熱伝導や熱とエネルギーの関係などについて理解を深める。	
		各大学	理科内容演習A II (物理学)	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(電気回路、電流と磁界、光と音)に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、電磁気学においては、静電現象、電流と磁界、電気容量、電磁誘導、電磁波について学び、また、光の性質や音と波の関係について理解を深める。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	各大学	理科実験A I (物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(力、物体の運動、熱、エネルギー)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、測定と誤差についての基礎的な知識を学び、重力加速度、力の合成、摩擦係数などの力学的実験や、気体と液体の圧力、固体の比熱、熱の仕事当量などの熱力学的測定を行うとともに、コンピューターによるデータ処理に関する技術も修得する。	
		各大学	理科実験A II (物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(電気回路、電流と磁界、光と音)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、電気回路製作の基本的技術を学び、電気抵抗、等電位線と電気力線、静電容量、電磁湯堂などの電磁気学の実験や、音波の共鳴や光に関する波動の測定を行うとともに、コンピューターによる機器の制御に関する技術も修得する。	
		金沢大学	理科内容B(無機化学概論と現代理科教育)	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代理科教育の様々な課題について知識を深めることが必須となる。この講義では、原子の構造、化学結合、気体の性質の基礎について取り上げ、物質を構成する粒子またはその集合体について化学的性質・現象を学ぶとともに、現代理科教育の様々な課題を理解する視点を養う。	メディア
		富山大学	理科内容B(物理化学概論と現代理科教育)	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代理科教育の様々な課題について知識を深めることが必須となる。この講義では、溶液の性質、熱化学、化学平衡の基礎について取り上げ、物質を構成する微視的な粒子の性質と巨視的な現象とのつながりを学ぶとともに、現代理科教育の様々な課題を理解する視点を養う。	メディア
		金沢大学	理科内容B(物性化学)	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代の生活と化学とのかかわりを理解する視点を養うことが必須となる。この講義では、無機物質の構造と性質、バンド理論、有機化合物の構造とその反応について取り上げ、具体的な物質の性質や反応を電子状態から捉え、身近な物質・現象と結びつけて理解する視点を養う。	メディア
		富山大学	理科内容B(一般化学)	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代の生活と化学とのかかわりを理解する視点を養うことが必須となる。この講義では、酸と塩基、酸化と還元、反応速度論について取り上げ、巨視的な現象を微視的な粒子の性質と変化の視点から捉え、身近な物質・現象と結びつけて理解する視点を養う。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	各大学	理科内容演習B I (化学)	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、基礎的な知識を応用し、課題を解決する化学的思考力が必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に含まれる内容(無機化学、物理化学等)に関して、具体的な現象の観察や課題に取り組みながら化学的思考力を養い、教員になるために必要な基礎知識とそれを応用する能力を身につける。	
			各大学	理科内容演習B II (化学)	学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、専門知識を深めることとその知識や情報を自ら獲得できる力を養うことが必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に関する専門知識や教材について、文献調査を行い、その内容を自ら理解、要約、説明する過程を通して、教員になるために必要な能力を身につける。	
			各大学	理科実験B I (化学)	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における化学分野の基本となる実験の指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、気体の発生とその性質の確認、滴定実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			各大学	理科実験B II (化学)	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における無機化学、物理化学、有機化学分野の実験指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、金属イオンの分析、分子量の測定、反応エンタルピーの測定、有機化合物の合成実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			富山大学	理科内容C (生物共通性概論と現代理科教育)	生物分野の理科先進的教育科目として、中学校・高等学校の理科教員に必要とされる生物共通性の基礎を身に付ける。具体的には、生命の化学、生物と細胞、細胞分裂と生物の成長、生物の殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、遺伝子発現、基礎的な生理学などについての科学的知見に関する理解を深め、現代理科教育の課題となる生命科学の基礎を身に付ける。	メディア
			金沢大学	理科内容C (生物多様性概論と現代理科教育)	生物分野の理科先進的教育科目として、中学校・高等学校の理科教員に必要とされる生物多様性の基礎を身に付ける。現代理科教育の課題となる生物進化についての基礎的な内容を理解したうえで、生物の構造と機能について学ぶ。具体的には、真核生物の多様性、植物の構造と機能、後生動物の多様性、脊椎動物の構造と機能、生物の生態、生物と環境などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア
			富山大学	理科内容C (ヒトの生物学)	中学校・高等学校の理科生物分野を教える上で必要となるヒトの生物学の各論について学ぶ。具体的には、特にヒトの体の調節機能(神経系による調節、内分泌系による調節、免疫系による調節)や、生物の体内環境の役割、生物と環境・環境応答の関係、生命に関する科学技術の諸問題などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	理科教育	金沢大学	理科内容C（一般生物学）	中学校・高等学校の理科生物分野を教える上で必要となる一般生物学の各論について学ぶ。具体的には、ダーウィンを中心とした進化学説、バクテリア・アーキア・真核生物の3ドメイン説、独立栄養生物の生理生態、陸上植物の系統と生理生態、従属栄養生物の生理生態、旧口動物の系統と生理生態、群集生態学、気候変動と生態系などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア
			各大学	理科内容演習C I（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要となる多様な生物の構造と機能に関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、ウイルスとバクテリアの生理学、単細胞生物の生理生態学、陸上植物の形態学と生態学、後生動物の形態学と生態学に関する文献から発表を行い討論する。	
			各大学	理科内容演習C II（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な生命の連続性および生物と環境の関わりに関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化、生物と環境、および自然環境の保全と科学技術の利用に関する文献から発表を行い討論する。	
			各大学	理科実験C I（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に植物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、植物野外調査と採集、植物実験・観察の方法、植物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、植物細胞・植物組織・植物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
			各大学	理科実験C II（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に動物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、動物野外調査と採集、動物実験・観察の方法、動物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、動物細胞・動物組織・動物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
			富山大学	理科内容D（地球環境科学概論と現代理科教育）	本講義では地学の基礎的な学習をとおして、将来学生が中学校・高等学校の教員になったときに、その授業のバックボーンとなる知識を習得することを目指す。具体的な内容として、大気の構造、海洋運動、地表の変化、堆積岩や地層、地質構造、自然災害について、その成り立ちやメカニズム、そこで起った諸現象について理解を深める。	メディア
			金沢大学	理科内容D（地球物質科学概論と現代理科教育）	中学校・高等学校の理科教員として必要な固体地球における物質科学の基礎を理解することを目指し、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる地球の内部構造や岩石・鉱物、および固体地球の変動メカニズムについての基礎的な内容を理解し、地殻の成因について学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
			富山大学	理科内容D（地球史学）	本講義では将来学生が中学校・高等学校の理科教員になったときに、それらの地学分野の内容のバックボーンとなる知識の習得を目指す。具体的な内容として、地球の歴史が何を証拠としてどのように科学的に復元されてきたかを詳しく解説することによって、歴史が興味深い科学の対象であることを理解するとともに、46億年にもおよぶ地球史の概要を知り、その中で人類に至る脊椎動物の進化史を学ぶ。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 理科教育	金沢大学	理科内容D（一般地学）	本講義では中学校・高等学校の理科教員として必要な天文学の基礎について理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる現代の宇宙像の概要（太陽系の構造と天体、恒星の特徴と進化、銀河系の構造、さまざまな銀河の存在と分布、宇宙の誕生と進化）や天文学の歴史（天動説と地動説、観測技術の変遷）について学ぶ。	メディア
	各大学	理科内容演習D I（地学）	地形や地質の野外観察や地学に関する演習問題等を解くことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（地形、地質、プレートテクトニクス等）に関する観察や課題に取り組み、地学的な考え方や見方を養う。具体的には、地形および地質の野外観察、ITCを活用した古地理の推定、ボーリングデータによる地質断面図の作成、地質図からの地球史の推定、プレートの運動速度の推定、練習問題地を使った地球史の復元などを行う。	
	各大学	理科内容演習D II（地学）	地学に関する課題に取り組むことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に関する単元の内容や教材について研究をする。その上で学生が地学分野に関するテーマを決めて課題設定をし、それらに取り組むことで、地学的な考え方や見方とともに教員としての資質を養う。	
	各大学	理科実験D I（地学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（地形、地層）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、地形図の基礎と読図（コンピュータの活用を含む）、測定の基礎、地質図の基礎と読図などについて学ぶ。	
	各大学	理科実験D II（地学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（気象、化石、岩石）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、身近な気象の観察（作業、データの整理と考察）、コンピュータを活用した自然災害学習、岩石の分類と標本の観察、岩石薄片の観察、化石の分類法、化石の抽出や観察などを行う。	
	金沢大学	理科教育法 I（石川県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた生徒の自然理解、指導技術、教材内容について理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、石川県の具体的な授業実践例を通して、その特徴や教育理念も理解するようにする。とくに、中学校・高等学校における理科の目標をもとに、基本的な知識・技能と生徒の自然認識の実態、主体的な学習のための課題設定、理科学習展開の工夫について、石川県の理科の教育実践も通しながら理解する。また、中学校・高等学校の理科のカリキュラムの構成や教材、情報機器の活用について具体的な授業実践例をもとに理解する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	金沢大学	理科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた授業計画と授業評価について理解するとともに、理科におけるマネジメントを理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、石川県の具体的な授業実践例を通して、理科の教材研究の工夫やSTEAM教育とSDGsに関わる教材の工夫についても理解するようにする。そして、具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。授業計画や模擬授業にあたっては、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のあり方、さらに、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	メディア
			富山大学	理科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領における目標と内容構成、指導計画、指導方法について理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、富山県の具体的な授業実践例を学び、その特徴や教育理念を理解するようにする。とくに、中学校・高等学校における理科の目標をもとに、理科において育成を目指す資質能力と生徒の実態、主体的な学習のための課題設定、授業展開についても理解を深める。また、中学校・高等学校のカリキュラムの構成や教材、情報機器の活用について、具体的な授業実践例をもとに理解する。	メディア
			富山大学	理科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた授業計画と授業評価について理解するとともに、理科におけるマネジメントを理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、富山県の具体的な授業実践例を学び、理科の教材研究の工夫やSTEAM教育、SDGsと関連付けた学習内容や授業展開の工夫についても学び、単元計画や学習指導案の作成する。作成した学習指導案に基づき模擬授業を実施し、学習の振り返りを行い授業改善にも取り組む。さらに、理科における情報機器の活用や事故防止、理科室の管理運営についても理解を深める。	メディア
			各大学	理科教育法Ⅴ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、具体的な理科の授業設計を行い、指導技術について習得することを目的としている。とくに、中学校・高等学校の理科の目標と指導のポイント、優れた理科授業の分析と指導技術、理科の教材研究例と授業実践について具体的な実践例をもとに理解する。また、主体的な理科学習のための課題設定や、情報機器の活用を含めた理科における対話的な学び、教科横断的な理科の授業について具体的な授業実践例から理解する。	
			各大学	理科教育法Ⅵ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、授業設計と模擬授業の実施を通して理科の指導技術について習得することを目的とする。指導計画については、単元計画、本時の指導案、評価基準、授業において用いるワークシートの作成など、具体的な教材を対象に行う。その際、物理分野、化学分野、生物分野、地学分野の内容を取り上げ、その内容の特徴を生かした模擬授業の実施と模擬授業の評価を行い、模擬授業を振り返ることによって、指導計画の改善案を作成する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	各大学	理科教育法Ⅶ	本授業では、教育実習をふりかえりながら理科の授業改善を行い、それにもとづく模擬授業を実施することにより理科の教材開発や指導技術を習得することを目的とする。とくに、教育実習の授業と指導案について再検討し、同じ授業について指導案を再度作成し議論する。その議論の結果を踏まえ、教材について検討し授業計画を立てて模擬授業を実施する。その際、単元計画と本時の指導案の作成と教材の検討、ワークシートの作成、情報機器活用を含む教具の準備と板書計画などを考慮するようにする。	
			各大学	理科教育法Ⅷ	本授業では、日本の理科カリキュラムの変遷や世界の理科カリキュラムを概観し、カリキュラムが時代的背景によって変化し指導法も変化してきたことを理解し、これからの理科の指導のあり方について検討することを目的とする。とくに、理科カリキュラムの構成要素にもとづき、昭和20年代の生活単元学習、昭和40年代の系統的学習、昭和50年代からのゆとりのカリキュラム、平成中期から令和にかけての現代のカリキュラムを取り上げ、その背景と特徴を理解する。その際、世界の理科カリキュラムとの比較、理科のカリキュラムマネジメントの考慮などについても取り上げる。	
			各大学	理科教育演習Ⅰ	本授業では、理科教育に関する研究資料やデータの分析をもとに、理科教育の研究方法について習得することを目的とする。とくに、理科の教材開発の方法について、教材開発の論文をもとに理解する。また、自然認識の調査分析の方法について、定性的分析や統計的手法を用いた定量的分析について研究論文をもとに理解する。さらに、理科授業の質的分析、量的分析の方法について理解するとともに、理科カリキュラムの分析方法について、歴史的分析や国際比較の分析について理解する。	
			各大学	理科教育演習Ⅱ	本授業では、理科教育に関する研究資料の分析とともに、教材開発の課題研究を通して理科教材の開発方法について習得することを目的としている。まず、教材開発の目的と意義の理解のもとに、任意の理科教材に着目し、その教材開発の先行研究について調べ、教材の意義や教材開発の方法について理解する。それをもとに、教材の設計、教材の作成を行い、教材の発表を通して改善し、改善した教材を用いた授業設計と模擬授業を行う。模擬授業を通して教材および教材を用いた授業展開の改善点を明らかにする。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	理科教育	金沢大学	理科教育実践研究Ⅰ (概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、授業実践のための基本的能力を修得する。 (オムニバス方式/全8回) (37 松原道男/1回, 2回) 理科カリキュラムの変遷について解説する。 (32 辻井宏之/3回, 4回) 理科物理領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (97 小松田(佐藤)沙也加/5回, 6回) 理科化学領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (25 川幡佳一/7回) 理科生物領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (28 酒寄淳史/8回) 理科地学領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。	オムニバス方式
			金沢大学	理科教育実践研究Ⅱ (概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、実際にカリキュラム(年間指導計画・単元の指導計画)を作成するときの視点や技術を修得する。 (オムニバス方式/全8回) (37 松原道男/1回, 2回) 理科指導計画の作成と実践について解説する。 (32 辻井宏之/3回) 理科物理領域カリキュラムの実践を学ぶ。 (97 小松田(佐藤)沙也加/4回) 理科化学領域カリキュラムの実践を学ぶ。 (25 川幡佳一/5回, 6回) 理科生物領域カリキュラムの実践を学ぶ。 (28 酒寄淳史/7回, 8回) 理科地学領域カリキュラムの実践を学ぶ。	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	金沢大学	理科教育実践研究Ⅲ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、授業実践のための応用的能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(37 松原道男／1回, 2回) 理科カリキュラムの構成要素について解説する。</p> <p>(32 辻井宏之／3回, 4回) 理科物理領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加／5回, 6回) 理科化学領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(25 川幡佳一／7回) 理科生物領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(28 酒寄淳史／8回) 理科地学領域カリキュラムの教材研究を行う。</p>	オムニバス方式
		金沢大学	理科教育実践研究Ⅳ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、様々な単元における実践的なカリキュラムを作成するときの視点や技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(37 松原道男／1回, 2回) 理科カリキュラムマネジメントについて解説する。</p> <p>(32 辻井宏之／3回) 理科物理領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加／4回) 理科化学領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(25 川幡佳一／5回, 6回) 理科生物領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(28 酒寄淳史／7回, 8回) 理科地学領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	音楽教育	金沢大学	ソルフエージュⅠ	<p>課題、宿題を通して初歩的なリズム感、聴音等の実践から始め、和声法学習へ結びつく音感を養う。また指揮法習得への初学段階をも担う。テキストには、Noel-Gallon "Vingt-cinq Lecons de Solfege" (初見視唱・視奏)、Noel-Gallon "Solfege Progressif" (聴音)をはじめ、海外のソルフエージュ教材を中心に扱い、リズムトレーニングやクレフの異なる楽譜を読む練習などを繰り返し行っていく。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	音楽教育	金沢大学	ソルフェージュⅡ	ソルフェージュⅠで向上させたソルフェージュ能力を実践的に生かしていく練習をする。読譜能力および演奏能力を支える音感、また、自身の不得意なソルフェージュ分野における能力の更なる向上をはかることを目指す。加えて、身につけた能力をコーディネートし、演奏実技に生かしていくことを目標とし、様々な編成（声を使った作品、ボディーパーカッションを用いた作品、打楽器を用いた作品など）のアンサンブル作品の演奏に取り組む。	
			金沢大学	歌唱法Ⅰ	声楽的な歌唱技術を身に付ける上での基礎的な知識と技能を習得することを目標とする。具体的にはコンコーネ50番の第1番から順番に取り組み、階名読みによる歌唱を基本として、正しい音程とリズムを保ちながらフレーズ感やアーティキュレーションに留意しながら歌うことができるようにする。歌詞を持たない練習曲をいかに音楽的に且つソルフェージュ的にも正しく歌唱できるように心掛ける。最終回には授業で学んだコンコーネの練習曲の中から任意の曲を課題曲に設定して試験を行い、評価を行う。	
			金沢大学	歌唱法Ⅱ	声楽的な歌唱技術を身に付ける上での基礎的な知識と技能を習得することを目標とする。具体的にはコンコーネ50番の第10番以降の楽曲に取り組み、階名読みによる歌唱を基本として、正しい音程とリズムを保ちながらフレーズ感やアーティキュレーションに留意しながら歌うことができるようにする。歌詞を持たない練習曲をいかに音楽的に且つソルフェージュ的にも正しく歌唱できるように心掛ける。最終回には授業で学んだコンコーネの練習曲の中から任意の曲を課題曲に設定して試験を行い、評価を行う。	
			金沢大学	歌唱法Ⅲ	声楽的な歌唱技術を生かして、古典イタリア歌曲の歌唱に取り組み。イタリア語が持つ言語的な特徴を活かしながら、より遠くに、より多くの人に届く発声技術と、積極的な表現力を身に付けることを目標とする。古典イタリア歌曲は声楽を志す者にとっての初歩的、基礎的な練習曲として日本の音楽教育及び芸術音楽の分野で取り上げられているが、これを声楽的また音楽的に歌うことは実は非常に難しい。上辺だけの習得に留まらず、正確な発音を伴いながら声楽的且つ音楽的に、またソルフェージュ的にも正確に歌えるようにすることを心掛ける。最終回には授業で取り組んだ楽曲の中から任意の曲を課題曲として試験を行い評価する。	
			金沢大学	歌唱法Ⅳ	声楽的な歌唱技術を生かして、古典イタリア歌曲と日本歌曲の歌唱に取り組み。日本語と外国語の発音や表現の違いを考察しながら、あらゆる言語を歌詞に持つ楽曲の歌唱と指導を行うことができるようになることを目標とする。特にイタリア語と日本語の母音の違いに留意しながら指導を行う。殊に「ウ」の母音は日本語と西洋の原語では決定的な深さの違いがあり、これを習得することが、声楽的技術を身に付ける上において最重要課題であることから、この点についてはより留意しながら日本歌曲もイタリア語の母音に近い深さを保ちながら歌えるようにすることを心掛ける。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	音楽 教育	金沢大学	アンサンブルⅠ（声楽）	教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。	
			金沢大学	アンサンブルⅡ（声楽）	教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。	
			金沢大学	アンサンブルⅢ（声楽）	教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。	
			金沢大学	日本の伝統的歌唱法	長唄の歌唱を通じて、日本の伝統的な歌唱技術を身に付けるとともに、それに不随する様々な作法を学び、日本古来の形や様式美を知ることによって、西洋音楽との違いや伝統文化の大切さを学ぶことを目標とする。長唄を歌唱する上での立ち居振る舞いや所作を身に付け、伝統的な歌唱を行う上での「形」を知ることによって、所作と歌唱技術の関係性に着眼しながら、日本古来の伝統的な歌唱の歴史的意義と存在意義を学び、それを音楽教育に如何に活かしていくべきかを考察する。	
			金沢大学	歌唱法演習Ⅰ	頭声発声を基調とした歌唱技術を身に付けるために、呼吸法と発声法を重点を置きながら、古典イタリア歌曲やトスティの歌曲を歌うことによって、技術力と表現力が融合された歌唱力を身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 音楽教育	金沢大学	歌唱法演習Ⅱ	<p>頭声発声を基調とした歌唱技術を身に付けるために、呼吸法と発声法を重点を置きながら、トスティの歌曲やモーツァルトのオペラ・アリアを歌うことによって、技術力と表現力が融合された歌唱力を身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。</p>	
	金沢大学	歌唱法演習Ⅲ	<p>頭声発声を基調とした歌唱技術をさらに発展させながら、ドイツ語やフランス語の歌曲にも取り組み、あらゆる言語に対応できるディクシオンを身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。</p>	
	金沢大学	歌唱法演習Ⅳ	<p>オペラアリアの歌唱に取り組みながら、舞台表現を念頭に置いた歌唱表現、発音、演技が出来るようになることを目指す。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。</p>	
	金沢大学	和楽器奏法	<p>三味線の演奏を通じて、日本の伝統的な演奏技術を身に付けるとともに、それに不随する様々な作法を学び、日本古来の形や様式美を知ることによって、西洋音楽との違いや伝統文化の大切さを学ぶことを目標とする。三味線を演奏する上での立ち居振る舞いや所作を身に付け、楽器としての取り扱いや手入れの仕方など、伝統的な演奏を行う上での「形」を知ることによって、所作と演奏技術の関係性に着眼しながら、日本古来の伝統的な奏法の歴史的意義と存在意義を学び、それを音楽教育に如何に活かしていくべきかを考察する。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法Ⅰ	<p>中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の基礎知識・技能の習得。スケール等の基礎的な演奏技術の習得。特に音階特有の運指を身につけ、それぞれのカデンツをスムーズに取れるよう、反復練習する。また、個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な基本的な技術を身につける。特にペダルの機能の知識を学び、その上での効果的なペダリングの使い方や、運指によってどのように弾きやすくなるか、といった効果的な選択方法、また表現技術の基礎を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	金沢大学	ピアノ奏法Ⅱ	<p>ピアノ奏法Ⅰに引き続きピアノ演奏表現の基礎を実践的に学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の基礎知識・技能の応用と発展。ピッシー、ツェルニー、クラーマービューロー、と言った指の訓練の練習曲、すでにある程度基礎を身につけている受講生にはブラームス、ショパン、リストなどのエチュードを実力に応じて与え、反復練習させる。さらに個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な応用的な技術を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法Ⅲ	<p>ピアノ奏法Ⅱに引き続き、中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を深める。ピアノ演奏表現の応用を実践的に学ぶ。バッハの平均律などを活用し、フーガの多声体の楽曲に取り組む。運指やペダリングが複雑となる多声体の楽曲の演奏技術を身につけ、表現技術の幅を広げる。基本的には受講生の実力によって、平均律曲集から3声～4声のフーガを選択させ、プレリュードとともに仕上げる。さらに個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な発展的な技術を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法Ⅳ	<p>ピアノ奏法Ⅲに引き続き中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を深める。これまで積み上げてきた演奏技術、表現技術を元に、ピアノ演奏表現の応用を発展的に学ぶ。受講生の実力によって、ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、と言った古典派の作品、またはショパンやシューマン、ブラームス、リストと言ったロマン派の作品から選択し、多彩な音色を奏でるために、どのような運指やペダリングが必要になるかを考察し、最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法演習Ⅰ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能をさらに深める。ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、と言った古典派の作品、ショパンやシューマン、ブラームス、リストと言ったロマン派の作品、ドビュッシーやラベル、ラフマニノフ、スクリャービン、プロコフィエフと言った近現代の作品まで、受講者の実力に応じて卒業研究で学ぶために、その準備段階として学ぶ作品を選ぶ。譜読み、運指、ペダリング、と言った演奏技術を段階的に行うのではなく、譜読みの段階から、今後の練習法や表現法といった課題を見据えられるように研究する。特に運指はなるべく初期段階での考察が必須となるため、重点的に行う。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法演習Ⅱ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を習得する。ピアノ奏法演習Ⅰで選択した作品を、発展的に考察する。運指やペダリングは効果的な練習を積み上げるためにも初期段階にある程度決定する必要があるが、演奏技術の習熟度や、音色の多彩さを感じられるようになると、練習しているうちに変化することは必然である。複数考えられる運指やペダリングからどれを選択するかを見極めるなど、自発的に考えられるように考察する。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	音楽教育	金沢大学	ピアノ奏法演習Ⅲ	ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を発展的に習得する。ピアノ奏法演習Ⅱで学んだ楽曲の演奏技術、表現技術を踏まえ、受講者の実力に応じて、バロック作品から近現代作品の中から学び、ピアノ作品に対する深い理解と演奏者のより高度な演奏表現を探究する。楽曲を音楽的に仕上げるためには、個々の音楽性だけでは実現できない。その作品に対する想いを表現するために、どのような演奏技術が必要となるかを、初期段階からしかも短時間で考えられるような能力を研く。	
		金沢大学	ピアノ奏法演習Ⅳ	ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を発展的に習得する。卒業研究に選んだ作品を中心に、時代の様式、作曲家固有の音楽様式を実践的に学び、演奏者固有の表現様式を研く。演奏家が存在する意義は、同じ作品でもそれぞれが、全く違う解釈を与えることにある。個々がそれぞれ異なる表現者であることを自覚し、選択した作品の歴史的な背景を調べ、過去のピアニストの演奏にはどのような特徴や個性的解釈がなされているかを研究し、個性のある演奏を表出することを目指す。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	
		金沢大学	アンサンブルⅣ(木管)	クラリネットを基礎から学ぶだけではなく、ソロ曲やアンサンブル曲を演奏し、クラリネットの演奏技術や、音楽表現などを学ぶ。そのために、吹奏楽の中心楽器となるクラリネットの楽器について、基本的な奏法から表現方法を段階的に取得していく。最終的にはピアノ伴奏に合わせたソロ演奏と、クラリネット重奏によるアンサンブル演奏を仕上げ、クラス内で発表する。テキストには、アメリカで好評を得ている「ラーン・トゥ・プレイ最新クラリネット教本Book 1 & 2」の日本語版を使用して進めていく。	
		金沢大学	アンサンブルⅤ(金管)	ハ長調を基準とする鍵盤楽器、弦楽器、声楽等と、変ロ長調、ヘ長調を基準とする金管楽器とを比較し金管楽器の特性と奏法を学ぶ。合わせて金管楽器の発達過程、歴史も学ぶ。大学の保有するトランペット、ホルン、トロンボーン、チューバを用い、それぞれの楽器の特徴や手入れの仕方などを知ることから始め、それぞれの楽器で基本音階を吹けるよう練習する。最後には、金管楽器による合奏にも取り組み、合奏を通してアンサンブルの基礎を学ぶ。	
		富山大学	アンサンブルⅥ(室内楽)	受講者同士でアンサンブルを組み、西洋古典から近現代による作品の演習を通して、各楽器の特性や楽曲の特徴などを捉え、音楽を多面的に理解する。演習では、他の科目で学習した個人の技能を基盤とし、アンサンブルを通して学校教育において必要とされる「協働」を体験的に学ぶ。同時に、発音等の仕組みが異なる楽器とのアンサンブルに取り組むことで、他の楽器の特性を捉え学校における音楽科授業等の指導につなげることを目指す。	
		富山大学	アンサンブルⅦ(室内楽)	受講者同士でアンサンブルを組み、室内楽曲の演習を通して音楽を多面的に理解し、合奏体における指導法の習得を目指す。他の合奏科目における学修を基盤とし、さらに高度なアンサンブルの実現を目指す。また、指揮法における基本的な動作を、アンサンブルを指揮することによりリアルに学び、同時に児童生徒を対象としたより適切な指導言を獲得できるようにする。講義の最後には成果発表を行い、学修成果の対外的な発信につとめる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 音楽教育	金沢大学	指揮法	読譜能力を高め、アンサンブルをまとめていく基礎能力を身につける。「指揮台に立つ前の仕事」と「指揮台の上での仕事」の2つに分類される指揮者の仕事について、初めて出会う作品を楽譜から理解する能力を養うこと、また基本的なバトンテクニックを習得し、演奏家に意図を伝えられる実践力を磨く。授業は、簡単なスコアリーディング訓練、バトンテクニックの基礎練習、そして、ロールプレイングによる指揮実践によって構成される。	
	金沢大学	音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む) I	音楽理論を学ぶ上で最低限必要となる音楽能力(楽典、ソルフェージュ)についてはそれらを完成させ、「和声学」の基礎を学ぶ。音楽指導者として必要不可欠な読譜能力を習得するため、和声法の基礎を学び楽曲におけるそれらの機能を理解することを目標とする。授業の内容としては、基本位置3和音の配置、連結から、和音設定の原理、各種の調、3和音の第一・第二転回位置の使い方などを学習していく。テキストには、音楽大学の副科和声の授業などに使われている「総合和声 実技・分析・原理」(音楽之友社)を用いる。	
	金沢大学	音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む) II	音楽理論を学ぶ上で最低限必要となる音楽能力(楽典、ソルフェージュ)についてはそれらを完成させ、「和声学」の基礎を学ぶ。音楽指導者として必要不可欠な読譜能力を習得するため、和声法の基礎を学び楽曲におけるそれらの機能を理解することを目標とする。授業の内容としては、V7, V9の和音、D諸和音の総括を学習し、実際の楽曲の和声分析についても学んでいく。テキストには、音楽大学の副科和声の授業などに使われている「総合和声 実技・分析・原理」(音楽之友社)を用いる。	
	金沢大学	音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む) III	I, IIに引き続き、和声法の基礎を学習する。実際の作品を分析し、学習した理論の実用例について学ぶ。授業の目標としては、理論の基礎を完成させること、楽曲分析などを通して、学んだ理論が実際の作品の中でどのような機能をもつのか理解できる力を養うこととしている。授業内容としては、属九の和音、D諸和音の総括、第2ドミナントの和音の学習をはじめ、ソプラノ課題を通して、借用和音や近親転調の使い方などを学んでいく。	
	金沢大学	音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む) IV	和声法の基礎を踏まえ、簡単な編曲や創作を行うこと、また実際の作品を分析し、学習した理論の実用例について学ぶことをテーマとする。授業の目標は、理論の基礎を完成させること、楽曲分析などを通して、学んだ理論が実際の作品の中でどのような機能をもつのか理解できる力を養うこととしている。授業内容としては、和声法の総括と二声対位法の基礎学習をはじめ、イタリア歌曲やピアノ・ソナタ、室内楽作品の楽曲分析に取り組む。	
	富山大学	音楽史 I (西洋音楽)	西洋の社会の中ではぐくまれてきた音楽文化を地中海世界、中世、近代に向けて概観しつつ、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につける。資料を通じての分析力・理解力とともに感性・感情といったコミュニケーションや自己理解や他者理解のスキルを発見し解決していくことを目標とする	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	音楽教育	富山大学 音楽史Ⅱ（西洋音楽）	近代以降のグローバル社会における音楽文化を作品や様式だけにとどまらず社会と歴史観を交えて概観する。視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけるとともに、資料を通じての分析力・理解力や感性・感情に左右されるコミュニケーションや自己理解や他者理解のスキルを発見し解決していくことを目標とする。	
			金沢大学 音楽史Ⅲ（日本及び世界の音楽）	この講義は、日本の音楽についての理解を深め、その歩みを辿ることにより、西洋の音楽とは違う体系を知ることが目標である。雅楽、仏教音楽、能楽、琵琶楽などを主に取り上げながら、講義だけでなく、三味線の実技を取り入れながら進めていく。日本の様々な音楽ジャンルに関する基本的な知識を身に付け、広い視野で「音楽」を捉えることができるようにする。	
			金沢大学 音楽史Ⅳ（日本及び世界の音楽）	この講義は、音楽史Ⅲに引き続き、日本の音楽についての理解を深め、その歩みを辿ることにより、西洋の音楽とは違う体系を知ることが目標である。歌舞伎、文楽、尺八楽を主に取り上げながら、講義だけでなく、三味線や長唄の実技を取り入れながら進めていく。日本の様々な音楽ジャンルに関する基本的な知識を身に付け、広い視野で「音楽」を捉えることができるようにする。	
			金沢大学 作曲（編曲を含む）演習Ⅰ	それまでに学習してきた理論を踏まえ、器楽独奏曲の作曲を試みる。既存の楽曲から学習した表現を模倣または引用しながら、自ら表現することの難しさと魅力を実体験することを目標とする。初めは、学生自身に最も馴染みのある楽器を選択し、独奏曲を作曲する。既成曲より、書法を学び取り、自作品の中での応用を試みる。楽器法の学習には、『管弦楽法 ウォルター・ピストン／戸田邦雄訳』など、比較的分かりやすい管弦楽法の教本を用いる。	
			金沢大学 作曲（編曲を含む）演習Ⅱ	それまでに学習してきた理論を踏まえ、歌曲の創作を試みる。既存の楽曲から学習した表現を模倣、引用しながら、自ら表現することの難しさと魅力を実体験することを目標とする。歌曲を作曲するにあたり、詩を深く読み解き、その詩の描く世界を音のイメージに置き換えていく作業を行う。完成した楽曲は、学内の発表会において自演により発表する。金田一春彦監修『新明解日本語アクセント辞典』などを用い、日本語の特徴も踏まえた上で日本歌曲の作曲に取り組む。	
			金沢大学 作曲（編曲を含む）演習Ⅲ	より高度な作曲（編曲）技法を習得する。作曲（編曲を含む）演習Ⅰと同様、既成作品の分析より実際の表現法を学び取り、それを自作の表現の中で生かすことを目標にする。作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅱをふまえ、二重奏以上の室内楽作品の分析を行い、自身の表現を見つけていく。完成作品は、学内外の発表会において、自演することにより発表する。楽器の特徴については、Samuel Adlerの『THE STUDY OF ORCHESTRATION』を用いて学習する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	金沢大学	作曲（編曲を含む）演習Ⅳ	より高度な作曲（編曲）技法を習得すること、作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅲと同様に、既成作品の分析から実際の表現法を学び取り、それを自作の表現の中で生かしていくことを目標にする。作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅲにおいて行ってきた作曲をふまえ、室内楽作品（ピアノと旋律楽器等の組み合わせ）を作曲する。完成作品は、学内外の発表会において発表することを目的とし、作曲意図を演奏で表現するという側面についても考え、学んでいく。	
	金沢大学	音楽科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	中学校・高等学校の学習指導要領を基に、中学校・高等学校音楽科における教科の目標、指導計画、指導内容、及び評価の方法について基礎的な知識について説明を行う。次に、「歌唱」「器楽」の分野の具体的な指導法を学ぶと共に、学習指導案の書き方について作業手順と評価基準の設定を含めて学ぶ。さらに金沢市内の中学校の授業参観も行い、指導力の基礎を培うことをめざす。	メディア
	金沢大学	音楽科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰの続きで、「創作」「鑑賞」の領域・分野の具体的な指導法を学ぶと共に、学習指導案を実際に書いてみる。次に、ICTを活用した授業づくり、日本の伝統音楽を扱う授業づくり、「総合的な学習の時間」と関連付けた授業づくりについて学ぶ。さらに金沢市内の県立高等学校の授業参観を行い、指導力の基礎を培うことをめざす。最後に、模擬授業に向けた準備を行う。	メディア
	富山大学	音楽科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰ・Ⅱの学修をもとにしたより実践的な指導計画について学習評価の面から考察し、模擬授業の実施につなげる。講義では、音楽科教育における基本的な用語や概念を把握したうえで、実際の授業場面を映像で視聴し、学習評価に関する理論を体験的に把握する。また、実際の学習計画に対応した評価計画を作成し、簡単な模擬授業とその後の省察を通して、評価計画等の妥当性を検証できる素地を身につけることを目指す。	メディア
	富山大学	音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰ・Ⅱの学修をもとにしたより実践的な指導計画について学習評価の面から考察し、模擬授業の実施につなげる。講義では、学習指導案を実践する上で必要となる教材や教具の開発を行い、模擬授業の実施とその後の省察によってそれらの有効性を検証と改善を行う。また、授業分析の理論と方法を学び、これからの教師に必要とされる省察のための基礎的な知識と技能を身につける。同時に、今後必要とされる授業改善の視点について、実際の授業を映像で視聴しながら検討する。	メディア
	金沢大学	音楽科教育法Ⅴ	音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を踏まえ、経験豊富な教師の授業実践を分析することにより、カリキュラムや授業の構想をしたり、学習指導案を作成する基礎力の養成をめざす。また、歌唱・合唱、器楽、創作、鑑賞、すべての領域・分野をまんべんなく取り上げ、教材研究や指導法の研究のやり方についても学ぶ。	
	金沢大学	音楽科教育法Ⅵ	音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を踏まえ、中学校・高等学校の音楽科の内容を対象に模擬授業を計画する。歌唱、合唱、器楽、創作、鑑賞、すべての領域・分野を対象に具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。学習指導案の作成では、具体的な教授行為まで計画する。その後、分析を行い、音楽科の授業設計や指導技術について考えることにする。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	音楽教育	金沢大学	音楽科教育法Ⅶ	音楽科教育研究の基本的な研究方法について理解し、その上で各自の研究課題に取り組むことにする。哲学的研究、心理学的研究、歴史学的研究、社会学的研究、民族学的研究、授業研究など、さまざまな研究の論文を講読し、研究討議を行う。それと並行して、各自の研究課題に取り組む準備と資料の収集を行う。	
		金沢大学	音楽科教育法Ⅷ	音楽科教育法Ⅶに引き続き、音楽科教育研究の基本的な研究方法について理解し、その上で各自の研究課題に取り組むようにする。さまざまな研究の論文を講読し、研究討議を行う。それと並行して、各自の研究課題に関する資料の収集を行い、研究論文をまとめる。	
	美術教育	金沢大学	絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	中学校、高校美術科の絵画分野の専門知識・技能を深める上で、「絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現含む）」における美術科題材を選定し、絵画制作の課題コンセプトを立案する。映像メディアを用いた課題制作と、現代美術表現における課題制作の実施を行う。映像作品やインスタレーションなどの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の可能性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		富山大学	絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	様々な描画材料を用いた実技課題に取り組みながら、絵画実技に関する基礎的な表現力・造形力を習得することを目的とする。絵画組成（支持体、各種絵具）の特性についても理解を深め、様々な画材を用い9つの提出課題作品の制作に取り組む。各課題提出と併せ、ミニ講評会の機会を持ち、作品分析・作品評論・作品評価についても検討する。	
		金沢大学	絵画Ⅰ	中学校、高校美術科の絵画分野の専門知識・技能を深める上で、絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、鉛筆や木炭を用いたデッサン、近世の絵画技法である水彩画、中世ヨーロッパに始まる油彩画を行う。デッサンや油彩画作品などの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の普遍性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		金沢大学	絵画Ⅱ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、中世絵画技法である、テンペラ画を学ぶ。また、版画表現では、中世ヨーロッパの銅版画を制作する。テンペラ画や版画などの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の多様性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		金沢大学	絵画Ⅲ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、中世絵画技法である、フレスコ画を学ぶ。また、デッサン・油彩画表現では、人体研究としてヌードモデルとした絵画を制作する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	金沢大学	絵画Ⅳ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、人体研究の応用として、ヌードモデルとした大作絵画を制作する。また、中世の版画技法である西洋木版画を学ぶことで、版画表現における多様性について考察する。課題講演会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
			金沢大学	彫刻基礎Ⅰ（現代美術表現を含む）	彫刻領域における最も基本的である塑造は、美術教師が必ず習得すべき技法と言っても過言ではない。本授業では、彫刻概説として彫刻の種類や技法の観点から、現代の彫刻表現から著名な作品を取り上げ概観する。次に、古代ローマ時代の石膏像の模刻を通して、彫刻の基本的な造形技術と人体の骨格や構造的な成り立ちを学習する。また、各授業の冒頭でテーマ別発表を行い彫刻に関する基本的な知識を習得する。	
			富山大学	彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）	彫刻分野での基本である塑造を蠟によって経験し、その成果物である塑像を恒久的形態として残すことの、歴史的・技法的意義を学習する。金属鑄造技法は多岐にわたり、知識を習得すると共に自身の経験するところからの造形意識の再確認を促す。見落とされがちな彫刻作品の鑄造過程を理解し、原形制作、鋳型制作と鑄造、仕上げまでの工程を実体験することでモノのあり方を再確認、再発見する。	
			金沢大学	彫刻Ⅰ	テラコッタの技法には数種あるが、それらの技法を紹介した上で実際の学校現場で頻繁に実施されている割り抜き法により作品制作を行う。対象は、彫刻基礎から引き続きモデルを使った頭像の制作を行うが、今回はポーズにわずかな動きを持たせることで、特に頭部と首の動き（ムーブマン）の表現に取り組む。粘土での造形後には、学校現場で生徒達の作品を焼成できるように焼成窯の使用法と温度管理を学ぶ。焼成後には、テラコッタ特有の彩色法を学習し、作品として完成させる。	
			金沢大学	彫刻Ⅱ	彫刻Ⅰまでの授業では塑造を中心に学習してきたが、本授業では彫塑のもう1つの技法であるカービングの制作を行う。特に我が国では木彫が盛んに制作されてきた。抵抗する物質を克服しその行為を通して表現技術を発見していく制作過程の中に、大きな教育的意義があると考えられる。すぐにリセットできないカービングの技法を現代の生徒達に経験させる必要がある。本授業では、木彫制作を通して同教材に対する理解を深め、具体的な指導・評価の方法を検討する。また、この授業では制作テーマとしてリアリズムを掲げる。学校現場でも本物そっくりにつくる立体教材は頻繁に実施されている。そのためにも、本制作を通して彫刻におけるリアリズムについて知識・理解を深めるとともに、カービングによる表現技能の向上を図る。	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	美術 教育	金沢大学 彫刻Ⅲ	本授業では、裸婦のモデルを通して塑造による全身像（二分の一等身）の制作を行う。その中で西洋彫刻における人体造形の基本的な構造について知識・理解を深めるとともに、これまで培った塑造技能をさらに高める。モデルのポーズはコントラポストを採用する。片足に重心をかけたこの立像のポーズは、身体全体にS字状の動きを生じさせる。これによって、ほぼ左右対称の人体の構造に、動きや筋肉の緊張、弛緩等の変化が生じるので、同ポーズは全身像を制作する上では最も基本的かつ一般的なものである。この制作を通して、彫刻の造形要素である、動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感、テクスチャー等に注目して制作を進める。	
			金沢大学 彫刻Ⅳ	彫刻制作研究Ⅰの授業から引き続き、等身大の裸婦像の制作に取り組む。本授業では、造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注目して制作を進めてきたが、まず第1回と2回の授業で、これらの表現ができてきているか確認する。次に、ポリウムと粘土のテクスチャーを意識する。そして、最終的に全体のバランスを考慮したディテールの表現にもこだわり、作品を完成させる。	
			金沢大学 デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	本授業では、目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える造形的な視点に基づき、デザインの基礎的表現について理解する。特に、文献研究や制作課題を通して、色彩の基礎的な知識や表現技能を身につけ、演習課題を通して基礎的な造形表現能力を養う。授業では、現代美術表現としてのデザイン領域の作品などの資料収集と発表を通して、デザイン分野の専門知識を深めるために必要な知識の獲得を求める。	
			富山大学 デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える造形的な視点に基づき、デザインの基礎的表現について理解する。加えて、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、幅広い学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。文献研究や制作課題を通して、デザインの基礎的表現の知識や表現技能を身につけ、演習課題を通して基礎的な造形表現能力を養う。	
			各大学 デザインⅠ	「デザイン基礎Ⅱ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザイン基礎Ⅱ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、平面デザインを学習する。	
			各大学 デザインⅡ	「デザインⅠ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅠ」までの学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、立体デザインを学習する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 美術教育	各大学	デザインⅢ	「デザインⅡ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅡ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、映像メディアデザインを学習する。	
	各大学	デザインⅣ	デザインと社会のかかわりを考え、演習課題を通して実践的にデザインの社会的責任や役割を理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅢ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・プレゼンテーションを行い、ソーシャルデザインの可能性を研究する。	
	金沢大学	工芸基礎Ⅰ	美術科の工芸分野に関する基礎知識・技能を理解し、金工（鍛金技法）の体験・作品制作により理解を深める。第1回～第2回において美術科教育における工芸の取扱いとその歴史を知り、美術科学習指導要領と美術科教科書より美術科の工芸分野のスコープとシークエンスを理解する。また、石川県における工芸を概論した後、一枚の鉄板を打出により形成する技法を生みだした山田宗美とその作品を知る。第3回～第13回において工芸技法の理解・習得として金工（鍛金）を取り上げ、銅板打出井鍋を製作し、第14回には制作した銅板打出井鍋を使用して親子井を調理・試食し、作品評価をおこなう。	
	富山大学	工芸基礎Ⅱ	美術科の工芸分野に関する基礎知識・技能を理解し、木工作品制作を通して材料や技法の理解を深める。伝統的な工芸品から現代の工業製品まで、生活の中にある工芸品について、素材や機能、技法、地域の違いによるそれぞれの価値について考える。陶芸作品や木工作品制作を通じて、素材特性や工芸技法の理解・習得する。	
	金沢大学	工芸論Ⅰ	日本の工芸の成り立ちと素材・技法を理解することを到達目標とし、日本の工芸が世界からどのように評価されているのかを知ると共に多種多様な素材と技法の分析と合わせて、作品を鑑賞することの楽しさを通じて、工芸の歴史や素材・技法などの基本的な知識を理解する。また、講義外における美術館や博物館での作品鑑賞やワークショップ参加を通じた手の感触や使い勝手の理解も図る。	
	金沢大学	工芸論Ⅱ	日本の工芸の現況を知り、作品の鑑賞を通して魅力を味わい、教育者としてこれらを伝えることができるようになることを到達目標とし、工芸論Ⅰでの工芸の歴史や素材・技法などの基本的な情報を踏まえて、日本の風土や文化的土壌の中で発展した工芸技術を、貴重な文化財として継承する意義を問うことで、日本の工芸が置かれている現状が、身近な社会的な問題とも、密接に関わっていることを理解する。	
	金沢大学	比較美術史Ⅰ（美術理論含む）	西洋中世のキリスト教美術を軸に、イメージとその典拠となるテキスト、中世美術と近代美術、西洋美術と東洋美術の比較を通じて、美術作品中の人物や場面を描く際の約束事を理解し、図像学の基礎を身につける。また図像の典拠となる聖書の記述と作品そのものを照応し、また同一主題の作品を比較することで、個々の作品の作者が観者に伝えようとしたメッセージを読み解くことができるようになる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	金沢大学	比較美術史Ⅱ（美術理論含む）	西洋中世美術を軸に、中世と近代、西洋と東洋の比較を通じて、美術における時間と視覚性の問題を論じる。作品の典拠となる「物語」には時間の経過が含まれることが常であるが、二次元画面において、物語の時間がいかに処理されるのかを学ぶ。後半では、西洋中世美術と、西洋近世美術、日本・東洋美術、写真などとの比較を通じて、描かれるモチーフが各時代・地域でどのように把握されて来たのかを理解する。	
	富山大学	日本美術史（美術理論含む）	日本美術史の通史として、先史・古代から中世、すなわち縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・安土桃山・江戸時代、また近代美術の流れを学ぶ。話しの流れの中で適宜、同時代に影響を受けた中国、朝鮮半島など東アジア、またヨーロッパの美術作品も取り上げていく。	
	富山大学	西洋美術史（美術理論含む）	古代から現代までの西洋美術史の展開を学び、作品鑑賞に必要な知識や見方を身につける。西洋美術の見方の基礎をおさえた上で、日本を含む東洋の美術史や美術作品との比較も取り入れながら、様式や作品のつながりと展開を多角的・有機的に構築していく。同時代の社会状況や政治状況、背景となる思想をふまえながら、社会の中での美術の役割について考える。	
	各大学	美術実地研究	<p>実際の美術作品を中心とした文化資源の現地調査を通して、美術科の授業における美術資源を活用した教材について考察する。国内の著名な美術作品を直に鑑賞するとともに事前調査の内容を発表することによって、文化史や美術史の理解と認識を深め、鑑賞領域の授業力の向上を目的とする。</p> <p>調査する美術館及び作品を学生自らが選択し、現地調査の計画を立てる。2泊3日で実際に調査に出向き、事前調査に基づく作品説明を行う。お互いの説明内容・方法を相互評価するとともに鑑賞した作品について意見交換をおこなう。最終的に事前調査及び現地調査に基づく作品解説の教材を作成する。</p>	
	金沢大学	美術科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	美術教育理論とその歴史、学習指導要領、生徒の造形表現における発達の理解、石川県の教育実践にもとづき、学習指導モデルと題材タイプを検討し、学習指導における指導言や基本的な情報機器などの教具のポイントを模擬授業（マイクロティーチング）により理解・習得する。第1回～第3回において美術科教育の理念と歴史を学び、美術科を教える信念を持つ。第4回～第6回において学習指導要領に示された美術科教育の基礎知識を学ぶ。そして、第7回～第8回において美術科における主体的・対話的で深い学びの実現にむけた指導言（説明・発問・指示・評価）の在り方や基本的な情報機器の使用方法を模擬授業（マイクロティーチング）も通じて学ぶ。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	金沢大学	美術科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	美術科における学習評価の基礎理論・方法を理解した上で、「学習指導モデルと題材タイプ」における「指導と評価の一体化」を図る学習評価の在り方とその方法を石川県の教育実践事例研究と模擬授業（マイクロティーチング）により理解・習得する。第1～第3回において美術科教育における学習評価の理論とその方法、学習評価の改善ポイントを石川県の教育実践事例などの検討により理解する。第4回～第5回ではテキストの事例研究により評価規準の設定とその方法や学習評価・成績評価への基本的な情報機器の活用方法を理解し、第6回～第8回においてはグループワークによって題材の学習目標・評価規準の設定など「指導と評価の計画」に基づく模擬授業（マイクロティーチング）により学びを深める。	メディア
			富山大学	美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	学習指導要領における「表現」において富山県の材料の使用を含む中学校の美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿った「表現」の授業について、学習指導案を立案しミニ模擬授業（ウェアラブルカメラ及びタブレット端末等のICT機器を活用した）を行うことで授業方法の専門知識・技術を深める。	メディア
			富山大学	美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	学習指導要領における「鑑賞」において県内の美術館所蔵作品の活用を含む中学校の美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿った「鑑賞」の授業及び「共通事項」を意識したミニ模擬授業（ウェアラブルカメラ及びタブレット端末等のICT機器を活用した）を行い、「表現」のデータと共に発話を中心に表計算ソフトで分析することで授業方法の専門知識・技術を深める。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	各大学	美術科教育法Ⅴ	<p>3年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにし、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の附属学校園での研究授業や教壇実習の記録ビデオ再生による授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/1回, 8回) 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回) 第2,5回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回) 第3,6回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回) 第4回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	美術科教育法Ⅵ	<p>「中等美術科教育法Ⅴ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用を検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回) 「中等美術科教育法Ⅴ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回) 模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	各大学	美術科教育法Ⅶ	<p>4年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにすることにより、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の実習協力校での研究授業や教壇実習を模擬授業形式で再現する授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/1回, 8回) 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回) 第2,5回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回) 第3,6回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回) 第4回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	美術科教育法Ⅷ	<p>「中等美術科教育法Ⅶ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用を検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回) 「中等美術科教育法Ⅶ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回) 模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	各大学	造形教育演習Ⅰ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために、まず研究テーマを設定し、章立てを構想し、先行研究を調べた上で、研究テーマの認再確をし、研究仮説の設定を行う。	
			各大学	造形教育演習Ⅱ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅰで設定した研究テーマに基づいた研究仮説にしたがって、研究に必要な調査計画を立案して実際に予備調査を行い、結果をまとめる。	
			各大学	造形教育演習Ⅲ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅱで行った予備調査のとりまとめの結果を踏まえて分析方法を確定し、本調査を行った上で分析結果を集約して結果をまとめ考察を行う。	
			各大学	造形教育演習Ⅳ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅲで行った調査結果を分析して導き出した結果に対する考察を踏まえた上で、論文の作成を行い、発表用レジュメやプレゼンテーションの作成を行う。	
		金沢大学	彫刻制作研究Ⅰ	本授業での制作は、彫刻基礎から学習してきた人体彫刻の集大成となるものである。モデルをじっくり観察して、これまで学んできた彫刻の造形要素を意識した人体表現に、自らの内面的な表現を込めて等身大の全身像に取り組む。本授業では特に造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注視して制作を進める。		
		金沢大学	彫刻制作研究Ⅱ	彫刻制作研究Ⅰの授業から引き続き、等身大の裸婦像の制作に取り組む。本授業では、造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注目して制作を進めてきたが、まず第1回と2回の授業で、これらの表現ができてきているか確認する。次に、ポリウムと粘土のテクスチャーを意識する。そして、最終的に全体のバランスを考慮したディテールの表現にもこだわり、作品を完成させる。		
		金沢大学	彫刻制作研究Ⅲ	第1回目にブロンズ鑄造の真土型、ガス型、蠟型等の技法について概略を学ぶ。第2回では蠟型の原型を制作する上で、蠟素材の加工法について実際に蠟素材を扱いながらその加工法を理解する。第三回目以降蠟原型の制作をし、鑄造工場でその蠟原型をブロンズに鑄こんでもらう。その後、鑄造工業の見学を兼ねて自作ブロンズ作品の着色を学ぶ。最後に作品に台座を設置し完成させる。		

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	美術教育	金沢大学	彫刻制作研究Ⅳ	この授業では、これまで学んできた彫刻に関する知識・技能、そして幅広い表現力を最大限に発揮し、卒業制作として作品を完成させることを目標とする。さらに、作品を制作するだけでなく、その作品を公に発表することでアートマネジメントについても理解を深める。さらに、中間発表や展覧会場でのギャラリートークを通して、自身の造形表現を自らの言葉でプレゼンテーションできることを目標とする。また、中学校、高校美術科の彫刻分野の専門知識・技能を深める上で、彫刻制作研究Ⅲまでの幅広い学習内容をもとに彫刻表現のさらなる可能性を追求する。	
		金沢大学	美術史研究Ⅰ	古典古代の美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。特に作品記述や様式についての理解を含め、美術作品を鑑賞する基礎的な力を養い、人体表現の変遷について理解する。	
		金沢大学	美術史研究Ⅱ	西欧初期中世とビザンティンの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。キリスト教美術の成立と普及、ビザンティン聖堂装飾プログラムについて理解する。	
		金沢大学	美術史研究Ⅲ	西洋後期中世（ロマネスク・ゴシック）と初期ルネサンスの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。中世とルネサンスの作品を比較して中世から近世にかけて人々の思考様式が変化したことを理解する。	
		金沢大学	美術史研究Ⅳ	盛期・後期ルネサンスと北方ルネサンスの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。三代巨匠の作品を軸に、ルネサンス美術が広大な美術に与えた影響を理解する。	
		金沢大学	絵画制作研究Ⅰ	本授業での制作は、絵画基礎で学習した絵画領域におけるさまざまな造形要素を深化させる、重要な取り組みである。制作研究において、これまで学んできた絵画の造形要素を意識した構図や構成について、ドローイングによるアプローチを行う。本授業では造形における基本的な要素として、特に空間表現に関するコンポジションに重点を置き制作を進める。	
		金沢大学	絵画制作研究Ⅱ	絵画制作研究Ⅰで取り組んだ、構図や構成に基づいたドローイングによるコンポジションに色彩を重ね合わせることで、より具体的な表現における色彩効果について試行する。本制作では、造形要素の色彩表現に取り組むことで、より絵画空間としての表現展開を行う。彩色方法もカラードローイングを用いることで、試行錯誤の中、作品としての表現方法を捉える。	
		金沢大学	絵画制作研究Ⅲ	絵画制作研究Ⅱに基づき、大作における本制作を行う。制作自体、支持体や色材媒体の特性に考慮しながら、画面全体や細部のバランスについて、描画によるレイヤーを重ねて進行させる。また、色材媒体のマチエールについても、単調にならないよう配慮し、空間や色彩表現に適合させる重要性についても、学びながら追求する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	美術教育	金沢大学	絵画制作研究Ⅳ	絵画制作研究Ⅳでは、絵画制作研究Ⅲで行った本制作を卒業制作作品として完成させる。完成後、自身による分析を行うことで、展覧会などの制作発表の場において、作品等のアピールに活かすことを目標とする。絵画領域での知識・技能・表現力を深め、学校教育での絵画分野の専門性を視野に入れた、幅広い学習内容を取得する。	
		金沢大学	デザイン制作研究Ⅰ	本授業では、デザイン基礎から学習してきたデザイン領域における制作を深化させる、重要な取り組みである。制作研究において、これまで学んできたデザインの制作で学んだ思考方法や表現を用いて、個々の課題解決に最適なアプローチを行う。本授業では特に発想や構想に重点を置き授業を進める。	
		金沢大学	デザイン制作研究Ⅱ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰで取り組んで得られた発想や構想を精査し、個々の課題解決に最適なアプローチを探索。特に表現方法の研究・実験に重点を置き、資料研究やさまざまな材料を用いて個々の表現のあり方を探る。	
		金沢大学	デザイン制作研究Ⅲ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰ・Ⅱで取り組んで得られた発想や構想、個々の課題解決に最適な表現方法を用いて実際に作品の制作を行う。特に展覧会場での最適な発表方法のあり方を探り、見る人に与える印象とそのねらいについて明確にした制作に取り組む。	
		金沢大学	デザイン制作研究Ⅳ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで取り組んで得られた諸要素を統合し作品を完成させる。完成後、プレゼンテーション、講評会、自己分析を通して、教員として必要となるデザイン領域のさらなる知識・技術・表現力を深める。	
	保健体育	各大学	体操Ⅰ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、体ほぐし運動を中心に実技形式で授業を行う。	
		各大学	体操Ⅱ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、用具を用いた運動を中心に実技形式で授業を行う。また、運動プログラムの発表も行う。	
		各大学	器械運動Ⅰ	器械運動の基本技能を身につけること、およびマット運動や平均台運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、マット運動（接転技群：前方、接転技群：後方、ほん転技群）、平均台運動（歩行、バランス、下り）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	各大学	器械運動Ⅱ	器械運動の基本技能を身につけること。跳び箱運動や鉄棒運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、跳び箱運動（切り返し系、回転系）、鉄棒運動（上がり技群、前方支持回転群、後方支持回転群、下り技群）などを実施する。器械運動の指導に必要なとなる技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	
		各大学	陸上Ⅰ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技に関する基礎理論を実践する。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
		各大学	陸上Ⅱ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技の応用的実践力を高める。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
		各大学	水泳Ⅰ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール及び平泳ぎの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
		各大学	水泳Ⅱ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
		金沢大学	武道AⅠ（剣道）	剣道の特性を理解し、剣道の基本技能の習得及び指導方法を習得することをねらいとする。 剣道の基本技能習得を目的として、竹刀、防具の特性や構造を理解し、使用や着用方法を学び、剣道の指導に必要なとなる基本的な動作や技（構えと足捌き、素振り、基本動作、基本打突、しかけ技、応じ技、互角稽古）の習得と指導方法について学習する。	
		金沢大学	武道AⅡ（柔道）	柔道の特性を理解し、柔道の基本技能の習得及び指導方法を習得することをねらいとする。 柔道の基本技能習得を目的として、柔道の文化（礼法や柔道着の取り扱い方法）や柔道の指導に必要なとなる基本的な動作や技（受け身、基本動作、体捌き、投げ技（膝車、支釣込足、大腰、背負投）、固め技）の習得と指導方法について学習する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	富山大学	武道B I (柔道)	本科目では柔道の基本技能を身につけるとともに、柔道の指導法を学ぶことを目的とする。武道BI (柔道) では、柔道の教育的価値や柔道に附随する傷害・事故発生時の対処法を理解することを導入とし、柔道の基本動作や基本的な投げ技、技を用いた攻防をかかり練習、約束練習、自由練習などによって学習する。また、それらの指導法を学ぶことで、安全で楽しい柔道授業の運営能力を身につける。	
		富山大学	武道B II (柔道)	本科目では柔道の基本技能を身につけるとともに、柔道の指導法を学ぶことを目的とする。武道BII (柔道) では、武道BI (柔道) で学習した基本的な投げ技の連絡技や基本的な抑え技、技を用いた攻防をかかり練習、約束練習、自由練習などによって学習する。また、それらの指導法や試合運営法、審判法についても学び、安全で楽しい柔道授業の運営能力を身につける。	
		各大学	ダンス I	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンス I では主に、創作ダンスとフォークダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
		各大学	ダンス II	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンス II では、主に現代的なリズムのダンスと創作ダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
		金沢大学	球技 (ゴール型) A I (サッカー)	ゴール型球技としてサッカーを取り上げる。サッカーは11人 (フットサルは5人) が協調的に関わり合うことが要求されるスポーツである。その一方で、試合の各局面では個人技術・戦術が全体の展開に影響を及ぼす競技でもある。本講では、サッカーの基本的な技術力の向上を目指しながら、サッカー競技の本質を理解し、楽しむことができることを目標とする。将来、教職 (中学校・高等学校保健体育教員) に就いた際、サッカーという教材を教育現場で活用できる技術や視点の獲得も目指す。	
		金沢大学	球技 (ゴール型) A II (サッカー)	ゴール型球技としてサッカーを取り上げる。サッカーは11人 (フットサルは5人) が協調的に関わり合うことが要求されるスポーツである。その一方で、試合の各局面では個人技術・戦術が全体の展開に影響を及ぼす競技でもある。本講では、サッカーの基本的な技術力を使いながら、自他の様々な特徴を活かし、コミュニケーションを図りながらゲームを進めていけるような戦術力の理解と向上を目指す。	
		富山大学	球技 (ゴール型) B I (バスケットボール)	基礎的な個人技術と3対3までの集団的戦術を習得し、その指導法を理解する。グループ学習を通じて、チーム内で助け合いながら協調性を高め、仲間とともに技術を高めていく姿勢、バスケットボールの指導の目的、生徒の発達段階に応じた指導法を理解し、実践できるようにする。また、ゲームの実践を通じて、バスケットボールのルールを理解し、基礎的な審判技術を習得する。さらに3対3のリーグ戦等の実践において、生徒たちが自主的に試合運営ができるようになるための留意事項を理解する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	富山大学	球技（ゴール型）B II（バスケットボール）	応用的な個人技術と5対5までの集団的戦術を習得し、その指導法を理解する。グループ学習を通じて、チーム内で助け合いながら協調性を高め、仲間とともに技術を高めていく姿勢、バスケットボールの指導の目的、生徒の発達段階に応じた指導法を理解し、実践できるようになる。また、ゲームの実践を通じて、バスケットボールのルールを理解し、基礎的な審判技術を習得する。さらに5対5のリーグ戦等の実践において、生徒たちが自主的に試合運営ができるようになるための留意事項を理解する。	
	金沢大学	球技（ネット型）A I（バレーボール）	バレーボールを教える側としての力量向上のため、受講者の技能の向上およびルール、戦術の理解を深めること目的とする。技能面では、パス・サーブ・レシーブ・スパイクの基本的技術を身につける。技術習得に際して多様な練習方法を体験し、技能向上と技能向上のための方法論について学習する。後半は、バレーボールのルール、戦術を理解し、指導に必要な知識を身につける。ルールの理解については、ルールの工夫によるバレーボールの多様な楽しみ方を体験する	
	金沢大学	球技（ネット型）A II（バレーボール）	バレーボールのゲームに必要なパス・サーブ・レシーブ・トス・スパイク・フォーメーションの基本的技術を身につける。バレーボールのゲームを進めるためには、ポジションごとの役割の理解、メンバー間のコミュニケーションが必要なので受講者間の相互作用を重視する。また、バレーボールは攻守の切り替えが早いスポーツで、主体的な判断が求められる。受講者の主体的判断、思考をいかに授業を進める。後半は、バレーボールのトレーニング方法を理解し、指導に必要な知識を身につける。	
	富山大学	球技（ネット型）B I（バレーボール）	バレーボールのゲーム特性の理解を通して、基礎技術の習得やゲームの楽しさを体験することをテーマとする。チームとして戦術を創出し、それを実現しようとする中で、意思の表示、伝達、協力、共感といったコミュニケーションや協働作業の必要性を理解し、バレーボールの楽しみ方を検討する。また、基礎技術は、個別の技術練習とゲーム練習を併せながら学習し、基本技術を連携させた応用技術では、守備からの攻撃や攻撃からの守備への切替えを学習する。バレーボールは、ポジション別にチームにおける役割が異なるため、役割を理解し、守備及び攻撃時におけるそれぞれの動きを学習することを目標とする。	
	富山大学	球技（ネット型）B II（テニス）	テニスは数多く存在するスポーツ種目の中でも特に、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が親しむことができる特性をもち、その基礎技術を習得し実践することは、個人の生涯スポーツ参加の一助となり得る。よって、本授業では、学習者個々のレベルに応じて、テニス技術を高めることを大きな目的とする。また、テニスの指導・普及という指導者の観点から、テニスの特性にふれ、練習・試合を工夫していく能力を養う。	
	各大学	球技（ベースボール型）I	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要なデモンストレーション能力を修得する。また、体育授業や指導現場で活用できる教授法や指導法の理論と実践を学修する。さらに、チームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通じた協同学修の価値・認識を深める。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	各大学	球技（ベースボール型）Ⅱ	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要な審判法や大会等の企画・運営方法を修得する。また、ベースボール型球技の具体的な教材事例を実践するとともに、指導計画案の作成から模擬授業・指導演習までを実施し、互いの成果と課題について省察を深める。	
		富山大学	スポーツ文化論Ⅰ	本講義は、スポーツに対して文化論的視点から講義を行う。特に、スポーツ文化論Ⅰでは歴史学的視点から近代に誕生したスポーツについて、その文化的背景を中心に講義したい。近代という時代は、それ以前の世界から大きな変容がなされたとされており、スポーツもまたそのような時代的背景のもとで形成された。そして、現代を生きる我々もまた、そのような近代という時代を経たうえで実践されているスポーツに慣れ親しんでいる。本講義では、スポーツが誕生したイギリスを含むヨーロッパと、我々が住む日本の、近代におけるスポーツについて理解を深めることを目指す。	メディア
		富山大学	スポーツ文化論Ⅱ	本講義は、スポーツに対して文化論的視点から講義を行う。特に、スポーツ文化論Ⅱでは文化人類学的視点からスポーツやわざ等の身体にまつわる文化を対象に、その文化的背景を中心に講義したい。スポーツとは、近代にイギリスを起点にヨーロッパやアメリカを中心に形成されたものとされる。しかし、当然のことながら世界は西洋社会のみによって形成されるものでなく、様々な文化において、スポーツに類似するような身体文化が存在している。本講義では、そのような身体文化を中心に文化人類学的視点を援用しながら、今日スポーツと呼ばれている実践を相対化するような視点を身につけることを目指す。	メディア
		富山大学	スポーツ心理学Ⅰ (最新教育課題を含む)	学校教育における体育、競技やレクリエーションとしてのスポーツ、健康・医療領域での運動習慣など、広義の身体活動への動機づけについて心理学の理論的背景から説明し、創造的で質の高い指導ができる運動指導者の育成を目指す。「身体的健康」、「精神的健康」、「社会的健康」の維持・促進に向けてスポーツ心理学がどのように役立つのかを学ぶ。	メディア
		富山大学	スポーツ心理学Ⅱ (最新教育課題を含む)	運動指導者は、学習者の運動行動を継続させるために、運動技能を効率よく習得させ、運動への有能感を高めさせることが求められる。学習者の「身体で覚える」営みを促進させるためには、運動技能を習得する過程の情報処理について理解を深めなければならない。この「運動学習」について、心理学の理論的背景を学びながら、創造的で質の高い指導ができる運動指導者の育成を目指す。	メディア
		富山大学	スポーツマネジメント論Ⅰ	スポーツ産業は成長を続け、スポーツから生まれる権益を販売する権利ビジネスも定着する傾向にある。これらの成長は、用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディア産業など多岐にわたっており、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）と密接に関連している。本授業ではスポーツの種類別経済活動（市場）、官民が進めるスポーツクラブの現状、スポーツと健康・医療、ツーリズムなど、具体例を挙げながら実践的スポーツマネジメントについて学び、地域社会との結び付きについて理解を深める。特に、スポーツ産業の全体構造の把握と接続領域（メディア、IT）など中心に学修する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	富山大学	スポーツマネジメント論Ⅱ	スポーツ産業は成長を続け、スポーツから生まれる権益を販売する権利ビジネスも定着する傾向にある。これらの成長は、用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディア産業など多岐にわたっており、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）と密接に関連している。本授業ではスポーツの種類別経済活動（市場）、官民が進めるスポーツクラブの現状、スポーツと健康・医療、ツーリズムなど、具体例を挙げながら実践的スポーツマネジメントについて学び、地域社会との結び付きについて理解を深める。特に、消費者行動論や組織経営論を背景にスポーツ事業の立案と展開を学修することを目標とする。	メディア
		富山大学	スポーツ社会学Ⅰ	現代社会におけるスポーツの役割は多様化している。政治や経済との関係性が強まるほど、スポーツの社会的意義を読み解く力が必要とされ、地域の実情を理解し、課題の構造を見極めることが求められている。本講義においては、現代社会におけるスポーツのさまざまな現象を社会学的視点からとらえ、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会学的見方と考え方を習得する。また、スポーツプロモーションの観点から自身とスポーツの関わり方、スポーツ集団と社会の望ましい在り方について検討する。	メディア
		富山大学	スポーツ社会学Ⅱ	現代社会におけるスポーツの役割は多様化している。政治や経済との関係性が強まるほど、スポーツの社会的意義を読み解く力が必要とされ、地域の実情を理解し、課題の構造を見極めることが求められている。本講義においては、現代社会におけるスポーツのさまざまな現象を社会学的視点からとらえ、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会学的見方と考え方を習得する。特に、国や地方公共団体等の政策及び社会的課題を理解し、社会・経済学的視点からスポーツとまちづくりの関係性などを検討する。	メディア
		富山大学	運動学概論（運動方法学を含む）Ⅰ	運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。運動指導の基本となる運動学習理論である「スポーツ運動学」について学ぶ。 本授業では特に、「運動技術」「運動技能」「運動構造」「達成力」「運動モルフォロジー」「運動ゲシュタルト」「運動の学習転移」などについての論理的に理解することを目的とする。	メディア
		富山大学	運動学概論（運動方法学を含む）Ⅱ	運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。運動指導の基本となる運動学習理論である「スポーツ運動学」について学ぶ。 本授業では特に、「学習位相論」「運動習熟」「運動の観察」「運動分析」「運動修正」などについての論理的に理解し、実践につながる知識として獲得することを目的とする。	メディア
		各大学	バイオメカニクスⅠ	バイオメカニクスの概要を理解し、基本運動を力学的観点から解釈する能力を身に付けることを目的とする。バイオメカニクスの基本的概念を概説し、骨、筋のバイオメカニクス、バイオメカニクスの原則や分析方法についてキネマティクス・キネティクスの観点から学習する。また、バイオメカニクスの観点から各種運動を理解するための基礎を習得する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	専門 科目	保健 体育	各大学	バイオメカニクスⅡ	バイオメカニクスの観点から各種基礎運動について理解し、解釈する能力を身に付けることを目的とする。各種基礎運動（立位姿勢、歩行動作、走行動作、跳躍動作、投動作、打動作、落下運動、滑る運動、泳動作、回転運動）について概説し、各種運動のバイオメカニクスの観点（キネマティクスの観点、キネティクスの観点、エネジェティクスの観点等）から運動を解釈する。	
			金沢大学	運動生理学Ⅰ（海外の先端事情を含む）	中学校や高等学校の指導要領を考慮しながら、生理学的な基礎知識の学習を通して、日頃のスポーツ活動やトレーニングの場面における身体の反応現象や適応現象について考察できるようになる。さらに、保健体育・スポーツの指導者として身体的安全面に配慮できるような基礎的知識を獲得する。主な内容として、骨や筋の構造、筋の収縮特性、運動と筋ATP代謝、運動時のホルモン分泌の他、海外の先端的研究動向等について講述する。	メディア
			金沢大学	運動生理学Ⅱ（海外の先端事情を含む）	中学校や高等学校の指導要領を考慮しながら、生理学的な基礎知識の学習を通して、日頃のスポーツ活動やトレーニングの場面における身体の反応現象や適応現象について考察できるようになる。さらに、保健体育・スポーツの指導者として身体的安全面に配慮できるような基礎的知識を獲得する。主な内容として、運動と呼吸・心循環、運動時のホルモン分泌、運動と骨代謝、運動による酸化ストレス応答の他、海外の先端的研究動向等について講述する。	メディア
			金沢大学	衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生における集団に対する健康の考え方、健康問題に対する疫学的な考え方と公衆衛生学的アプローチ、集団の健康問題を抽出するための資料としての衛生統計（人口生体統計、人口動態統計など）の活用の仕方、生活習慣と病気の関係やその予防について学習する。そのために、悪性新西武とその予防、循環器系疾患とその予防、公衆衛生的な立場から見た感染症とその予防などについて取り上げる。	メディア
			金沢大学	衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	衛生・公衆衛生学的な観点から、健康を支える社会制度、ライフステージ特有の健康課題（高齢期、小児期、壮年期など）、障害の考え方、食環境や生活環境など様々な環境や環境問題と健康の関係、地球規模での健康問題に対する世界的な取り組み（社会保障制度、医療保障制度、障がい者福祉、および環境保健と国際保健など）など、日常生活や社会と健康の関係について学習する。	メディア
			金沢大学	学校保健Ⅰ（教科横断で取り組む学校保健）	学校における保健活動（すなわち保健教育、保健管理、環境衛生の諸問題）について、教科横断で取り組む視点を踏まえ、児童生徒の健全な発育・発達という観点から総合的に考察する。また、各論として食育の推進（学校給食を含む）、健康観察と健康相談、健康診断、学校で予防すべき感染症、精神の健康、学校環境衛生などを取り上げる。	メディア
			金沢大学	学校保健Ⅱ（教科横断で取り組む学校保健）	学校保健では、学校における保健教育についての基礎的な理解を持つとともに、子どもや教職員の健康を「守り」、「育て」、そして「教える」ための目標設定や内容の検討、実施計画・評価について一定の見通しが持てるようになること、そして学校保健を教科横断的に進めるための基礎的理解を行う。その際、喫煙飲酒、薬物乱用の防止、がん教育、性に関する指導、安全教育などを取り上げ、模擬授業形式も行いながら進める。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	富山大学	発育発達Ⅰ	幼少期から思春期を経て成人に至るまでの発育発達の過程について、形態や機能、生活習慣や体力、子供を取り巻く環境から検討し、基本的知識・理解の獲得を目標としている。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、運動・スポーツによる健康づくりに必要な発育発達の指導・支援方法の専門性の獲得をめざす。	メディア
		富山大学	発育発達Ⅱ	①発育発達期に多いケガや病気について、②成人以降の加齢に伴う体力の低下をはじめとする人体の老化と運動・スポーツとの関連、③女性の運動・スポーツについて、基本的知識・理解の獲得を目標としている。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、運動・スポーツによる健康づくりに必要な発育発達の指導・支援方法の専門性の獲得をめざす。	メディア
		金沢大学	保健体育科教育法Ⅰ (石川県の教育実践を含む)	保健科教育における目標、内容、方法及び評価について理解すると共に、授業計画のプロセス、授業・教材づくりのポイントと教師の指導性について、石川県の保健体育科の実践も踏まえて学習する。また、学習指導要領で取り扱われる内容について「心身機能の発達と心の健康」「障害の防止」「環境と健康」「疾病の予防」などを取り上げ、それらの指導法について解説する。	メディア
		金沢大学	保健体育科教育法Ⅱ (石川県の教育実践を含む)	保健科教育の目標、内容、方法を中学校・高等学校学習指導要領、解説編をもとに解説する。また、学習指導要領で取り扱われる内容について、生に関する指導の内容をはじめ、性感染症とその予防、喫煙、飲酒、薬物乱用の防止、などを具体例として、実際の授業づくりでの課題、石川県での実践の現状と課題について理解を深める。	メディア
		富山大学	保健体育科教育法Ⅲ (富山県の教育実践を含む)	保健体育科の体育分野のひとつである器械運動の領域を対象として、背景となる学習理論の理解や学問領域との関係の理解、個別の学習内容について指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解をとおして授業に活用することができるようになる。本授業では、マット運動・鉄棒運動について取り扱う。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができるようになる。また、富山県の教育事情を鑑みながら、保健体育科教員となるためにアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりについて学習する。	メディア
		富山大学	保健体育科教育法Ⅳ (富山県の教育実践を含む)	保健体育科の体育分野のひとつである器械運動の領域を対象として、背景となる学習理論の理解や学問領域との関係の理解、個別の学習内容について指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解をとおして授業に活用することができるようになる。本授業では、平均台運動、とび箱運動を取り扱う。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができるようになる。また、富山県の教育事情を鑑みながら、保健体育科教員となるためにアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりについて学習する。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	金沢大学 保健体育科教育法Ⅴ	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示されたの学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。中等教育学校の保健体育科教員として学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を身につける。また、生徒の実態に合わせた効果的な指導の在り方について、グループワークに取り組みながら理解を深める。	メディア
			金沢大学 保健体育科教育法Ⅵ	中等教育学校の保健体育科教員として学習指導を担当する際に必要となる実践的な知識を身につける。保健体育科の計画、学習評価などに関する実践的知識を身につける。具体的には、生徒同士の相互作用の形態（学習形態）と生徒の学びに焦点をあて、体育における対話的な学びについて検討する。異質な他者との相互作用による運動・スポーツの楽しみの享受はいかにして可能になるのか。生徒の実態に合わせた効果的な指導について、グループワークに取り組みながら理解を深めていく。	メディア
			富山大学 保健体育科教育法Ⅶ	本科目は、保健体育科教育法を学習する最終年度の科目である。本科目では、教育課程の観点から、保健体育科教育における重点教材、運動部活動の学習指導、健康教育の授業づくりについて探究することを通して、発展的な学習内容や方法を理解する。上述の観点についての講義をふまえ、各自で授業計画を作成し、相互交流・発表を実施することで、授業づくりの力量形成をめざす。	メディア
			富山大学 保健体育科教育法Ⅷ	本科目は、保健体育科教育法を学習する最終年度の科目である。本科目では、スポーツ文化を学ぶ体育授業づくりや共生社会にむけた体育授業づくりを探究することを通して、保健体育科教育における教材研究（教科内容研究）の方法や発展的な学習内容や方法を理解する。上述の観点についての講義をふまえ、各自で授業計画を作成し、相互交流・発表を実施することで、授業づくりの力量形成をめざす。	メディア
			富山大学 コーチング論Ⅰ	（概要） スポーツの価値を高めるための時代をリードするコーチング（プレーヤーの目標達成に向け、プレーヤーの有能さと人間性を高めていく支援を行っていくプロセス）について正しく理解する。特に、コーチの役割やスポーツのインテグリティ、組織運営について学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （4 大川信行／1回，2回） スポーツの意義や価値、スポーツ権について概説する。 （50 佐伯聡史／3回，4回，5回） コーチングに必要な知識やスキルなどを体系的に説明し、コーチに求められる役割について学ぶ。 （48 神野賢治／6回，7回，8回） コーチングにおけるインテグリティやスポーツ組織のマネジメントについて説明し、公平性のあるスポーツ環境の構築について学ぶ。	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	富山大学	コーチング論Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>スポーツの価値を高めるための時代をリードするコーチング（プレーヤーの目標達成に向け、プレーヤーの有能さと人間性を高めていく支援を行っていくプロセス）について正しく理解する。特に、コーチに求められる医学的知識について心理学や栄養学、トレーニング論から理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(50 佐伯聡史／1回, 2回)</p> <p>スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について説明し、理解を深める。</p> <p>(56 福島洋樹／3回, 4回, 5回)</p> <p>体力・スキル・心のトレーニングについて基本的な考え方と方法論を説明し、理解を深める。</p> <p>(92 澤聡美／6回, 7回, 8回)</p> <p>スポーツと栄養、アンチドーピングやスポーツに関する医学的知識について説明し、理解を深める。</p>	オムニバス方式
			金沢大学	バイオメカニクス演習A	<p>バイオメカニクスの基本概念を理解し、運動を力学的に解釈すること、バイオメカニクスの研究で用いられる力学や数学の基礎を理解し、利用できる能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>バイオメカニクスの基本概念を理解することを目的として、基本的な知識の確認と各種運動のバイオメカニクスの解釈を行う。</p> <p>力学や数学の基礎を理解することを目的として、基本的な幾何学や力学を学習し、バイオメカニクスの分析で用いる方法を習得する。</p>	
			金沢大学	バイオメカニクス演習B	<p>バイオメカニクスの研究で用いられる研究方法の基礎を理解し、利用できる能力を身に付けること、バイオメカニクスの研究で用いられる研究方法の基礎を理解し、実際に測定及びデータ処理を実施する能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p> <p>研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析やデータ算出を演習を通して実施することで、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p>	
			金沢大学	バイオメカニクス演習C	<p>バイオメカニクスの研究で用いられる三次元動作分析方法の基礎を理解し、利用できる能力を身に付けること、バイオメカニクスに関わる研究論文の作成方法について学習することを目的とする。</p> <p>三次元動作の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p> <p>研究論文作成のために先行研究の収集、整理、解釈、検討し、研究課題を設定する。また、予備実験について準備し、測定方法の妥当性について検討する。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	金沢大学	バイオメカニクス演習D	各種データ処理、分析、算出を行い、算出データの妥当性の確認し、データを解釈できる能力を身に付けること、論文の構成及びそれぞれの内容、記述方法について理解し、実際に記述する能力を身に付けることを目的とする。 データの処理や解釈する能力を身に付けることを目的として、データ処理、分析、算出を行い、それぞれの段階でのデータを確認し、その後、算出したデータを基に運動を理解する。 論文の構成や記述について理解することを目的として、バイオメカニクス領域での研究論文の構成、記述方法について学習する。各構成要素の内容、記述方法について説明し、記述できる能力を身に付ける。	
		金沢大学	運動生理学演習A	動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探るとともに、そこで用いられている運動生理学や生化学的手法やそれによる結果の解釈についての議論を通じて、スポーツ科学や健康科学で示される知見を正しく理解できるよう学修する。	
		金沢大学	運動生理学演習B	運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探るとともに、そこで用いられている運動生理学や生化学的手法の具体的な方法について詳細に学習・実習する。それらの学習・実習を通じて、スポーツ科学や健康科学に関する様々なデータの取得方法を学修する。	
		金沢大学	運動生理学演習C	運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探り、その課題に対する解決の糸口となるデータの取得を試み、その結果の是非について議論する。こうした演習を通じて、仮説検証の実際について学修する。	
		金沢大学	運動生理学演習D	運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探り、その課題の解決の糸口となるデータの取得を試みる。仮説検証した結果と解釈（結果の是非）に関して、レポートでのまとめ方やプレゼンテーションによって効果的に伝える技術や方法について学修する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	保健体育	金沢大学	学校保健演習 A	学校保健に関する基本概念を理解することを目的として、基本的な知識の確認と学校保健活動の実際について考察を行う。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		金沢大学	学校保健演習 B	学校保健に関する基礎を理解することを目的として、保健管理や保健教育で用いる指導方法等を考察する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		金沢大学	学校保健演習 C	研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、学校保健分野での研究での利用方法を習得する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		金沢大学	学校保健演習 D	研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析やデータ算出を演習を通して実施することで、学校保健分野の研究での利用方法を習得する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		金沢大学	保健体育科教育演習 A	保健体育科教育において生徒の豊かなスポーツライフを保証するための資質・能力の育成が喫緊の課題となっている。本科目では、先進的な体育授業実践に関する書籍・論文を講読し、体育科教育学の観点から成果と課題を整理する。具体的には、先進的な体育実践の探索、体育科教育学の文献検索方法、先進実践の成果と課題の整理の仕方について学習する。	
		金沢大学	保健体育科教育演習 B	生徒の豊かなスポーツライフを保証するための資質・能力の育成の場として体育授業がある。体育授業をよりよいものにしていくためには、体育授業を観察し、成果や課題を評価する力量が求められる。本科目は、体育授業の観察・評価法を学習し、体育授業を観察・評価する方法を習得する。これを通じて、体育授業の観察・評価する能力を育成する。	
		金沢大学	保健体育科教育演習 C	体育科教育学の研究領域は、目標論、内容論、指導論、子ども理解、学習集団論、教材づくり論等、多岐にわたる。本科目は、保健体育科教育演習A, Bを基礎に、現代の体育授業を体育科教育学の観点から検討し、受講者自身が体育科教育に関する研究テーマを設定する。これを通じて、体育授業を研究的課題として立論する力量を育成する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	金沢大学	保健体育科教育演習D	保健体育科教育に関する研究課題を解決する研究手法は、観察やインタビュー、質問紙調査法等、多岐にわたる。研究課題の解明には、適切な研究方法が採用されなければならない。本科目は、体育科教育学に関する先行研究および研究方法論に関する先行研究を講読し、体育科教育研究に関する研究方法を学習する。それを通じて、設定したテーマに即した研究方法について検討する。	
		金沢大学	家政学原論	家庭科教育の学問的基盤である「家政学」について理解し、中学校・高等学校で学ぶ家庭科の位置づけを明確にすることを授業目標とする。本授業では、実際に過去の家政学書を目にしなが、日本やアメリカの家政学について知見を得た上で家政学の学問体系を系統的に理解する。さらに、ディスカッションなども取り入れながら、家庭生活の変化、家政学における「生活」、家政学の独自性、および家政学の社会的役割の理解を深める。	メディア
	金沢大学	家庭経営学Ⅰ（家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む）	家庭経営（家庭経済学を含む）の基礎理論の習得とともに現代の消費者市民社会の形成を目指し、実践に生かす力を身につけることを授業目標とする。中学校・高等学校の家庭科の教科書で取り上げられている内容を中心に、現代の家庭経営、社会経済情勢や地球環境に関わる諸課題を、具体的・日常的な問題として取り上げ、課題解決型の視点で検討する。	メディア	
	金沢大学	家庭経営学Ⅱ	家庭経営分野の基礎理論を実践に生かす力も身につけることが望まれる。中学校・高等学校家庭科の家庭経営学分野の基礎知識・技能を身につけることを授業目標とする。授業では、中学校・高等学校家庭科の家庭経営学領域での学習内容に関する理解を深めるため、家庭経営学の基礎理論を学ぶとともに、現代社会における家庭経営の諸課題を取り上げ検討する。	メディア	
	金沢大学	家族関係学（多様な家族と家庭科教育）	中学校・高等学校の家庭科教育で求められる家族関係領域の基礎知識を身につけ、多角的に家族や家庭を捉えながら、地域社会および世界の中での現代家族の多様性についての理解することを授業目標とする。授業では、現代社会の中で課題となっている多様な家族についての問題を取り上げながら、生涯を見通して「家族の在り方」について考え、中学校・高等学校家庭科教育で扱う家族関係領域の学習内容を検討する。	メディア	
	金沢大学	家庭経営学演習Ⅰ	中学校・高等学校家庭科における家庭経営学領域を中心とした学習内容・指導方法を検討するために、家庭経営学の研究方法の基礎を習得することを授業目標とする。本授業では、家庭科・家庭経営学領域の知識の習得および指導に関して研究を進めるため、研究課題の設定や、調査の方法など、研究方法の基礎を学ぶ。また、予備調査の実習なども行う。	メディア	
	金沢大学	家庭経営学演習Ⅱ	中学校および高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を深めることを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰの知識・技術を踏まえて家庭科・家庭経営学領域のさらなる知識の習得および指導に関して研究を進める。はじめに、家庭経営学に関する文献を講読し、内容の理解を深めるためのグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。その上で検討結果を省察し、家庭科教育における家庭経営学領域への展開について検討する。	メディア	
	家政教育				

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 家政教育	金沢大学	被服学概論Ⅰ(現代の衣生活の諸問題を含む)	全受講者が衣服の分類およびデザインに関する知識を習得し、衣服の選択方法について多角的に教育現場で展開できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣服の分類、形状およびサイズについて映像や様々な型紙を提示して解説する。さらに、衣服の安全性および快適性について説明し、着用目的、健康、安全、環境および現代の衣生活における諸問題に配慮した適切な衣服の選択方法を検討する。	メディア
	金沢大学	被服学概論Ⅱ	衣服素材の特性および汚れの付着と除去に関する基礎知識を修得し、管理の仕方を検討できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣服素材の種類、構造、一般物性および製造工程について紹介する。そして、汚れの付着と除去のメカニズム、衣服の劣化に対する修繕法を、映像を用いて解説する。これらの基礎知識を活用し、環境へ配慮した衣生活の送り方を衣服の管理の観点から検討する。	メディア
	金沢大学	被服構成実習	衣服の素材、構成、製作方法と着装方法を理解し、学校教育で被服製作実習に関する授業が展開できるようになることを授業目標とする。被服製作に必要な材料、用具、採寸、製作および評価を系統的に行い、衣服製作に必要とされる知識と技術を獲得する。また、洋服(立体構成)と和服(平面構成)の違いについて、素材、用具、構成、製作方法、着装方法、管理方法を比較しながら理解を深める。	
	金沢大学	被服科学実験	実験を通して衣服とその素材の製造工程および物性評価を行うことにより系統的に理解し、実験結果のまとめ方、見せ方および議論の方法の修得を授業目標とする。衣生活について考える上で、衣服の性能とそれを構成する布、糸、繊維の物性について実験を通して理解することは重要である。本授業では、衣服素材の試作および評価試験を行う。さらに、得られた結果については表計算ソフトを用いてまとめ、グラフ化した上で議論する。	
	金沢大学	被服学演習Ⅰ	衣生活の実態と課題を調査によって明らかにし、衣生活に関する文献、デジタルコンテンツおよびアンケートの調査方法、読解方法および解析方法を修得することを授業目標とする。本授業では、学校教育における衣生活の実態と解決すべき課題について、文献やデジタルコンテンツの調査およびアンケート調査の実施により探求する。そして、調査結果を集計・解析することにより実態と課題を明らかにし、検討課題の解決法を模索する。	メディア
	金沢大学	被服学演習Ⅱ	被服に関する簡易的な実験を展開できるよう、そのための文献調査方法、実験計画、実験装置の試作方法および実験結果のまとめ方を修得することを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた実験計画や簡易実験装置を工夫しながら作成する。さらに、試作装置を用いて測定を行い、その結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	富山大学	食物学概論Ⅰ(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む)	<p>本授業では、栄養の概念、各栄養素の種類、体内での働き、消化吸収といった栄養学の基本的な事項について講義し、家庭科教員として必要となる栄養に関する基礎知識を習得する。また、このような基礎知識を踏まえたうえ、現代の栄養課題についても解説する。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 各栄養素の栄養学的役割について説明できる。 (2) 食べ物の消化吸収の概要について説明できる。 (3) 現代の栄養課題を知り、栄養に関する基礎知識の理解を深める。</p>	メディア
		富山大学	食物学概論Ⅱ(栄養学、食品学を含む)	<p>本授業では、食品の分類や成分の特徴、食品群と栄養学的特徴、調理の際に起こる食品成分変化などについて、身近な植物性・動物性食品を取り上げながら解説し、家庭科教員として必要となる食品に関する基礎知識を習得する。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 食品の機能性と分類について説明できる。 (2) 身近な食品の成分とその特徴について説明できる。 (3) 調理による成分変化について科学的な視点から捉えることができる。</p>	メディア
		富山大学	食物学	<p>本授業では、中学校・高等学校家庭科の食物領域に関連する内容を、安全面(食に起因する健康被害、食品の安全性確保、食品の表示と選択)、環境面(食生活と環境負荷、社会・家庭環境と食生活)、栄養面(食事計画、主菜・主菜・副菜の揃った食事)といった視点から食生活の営みに関連する事項について解説する。このような視点を踏まえ、自身の食生活を振り返り、望ましい食生活のあり方を主体的に考える態度を養うことを目的とする。</p>	メディア
		富山大学	調理実習(地域の食文化比較を含む)	<p>本授業では、基本的な調理操作と食品の扱い方について、身近な食材を用いた実験や日常食の調理実習を通して実践的に学び、家庭科教員として必要となる調理と加工に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、地域の食文化についても触れる。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 基本的な調理法を理解し、調理による成分変化をふまえた調理操作ができる。 (2) 衛生面、安全面、環境面に配慮して食品を扱い、調理することができる。 (3) 栄養バランスの良い食事についての理解を深める。</p>	
		富山大学	食物学演習Ⅰ	<p>本授業では、健康と栄養の歴史を概観した後、日本人の栄養摂取の状況、疾病との関わり、糖質や食物繊維等食品成分の役割など食物栄養領域に関連する事項を取り上げ、それらについての情報(統計資料や文献など)を収集し、収集したデータを客観的に観察し、的確に捉えて発表する能力を養うことを目的とする。発表者は、収集した情報(統計資料や文献など)をもとに内容を整理し、データの意味を考え、発表資料を作成して授業に参加する。</p>	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	富山大学	食物学演習Ⅱ	本授業は、食物学演習Ⅰを履修していることを踏まえて進める。食物栄養領域の学術論文の講読、発表、討論を通して、この分野の知見を広め、健全な食生活のあり方について多角的な視点から捉え、評価する能力を養うことを目的とする。授業は近年の食物栄養領域の学術論文を題材とし、輪講形式で行う。発表者は事前に学術論文を読み、内容を理解した上で、発表の準備を十分に行い、作成した資料を用いて発表を行う。発表後は受講生全員が積極的に討論に参加する。	メディア
	富山大学	住居学概論Ⅰ	住居に関する基本的知識や技能を習得することを目標とする。特に、季節の変化に合わせた住環境の制御方法に関する解説を通して、快適な住まいを創造する意義や方法をより具体的に理解することを到達目標とする。授業では気候の変動や都市環境の課題について紹介した上で、熱・空気・音・光の住環境要素と人間の反応を踏まえた環境制御方法について講義する。	メディア
	富山大学	住居学概論Ⅱ	住居に関する基本的知識や技能を習得することを目標とする。特に、人間工学の知見に基づいた住まいの構成要素と人間との関係や、健康維持のための住まいの維持管理などに関する解説を通して、快適な住まいを創造する意義や方法をより具体的に理解することを到達目標とする。授業では人間の身体的および心理的特徴について紹介した上で、人体寸法と家具の関係、住空間と住生活の関わり、健康で安全な住まいなどについて講義する。	メディア
	富山大学	住居学Ⅰ（現代の住環境問題を含む）	住生活文化の継承および安全な住まいなどに関する解説を通して、安全で文化的な住環境を創造する意義や方法および現代の住環境問題をより具体的に理解し、住生活の課題を解決し創造するための実践力を育成することを到達目標とする。授業では住居史や間取りの変遷およびインテリアの歴史などを踏まえた住生活の文化の継承、家庭内事故や火災・自然災害に対して安全な住まいの在り方、景観への配慮も含めた地域との関わり、現代の住環境問題について考察する。	メディア
	富山大学	住居学Ⅱ（製図及び富山石川の住宅比較を含む）	具体的な住空間の平面計画などに関する解説を通して、豊かな住生活を実現する意義や方法をより具体的に理解し、住生活の課題を解決し創造するための実践力を育成することを到達目標とする。授業では気候や風土と住居との関わりや住空間の構成と計画、インテリアデザインなどについて体系的に講義した上で、平面図をはじめとする表現技術について演習する。また富山と石川の気候・風土・文化の違いを含めた住宅比較を行う。	メディア
	富山大学	住居学演習Ⅰ	住環境領域の研究論文の読解方法や環境計測・評価・解析方法を習得し、住環境における実態把握と課題解決力を育成することを到達目標とする。授業では住環境における実態や課題について、各種統計データや関連する研究論文の調査を実施し、検討課題の解決方法について議論する。また特に光環境の計測・評価・解析方法について演習を実施し、適切な住空間計画のための物理環境要素の制御の重要性について理解を深める。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	家政 教育	富山大学	住居学演習Ⅱ	住環境領域の国内の研究論文の講読を通して、住環境における課題を整理し、多角的に考察する能力を育成することを到達目標とする。授業では住環境領域における国内の研究論文について、担当学生が資料を準備して報告する。このとき、全ての参加者も報告予定論文について事前に読解してくることにする。なお調査対象とする研究論文については、参加学生の研究内容に合わせて選定する。	メディア
			金沢大学	保育学概論Ⅰ（現代の保育学の諸問題を含む）	保育を含む福祉に関する基本的な理念や背景を学び、種々の現場における心理社会的課題を考察することを通じて、保育の意義、目的、制度、内容、方法等を理解することを授業目標とする。本授業では、社会福祉及び保育に関する基礎的な理念や背景を学んだ後に、保育学の観点を踏まえつつ、家庭福祉及び児童福祉の現場において生じる現代的課題を知り、それらの課題に対する具体的な対応や支援を検討する。	メディア
			金沢大学	保育学概論Ⅱ（家庭看護含む）	家庭や種々の福祉施設を含む多様な保育の現場における心理社会的課題を考察し、家庭における看護の現状と課題を検討することを通じて、保育の意義、目的、制度、内容、方法等を、より具体的に理解することを授業目標とする。本授業では、障害者福祉、児童虐待及び高齢者福祉のそれぞれの現場において生じる現状と課題を知り、家庭における看護の視点も踏まえながら、それらの課題に対する具体的な対応や支援を検討する。	メディア
			金沢大学	保育学Ⅰ	海外の保育・幼児教育との相対化を踏まえながら日本の保育を理解し、現代の子ども及び子育て家庭を取り巻く現状と課題を知り、具体的な支援につながる知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、海外の保育・幼児教育を紹介し、日本の保育を相対化しながら理解する機会を提供する。特に、幼小接続、障害のある子どもの支援に焦点を当て、それぞれの支援について具体的に協議する。	メディア
			金沢大学	保育学Ⅱ（実習を含む）	保育現場で活用される保育技術について、現場におけるそれらの機能も踏まえながら理解し、技術の活用の際に必要とされる知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、まず、保育技術を具体的に紹介し、次に、幼稚園参観あるいは保育実践の録画鑑賞を踏まえ、それらの技術が現場において果たす機能を協議しながら考察する。最後に、学生による保育技術の発表の機会を設け、発表内容に基づいて協議する。	メディア
			金沢大学	保育学演習Ⅰ	保育学周辺領域の専門的文献の講読を通して、自身の課題意識と照合しながら、現在の保育学周辺領域の課題を考察する態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、保育学周辺領域の専門的文献について、演習担当者が資料を用意して発表する。専門的文献は、全ての参加者が事前に読解してくることにする。各回のテーマについて、授業担当者が簡潔な説明及び講義をした後で、参加者全員で討論する。	メディア
			金沢大学	保育学演習Ⅱ	保育学周辺領域の研究論文の講読を通して、現在の保育学周辺領域の課題を相対的かつ多角的に考察する態度を身につけるとともに、研究の構造を理解することを授業目標とする。本授業では、検討論文について、演習担当者が資料を用意して発表する。検討論文については、全ての参加者が事前に読解してくることにする。各回のテーマについて、授業担当者が簡潔な説明及び講義をした後で、参加者全員で討論する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	金沢大学	家庭電気・機械・情報	家庭生活で役立つ情報・電気・機械の工学的な基礎知識を身につけることを授業到達目標とする。本授業では、家庭電気・家庭機械・情報処理に関する基礎知識を習得する。さらに、コンピュータプログラミングの概念をC言語の学習する。授業では、実際にプログラムを作成し、実行結果を確認しながら理解を深める。また、プログラミングの学習とともに、照明、電気コンセントの増設、水栓交換、排水管置換、トイレ便座の交換、エアコン除去と設置について学ぶ。	メディア
		富山大学	家庭科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、反省的実践家である中学校あるいは高等学校の家庭科教師として、理解しておくことが必要な家庭科教育の基本的・応用的原理についての理解を深めることを主眼としている。 中学校家庭科、高等学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容とその学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。教育内容論では、主として、食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。その際、富山県に関わる授業実践についても行う。	メディア
		富山大学	家庭科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、反省的実践家である中学校あるいは高等学校の家庭科教師として、理解しておくことが必要な家庭科教育の基本的・応用的原理についての理解を深めることを主眼としている。 中学校家庭科、高等学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容とその学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。教育内容論では、主として、家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。その際、富山県に関わる授業実践についても行う。	メディア
		金沢大学	家庭科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	本授業のテーマは反省的実践家として活動できる中学校あるいは高等学校の家庭科教師の在り方について理解することである。本授業の到達目標は、反省的実践家としての家庭科教師として、家庭科教育の応用原理を知り、石川県での教育実践を踏まえつつ家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得することである。家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業（情報機器及び教材の活用を含む）を行う。その際、石川県に関わる授業実践についても行う。講義とともにアクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチといった学習者が主体となった活動も行う。課題等により予習・復習を促す。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	金沢大学	家庭科教育法Ⅳ (石川県の教育実践を含む)	本授業のテーマは反省的実践家として活動できる中学校あるいは高等学校の家庭科教師の在り方について理解することである。本授業の到達目標は、反省的実践家としての家庭科教師として、家庭科教育の応用原理を知り、石川県の教育実践を踏まえつつ家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得することである。家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法(情報機器及び教材の活用を含む)、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。その際、石川県に関わる教育実践についても行う。相互に批評・評価し、それらをもとに指導案や教材を修正する。講義とともにアクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチといった学習者が主体となった活動も行う。課題等により予習・復習を促す。	メディア
	各大学	家庭科教育法Ⅴ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法(情報機器及び教材の活用を含む)、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。食生活、衣生活、住生活分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	各大学	家庭科教育法Ⅵ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法(情報機器及び教材の活用を含む)、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。家族・保育分野、消費生活・環境分野、福祉分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	各大学	家庭科教育法Ⅶ	授業のテーマおよび到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、3年次の教育実習をふりかえりながら、授業と指導案について再検討し、議論を踏まえて同じ授業について指導案を再度作成して議論する。実験、実習、リサーチ・討論、小・中学校家庭科授業の参与観察、情報機器及び教材の活用、といった学生が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	各大学	家庭科教育法Ⅷ	授業のテーマ及び到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、主として今日的教育課題と家庭科について学ぶ。より必要性が高まっている学習内容や学習方法を取り入れた先駆的ですぐれた授業実践を分析し、それを活かしながらカリキュラムや学習指導を構想・実践する。実験、実習、リサーチ・討論、情報機器及び教材の活用、小・中学校家庭科授業の参与観察、模擬授業といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	各大学	家庭科教育演習Ⅰ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とし、家庭科を探究的に学ぶ視点や研究方法に関する基礎的な知識やスキルを習得する。また、家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得する。 カリキュラムに関わる文献研究、質問紙や面接などの調査研究、諸外国の家庭科に関する研究、授業の実践的研究などについて、具体的な研究例をもとに検討する。また、授業づくりにかかわる教材研究の一環として実習や実験なども行う。	
		各大学	家庭科教育演習Ⅱ	家庭科教育演習Ⅰを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合のテーマ設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。 様々なテーマの研究論文を講読し、テーマに応じた研究手法の特徴について理解を深める。また、受講生自身が探究したいテーマについて、資料収集の方法や探究方法を考え、アドバイスを受けながら実践する。	
		富山大学	住居学演習Ⅲ	住環境領域の海外の統計データや研究論文の講読を通して、住環境における課題を整理し、多角的に考察する能力を育成することを到達目標とする。授業では住環境領域における海外の統計データや既往研究論文を元に、調査や研究の背景および目的、母集団の特性、調査・解析方法、得られた知見や今後の課題などに関して、担当学生が資料を準備して報告する。このとき、全ての参加者も報告予定論文について事前に読解してくることにする。なお調査対象とする研究論文については、参加学生の研究内容に合わせて選定する。	
		富山大学	住居学演習Ⅳ	住環境領域における現代の教育課題や研究課題について、環境計測・評価・解析方法を用いながら、実態把握や課題解決を行うことを到達目標とする。授業では住環境における現代の教育課題や研究課題について、既往研究との位置づけを明確にしながらい研究計画を立案し、実験やアンケート調査など課題解決のためのデータ収集方法を決定した上で、環境計測やデータ分析・解析を実施しながら、適切な住空間計画のための実態把握や課題解決について論文執筆指導を行う。	
		富山大学	食物学演習Ⅲ	食物学演習Ⅰ、Ⅱを履修していることを踏まえて授業を進める。現代社会において食をめぐる課題が散見されている。年代によっても課題が異なることについても認識し、栄養や食をめぐる問題に気づき、その問題の所在を既存の調査結果から客観的に把握するとともに、それが食教育においてどのような意味を持つのか考える能力を養うことを目的とする。最新の学術論文の講読と発表から、近年の課題の動向を知り、現状を把握するための調査方法や分析方法について着目した議論を行い、理解を深める。	
富山大学	食物学演習Ⅳ	現代社会において食をめぐる問題が散見されている。食物学演習Ⅲでの学習を展開させ、食をめぐる諸問題を客観的に捉えたり解決するための方法をさらに追及する態度を養うことを目的とする。近年の食をめぐるさまざまな課題の中から、受講生各自がテーマを持ち、その問題を的確に捉えるために、またはその問題を解決するために有用と思われる調査・分析方法や食教育について考え、提案する。その提案に対して、参加者全員で討論し、理解を深める。			

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	金沢大学	家庭経営学演習Ⅲ	中学校・高等学校家庭科における家庭経営学領域を中心とした学習内容および指導方法を検討するために、3年次で習得した基礎的な研究方法を展開させ、実践に結び付く考察をすすめることを授業到達目標とする。本授業では、3年次で実施した予備調査や文献講読の結果を踏まえて、研究課題の設定や、調査の方法など研究方法の再検討を行う。さらに、それをもとに家庭科・家庭経営学領域の知識の習得および指導に関する研究を展開する。	
		金沢大学	家庭経営学演習Ⅳ	これまでに学んだ中学校・高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を踏まえて、学校現場で実践可能な学習内容・指導方法を提案することを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰ～Ⅲの知識・技能を踏まえてさらに研究を展開する。グループディスカッションにより多角的な視点・他者の視点も取り入れながら、より精度の高く実践可能な研究としてまとめていく。	
		金沢大学	被服学演習Ⅲ	多様性社会におけるユニバーサルファッションやエシカルファッション等の検討課題に対して、時代に応じた様々な教材を提案できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた被服デザインの検討、設計、試作および評価を系統的に行う。これらの結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	
		金沢大学	被服学演習Ⅳ	衣服に関する環境問題の理解と取り組みを検討する授業展開ができるよう、現状に応じた様々な提示教材を提案できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた実験計画や簡易実験装置を工夫しながら作成する。さらに、試作装置を用いて測定を行い、その結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	
		金沢大学	保育学演習Ⅲ	保育学周辺領域の種々の研究課題について、その課題を追究する方法を具体的且つ批判的に検討し、より適切な方法を見出すことを授業到達目標とする。本授業では、データを収集する研究方法として、観察調査、質問紙調査、インタビュー調査、実験調査、文献調査などをとりあげ、研究課題と照合しながら具体化する過程も含めて協議する。更に、保育の現場においてデータを収集する上での倫理的課題についても講義を踏まえて討論する。	
		金沢大学	保育学演習Ⅳ	保育学周辺領域の種々の研究課題について、適切な方法により収集されたデータを分析し、考察するための知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、それぞれの研究方法により収集されたデータの分析と考察について、演習担当者の発表に基づきながら協議する。更に、データを収集した各種現場に対して、何をどのように還元していくことが望ましいのかについても討論を踏まえて検討する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	各大学	家庭科教育演習Ⅲ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集し、アドバイスを受けながら研究枠組・研究計画をたてる。予備調査も行う。	
		各大学	家庭科教育演習Ⅳ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集したり調査をしたりし、アドバイスを受けながら研究を進める。定期的に報告会を行い、受講生相互に検討し合う。	
	英語教育	富山大学	英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育)	英語学の基本的な概念を学び、英語をより深く客観的に理解するための基礎を作る。具体的には英語史、形態論、意味論の各分野における基本的な概念を学んでいく。あわせて、授業において英語史・形態論・意味論のそれぞれの概念が具体的にどのような場面で活用し、深い理解につなげていくかについても学ぶ。学生も活用の仕方について提案する。	メディア
		富山大学	英語学概論Ⅱ(文法と現在の英語教育)	英語学の基本的な概念を学び、英語をより深く客観的に理解するための基礎を作る。具体的には統語論、語用論の基礎について、平易な英文で書かれたテキストを用いて解説していく。あわせて、授業において統語論・語用論のそれぞれの概念が具体的にどのような場面で活用し、深い理解につなげていくかについても学ぶ。学生も活用の仕方について提案する。	メディア
		各大学	英語学概論Ⅲ(応用)	音韻論・社会言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、音韻論・社会言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	
		各大学	英語学概論Ⅳ(応用)	心理言語学・応用言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、心理言語学・応用言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	各大学	英語音声学・文法Ⅰ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。具体的には完了形・進行形・能動態・受動態など、コミュニケーション活動で用いられることの多い構文および、英語音声の基礎的部分を解説・練習していく。	
			各大学	英語音声学・文法Ⅱ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。動詞・倒置・省略など、コミュニケーション英語で重要となる文法事項および、英語音声の単音レベルの基礎を解説・練習し、授業の中での活用についても考察する。	
			各大学	英語学演習Ⅰ（個別理論）	構造言語学および生成文法の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理するレポートを作成する。	
			各大学	英語学演習Ⅱ（個別理論）	認知言語学および言語類型論の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理する課題を行う。	
			金沢大学	英語文学概論Ⅰ（イギリス文学と現在の英語教育）	イギリス文学の歴史と変遷を扱い、その背後の文化と思想を理解する一方で、文学作品と英語教育との影響関係を論じる。授業ではテキストの他に実際の作品から抜粋したプリントを配布し、英語についての広範な知識の獲得を求める。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
			金沢大学	英語文学概論Ⅱ（アメリカ文学と現在の英語教育）	アメリカの建国から19世紀までをその文学の歴史を中心に概観する。各時代の代表的な作家の功績や作品（の抜粋）に触れることで、アメリカの文学とそれを産出した文化について深く考察する能力を養成する。毎回一人ないし二人の作家を中心に扱い、その周辺の歴史背景や文化思潮とともに講義する。受講生はグループに分かれて作品の解釈や英語教育における利用法について議論を行うことが求められる。	メディア
			金沢大学	英語文学概論Ⅲ（イギリス）	英語文学概説Aの内容を踏まえたイギリス文学の歴史と変遷を扱い、その背後の文化と思想を理解する。授業ではテキストの他に実際の作品から抜粋したプリントを配布し、英語についての広範な知識の獲得を求める。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 英語教育	金沢大学	英語文学概論Ⅳ(アメリカ)	アメリカの19世紀後半から20世紀後半までを、その文学の歴史を中心に概観する。各時代の代表的な作家の功績や作品(の抜粋)に触れることで、アメリカの文学とそれを産出した文化について深く考察する能力を養成する。毎回一人ないし二人の作家を中心に扱い、その周辺の歴史背景や文化思潮とともに講義する。受講生はグループに分かれて作品の解釈や英語教育における利用法について議論を行うことが求められる。	メディア
	金沢大学	英語文学演習Ⅰ(イギリス)	イギリス文学の代表的な作品を扱い、物語自体の構成要素、背後にある文化と思想、作品成立の歴史背景などを理解する。併せて、作品の文体も文法的に考察し、英語についての知識を広げる。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
	金沢大学	英語文学演習Ⅱ(アメリカ)	英語文学(アメリカ)作品の読解を通じて様々な英語の表現に触れると共に、アメリカの文学やそれが背景とする歴史と文化について理解を深めることをテーマとする。作品読解から現れる様々な疑問について議論を重ね、作品を題材とする教材を作成するなどして将来的に受講生が行う授業に文学作品を活用するための方法を習得することを目標とする。受講者は作品を深く読解し、作品自体や作品を生み出した文化についての独自の意見を持って積極的に議論に参加することが期待される。また授業中の意見を深め、LMSへのショートペーパーで表すことが毎時間求められる。	メディア
	金沢大学	英語文学演習Ⅲ(イギリス)	イギリス文学の代表的な作品を扱い、その背後の文化と思想を理解する。併せて、作品の作風も考察し、英語の使われ方についての知識を広げる。テキストは他の英語文学演習で扱われるものよりも難易度の高いものとする。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
	金沢大学	英語文学演習Ⅳ(アメリカ)	英語文学演習Ⅱ(アメリカ)が19世紀から20世紀の短編小説の読解を行うのに対して、この授業はいわゆる“Great American Novel”と呼ばれる作品の読解を中心に行う。様々な観点からの疑問を巡るディスカッションを充実したものとするよう、受講者は作品を深く読解し、作品自体や作品を生み出した文化についての独自の意見を持って積極的に議論に参加することが期待される。また授業中の意見を深め、LMSへのショートペーパーで表すことが毎時間求められる。	メディア
	各大学	英作文Ⅰ(基礎)	英語で文章を書くための基本的な事項を学ぶ。英語のコミュニケーションに習熟し、受講生は将来自身が英語で授業を行うための英語運用力を積極的に身につける。特にこの授業では簡潔な英語で文章を構成する方法を重点的に学ぶ。パラグラフの書き方を練習することを通じ、英語という言葉とそれによる文章の論理的構造に習熟する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 英語教育	各大学	英会話Ⅰ(基礎)	日常よく使われる英会話の定型表現を学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、ロールプレイ型の会話練習を行い、実際の場面のなかで活用する。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。また、毎回、前回の学習の確認クイズを行う。	
	各大学	英作文Ⅱ(応用)	英作文Ⅰ(基礎)で修得した、英語で文章を書くための基本的な事項を活用し英語運用の運用能力のさらなる発展を目指す。様々なジャンルの英語に触れることで、目的や場面、状況に応じた適切な英文を書くことができるようになる。明快な英文を用いた複数のパラグラフによる種々の課題の執筆を通じ、英文を構成する時の注意点を実践的に学んでゆく。また教室内のコミュニケーションに英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させることを同時に行う。	
	各大学	英会話Ⅱ(応用)	英語を使った中学校の英語授業の模擬演習を行う。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、指導案を組み立てる。作成した指導案を元に、15分程度の模擬授業を実践する。なお、教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行っていく。	
	各大学	英作文Ⅲ(応用)	英作文Ⅰ、Ⅱで学んだ事項を踏まえ、より高度な文章を英語で書くための発展的な事項を学ぶ。このクラスは特に、論理的な文章を構成する方法の修得を重視する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	各大学	英会話Ⅲ(応用)	アカデミックスピーチとディスカッションを行う。受講生は、授業計画の内容に沿ったプレゼンテーションを行い、その後全員で質疑応答をする。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施し、ディスカッションで用いる語彙の増強もはかる。	
	各大学	英作文Ⅳ(応用)	英作文ⅠからⅢにおける習得技術を基礎に、「アカデミック・ライティング」の技法を駆使しての論理的な英文エッセイを学んでいく。各自が設定したテーマに関するリサーチ方法の授業も含め、卒業論文の作成などにも援用できる実践的な授業となる。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	各大学	英会話Ⅳ(応用)	リスニング教材を使用し、留学可能なレベルのコミュニケーション力を養う。上級レベルのリスニング教材を聴き、コミュニケーション力の向上を目指す。授業はディクテーションが中心となる。自分が聞き取った内容がどれだけ書き取れるかを複数回に分けて確認し、語彙・音連結・内容などの観点から課題を分析する。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	富山大学	異文化理解 I (英語教育の中の異文化理解)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関する英語文献を読んだり、留学生との交流やディスカッションを通して、文化の概念や文化の多様性や関連する諸問題、異文化交流の意義を理解するとともに、様々な英語圏の国の歴史・社会・文化・信念・信条について学ぶ。そして英語教育における異文化理解や異文化コミュニケーションの重要性や役割を理解した上で、関連する知見を身に付けることを目指す。	メディア	
			異文化理解 II (英語教育の中の異文化理解)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関する英語文献を読んだり、関連する映像を視聴したり、留学生との交流を通して、現代社会における異文化コミュニケーションに関連する諸問題や課題、(非)言語コミュニケーションと文化との関係性、そして異文化交流の意義を理解するとともに、様々な英語圏の国の歴史・社会・文化について学ぶ。そして英語教育において活かすことができる知見を身に付けることを目指す。	メディア
			異文化理解 III (応用)	異文化理解 I、II で学んだことを踏まえ、専門的知識を高めることを目指す。具体的には、特に様々な国々の「(非)言語コミュニケーション」に関わる領域と文化の関係性、そして様々なコミュニケーション・スタイルについて、特に英語圏の国々と日本のコミュニケーション・スタイルとの比較に関する英語の専門書の購読を通じて専門的知識を高める。また留学生とのディスカッションなどを通じてコミュニケーション・スタイルの違いや共通点を体験することで、異文化理解や異文化コミュニケーションへの関心を高め、その重要性を認識する。	メディア
			異文化理解 IV (応用)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献を読んだり、映像視聴を通じて、それに関連する様々な問題に気づき、解決法について考える。また英語圏の文化の多様性についての理解を深め、留学生との交流を通してグローバル社会において効果的で適切なコミュニケーションを行うために必要な事柄について考えるとともに必要な知識を身につけることを目指す。	メディア
			異文化理解演習 I	植民地時代からアメリカ建国期の知識人(ベンジャミン・フランクリン、トマス・ジェファソン)、当時の思想や文化事象に関する英語文献や文学作品を読んだり、映像を視聴したりすることを通して、アメリカの歴史や社会、そしてアメリカ文化、思想、多様性がこれまでどのように育まれ形成されたのか、そのプロセスについて学ぶとともに現状とそれに関連する課題について考える。	メディア
			異文化理解演習 II	多様な人種が共存する現代のアメリカ社会が抱える問題について、これまで学んできた異文化理解、異文化コミュニケーションの視点および枠組みから考察する。具体的には、人種(問題)やマイノリティに関連する映像を視聴し、異文化やマイノリティの扱われ方、描かれ方についての分析をしたり、グループ・ディスカッションや留学生を交えたディスカッションをしたり、専門英語文献の講読を通じて、さらなる専門的知識を深める。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	英語教育	富山大学	英語科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画についての理解を深める。また、富山県での実践を踏まえつつ、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方についても学ぶ。	メディア
		富山大学	英語科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「話すこと〔発表〕」及び「書くこと」の指導及び複数の領域を統合した言語活動の指導方法について理解し身に付ける。富山県の実践を踏まえ、生徒の特性や習熟度に応じた指導方法の基礎について理解を深める。学んだことに基づき模擬授業を行い、学生同士で授業研究を経験し省察方法を学ぶ。	メディア
		金沢大学	英語科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主に第二言語習得、学習指導要領、外国語教授法、学習者要因等を中心に取り上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識、石川県での実践の現状や課題を踏まえて議論できる機会を設ける。	メディア
		金沢大学	英語科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主に学習指導要領、言語形式、5領域の指導等を中心に取り上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、模擬授業や各自の経験や知識、石川県での実践の現状や課題を踏まえて議論できる機会を設ける。	メディア
		各大学	英語科教育法Ⅴ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。まず、教師の資質や授業運営などの基本的な知識を取り上げ考察する。続いて、聞くこと・読むことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。	
		各大学	英語科教育法Ⅵ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。話すこと・書くことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。さらに、学んだ知識・技術を踏まえて、実践の観察・分析、指導計画の立案を行う。	
		各大学	英語科教育法Ⅶ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、受講者各自が教育実習で行った英語科授業の実践を振り返り、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの領域の指導と評価に焦点を当て、それぞれの実践上課題を見だし、それらを改善するために必要な教授・学習の理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、省察等の演習を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	各大学	英語科教育法Ⅷ	英語科教員として必要とされる実践的な指導力の向上を目指す。特に目標を踏まえた、指導と評価に関する知識を身につけるとともに、その知識を授業という場で活用できるための実践力を身につける。各領域の指導と評価に焦点を当て、必要な理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、単元計画の作成等の演習を行う。	
			金沢大学	英語学特別演習Ⅰ	対照言語学的観点から日本語と英語を対比することにより、日本語、英語の両言語をより客観的にとらえる視点を持つ。日本語と英語の言語類型論的特徴を音声・形態論・統語論・意味論の観点から対照していき、このような面の違いが実際の言語使用にどのような影響をもたらすかについて解説していく。それと並行して各自日英語対照に関するテーマを決めてレポートする。	
			金沢大学	英語学特別演習Ⅱ	日本語と英語の表現構造の違いに焦点を当て、客観的に同じ状況を表すのにどうして日本語と英語では異なった事態の切り取り方をするのかについて、いままで提示されてきた諸説を紹介し、具体的になぜ同じ状況を表現するときの構造が異なるのかについて、参加者同士の意見交換も交えながら掘り下げていく。また、各自表現構造の違いに関する具体的な現象をとりあげてレポートする。	
			富山大学	英語学特別演習Ⅲ	英語学の視点から文法現象をつぶさに見つめ、新しい経験的発見を引き出すための観察力を養うことを目的とする。この目的のために、(1) 代表的な先行研究による事実観察を十分に理解する、(2) その事実観察の経験的な妥当性を検討する。(1) に関しては、伝統的な先行研究のなかから受講者の興味に合わせた論文を取り上げる。(2) に関しては、洋画・電子コーパス・ネイティブチェックなど身の回りにある言語資料と照らし合わせながら検証活動を行う。	
			富山大学	英語学特別演習Ⅳ	英語学の知識を使って文法現象を正しく予測し、新しい理論的分析を提案するための説明力を養うことを目的とする。この目的のために、(1) 比較的最近の英語学における理論的な動向を理解する、(2) 受講者が自分なりの新しい理論的な提案を試みる。(1) に関しては、テーマにもよるができるだけ2000年以降の研究論文を中心に取り上げる。(2) に関しては、受講者が各自の提案内容を発表し、担当教員および他の受講者との意見交換を通じて理解を深める。	
			金沢大学	英語文学特別演習Ⅰ	英語文学作品を学術的に読むための、伝統的な文学批評理論を学ぶ。文体論や伝記批評、物語の形態論といった伝統的な批評分野の考え方を扱い、英語文学作品の読解に援用する演習を行う。受講学生は各人の興味に合わせて、対象作品と批評方法を選び、自分で作品批評ができることを目指す。難解な英語と高度な内容を扱った、発展的内容となる。	
			金沢大学	英語文学特別演習Ⅱ	英語文学作品を学術的に読むための、ポスト構造主義以降の文学批評理論を学ぶ。ジェンダー論、ポスト植民地主義批評、エコロジー批評といった近年の批評理論を用いて、英語文学作品の読解演習をする。受講学生は各人の興味に合わせて、対象作品と批評方法を選び、自分で作品批評ができることを目指す。難解な英語と高度な内容を扱った、発展的内容となる。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	富山大学	異文化理解特別演習 I	この授業では、異文化理解、異文化コミュニケーション、アメリカ及びイギリス文化をキーワードとして、卒業論文執筆のための研究テーマ探しに繋がるよう、先にあげたキーワードに関連する様々な英語の専門書や論文を購読する。また最近の関連する英語論文を精読したり、読んだ論文をまとめたり、ディスカッションをしたりして専門的知識をさらに深めるとともに論文作成に必要な知識と技術を養うことを目指す。	
			富山大学	異文化理解特別演習 II	この授業では、「異文化理解特別演習 I」を踏まえ、各自が異文化理解、異文化コミュニケーション、アメリカ及びイギリス文化などのキーワードにつながる研究テーマを設定し、卒業論文執筆のために各自が選んだ研究テーマにそった先行論文や関連する論文および専門書の精読、そしてそれらの論文をまとめたり、読んだ論文に関する発表およびほかの学生たちとのディスカッションを通じて、専門的知識を深めるとともに論文作成に必要なスキルをさらに高めることを目指す。	
			金沢大学	英語教育学特別演習 I	英語科教員として様々な課題について理解したり、解決したりするためにテーマを設定し、追究しながら、研究を行うために必要な知識や技能を学ぶ。具体的には、先行研究や実践などの概観を通して、自分が追究したい研究課題の設定を行う。そして、研究課題を踏まえて、研究を進めるための研究方法やデータ収集方法、分析方法などを学ぶ。	
			金沢大学	英語教育学特別演習 II	英語科教員として様々な課題について理解したり、解決したりするためにテーマを設定し、追究しながら、必要な知識や技能を学ぶ。具体的には、英語科教育特別演習 I で学んだことを踏まえ、実際にその課題を追究することを通じて技能を身につけていく。最終的には報告書の作成や発表を行い、そのために必要な知識や技能の習得も目指す。	
			富山大学	英語教育学特別演習 III	本授業では、英語教育の研究とその方法についての基本を学ぶ。前半に英語教育の研究目的、意義、日本の英語教育の現状と課題、研究方法、データ収集方法、考察方法を学ぶ。後半では実際の研究論文や書籍の輪読を通じて英語教育に関連したテーマの概観を理解する。購読した論文に関する要約発表および他の学生とのディスカッションを通じて専門的知識の理解を深め、自己の追求テーマを設定する。	
			富山大学	英語教育学特別演習 IV	本授業前半では、英語教育学特別演習 III で設定した自己の追求テーマについてその意義や目的を他の学生に紹介発表する。後半では海外及び日本における先行研究を調査する。先行研究の知見を踏まえ、自己のテーマに沿った文献調査や実験、アンケートなどを実施する。実験などから得たデータの分析を行い考察を加え、発表や報告書の作成につなげる。	
			金沢大学	英語科教育実践研究 I	英語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。特にこの授業は、これからの英語教育に必要な教材を自ら研究すること、また優れた教育実践に学ぶことを通じて授業案を設計・立案して、発展的な実践力を養うことを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 英語教育 専門科目 教育学・心理学に関する科目	金沢大学	英語科教育実践研究II	本授業では、英語教育についての歴史的に交わされてきた論争を検証し、現在の英語教育の在り方についての批判的な視点を養う。英語という言語そのものの独自性、それらを取りまく文化やイデオロギー的背景、第二言語獲得といった抽象的なテーマから、教室でいかに英語を教えるべきかという実際的な問題まで様々な話題を扱う。	
	富山大学	英語科教育実践研究III	英語教授法（特にリーディング・語彙指導）や第二言語習得に関する論文・書籍の輪読を通して、英語の指導および習得について、理論と実践の両面から考察する力を養うことを目的とする。授業では、(a) 先行研究を読み、(b) 内容について討論し、(c) 研究の発展可能性を提案するプレゼン・ディスカッションを行う。主体的・積極的に文献研究を行い、各自が問題意識を持って理論・実践上の研究課題を見つけることを目指す。	
	富山大学	英語科教育実践研究IV	英語科教育実践研究IIIの文献研究を踏まえ、課題解決のために実証的なリサーチを行う。具体的には、英語教育・言語習得の先行研究を基にした仮説（例。〇〇は効果的な読解指導法である）を検証するために、量的・質的データを収集し、客観的に分析・考察する。実験計画の立案、データ収集、分析方法、考察と、一連の研究手法を学ぶことで、卒業研究や教員として行うアクションリサーチに汎用できる実践的な教育・研究力を養う。	
	富山大学	教育心理学データ解析法A	教育実践研究においては、それぞれの教育現場で得られた実践的な知見を他の教員と共有し蓄積することが重要視される。この授業では、得られたデータを客観的に評価し、記述するための解析方法について、可能な限り体験的に習得することをねらいとする。教育実践研究から得られたデータをどのように分析すれば良いか、その考え方や適用方法、結果の解釈の仕方について、データを実際に分析しながら学んでいく。	
	富山大学	教育心理学データ解析法B	教育実践研究においては、それぞれの教育現場で得られた実践的な知見を他の教員と共有し蓄積することが重要視される。この授業では、教育心理学的データ解析法Aの内容をさらに深め、得られたデータを客観的に評価し、記述するための解析方法について、可能な限り体験的に習得する。教育実践研究から得られたデータをどのように分析すれば良いか、その考え方や適用方法、結果の解釈の仕方について、データを実際に分析しながら学んでいく。	
	富山大学	教育心理学研究法	教育実践においては、ある教育的働きかけが「効果」があるのかどうかを常に検討する必要がある。この講義では、そのような効果を捉えるためにはどのようなことに留意する必要があるのかについて、研究法の観点から解説する。具体的には、実験法、調査法、観察法、面接法の4つを取り上げ、それぞれに必要な思考法を修得する。	
	富山大学	教育心理学実験法	教育実践研究においては、客観的な知見の蓄積が重要である。この授業では、教育心理学の研究手法の一種である実験法について、演習を通して学んでいくことを目的とする。複数の心理実験を体験し、レポートにまとめることで、客観的なデータの収集方法、結果のまとめ方、報告の仕方について実践的に学習する。この授業を通して、科学的な知見を蓄積することの重要性を理解し、教員のリテラシーを身に着ける。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 心理学に関する科目	富山大学	教育臨床心理学A	学校場面では教員が心理や福祉の専門家と多様な協働を通じて子供たちの支援に当たる必要がある。教育臨床心理学Aでは、特に子供たちの心理面のケアについて、教師として支援する方法と、他の専門家や外部機関との連携をより構築していく方法を学ぶための基盤として、教育場面で遭遇する子供に生じうる心理的問題や課題について触れ、どのような対応が考えられるかを事例をもとに理解を深める。	
	富山大学	教育臨床心理学B	学校場面では教員が、心理や福祉の専門家と多様な協働を通じて子供たちの支援に当たる必要がある。教育臨床心理学Bでは、教育相談で扱った内容のより実践的な子供たちへの関わり方についてカウンセリングの理論を参考に解説し、実践的に子供たちの悩みを適切な成長につなげていく方法について実践的に学ぶことを目的とする。	
	富山大学	教授・学習心理学演習	個別最適化学習に関する教授・学習心理学の理論を踏まえ、どのように個別最適化学習を実践するのかについて演習形式で学習する。学習者一人一人の能力や特性をアセスメントするための理論と方法や、アセスメント内容を踏まえた学習支援計画の立て方、学習支援の実施方法や展開、省察の仕方について学ぶ。学習内容を踏まえ、実際に個別学習支援の演習を実施し、ケース報告とケース検討を通して、実践的に学びを深める。	
	富山大学	臨床心理実習	富山県教育委員会との連携事業である「心のサポーター」の活動を行う。具体的には、富山県内の小・中学校に学生を派遣し、その中で児童生徒の悩み相談等を行う。本講義では、富山県教育委員会での事前説明会や、ロールプレイなどの実践形式の演習を含めた事前指導、ケースカンファレンスや振り返りを含めた事後指導を含む。なお、本講義は2名の教員が事前説明会や事前事後指導を複数体制で行う。	
	富山大学	教育心理学ゼミナール	教育心理学的観点から教育現象を捉え、学生自身で問題を発見し、それを解決する手法を学ぶ。具体的には、先行研究の文献購読、先行研究および教育現場での経験から導かれた問題の発見と設定、問題を解決するための方法論の立案、適切なデータ収集の方法と解析の演習、得られた結果についての適切な解釈の修得等を行う。本講義では複数名の教員がそれぞれのゼミナールを担当し、希望する学生がそれぞれのゼミナールを受講する形式で行われる。	
	富山大学	教育法規A	教職を目指す者として、教育法規に関する必要最低限の知識を習得することを目指す。教育法規の基本原則を学ぶとともに、特に憲法と教育基本法の関係性について理解を深め、学習権や教育の機会均等について検討することで、教育法規を国民の教育を受ける権利を保障する拠り所としてとらえ、教育現場でこれらの法規を活用する方法について考察する。	
	富山大学	教育法規B	教職を目指す者として、教育法規に関する必要最低限の知識を習得することを目指す。特に、憲法・教育基本法と教育関連法規の関係性について理解を深めた上で、教育裁判と判例の形成について検討し、現代社会の急速な変化の中でおこる様々な教育上の現象と教育法規との関わりについて認識し、教育現場でこれらの法規を活用する方法について考察する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	富山大学	教育臨床学A	現代社会の変容がもたらす学校教育の諸現象を、教師としていかに捉え、熟考し、子どもの豊かな学びを実現するための授業づくりを行うことが重要なのかについて、教育の臨床哲学(教育臨床学)の視点から考察する。主に、デューイの教育論やノディングズのケアリング論、「聴くこと」の哲学やナラティブ・アプローチ等、教育の臨床哲学に関する基本的な考え方を理解する。	
	富山大学	教育臨床学B	現代社会の変容がもたらす学校教育の諸現象を、教師としていかに捉え、熟考し、子どもの豊かな学びを実現するための授業づくりを行うことが重要なのかについて、教育の臨床哲学(教育臨床学)の視点から考察する。主に、子どもの貧困問題や外国籍児童生徒の教育、授業における対話の在り方や子ども主体の活動の教師役割等について、具体的事例を通して考察を深める。	
	富山大学	教育倫理学A	教師としての倫理規範の確立や倫理的判断力の育成が目的である。ハラスメントや体罰をしてはいけないと誰もが「わかっている」にもかかわらず、そうした事例は後を絶たない。本科目では、善悪について知ることを行うことをめぐる古典的議論と接続・往復し、なぜこのようなことが起こってしまうのか考察・議論することで、教師としての倫理規範の確立を目指す。	
	富山大学	教育倫理学B	教師としての倫理規範の確立や倫理的判断力の育成が目的である。学校の道徳教育と政治的・宗教的信念の不適切な教え込みは何が違うのだろうか。本科目では、こうした教育的行為の適切さ／不適切さの境界線やその根拠を考察・議論し、また教育をめぐる倫理的論点を取り上げることで、教師としての倫理的判断力の育成を目指す。	
	富山大学	教育学ゼミナール	教育学的視点から教育現象を捉え、学生自身で問題を発見し、それを解決する研究手法を学ぶ。先行研究の文献収集の仕方、文献の読み方、研究ノートの作り方等を学び、一次文献の読解・検討、事例の収集・分析・解釈等を行い、自らの研究内容を根拠をもって論理的に書き上げることが目的とする。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいて、教員や他の履修者との討論を中心に演習を行う。	
	金沢大学	教育・心理基礎論A	<p>(概要) 本授業は人間の成長と発達、人間社会の形成と維持、発展に不可欠な「教育」の営みについて教育学と心理学それぞれの専門的な知見から総合的に考察することを通して、教職に就く履修者が幅広い視野と深い洞察力をもって現代の教育課題に応答するための基礎的な力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (34 鳥居和代／1回) 教育を多角的に考察する意義 (78 平石晃樹／2回) 道徳教育から見た現代の教育課題 (34 鳥居和代／3回) 教育史から見た現代の教育課題 (74 土屋明広／4回) 教育制度論から見た現代の教育課題 (33 土井妙子／5回) 教育方法学から見た現代の教育課題 (70 上森さくら／6回、7回) 教育実践教論から見た現代の教育課題 (77 原田克巳／8回) 教育臨床心理から見た現代の教育課題</p>	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	教育学・心理学に関する科目	金沢大学	教育・心理基礎論B	<p>(概要) 本授業は人間社会と不可分な教育的営みについて、哲学、歴史学、法律学、方法学、臨床心理学など多様な専門家がそれぞれ専門的な視点から具体的な課題をまじえて議論することで、教職に就く履修者が幅広い視野と深い洞察力をもって現代の教育課題に応答する実践的な力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(34 鳥居和代／1回) 教育をめぐる現代的課題をどのように論じるか</p> <p>(78 平石晃樹／2回) 教育哲学から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(34 鳥居和代／3回) 教育史から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(74 土屋明広／4回) 教育法制度論の見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(33 土井妙子／5回, 6回) 教育方法学(学習指導を含む)から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(70 上森さくら／7回) 生活指導論のから見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(77 原田克巳／8回) 教育臨床学・学校心理学のから見た現代の教育課題に関する議論</p>	オムニバス方式
			金沢大学	教育学・心理学演習A	<p>本授業は「教育・心理基礎論A」、「教育・心理基礎論B」における学習項目について履修者が、各自の問題関心に基づく深い学習と教員・他の履修者との討論を通して、教育学・心理学諸分野の高度な知識と研究手法を修得することを目的とする。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいてそれぞれ全8回の演習を行う。</p>	
			金沢大学	教育学・心理学演習B	<p>本授業は「教育・心理基礎論A」、「教育・心理基礎論B」、「教育学・心理学演習A」における学習内容を前提に、履修者が理論的、実践的、臨床的に高い専門性を修得することを目的として、履修者自ら設定した課題の研究発表、教員・他の履修者と討論を中心に進めていく。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいてそれぞれ全8回の演習を行う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	富山大学	保育士に関する科目	保育原理Ⅰ	本科目では、保育の意義及び目的、わが国における保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について扱う。保育の意義及び目的として扱うトピックは、保育の意義と目的、保育の理念と概念、子どもの最善の利益と保育、子ども家庭福祉と保育、保育の社会的役割と責任がある。次に、保育に関する法令及び制度としては、子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令、子ども・子育て支援新制度、保育の実施体系がある。最後に、保育所保育指針における保育の基本としては、保育所保育指針、保育所保育に関する基本原則、保育における養護、保育の目標、保育の内容、保育の環境・方法、子どもの理解に基づく計画・実践・記録・評価・改善の過程とその循環がある。	
			保育原理Ⅱ	本科目では、保育原理Ⅰで扱う、保育の意義及び目的、わが国における保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本の内容の理解をもとに、それらがどのような歴史の変遷を経て現代に至っているかを理解する。具体的には、国内外の保育の思想と歴史の変遷及び国内外の保育の現状と課題について扱う。まず保育の思想と歴史の変遷において扱うトピックとしては、近代の諸外国の保育の思想と歴史、日本の保育の思想と歴史がある。次に保育の現状と課題としては、最新の諸外国の保育の現状、日本の保育の現状がある。それぞれについて、現状を取り扱いつつ、課題も明確にしたうえで、これからの保育について考察する。	
			乳児保育Ⅰ	認定こども園や保育所においては3歳未満児の保育が必要である。また、発達の連続性をふまえた教育や保育を実践するにおいても3歳未満児の発達や保育について学ぶ必要がある。授業では、3歳未満児の保育の意義や目的、役割について扱うとともに、データや資料を用いてディスカッションや調べ学習を行いながら、3歳未満児の保育の現状や課題、保育の内容や運営体制についての基本的な知識を習得する。	
			乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱの授業では、3歳未満児の発達は個人差が大きいことをふまえつつ、月齢や年齢ごとの身体的な成長や運動発達、言語発達、社会的発達についてDVD等の映像を視聴するなどの方法を取りながら扱う。また、子どもの発育や発達をふまえた保育とその展開について、事例や絵本・玩具等の材料を用いながらの調べ学習、グループディスカッション、乳児模型を用いた実習を行うことで、乳児保育の具体についての理解を促すことを目的とする。	
			乳児保育Ⅲ	3歳未満児の保育に関する実践的態度や技術の習得を目指す。3歳未満児の保育の環境（子どもの生活リズムや動線を考慮したコーナーの設置や配置、玩具や遊具、絵本、安全への配慮など）を、調べ学習を通して理解する活動を行う。また、3歳未満児の保育に関する計画を立案したり、計画に基づいたシミュレーションやロールプレイ、保育実践等の結果を基にして計画の評価を行ったりする活動を通して、3歳未満児の保育への理解を深める。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保育士に関する科目	富山大学 社会的養護Ⅰ	教育者や保育者として社会的養護の過程に携わったり、養護を受ける子どもの教育や援助を行ったりすることができるための知識の習得を目指す。授業では、社会的養護の意義、理念や概念、歴史的変遷、社会的養護を必要とする子どもの現状や課題、現在の施策や制度、実施体系等について扱う。また、虐待その他の環境上の理由や非行、障害などにより社会的養護を必要とする子どもを発見し、その子どもと家庭の現状や課題を把握し、子どもについて福祉的措置を行うの流れとその根拠となる法律についても扱う。	
			富山大学 社会的養護Ⅱ	社会的養護を受ける子どもたちへの理解が深まることを目指す。授業では、養護の形態には施設養護と家庭養護があること、施設養護の現状と課題、家庭養護の現状と課題、子どもの人権擁護をふまえた近年の養護形態の動向について扱う。また、社会的養護に携わる専門職と彼らに求められる役割についても学ぶ。さらに、福祉的措置として社会的養護を受けることになった子どもの生活やその後の進路について事例や統計資料等を用いながら学ぶとともに、子どもの健全な成長・発達や自立の支援についても学ぶ。	
			富山大学 保育者論	本科目では、保育者の役割と倫理について、役割・職務内容と倫理について学ぶ。次に保育士の制度的位置付けについて、児童福祉法における保育士の定義と資格・要件、欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等について学ぶ。次に、保育士の専門性について、保育士の資質・能力、養護及び教育の一体的展開、家庭との連携と保護者に対する支援、計画に基づく実践と省察・評価、保育の質の向上について学ぶ。次に、保育者の協働について、保育における職員間の協働、専門職間及び専門機関との連携・協働、地域における連携・協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成については、資質向上に関する組織的取組、保育者の専門性の発達とキャリア形成、組織とリーダーシップについて学ぶ。	
			富山大学 子どもの保健Ⅰ	(概要) 保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である。本講義では、子どもの健康状態を把握し、増進するための基礎を理解することを目標とし、乳幼児の発達と成長、子どもの生理機能と子どもたちの健康状態を把握する方法を講義する。 (オムニバス方式／全8回) (18 宮一志／1回～4回, 6回～8回) 子どもの健康に関する現状、乳幼児の発達と生理機能、健康状態の把握について担当する。 (10 小林真／5回) 保育所における発育測定の実際について担当する。	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 保育士に関する科目	富山大学	子どもの保健Ⅱ	(概要) 保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である。本講義では、子どもの健康状態を把握し、増進するための基礎を理解することを目標とし、子どもの免疫発達や感染症、頻度の高い疾患を概説し、安全を確保する方法を講義する。 (オムニバス方式/全8回) (18 宮一志/1回～2回, 4回～8回) 子どもの免疫発達や感染症、頻度の高い疾患、緊急時対応について担当する。 (10 小林真/3回) 保育所における感染症対策について担当する。	オムニバス方式
	富山大学	子どもの食と栄養Ⅰ	子どもの健やかな発育・発達のために食事の摂り方は重要である。本授業では、子どもの食生活を考える上で基盤となる栄養の基礎知識を習得すること、妊娠期(胎児期)と授乳期における栄養と食生活の特徴を理解することを到達目標とする。演習を通して、妊娠期(胎児期)から生涯を通じた健康における適切な栄養摂取の重要性についての理解を深め、保育者として実践につなげていくための能力を高める。	
	富山大学	子どもの食と栄養Ⅱ	本授業は、子どもの食と栄養Ⅰを履修していることを踏まえて進める。乳児期、幼児期、学童期、思春期の子どもの身体の発育ならびに心の発達における食生活の特徴について学び、その役割を主体的に考え、保育者として実践につなげていくための能力を高めることを到達目標とする。発達段階別に子どもの栄養や食生活の問題点と対策についてさまざまな資料を活用しながら演習を行い、その支援のあり方について主体的に考える態度を養う。	
	富山大学	社会的養護Ⅲ	児童福祉施設で生活している子どもたちの施設養護の現状と課題を理解し、支援者による基本的な支援と連携の在り方を理解するために、施設養護の種類、施設養護のプロセス、基本的な養護援助・支援、子どもの心の援助、親子関係への援助、児童福祉施設の運営管理、児童福祉施設における支援者の資質と倫理について概説する。基本的な支援の理解につながるように、具体的な事例や模擬ケース会議を想定した演習や討論を含めながら概説する。	
	富山大学	保育実習Ⅰ	この授業は保育所実習と施設実習の2つの内容からなっている。まず、保育所または幼保連携型認定こども園の0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスにおける乳幼児の発達の様相を体験的に理解する。次に保育の視点及び保育内容の指導や、養護のあり方を、実習体験を通して学ぶ。さらに実習の振り返りや保育士等からの助言指導を踏まえて部分自習・責任実習を行い、乳幼児の理解や保育の指導法への理解を深める。次に、児童福祉施設を中心とした社会福祉施設における児童や障害者に関わることを通して、社会的養護が必要な児童や障害のある児童・青年・成人の個性の理解を深める。さらに実習の振り返りや児童指導員等からの助言指導を踏まえて、福祉施設における専門的な視点のあり方を学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育士に関する科目	富山大学	保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、各自の実習に向けた研究課題を設定する。複数の教員による指導を受けながら、保育所実習における研究課題を決定し、それを実現するための学び方を設置する。施設実習においては、各自が配属される様々な福祉施設（乳児院・養護施設、児童発達支援センター、多機能型障害者支援施設など）の特徴を主体的に学び、各自の実習に向けた研究課題を設定する。事後指導においては、各自の実習体験を振り返り、保育所や福祉施設からの実習評価に基づいて、今後の自らの学びと課題を明確にする。	
		富山大学	臨床発達心理学Ⅰ	子どもの発達のみならずのうちに、家族関係を中心とした人間関係に起因する心の傷や、不適切な養育によって生じる脳機能の発育不全について学ぶ。また児童虐待を生じやすい4つの危険因子（親の要因・子どもの要因・家族関係の不和・社会的な孤立）について事例を通して学ぶ。これらの知識や、児童福祉論Ⅰ・Ⅱや社会的養護Ⅰ～Ⅲで学んだ知識や技能を合わせて、それぞれの危険因子に対してどのように対応すべきかを立案できるようにする。	
		富山大学	臨床発達心理学Ⅱ	発達のみならずのうちに、家族関係を中心とした人間関係による心の傷や脳機能の発育不全が早期に解消されなかった場合に、その後の人格形成にどのような悪影響を及ぼすかを学ぶ。具体的にはB群パーソナリティ障害（反社会性パーソナリティ障害、自己愛性パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、演技性パーソナリティ障害）の基準と行動特徴、対応の仕方を学ぶ。またいくつかの事例を通して、パーソナリティ障害を抱える人（例えばモンスター・ペアレント）に対する関わり方の基礎的な知識・技能を習得する。	
		富山大学	発達福祉統計学Ⅰ	社会科学の研究に必要な統計学の基礎知識と、統計解析ソフトウェア（SPSS）の使用法を習得する。この授業ではまず、社会科学で扱う尺度の4つの水準（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度）の特徴と可能なデータ変換について学ぶ。次に記述統計としての代表値・散布度の種類とその利用方法、探索的データ解析（箱ひげ図の活用）によるデータの概略を読み取る方法を学ぶ。また、名義尺度の関連性を検討する方法として χ^2 乗検定の原理と分析方法を学ぶ。	
		富山大学	発達福祉統計学Ⅱ	この授業ではまず、推測統計である平均値に関する検定を学ぶ。具体的には2種類の平均値を検定するt検定、3種類以上の平均値を検定する分散分析の基本的な原理と、分析結果の読み取り方を学ぶ。さらに相関係数の基本的な考え方・読み取る際の留意点について学び、相関（共分散）関係に基づいた多変量解析の基礎（重回帰分析、因子分析）の基本的な考え方と分析方法を学ぶ。これらの分析について、統計ソフトウェア（SPSS）の使用法についても学び、課題学習を通して実際に分析を行ったり結果を読み取ったりする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 保育士に関する科目	富山大学	地域子育て支援論演習Ⅰ	まず、富山市内の児童館が主宰する子育てサロンの活動に参加し、2歳児とその保護者に実際に関わる体験を積む。こうした体験学習を通して子育て支援に必要な基礎的技術を習得する。また児童館指導員からの助言指導を踏まえて、子育て支援サービスを提供する際の心構えや留意点についても学ぶ。さらに利用者へのインタビューなどを通して、利用者のニーズの把握・サービスの提供・評価のプロセスといった支援の立案と効果測定の基本的な考え方についても学ぶ。	
	富山大学	地域子育て支援論演習Ⅱ	地域子育て支援論演習Ⅰで学んだ知識や技能を踏まえ、利用者のニーズを把握した上で児童館指導員の助言を受けながら子育てサロンの活動を実際に企画・運営する体験を積む。子育てサロンにおける2歳児とその保護者を対象とした部分保育の立案・実施・振り返りを繰り返しながら、福祉サービスを提供する際にPDCAサイクルを円滑に進めていくことの重要性を学ぶ。これらを総括して、幼稚園教諭や保育教諭に求められる保護者支援の基本的な姿勢を主体的に考え続ける力を修得する。	
	富山大学	保育実習Ⅱ	まず保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった自らの課題を克服するためにはどうすればよいかを実習前に十分に考える。それを踏まえて、保育士・保育教諭としての専門性を高めるために、保育所または幼保連携型認定こども園の0～5歳児クラスにおける保育体験を行う。専門性を向上させるために、どの年齢の乳幼児と関わるかについても主体的に検討する。さらに実習中の体験の振り返りと保育者からの助言指導を踏まえて、各自が課題として設定した乳幼児の理解、保育内容の理解、養護についての理解をよりいっそう深める。	
	富山大学	保育実習Ⅲ	まず保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった自らの課題を克服するためにはどうすればよいかを実習前に十分に考える。それを踏まえて、保育士・保育教諭としての専門性を高めるために、自分が実習を行う児童福祉施設（乳児院・養護施設、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、障害児入所施設等）の利用者に対する専門的な支援のあり方を体験的に学ぶ。また、実習中の体験と保育士や児童指導員等からの助言指導を踏まえて、社会的に養護が必要な児童や障害のある児童についての理解を深める。	
	富山大学	保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった各自の課題を改めて検討する。複数の教員による指導を受けながら、各自の課題を解決するための保育の方法を主体的に考え、実習体験に臨む。事後指導においては、各自の実習体験を振り返るだけでなく、実習施設からの評価を反省的に受け止め、将来に向けた自らの学びの課題を明確にする。	
	富山大学	保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった各自の課題を改めて検討する。複数の教員による指導を受けながら、各自の課題を解決するための保育の方法を主体的に考え、実習体験に臨む。事後指導においては、各自の実習体験を振り返るだけでなく、実習施設からの評価を反省的に受け止め、将来に向けた自らの学びの課題を明確にする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(富山大学教育学部共同教員養成課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	哲学入門として、哲学の主要3分野である(1)形而上学(存在論、人格の同一性、死)、(2)心の哲学(あるいは認識や知覚・概念の哲学)、(3)科学哲学(科学方法論、個別科学の哲学、科学と倫理)のうちから、それぞれ入門的な話題を取り上げる。各セッションの後に、クリティカル・シンキングの時間を設け、哲学的議論を通じて、より内容を深く理解していく。授業やディスカッションを通じて、哲学的思考を養い、自分にとっての哲学的課題が何であるのかを見い出すことがねらいである。	
		人間と倫理	西洋の古代から近現代までの倫理思想、及び日本・東洋の倫理思想を素材とし、善悪、正義、幸福、人間関係の規範など、古来、人間が取り組んできた「倫理」をめぐる問題について考える。過去の思想を踏まえながら、現代に生きる我々直面する問題にどのように取り組んでいくか、他者とともによりよく生きるためにはどうすればよいかについても、考える。本授業を通して、主体的に倫理について考える姿勢を身に付けることを目的としている。	
		こころの科学	心理学の基礎的な5つの領域(認知・学習・社会・感情・人格)を中心に概観し、心の複雑さや不思議さについて理解する。また、心理学に関するさまざまなトピックスを理解することを通して、自らを取り巻く世界や「ものの見方・考え方」を再認識することで、心だけでなく物事を実証的に検討するための姿勢を学び、自分の興味関心のある分野に対して学際的に生かせることを目的とする。	
		日本の歴史と社会	日本の歴史の基本的な知識の修得を目的とし、歴史学の研究方法や考え方、研究材料の説明を行った後、日本史全般について近年話題となっている事項の解説を随時加える。さらに、富山県の歴史の個別研究を取り上げ、富山県の遺跡・史跡や立山についての説明を加えることで、学生が地域に寄与することを促すとともに、歴史研究のおもしろさを伝える。	
		東洋の歴史と社会	東アジアの核をなす中国の歴史を『史記』や『漢書』あるいは『資治通鑑』などの具体的な文献史料を読み解きながらたどるとともに、いわゆる中国文化圏ではギリシア・ローマにはじまるヨーロッパのhistoryとは異なる歴史の語りが長く行われてきたことを講義する。このことは日中韓の三国でしばしば軋轢を生む歴史問題とも無縁ではないが、高校まで学んできた世界史とは違う視点から歴史を考える姿勢を養う。	
		西洋の歴史と社会	ヨーロッパを中心に、ローマ帝国、中世ヨーロッパ、ヨーロッパにおけるキリスト教、ルネサンスと科学革命、18世紀における植民地の拡大、産業革命、近代市民社会の形成など、西洋史に関する基礎的な講義を行う。高校までに学んだ世界史の知識を再確認しつつ、一般教養として知っておくべき歴史上の人物についても、適宜説明する。様々な時代の社会の特質を理解することで時代と社会の変化を学び、現代を相対化できる豊かな視点を養う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文科学系	日本文学	<p>日本文学の中で、上代から近世に至る古典の諸作品を取り上げ、その世界の内容と魅力を、その作品が作られた経緯と絡ませて解説する。その作品成立のドラマや作品の見所や古典作品の現代における再生の姿などについても言及する。日本古典文学作品について理解を深めつつ読解の力を養うとともに、それぞれの作品世界に応じて読み味わう方法を身に付け、古典作品の世界に興味・関心を持つことをねらいとする。</p>	
	外国文学	<p>西洋古典古代の文学作品を通して、多様な世界の見方と教養を身に付ける。時代も文化も異なる外国の文学作品を理解するためには、文字を読めたところで十分ではない。その作品の背景にある文化、伝統、教養についての知識を持って初めて理解することができる。作品世界に近づくことにより初めて見える世界を知る喜び、作品と対話するおもしろさを体験することで、他者を理解する感性や本を通して読み取ったことを言葉によって表現する力を身に付けることを目的とする。</p>	
	言語と文化	<p>本授業科目では、私たちに身近な日本語や富山県の民俗文化などの事例を含む日本語の諸方言や諸現象の多角的な観察と分析を出発点に、英語や時には世界のあまり馴染みのない言語などの諸現象と関連づけ、言語の多様性と普遍性についての理解を深めることをねらいとする。また、富山県の事例を取り上げ、民俗語彙との関わりを重視しながら一瞥し、日本全体における富山県の位置付け、富山県の東西差や地域差を理解する。</p>	
	音楽	<p>本講義により一般的に馴染みのない総合芸術と言われる舞台作品に焦点を当て、作品の背景や作曲家の特徴等を理解するとともに、音楽を楽しむ心、作品を尊重する心を養う。達成目標は次のとおりである。1. 舞台作品の歴史的流れを理解する。2. 作品を鑑賞し、作品の背景や作曲家の特徴、人間関係等を理解する。3. 原作がある場合は相違点を探る。4. 課題となった合唱曲を楽しんで演奏する。</p>	
	美術	<p>本授業科目は、人文科学の一領域である美術史学の視点から、美術とは一体、どのような視覚造型表現なのか、美術という芸術分野を主に構成する絵画の基本的な性格とは何なのか、そして、個々の作品を観るためには、どの程度の知識と心構えが必要となるのかを理解してもらうことを目的としている。いわば、現代の教養人が最低限持ち合わせていなくてはならない美術鑑賞作法の入門講義である。その内容は、歴史・理論系の勉学を志す学生のみならず、創作者たらんとする学生にとっても有益となる。</p>	
美術表現A	<p>本授業科目は、モチーフを描く、イメージを描く、正確に描く、といった課題を通して、多様なものの捉え方と伝え方を学ぶことをねらいとする。学生は、各課題における「描く」ことの基本理解についての説明を受けたうえで、各課題の演習に取り組み、最後にその課題を通して見えてくる「ものの捉え方と伝え方」について考える。多様な視点で事象を捉え、さらにそれを多様な手法を用いて表現するという、どのような専門分野の学生にとっても必要となる能力の素養を身につけることを目指す。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文科学系	美術表現B	<p>本授業科目は、立体的な造形表現を行う上で基本となる基礎的な手法を学ぶことをねらいとする。具体的には、身近な「紙」という素材を用いて様々な形（連続性のある形、強度のある形、積み上げる形等）を表現することに対する理解を深めたいうで、それらの形を表現する演習（紙立体の制作）に取り組む。達成目標は次のとおりである。1. 基本的な彫刻・立体感覚を養い想像力を身に付ける。2. 紙素材の扱い方の技術や、表現の幅を獲得する。3. 審美性や美しい表現について自らの手を動かしながら探れるようになる。</p>	
	言語表現	<p>本授業科目では、大学における図書館活用の仕方を体得し、レポート、論文等の作成に関する基礎的な考え方や具体的な技術を学ぶ。達成目標は、1. 大学における図書館活用の方法について基礎的な知識を理解すること。2. 実際にレポート作成の演習を通じて、レポート・論文等の作成技術を身に付けることである。具体的には、レポート・論文が備えるべき要素や「語句」「文」「段落」レベルでの書き方を学び、研究テーマの発想法や取材・選材活動の方法を知ること、推敲・校正の在り方や論文タイトルと論旨規定文の関係や作成レポートに関する批評に関する知識を身に付ける。</p>	
	治療の文化史	<p>現代を生きる私たちにとって、伝統的身心観に基づいた治療行為とは、どのように活用されるべきものなのか。食養生、呼吸法、睡眠や夢への向き合い方など、先人たちの取り組みを辿ることを通して、これからの治療のあり方、その可能性について考察していく。治療行為の選択にみる歴史性や、文化的特性を学ぶことを通して、自らの身心に主体的にはたらきかける姿勢を涵養することが、本授業の目的である。</p>	
	異文化間コミュニケーション	<p>本授業科目のねらいは、次のとおりである。1. 言語、文化、コミュニケーション学の基礎理論について概観し、自身のコミュニケーション・ストラテジーを自覚する。2. 外国人研究者や留学生をクラスに招き、インタビューや意見交換から異文化交流を体験し、異文化の視点を意識する。3. 異文化に関する各自のテーマを発見し、資料収集や調査等を通じて、問題解決を図る。4. 異文化に関する様々なテーマについて意見交換し、他者の視点から多角的に考え、自身の意見を確立する。</p>	
	異文化理解	<p>単に諸外国の文化を理解するだけでなく、異文化を理解することで自国の文化の深い理解に至ることをねらいとしている。異文化コミュニケーションを通して多文化世界と文化の多様性について考える。グローバル化されつつある社会の文化について学び、異文化を理解し、その対応方法を異文化間コミュニケーションとして身に付け、さらに「異文化」を通して「自文化」への理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 社会科学系	現代社会論	<p>現代社会は様々な事象であふれている。それを読み解く学問である社会学や文化人類学、国際関係論などでは、それぞれの視座・角度から分析がなされている。本講義では、現代社会の見方を知り、自己の関心を知る中で、社会にある事象をそれぞれの興味関心に引き寄せたり、新たな興味関心を掘り起こしたりしつつ、履修者各自の学問的な追究につなげることをねらいとする。</p>	
	日本国憲法	<p>憲法の内容と歴史、日本国憲法の特質、人権論、統治機構の基礎事項を理解し、論点を考察する。</p> <p>自立した市民として、地域で、国際社会で社会生活を送るうえで、最高規範として位置づけられる憲法の価値を活かす能力を身につけられることが長期的なねらいである。そのために、個別のテーマごとに憲法の目指す理念と複数の考え方が対立する現状を理解したうえで、自分なりの意見を持てるようになることを、授業各回のねらいとする。</p>	
	国家と市民	<p>本科目は、近代以降における国家と市民のあるべき関係性について、公法学（刑法学・刑事訴訟法学など）または政治学の観点から洞察を深めるものである。たとえば、刑罰適用、先進医科学技術規制または刑事司法制度などの問題点を掘り下げることによって、また「政治的なもの」に体系的かつ分析的にアプローチすることによってである。こうした洞察を深めることにより、市民として国家をどう構成し規律するのかを理論的かつ主体的に考察できるようになることを達成目標とする。</p>	
	経済生活と法	<p>経済活動に密接に関連する法分野としては、商法、経済法、国際取引法など様々なものがあり、自由な経済活動の促進を目的とするものも、社会福祉等のためにその抑制を目的とするものもある。本科目は、それらの全体を俯瞰しまたはその一部分を掘り下げることによって、社会・経済の仕組みを法を通して理解するための手がかりを提供するものである。達成目標は次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と関わりの深い法領域についての基礎知識を修得する。 ・経済活動に関する法制度の課題について、正確な理解に基づいて議論することができる。 	
	市民生活と法	<p>法の理念と共に、私法を中心とする現代日本法の概要と体系について説明する。どのような職業についても、必ずそれぞれの業界を規制する法律や規則があり、仕事をやる上で、知っておくべき知識を学ぶとともに、細かい法令を作り出す、法の理念や市民法体系と考え方をしっかり理解する。達成目標は次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活からビジネスと関わりの深い法領域についての基礎知識を修得する。 ・現代日本法の理念とその体系について理解する。 ・法の理念が法律の解釈を指導していることを理解する。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 社会科学系	はじめての経済学	<p>経済学の方法論及び基礎概念と現在の日本経済が抱える諸問題を理解することをねらいとし、経済学の特徴、特にミクロ経済学とマクロ経済学の方法論の違いと後者の成り立ちの歴史的背景や経済活動を測る様々な規則、それに基づくGDPなどの基礎概念を学んだ上で、関連した新聞記事や映像を参考にしながら現在の日本経済が抱える諸問題を理解する。最終的には、基本的な経済用語など、経済に関する基礎的知識を理解して、新聞記事に登場する経済時事を説明できるようになることを目標とする。</p>	
	産業と経済を学ぶ	<p>21世紀の基本的特徴の一つは、経済が「人間と自然との共生」に向けて変容・転換していくことである。産業構造、消費構造、そして地域構造の高度化に起因して形成してきた悪循環再生産構造を脱却し、その行方は調和型循環社会の実現であろうと考えられることから、本講義では、人間・経済・自然を含む循環社会の視座に立って、産業連関表などのデータ分析を通じて、循環社会の構造的仕組みをその悪循環側面と調和的循環の側面把握することを目指す。</p>	
	経営資源のとらえ方	<p>本授業科目のねらいは現代社会における個人の仕事と企業の目的をより正確に理解し、自分のキャリアを考える力を養うところにある。</p> <p>本講義では、企業と其中で働いている従業員の両方の視点から、現代社会を最も象徴する組織である企業はどのような特徴を持っているか、そして企業のビジョンや経営目標を達成するため、企業組織の中で人々はどのように分業し、協調して仕事を進めているか、更に組織内で個人の仕事がどのように評価されているかというような問題について、具体的な事例を取り上げて解説する。</p>	
	市場と企業の関係	<p>本授業科目の目標は、マーケティングの基本的な知識を体系的に修得し、現実問題に対する応用力を養成することにある。本講義においては、環境条件の分析、標的市場の設定、マーケティング・ミックス（製品やサービスなどの提供物）の創造を主軸とするマーケティング・マネジメントの基本を学習することに主眼を置くことにする。マーケティングの基礎理論を体系的に指導することで、マーケティングの実際を伝える新聞や業界誌を読み解く能力やあらゆる組織のマーケティングを分析する視点や洞察力を養成する。</p>	
	地域の経済と社会・文化	<p>この授業では、主に日本の様々な地域を題材とし、地理学的な観点から地域の見方や考え方を検討する。</p> <p>担当教員の専門である地理学のごく初歩的な理論や分析手法を紹介するとともに、市街地再開発やまちなか居住促進、観光開発、文化の伝播、景観紛争など、地域に生起する具体的な課題を取り上げ、地域分析により検討する。それらを通して、地域の様々な現象を空間的に捉え、地域の成り立ちや課題について多角的に理解する力を養うことを授業のねらいとする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然科学系	自然科学への扉-A	<p>「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、初等的な物理知識（力学・熱学・波動現象・電磁気学・現代物理）の学修を通じ、自然界に起こる物理現象や身の回りにある電気機器などの機能を理解することを目標とする。</p>	
	自然科学への扉-B	<p>「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、初等的な化学知識の学修を通じ、現代社会と化学のつながりについて学ぶ。、世界を形作っている物質の基本的な性質について理解し、化学物質がもたらす地球上の環境問題を考えることができるようになることを目標とする。</p>	
	自然科学への扉-C	<p>「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、自然科学の基盤となっている数学について、高校までの数学との接続も考慮しながら、「集合と写像」「論理の基礎」など、数学の考え方の基礎、微分積分学と線形代数学の初歩、確率統計の基本事項などを、現代数学の視点に立って解説する。これにより、高校までで学ぶ基本的な数学に関する事項を現代数学の視点でとらえ直して理解できることを目指す。</p>	
	科学技術への扉-A	<p>「科学技術への扉」の2つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、技術立国の市民としての科学技術の基礎知識と最先端の科学技術への興味・関心の獲得を目的とする。特にこの科目では、エネルギー技術やマテリアル工学についての基礎知識と先端研究を学習する。これにより、エネルギーや材料技術に関する諸現象や社会における役割を理解することを目指す。</p>	
	科学技術への扉-B	<p>「科学技術への扉」の2つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、技術立国の市民としての科学技術の基礎知識と最先端の科学技術への興味・関心の獲得を目的とする。特にこの科目では、コンピュータや通信技術、情報処理システム、情報化社会での衣食住について、その先端研究を含めて学習する。これにより、情報化社会で必要となる基礎知識とリテラシーの獲得を目指す。</p>	
	生命の世界	<p>アストロバイオロジーの視点で、まず真の生物学とは何かを考える。更に宇宙における生物を構成する物質の形成、地球型生命の誕生から入り、水の性質と生命における水の重要性を理解することを目指す。生物生体膜の性質から細胞の形成を捉え、原核・真核生物を中心に生物大分類の枠組みを理解した後、植物の世界に入り、植物の機能から細胞を理解し、分類の基礎を学び、植物組織を理解した上で裸子植物・被子植物へと植物の進化を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学系	社会と情報の数理	本講義では、投票を集計する制度を数理的に考察する社会選択理論の入門的な議論を行う。我々が安易に実施する多数決の問題点をはじめとし、様々な投票の集計制度の長所と短所を紹介する。投票は我々の意思を表明する場であるが、そこで得られる結論は一般的に集計制度に依存することになることを解説する。本講義を通して、1. 基本的な推論を厳密に行う能力、2. 投票制度を抽象的に考える能力、3. そのメリットや問題点を論理的に議論できる土台を身に付けることを目標とする。	
	デザインと生物	様々な生物は、そのかたちを合理的にデザインすることで、生存能力を高め、環境に適応してきた。本講義では、生物学的視点から生物の形態や構造を説明すると同時に、芸術学的視点から、生物のかたちの表現法や美について説明する。これらを通し、生物への理解を深めるとともに、機能美や生物デザインについての知識を得ることを目的とする。	
教養教育科目 医療・健康科学系	医療心理学	心の機能について科学的に扱う心理学分野について、基本的な考え方や理論、法則などについて基本的な部分の修得を目指す。具体的には、心理学の基本的な考え方や研究方法、歴史だけではなく、神経生物学的観点から心理学や本能行動と学習行動、生理的動機、内発的動機及び社会的動機、社会的学習、欲求とフラストレーション・葛藤との関連などを解説し、概説できる能力を身に付けることを目標とする。	
	概説医療心理学	心の機能について科学的に扱う心理学分野について、基本的な考え方や理論、法則などについて基本的な部分の修得を目指す。具体的には、心理学への導入、歴史や考え方、心理学の分類、研究方法、感覚と知覚、学習、記憶、動機付、適応、欲求とフラストレーション、矯正医療、情動などの基礎的な知識を身に付けることで、各項目の概説ができる知識を身に付けることを目標とする。	
	認知科学	人間の知的活動（外界の認識、記憶、推論や意思決定、意識の働き）について、心理学を基礎に、脳科学や計算機科学からの知見と併せて理解する。達成目標は次のとおりとする。1. 人間の認知機能について、その特性を理解する。2. 人間の認知機能について、その研究手法を理解する。3. 人間の認知特性の現実場面への応用について考察できる。認知科学とは何か、また、感覚・知覚の過程、注意、記憶と知識の構造、言語と文章の理解、推論と意思決定、社会的認知、意識と無意識の科学を学ぶとともに、認知科学の応用についても触れる。	
	脳科学入門	神経科学の発達に伴い、脳機能に関する研究報告が増加している。これらの研究成果は、新薬開発や臨床への応用が試みられている。しかし、世の中には“脳科学神話”が氾濫し、マスコミをにぎわしている「脳科学」には証明されていないことも多く含まれている。本講義では、脳機能に関する最新の研究成果に触れつつ、感情、注意、記憶などの脳科学研究の実際について知り、その基礎を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 医療・健康科学系	生命科学入門	<p>現代社会における生命科学を理解するうえで必要なエッセンスを学ぶ。生命の起源、生物の多様性と生態系での物質の循環、ライフサイクルと死の概念、遺伝の法則、生物の増殖と生活環、生体内部環境の恒常性と生体防御の機構などを学ぶ。前半は、生命科学の大まかな概念を理解することに重きをおき、後半は、私たちの生活に関わるテーマや発展的なテーマを紹介する。</p>	
	免疫学入門	<p>近代免疫学は、マウスとヒトを中心とする医学の一分野として急速に進歩したが、生物の持つ生体防御の機構は、細胞が誕生した時点で既に生じていた。本講義では、細胞が自己と非自己を識別する機構に始まり、植物界・動物界といった広い視点から、生物が持つ生体防御の機構と進化について考察する。また、初期の講義で担当教員が生体防御機構の概説を行った後は、講義受講者が各個にこの分野の関するテーマを定め、チュートリアル形式の講義とする。</p>	
	身近な医学	<p>医学を学ぶ必要があるのは医学部の学生だけではない。なぜなら、誰でも医学の恩恵にあずかり、健康で文化的な生活を送る権利があるからである。しかし、医学を学ぼうとしても、専門的な知識を有していないと難解に感じてしまう。本授業科目では、主に医学部の教員により、我々の身近にある疾患等を対象として医学を解説する。本授業科目により、医学についての正しい知識を得て、自分の生活を見直し、正しい予防態度を身に付け、健康維持の大切さを認識することを目的とする。</p>	
	障害とアクセシビリティ	<p>今日的な課題を踏まえ、近年の新たな障害観について学ぶことによって、ダイバーシティや異文化に対する理解を深めることを目的とする。大学における障害のある学生への支援についても触れ、共に学ぶ上で必要な理解と配慮についても考える。障害者権利条約や障害者差別解消法などの障害に関する社会的動向や、障害の概念と様々な障害の特性について理解し、実際に必要な支援や配慮について検討するとともに、グループディスカッション等を通じて、社会的な課題への探求心と解決力を養う。</p>	
	医療と地域社会	<p>本授業科目ではグローバル（グローバル＋ローカル）な観点から「医療と地域社会」の現在・過去・未来を考察する。この考察は「医療と環境を包括するQOL(生活の質)」理念を導きとし、地域社会の「幸福度」に関する議論およびユネスコの「生命倫理15原則」を参照にする。講義の全体構成は、第Ⅰ部で「風土と健康」の世界医療史、第Ⅱ部で富山の医療事情に関する人文社会科学的考察、第Ⅲ部で医療事情の文化多元論的考察を展開し、最後に「SDGs推進と地域共生社会の模索」に即して「医療と地域社会」の未来像を描く。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	環境	<p>環境問題には、大気汚染、騒音、振動、ゴミ問題などの日常生活に関わる問題から、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、更に環境ホルモンなど地球規模の問題まで、非常に広範囲の内容が含まれている。本講義では、いろいろな専門分野の先生による輪講形式で、「環境」に対する多面的、学際的なアプローチを通して、我々の現代生活と環境との関わりを学び、現在及び将来に向けて我々がどのように行動すべきかを考える起点となることを目指す。</p>	
	ジェンダー	<p>現代社会のジェンダーに関わる問題について考える視点を確立するとともに、様々な領域におけるジェンダー問題を考える。安易に結論を出すのではなく、問題を多角的にとらえて深く考察する姿勢を育む。ジェンダーに関する通俗的な考え（例えば「女らしさ」や「男らしさ」に関するステレオタイプなど）を相対化することが最低限の目標とする。また、ジェンダーという問題が現代社会に深く関わっていることを理解する。</p>	
	技術と社会	<p>近年の世界は一見、原始時代と異なるように見られるが、基本的には全く変わっていない。火はエネルギーと言葉を換え、道具のものは材料と総称されている。しかし、時代とともに科学は進歩し、火=暖かい=エネルギーという単純な構図から、人間の生死、宇宙の構成そのものをエネルギーで解釈するようになっていく。ここでは深淵で広大なエネルギー理論の解説ではなく、より生活に密着し、日頃の生活の中をふと見回すと、エネルギーがあちこちで生きている事を講義を通して実感することを目的とする。</p>	
	現代文化	<p>本講義では、地方における政治参加とまちづくりについて扱う。社会に積極的に関わるためには、その地域が抱える問題を的確につかみ、解決の方向を考え、その実現に向けて動く、という3つの力が欠かせない。「現状把握」「将来構想」「将来実践」と呼べるこれら3つを養うに当たり、授業では、講義とグループワークを通して、good citizenとなるための力を追求する。</p>	
	人権と福祉	<p>人権と福祉に関わる様々な問題に対して、多様な視点から問題提起を行うことで、それらへの認識を深める。具体的には、介護の現場に関する知識、日本における先住民問題、歴史からみた在日朝鮮人問題、被差別部落問題、障害者問題などにおける事例を紹介することで、社会でその認識を活かすことができる能力を養うことを目的とする。</p>	
	環日本海	<p>本講義では、自然・社会・経済・医療などの様々な視点から、環日本海地域及び日本海沿岸地域について学ぶ。さらに、日本海や対岸諸国、日本海沿岸地域のことについて学び、専門教育での学修に活かす能力を養う。環日本海地域について、自然・社会・経済・経営・医療などの様々な視点から分析する。まずは、北陸3県の産業構造の特徴とその成り立ちを分析し、主要企業を紹介する。次に北陸企業のグローバル化の現状を、アジアを中心にいくつかの企業の事例で紹介する。最後に、狭い分野で日本あるいは世界でのトップシェアを誇る、北陸のニッチトップ企業を紹介する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	科学と社会	<p>本講義は2つの講義内容から構成する。一つは、科学の発展や進歩を歴史的に捉えながら、科学の理論や技術の現時点における到達点を、科学を身近に体験してもらいながら多くの事例で解説することである。もう一つは、地球規模のレベルでの環境破壊や環境汚染問題について触れながら、科学の発展そのものに対する理解と評価の目を積極的に養うべく、さまざまな課題を投げかける。科学と社会生活との関わり合いという観点から、現状を再認識及び再確認するとともに未来社会のあるべき姿を展望してもらうことが、本講義の目的である。</p>	
	アカデミック・デザイン	<p>本講義では、最後まで真剣に付き合う過程を通して、自己や他者や社会と向き合い、自分が成長できたと実感できることを目指す。①自分を振り返る②アカデミックな学び③虚偽と欺瞞に満ちた世界と向き合う④大学精神の堅持を学ぶ。具体的には、富山県と五福キャンパス（学問体系）、大学で何を誰に学ぶのか（真の学問）、なぜ“Education first”なのか（偏見と差別）、自由研究って何だったんだらう（学問の創造性）、学問の中立性とは何か（学問と政治）などの事例を紹介する。</p>	
	ビジネス思考	<p>自らの職業（進路）を考える際には、実際の社会やビジネスの仕組み、そしてそこで働く人々の情報が不可欠です。しかしながら、情報が不足している中で、卒業が近づくと学生は自らの職業を選択することが求められる。本講義では、将来の職業選択に備え、次の講義内容を設定する。1. ビジネス思考とは何かを考える。2. ビジネスの仕組みを学ぶ。3. ソーシャルビジネスを考える。4. ビジネス現場の実際を学ぶ。5. 私にとって職業とは何か。人生や社会との関わりの中で、「職業とは何か」について知る。自らの人生体験を振り返りながら職業が持つ意義を考える。</p>	
	データサイエンスの世界	<p>様々な分野において資料やデータがどのように活用されているかを学ぶことを通じて、今後の社会で活躍するにはデータサイエンスの素養を持つことが重要であることを理解することを目標とする。大学の各部局または外部機関から講師を招き、その専門分野でのデータ活用の実際とデータを適切に扱うことの重要性及びそこで用いられるデータサイエンスの技術につき学ぶ。</p>	
	データサイエンスの実践	<p>データを利活用するにあたっては、統計、コンピュータを用いたデータ処理、プログラミング基礎等の知識と技術が重要になる。本授業では必修科目である「情報処理」で学んだIT技術をベースとして、それをさらに発展させたデータサイエンスの基礎技術を身につけることを目標とする。LMSを用いたオンデマンド型の授業で理論を学び、それを端末室での対面授業で実践する形式で授業を行う。</p>	
	教養としての都市デザイン学	<p>21世紀は都市の時代と言われ、2050年には世界の人口の7割が都市に居住すると予測されています。また、世界は少子・高齢化、地球温暖化という問題に直面しています。したがって、人口問題、環境問題に対応する、「持続可能な都市の実現」は、人類共通の課題となっています。この授業では、はじめに、現在世界が直面している共通の課題について学びます。そのあとで「持続可能な都市の実現」とはどのようなことなのか、そのためにはどのように都市をデザインすべきなのか、実践例を通して学びます。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	SDGs入門	<p>この科目では、SDGs (sustainable development goals) という、2015年9月25日、第70回国連総会において採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」の内容を学びます。「持続可能な開発目標」(SDGs)とされているのは、17の目標に当たります。この全体像を把握し、また一部についてそれぞれの専門分野の教員から解説を受け、これからの日本や世界を生きて行くみなさんにSDGsを意識した「ものの見方」を身につけてもらいたいと意図しています。学内の教員が持ち回りで専門分野とSDGとの関連に触れながら講義形式で紹介します。</p>	
	平和学入門	<p>平和は、平和でないときに初めて実感できるものである。しかし、平和が損なわれているとき、それが何かを考える暇はない。力の前に脆く、その歴史は短く、求める人の声がかき消されがちである。平和を考えることは、平和な社会に生きている者が得られる特権であり、また責任でもあることから、本講義では、平和を真剣に考え、実現するために、現代世界が抱えている問題を的確につかみ、あるべき世界の姿を描き、その実現に向けて動く力を身に付ける。</p>	
	東アジア共同体論－政治・経済・文化－	<p>本授業科目は、富山大学の学部の枠を超えた多様な学問領域である国際経済学、国際経営論、国際政治、歴史、観光、環境、国際政治から見た地域統合、金融危機の影響、アジアの社会福祉、国際分業の方向性、観光政策、歴史認識、文化政策などの多様な内容を取り挙げる。アジア共同体論の背景と関連した政治、経済、文化の現状を知るとともに、東アジアの地域統合に向けた現状の動きに関する基礎的な知識を理解する。</p>	
	富山から考える震災・復興学	<p>本授業科目においては、被災地の災害や復興の現状や今後の計画について、富山という地点・視点から主体的、積極的に学び、今一度大震災を認識し、多角的な観点から考察する。そして、被災地との連帯感を高め、自分たちのありようを主体的に考えることが目標である。また、今後の人生の中で、東日本大震災のような未曾有な災害が発生した時の心構えについて学び、東日本大震災について、文系および理系から多角的に考える。様々なアクティブラーニング(主体的学習)により、発言力・傾聴力・論理的思考力を高める。</p>	
	環境と安全管理	<p>本授業科目では、環境マネジメントシステムについての理解を深め、環境に関連した法律についての知識や、国内外の環境問題について概要を解説するとともに、公害や労働災害の事例紹介や環境に関連した法律・国際条約、リスクマネジメントや安全衛生についても取り扱う。身の回りの環境に配慮した生活を行うために必要な知識や考え方を身に付ける。特に、環境問題や省エネルギー、リサイクルなどについて具体的な提案や取り組みができるようになることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	万葉学	<p>現存する日本最古の和歌集である「万葉集」は世界に誇るべき文化遺産である。それは日本文学の原点であり、日本人の心のふるさとである。本授業科目では、「万葉集」の時代区分に従って、それぞれの時代の代表的な歌人を取りあげて、有名な歌を中心に代表作を深く読み込んでいく。日本文学の原点である「万葉集」を代表的な歌人とその代表作を中心に読み進め、その時代区分ごとの特徴等を学ぶことによって、古代文学の豊かさやおもしろさを知り、日本文学史の主流であった和歌の世界の原点を知ることができる。</p>	
	日本海学	<p>富山県は、環日本海地域全体を、日本海を共有する一つのまとまりのある圏域として捉え、過去、現在、将来にわたる本地域の人間と自然との関わりや地域間の人間との関わりを、総合学として学際的に研究しようと「日本海学」を推進している。本講義では、この日本海学と連携を保ちながら、自然科学と経済学の視点から様々な角度で北東アジアの環境を取り上げる。本地域の自然の価値を再認識し、環境問題のメカニズムや原因を知り、そして問題解決に関わる手法について理解を深め、北東アジア地域における人と自然との在り方について、自分なりの考え方ができるようになることを目標とする。</p>	
	富山大学学	<p>明治期以降の全国及び富山県における高等、中等教育機関設置に向けての動きを踏まえながら、旧富山大学の各前身校、戦後の新制富山大、富山医科薬科大学、高岡短期大学、そして三大学の統合による新富山大学設置から現在に至るまでの富山大学の歩み（歴史、教育、研究、社会貢献等）の理解を深める。これを受け、各学部の歩み（歴史、教育、研究、社会貢献等）を学び、社会的使命感を持つことを目指す。さらに、富山大学のこれまでの歩みを知り、その概要を説明できるようになる。</p>	
	とやま地域学	<p>本授業科目は、大学コンソーシアム実施科目として、富山国際大学が主催となり富山県内高等教育機関の全ての学生を履修対象者として開講する。本講義では、3つの分野から富山について学ぶ。一つは富山の歴史・文化、産業を歴史的な視点から学ぶ。次に富山の特徴でもある自然環境に着目し、水、災害、くらしなどから富山の特徴を学ぶ。これらを踏まえ、富山の将来を展望するため、富山県のデータ分析や富山県知事の政策をお聞きしながら、年配の方から若者まで活力ある富山の地域づくりについて各自が考える。</p>	
	時事的問題	<p>本授業科目では、社会がデジタルネットワークの発達により大きく変革しようとしている21世紀に、どのような視点と考え方そして行動が求められているか、いかに学修することが重要であるかを今後の大学生活に新しい視点を与える講義である。各界で研鑽と活躍をしている方の経験を事例として、その方の人生観も含めて解説することで、学生生活の価値を上げるための考え方を伝達する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	災害救援ボランティア論	<p>本授業科目では、災害救援ボランティア育成のカリキュラムをコアに、富山県の災害と防災対策、富山大学の研究者による独自の研究内容などを加えて、地域防災においてリーダーシップを発揮できる人材となるための学修を提供する。講義においては、危機管理医学や災害ボランティア活動の基本、地形と災害の予測、都市における減災対策、災害時の医療救援活動などを学ぶ。実習においては、普通救命(心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法)や倒れている人をどう救うかというトレーニングを実施する。</p>	
	感性をはぐくむ	<p>「感性をはぐくむ」と言うキーワードを基に、芸術やデザイン、人の脳や生理、哲学など各教員の専門分野からの切り口で「感性」について考察する。豊かな感性をはぐくむために自然や社会の中に存在するいろいろな要素について考察を深める。各分野の教員から言及される感性に対する考え方を理解し、感覚や精神が果たす役割を生活の中で意識して考えられるようになること、人の持つ感性の多様性や豊かな感性から生まれるものの可能性を知り、充実した人生を切り開くための糧に出来ることを目標とする。</p>	
	日本事情／芸術文化	<p>本授業科目では、日本の文化や芸術について、伝統的なものから現代のものまで幅広く扱う。様々な日本の文化に触れ、日本文化への理解を深めるとともに、母国の文化を客観的に見る目を養うことを目指す。最初の4回は、インターネットを使って、伝統芸能、美術、音楽などの芸術や文化をテーマに情報を収集し、各自レポートを作成し、グループごとにポスター発表する。これらを通じて芸術や文化に関わる基礎知識を得る。視聴覚教材の利用、書道や華道については実技、民謡や落語では実演を通して、日本文化への理解を深める。</p>	
	日本事情／自然社会	<p>本授業科目では、統計資料や視聴覚教材を利用しながら、日本の自然、産業、社会、文化等についての理解を深め、世界と照らし合わせて、北陸地方や富山の事情についても学ぶ。具体的なテーマとしては、日本の化学と工業、環日本海地域における環境協力、日本に分布する昆虫の多様性、小泉八雲と日本の自然、木育と食育、漆ジャパンと各国の漆事情、日本の素粒子物理学への貢献、日本のパワーエレクトロニクス技術、北陸の産業と企業、日本の地殻変動と海底資源、日本のパワーエレクトロニクス技術などについて解説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	学士力・人間力基礎	<p>本学学生が入学後の早い段階で、在学中の学修や学生生活に関する基礎や展望を学び、高い使命感と創造力のある人材となる必要性を意識することは、今後、大学生生活を送る上で非常に有益である。本授業では、多様な個性や経験を有した履修者全員が、自ら学修上や学生生活上の計画を立てて、正課内外及び学内外において主体的に学びや取組みを実践できるよう指導・支援する観点から、多種多様な事象や知見等に対して学生が能動的に向き合い、理解し、責任を持って自己を管理する重要性を学ぶ機会を提供する。</p>	
	富山学	<p>「富山県」という地域が、どのような自然的・文化社会的基盤の上に成り立ってきたのか、その過去・現在・未来について理解を深める。さらに、富山県が世界や日本の中でどのような独自性・固有性を打ち立てているのかを理解し、地域の課題解決や活性化に向けて学生自らが考え、行動する意識を持つようになることを狙いとする。また、フィールドワークや地域の人々との対話を通して富山の歴史的・文化的な成り立ちと現状について理解し、住環境や生活にみられる富山の価値に対する理解を深める。</p>	
	地域ライフプラン	<p>本授業科目は、富山県内の各地方公共団体と連携し、地域の人々との対話する機会を提供することにより、地元富山への意識・愛情・愛着を醸成し、地域における自らのライフプランを想定・作成することを目的としている。地域の魅力や課題などを地方公共団体における施策を事例として取り上げることで、富山に住むというライフプランを具体的に想定したり、単に「住む」を超えて地域に求められる人材として地域課題にコミットするために必要な意欲や見識とはどのようなものかを考えることを促す。</p>	
	産業観光学	<p>産業観光とは、産業活動に触れることを通じて製品の製造工程などを見学・体験し、知的好奇心を満足させる観光活動のことであり、企業にとっても信頼感を増し、新たな顧客の開拓や将来の人材育成、地域貢献につながる活動である。本授業科目では、産業観光や富山の産業構造を理解すると同時に、産業観光を実際に体験することで、現在の富山県内企業を知り、富山県の既存産業の再生や新たな産業を創生することで発展してきた富山の地域イノベーションを理解することで、県内企業が共通して求める「進取の気性」「富山県を愛する心」を涵養する。</p>	
	富山のものづくり概論	<p>本授業科目は、富山の重要産業の一つである素材産業を題材にして、その歴史や現状を工学的視点で理解し、富山のものづくりの魅力学ぶ。到達目標は次のとおりとする。1. 身の回りにある製品に使われている素材の種類と機能を説明できること、2. 富山の素材産業の特徴を説明できること、ならびに3. アルミニウム製品の特徴が説明できることを到達目標とする。さらに、現場技術者との対話の場を設けて富山のものづくりの底力と魅力そして発展性を理解し、富山でのものづくりに強い興味を持たせる構成とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目系	富山の地域づくり	富山県や市町村などの地方公共団体や国は、我々が暮らすまちを住みよいものにするために、様々なサービスを提供している。かつて、まちづくりは御上が行うもので、市民がそれに対して意見を出したり、自分たちでまちづくりに取り組んだりすることはなかった。しかし、現在では行政は市民の声を上げたり、まちづくりへの市民の参画を呼びかけたりしている。そのような流れの中、国土交通省、富山県、富山市、高岡市、魚津市はどのようなまちづくりに取り組んでいるのかを事例として取り上げる。		
	薬都とやま学	300年以上の歴史を有する「くすりの富山」の始まりは配置薬業である。配置薬業が基盤となり、現在の富山県は「薬都とやま」として、製薬産業に加えて多様な製薬関連産業が発達している。本授業では、全国的に例をみない「薬都」について、医薬理工学および人文社会学的見地から多角的に紹介・考察し、富山県の特長を学ぶ機会を提供する。		
教養教育科目	外国語系	ESP I (Level-based)	本授業では、高校までに習得した英語力の基盤の上に、習熟度別に編成したクラスにおいて、「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと(遣り取り)」「話すこと(発表)」の四技能・五領域についてバランスよく能力を伸ばすことを目標とし、後期開講のESP IIへの授業選択のための礎を構築し、さらにはその先にある、将来の専門教育に向けての基礎力を養うことを目指す。	
		ESP II (Interest-based)	前期ESP Iおよび基盤英語 Iで鍛えた英語の四技能五領域におけるスキルについて、以下の方法でさらにそれらを伸ばし、2年次以降の専門課程に必要な英語力につなげることを目標とする。 1) 担当教員の得意・専門分野ごとに「テーマ」を設定する。 2) 受講生は各自興味のある「テーマ」の授業を選択する。 3) 教員はテーマごとに受講生の興味を喚起させ、そのテーマに関する英語表現の習得を中心に英語力を向上させる。	
		基盤英語 I	本授業では以下の2つの目標を設定し授業を展開する。 1) e-ラーニングを利活用したTOEIC得点アップ [受講生]4月受験時の得点に対し、各受講生が5%から10%の得点アップを目標値として設定し、その目標達成にむけて大学が整備したe-ラーニングを活用する。 [教員] 各受講生のe-ラーニングの学習ログを点検しつつ、各担当者の方で受講生のe-ラーニングを支援する。e-ラーニングの学修状況を一定の割合で成績に加味する。 2) 英語の「読み」の方略の習得と「ライティング力」向上 習熟度別に緩やかに選定したテキスト群から教員はレベルに合致したものを選定し、各自のアプローチによって上記の目標を達成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	基盤英語Ⅱ	<p>本授業では以下の2つの目標を設定し授業を展開する。</p> <p>1) e-ラーニングを利活用したTOEIC得点アップ [受講生]4月受験時の得点に対し、各受講生が5%から10%の得点アップを目標値として設定し、その目標達成にむけて大学が整備したeラーニングを活用する。 [教員] 各受講生のeラーニングの学習ログを点検しつつ、各担当者の方で受講生のeラーニングを支援する。1月受験TOEIC得点と4月得点の伸びを一定の割合で成績に加味する。</p> <p>2) 英語の「発信力」向上 習熟度別に緩やかに選定したテキスト群から教員はレベルに合致したものを選定し、各自のアプローチによって上記の目標を達成する。</p>	
	ドイツ語基礎Ⅰ	<p>基本的なドイツ語の文法の規則を理解して応用できるようになることがねらいである。本講義では、教科書で学んだドイツ語の文法事項を基に、簡単なドイツ語の文を現在形で作ることができるようになること、辞書を使いながらドイツ語が理解できるようになることを目標とする。動詞の現在人称変化、名詞と冠詞、不規則変化動詞、命令形、冠詞類、疑問代名詞、人称代名詞、前置詞、形容詞、分離動詞、不定詞句、従属接続詞の知識を修得し、整理しながら授業をすすめる。</p>	
	ドイツ語基礎Ⅱ	<p>ドイツ語基礎Ⅰで身に付けた能力を前提に、更に高度なドイツ語の文法の規則を理解して応用することがねらいである。教科書で学んだドイツ語の文法事項を基に、複合動詞や再帰動詞を使った文、受動形、副文など、より複雑なドイツ語の文を作ることができるようになることを目標とする。比較変化、語法の助動詞、語法の助動詞・未来形、従属接続詞、分離動詞、非分離動詞、zu不定詞句、再帰動詞、分詞、関係代名詞、不定関係代名詞、受動形の知識を修得し、整理しながら授業を進める。</p>	
	ドイツ語コミュニケーションⅠ	<p>ドイツ語の基礎を学ぶ。単語の発音練習や簡単な会話的表現の口頭練習と、辞書を引きながら文章を読解する練習を2つの柱として授業を進める。ドイツ語のアルファベットや単語を発音できる。基本語彙を習得して、簡単なドイツ語文を読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭または筆記で表現できる。さらに、ドイツ語およびドイツ語圏、ヨーロッパ文化について、ある程度の知識を獲得する。</p>	
	ドイツ語コミュニケーションⅡ	<p>ドイツ語基礎Ⅰ（入門修了程度）で身に付ける能力を前提に、単語の発音練習や簡単な会話表現の口頭練習と、辞書を引きながら文章を読解する練習を2つの柱として授業を進める。基本語彙をさらに修得して、前期よりは少し難しいドイツ語文でも読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭又は筆記で表現できるようになることを目標とする。また、ドイツ語及びドイツ語圏、ヨーロッパ文化についての知識を更に増やす。</p>	
	フランス語基礎Ⅰ	<p>フランス語を初めて学ぶ方を対象に、アルファベットの読み方から文の組み立て方まで、フランス語の決まりを解説する。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験5級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を更に固めると同時に、日常生活に必要な会話表現を理解し、運用できるようになる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	フランス語基礎Ⅱ	フランス語基礎Ⅰで身に付けた能力（入門修了程度）を前提に、日常生活に必要な会話表現を、さらに深く学ぶ。本授業科目の履修により実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要な基本的な会話表現を理解できるようにする。	
	フランス語コミュニケーションⅠ	フランス語を初めて学ぶ方を対象に、アルファベットの読み方から始め、発音の基礎を解説すると同時に、日常生活に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験5級合格程度の実力が身に付けられることを目標とし、併せてフランス人やフランスの文化についての知識も深める。毎回の授業では、場面に応じた会話を聴き、フランス語の会話表現、新しい単語の発音・意味・用法などについて解説する。最後に、ペアを組んで会話を復唱しながら練習することで、会話する力を身に付ける。	
	フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語基礎Ⅰで身に付けた能力（入門修了程度）を前提に、日常生活に必要な会話表現を、さらに深く学ぶ。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を更に固めると同時に、日常生活に必要な会話表現を理解し運用できる。後期修了の時点で、実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力を身に付ける。前期同様、毎回の授業では、場面に応じた会話を聴き、フランス語の会話表現、新しい単語の発音・意味・用法などについて解説する。最後に、ペアを組んで会話を復唱しながら練習することで、会話する力を身に付ける。	
	中国語基礎Ⅰ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。ピンインと呼ばれる発音記号に基づき、声調を含めて正確な発音の方法を学修する。次に、基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学修し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身に付ける。テキストに沿って肯定文、否定文、疑問文や動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文といった文の基本構造や時間表現などの初歩的な文法を学んで理解し活用できるようになることを目指す。	
	中国語基礎Ⅱ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。ピンインと呼ばれる発音記号に基づき、声調を含めて正確な発音の方法を学修する。次に、基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学修し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身に付ける。テキストに沿って前置詞・助詞・助動詞・補語などの基本構造や比較・使役・受身などの文法を学んで理解し活用できるようになることを目指す。	
	中国語コミュニケーションⅠ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。本授業科目では、基本的な会話文の理解と発音練習、例文を中心とした言い回しの解説、ヒアリング・スピーキングなど表現の練習のサイクルを繰り返し行う。これらを通し、発音をマスターすることを目指す。また、言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などの映像教材も利用する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	中国語コミュニケーションⅡ	<p>本授業科目では、テキストの本文や例文の朗読を通して、ピンインの読み方を繰り返し復習し、中国語がより正確に発音できるようになることを目指す。併せて、自己紹介や簡単な旅行会話や手紙文などの中国語表現を修得する。基本的な会話文の理解と発音練習、例文を中心とした言い回しの解説、ヒアリング・スピーキングの練習のサイクルを繰り返すことにより、発音をマスターすることを目指す。また、言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などの映像教材も利用する。</p>	
	朝鮮語基礎Ⅰ	<p>本授業科目では、文法の理解と修得に比重を置き、文字の読み書き、発音のルール、現在終止形、否定表現、疑問表現を解説する。これらを学ぶことで、朝鮮語の文字、発音、短い文章を理解し、作文できるようにすること、また、朝鮮語を表す文字であるハングルを修得し、作文できるようにすることを目指す。また、朝鮮語の基礎を学ぶと同時に、言葉の学修を通じてその背景にある文化についても取り上げる。</p>	
	朝鮮語基礎Ⅱ	<p>本授業科目では、朝鮮語基礎Ⅰで身に付けた能力を前提に、文法の理解と修得に比重を置く。連体形、接続形、補助用言、待遇法[上称・略待上称・下称・略待]、尊待表現、未来終止形、間接話法を解説する。これらを学ぶことで、複雑な文法を理解し、表現の幅を広げるとともに、音の連続である朝鮮語を聞いて、意味のまとまりに区切る力を養うことを目標とする。また、朝鮮語の基礎を学ぶと同時に、言葉の学修を通じてその背景にある文化についても取り上げる。</p>	
	朝鮮語コミュニケーションⅠ	<p>本授業科目では、言語知識の基礎を学びながら、韓国語、韓国の社会・文化に触れるとともに、4技能（話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと）を総合的に学修することで、韓国語能力試験（TOPIK 1）の合格を目指す。具体的には、韓国語の概説、文字、助詞、指定詞、存在詞、位置名詞、否定形、不可能形、数詞についてを学んだ後、挨拶や感謝の言葉、有声音化を学んだ後、定型的な謝罪や電話のかけ方、日付を尋ねる、地図を見ながらの簡単な会話を身に付ける。</p>	
	朝鮮語コミュニケーションⅡ	<p>本授業科目では、朝鮮語コミュニケーションⅠで身に付けた能力を前提に、韓国語、韓国の社会・文化に触れるとともに、4技能（話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと）を総合的に学修することで、韓国語能力試験（TOPIK 1）の合格を目指す。具体的には、日常生活における会話を学んだ後、日記の書き方や朗読を通して、作文や発音を学ぶ。また、韓国の映画やドラマ、歌を用いて、台詞の社会的・文化的背景を考察する。</p>	
	ロシア語基礎Ⅰ	<p>現代ロシア語の初級文法を学修する。ロシア語のアルファベットの読み方・書き方からはじめ、名詞の性・数と格変化、人称、所有代名詞、動詞の活用、形容詞・副詞の使い方など初歩的な事項を修得する。ロシア語のアルファベットの読み方・書き方を学ぶことや基本的な文法を理解し、短文が書けるようになることを目指すと同時に、ロシア語の語彙力をつけ、簡単な文の意味が理解できる能力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	ロシア語基礎Ⅱ	現代ロシア語の初級文法を学修する。「ロシア語基礎Ⅰ」で身に付けた能力を前提に、定動詞と不定動詞、動詞の未来形、完了体と不完了体、数詞を使った表現など、より高度な文法事項を修得する。本的な文法を理解し、短文が書けるようになることを目指すと同時に、ロシア語の語彙力をつけ、簡単な文の意味が理解できる能力を養う。また、辞書で単語を調べることができるようになる。	
	ロシア語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、ロシア語の文字、音声、アクセント、イントネーションなどの基礎知識を学び、その上で、挨拶・自己紹介・家族紹介などの慣用表現を学修する。日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、活用できる能力を身に付ける。毎回、発音練習、ヒアリングから始め、テキストに沿ってペアワーク、ロールプレイ、口頭練習を繰り返し行う。教科書を使って単語からフレーズへ、フレーズからミニテキストへと徐々に難度を高めていき、毎回の小テストや課題を通し、理解度をチェックする。	
	ロシア語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、「ロシア語コミュニケーションⅠ」で身に付けた能力を前提に、ロシア語の音声、アクセント、イントネーションなどを反復学修する。また、語彙力・文法能力の向上に合わせて、ロシアへ旅行すると想定し、どのように場所を尋ねるか、どのようにお店や市場で買い物するかなどをシミュレーションしながら、高度なロシア語会話ができるようになることを目指す。毎回、発音練習、ヒアリングから始め、テキストに沿って、ペアワーク、ロールプレイ、口頭練習を繰り返し行う。教科書を使って単語からフレーズへ、フレーズからミニテキストへと徐々に難度を高めていき、毎回の小テストや課題を通し、理解度をチェックする。	
	日本語リテラシーⅠ	本授業科目は、外国人留学生を対象にした授業科目であり、大学での学修に必要な日本語力、特に「読む」「書く」力と日本語でレポートや小論文を書くために基礎的能力を養う。論理的な思考及び論理的な文章の展開方法などを学び、テーマに沿ってレポートや小論文を書くための適切な文や文章を書くことができることを達成目標とする。具体的には、説明的・論述的な文章を読んで、その内容を正しく理解するとともに、文章の構成や論理の組み立て方などを学ぶ。	
	日本語リテラシーⅡ	本授業科目は、外国人留学生を対象にした授業科目であり、日本語で理工系の専門科目の授業を受講する際に必要となる科学技術用語の修得を目標とする。本授業科目の履修により、専門教育の授業科目を履修する際に必要な専門的な教科書に対する読解力、レポートを作成する能力、基礎的な科学技術用語の語彙（専門用語）を身に付ける。また、日本語特有の言い回しや、適切な言葉の選び方を学ぶとともに、専門用語を使うに当たりニュアンスの違いや日常会話で使われる言葉との使い分けを身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	日本語コミュニケーションⅠ	<p>本授業科目では、アカデミック・ジャパニーズを軸に学ぶことで、学生生活に必要な大学での勉学や研究に寄与する日本語を修得する。論文の読解を中心に授業を進めることで、必要に応じて自分で情報収集や考察する。その上で、適宜「読む」「聞く」「話す」「書く」あるいは文化的なことがらを含めた総合的な「日本語」の修得を目指す。特に、「話す」では、自分の調べたことや考えたことを人の前で話すというパブリック・スピーキングのトレーニングをする。なお、本授業科目は外国人留学生を対象とした授業科目である。</p>	
	日本語コミュニケーションⅡ	<p>「日本語コミュニケーションⅠ」で身に付けた能力を前提に、本授業科目では、更にアカデミック・ジャパニーズを軸に発展的実践的に学ぶ。それにより、今後の大学生活における大学生としての勉学と研究に寄与するような日本語を修得する。読解を中心に授業を進めているが、必要に応じて自分で情報収集や考察する。また、「読む」以外の「聞く」・「話す」・「書く」あるいは文化的なことがらを含めた総合的な「日本語」の修得も目指す。自分で調べたことや考えたことを、人前で口頭発表ができるようになることもねらいである。なお、本授業科目は外国人留学生を対象とした授業科目である。</p>	
	発展多言語演習ドイツ語	<p>本授業科目は、1年次にドイツ語に関する科目を2単位修得することを基礎履修要件とする。ドイツ語を続けたい、オペラ、ドイツ文化に関心ある者に対し、オペラを題材にドイツ語のより複雑な言い回しを学ぶ。一年次に学んだドイツ語の力をさらに発展させ、ドイツ語圏の文化や実用的教養の一つとしてオペラ鑑賞に親しむことをねらいとする。オペラを通してドイツ語の発音やリズムに慣れ、歌詞に現れた語彙・構文を学修し、ドイツ語の語彙・表現力を増やすことで、ドイツ文化・歴史及び芸術と社会の関係について理解を深める。</p>	
	発展多言語演習中国語	<p>本授業科目は、1年次に中国語に関する科目を2単位修得することを基礎履修要件とする。会話力、表現力、読解力のさらなる向上を目指す。ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話すの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させる。中級程度の読む、聞く、話すの中国語の運用能力を身に付け使いこなせるようにするとともに、文章が正しく理解できること、日常会話力が身に付くこと、中国語の文法を体系的に理解し応用できることを目指す。</p>	
	日本語コミュニケーションⅢ	<p>大学での研究活動に必要な日本語力の育成を目指す。自分の興味ある分野や専門分野に関連のあるテーマを選定し、そのテーマについて書かれた文章を読み、語彙や表現を増やす。テーマに基づいたアンケート調査を行い、口頭発表する。調査結果について口頭発表することで、協同的活動が効果的にできるとともに、自己評価や他者の評価を通して建設的な意見を述べる能力を身に付ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	外国語系	日本語／専門研究	外国人留学生を対象として、本授業科目では、大学で学修・研究活動する上で必要な科学技術文章に対する、読む・書く・聞く・話す能力を向上することを目的とする。ここでは、それぞれの専攻する専門分野だけでなく、一般的な科学技術文章も教材として用い、内容を正しく理解する力及び同じ専門分野の人以外にもわかりやすく伝えるための力を養う。様々な分野の教材から科学技術文章を学び、読解力をつけるとともに、科学技術文章をレポート形式でまとめることやスピーチのために構成する能力を身に付ける。
	保健・体育系	健康・スポーツ／講義	現代社会におけるスポーツの現状と課題について学び、そこから現代社会におけるスポーツの意義について、スポーツ原理、スポーツ史、スポーツ社会学の視点から考察する。また、運動や種々の環境に対する身体適応、各ライフステージでの健康・体力の維持や向上のために必要な運動処方に関する最新の知識と、その実践方法について学修する。また、発育発達や加齢によるヒトの身体の生理学的変化や運動に対する身体適応の差異を学ぶことで人間理解、他者を理解する能力を養う。
		健康・スポーツ／実技	若い時からの運動は将来の生活習慣発症予防に効果的であることが明らかとなっているが、全ての種類の身体活動やスポーツにその効果が認められているわけではない。過激なスポーツや運動は、時として健康に対し悪影響を及ぼすし、低レベルの運動負荷では効果が認められないこともある。本授業科目では、健康・体力づくりに効果的な運動に関する基礎的な知識を修得するとともに、各自で運動プログラムを作成し、トレーニングを行う。
	情報処理系	情報処理	本授業科目は、大学生に必要とされる情報リテラシーとして、情報とネットワーク・システム環境の習熟・活用、インターネット通信に関するITスキルの修得と、学習・研究に活用できる文書処理・データ処理・表現技術などのアカデミック・スキルを身に付けることを目標とする。大学のIT設備やネットワークを活用し、表計算ソフト等を用いてデータの集計やグラフを作成するなどの能力を養うとともに、情報セキュリティやルール、マナー等の基礎知識を有し、情報倫理を遵守し、情報の管理・安全を確保することができることを目指す。
		応用情報処理	近年の急速にビッグデータ化する情報化社会において、より専門的な情報通信技術(ICT)のスキルを有する人材が求められている。本授業科目では、情報処理において身に付けた技術を応用し、Cプログラミング、HTML&CSS、UNIXなどの入門を学ぶ。具体的にUNIXを例を挙げると、UNIX系OSの基本的な概念の解説とコマンドライン操作を通して、教養教育科目としてのUNIX, Linuxの初歩を学ぶことができる内容とする。

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	野外体験活動Ⅰ	小学校や中学校で実施されることの多い野外体験活動についてその活動の目的や学習効果について、実際に自然体験や合宿を通して実践的に学ぶ。また、野外体験活動の指導に必要な知識や技術を、実際に児童・生徒が宿泊に利用する施設において直接活動内容についての指導を受け、子どもの発達段階に対応した活動のあり方を、学生同士のディスカッションも取り入れながら学んでいく。	
			基礎ゼミナール	1年生を対象とした講義で、大学や学部の概要を理解して教員免許取得や指導教員の選択に役立てるとともに、大学での学びの技法を習得する。具体的には、図書館の利用方法や、ネットワークリテラシー、情報の整理法、レポートの書き方、プレゼンテーションのスキルなどを身につけ、大学での学びを発展させていく基盤を整えることを目的とする。	
			地域教材研究（富山学）	本講義は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、(i)教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに、(ii)教材開発などの実践的指導力の向上を図ることである。実施にあたっては、富山県教育委員会と連携を取りながら、第3回から14回までの内容で、小・中・高のいずれかの校種の実務経験教員である指導主事が、学校教育の実情を踏まえた上で、富山県内の地域教材研究のあり方について講義を行う内容となっている。なお、第1回「『富山学』とは何か」2回「地域教材研究とは何か」および第15回「富山学」まどめは富山大学の教員が担当する。	
			卒業研究	履修者が自ら課題を設定し、研究目的や研究方法を明らかにするために研究計画を立てる。この計画に基づき、先行研究等を踏まえた上で、指導教員のもとで研究を進めるが、その際に倫理的な配慮の重要性についても学ぶ。また、このような研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解するとともに、主体的に研究に取り組む態度や問題解決能力を習得することを目的とする。	
			地域共生（福祉）論Ⅰ	近年、社会構造・生活構造の変化に伴い、人々の生活が急激な変化を迎えている。今後考えられる変化として、外国人労働者が持ち込む考え方や文化も踏まえた共生社会をどのように構築できるかを考えていくことは急務である。高齢者、児童、障害者という従来の福祉分野にのみならず、教育や司法の分野、性別や国籍といったありとあらゆる差異を乗り越えて地域を基盤とした共生社会構築をしていくための理論と方法を学ぶ。	
地域共生（福祉）論Ⅱ	様々な分野は地域を基盤として成立しているとも考えられる。多様化・複雑化する地域の課題に対応しつつ、地域社会の一員としての学校が、『地域共生社会』をどのように構築できるか、地域住民とはなにか、地域生活とは何かを基礎に、ゲマインシャフト・ゲゼルシャフトを超える概念を考えつつ、地域住民の意識の変化や意識改革を通して共生社会構築にどのように学校、教職員が取り組むべきかを学ぶ。				

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	スクールソーシャルワーク論Ⅰ	近年、急速な少子化の進行、児童虐待問題の深刻化、少年事件に関する問題など児童福祉領域の問題は、非常にクローズアップされている。学校、教職員として問題にどのように対処しうるのか、学校をめぐる課程なども含めた複雑な問題を分析し、教育の枠だけではなく、関連領域の枠組みの諸制度を利用できる実践力を身につける必要がある。教員がスクールソーシャルワーカーと連携し、問題を解決に導くための方法を理解する。	
			スクールソーシャルワーク論Ⅱ	文部科学省「スクールソーシャルワーク活用事業」では『いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行う、スクールソーシャルワーカーを教育委員会・学校等に配置し、教育相談体制を整備する。』としている。チーム学校を構築し、システムとして問題に対応する方法を学ぶ。	
			主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラシー	教科書や資料の内容を直接的に理解する機能的リテラシーだけでは、市民社会（市民を主権者とする民主社会）の構成員、すなわち主権者に必須な高次リテラシーは発揮できない。多様な思考、経験を持った市民が集まる社会で、批判的思考力、読解力を発揮し、物事を表からも裏からも多面的に吟味する能力の育成が、各国で市民性教育の柱として重要視されている。メディア報道や具体事例を教材に、討論型授業を実施する。	
			事例で学ぶ減災・防災教育論	緊急時には、学校の教員組織の一体となった協力関係が求められる。一方、情報不足が決断を遅らせる事態も発生する。東日本大震災・原発震災では、巨大津波や原発事故の影響で学校現場でも被害や影響が広がった。学校現場で何が起こったのか、多発する自然災害の減災・防災のために、事前の備えを含む、必要な知見を具体事例を通して検討、習得していく。	
			プログラミング入門	この講義では、コンピュータは清書やインターネットを閲覧する為の道具ではなく、煩雑な作業を合理化し、効率化する為のツールであるという視点に立ち、プログラミングの考え方をマスターしながら、実際に煩雑な作業に対して自ら解決策を考え、それを簡潔に処理するプログラムを作成出来るようになることを目指す。	
			子どもとのふれあい体験	本演習は、社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあう体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供することを目的とする。ここでは、単に大学内にとどまらず、地域社会に出て、関係団体・施設等におけるさまざまなボランティア活動を通して、人を育てる人を育成する科目とする役割を果たしている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の思想と歴史（西洋）	西洋社会における古代から現代にいたるまでの学校や子育ての歴史、教育や学校を支える思想・理念の展開、子ども・家族・教師・学校の関係やその変化などを取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷を辿る。それらを背景となる政治や社会とのかかわりから考察する。これによって、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識・技能を身につけ、教育の原理的問題にかかわる基礎教養を習得することが目標である。	メディア
			教職とこれからの教育	教育委員会事務局及び学校管理職経験を活かし、教員をめざす学生が、学校教育や教職について基礎的な事柄を広範な視野で学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解するとともに、これから求められる教員の資質・能力について考え、展望と課題意識をもってその後の教職科目が学べるようにする。 (オムニバス方式／全8回) (131 西島健史／1回, 2回, 3回, 4回) 教員を目指す学生が、教員の仕事や教職の意義について、基礎的な事項を学び、その後の教職課程での学びの全体像をつかむとともに、教師はやりがいに満ちたすばらしい仕事であると、志高く進んでいけるようにする。 (133 林 誠一／5回, 6回, 7回, 8回) 中央教育審議会等から多くの教育改革提言・改革案が提出され、教育の在り方、学校・教員の仕事に大きな変化が求められている。教育改革の動向を踏まえ、教師に求められる資質・能力、学校における働き方改革、チームとしての学校づくりなど、これからの教育について考える。	オムニバス方式
			教育経営概論（教育改革と学校経営）	近年の教育改革の動向を検証しながら、教育行政の仕組みを理解し、教育経営や学校経営に関する諸問題について関心を持ち、問題解決への展望について考察する。また、学校と地域の協働についての意義や方法について理解し、開かれた学校づくりの成果や課題についての認識を深める。さらに、学校管理下で起こる事故や災害について、具体的事例を踏まえながら、危機管理や事故への対処方法についての理解を深める。	
			教授・学習心理学（個別最適化学習の理論と実践）	近年、一人ひとりの能力や適性に合わせた「公正に個別最適化された学び」の重要性が指摘されている。この授業では、個別最適化学習の重要性を押えた上で、幼児・児童及び生徒の学習や、個別最適化学習に関する基礎的な知識や理論を身につけることを目的とする。また、学習者の発達の状態や能力・適性をふまえた効果的な指導方法についても概説する。	メディア
			特別な支援を要する子どもの理解	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解するため、本授業では特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、発達障害や知的障害をはじめとする障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目 専門基礎科目	教育の基礎的理解に関する科目	未来をつくる教育課程	<p>本授業は、教育課程編成の基本原理や方法についての基本的な考え方を学び、教育課程の具体的実践例について検討することを通して、教育現場における現在と未来の教育課程について、制度レベルだけではなく実践レベルにおいても考察できるようにすることを目的とする。子どもの豊かな学びを実現するために、教師はどのように教育課程に向き合い、実践しているのか、また、子どもたちの未来の社会のために、教師はどのように教育課程を編成する必要があるのかについて、日常的な教師の授業感覚を捉えながら、ともに理解を深める。</p>	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論（理論）	<p>道徳の教科化は、読み物資料に登場する人物の心情読解に傾斜しがちだった従来の指導法の一面性に対して根本的な反省を促すものであった。このような認識に立つならば、道徳の多様な指導法を学習するのみならず、道徳教育に関する理論的な理解を深めることで、「心の教育」といった一面的理解から脱さねばならない。以上の問題意識に沿いつつ本講義では、道徳の本質に関わる哲学、道徳性の発達に関する心理学、道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題、道徳教育および道徳科の目標、道徳科の主な内容について解説する。また、模擬授業を導入的に実践しつつ、「道徳の指導法」の学習に向けた基礎的能力を涵養する。</p>	メディア
		総合的な学習の時間教育論Ⅰ	<p>「総合的な学習（探究）の時間」設置の意義、ねらい、内容構成について理解する。さらに、この総合的な学習（探究）の時間で最も重視すべき点の一つである探究的な学習の在り方について把握した上で、その学習の進め方に関わり、課題設定の方法、追究の方法、整理・分析・課題解決の方法、まとめ・表現の方法等について、それぞれの校種の具体例を取り上げながら、理解を深めていく。また、その際に必要となる教師の指導や支援の方法も検討することにより、実際にこの授業を実施するための基本的な力を身に付ける。</p>	
		総合的な学習の時間教育論Ⅱ	<p>新しい時代にふさわしい総合的な学習（探究）の時間の授業の在り方について、追究にふさわしい新しい時代に向けた課題の設定方法、追究の具体的な方法、課題解決に向けた取り組み等から検討を行い、理解を深める。さらに地域の小中高等学校における授業実践例を知るとともに、年間指導計画・学習指導案の作成方法や、学習活動における評価の考え方や方法について理解することを通して、実際にこの授業を実施するために必要な力を身に付ける。</p>	
		特別活動とカリキュラムマネジメント	<p>本授業は、学校教育における特別活動の意義や目標を理解するとともに、具体的な内容と特質、各教科等との関連（カリキュラム・マネジメント）について学ぶことを目的とする。それぞれの子どもの成長や子どもたちの人間関係形成に寄与する特別活動の在り方について、また、特別活動に求められる教師の役割や力量について、さらには、特別活動における生活指導と各教科の授業での学びとのつながりについて、実践事例をもとに教師の視点から理解を深めることを目指す。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	教育技術学	主体的・対話的で深い学びや探究的な学習活動、プログラミング的思考の育成等大きく変わろうとしている学校とそこで行われている授業について、教育の方法、指導技術、授業を支援するメディアの役割、情報機器の活用等について理解する。本科目では実習的な活動も取り入れ、授業を受けるだけでなく教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、教材作成、単元開発等、授業実施の準備を自ら行えるよう支援する。	メディア
		生徒指導論	生徒指導の理論的側面と実践的側面について解説する。前者では教育課程上の位置づけ、目指すべき方向、他の教育実践との異同、関連する法律などを講義する。後者では個別指導と集団指導の視点、いじめや虐待といった現代的課題への対応などを講義する。 (オムニバス方式/全8回) (91 近藤龍彰/第1回, 2回, 3回, 7回担当) 生徒指導の定義と位置づけ、体罰と懲戒に関する法令、多動に着目した個別指導と集団指導、虐待への対応について解説する。 (47 石津憲一郎/第4回, 5回, 6回, 8回担当) 対人関係面への生徒指導、個別指導と集団指導の視点、いじめへの対応、外部機関との連携協力の在り方について解説する。	メディア オムニバス方式
		教育相談の理論	教育現場で教師が使える教育相談の考え方(哲学)と技法の習得および、外部機関との連携について学校心理学の視点から学ぶ。また、児童期から青年期までの発達について触れることで、子どもたちが成長していくことについて心理学的な側面から理解を深めていく。 (47 石津憲一郎/第4回, 5回, 6回, 8回担当) 学校における心理教育的援助サービスの理論について概観した後、チームとしての支援の実際を解説する。 (91 近藤龍彰/第1回, 2回, 3回, 5回担当) 教育相談の理念と定義、子供の発達に即した支援の実際について開設する。	メディア オムニバス方式
		教育実習A(幼・小) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、園児・児童の実態や、学校・学級経営及び幼稚園・小学校における教育活動の特色について理解を進める。 事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	教育実習A(中・高) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、生徒の実態や、学校・学級経営及び中学校・高等学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	
			教育実習B(小)	小学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(中・高)	中学校・高等学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(特別支援)	特別支援学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童・生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(幼)	幼稚園における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、園児と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	<p>教職実践演習（幼・小・中・高）</p> <p>「履修カルテ」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己の到達点を確認するとともに、教職についての考えを深めるためのグループワークや模擬授業等を通して、教員として必要な資質・能力を確認し、それらの向上を図る。学生は、この科目を通して以下のことができるようになる。①教職に関する様々な課題についてグループで議論しつつ取り組む。②教育実習等の振り返りを行い、自分自身の資質・能力を評価して、教師になるために適切な目標を設定する。③特定の学年・教科のための指導案を書く。④授業参与観察や現職・退職教員の講義とともに、学校での教育に関して理解を深める。とりわけ、教員として重要な(1)使命感や責任感、教育的愛情等、(2)社会性や対人関係能力、(3)児童生徒理解や学級経営等、(4)教科等の指導力の4項目に関して自己評価を行い、これらの資質・能力を身につける。</p> <p>(共同・オムニバス方式/全15回) (70 上森さくら：金大クラス/1回～10回, 12回～15回, 96 増田(田中)美奈：富大クラス/1回～10回, 12回～15回) 教員の役割や教職に必要とされる社会性、児童生徒理解や学級経営等について講義とグループワークを行い、授業参与観察の指導をする。 (39 守屋哲治：金大クラス/1回, 11回～13回, 15 徳橋曜：富大クラス/1回, 11回～13回) 教育実習等を振り返らせた上で、指導案の作成や検討について講義とグループワークを行い、模擬授業の助言指導を行う。</p> <p>※1回, 12回, 13回は共同で実施 1回/当該授業のオリエンテーションを共同で行う。 12回, 13回/指導案の発表に係るグループワーク及び模擬授業の指導助言等を共同で行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
			<p>学校インターンシップ I（小）</p> <p>本授業は、教員志望学生が実際の学級担任教師の日常的職務活動の具体的場面に直接参加し、学級担任としての学級経営や、学習・行動上気になる子どもの支援についてのリアリティを獲得することを通して、自身の教師としての資質・能力などの向上を図るものである。また、担当者に小学校、中学校、特別支援学校の実務経験教員を含んでおり、前半の講義部分の一部を担当しながら、中間発表会、配置校でのフィールドワーク報告において現場の経験に基づいてアドバイスを行う。</p> <p>なお、本授業は富山県教育委員会との連携事業であり、県内教育事務所及び地方教育委員会の協力を得て実施されている。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	国語科基礎A（書写を含む）（低・中学年の国語科と現代の教育課題）	<p>（概要）知識及び技能、「読むこと」「書くこと」領域の内容理解を目標とした授業を実践するための国語科の各分野の基礎知識を概説する。先行研究で基礎を固めた上で、エビデンスに基づく計量的な研究成果も踏まえて、現代的な国語科の授業・研究のあり方を提案する。知識だけではなく、十分な実践力を育成するために、必要に応じて簡単な課題の作成、発表など行う場合もある。受講者と一緒に、地域・現代の文学作品、方言、伝統芸能を題材に地域に根差した国語科の学習を創造する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（59 宮城信／1回, 2回, 3回, 4回） 初回に、学習指導要領における各講義の位置づけを確認する。2回～4回は、日本語の小さな単位（文字）から、大きな単位（文章の種類）まで概観しながら、言葉のシステムとしての日本語を捉え、国語教育でどのような知識を扱う必要があるかを検討する。</p> <p>（94 武田裕司／5回） 5回は、国語科における書写指導の目標を確認するとともに、その指導のあり方について検討する。</p> <p>（17 西田谷洋／6回, 7回, 8回） 6～8回は物語・詩歌・評論・随筆など様々なジャンルの文学教材を概観しながら、地域教材あるいは文字教材以外のメディア教材をとりあげ、論理と創作を接続するなど先進的なテーマにとりあげることで、どのように国語教育で文学に取り組むかを検討する。</p>	メディア オムニバス方式
	社会科基礎A（中学年の社会科と現代の教育課題）	<p>（概要）富山・石川両県に関する地域研究の成果も踏まえ、地域学習が重視される小学校中学年の社会科授業を行う上で必要な知見を教授する。各担当教員が、地理学・歴史学・社会科学3分野の知見を小学校社会科教育の目標・内容に反映させた授業構成の方法について、必要な視点や考え方を提供する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（19 山根 拓／1回, 2回, 3回） まず、学習指導要領から小学校中学年社会科教育の狙いと現代的課題を探る。次に、地理的見方・考え方に基づく身近な地域や都道府県の教え方・学び方について教授する。最後に、初等中等教育における地理教育の意義を、地誌教育・地図教育・野外学習等をキーワードに講義する。</p> <p>（53 中村只吾／4回, 5回） 歴史の見方・学び方・伝え方について説明し、その上で小学校歴史教育で重視される内容・方法・素材について講義する。</p> <p>（51 志賀文哉・46 池田文佑／6回） 小学校中学年社会科における社会科学的アプローチの意義を、特に主権者教育の観点から講義する。</p> <p>（51 志賀文哉／7回） 社会的な見方・考え方の連続性に注目して、小学校学習指導要領を解説する。</p> <p>（46 池田文佑／8回） 小学校教員が、地域社会の諸事象を政治・経済学的にどのように捉え、どのように教えればよいのかについて講義する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	算数科基礎A（低・中学年）	この授業では、小学校で算数を教える際に必要となる数学の基礎を学ぶ。数の分類を理解し、特に素数と約数の問題を深く学ぶ。連分数展開を通して分数の計算方法を再確認し、計算力を養う。論理については、必要十分条件などの仕組みを理解し、背理法を用いた命題の証明を学ぶ。また、関数と方程式の基礎を学び、身の回りの現象を数学的に説明できるようになる。	メディア
		理科基礎A（理論）	（概要）小学校理科の授業を担当できる力を養うために、理科の4分野（物理・化学・生物・地学）について基礎的な知識・技能を習得する。 （オムニバス方式／全8回） （54 成行泰裕／1回, 2回） 物理分野の基礎理論として、力と運動・物質の性質・音と光の性質・電気と磁石について講義する。 （6 片岡弘／3回, 4回） 化学分野の基礎理論として、物質の構成と変化について講義する。 （60 安本(和田)史恵／5回, 6回） 生物分野の基礎理論として、生物の構造と機能・生命の連続性および生物と環境の関わりについて講義する。 （88 河村愛／7回, 8回） 地学分野の基礎理論として、固体地球表層・気象・天文について講義する。	メディア オムニバス方式
		生活科基礎A（講義）	小学校生活科において必要な基礎的な知識・技能を取得することを目的に、生活科の各内容のまとまり毎の学習対象、内容構成の具体的視点についての知識と技能の習得を図る。その際、生活科全体の指導計画を理解し、見通しをもって学習を進められるようにするために、各領域に関する内容の授業特性について学び、授業実践力の育成を目指す。生活科と他教科との関連や学問領域との関係にも触れ、小学校における生活科の意義についても学んでいく。	メディア
		生活科基礎B（実践）	自然体験や栽培などの様々な体験は豊かな学力形成の基盤となるが、近年の子どもたちの体験不足は指摘されて久しい。これも背景となって、とりわけ小学校生活科は体験活動が重視されている。教員になった際に授業で実施する体験活動の実践力を高めることを目的に、生活科で特に重視されている花や野菜等の栽培に関する実践を掘り下げて研究したり、地域学習等としてフィールドワークに出かけたりして、小学校教員としての具体的な授業構想が可能になる力を育成することを目標とする。	
		音楽科基礎A（講義）	教科書に掲載されている教材の演習、講義または鑑賞を通して、小学校音楽科の指導に必要な基本的知識を習得する。講義では、楽曲を演奏する技能や歴史的・文化的背景といった知識の習得にとどまらず、取り上げる楽曲について教科内容の視点から検討し、授業実践において教材化するための知識・技能を習得することを目指す。また、鑑賞教材の学修にあたっては必ず音を通して、音楽づくりについては実際の創作を通してそれぞれ理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	音楽科基礎B（実践）	<p>（概要）初級者と中級者以上にグループ分けをし、初級者ではバイエル教則本と弾き歌いの個人レッスンをし、中級者以上には、修得しているピアノの演奏技術を前提に、鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。</p> <p>（93 多賀秀紀／23 小野隆太、20 安藤常光） 初級者を担当し、バイエル教則本から14番、15番、25番、29番、40番、48番、49番、52番、56番、60番と弾き歌い（茶つみ）の個人レッスンをし。</p> <p>（64 浅井（橋場）暁子） 中級者を担当し、修得しているピアノの演奏技術を前提に、楽典基礎、基本的なカデンツの基礎と応用、借用和音の理解と利用、コードネームの基礎と習得、曲調に合わせた伴奏形のアレンジ基礎と応用、メロディー譜を用いた伴奏づけ実践、オリジナル伴奏による発表などの鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。</p>	オムニバス方式（金沢クラスのみ）
			図画工作科基礎A	<p>本講義は、できるだけ小学校教育の現場における取り組みを想定した内容の紹介を目指して構成している。そのために、小学校の図画工作科を担当するために現在の図画工作科指導における課題を踏まえて、学習指導要領に示された領域および内容項目に指導するために必要な専門的で基礎的な知識および技能を獲得することを目的とする。</p>	メディア
			図画工作科基礎B（実践）	<p>小学校図画工作科における表現技能の要点理解を目標とし、中学校美術科との連結をねらいに造形遊び的・絵画的・彫刻的・デザイン的・工芸工作的な図画工作科題材とその作品制作をおこなうとともに受講者自身の造形表現技能のスキルアップを図る。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（22 大村雅章と151 江藤望／1回、2回、3回、4回） 図画工作科教科書より絵画・彫刻的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、絵画・彫刻的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、絵画・彫刻的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第4回では絵画・彫刻的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 （大村雅章）絵画 （江藤望）彫刻</p> <p>（67 池上貴之と44 鷺山靖／5回、6回、7回、8回） 図画工作科教科書よりデザイン・工作工芸的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、デザイン・工作工芸的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、デザイン・工作工芸的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第8回ではデザイン・工作工芸的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 （池上貴之）デザイン （鷺山靖）工作</p>	オムニバス方式・共同（金沢クラスのみ）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科に関する科目	家庭科基礎A（住居・食物と現代の教育課題）	<p>（概要）小学校家庭科の食生活および住生活分野の内容を理解し、その背景となる基礎知識や考え方を深め、家庭科における現代の教育課題を踏まえ実践につなげて考えることができることを到達目標とする。授業では食生活および住生活分野を中心に、小学校家庭科に関連する基礎的・基本的な知識について講義する。また両分野の各内容において、現代の教育課題についても取り上げる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（57 藤本孝子／1回，2回，3回，4回） 食生活、調理、栄養素、栄養バランスについて、現代の教育課題を踏まえながら講義する。</p> <p>（1 秋月有紀／5回，6回，7回，8回） 住まいの歴史、計画、環境・設備、安全・管理について、現代の教育課題を踏まえながら講義する。</p>	メディア オムニバス方式
		体育科基礎B（実践）	<p>（概要）本科目では体育科教育においてみんながわかり、うまくなることをめざして開発されてきた教材群を体験しながら、多様な教材群を指導する上で必要となる基礎的な戦術・技術の方法や、教材づくりの方法を理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（82 山田哲／1回，2回，3回，4回，5回，6回） 「体づくりの運動」，「器械運動」，「水泳」の学習指導方法について演習を行う。</p> <p>（36 増田和実／7回，8回） 「ボール運動（ゴール型）」や「ボール運動（ネット型）」の学習指導方法について演習を行う。</p>	オムニバス方式 （金沢クラスのみ）
	小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅰ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」を扱う。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	
		初等国語科教育法Ⅱ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「読むこと」を扱い、加えて「知識及び技能」の内容や学習評価についても整理する。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	初等社会科教育法Ⅰ	小学校の学習指導要領の「社会科」を解説する。とりわけ小学校3～4年は地域学習、5年生は産業学習、6年生は日本史と憲法学習であることを説明する。日本史は42人の具体的な名前を挙げて「例えばこの人物を教えること」と例示されており、それぞれの人物がどのような業績を上げた人物なのか、具体的な模範授業を通じて示す（例として杉田玄白、ペリー、野口英世）。	
			初等社会科教育法Ⅱ	子どもの心を揺さぶるような社会科の授業はどのようにして設計されるのか、その基本的なノウハウを教授する。社会科の授業の面白さの本質は、アクティブラーニングなどの学習方法以前に、教育内容の「意外性」と「ストーリー性」であることを講義し、意外性を盛り込むためにはどのようなリサーチが必要なのかを説明する。そのうえで、実際に学生にリサーチを行わせ、模擬授業プランをレポートとして提出させる。	
			初等算数科教育法Ⅰ	算数科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域における授業の視聴とその検討を通して、個別の学習内容における児童の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科の指導法についての知見を得る。	
			初等算数科教育法Ⅱ	算数科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、算数科の授業を設計することができるようになるために、算数科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価についての知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、さらに算数科の実践研究とその課題について学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回、7回、8回) 算数科における教材研究とその方法、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価、算数科の実践研究とその課題について講義し、本科目を総括し展望を示す。 (43 米田力生／5回、6回) 算数科授業の構想と学習指導案の作成、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			初等理科教育法Ⅰ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や具体的な授業実践例を通して、理科の目標、子どもに育成する能力、指導技術、教材内容について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。とくに、小学校理科の目標については、理科を学ぶ意義について、内容については、具体的な教材を例に教材の工夫や内容区分の意義について理解する。また、理科における見方・考え方に基づく思考と問題解決の能力、さらに、主体的な学習のための工夫について授業実践事例を通して理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	初等理科教育法Ⅱ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や授業実践例を通して、理科の指導計画、指導技術、教材内容、評価方法について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。小学校の教材を例に具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。その際、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のありかたについて検討する。また、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	
			初等生活科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			初等生活科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			初等音楽科教育法Ⅰ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案の作成につなげることができる。講義では、音楽科教育に関する理論的内容を中心に扱い、授業を組織するための基礎的な内容を学修する。特に、目標論と評価論、音楽科の授業構成についての歴史的変遷を踏まえ、学習指導要領を相対化し、今後の授業のあり方を展望できるための素地を身につける。講義の期間中にはレポート課題によって、学修内容の定着をはかる。	
			初等音楽科教育法Ⅱ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案を作成し模擬授業として実践する。講義では、音楽科基礎AB及び初等音楽科教育法Ⅰでの学修をもとに、学習指導要領における教科内容やそれらを踏まえた学習指導計画を、授業構成に関する理論を援用しつつ作成できるようにする。また、模擬授業の実践を通して、授業を省察するための視点を獲得し、自律的な授業改善を実現するための素地も身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	初等図画工作科教育法 I	(概要) 小学校図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (44 鷲山靖/1回、2回、3回、4回) 算小学校図画工作科の意義、目的を学ぶ。 (151 江藤望/5回、6回、7回、8回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			初等図画工作科教育法 II	(概要) 初等図画工作科教育法 I の学習に基づき、引き続き図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (151 江藤望/1回、2回、3回、4回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する (67 池上貴之/5回、6回、7回、8回) 情報機器及び教材の活用を含む基礎的な授業方法を理解するとともに模擬授業等の演習を通して授業技能を身につける。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			初等家庭科教育法 I	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			初等家庭科教育法 II	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。この講義では、小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			初等体育科教育法 I	(概要) 本科目では体育科教育における教科目標論、教科内容論、学習指導論、教育課程論の基礎理論を理解し、体育科教育の全体構造を理解する。 (オムニバス方式/全8回) (83 横山剛士/1回、2回、3回、4回、5回、6回) 体育科教育に関する基本的事項である目標・内容論、学習指導要領の変遷・特徴、学習指導論等について理解する。 (21 岩田英樹/7回、8回) 体育科保健領域における授業づくりと、模擬授業と省察を演習形式で行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科指導法	初等体育科教育法Ⅱ	(概要) 体育科教育の各領域における目標・内容・方法・評価について検討することで、各領域における具体的な指導上の留意点について理解する。 (オムニバス方式/全8回) (83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科における指導実践に関わる授業計画、学習評価を演習形式、模擬授業・省察で学習する。 (21 岩田英樹/7回, 8回) 中学年, および高学年を対象とした体育科保健領域における具体的な指導上の留意点について取り上げる。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
		初等英語科教育法Ⅰ	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主にコミュニケーション、第二言語習得理論、学習指導要領、インプットとアウトプット等を中心に取り上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識を踏まえて議論できる機会を設ける。	
		初等英語科教育法Ⅱ	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について、主に5領域の言語活動及び評価等を中心に取り上げ、実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則を踏まえながら、模擬授業やリフレクションを通して、指導法・指導技術を確立することを目指す。	
	先進的教育科目(共通領域)	インクルーシブ教育基礎演習Ⅰ	インクルーシブ教育では、すべての子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けることのできる教育が求められている。本授業では通常の学級及び特別支援学級におけるインクルーシブ教育のあり方、アクセシビリティの理解とICT活用、それに基づく児童生徒の学習や生活上の支援の工夫についての基礎的な知識・技能を身に着けることを目的とする。	メディア
		インクルーシブ教育基礎演習Ⅱ	インクルーシブ教育では、すべての子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けることのできる教育が求められている。本授業では通常の学級及び特別支援学級において、その実践に必要な個別の教育的ニーズの把握、困難に応じた指導内容や指導方法の工夫に関する基礎的な知識・技能を身に着けることを目的とする。	メディア
		遠隔教育実践論	本授業では、新しい生活様式や小規模学校の増加に伴い、初等中等教育においても導入が進められている遠隔教育について、その実践に必要な、教育の方法、教育の技術、遠隔教育システムの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。遠隔教育により変わる学校と、そこで行われている授業について、教育の方法、指導技術や評価方法、著作物の取り扱い等について理解する。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	遠隔教育実践演習	本授業では、新しい生活様式や小規模学校の増加に伴い、初等中等教育においても導入が進められている遠隔教育について、その実践に必要となる、教育の方法、教育の技術、遠隔教育システムに関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。本授業では模擬授業、教材作成等実習的な活動も取り入れ、教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、その準備を自ら行えるよう支援する。	メディア
		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	小学校プログラミング教育導入の背景や、学習指導要領等における位置づけとねらいについて、講義やグループ活動により理解する。その上で、児童が実際に使用すると考えられるブロック型プログラミング言語について、基本的な操作方法、基本的なプログラムの作成方法、マイコンボード等と接続する際のプログラムの作成方法、発展的なプログラムの作成方法等について、学生自身がプログラミングを体験しながら理解する。さらに、自由課題のプログラム作成にも取り組み、理解を深める。	メディア 共同
		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	小学校プログラミング教育の発展的な内容として、テキスト型プログラミング言語によるプログラミングを体験する。その上で、学習指導要領に例示された内容に加えて、それ以外の内容例について理解する。そして、それらの教材研究や指導計画の作成を通して、実際の授業の在り方を考える。さらに、具体的な授業の進め方を検討しながら、学習指導案を作成することを通して、小学校においてプログラミング教育の授業を行う力を身に付ける。	メディア 共同
		富山県の教育実践Ⅰ	小学校指導法の観点から、富山県の特徴的な教育実践や地域的特性、たとえば富山で実践されている小規模校や僻地教育への対応、イタイタイ病をはじめとする環境教育などを受講者に紹介し、理解させると共に、地域によって異なる教育課題が存在すること、また類似の教育課題であっても地域によってアプローチの方法が異なりうることを認識させ、教育実践の「比較」の視点を養う。第1回ではこの授業の狙いと「比較」の視点の重要性を論じ、第2回～第7回で、富山大学大学院教職実践開発研究科の実務家教員や院生（小学校の現職教員）、退職校長等の特任教授や客員教授、連携している富山県総合教育センターの研究者などをゲストスピーカーとして、最新の教育事情や実践例を紹介してもらう。第8回のディスカッションでこれらの実践の比較の視点を論じ、まとめる。これにより受講者は富山県の教育の多様な実践や視点を認識できる。	メディア
		富山県の教育実践Ⅱ	小中連携や校種を跨いだ教育の連続の重要性を理解させると同時に、校種間に存在する教育事情や教員の認識等の差異をも認識させるために、富山県の小学校のみならず、中学校、高等学校の教育現場に関わっているゲストスピーカーから、小学校・中学校・高等学校の特徴的な教育実践や教育事情、課題などを紹介してもらう。これにより、富山県の特徴的な実践を知って、他地域と「比較」する視点を持たせると共に、校種によって異なる教育の視点や認識を理解して、それらを「比較」する視点を養う。第1回で授業の狙いを説明し、第2回～第7回の授業では富山大学大学院教職実践開発研究科の実務家教員、特任教授や客員教授、富山県総合教育センターの研究者などをゲストスピーカーとして、最新の教育事情や実践例を紹介してもらう。そして第8回のディスカッションを通じて、校種による教育の認識や状況の異同や、それらの校種をつなぐ連携の視点の重要性を理解させる。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	幼児と健康	<p>(概要) 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動の発達などの専門的事項についての知識・理解の獲得と指導法を身につけることを目標としている。幼児期の健康に関する現代的課題についての基本的な考え方を講義形式で学んだ後、実際に運動を体験し、幼児の多様な動きを理解し、これらの動きを引き出す環境構成について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (92 澤聡美／1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、運動の発達について解説・実演する。 (55 西館有沙／4回, 5回) 乳幼児の怪我や病気の特徴やそのリスクについて、ヒヤリハット事例や事故事例、症例等を用いた演習を行う。また、子どもへの安全教育や安全および健康の管理について解説し、環境構成や実際の援助について演習を行う。</p>	オムニバス方式
			幼児と人間関係(社会性のつまずきと支援の現代的課題)	<p>まず、領域「人間関係」に基づいた保育を行うための基礎となる乳幼児期の人間関係の発達過程を学ぶ。さらに、社会性のつまずきの原因(愛着の問題・発達障害等)や、不適切な養育が脳機能の発達に及ぼす最新の研究成果を学ぶ。また、個性が強い子ども(不安が高い子どもや感情の制御が苦手な子どもなど)を理解するための心理学の理論と、集団の中での位置づけの評価方法を学ぶ。これらの知識を踏まえて、保育における幼児理解と発達支援の基本的な考え方を習得する。</p>	メディア
			幼児と環境	<p>(概要) 幼児と環境の関わりを理解するために、環境の持つ意義、環境を生かした科学的思考・概念の発達について学ぶ。また領域「環境」の内容である、生命の尊重、数量や図形との関わり、文字や標識との関わりについても実践事例を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (10 小林真／1回, 4回～8回) 幼児を取り巻く環境と幼児の発達、幼児と生物・自然、数量・図形、文字・標識とのかかわり、幼児を取り巻く環境の現代的課題 (49 月僧秀弥／2回, 3回) 幼児の身近な環境と科学体験、思考・科学的概念の発達</p>	メディア オムニバス方式
			幼児と言葉	<p>幼児期の言葉の発達に関する基礎的専門的事項について、次に、幼稚園における言語環境や言葉に関する教材について、さらに、小学校との接続を視野に入れた言葉の指導について講義する。そして、幼児期の言葉の発達を促し支える保育内容、保育における周囲の幼児とのかかわり、保育者とのかかわりに関する基礎的な知識や態度を伝え、具体的な保育場面を想定しながら検討する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	幼児と表現	<p>(概要) 幼児の表現(身体・音楽・造形)における次のトピックについて学ぶ。幼児の表現の実際の姿、その発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊び、幼児の感性や創造性を豊かにする環境の構成である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(92 澤聡美/1回, 2回) 幼児の感性や創造性を豊かにする様々な身体表現遊びの実践を通して、幼児の身体表現の実際の姿、発達を促す要因や環境構成について学ぶ。</p> <p>(62 若山育代/3回・4回) 幼児の造形表現の実際の姿とその発達の状態、及びそれを促す要因と幼児の造形表現における感性や創造性を豊かにする表現遊びと環境構成について学ぶ。</p> <p>(13 千田恭子, 93 多賀秀紀/5回, 6回, 7回) 幼児が感じたことや考えたことを、音楽を楽しみながら自由に表現する為の援助を行うには、指導者が幼児の発達や感性・感覚を理解し共感するとともに、音楽の特性を知り、自分自身の諸感覚を磨くことが必要であることを学ぶ。</p> <p>(92 澤聡美・62 若山育代・13 千田恭子・93 多賀秀紀/8回) 幼児の表現に関する基礎的専門的な事項についての総合的なまとめ</p>	オムニバス方式
			保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)	<p>幼稚園教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連付けながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。具体的には、次の3つについて学修する。まず、幼稚園教育の基本を踏まえた幼稚園の指導の考え方を理解する。次に、幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。そして、幼児の興味・関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。</p> <p>(55 西館有沙/1回～4回)</p> <p>最新動向をふまえた幼小接続の現状や課題、乳幼児期の子どもの遊びとその意義、総合的な指導と教師の役割について扱う。</p> <p>(62 若山育代/5回～8回)</p> <p>幼児教育における計画とその作成、記録や評価のあり方、物や人との関わりを深める教材作りについて扱う。</p>	メディア オムニバス方式
			健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について基本的知識・理解の獲得を目標とする。現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例や、他の領域や小学校との接続と関連させた事例を紹介し、主体的・対話的で深い学びを通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。</p>	メディア
			保育内容(人間関係)	<p>幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解することと、領域「人間関係」が、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものであることを理解する。くわえて、遊びの中の人とのかかわり、保育の中の協同的活動、園外での人との関わり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「人間関係」の関係について概説する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	人間関係の指導法	初めに領域「人間関係」のねらいと内容を習得する。次に、設定保育における人間関係の指導法(ソーシャルスキル教育・ルールのあるゲーム遊び等)の指導事例を通して、保育の指導法を学ぶ。さらに、人間関係の形成に配慮を要する幼児の特徴や、情報機器を活用した指導法を学ぶ。これらの知識を踏まえて設定保育の指導案を立案し、模擬保育を通して指導上の配慮点・留意点などを体験的に習得する。さらにいくつかの指導事例を通して、自由遊び場面における保育者の言葉かけや指導の方法を習得する。	
			言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。扱うトピックとしては、領域「言葉」のねらい及び内容、幼児の発達の側面としての他領域と領域「言葉」の関連、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面の想定、領域「言葉」のねらい及び内容に基づく保育の構想である。	メディア
			表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	(概要) 幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。扱うトピックとしては、領域「表現」のねらい及び内容、幼児の発達の側面としての他領域と領域「表現」の関連、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面の想定、領域「表現」のねらい及び内容に基づく保育の構想である。 (オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回) 身体表現の指導法及び保育の構想(身体の観点から具体化したねらいと内容)、身体表現の指導法及び保育の構想(最新指導事例の身体表現についての主体的・対話的で深い学び)について学ぶ。 (62 若山育代/3回, 4回, 5回) 造形表現の指導法及び保育の構想(造形の観点から具体化したねらいと内容)、造形表現の指導法及び保育の構想(他領域のねらいと内容との総合性)、造形表現の指導法及び保育の構想(現代的課題としての主体的・対話的で深い学び)について学ぶ。 (13 千田恭子/6回, 7回) 音楽表現の指導法及び保育の構想(領域「表現」のねらいと音楽)、音楽表現の指導法及び保育の構想(幼児の表現と諸感覚の重要性)について学ぶ。 (92 澤聡美・62 若山育代・13 千田恭子/8回) 幼児の表現に関するまとめと地域の保育実践の事例について学ぶ。	メディア オムニバス方式
			幼児教育カリキュラム論 I	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各幼稚園等において編成される教育課程や全体的な計画の意義や編成の方法を理解する。具体的には、幼稚園教育等において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する、教育課程や全体的な計画が社会において果たす役割や機能を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	幼児教育カリキュラム論Ⅱ	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各学校等において編成される教育課程や全体的な計画について、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。具体的には、領域や学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育等の課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	
			幼児理解の理論と方法	幼児理解の意義、基本的な理論や態度を習得し、具体的な場面で適切な方法を選択するよう努める態度を獲得することを授業目標とする。本授業では、幼児理解の意義、理論及び方法、遊びを通しての総合的な指導、環境を通して行う教育を踏まえて適切な方法を選択することを学ぶ。そして、個と集団の関係や発達につまずきのある幼児の理解、保護者支援についての基礎知識、幼小接続期の実態と課題等について学ぶ。	
			幼児理解と相談支援	初めに幼稚園教育要領等に基づき、幼児理解の意義・必要性を学ぶ。次に、幼児理解に必要な心理学理論を学ぶ。具体的には、気質の理論・愛着の理論・学習理論（行動理論）、集団の中での幼児の関係性の発達のとらえ方を学ぶ。さらに幼児理解の方法（行動観察・チェックリスト等）について学び、こうした情報に基づいた保育カンファレンスの意義についても学ぶ。これらを踏まえて、幼児理解に基づいた保育における支援方針を立案できるようになる。さらにカウンセリングに関する基礎知識と保護者支援に関する基礎知識を習得する。	
			子育てネットワーク論Ⅰ	子育て支援が幼稚園教諭や保育教諭、学校教員、保育士等に求められている現状をふまえ、現代の子育て家庭を取り巻く現状や課題についてデータや資料を示して説明する。また、子育て家庭に対する支援の意義や目的、子育ての支援体制として公私のネットワークを形成することの意義、インフォーマルな子育てネットワークが果たす機能と課題、フォーマルな子育てネットワークとそれぞれの機関・施設の概要について解説し、これらに関する知識の習得を目指す。	
			子育てネットワーク論Ⅱ	教育や保育の専門職として子育て家庭にどのようにかわり、いかなる支援を提供すればよいのかを学ぶ。授業では、幼児教育・保育の専門性を生かした子育て支援の意義と、日々の関係を構築するために求められる基本的なかかわりや支援について扱う。また、子育て家庭のさまざまなニーズについて扱うとともに、貧困、虐待、障害児やその傾向のある子どもや疾患のある子どもの子育て、外国籍の家庭における子育てなど、それぞれの家庭のニーズに応じた支援の展開について扱う。これにより、子育て支援の実施や展開についての知識化を促す。加えて、関係機関との連携や協力についても学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	子育て支援	子育て家庭を支援するための実践力を身につけることを目標とする。授業では、保育所等を利用する子育て家庭や、地域の子育て家庭のそれぞれに提供される支援を取り上げる。その中で、さまざまなニーズをもつ子育て家庭に対する支援や、支援の展開における関係諸機関との連携・協力について、具体的な事例を用いたディスカッションやロールプレイ、調べ学習を行う。また、支援計画の立案や記録についてワーク、カンファレンスのシミュレーションを行う。これらを通して子育て支援への理解を深めるとともに、技術を習得する。	
			保育の心理学	「教授・学習心理学」と「発達と教育」で学んだ子どもの発達と学習の過程を踏まえて、まず、幼児教育・保育における子どもの学びをどのように保障すべきかについて学ぶ。具体的には、子どもの権利条約に基づく子ども観・発達観の変遷が学習指導要領や幼稚園教育要領等にどのように反映されているか、遊びを通じた主体的な学びの意義を知る。次に乳幼児期の諸領域（身体・運動、認知、自我・自己意識、社会性・情動、言語）の発達の経過を学ぶ。さらに発達支援の事例を通して遊びを通じた保育の重要性を学ぶ。	
			子ども家庭支援の心理学Ⅰ	まず発達心理学の立場から、生涯発達の道筋と発達段階の概要を学ぶ。具体的には、乳幼児期の初期経験の大切さ、学童期前期・学童期後期・青年期・成人期の発達の危機にはどのようなものがあるかを学ぶ。こうした発達に関する知識を踏まえて、子どもの精神保健についての基礎知識を習得する。具体的には、新生児期から乳児期に生じやすい心身の健康上の問題、幼児期に生じやすい行動上の問題などについて医学的知見も参考にしながら学ぶ。最後に、子どもの心の健康を支えるネットワークづくりの大切さについて学ぶ。	
			子ども家庭支援の心理学Ⅱ	子ども家庭支援の必要性の根拠となる、現代社会が抱える様々な問題について学ぶ。具体的には、日本が抱える少子化・地域社会の関係性の希薄化といった社会現象を正しく理解する。次に、若者が親になる際に習得すべき準備性（親レディネス）を高める要因と、低める要因について学ぶ。さらに成人が親になることによってどのような発達を遂げるかを学ぶ。その知識を踏まえて、子育てに困難を抱える家庭（若年者の過程、高齢者の家庭、精神的な問題を抱える保護者）に対する支援のあり方を学ぶ。	
			子どもの健康と安全	保育現場において子どもの心身の健康と安全を守るために必要な基礎知識を習得し、演習によって学びを深める。具体的には、安全な保育環境づくり、安全管理と事故防止、アレルギー疾患の理解と保育における対応、感染症の理解と保育における対応、母子保険制度について学ぶ。これらを踏まえて、幼児教育施設における組織的対応の必要性について学ぶ。様々な資料の講読や保育所（幼保連携型認定こども園を含む）における聞き取り調査などを通して、年間保健計画を立案できるようになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	障害児保育	幼児教育や保育においても特別な配慮を必要とする子どもへの適切な対応が求められていることを受けて、障害児保育の理念や現状、課題、援助の実施や展開について扱う。その中で、障害児保育への理解を深めること、さまざまな特性や状態、心身の発達等に応じた援助や配慮を理解すること、個別計画の作成、援助の具体的な方法を理解することを旨とする。また、家庭への支援や関係機関との連携・協働についても学ぶ。	
			地域子育て支援法Ⅰ	まず、子育て支援の様々な制度・機関について学ぶ。次に地域子育て支援センターや児童館等の子育てサロンを利用する保護者の心情について学ぶ。特に子育てサークルを利用しながら途中でやめてしまった保護者の心情についても理解する。さらに、子育てサロンを利用する保護者への聞き取り調査などを通して保護者のニーズを把握し、これらのニーズに対応する方法を演習を通して学ぶ。最後に、地域の子育てサロンにおいて短時間の保育体験を行うことで、実践力の基礎を身に付ける。	
			地域子育て支援法Ⅱ	地域子育て支援法Ⅰで学んだ様々な知識と体験を元に、児童館等が実施する子育てサロンにおける子育て支援サービスの企画・運営の仕方を習得する。また実際に子育てサロンの運営に参加することで、親子が安心感を感じたり楽しく遊んだりするための環境の構成について体験的に学ぶ。まず子どもが楽しく遊べる保育活動、次に子どもと保護者が交流できるような保育活動の実践を行う。さらにその振り返り活動を通して、子育て支援サービスを提供する職員が配慮すべき点を学ぶ。	
			児童福祉論Ⅰ	教育者が知っておくべき福祉に関する知識を身につけることを目的とする。授業では、子どもや家庭の福祉を取り巻く現状や課題、子ども家庭福祉に関する法律や制度、実施体系について理解する。また、少子化や地域の子育て支援、保育サービスの現状、課題、動向、展望について理解する。加えて、母子保健や子どもの健全育成のための施策やサービスについても理解する。	
			児童福祉論Ⅱ	子どもの人権や権利擁護について、その歴史的変遷や現状、課題の学習を通して理解する。児童福祉施設や子ども家庭福祉に携わる専門職に関する知識を身につけるとともに、貧困や虐待・DVのある家庭にいる子ども、非行等を行う子ども、障害のある子どもの福祉について理解する。	
			社会福祉概論Ⅰ	第二次世界大戦後のわが国の社会福祉の形成・発展の概要を中心に理解し、その中に示される福祉的ニーズをとらえることが目的である。幼児教育・保育に関連する内容にとどまらず、わが国の社会福祉の法・制度の概要を基礎学習し、その中で日本の社会福祉の発展を、特に高齢者・障がい者・児童の対象と地域福祉・国際福祉の現況を中心に理解し基礎事項を習得したうえで、それぞれの対象や領域のなかで個別具体的なニーズを捉え理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	幼児 教育	社会福祉概論Ⅱ	わが国の社会保障全般を理解し、今後の日本社会における社会福祉のあり方を考えることが目的である。社会保障の全体像をもとに、共生社会をキーワードとした日本における社会福祉の将来のあり方を学習する。幼児教育・保育に関連する内容にとどまらず、日本社会の変化に対応することが求められる社会保障について、その法制度とそれを実行する福祉サービス、またそれを支える行財政・計画について理解し、今後の日本の社会福祉を共生社会と関連づけて捉える。	
		特別支援教育基礎論Ⅱ (富山県の教育実践を含む)	本講義は、障害・疾病・発達困難等の特別な教育的ニーズを有する子どもの教育と発達支援について探求していくための基本的知識・理解や原理的視座の獲得を目標として、「特別支援教育」を中心に、全国だけでなく富山県における障害児・者のライフステージにおける諸課題や社会の側が抱える諸問題とその解決策について講義を行う。	メディア
	特別 支 援 教 育	障害児者支援論	「働く」「暮らす」「遊ぶ」「学ぶ」という生活領域において、障害のある当事者とその家族がこうありたい思い描くものの社会との相互作用の中で困難としている事情を具体的に取り上げながら、障害児・者ならびにその家族をめぐる諸問題とその解決の方策について障害児の教育に限らず広く関連するさまざまな事象を支援者の視点から考える演習を行う。	
		知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害の原因の背景にある脳の発生、構造、機能について理解するとともに、その障害によって生じる疾患、やその原因・病態および評価法を概説する。	
		肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では肢体不自由児の原因の背景を理解するために必要な運動機能の基礎、肢体不自由の原因となる脳性まひを解説する。そして、肢体不自由児の自立を支援するための教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
		肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では肢体不自由児の原因となる主な疾患と重度重複障害の病態および生活・学習上の問題を解説する。そして、重度重複障害児の医療的ケアに関わる教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
		病弱児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では病弱児の背景を理解するために必要な体の解剖生理の基礎、障害の原因となる疾患、教育の意義・配慮について解説する。そして、病弱児の自立を支援するための教育・医療・福祉の制度について概説する。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援教育		すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では通常学級においても対応が必要となる病弱児、および教育の意義・配慮について解説する。そして、病弱児の自立を支援するための教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
	知的障害教育課程・指導論Ⅰ	知的障害教育に関する歴史的経緯と現状、知的障害教育の教育課程の編成、個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式や内容について理解するため、本講義では特別支援学校に関する学習指導要領について概要を説明し、特に知的障害を教育する特別支援学校の教育課程の編成及び実施における留意事項について実際の授業の様子に基づいて概説する。	メディア
	知的障害教育課程・指導論Ⅱ	知的障害のある子どもの発達特性や知的障害に伴う困難性をふまえた教育内容・方法や学校教育として必要な教育実践について理解することを目標として、本講義では国内外の動向を視野に入れながら、知的障害を有する子どもの発達の理解を深め、知的障害を有する子どもが能動的に学べるような教育目標設定や教育課程編成の理論と方法について講義を行う。	
	病弱児の教育	病弱児の心身の状態に即応した教育を行うための基本的知識・理解の獲得を目標とし、本講義では病弱児の教育に関する基本的事項から現代的課題までを説明し、その中で生じやすい教育的課題および、その支援方法について、具体的事例を用いながら説明する。そのことで、多様な場で学んでいる病弱児への教育に関する高度な専門性の獲得をめざす。	メディア
	知的障害児の教育Ⅰ	知的障害児の発達支援理論及び知的障害児の教育方法の概要と、支援の考え方について理解するため、本講義では知的障害児の教育を支える理論と支援に関する考え方を解説する。学級編成の実態やティームティーチングによる授業の実態などの参観機会を確保するため、講義の一部は特別支援学校にて実施し、特別支援学校における具体的な実践をとおして理解を促す。	
	知的障害児の教育Ⅱ	知的障害教育における学習形態や集団に応じた支援の考え方及び、知的障害教育における保護者や関係機関との連携のあり方について理解するため、本講義では特別支援学校での見学や学校教師との具体的な質疑応答を通して、知的障害児の教育を支える理論を実践に生かす具体的な考え方を獲得し、将来、その教育に携わる者としての資質を高める。	
	知的障害教育実地演習Ⅰ	特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加を行い、知的障害のある児童生徒の実態把握から指導計画を作成し、特別支援学校において実際に実行・評価することで、知的障害児童生徒の実態把握や評価のあり方、指導計画立案、授業計画作成と教材研究、および知的障害児に対する支援方法について特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加を行い実践的に学ぶ。	
	知的障害教育実地演習Ⅱ	特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加、知的障害のある児童生徒の実態把握に関わる情報収集や指導計画の作成、計画に基づく実地演習と振り返りまでの一連の流れをチームで行い、特別支援学校において実際に実行・評価することで、知的障害教育における実践の進め方を知り、具体的な評価と分析について実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援教育	特別支援教育実地演習	<p>(概要) 本授業では視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、病虚弱児教育を行っている特別支援学校の施設及び授業見学を行ない、特別支援教育の概要や障害種に応じた教育施設・教育内容、支援者のあるべき姿について理解する。</p> <p>(18 宮一志) 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の特性についての助言指導。特別支援学校への引率。</p> <p>(58 水内豊和) 知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。特別支援学校への引率。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。特別支援学校への見学の実施計画策定、引率。</p>	共同
	発達障害児者支援論Ⅰ	生涯を通じた発達障害児者とその家族の心理や生活上の困難の理解とその支援のあり方について理解するために、本講義では発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害等）児・者とその家族が、家庭生活や学校生活、地域生活などで直面する諸課題について、合理的配慮、基礎的環境整備、個別の支援について講義を行う。	
	発達障害児者支援論Ⅱ	生涯を通じた発達障害児・者とその家族の心理や生活上の困難の理解とその支援のあり方について理解するために、講義では、発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害等）児・者とその家族が、家庭生活や学校生活、地域生活などで直面する諸課題について、合理的配慮、基礎的環境整備、個別の支援の観点から、どのように対応するのか、演習を通して具体的に考え、理解を深めることを目的とする。	
	障害児の教育診断臨床Ⅰ	<p>(概要) 特別な支援を要する児童・生徒の特性を評価する方法、および発達検査、心理検査の概要と利用法を理解するために、本授業では特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に欠かすことのできない諸検査について理解を深めるとともに、実際に体験することによりその実施法および利用法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(18 宮一志／1回, 2回, 3回, 4回, 5回) 特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に使用される心理検査とその意義・適用について解説し、乳幼児の発達評価法、発達障害の評価法を説明、実演する。</p> <p>(58 水内豊和／6回, 7回, 8回) 幼児・児童・生徒の能力評価法（KIDS、PVT-Rなど）、生活能力評価（Vineland-II適応行動尺度）を説明、実演する。</p>	オムニバス方式
障害児の教育診断臨床Ⅱ	特別な支援を要する児童・生徒の特性を評価する方法として知能検査の基礎と利用法を理解するために、本授業では特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に欠かすことのできない知能検査（WISC-IV）について解説を行い、実際に体験することによりその実施法および教育現場における実践的な利用法について学ぶ。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 支援 教育		<p>障害児支援学演習Ⅰ</p> <p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理についての基礎を学ぶ。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。</p>	共同
		<p>障害児支援学演習Ⅱ</p> <p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理についての実践力を身に付ける。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。</p>	共同
		<p>障害児支援学演習Ⅲ</p> <p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理を踏まえた課題解決法の基礎を学ぶ。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援教育		<p>障害児支援学演習Ⅳ</p> <p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わるフィールドワーク、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理を踏まえた課題解決法の実践力を身に付ける。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。医療・福祉施設でのフィールドワーク。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。保育・福祉施設でのフィールドワーク。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。学校・福祉施設でのフィールドワーク。</p>	共同
	特別支援教育学演習	<p>(概要) 本授業では、一人一人の障害の種類・程度等の困難性をふまえた教育内容・方法を理解したうえで、障害を有する子どもが能動的に学べるような教育方法を模擬的に実践し、協働省察することで特別支援教育に関わるうえでの専門的な力量を身に付ける。</p> <p>(42 吉川一義) 肢体不自由、重複障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(27 小林宏明) 言語障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(31 武居渡) 聴覚障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(85 吉村優子) 発達障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(73 田部絢子) 知的障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(18 宮一志) 病弱児の特性及び他機関との連携に関する助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 発達障害の特性及び生活支援に関する助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害の特性および指導法に関する助言指導。</p>	共同
	日本語学概論Ⅰ	<p>日本語学の基礎知識を体系的に学ぶ。講義を通じて、新しい現象を発見する方法、日本語を分析的に見る方法、学術的に捉える観点、など日本語に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語に関する資料や調査結果を活用して、日本語の生態を観察する。現代語はもとより、一部古典語まで範囲を広げて、日本語学の知見について体系的に学習する。本講義では、日本語の文字・単語レベルでの分析を中心としている。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	日本語学概論Ⅱ	日本語学の基礎知識を体系的に学ぶ。講義を通じて、新しい現象を発見する方法、日本語を分析的に見る方法、学術的に捉える観点、など日本語に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語に関する資料や調査結果を活用して、日本語の生態を観察する。現代語はもとより、一部古典語まで範囲を広げて、日本語学の知見について体系的に学習する。本講義では、日本語の文の構造や文末表現、文章の構成の分析を中心としている。	
			日本語学演習Ⅰ	優れた文章を書くためには名文を読むことも大切であるが、児童・生徒をはじめ一般の人にとっては名文を書くことよりも、悪文を書かないことの方が大切である。そして、自身が悪文を書かないようにするためには、身の回りの悪文に気づける能力の養成が重要である。この演習では、参考書『悪文 伝わる文章の作法』によって悪文の原因を概観し、その後は受講生が身の回りで見つけた悪文と思われるものを持ち寄って、悪文たる理由を発表し、受講生全員でそれが適切な指摘かを検討し、どのように直せば良いかについてディスカッションする。	
			日本語学演習Ⅱ	類義語の意味分析の方法を参考文献等から学び、受講生各自が選択した類義語の意味の違いを明らかにするために、従来の国語辞典の意味記述を批判的に検討するとともに、多くの用例を採集して分析し、レジュメにまとめて発表する。そして発表内容についての他の受講生とのディスカッションを通して、ことばの意味を記述することの面白さ、難しさを知るとともに、児童・生徒にもそのような体験をさせるための基礎知識を習得する。	
			日本語学演習Ⅲ	社会言語学は、既存の文法や語彙の知識とは異なり、社会の中でことばがどのように運用されているのかを探る学問分野である。個人の自省に頼る言語分析ではなく、社会における言語生活の実態から自分なりのテーマを発見して適切な方法で調査を行う。調査・発表の過程を一通り学ぶことで、卒業研究に向けて調査研究の基本スキルを身に付けることができる。また、全員に発表を科しているため、適切な形でまとめ、説明する技術を身につけることができる。	
			日本語学演習Ⅳ	日常の様々な会話の場面におけるコミュニケーションスキル、会話の方略について議論・考察する。テーマに即したロールプレイ（会話実演）を行い、実践力を養う演習である。会話の方略や理論を実際の場でためしてみ、有効性を検証し独自の修正を行う。授業で学んだコミュニケーションスキルを実生活で実践して有効性を確かめられる。話し下手・交渉下手（と思っている人）、会話の駆け引きを理論的に学びたい人に受講してほしい。	
			日本語表現Ⅰ（言語指導におけるデータと理論の融合）	国語教師は授業を効果的な授業展開を行うにあたって資料や知識を活用するが、思い込みや経験則に偏りがちなのが作文指導・評価である。優れた文章を書くためには名文を読む（読ませる）ことも大切であるが、実際に児童が（教師自身も）書いてみる経験が重要である。さらに本講義では、児童や生徒が書いた実際の作文の大規模データを活用して、児童・生徒の文章作成能力を解明する。客観的なデータも併用することで、経験の不足を補うだけでなく、これまれば気づかれにくかった児童・生徒の特性を抽出した新しい作文指導のあり方に言及する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	日本語表現Ⅱ（言語指導におけるデータと理論の融合）	<p>国語教師は授業を効果的な授業展開を行うにあたって様々な資料や知識を活用する必要がある。特に思い込みや経験則に偏りがちなのが作文指導・評価である。実際どれだけの教員が文種の書き分けや指導を的確にすることが可能だろうか。本講義では、文種別に実際に作文を書くための準備から作文完成までの過程を実践しながら、注意点を指摘して、有効な支援のあり方を検討する。その際、実際の大規模作文データを活用する探索的な分析法を習得する。併せて、現役教師に対する調査結果を資料として文章評価の実情に言及する。</p>	
	日本語史Ⅰ	<p>古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。本授業では、日本語史に関する客観的な見方、音韻変化の年代および前後の変化との関係に関する知識、文字に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益でもあるので、講義ではその点にも留意する。</p>	
	日本語史Ⅱ	<p>古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。この授業では、文法・語法に関する変化、および各事項の相互関係に関する知識、書き言葉と話し言葉に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益であることに留意する。</p>	
	日本語学講読Ⅰ	<p>学校文法と周辺の文法論を比較しながらその特性について理解を深める。現場での学習状況に鑑みるに、これまでしっかりとした学習がなされていないことが予想されるため、学校文法の基本事項から体系的に学習を進める。さらに学校文法学習時の問題点、現場における指導の状況について確認し、問題点と指導法改善のについて詳述する。</p>	
	日本語学講読Ⅱ	<p>前半は語用論的分析手法の基礎を学習する。後半は実際の会話例からコミュニケーションの分析を行う。具体的には、相手に対する「配慮」がどのように言語活動（または非言語的なものとして）として表現されるのかを学ぶ。本講読全体を通して、日本語のコミュニケーションのルールについての理解を深め、国語表現の授業時に活用できるよう理解を深める。</p>	
	日本文学概論Ⅰ（教育と文学の関係を含む）	<p>中学校・高等学校国語科を担当するに必須の、日本文学研究の基礎的な知識を習得するために、文学研究に必要な姿勢、文献収集・本文異同等の調査、読解のポイント、評価の枠組み等を学ぶと共に、作品分析の実例を確認し、実際のテキストを方法論に基づいて読み、独創的な見解をレポート等で表現する。文学がいかに書き手や社会の価値観を反映・創出しているのかを検討し、文学と教育の相関について学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	日本文学概論Ⅱ（国語教科書と文学理論）	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。特に国語においてPISA型読解力の育成において論理が重視され、その手立てとして文学作品の分析を行うことが必須であるため、詩・物語の論理性と論説文・日常言説の修辞性を確認し、それが何を意味しているかを、国語教科書教材として採録される作品に即して文学理論を学びながら検討し、自らの見解を作品分析レポートとして豊かに表現する。	
			日本文学演習Ⅰ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。おもに詩歌に関連する作品を対象とし、自分の言葉で作品の読み方をまとめていく。その過程を発表資料やレポートに書くことによって、考えを深めることを目指す。演習形式で授業を行う。それぞれ担当を定め、教員があらかじめ指定したテキストについての発表と討議をすすめていく。	
			日本文学演習Ⅱ	「日本文学演習Ⅰ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につけることを目指す。教員が指定したテキスト（詩歌に関連するものを対象とする。）についての発表と討議を行う。担当者の発表を叩き台とし、教室全体で議論を交わし分析を深める。文献の入手・整理法や、立論・分析の方法などについて、模範発表や実際の発表過程で指導する。	
			日本文学演習Ⅲ	明治期から戦前昭和までの文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。作品中の言葉が担う意味を、読み手が各自恣意的に理解するのではなく、作品が書かれた時代において、また作品の文脈においていかに理解すべきかを、客観的・論理的に理解する。各界で担当者が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
			日本文学演習Ⅳ	アジア・太平洋戦争終結後の文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。戦後文学はそれ以前の文学と比較して内容の多様性が増し、方法やメタファーも多岐に亘っている。作品の言葉が持つ意味を詳細に検討し、その世界を理解する分析力を修得する。各界で担当者が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
			日本児童文学Ⅰ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能の基礎を身につける。児童を主人公／読者とする児童文学・ファンタジーの諸相について専門的な視点から考える能力を育てるために、児童文学の定義、児童文学の様々なジャンルについて学ぶと共に、児童文学作品、特にあまんきみこ・安房直子をはじめとする女性児童文学の教材や非教材の代表作を、方法論に基づいて分析・検討することで、受講生自らが独創的な見解をレポート等で表現することができるようになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	日本児童文学Ⅱ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。児童を主人公／読者とする児童文学・ファンタジーの諸相について専門的な視点から考える能力を育てるために、児童文学作品、特に新美南吉などの戦前の男性作家の児童文学から村上春樹・江國香織をはじめとする戦後児童文学・現代児童文学の教材や非教材の代表作を、方法論に基づいて分析・検討することで、受講生自らが独創的な見解をレポート等で表現することができるようになる。	
			日本文学講読Ⅰ	明治から戦前昭和にいたる小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			日本文学講読Ⅱ	アジア・太平洋戦争終結後の小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			日本文学講読Ⅲ	中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。本授業では、時代を問わず韻文やそれに関連する作品について適切に把握し、基礎的な知識を得る。また、それらを得ることによって平易な言葉で生徒に説明できること、作品の背景や韻文特有の言い回しなどについて、必要に応じて生徒に解説できることも目指す。	
			日本文学講読Ⅳ	「日本文学講読Ⅲ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。韻文はひとつひとつが短いゆえに、複数を「集」としてまとめたり、他の作品に組み込まれたりすると、解釈が変化することがある。本授業では、そうしたテキストの構造や享受等に注意をはらいつつ読み解き、韻文やそれに関連する作品への理解を深めていく。	
			漢文学演習Ⅰ	中国最古の文学である『詩経』から六朝、そして、唐代の作品のうち、しばしば教科書に教材として取り上げられている作品を演習形式で精読する。それによって、漢詩の修辞法を学び、かつ、影響を受けた後世の詩文にも触れつつ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の基礎的な知識・技能を習得する。また、発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識の基礎を形成させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	書写書道基礎Ⅰ	中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。 教育現場におけるカリキュラムの連続性を考えて、小学校国語科書写についての知識とその指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に小中の各教育現場で教壇に立っている書写指導担当教員を複数迎えて実施する。	
			書写書道基礎Ⅱ	中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。 教育現場におけるカリキュラムの連続性を考え、高等学校芸術科書道についての知識、指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に高等学校の教育現場で教壇に立っている芸術科書道を担当する教員を迎えて実施する。	
			国語科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	中学校・高等学校における国語科教育の概要を知り、教材研究法を習得する。また、実際の教科書教材について「教材研究」を体験するとともに、中学校・高等学校での国語科教員として実務経験を生かして、理論的側面を踏まえた中学校・高等学校国語科学習指導案を作成する力量を身に付ける。また富山県の郷土教材や富山県内の教育実践も取り上げる。	
			国語科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	中学校・高等学校における国語科教育の概要を知り、教材研究法を習得する。また、実際の教科書教材について「教材研究」を体験し、中学校・高等学校国語科学習指導案を作成する力量を身に付ける。中学校・高等学校における国語科授業の実務経験を活かし、模擬授業を実施するとともに振り返りを行う。これらの講義を通して、国語科授業を行うにあたって必要な実践的知識の獲得を目指す。さらに富山県の郷土教材や富山県内の教育実践も取り上げる。	
			国語科教育法Ⅴ	中等教育における音声言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における音声言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教員としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅵ	中等教育における文字言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における文字言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教員としての実践力を高める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	国語科教育法Ⅶ	<p>パソコンやタブレット端末といった新しい教具やデジタル教材などを取り入れた国語科学習指導の現状や可能性を知り、指導事項を効率よく効果的に実現するためにどのような場でどのように活用できるかを協議する。また、アナログ教具の進化についても目を向け、特に思考ツールの活用方法について検討する。そして、情報機器や新しいアナログ教具を導入した指導構想を提案し、有効性を協議することを通して国語科教師としての実践力を高める。</p>	
	国語科教育法Ⅷ	<p>中等教育、特に高等学校の国語科学習指導において誤解されやすく、苦手意識をもたれやすい「知識及び技能」の扱い方、古文の学習指導、学習評価について焦点化し、それらを行う際の留意点を理解する。そして、実際に教壇に立ったときに適切に対応できるように指導方法を考えたり、模擬評価を行ったりして国語教師としての実践力をつける。</p>	
	「話すこと・聞くこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「話すこと・聞くこと」領域においては、表現力とともに、論理的に伝える、情報を選択的に収集する技術も求められる。本領域の内容は教科書では不十分で、新任教師では対応できない。そこで、アナウンサーや報道記者などプロの話し手・聞き手の協力も得て、人に伝わる話し方の実際と実践的な演習を行い、中学校での学習への接続を意識した、より高度な内容・指導法を学ぶ。さらに手話や読み聞かせなど現場で活用できる会話の技術についても学ぶ。</p>	
	「書くこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「書くこと」領域においては、教師自身も知識だけではなく、取材から交流まで実際に体験してみることが肝要である。そこで、Webライターや新聞記者などプロの書き手の協力も得て、人に伝える文章の実際と実践的な演習を行い、中学校での学習への接続を意識した、より高度な内容・指導法を学ぶ。さらにNIE（新聞教育活用）など現場で活用できる教材の活用についても学ぶ。</p>	
	「読むこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「読むこと」領域において本科目では、オーソドックスな文学的文章・説明的文章について扱う。PISA型読解力を高めるために高等学校学習指導要領では文学的文章と説明的文章とを区別し後者を重視しているが、しかしPISAの原文では小説などの論理構造を把握することで読解力を高めることが求められ、また論理的文章もレトリックなどの文学性を持つ点で、指導要領を補完・発展させ、評論・小説に対するレトリックと論理の把握が国語科教員には今後必要であり、そのための演習を評論文を中心に小説・詩まで展開する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	国語教育	メディア・地域教材開発指導演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「読むこと」領域において、本科目では、映像・音声・画像・絵画などのマルチメディア・地域テキストを検討・分析することで、今日的課題に対応した先進的教材を開発したり、物語創作等の「読むこと」領域と「書くこと」領域の架橋を行う領域について実践することで、より発展・複合した内容を学ぶ。</p>	
		国語科教育演習	<p>文部科学省は、これからの教員に求められる資質能力として、教科指導の充実と専門性の向上を指摘している。そのため、教材分析や授業実践、またリフレクションのあり方について教科指導の専門性をより向上させる必要があるため。単元の構想・実践といった授業力の育成を目標とし、文献講読・教材分析・模擬授業を通して国語科授業のあり方についての見識を深める。</p> <p>先行研究の講読を通し、国語科の教育課程や指導法の理解を深めるとともに、そこで得られた知識を基に主体的な教材分析や模擬授業の構想・実践を行う。模擬授業においては、指導上の工夫や教材研究のあり方に対して受講生同士で評価し合うことを通して、国語科教師としての授業力向上を目指す。</p>	
	社会科教育	日本史学概論Ⅰ	<p>中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方や方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅱに接続するものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。</p>	
		日本史学概論Ⅱ	<p>中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方や方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅰを前提としたものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。</p>	
		日本史学各論（近世・近代）Ⅰ	<p>特定の地域を焦点にした歴史（地域史）の見方・捉え方を学ぶ。それに加えて、地域史と現代社会との関係についても考えていく。時代としては近世・近代を中心に、本学の所在する越中・富山を含めたさまざまな地域の事例を扱う。たとえば、木造和船と地域の関係、マグロ漁やカツオ一本釣り漁に特徴づけられた地域などの事例を取り上げることを考えている。日本史学各論（近世・近代）Ⅱへとつながるものである。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科教育	日本史学各論（近世・近代）Ⅱ	日本史学各論（近世・近代）Ⅰに引き続いて、特定の地域を焦点にした歴史（地域史）の見方・捉え方や、地域史と現代社会との関係についても考えていく。時代としては近世・近代を中心に、本学の所在する越中・富山を含めたさまざまな地域の事例を扱う。たとえば、近世庶民の移動・旅行と地域の関係、酒田沖の島、廻船と定置網で賑わう湾などの事例を取り上げる。	メディア
			日本史学演習Ⅰ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある資料活用に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、日本史の文献（著書・論文）の収集と読解、研究史の整理と批判的検討を行い、日本史学的思考と叙述の方法を学ぶ。	
			日本史学演習Ⅱ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある史料読解に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、古文書・古記録を中心にくずし字（変体仮名）の判読を行い、日本史史料を読解するための基礎的技術を習得する。	
			日本史学演習Ⅲ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目標としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。史料や先行研究の読解を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆するための準備を行う。日本史学演習Ⅳに接続するものである。	
			日本史学演習Ⅳ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目的としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。日本史学演習Ⅲを前提としている。史料の輪読を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆する。	
			西洋史学概論Ⅰ（現代的課題を踏まえて）	日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、近代世界システム論やアブー＝ルゴドの議論を援用して、随時ディスカッションをしながら、アジアとのつながりに目を向けて古代から中世までの西洋史を概観する。このように西洋史に比重を置きつつ、現代のグローバルな視野・課題意識をもって世界各地の経済的・文化的交流を古代から中世まで概観することで、現在の西洋史学における研究動向や歴史教育の課題を踏まえて、西洋史に関する一般的包括的な認識・知識を修得すると共に、西洋史の視点を利用しながら、地域史に拘泥せず世界の歴史を広く捉える歴史観を持つ。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科教育	西洋史学概論Ⅱ（現代的課題を踏まえて）	日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、ウォーラーステインの近代世界システム論を思考のツールとして援用し、随時ディスカッションをしながら、西洋史という視点から16世紀以降の世界の連関と一体化を概観する。このように現代的な国際課題を踏まえて、西洋史に比重を置きながら近世以降の世界各地の経済的・文化的な相互連関、世界の一体化を包括的に学修・理解することで、現在の研究動向や歴史教育の課題を踏まえつつ近世以降の西洋史に関する一般的包括的な知識と歴史認識を修得すると共に、西洋史の視点を利用しながら、地域史に拘泥せずに世界の歴史を広く捉える歴史観を持てるようになる。	メディア
			西洋史学各論Ⅰ	西洋史の専門研究の成果を通して、中学校・高等学校の歴史教育の基盤となる歴史的事実を認識するとともに、歴史学の方法論や認識を理解するために、西洋史学の専門的な営みの一つとして過去の人々の日常生活を検証し、過去の「日常」を再構築することで、歴史的に社会や文化を考え、認識を深めることを目標とする。そのために、中世のヨーロッパなかんずくイタリアを主たる対象として、随時ディスカッションをしながら中世社会の「日常」を多面的に検証し、歴史的考察を学ぶと共に、我々が一般に持つ「中世ヨーロッパ」のイメージの妥当性を検討する。これにより、西洋史学が特定の視角から明らかにしてきた歴史的事象に関する知識を修得すると共に、西洋史研究の知見・解釈から我々自身や我々の社会を捉え直すという歴史学的営みを理解できる。	
			西洋史学各論Ⅱ	西洋史の専門研究の成果を通して、中学校・高等学校の歴史教育の基盤となる歴史的事実を認識するとともに、歴史学の方法論や認識を理解するために、西洋史学の専門的な営みの一つとして過去の人々の日常生活を検証し、過去の「日常」を再構築することで、歴史的に社会や文化を考え、認識を深めることを目標とする。そのために西洋史学各論Ⅰで学修した内容を踏まえて、中世のイタリアを主たる対象として、随時ディスカッションをしながら中世社会の「日常」を多面的に検証し、歴史的考察を学ぶと共に、我々が一般に持つ「中世ヨーロッパ」のイメージの妥当性を検討する。これにより、西洋史学が特定の視角から明らかにしてきた歴史的事象に関する知識を修得すると共に、西洋史研究の知見・解釈から我々自身や我々の社会を捉え直すという歴史学的営みを理解できる。	
			西洋史学演習Ⅰ	外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学研究のための基本的技術、特に英語をはじめとする欧語文献や史料を読解するための語学力を文献講読を通して修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論について学ぶ。まず歴史学の方法論を理解するために、指定された日本語の文献を読んで受講者が発表し、ディスカッションを行う。次に欧米の歴史研究の欧語（基本的は英語）文献について、受講者に毎回の発表を割り当てながら講読する。これによって、文献検索や欧語文献・史料の一定の理解能力を修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論を理解し、活用できるようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	西洋史学演習Ⅱ	<p>原則的に西洋史学演習Ⅰでの学修を踏まえて、外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学研究のための基本的技術、特に欧語の文献や史料を読解するための語学力を文献講読を通して修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論について学ぶ。そのために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）文献を講読し、ディスカッションをして、当該文献の成果や意義、方法論への理解を深めていく。また欧語文献とは別に、西洋史学研究に対する問題関心を喚起するために、受講者は割り当てられた西洋史の論点に関して調べて発表したり、各自の関心に応じた西洋史学関連の日本語文献を読んで、その内容や視点について発表する。これによって、文献検索や欧語文献・史料の一定の理解能力を修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論を理解し、活用できるようになる。</p>	
	西洋史学演習Ⅲ	<p>外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学を学ぶために必要な日本語及び外国語の文献を理解する力を身に着けるために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）の文献を講読し、歴史学の専門的文献を読みこなせる理解力を修得すると共に、その研究成果の意義や方法論を理解する。また受講者が割り当てられた日本語論文の内容や方法論について発表して議論したり、各自が選んだ西洋史学に関する日本語論文・文献の内容や喚起された問題意識を報告し、それについて議論したりする機会を設けることで、西洋史学の近年の動向や方法論を主体的・対話的に学ぶ。これによって、日本語や欧語（基本的に英語）で書かれた一定の分量の専門的文献を比較的短時間で読み、内容を把握し、要点を理解できる力を修得すると共に、日本語や外国語の文献を通じて、西洋史学の研究動向や方法論を理解できるようになる。</p>	
	西洋史学演習Ⅳ	<p>原則的に西洋史学演習Ⅲでの学修を踏まえ、外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学を学ぶ上で必要な日本語および外国語の文献を理解する力を身に着けるために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）の文献を講読し、歴史学の専門的文献を読みこなせる理解力を修得すると共に、その研究成果の意義や方法論を理解する。また受講者各自が、割り当てられた西洋史学上の論点や、自分で選んだ西洋史学に関する日本語論文・文献について報告し、全員で議論する機会を設けることで、西洋史学の近年の動向や方法論を主体的・対話的に学ぶ。これによって、日本語や外国語（基本的に英語）で書かれた一定の分量の専門的文献を比較的短時間で読み、内容の概要を把握し、要点を理解できる力を修得すると共に、日本語や外国語の文献を通じて、西洋史学の研究動向や方法論を理解でき、また問題意識を深める。</p>	
	人文地理学概論Ⅰ	<p>本講義では、まず地理学が社会の中でどのように捉えられているのかを示し、その世俗的地理(学)観が育まれてきた背景を考える。続いて現代地理学の学問的体系を示し、初等・中等学校教育における地理学の位置付けを考える。地理学は人文社会科学と自然科学に跨る文理融合的分野であるが、それが人間社会と自然環境の相互作用をどのように捉えてきたのかを学ぶ。そして、人間社会の様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブを適用する人文地理学研究の見方・考え方・成果について、実際の研究事例を参照しながら示したい。受講者が、本講義を通じ「地理学とは何か？」という問題への一定の解答を得ることができるようにしたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	人文地理学概論Ⅱ	人文地理学概論Ⅰの履修を前提に、人間社会を構成する様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブをどのように適用し、地理学的な研究を構築してゆくのかについて、具体的な研究を取り上げながら説明する。それによって、「地理学に何ができるのか？」という問題への何らかの解答を得たいと思う。最後に人文地理学と自然地理学を比較対照しながら、地理学の特性について再び考えたい。また、授業の中では講義のみならず、学外のフィールドワークも実施する。地域の実地観察によって、地理学的「知」を得る方法の習得を目指す。	
	地誌学Ⅰ	本講義ではまず、中学校・高等学校の社会科／地理歴史科地理で学ぶ「地誌」と学問としての「地誌学」の違いについて学ぶ。国内地域の研究事例を中心に取り上げながら「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性（＝地域性）を描く方法を学ぶことで、初等・中等教育で学習してきた社会科「地誌」が、どのような学問的理解のもとに成立しているのかを理解する。	
	地誌学Ⅱ	本講義では、社会科（地理歴史科）地理の「地誌」と「地誌学」の違いについて、世界地誌を事例に考え学ぶ。「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性（＝地域性）を描く方法を世界各地の地誌を通じて学ぶことで、暗記科目である物産地理とは異なる科学的地誌について理解を深める。本講義を通じて、受講生が、地誌的説明の意味と方法を理解し、「ある地域の地誌を描く場合、どのような記述が的確なのか」について的確に考え判断する能力を向上させることが、本科目の目標である。	
	地理学各論Ⅰ	人文地理学・自然地理学・地誌学など地理学の諸分野の研究で、位置を含む空間情報は「地図」によって表現される。地図の無い地理学研究は考えられない。本講義では、地図の歴史・機能・役割を理解し、地図の利用・様々な地図応用の方法を習得する。さらに、地理学の学術研究のみならず行政や企業など社会全般に近年急速に普及し、今や初等・中等教育の学校現場でも地理教育の必須アイテムとなったGIS（地理情報システム）について、その原理や利用方法について学ぶ。	
	地理学各論Ⅱ	景観論、環境論、災害論、歴史地理学の各研究領域を取り上げ、それらの内容と意義を学ぶ。 とくに(1)「地域」や「空間」と並ぶ地理学の基本的概念である「景観」や「環境」についてより明確な理解を得る。 (2) 今日の世界で頻発する多様な自然災害の把握や対応対策に地理学がどのように関わるのかを理解する。(3) 歴史地理学という歴史的観点をもつ地理学の手法と意義を理解する。	
	自然地理学Ⅰ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、気候分野を中心に解説を行う。その上で、自然環境と人間生活との関わりについても着目しながら、自然地理学的な見方・考え方を身に着けることを目指す。また、高等学校「地理総合」必修化にあわせて、高校地理総合・地理探究における気候学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を用いながらグループワークで整理し、高校教員として自然地理学の内容をどのように教えるべきかについて考える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	自然地理学Ⅱ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、地形分野を中心に解説を行う。その上で、自然地理学Ⅰの学修内容も含めて、防災・減災や人間生活との関わりについても着目しながら理解を深めていく。また、高等学校「地理総合」必修化に伴い、高校地理総合・地理探究における地形・防災学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を使いながらグループワークで整理し、教員として自然地理学の内容や視点・考え方をどのように教えるかを考える。	
			地理学演習Ⅰ	初学者が地理学研究に取り組むうえで、研究テーマの設定を行うために必要な基礎的技術を学修することが、本科目の目的である。とくに、学校科目「地理」の学習内容の基礎を成す学術的な地理学的研究に取り組む際に真先に必要となる地理学固有の初歩的ないくつかの視点と技法が、本演習において習得される。具体的には、文献探索手法と文献読解による地理学的知見の取得の方法などの基礎的な見方・技法を受講者が身につけることが、期待される。	
			地理学演習Ⅱ	地理学研究では地域的・空間的事実を明らかにするために、実地調査や文献資料調査などの様々なやり方で定性的・定量的なデータを収集する。「データ」は様々な形で存在するが、それを扱うためにはデータ収集の方法、データ分析の方法、データ分析の結果を空間的に表現する方法、そこから地理学的事実を読み解く方法を理解しておく必要がある。本演習では、研究の初段階においてデータを収集・活用するために必要な基礎的な見方・技法を学ぶことをその目的とする。こうした地理学の見方・技法に習熟しておくことは、中学校・高等学校で「地理」を教授する教師が授業前に行う教材研究でも有用である。本演習で習得すべき基礎的な見方・技法は、具体的には、地域統計や統計分析結果を表現するために用いるベースマップ、文書資料等の収集方法とデータを用いた主題図作成法等である。本演習を修了した際には、これらがある程度習得されていることが期待される。	
			地理学演習Ⅲ	地理学演習Ⅰ・Ⅱから引き続き、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。本演習では、各回の授業において、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る参考文献を批判的に検討することを学ぶ。さらにフィールド調査やインドア調査等の地理学的な調査方法、地域データを分析して作成する主題図の作成方法等について、一層深く学ぶ。さらに受講者は既往研究を参照して野外調査の実践例を学ぶ。具体的には土地利用調査や聞き取り調査等の定性的調査の実践例を参考に、文献を通じてその見方や手法について理解を深めたい。さらにその内容を各人が学んだうえで、個々の見解を発表し、ディスカッションを経て、受講者間で共有する。こうした中で、受講者は相互に地理学研究の遂行能力を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	地理学演習Ⅳ	<p>地理学演習Ⅰ～Ⅲの学修内容を引き継ぎ、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。各回の授業では、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る研究論文等の参考文献を批判的に検討すること、地理学的野外調査（フィールドワーク）の方法、既存の地域データや自ら実地収集したデータを分析して作成する主題図作成法等について、一層深く学ぶ。地理学演習Ⅲで学んだ野外調査（フィールドワーク）に関する知識・手法を活かして、本科目では、受講生は、一定の研究課題を定め、野外調査を実践する。野外調査によって得られたデータや事実を基に、受講者はデータ分析・主題図作成等の作業に取り組む。さらに、各受講者が自らの分析結果やそれに関する考察内容を相互に発表・報告し、受講者間でディスカッションを通じて共有する。それにより地理学研究における課題の発見や設定の方法、研究遂行のプロセスや技法に関する理解が涵養される。地理学演習Ⅰ～Ⅳを通じて、地理学研究の出来る・解る学校地理教師の素養を育成したい。</p>	
	地理学巡検	<p>地理学において、フィールドワークは研究過程で欠かせない要素である。巡検とは、研究のために現地でフィールドワークを行うことであり、現地での調査実践やその前後の一連の過程を指す。この授業では、巡検を計画・実践する過程を各受講者が経験し、地理学的な目で地域を観察し、地域で考え、地域を理解し、それを説明し伝えることの意義を体感し、自ら地理学の調査研究に従事することの出来る力を養うことを目指す。</p>	
	法律学概論Ⅰ	<p>法律学入門。法とは何か、法の解釈や、刑法を初めとする主要な法律の概要等、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。法とは何か、法と道徳の違い、法の分類（公法・私法）、国家と憲法、行政と法、裁判制度、法と犯罪という側面から授業を進める。</p>	
	法律学概論Ⅱ	<p>法律学入門。民事法の原則、労働法、国際法の原則など、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。契約と法（民法・契約）、財産と法（民法・物権、債権）、損害賠償（民法・不法行為）、家族と法（民法・親族）、経済と法（会社法、知財法、競争法）、仕事と法（労働法）、国際社会と法（国際法）という側面から授業を進める。</p>	
	法律学各論Ⅰ	<p>現代社会が直面する環境問題に関して、法と行政がどのように対応しているか、市民の権利はどのように守られるかを知り、その課題を探り、環境法の基本的概念と骨子を講義する。「環境問題」とは何か、公害・環境保全史概観、環境法の基本的考え方（環境権、持続可能性、予防原則、汚染者負担原則など）、環境汚染を規制する法（大気、水質など）、自然環境の保全のための法（自然公園、生物多様性、野生動物など）、循環型社会形成のための法（廃棄物管理）、環境保護の担い手（行政、市民、NPOの役割（環境アセスメントを例に））、環境問題と訴訟という内容を取り上げる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	法律学演習Ⅰ	環境法及び環境法政策に関する講義を行う。自然環境を中心とした現代の環境問題を研究することとし、必要な法的思考や地域社会への理解について教授する。具体的には、現代社会の直面する環境問題概観、自然保護法1（国立公園等）、自然保護法2（鳥獣保護管理等）、自然保護法3（希少種保全、外来生物問題）、河川・海岸の保全の法と行政、農業・農村と法、入会権とコモンズを題材として取り上げる。	
			法律学演習Ⅱ	環境法及び環境法政策に関する講義を行う。公害、リサイクル、景観など現代の環境問題を研究することとし、必要な法的思考や環境行政への理解について教授する。具体的には、公害の歴史、公害の規制（水質、大気）、循環型社会形成への取組（廃棄物処理）、循環型社会形成への取組（リサイクル）、景観問題と都市計画、アメニティ、環境アセスメント、市民参加、環境訴訟、環境正義を題材として取り上げる。	
			政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	この授業では、政治の基本原則である「民主主義」を扱う。具体的には、アリストテレスによって「逸脱した政治」とみなされた古代ギリシアの政治観からスタートし、近代以降、自由主義との結合をへて民主主義が「逆転勝利」を収めてゆくまでの過程を思想的・歴史的に概観する。あわせて、20世紀以降、「勝利」したはずの民主主義が立たされた「試練」についても触れ、最終的に現代日本で進行中の課題へとつなげて考えてゆく。	メディア
			政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	「政治学概論Ⅱ」では民主主義の現在と将来について考える。授業では、代議制民主主義の成立と展開、それに対する大衆政治（ポピュリズム）の勃興を、授業全体を貫く軸として設定する。その上で代議制民主主義の動揺、政党の意義、政治改革の意味、政治的無関心等、政治の現代的課題と目される項目を扱い、代議制民主主義の限界と可能性を明らかにする。	メディア
			人間安全保障論Ⅰ	この授業では「国家による、国家のための安全保障」の基本的考え方と、それを支える制度を概観する。まず理論として、国家・国際安全保障の土台となる主権国家の思想をふり返る。その上で、国際安全保障体制の変遷を①同盟と勢力均衡、②集団安全保障、③国連平和維持活動の順で扱い、それぞれの仕組みが持つ基本的特徴を理解する。最後に、こうした国家・国際安全保障の限界が何かを提起して、「人間安全保障論Ⅱ」へとつなげる。	メディア
			人間安全保障論Ⅱ	「人間安全保障論Ⅰ」で提起した内容を受けて、「Ⅱ」では、「人間による、人間のための安全保障」に関する基本的考え方と、その具体的事例を検討する。はじめに人間安全保障の歴史的発展として、1970年代以降の安全保障論の変遷を概括する。その上で①水・食料、②居住環境、③感染症、④ジェンダー、⑤教育という5つを具体例としてあげ、新しい脅威が何か、それから人びとを救う「保障」の仕組みがどうなっているかを考える。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	平和学Ⅰ	この授業では、戦争と平和をめぐる歴史的発展と思想について扱う。はじめに、「戦争と平和の歴史」として人類史のなかで重要な転回点となったものを3つ（正戦論、総力戦、新しい戦争）とりあげ、それぞれの時代状況を把握する。つづく「理論」においては、戦争と平和を考える上で大きな影響をもった①グロティウス、②クインシー・ライト、③E. H. カークの3名を取り上げ、それぞれの思想がどのような内容であったのか、戦争と平和の問題を考える上でいかなる影響を及ぼしたのかについて概説する。	
			平和学Ⅱ	「平和学Ⅰ」の内容を受けて、この「Ⅱ」では実際の事例に則して平和の問題を掘り下げて考える。具体的には①核兵器・通常兵器、②貧困の拡大、③ジェンダー暴力、④地球環境問題、の4つである。その上で、より日本の文脈にひきつけた事例として（ア）広島・長崎と原爆投下、（イ）沖縄戦と米軍基地問題、（ウ）日本国憲法と平和主義、の3つを加え、日本の立場から平和学をどう発展できるかについて考え、授業を総括する。	
			地球市民社会論Ⅰ	授業では「市民社会とは何か」を考える。具体的には社会形成の歴史を古代、中世から近代、近代以降という3つのフェーズで理解する。その上で、社会を形成する基本的な考え方として①ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、②社会契約、③社会契約のグローバル化を紹介し、歴史的思想（理論）的観点から、市民社会の大枠が理解できる内容に設計する。	
			地球市民社会論Ⅱ	「歴史と理論」を踏まえた「Ⅰ」の内容を受けて、「Ⅱ」では地球市民社会の現代的展開を、実例と実践の観点から考える。授業の前半では資本主義の加速に伴う諸問題、新自由主義対福祉国家の相克、経済成長と持続可能性、という3つに注目し、市民社会が直面する課題が何か、それにどう立ち向かうかを考える。後半は具体的な参画・問題解決の方法として近年注目されている①ソーシャル・キャピタル、②キュレーションとソーシャル・デザイン、③シティズンシップ、の3つを取り上げ、「どう参加するか」という疑問に答えられる内容とし、授業をしめくくる。	
			政治学演習Ⅰ	授業では、古典の精読を通して法と政治に関するより深い考え方を身につける。具体的には法の理念、自然法、政治権力の本質などがここに含まれる。これらに関連して日本で刊行された本のなかから、古典的価値を持つと判断できる書籍を取り上げ、精読する。教材としては尾高朝雄の著作『法の窮極に在るもの』を予定し、毎週1章を講読する形で、法と政治の関係、法のあるべき姿と理想的な政治の有り様について考える。	
			政治学演習Ⅱ	授業で行う内容は「演習Ⅰ」と同じであるが、「Ⅰ」の内容を受けた続編という位置づけとなる。教材として上述した『法の窮極に在るもの』をテキストに設定し、法・政治と経済の関係や、法・政治と国際関係とのつながりについて考える。セッションは、書籍の精読に加え、現代的問題と連携した討議を毎回盛り込み、今日の分脈から法と政治をめぐる関係を掘り下げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	政治学演習Ⅲ	「演習I, II」同様、法と政治をめぐる古典を精読し、両者の有り様についてより深く考えることを目指す。教材として清宮四郎による『権力分立制の研究』をテキストとする。別に開講する政治学演習「I」「II」の流れに沿って、権力分立という仕組みの思想的制度的基盤を理解し、併せて英米における権力分立について概観する。	
			政治学演習Ⅳ	「演習I～III」同様の内容である。「IV」では『権力分立制の研究』の後半を精読し、フランス公法の文脈を新たに加味した上で、法と政治の接点として権力分立を捉え、その歴史的・今日的状況を把握する。終盤では、伊藤正己『法の支配』についても部分的に講読し、法の支配という考えに関する専門的知識を習得・理解する。以上の内容に、現代日本における状況を加味し、これらをどう社会科教育のなかに反映させてゆけば良いかを考える。	
			経済学概論	経済学とは、家計や企業が合理的に行動するという仮定のもとに、経済活動によってどのような社会的帰結が実現するかを理論的に分析する学問である、ということをも前提として、ミクロ経済学の分野の内容を中心に入門的な経済学を学ぶ。具体的には経済学の基本的な考え方、市場と政府の役割、需要と供給の理論、市場の効率性の理論的説明について学び、また授業内容に関する例題を受講者自身が計算して解くことで、授業内容の理解を深める。こうした学修によって、基本的な経済学の知識を修得し、身の回りの経済現象を経済学の知識を用いて理解できるようになる。	
			社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	現代社会を、社会学を通して理解することを目的とする。地域社会の変容や人間関係の変化に注目し、その特徴を捉え、生起する社会問題に対するアプローチの方法を探る。社会学の入門的な内容を学びつつ、主に地域社会学・社会福祉学でのとらえ方を用いて地域社会における地域資源の変化や社会的な孤立に現れる人間関係の希薄化とそれに関連する諸問題（セルフネグレクトや8050問題など）について、現代的課題を含めて学習する。	メディア
			社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	現代社会にある種々の問題を主に「社会問題の社会学」の視点から捉え、その実情に即した解決や軽減を考察することを目的とする。地域共生社会づくりが進められるなかで、さまざまな社会問題が指摘されるようになってきている。その背景や原因としてどのような問題があるかを考え、実態を明らかにする。その過程では、問題の解決や軽減のための方策を探ることになるが、国や地方自治体が行き届く政策的な対応のみならず、NPOなど民間で取り組まれている独自の取り組みにも目を向け、より実践的な問題解決に役立つ方法を学ぶ。	メディア
地域社会論Ⅰ	日本の地域社会の変化を捉え、種々の問題をもとに、今後のあり方を考えることが目的である。ひきこもりの課題や8050問題への対応、障がい者の社会参加の促進、地域包括ケアシステムの構築への対応など、変容する地域社会の様相を捉えたいうえで、その中で明らかになる諸問題を地域共生政策における「我が事」としての把握に近づけ、また地域単位で「丸ごと」解決に向けていくためには、どのように対応しうるかに注目しつつ学習する。				

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	地域社会論Ⅱ	<p>さまざまにある問題の中で、「貧困」「生きづらさ」にかかわる地域社会における生活の実情を踏まえ、その解決や改善についてアプローチを明確にできることが目的である。地域社会での生活の具体的な困難状況を取り上げ、その具体例を手掛かりにしながら現行の法制度やそれを補う新たな社会資源の必要を考え、問題の解決や改善のためにどのような方策があるかを学習する。内容により、海外での事例も取り上げつつ学習の効果を高める。</p>	
	社会学演習Ⅰ	<p>社会学(社会福祉学を含む)の理論にかかわる文献について、検討を加えながら読解する。受講者が持っている関心も考慮しながら文献を選定し、受講者が分担して読み、その内容をまとめ、授業内で共有し検討することを基本として読解する。受講者はそれぞれの担当部分だけでなく、文献の全体を理解したうえで、それに基づいて社会を観察できることが到達目標である。社会学理論を理解し、それに基づいて社会を観察する基礎力を養う。</p>	
	社会学演習Ⅱ	<p>社会学演習Ⅰと関連させつつ、社会学関連の理論に基づく調査にかかわる論文等を読解する。受講者同士で読解した内容を授業内で発表共有し、検討を加えたうえで整理しまとめることが目的である。論文の選定については、あらかじめ提示するものに加え、受講者が関心に基づいて自ら探し出したものや最新の論文(海外での研究も適宜含める)も取り入れて対象とする。社会学の研究論文の読解により得た知識等に基づいて、社会を観察する基礎力を養う。</p>	
	社会学演習Ⅲ	<p>地域社会の中にある問題について、当事者の語り(ナラティブ)をもとにして実態を捉える。当事者は困窮高齢者・災害被害者を主な対象とする。受講者が当事者の生活の変化や現状にかかわる具体的な語りについて整理し、授業内で発表共有できることが目的である。語りを得る過程では、可能な範囲で、受講者が当事者に直接にインタビューする。地域社会の問題について、文献や論文から概要を把握しつつ、当事者の語りを中心に実態を捉えることを通して社会を観察する応用力・実践力を養う。</p>	
	社会学演習Ⅳ	<p>地域社会の中にある問題に目を向けてその解決や改善の方策を検討し、授業内で熟議する中で最も望ましいと考えられる方策を見出すことが目的である。その際には、可能な範囲で、当事者の議論への参加を得る。方策の学習にあたり、具体的な方法には、社会福祉的アプローチや実践的ソーシャルワークを含める。社会学演習Ⅲから引き続き、社会を観察し改善・変革する応用力・実践力を養うものとし、演習Ⅲとの連続的な学習による効果を得るものとする。</p>	
社会科・地歴科教育法Ⅲ	<p>各受講生に、日本と世界の歴史について单元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。縄文時代については、石川県の代表的な縄文遺跡である真脇遺跡、律令制については県内の荘園跡、近世については加賀藩の資料など、生の資料を十分に消化したうえで、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。</p>		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	社会科・地歴科教育法Ⅳ	各受講生に、日本と世界の地理について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。とりわけ北陸地域については、日本海側の特徴的な気候、一次産業から第三次産業までを、例えば県の農業試験場やJA、代表的な製造業などへの実地取材や調査に基づき、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
		社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。具体的には、「問題解決」型社会科授業・「理解」型社会科授業・「説明」型社会科授業・「意思決定」型社会科授業それぞれの特色と作り方を理解させ、事例単元をもとに発問や板書計画などアイデアを考えさせる。その際、富山県の授業実践例や作成した学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。なお、公立・附属学校教員としての実務経験を活かし、具体的実践例を挙げて講義する。	メディア
		社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。中学校学習指導要領社会及び高等学校学習指導要領公民に示された目標・内容・方法、「改訂の趣旨及び要点」を理解させた上で、「公民とは何か」「取り入れるべき学習内容とは何か」について主体的に考えさせたい。その際、富山県の授業実践例や作成した学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。なお、公立・附属学校教員としての実務経験を活かし、具体的実践例を挙げて講義する。	メディア
		社会科・公民科教育法Ⅲ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。「公民科とは何か」について歴史から学んだり、目標設定の異なる公民科授業類型について考えたり、また教育実習生の授業記録を視聴することによって必要とされる資質・能力を考えたりすることを通して、主体的に学ばせる。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	
		社会科・公民科教育法Ⅳ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。高等学校公民科「公共」「倫理」「政治経済」それぞれの目標と内容の特性を理解させた上で、ロールプレイング教材やディベート教材の効果的な活用法を考えさせながら模擬授業を行わせ、主体的な学びを保障する。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	
	数学教育	線形代数学概論Ⅰ（代数と現代の数学教育を含む）	本授業では、行列の基本的性質とその応用を学ぶ。行列が正則であるための必要十分条件を証明する（二次の行列に限定）。行列の基本変形を利用した連立一次方程式の解法を理解する。行列の基本変形を利用し逆行列を求める。また、行列の階数とその応用を学ぶ。代数学の考え方がどのように応用されているかを理解し、現代の数学教育についての重要性を学ぶ。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	数学 教育	線形代数学概論Ⅱ（代数と現代の数学教育を含む）	本授業では、行列式の基本的性質とその応用を学ぶ。行列が正則であるための必要十分条件を証明する（ n 次の行列で）。行列式を利用した連立一次方程式の解法を理解する（クラメールの公式）。ある方程式が自明解以外の解をもつための必要十分条件も学ぶ。代数学の考え方がどのように応用されているかを理解し、現代の数学教育についての重要性を学ぶ。	メディア
			代数学Ⅰ	この授業では、群の基礎と周辺事情を学ぶ。整数における不思議な現象は、群の観点から眺めるとごく自然に説明がつくことがある。最初に群の定義を理解し、具体例を述べるができるようにする。同値関係と類別の考えを学び、商群を理解する。既約剰余類群などの様々な群を学んだ後にラグランジュの定理の証明を行う。群論の観点からフェルマーの小定理を証明する。	メディア
			代数学Ⅱ	この授業では、環、体の基礎と周辺事情を学ぶ。整数の集合、有理数の集合、実数の集合など、これまで扱ってきた対象を、環や体という観点から眺め、その構造を理解することを目指す。そのために、環の定義と諸性質を理解し、具体例を述べるができるようにする。イデアルの諸性質を理解し、その関連する問題の証明を学ぶ。体の定義を理解し、具体例として二次体の性質を学ぶ。	メディア
			数論Ⅰ	この授業では、数の基礎と周辺事情を学び、理解を深めることを目的とする。素数と約数についての諸性質を理解し、関連した問題の証明を学ぶ。具体的には、素数は無限に存在する事を証明し、素数の出現する頻度も検討する。特殊な素数や約数の諸問題も学ぶ。ユークリッド互除法と不定方程式の関係を理解する。合同式の性質を学び、フェルマーの小定理の初等的な証明をする。	メディア
			数論Ⅱ	この授業では、数の基礎と周辺事情を学び、理解を深めることを目的とする。整数に関する問題は一見易しく解けるように思える。しかし、実際に解こうとすると難しい問題が多いことに気づく。連分数展開を通して様々な数を分類し、特殊な数とその性質を学ぶ。様々な数論的関数とその挙動評価を行う。数論的関数の平均を考察し、主要項の大きさとその係数に現れる量を学ぶ。	メディア
			解析学概論Ⅰ	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の基本を学習する。 最初に、関数の極限という考え方を導入し、それに基づき関数の連続性や微分可能性を定義する。次に、微分法に関するいくつかの公式や初等関数に関する導関数の公式を導く。これらの公式の導出方法を理解すること、および得られる公式を自在に利用し、様々な計算を行えるようになることが目標である。	
			解析学概論Ⅱ	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の応用を扱う。 微分法の応用は、言い換えれば平均値の定理やそこから派生する定理、あるいは平均値の定理を拡張した定理を応用することである。この講義ではロルの定理を出発点とし、各種の定理を証明し、それらを具体的な問題へ応用する方法を学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	解析学Ⅰ	<p>微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎を扱う。</p> <p>最初に解析学概論Ⅰの復習として、いくつかの初等関数に対する不定積分の公式を確認する。次に、部分積分法や置換積分法といった不定積分を計算するための道具を用意する。以上の準備の下で、有理関数の不定積分をシステマティックに求める方法を用意し、得られた方法を三角関数、指数関数、無理関数に応用する。</p>	
			解析学Ⅱ	<p>微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎と応用を扱う。</p> <p>解析学Ⅰの学習内容を踏まえて、定積分を定義する。定積分を利用することで、図形も面積や曲線の長さを求めることが可能となる。その仕組みを確認し、応用としていくつかの不等式を導く。また、定積分の概念を拡張した広義積分とその応用についても学習する。</p>	
			解析学Ⅲ	<p>数列の収束や関数の連続性を厳密に扱うには「実数の連続性」を理解する必要がある。「実数の連続性」は、有理数全体の集合と実数全体の集合の間に明確な違いを与える実数全体の集合に固有の性質である。</p> <p>この講義では「デデキントの切断」を公理に採用し、それを出発点として「実数の連続性」を表現する様々な定理を証明する。更に、数列の極限をイプシロン・デルタ論法によって精密に表現し、これまで事実として認めてきた数列の極限に関する基本定理に対する証明を与える。</p>	メディア
			解析学Ⅳ	<p>解析学Ⅲに引き続き、「実数の連続性」に基づいて関数の連続性や連続関数の性質を精密に議論する方法を扱う。</p> <p>最初に、関数の連続性をイプシロン・デルタ論法を用いて特徴づけ、次に閉区間上の連続関数の有するいくつかの著しい性質を明らかにする。さらに、関数の一様連続性という概念を導入し、閉区間上の連続関数が一様連続であることやその応用を扱う。</p>	メディア
			微分方程式Ⅰ	<p>我々の身の回りにある様々な現象は「微分方程式」を用いることで数学的に定式化（数理モデル化）される。現象のモデル方程式である微分方程式の解を調べることで、現象のメカニズムを数学的な立場から議論することが可能となる。</p> <p>この講義では、微分方程式論の入門的な話題として、解の表現を具体的に求めることが可能なタイプの常微分方程式だけを扱い、具体的な計算を通して現象の数学解析について学ぶ。</p>	メディア
			微分方程式Ⅱ	<p>微分方程式Ⅰでは解の具体的な表現を求めることが可能な微分方程式ばかりを扱ったが、応用上重要な微分方程式の多くは非線形であり、解の具体的な表示が得られることは稀である。そこで解の具体的な表示を求めることなく微分方程式の解の性質を解明する方法が必要となる。</p> <p>この講義では、非線形問題を扱う基本として、(1) 一階正規形微分方程式系に対する解の存在と一意性に関する定理を証明し、(2) 自律系微分方程式の平衡点に対する漸近安定性を線形化解析によって解明する方法を学ぶ。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	専門 科目	数学 教育	確率論	本授業では確率論の基本を学び、確率論の観点から様々な現象を説明できるようになることが狙いである。場合の数の数え方を再確認し、確率の考え方を理解する。確率の諸性質を理解し、平均や分散などの問題を解くことができるようにする。確率変数と確率分布の考えを学び、関連した問題を解く。二項分布の基礎と具体例を学び、関連した問題を解く。	メディア
			統計学	本授業では統計の基本を学ぶ。様々なデータを整理、分析し、背後にある数学的原理をみぬく力を身に付けることがねらいである。統計の考え方を理解し、資料の平均と分散を学ぶ。二変量の解析では、共分散、相関係数、回帰直線の考えを理解し問題を解けるようにする。正規分布とその諸性質を学び、身の回りの現象で正規分布とみなせるものを実際に分析できるようにする。	メディア
			コンピュータ概論 I (授業への応用を含む)	この講義では、汎用的なプログラミング言語の一つである Python 3 を用いたコンピュータ・プログラミングを学習する。コンピュータ概論 II において数学の諸問題へプログラミングを応用することを意識し、Python プログラミングやその周辺の基礎固めを行うことが第一の目標である。また、実際のプログラミングを通して、コンピュータに的確に指示を与える方法を獲得し、複雑な処理を自動化するためのプログラマ的思考を獲得することが第二の目標である。学習内容を数学の教材作成へ応用することについても扱う。	メディア
			コンピュータ概論 II (授業への応用を含む)	この講義では、数値計算法の初歩的な話題を学習し、コンピュータを数学の諸問題へ応用することを目指す。微分積分学や線形代数学を利用し、いくつかのトピックに対する数値解法(アルゴリズム)を作り、更にそれらの特徴を明らかにする。また、得られたアルゴリズムを元にして実際にプログラムを作成し、数理の諸問題へコンピュータを応用することを体験する。学習内容を数学の教材作成へ応用することについても扱う。	メディア
			数学科教育法 I (富山 県の教育実践を含む)	中学校数学科・高校数学科において情報機器の活用の観点から、諸数学教育用ソフトの実習を通して操作方法を学習するとともに、数学教育用ソフトを用いた授業づくりを行うことができるように指導案の作成上の留意点や模擬授業を通して、数学教育用ソフトの活用法について学習する。具体的には、インターネットにある数学教育コンテンツの活用法、作図作成ソフト Cabri-Geometry、数式処理ソフト Mathematica などのソフトを取り上げる。本講義では主に数学教育用ソフトの取り扱いを学習する。	メディア
			数学科教育法 II (富山 県の教育実践を含む)	中学校数学科・高校数学科において情報機器の活用の観点から、諸数学教育用ソフトの実習を通して操作方法を学習するとともに、数学教育用ソフトを用いた授業づくりを行うことができるように指導案の作成上の留意点や模擬授業を通して、数学教育用ソフトの活用法について学習する。具体的には、インターネットにある数学教育コンテンツの活用法、作図作成ソフト Cabri-Geometry、数式処理ソフト Mathematica などのソフトを取り上げる。本講義では主に数学教育用ソフトを活用した指導案の作成及び模擬授業を行う。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 数学教育	数学科教育法Ⅴ	<p>数学科の授業を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学科授業の分析のための枠組みを基に、各領域における授業の視聴とその分析を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点についての理解を深め、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を得る。</p>	
	数学科教育法Ⅵ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の教材と学習指導を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に、教育実習に向けて、受講者が協力して、各領域・内容の教材や学習指導案を検討し、模擬授業を行い、相互評価し振り返る。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」及び「図形」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。</p> <p>(43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	数学科教育法Ⅶ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計し教材を開発するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に教育実習における授業の経験を振り返り、各領域・内容の学習指導の過程について検討し、そのような授業の設計の枠組みへと洗練させ、各領域・内容における教材開発に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程を検討するとともに、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練させる。</p> <p>(43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程の検討と教材開発に取り組み、数学的活動全般を通して、学生自身が主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練し構築していく。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	数学科教育法Ⅷ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計するための実践的な知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みと教材開発による知見を基に、教育実習における授業の経験を振り返り、受講者が協力して、授業を構想し学習指導案として再構成し、その模擬授業を行い、相互評価し振り返る。</p>	
	算数・数学科教材開発研究	<p>中学校数学科・高校数学科において指導案の作成とその指導案に基づいた模擬授業を通して各領域における教材開発の視点や技能を身につけることを目的とする。具体的には、各領域ごとの目標の特徴、一斉授業・グループ学習・個別学習などの授業形態、コンピュータなどの情報機器の活用の仕方などの視点や技能を身につける。小学校算数科では、数と計算・図形・測定・データの活用の領域を取り上げ中学校数学科では、数と式・図形・関数・データの活用の領域を取り上げ、高校数学科では、主に数学A、数学Iの内容の中から取り上げる。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容A（力学概論と現代理科教育）	中学校・高等学校の理科教員として必要な力学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる力や運動の捉え方や力学の考え方・計算方法の基礎について学ぶ講義科目である。具体的には、力の概念、運動と座標、質点の運動（自由落下、放物運動等）、力学的エネルギー保存則、運動量保存則、角運動量保存則、剛体のつり合いなどについて学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
			理科内容A（熱力学）	中学校・高等学校の理科教員にとって重要な熱力学の考え方を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科をエネルギーの視点から理解するために重要な熱力学の体系について学ぶ講義科目である。具体的には、質点系のエネルギー、熱運動、物質の熱力学的性質、理想気体の状態方程式、熱力学第一法則、断熱曲線、アルキメデスの原理、ステファン・ボルツマンの法則、ケルビンの原理、カルノーの定理、熱力学第二法則、エントロピーと熱、熱力学関係式などについて学ぶ。	メディア
			理科内容演習A I（物理学）	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容（力、物体の運動、熱、エネルギー）に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、まず物理数学の基礎を修得した上で、力と運動の関係、力のつり合い、圧力と浮力、力学的エネルギーの保存、熱伝導や熱とエネルギーの関係などについて理解を深める。	
			理科内容演習A II（物理学）	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容（電気回路、電流と磁界、光と音）に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、電磁気学においては、静電現象、電流と磁界、電気容量、電磁誘導、電磁波について学び、また、光の性質や音と波の関係について理解を深める。	
			理科実験A I（物理学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容（力、物体の運動、熱、エネルギー）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、測定と誤差についての基礎的な知識を学び、重力加速度、力の合成、摩擦係数などの力学的実験や、気体と液体の圧力、固体の比熱、熱の仕事当量などの熱力学的測定を行うとともに、コンピューターによるデータ処理に関する技術も修得する。	
			理科実験A II（物理学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容（電気回路、電流と磁界、光と音）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、電気回路製作の基本的技術を学び、電気抵抗、等電位線と電気力線、静電容量、電磁湯堂などの電磁気学の実験や、音波の共鳴や光に関する波動の測定を行うとともに、コンピューターによる機器の制御に関する技術も修得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容B（物理化学概論と現代理科教育）	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代理科教育の様々な課題について知識を深めることが必須となる。この講義では、溶液の性質、熱化学、化学平衡の基礎について取り上げ、物質を構成する微視的な粒子の性質と巨視的な現象とのつながりを学ぶとともに、現代理科教育の様々な課題を理解する視点を養う。	メディア
			理科内容B（一般化学）	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代の生活と化学とのかかわりを理解する視点を養うことが必須となる。この講義では、酸と塩基、酸化と還元、反応速度論について取り上げ、巨視的な現象を微視的な粒子の性質と変化の視点から捉え、身近な物質・現象と結びつけて理解する視点を養う。	メディア
			理科内容演習B I（化学）	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、基礎的な知識を応用し、課題を解決する化学的思考力が必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に含まれる内容（無機化学、物理化学等）に関して、具体的な現象の観察や課題に取り組みながら化学的思考力を養い、教員になるために必要な基礎知識とそれを応用する能力を身につける。	
			理科内容演習B II（化学）	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、専門知識を深めることとその知識や情報を自ら獲得できる力を養うことが必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に関する専門知識や教材について、文献調査を行い、その内容を自ら理解、要約、説明する過程を通して、教員になるために必要な能力を身につける。	
			理科実験B I（化学）	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における化学分野の基本となる実験の指導および安全教育を行うために必要な基礎的な能力を習得することを目的として、気体の発生とその性質の確認、滴定実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			理科実験B II（化学）	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における無機化学、物理化学、有機化学分野の実験指導および安全教育を行うために必要な基礎的な能力を習得することを目的として、金属イオンの分析、分子量の測定、反応エンタルピーの測定、有機化合物の合成実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			理科内容C（生物共通性概論と現代理科教育）	生物分野の理科先進的教育科目として、中学校・高等学校の理科教員に必要とされる生物共通性の基礎を身に付ける。具体的には、生命の化学、生物と細胞、細胞分裂と生物の成長、生物の殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、遺伝子発現、基礎的な生理学などについての科学的知見に関する理解を深め、現代理科教育の課題となる生命科学の基礎を身に付ける。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容C（ヒトの生物学）	中学校・高等学校の理科生物分野を教える上で必要となるヒトの生物学の各論について学ぶ。具体的には、特にヒトの体の調節機能（神経系による調節、内分泌系による調節、免疫系による調節）や、生物の体内環境の役割、生物と環境・環境応答の関係、生命に関する科学技術の諸問題などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア
			理科内容演習CⅠ（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要となる多様な生物の構造と機能に関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、ウイルスとバクテリアの生理学、単細胞生物の生理生態学、陸上植物の形態学と生態学、後生動物の形態学と生態学に関する文献から発表を行い討論する。	
			理科内容演習CⅡ（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な生命の連続性および生物と環境の関わりに関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化、生物と環境、および自然環境の保全と科学技術の利用に関する文献から発表を行い討論する。	
			理科実験CⅠ（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に植物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、植物野外調査と採集、植物実験・観察の方法、植物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、植物細胞・植物組織・植物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
			理科実験CⅡ（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に動物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、動物野外調査と採集、動物実験・観察の方法、動物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、動物細胞・動物組織・動物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
			理科内容D（地球環境科学概論と現代理科教育）	本講義では地学の基礎的な学習をとおして、将来学生が中学校・高等学校の教員になったときに、その授業のバックボーンとなる知識を習得することを目指す。具体的な内容として、大気・海洋運動、地表の変化、堆積岩や地層、地質構造、自然災害について、その成り立ちやメカニズム、そこで起った諸現象について理解を深める。	メディア
			理科内容D（地球史学）	本講義では将来学生が中学校・高等学校の理科教員になったときに、それらの地学分野の内容のバックボーンとなる知識の習得を目指す。具体的な内容として、地球の歴史が何を証拠としてどのように科学的に復元されてきたかを詳しく解説することによって、歴史が興味深い科学の対象であることを理解するとともに、46億年にもおよぶ地球史の概要を知り、その中で人類に至る脊椎動物の進化史を学ぶ。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	理科 教育	理科内容演習D I (地学)	地形や地質の野外観察や地学に関する演習問題等を解くことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容(地形、地質、プレートテクトニクス等)に関する観察や課題に取り組み、地学的な考え方や見方を養う。具体的には、地形および地質の野外観察、ITCを活用した古地理の推定、ボーリングデータによる地質断面図の作成、地質図からの地球史の推定、プレートの運動速度の推定、練習問題地を使った地球史の復元などを行う。	
			理科内容演習D II (地学)	地学に関する課題に取り組むことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に関する単元の内容や教材について研究をする。その上で学生が地学分野に関するテーマを決めて課題設定をし、それらに取り組むことで、地学的な考え方や見方とともに教員としての資質を養う。	
			理科実験D I (地学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容(地形、地層)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、地形図の基礎と読図(コンピュータの活用を含む)、測量の基礎、地質図の基礎と読図などについて学ぶ。	
			理科実験D II (地学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容(気象、化石、岩石)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、身近な気象の観察(作業、データの整理と考察)、コンピュータを活用した自然災害学習、岩石の分類と標本の観察、岩石薄片の観察、化石の分類法、化石の抽出や観察などを行う。	
			理科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領における目標と内容構成、指導計画、指導方法について理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、富山県の具体的な授業実践例を学び、その特徴や教育理念を理解するようにする。とくに、中学校・高等学校における理科の目標をもとに、理科において育成を目指す資質能力と生徒の実態、主体的な学習のための課題設定、授業展開についても理解を深める。また、中学校・高等学校のカリキュラムの構成や教材、情報機器の活用について、具体的な授業実践例をもとに理解する。	メディア
			理科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた授業計画と授業評価について理解するとともに、理科におけるマネジメントを理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、富山県の具体的な授業実践例を学び、理科の教材研究の工夫やSTEAM教育、SDGsと関連付けた学習内容や授業展開の工夫についても学び、単元計画や学習指導案の作成する。作成した学習指導案に基づく模擬授業を実施し、学習の振り返りを行い授業改善にも取り組む。さらに、理科における情報機器の活用や事故防止、理科室の管理運営についても理解を深める。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科教育法Ⅴ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、具体的な理科の授業設計を行い、指導技術について習得することを目的としている。とくに、中学校・高等学校の理科の目標と指導のポイント、優れた理科授業の分析と指導技術、理科の教材研究例と授業実践について具体的な実践例をもとに理解する。また、主体的な理科学習のための課題設定や、情報機器の活用を含めた理科における対話的な学び、教科横断的な理科の授業について具体的な授業実践例から理解する。	
			理科教育法Ⅵ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、授業設計と模擬授業の実施を通して理科の指導技術について習得することを目的とする。指導計画については、単元計画、本時の指導案、評価基準、授業において用いるワークシートの作成など、具体的な教材を対象に行う。その際、物理分野、化学分野、生物分野、地学分野の内容を取り上げ、その内容の特徴を生かした模擬授業の実施と模擬授業の評価を行い、模擬授業を振り返ることによって、指導計画の改善案を作成する。	
			理科教育法Ⅶ	本授業では、教育実習をふりかえりながら理科の授業改善を行い、それにもとづく模擬授業を実施することにより理科の教材開発や指導技術を習得することを目的とする。とくに、教育実習の授業と指導案について再検討し、同じ授業について指導案を再度作成し議論する。その議論の結果を踏まえ、教材について検討し授業計画を立てて模擬授業を実施する。その際、単元計画と本時の指導案の作成と教材の検討、ワークシートの作成、情報機器活用を含む教具の準備と板書計画などを考慮するようにする。	
			理科教育法Ⅷ	本授業では、日本の理科カリキュラムの変遷や世界の理科カリキュラムを概観し、カリキュラムが時代的背景によって変化し指導法も変化してきたことを理解し、これからの理科の指導のあり方について検討することを目的とする。とくに、理科カリキュラムの構成要素にもとづき、昭和20年代の生活単元学習、昭和40年代の系統的学習、昭和50年代からのゆとりのカリキュラム、平成中期から令和にかけての現代のカリキュラムを取り上げ、その背景と特徴を理解する。その際、世界の理科カリキュラムとの比較、理科のカリキュラムマネジメントの考慮などについても取り上げる。	
			理科教育演習Ⅰ	本授業では、理科教育に関する研究資料やデータの分析をもとに、理科教育の研究方法について習得することを目的とする。とくに、理科の教材開発の方法について、教材開発の論文をもとに理解する。また、自然認識の調査分析の方法について、定性的分析や統計的手法を用いた定量的分析について研究論文をもとに理解する。さらに、理科授業の質的分析、量的分析の方法について理解するとともに、理科カリキュラムの分析方法について、歴史的分析や国際比較の分析について理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	理科教育演習Ⅱ	本授業では、理科教育に関する研究資料の分析とともに、教材開発の課題研究を通して理科教材の開発方法について習得することを目的としている。まず、教材開発の目的と意義の理解のもとに、任意の理科教材に着目し、その教材開発の先行研究について調べ、教材の意義や教材開発の方法について理解する。それをもとに、教材の設計、教材の作成を行い、教材の発表を通して改善し、改善した教材を用いた授業設計と模擬授業を行う。模擬授業を通して教材および教材を用いた授業展開の改善点を明らかにする。	
		アンサンブルⅥ(室内楽)	受講者同士でアンサンブルを組み、西洋古典から近現代による作品の演習を通して、各楽器の特性や楽曲の特徴などを捉え、音楽を多面的に理解する。演習では、他の科目で学習した個人の技能を基盤とし、アンサンブルを通して学校教育において必要とされる「協働」を体験的に学ぶ。同時に、発音等の仕組みが異なる楽器とのアンサンブルに取り組むことで、他の楽器の特性を捉え学校における音楽科授業等の指導につなげることを目指す。	
	アンサンブルⅦ(室内楽)	受講者同士でアンサンブルを組み、室内楽曲の演習を通して音楽を多面的に理解し、合奏体における指導法の習得を目指す。他の合奏科目における学修を基盤とし、さらに高度なアンサンブルの実現を目指す。また、指揮法における基本的な動作を、アンサンブルを指揮することでよりリアルに学び、同時に児童生徒を対象としたより適切な指導言を獲得できるようにする。講義の最後には成果発表を行い、学修成果の対外的な発信につとめる。		
	音楽教育	音楽史Ⅰ(西洋音楽)	西洋の社会の中ではぐくまれてきた音楽文化を地中海世界、中世、近代に向けて概観しつつ、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につける。資料を通じての分析力・理解力とともに感性・感情といったコミュニケーションや自己理解や他者理解のスキルを発見し解決していくことを目標とする	
	音楽史Ⅱ(西洋音楽)	近代以降のグローバル社会における音楽文化を作品や様式だけにとどまらず社会と歴史観を交えて概観する。視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけるとともに、資料を通じての分析力・理解力や感性・感情に左右されるコミュニケーションや自己理解や他者理解のスキルを発見し解決していくことを目標とする。		
	音楽科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	音楽科教育法Ⅰ・Ⅱの学修をもとにしたより実践的な指導計画について学習評価の面から考察し、模擬授業の実施につなげる。講義では、音楽科教育における基本的な用語や概念を把握したうえで、実際の授業場面を映像で視聴し、学習評価に関する理論を体験的に把握する。また、実際の学習計画に対応した評価計画を作成し、簡単な模擬授業とその後の省察を通して、評価計画等の妥当性を検証できる素地を身につけることを目指す。	メディア	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	音楽教育	音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰ・Ⅱの学修をもとにしたより実践的な指導計画について学習評価の面から考察し、模擬授業の実施につなげる。講義では、学習指導案を実践する上で必要となる教材や教具の開発を行い、模擬授業の実施とその後の省察によってそれらの有効性を検証と改善を行う。また、授業分析の理論と方法を学び、これからの教師に必要とされる省察のための基礎的な知識と技能を身につける。同時に、今後必要とされる授業改善の視点について、実際の授業を映像で視聴しながら検討する。	メディア
		絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	様々な描画材料を用いた実技課題に取り組みながら、絵画実技に関する基礎的な表現力・造形力を習得することを目的とする。絵画組成（支持体、各種絵具）の特性についても理解を深め、様々な画材を用い9つの提出課題作品の制作に取り組む。各課題提出と併せ、ミニ講評会の機会を持ち、作品分析・作品評論・作品評価についても検討する。	
	美術教育	彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）	彫刻分野での基本である塑造を蠟によって経験し、その成果物である塑像を恒久的形態として残すことの、歴史的・技法的意義を学習する。金属鑄造技法は多岐にわたり、知識を習得すると共に自身の経験するところからの造形意識の再確認を促す。見落とされがちな彫刻作品の鑄造過程を理解し、原形制作、鑄型制作と鑄造、仕上げまでの工程を実体験することでモノのあり方を再確認、再発見する。	
		デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える造形的な視点に基づき、デザインの基礎的表現について理解する。加えて、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、幅広い学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。文献研究や制作課題を通して、デザインの基礎的表現の知識や表現技能を身につけ、演習課題を通して基礎的な造形表現能力を養う。	
		デザインⅠ	「デザイン基礎Ⅱ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザイン基礎Ⅱ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、平面デザインを学習する。	
		デザインⅡ	「デザインⅠ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅠ」までの学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、立体デザインを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	デザインⅢ	「デザインⅡ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅡ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、映像メディアデザインを学習する。	
			デザインⅣ	デザインと社会のかかわりを考え、演習課題を通して実践的にデザインの社会的責任や役割を理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅢ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・プレゼンテーションを行い、ソーシャルデザインの可能性を研究する。	
			工芸基礎Ⅱ	美術科の工芸分野に関する基礎知識・技能を理解し、木工作品制作を通して材料や技法の理解を深める。伝統的な工芸品から現代の工業製品まで、生活の中にある工芸品について、素材や機能、技法、地域の違いによるそれぞれの価値について考える。陶芸作品や木工作品制作を通じて、素材特性や工芸技法の理解・習得する。	
			日本美術史（美術理論含む）	日本美術史の通史として、先史・古代から中世、すなわち縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・安土桃山・江戸時代、また近代美術の流れを学ぶ。話の流れの中で適宜、同時代に影響を受けた中国、朝鮮半島など東アジア、またヨーロッパの美術作品も取り上げていく。	
			西洋美術史（美術理論含む）	古代から現代までの西洋美術史の展開を学び、作品鑑賞に必要な知識や見方を身につける。西洋美術の見方の基礎をおさえた上で、日本を含む東洋の美術史や美術作品との比較も取り入れながら、様式や作品のつながりと展開を多角的・有機的に構築していく。同時代の社会状況や政治状況、背景となる思想をふまえながら、社会の中での美術の役割について考える。	
			美術実地研究	実際の美術作品を中心とした文化資源の現地調査を通して、美術科の授業における美術資源を活用した教材について考察する。国内の著名な美術作品を直に鑑賞するとともに事前調査の内容を発表することによって、文化史や美術史の理解と認識を深め、鑑賞領域の授業力の向上を目的とする。 調査する美術館及び作品を学生自らが選択し、現地調査の計画を立てる。2泊3日で実際に調査に出向き、事前調査に基づく作品説明を行う。お互いの説明内容・方法を相互評価するとともに鑑賞した作品について意見交換をおこなう。最終的に事前調査及び現地調査に基づく作品解説の教材を作成する。	
			美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	学習指導要領における「表現」において富山県の材料の使用を含む中学校の美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿った「表現」の授業について、学習指導案を立案しミニ模擬授業（ウエアブルカメラ及びタブレット端末等のICT機器を活用した）を行うことで授業方法の専門知識・技術を深める。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	学習指導要領における「鑑賞」において県内の美術館所蔵作品の活用を含む中学校の美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿った「鑑賞」の授業及び「共通事項」を意識したミニ模擬授業（ウェアラブルカメラ及びタブレット端末等のICT機器を活用した）を行い、「表現」のデータと共に発話を中心に表計算ソフトで分析することで授業方法の専門知識・技術を深める。	メディア
			美術科教育法Ⅴ	<p>3年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにし、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の附属学校園での研究授業や教壇実習の記録ビデオ再生による授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>（金沢クラスはオムニバス方式／全8回）</p> <p>（金沢クラス 44 鷺山靖／1回, 8回） 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>（金沢クラス 22 大村雅章／2回, 5回, 8回） 第2,5回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>（金沢クラス 151 江藤望／3回, 6回, 8回） 第3,6回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>（金沢クラス 67 池上貴之／4回, 7回, 8回） 第4回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 （金沢クラスのみ）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	美術科教育法Ⅵ	<p>「中等美術科教育法Ⅴ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回)</p> <p>「中等美術科教育法Ⅴ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回)</p> <p>模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			美術科教育法Ⅶ	<p>4年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにすることにより、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の実習協力校での研究授業や教壇実習を模擬授業形式で再現する授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/1回, 8回)</p> <p>第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回)</p> <p>第2, 5回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回)</p> <p>第3, 6回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回)</p> <p>第4回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	美術科教育法Ⅷ	<p>「中等美術科教育法Ⅶ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回)</p> <p>「中等美術科教育法Ⅶ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回)</p> <p>模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			造形教育演習Ⅰ	<p>本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために、まず研究テーマを設定し、章立てを構想し、先行研究を調べた上で、研究テーマの認再確をし、研究仮説の設定を行う。</p>	
			造形教育演習Ⅱ	<p>本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅰで設定した研究テーマに基づいた研究仮説にしたがって、研究で必要な調査計画を立案して実際に予備調査を行い、結果をまとめる。</p>	
			造形教育演習Ⅲ	<p>本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅱで行った予備調査のとりまとめの結果を踏まえて分析方法を確定し、本調査を行った上で分析結果を集約して結果をまとめ考察を行う。</p>	
			造形教育演習Ⅳ	<p>本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅲで行った調査結果を分析して導き出した結果に対する考察を踏まえた上で、論文の作成を行い、発表用レジュメやプレゼンテーションの作成を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	体操Ⅰ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、体ほぐし運動を中心に実技形式で授業を行う。	
			体操Ⅱ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、用具を用いた運動を中心に実技形式で授業を行う。また、運動プログラムの発表も行う。	
			器械運動Ⅰ	器械運動の基本技能を身につけること、およびマット運動や平均台運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、マット運動（接転技群：前方，接転技群：後方，ほん転技群），平均台運動（歩行，バランス，下り）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	
			器械運動Ⅱ	器械運動の基本技能を身につけること。跳び箱運動や鉄棒運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、跳び箱運動（切り返し系，回転系），鉄棒運動（上がり技群，前方支持回転群，後方支持回転群，下り技群）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	
			陸上Ⅰ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技に関する基礎理論を実践する。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
			陸上Ⅱ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技の応用的実践力を高める。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
			水泳Ⅰ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール及び平泳ぎの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	水泳Ⅱ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
	武道BⅠ（柔道）	本科目では柔道の基本技術を身につけるとともに、柔道の指導法を学ぶことを目的とする。武道BI（柔道）では、柔道の教育的価値や柔道に附随する傷害・事故発生時の対処法を理解することを導入とし、柔道の基本動作や基本的な投げ技、技を用いた攻防をかかり練習、約束練習、自由練習などによって学習する。また、それらの指導法を学ぶことで、安全で楽しい柔道授業の運営能力を身につける。	
	武道BⅡ（柔道）	本科目では柔道の基本技術を身につけるとともに、柔道の指導法を学ぶことを目的とする。武道BII（柔道）では、武道BI（柔道）で学習した基本的な投げ技の連絡技や基本的な抑え技、技を用いた攻防をかかり練習、約束練習、自由練習などによって学習する。また、それらの指導法や試合運営法、審判法についても学び、安全で楽しい柔道授業の運営能力を身につける。	
	ダンスⅠ	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンスⅠでは主に、創作ダンスとフォークダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	ダンスⅡ	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンスⅡでは、主に現代的なリズムのダンスと創作ダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	球技（ゴール型）BⅠ（バスケットボール）	基礎的な個人技術と3対3までの集団的戦術を習得し、その指導法を理解する。グループ学習を通じて、チーム内で助け合いながら協調性を高め、仲間とともに技術を高めていく姿勢、バスケットボールの指導の目的、生徒の発達段階に応じた指導法を理解し、実践できるようになる。また、ゲームの実践を通じて、バスケットボールのルールを理解し、基礎的な審判技術を習得する。さらに3対3のリーグ戦等の実践において、生徒たちが自主的に試合運営ができるようになるための留意事項を理解する。	
	球技（ゴール型）BⅡ（バスケットボール）	応用的な個人技術と5対5までの集団的戦術を習得し、その指導法を理解する。グループ学習を通じて、チーム内で助け合いながら協調性を高め、仲間とともに技術を高めていく姿勢、バスケットボールの指導の目的、生徒の発達段階に応じた指導法を理解し、実践できるようになる。また、ゲームの実践を通じて、バスケットボールのルールを理解し、基礎的な審判技術を習得する。さらに5対5のリーグ戦等の実践において、生徒たちが自主的に試合運営ができるようになるための留意事項を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	球技（ネット型）B I （バレーボール）	バレーボールのゲーム特性の理解を通して、基礎技術の習得やゲームの楽しさを体験することをテーマとする。チームとして戦術を創出し、それを実現しようとする中で、意思の表示、伝達、協力、共感といったコミュニケーションや協働作業の必要性を理解し、バレーボールの楽しみ方を検討する。また、基礎技術は、個別の技術練習とゲーム練習を併せながら学習し、基本技術を連携させた応用技術では、守備からの攻撃や攻撃からの守備への切替えを学習する。バレーボールは、ポジション別にチームにおける役割が異なるため、役割を理解し、守備及び攻撃時におけるそれぞれの動きを学習することを目標とする。	
			球技（ネット型）B II （テニス）	テニスは数多く存在するスポーツ種目の中でも特に、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が親しむことができる特性を持ち、その基礎技術を習得し実践することは、個人の生涯スポーツ参加の一助となり得る。よって、本授業では、学習者個々のレベルに応じて、テニス技術を高めることを大きな目的とする。また、テニスの指導・普及という指導者の観点から、テニスの特性にふれ、練習・試合を工夫していく能力を養う。	
			球技（ベースボール型）I	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要なデモンストレーション能力を修得する。また、体育授業や指導現場で活用できる教授法や指導法の理論と実践を学修する。さらに、チームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通じた協同学修の価値・認識を深める。	
			球技（ベースボール型）II	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要な審判法や大会等の企画・運営方法を修得する。また、ベースボール型球技の具体的な教材事例を実践するとともに、指導計画案の作成から模擬授業・指導演習までを実施し、互いの成果と課題について省察を深める。	
			スポーツ文化論 I	本講義は、スポーツに対して文化論的視点から講義を行う。特に、スポーツ文化論 I では歴史的視点から近代に誕生したスポーツについて、その文化的背景を中心に講義したい。近代という時代は、それ以前の世界から大きな変容がなされたとされており、スポーツもまたそのような時代的背景のもとで形成された。そして、現代を生きる我々もまた、そのような近代という時代を経たうえで実践されているスポーツに慣れ親しんでいる。本講義では、スポーツが誕生したイギリスを含むヨーロッパと、我々が住む日本の、近代におけるスポーツについて理解を深めることを目指す。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	スポーツ文化論Ⅱ	本講義は、スポーツに対して文化論的視点から講義を行う。特に、スポーツ文化論Ⅱでは文化人類学的視点からスポーツやわざ等の身体にまつわる文化を対象に、その文化的背景を中心に講義したい。スポーツとは、近代にイギリスを起点にヨーロッパやアメリカを中心に形成されたものとされる。しかし、当然のことながら世界は西洋社会のみによって形成されるものでなく、様々な文化において、スポーツに類似するような身体文化が存在している。本講義では、そのような身体文化を中心に文化人類学的視点を援用しながら、今日スポーツと呼ばれている実践を相対化するような視点を身につけることを目指す。	メディア
			スポーツ心理学Ⅰ（最新教育課題を含む）	学校教育における体育、競技やレクリエーションとしてのスポーツ、健康・医療領域での運動習慣など、広義の身体活動への動機づけについて心理学の理論的背景から説明し、創造的で質の高い指導ができる運動指導者の育成を目指す。「身体的健康」、「精神的健康」、「社会的健康」の維持・促進に向けてスポーツ心理学がどのように役立つのかを学ぶ。	メディア
			スポーツ心理学Ⅱ（最新教育課題を含む）	運動指導者は、学習者の運動行動を継続させるために、運動技能を効率よく習得させ、運動への有能感を高めさせることが求められる。学習者の「身体で覚える」営みを促進させるためには、運動技能を習得する過程の情報処理について理解を深めなければならない。この「運動学習」について、心理学の理論的背景を学びながら、創造的で質の高い指導ができる運動指導者の育成を目指す。	メディア
			スポーツマネジメント論Ⅰ	スポーツ産業は成長を続け、スポーツから生まれる権益を販売する権利ビジネスも定着する傾向にある。これらの成長は、用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディア産業など多岐にわたっており、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）と密接に関連している。本授業ではスポーツの種類別経済活動（市場）、官民が進めるスポーツクラブの現状、スポーツと健康・医療、ツーリズムなど、具体例を挙げながら実践的スポーツマネジメントについて学び、地域社会との結び付きについて理解を深める。特に、スポーツ産業の全体構造の把握と接続領域（メディア、IT）など中心に学修する。	メディア
			スポーツマネジメント論Ⅱ	スポーツ産業は成長を続け、スポーツから生まれる権益を販売する権利ビジネスも定着する傾向にある。これらの成長は、用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディア産業など多岐にわたっており、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）と密接に関連している。本授業ではスポーツの種類別経済活動（市場）、官民が進めるスポーツクラブの現状、スポーツと健康・医療、ツーリズムなど、具体例を挙げながら実践的スポーツマネジメントについて学び、地域社会との結び付きについて理解を深める。特に、消費者行動論や組織経営論を背景にスポーツ事業の立案と展開を学修することを目標とする。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	スポーツ社会学Ⅰ	現代社会におけるスポーツの役割は多様化している。政治や経済との関係性が強まるほど、スポーツの社会的意義を読み解く力が必要とされ、地域の実情を理解し、課題の構造を見極めることが求められている。本講義においては、現代社会におけるスポーツのさまざまな現象を社会学的視点からとらえ、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会学的見方と考え方を習得する。また、スポーツプロモーションの観点から自身とスポーツの関わり方、スポーツ集団と社会の望ましい在り方について検討する。	メディア
			スポーツ社会学Ⅱ	現代社会におけるスポーツの役割は多様化している。政治や経済との関係性が強まるほど、スポーツの社会的意義を読み解く力が必要とされ、地域の実情を理解し、課題の構造を見極めることが求められている。本講義においては、現代社会におけるスポーツのさまざまな現象を社会学的視点からとらえ、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会学的見方と考え方を習得する。特に、国や地方公共団体等の政策及び社会的課題を理解し、社会・経済学的視点からスポーツとまちづくりの関係性などを検討する。	メディア
			運動学概論（運動方法学を含む）Ⅰ	運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。運動指導の基本となる運動学習理論である「スポーツ運動学」について学ぶ。本授業では特に、「運動技術」「運動技能」「運動構造」「達成力」「運動モルフロジー」「運動ゲシュタルト」「運動の学習転移」などについての論理的に理解することを目的とする。	メディア
			運動学概論（運動方法学を含む）Ⅱ	運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。運動指導の基本となる運動学習理論である「スポーツ運動学」について学ぶ。本授業では特に、「学習位相論」「運動習熟」「運動の観察」「運動分析」「運動修正」などについての論理的に理解し、実践につながる知識として獲得することを目的とする。	メディア
			バイオメカニクスⅠ	バイオメカニクスの概要を理解し、基本運動を力学的観点から解釈する能力を身に着けることを目的とする。バイオメカニクスの基本的概念を概説し、骨、筋のバイオメカニクス、バイオメカニクスの原則や分析方法についてキネマティクス・キネティクスの観点から学習する。また、バイオメカニクスの観点から各種運動を理解するための基礎を習得する。	
			バイオメカニクスⅡ	バイオメカニクスの観点から各種基礎運動について理解し、解釈する能力を身に着けることを目的とする。各種基礎運動（立位姿勢、歩行動作、走行動作、跳躍動作、投動作、打動作、落下運動、滑る運動、泳動作、回転運動）について概説し、各種運動のバイオメカニクスの観点（キネマティクスの観点、キネティクスの観点、エネジェティクスの観点等）から運動を解釈する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	発育発達Ⅰ	幼少期から思春期を経て成人に至るまでの発育発達の過程について、形態や機能、生活習慣や体力、子供を取り巻く環境から検討し、基本的知識・理解の獲得を目標としている。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、運動・スポーツによる健康づくりに必要な発育発達の指導・支援方法の専門性の獲得をめざす。	メディア
			発育発達Ⅱ	①発育発達期に多いケガや病気について、②成人以降の加齢に伴う体力の低下をはじめとする人体の老化と運動・スポーツとの関連、③女性の運動・スポーツについて、基本的知識・理解の獲得を目標としている。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、運動・スポーツによる健康づくりに必要な発育発達の指導・支援方法の専門性の獲得をめざす。	メディア
			保健体育科教育法Ⅲ (富山県の教育実践を含む)	保健体育科の体育分野のひとつである器械運動の領域を対象として、背景となる学習理論の理解や学問領域との関係の理解、個別の学習内容について指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解をとおして授業に活用することができるようになる。本授業では、マット運動・鉄棒運動について取り扱う。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができるようになる。また、富山県の教育事情を鑑みながら、保健体育科教員となるためにアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりについて学習する。	メディア
			保健体育科教育法Ⅳ (富山県の教育実践を含む)	保健体育科の体育分野のひとつである器械運動の領域を対象として、背景となる学習理論の理解や学問領域との関係の理解、個別の学習内容について指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解をとおして授業に活用することができるようになる。本授業では、平均台運動、とび箱運動を取り扱う。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができるようになる。また、富山県の教育事情を鑑みながら、保健体育科教員となるためにアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりについて学習する。	メディア
			保健体育科教育法Ⅶ	本科目は、保健体育科教育法を学習する最終年度の科目である。本科目では、教育課程の観点から、保健体育科教育における重点教材、運動部活動の学習指導、健康教育の授業づくりについて探究することを通して、発展的な学習内容や方法を理解する。上述の観点についての講義をふまえ、各自で授業計画を作成し、相互交流・発表を実施することで、授業づくりの力量形成をめざす。	メディア
			保健体育科教育法Ⅷ	本科目は、保健体育科教育法を学習する最終年度の科目である。本科目では、スポーツ文化を学ぶ体育授業づくりや共生社会にむけた体育授業づくりを探究することを通して、保健体育科教育における教材研究(教科内容研究)の方法や発展的な学習内容や方法を理解する。上述の観点についての講義をふまえ、各自で授業計画を作成し、相互交流・発表を実施することで、授業づくりの力量形成をめざす。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	保健体育	コーチング論Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>スポーツの価値を高めるための時代をリードするコーチング(プレーヤーの目標達成に向け、プレーヤーの有能さと人間性を高めていく支援を行っていくプロセス)について正しく理解する。特に、コーチの役割やスポーツのインテグリティ、組織運営について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 大川信行/1回, 2回)</p> <p>スポーツの意義や価値、スポーツ権について概説する。</p> <p>(50 佐伯聡史/3回, 4回, 5回)</p> <p>コーチングに必要な知識やスキルなどを体系的に説明し、コーチに求められる役割について学ぶ。</p> <p>(48 神野賢治/6回, 7回, 8回)</p> <p>コーチングにおけるインテグリティやスポーツ組織のマネジメントについて説明し、公平性のあるスポーツ環境の構築について学ぶ。</p>	オムニバス方式	
		コーチング論Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>スポーツの価値を高めるための時代をリードするコーチング(プレーヤーの目標達成に向け、プレーヤーの有能さと人間性を高めていく支援を行っていくプロセス)について正しく理解する。特に、コーチに求められる医科学的知識について心理学や栄養学、トレーニング論から理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(50 佐伯聡史/1回, 2回)</p> <p>スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について説明し、理解を深める。</p> <p>(56 福島洋樹/3回, 4回, 5回)</p> <p>体力・スキル・心のトレーニングについて基本的な考え方と方法論を説明し、理解を深める。</p> <p>(92 澤聡美/6回, 7回, 8回)</p> <p>スポーツと栄養、アンチドーピングやスポーツに関する医科学的知識について説明し、理解を深める。</p>	オムニバス方式	
	家政教育	食物学概論Ⅰ(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む)	<p>本授業では、栄養の概念、各栄養素の種類、体内での働き、消化吸収といった栄養学の基本的な事項について講義し、家庭科教員として必要となる栄養に関する基礎知識を習得する。また、このような基礎知識を踏まえたうえ、現代の栄養課題についても解説する。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 各栄養素の栄養学的役割について説明できる。</p> <p>(2) 食べ物の消化吸収の概要について説明できる。</p> <p>(3) 現代の栄養課題を知り、栄養に関する基礎知識の理解を深める。</p>	メディア	
		食物学概論Ⅱ(栄養学、食品学を含む)	<p>本授業では、食品の分類や成分の特徴、食品群と栄養学的特徴、調理の際に起こる食品成分変化などについて、身近な植物性・動物性食品を取り上げながら解説し、家庭科教員として必要となる食品に関する基礎知識を習得する。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 食品の機能性と分類について説明できる。</p> <p>(2) 身近な食品の成分とその特徴について説明できる。</p> <p>(3) 調理による成分変化について科学的な視点から捉えることができる。</p>	メディア	
	専門科目				

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	家政教育	食物学	本授業では、中学校・高等学校家庭科の食物領域に関連する内容を、安全面（食に起因する健康被害、食品の安全性確保、食品の表示と選択）、環境面（食生活と環境負荷、社会・家庭環境と食生活）、栄養面（食事計画、主菜・主菜・副菜の揃った食事）といった視点から食生活の営みに関連する事項について解説する。このような視点を踏まえ、自身の食生活を振り返り、望ましい食生活のあり方を主体的に考える態度を養うことを目的とする。	メディア
			調理実習（地域の食文化比較を含む）	本授業では、基本的な調理操作と食品の扱い方について、身近な食材を用いた実験や日常食の調理実習を通して実践的に学び、家庭科教員として必要となる調理と加工に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、地域の食文化についても触れる。到達目標は、以下の通りである。 （１）基本的な調理法を理解し、調理による成分変化をふまえた調理操作ができる。 （２）衛生面、安全面、環境面に配慮して食品を扱い、調理することができる。 （３）栄養バランスの良い食事についての理解を深める。	
			食物学演習Ⅰ	本授業では、健康と栄養の歴史を概観した後、日本人の栄養摂取の状況、疾病との関わり、糖質や食物繊維等食品成分の役割など食物栄養領域に関連する事項を取り上げ、それらについての情報（統計資料や文献など）を収集し、収集したデータを客観的に観察し、的確に捉えて発表する能力を養うことを目的とする。発表者は、収集した情報（統計資料や文献など）をもとに内容を整理し、データの意味を考え、発表資料を作成して授業に参加する。	メディア
			食物学演習Ⅱ	本授業は、食物学演習Ⅰを履修していることを踏まえて進める。食物栄養領域の学術論文の講読、発表、討論を通して、この分野の知見を広め、健全な食生活のあり方について多角的な視点から捉え、評価する能力を養うことを目的とする。授業は近年の食物栄養領域の学術論文を題材とし、輪講形式で行う。発表者は事前に学術論文を読み、内容を理解した上で、発表の準備を十分に行い、作成した資料を用いて発表を行う。発表後は受講生全員が積極的に討論に参加する。	メディア
			住居学概論Ⅰ	住居に関する基本的知識や技能を習得することを目標とする。特に、季節の変化に合わせた住環境の制御方法に関する解説を通して、快適な住まいを創造する意義や方法をより具体的に理解することを到達目標とする。授業では気候の変動や都市環境の課題について紹介した上で、熱・空気・音・光の住環境要素と人間の反応を踏まえた環境制御方法について講義する。	メディア
			住居学概論Ⅱ	住居に関する基本的知識や技能を習得することを目標とする。特に、人間工学の知見に基づいた住まいの構成要素と人間との関係や、健康維持のための住まいの維持管理などに関する解説を通して、快適な住まいを創造する意義や方法をより具体的に理解することを到達目標とする。授業では人間の身体的および心理的特徴について紹介した上で、人体寸法と家具の関係、住空間と住生活の関わり、健康で安全な住まいなどについて講義する。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	家政教育	住居学Ⅰ（現代の住環境問題を含む）	住生活文化の継承および安全な住まいなどに関する解説を通して、安全で文化的な住環境を創造する意義や方法および現代の住環境問題をより具体的に理解し、住生活の課題を解決し創造するための実践力を育成することを到達目標とする。授業では住居史や間取りの変遷およびインテリアの歴史などを踏まえた住生活の文化の継承、家庭内事故や火災・自然災害に対して安全な住まいの在り方、景観への配慮も含めた地域との関わり、現代の住環境問題について考察する。	メディア
			住居学Ⅱ（製図及び富山石川の住宅比較を含む）	具体的な住空間の平面計画などに関する解説を通して、豊かな住生活を実現する意義や方法をより具体的に理解し、住生活の課題を解決し創造するための実践力を育成することを到達目標とする。授業では気候や風土と住居との関わりや住空間の構成と計画、インテリアデザインなどについて体系的に講義した上で、平面図をはじめとする表現技術について演習する。また富山と石川の気候・風土・文化の違いを含めた住宅比較を行う。	メディア
			住居学演習Ⅰ	住環境領域の研究論文の読解方法や環境計測・評価・解析方法を習得し、住環境における実態把握と課題解決力を育成することを到達目標とする。授業では住環境における実態や課題について、各種統計データや関連する研究論文の調査を実施し、検討課題の解決方法について議論する。また特に光環境の計測・評価・解析方法について演習を実施し、適切な住空間計画のための物理環境要素の制御の重要性について理解を深める。	メディア
			住居学演習Ⅱ	住環境領域の国内の研究論文の講読を通して、住環境における課題を整理し、多角的に考察する能力を育成することを到達目標とする。授業では住環境領域における国内の研究論文について、担当学生が資料を準備して報告する。このとき、全ての参加者も報告予定論文について事前に読解してくることをとする。なお調査対象とする研究論文については、参加学生の研究内容に合わせて選定する。	メディア
			家庭科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、反省的実践家である中学校あるいは高等学校の家庭科教師として、理解しておくことが必要な家庭科教育の基本的・応用的原理についての理解を深めることを主眼としている。 中学校家庭科、高等学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容とその学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。教育内容論では、主として、食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。その際、富山県に関わる授業実践についても行う。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	家政教育	家庭科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、反省的実践家である中学校あるいは高等学校の家庭科教師として、理解しておくことが必要な家庭科教育の基本的・応用的原理についての理解を深めることを主眼としている。 中学校家庭科、高等学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容とその学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。教育内容論では、主として、家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。その際、富山県に関わる授業実践についても行う。	メディア
			家庭科教育法Ⅴ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。食生活、衣生活、住生活分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
			家庭科教育法Ⅵ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。家族・保育分野、消費生活・環境分野、福祉分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
			家庭科教育法Ⅶ	授業のテーマおよび到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、3年次の教育実習をふりかえりながら、授業と指導案について再検討し、議論を踏まえて同じ授業について指導案を再度作成して議論する。実験、実習、リサーチ・討論、小・中学校家庭科授業の参与観察、情報機器及び教材の活用、といった学生が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
			家庭科教育法Ⅷ	授業のテーマ及び到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、主として今日的教育課題と家庭科について学ぶ。より必要性が高まっている学習内容や学習方法を取り入れた先駆的ですがすぐれた授業実践を分析し、それを活かしながらカリキュラムや学習指導を構想・実践する。実験、実習、リサーチ・討論、情報機器及び教材の活用、小・中学校家庭科授業の参与観察、模擬授業といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	家庭科教育演習Ⅰ	<p>家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とし、家庭科を探究的に学ぶ視点や研究方法に関する基礎的な知識やスキルを習得する。また、家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得する。</p> <p>カリキュラムに関わる文献研究、質問紙や面接などの調査研究、諸外国の家庭科に関する研究、授業の実践的研究などについて、具体的な研究例をもとに検討する。また、授業づくりにかかわる教材研究の一環として実習や実験なども行う。</p>	
	家庭科教育演習Ⅱ	<p>家庭科教育演習Ⅰを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合のテーマ設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。</p> <p>様々なテーマの研究論文を講読し、テーマに応じた研究手法の特徴について理解を深める。また、受講生自身が探究したいテーマについて、資料収集の方法や探究方法を考え、アドバイスを受けながら実践する。</p>	
	住居学演習Ⅲ	<p>住環境領域の海外の統計データや研究論文の講読を通して、住環境における課題を整理し、多角的に考察する能力を育成することを到達目標とする。授業では住環境領域における海外の統計データや既往研究論文を元に、調査や研究の背景および目的、母集団の特性、調査・解析方法、得られた知見や今後の課題などに関して、担当学生が資料を準備して報告する。このとき、全ての参加者も報告予定論文について事前に読解しておくこととする。なお調査対象とする研究論文については、参加学生の研究内容に合わせて選定する。</p>	
	住居学演習Ⅳ	<p>住環境領域における現代の教育課題や研究課題について、環境計測・評価・解析方法を用いながら、実態把握や課題解決を行うことを到達目標とする。授業では住環境における現代の教育課題や研究課題について、既往研究との位置づけを明確にしながら研究計画を立案し、実験やアンケート調査など課題解決のためのデータ収集方法を決定した上で、環境計測やデータ分析・解析を実施しながら、適切な住空間計画のための実態把握や課題解決について論文執筆指導を行う。</p>	
	食物学演習Ⅲ	<p>食物学演習Ⅰ、Ⅱを履修していることを踏まえて授業を進める。現代社会において食をめぐる課題が散見されている。年代によっても課題が異なることについても認識し、栄養や食をめぐる問題に気づき、その問題の所在を既存の調査結果から客観的に把握するとともに、それが食教育においてどのような意味を持つのか考える能力を養うことを目的とする。最新の学術論文の講読と発表から、近年の課題の動向を知り、現状を把握するための調査方法や分析方法について着目した議論を行い、理解を深める。</p>	
食物学演習Ⅳ	<p>現代社会において食をめぐる問題が散見されている。食物学演習Ⅲでの学習を展開させ、食をめぐる諸問題を客観的に捉えたり解決するための方法をさらに追及する態度を養うことを目的とする。近年の食をめぐるさまざまな課題の中から、受講生各自がテーマを持ち、その問題を的確に捉えるために、またはその問題を解決するために有用と思われる調査・分析方法や食教育について考え、提案する。その提案に対して、参加者全員で討論し、理解を深める。</p>		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	家庭科教育演習Ⅲ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集し、アドバイスを受けながら研究枠組・研究計画をたてる。予備調査も行う。	
		家庭科教育演習Ⅳ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集したりし、アドバイスを受けながら研究を進める。定期的に報告会を行い、受講生相互に検討し合う。	
	英語教育	英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育)	英語学の基本的な概念を学び、英語をより深く客観的に理解するための基礎を作る。具体的には英語史、形態論、意味論の各分野における基本的な概念を学んでいく。あわせて、授業において英語史・形態論・意味論のそれぞれの概念が具体的にどのような場面で活用し、深い理解につなげていくかについても学ぶ。学生も活用の仕方について提案する。	メディア
		英語学概論Ⅱ(文法と現在の英語教育)	英語学の基本的な概念を学び、英語をより深く客観的に理解するための基礎を作る。具体的には統語論、語用論の基礎について、平易な英文で書かれたテキストを用いて解説していく。あわせて、授業において統語論・語用論のそれぞれの概念が具体的にどのような場面で活用し、深い理解につなげていくかについても学ぶ。学生も活用の仕方について提案する。	メディア
		英語学概論Ⅲ(応用)	音韻論・社会言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、音韻論・社会言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	
		英語学概論Ⅳ(応用)	心理言語学・応用言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、心理言語学・応用言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	英語音声学・文法Ⅰ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。具体的には完了形、進行形、能動態・受動態など、コミュニケーション活動で用いられることの多い構文および、英語音声の基礎的部分を解説・練習していく。	
			英語音声学・文法Ⅱ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。動詞・倒置・省略など、コミュニケーション英語で重要となる文法事項および、英語音声の単音レベルの基礎を解説・練習し、授業の中での活用についても考察する。	
			英語学演習Ⅰ（個別理論）	構造言語学および生成文法の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理するレポートを作成する。	
			英語学演習Ⅱ（個別理論）	認知言語学および言語類型論の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理する課題を行う。	
			英作文Ⅰ（基礎）	英語で文章を書くための基本的な事項を学ぶ。英語のコミュニケーションに習熟し、受講生は将来自身が英語で授業を行うための英語運用力を積極的に身につける。特にこの授業では簡潔な英語で文章を構成する方法を重点的に学ぶ。パラグラフの書き方を練習することを通じ、英語という言語とそれによる文章の論理的構造に習熟する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
			英会話Ⅰ（基礎）	日常よく使われる英会話の定型表現を学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、ロールプレイ型の会話練習を行い、実際の場面の中で活用する。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。また、毎回、前回の学習の確認クイズを行う。	
			英作文Ⅱ（応用）	英作文Ⅰ（基礎）で修得した、英語で文章を書くための基本的な事項を活用し英語運用の運用能力のさらなる発展を目指す。様々なジャンルの英語に触れることで、目的や場面、状況に応じた適切な英文を書くことができるようになる。明快な英文を用いた複数のパラグラフによる種々の課題の執筆を通じ、英文を構成する時の注意点を実践的に学んでゆく。また教室内のコミュニケーションに英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させることを同時に行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	英会話Ⅱ(応用)	英語を使った中学校の英語授業の模擬演習を行う。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、指導案を組み立てる。作成した指導案を元に、15分程度の模擬授業を実践する。なお、教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話をすべて英語で行っていく。	
			英作文Ⅲ(応用)	英作文Ⅰ、Ⅱで学んだ事項を踏まえ、より高度な文章を英語で書くための発展的な事項を学ぶ。このクラスは特に、論理的な文章を構成する方法の修得を重視する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
			英会話Ⅲ(応用)	アカデミックスピーチとディスカッションを行う。受講生は、授業計画の内容に沿ったプレゼンテーションを行い、その後全員で質疑応答をする。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話をすべて英語で行う。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施し、ディスカッションで用いる語彙の増強もはかる。	
			英作文Ⅳ(応用)	英作文ⅠからⅢにおける習得技術を基礎に、「アカデミック・ライティング」の技法を駆使しての論理的な英文エッセイを学んでいく。各自が設定したテーマに関するリサーチ方法の授業も含め、卒業論文の作成などにも援用できる実践的な授業となる。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
			英会話Ⅳ(応用)	リスニング教材を使用し、留学可能なレベルのコミュニケーション力を養う。上級レベルのリスニング教材を聴き、コミュニケーション力の向上を目指す。授業はディクテーションが中心となる。自分が聞き取った内容がどれだけ書き取れるかを複数回に分けて確認し、語彙・音連結・内容などの観点から課題を分析する。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施する。	
			異文化理解Ⅰ(英語教育の中の異文化理解)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関する英語文献を読んだり、留学生との交流やディスカッションを通して、文化の概念や文化の多様性や関連する諸問題、異文化交流の意義を理解するとともに、様々な英語圏の国の歴史・社会・文化・信念・信条について学ぶ。そして英語教育における異文化理解や異文化コミュニケーションの重要性や役割を理解した上で、関連する知見を身に付けることを目指す。	メディア
			異文化理解Ⅱ(英語教育の中の異文化理解)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関する英語文献を読んだり、関連する映像を視聴したり、留学生との交流を通して、現代社会における異文化コミュニケーションに関連する諸問題や課題、(非)言語コミュニケーションと文化との関係性、そして異文化交流の意義を理解するとともに、様々な英語圏の国の歴史・社会・文化について学ぶ。そして英語教育において活かすことができる知見を身に付けることを目指す。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 英語教育	異文化理解Ⅲ(応用)	異文化理解Ⅰ、Ⅱで学んだことを踏まえ、専門的知識を高めることを目指す。具体的には、特に様々な国々の「(非)言語コミュニケーション」に関わる領域と文化の関係性、そして様々なコミュニケーション・スタイルについて、特に英語圏の国々と日本のコミュニケーション・スタイルとの比較に関する英語の専門書の購読を通じて専門的知識を高める。また留学生とのディスカッションなどを通じてコミュニケーション・スタイルの違いや共通点を体験することで、異文化理解や異文化コミュニケーションへの関心を高め、その重要性を認識する。	メディア
	異文化理解Ⅳ(応用)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献を読んだり、映像視聴を通じて、それに関連する様々な問題に気づき、解決法について考える。また英語圏の文化の多様性についての理解を深め、留学生との交流を通してグローバル社会において効果的で適切なコミュニケーションを行うために必要な事柄について考えるとともに必要な知識を身につけることを目指す。	メディア
	異文化理解演習Ⅰ	植民地時代からアメリカ建国期の知識人(ベンジャミン・フランクリン、トマス・ジェファソン)、当時の思想や文化事象に関する英語文献や文学作品を読んだり、映像を視聴したりすることを通して、アメリカの歴史や社会、そしてアメリカ文化、思想、多様性がこれまでどのように育まれ形成されたのか、そのプロセスについて学ぶとともに現状とそれに関連する課題について考える。	メディア
	異文化理解演習Ⅱ	多様な人種が共存する現代のアメリカ社会が抱える問題について、これまで学んできた異文化理解、異文化コミュニケーションの視点および枠組みから考察する。具体的には、人種(問題)やマイノリティに関連する映像を視聴し、異文化やマイノリティの扱われ方、描かれ方についての分析をしたり、グループ・ディスカッションや留学生を交えたディスカッションをしたり、専門英語文献の講読を通じて、さらなる専門的知識を深める。	メディア
	英語科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	本授業では、中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画についての理解を深める。また、富山県での実践を踏まえつつ、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方についても学ぶ。	メディア
	英語科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	本授業では、中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「話すこと[発表]」及び「書くこと」の指導及び複数の領域を統合した言語活動の指導方法について理解身に付ける。富山県の実践を踏まえ、生徒の特性や習熟度に応じた指導方法の基礎について理解を深める。学んだことに基づき模擬授業を行い、学生同士で授業研究を経験し省察方法を学ぶ。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	英語科教育法Ⅴ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。まず、教師の資質や授業運営などの基本的な知識を取り上げ考察する。続いて、聞くこと・読むことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。	
			英語科教育法Ⅵ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。話すこと・書くことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。さらに、学んだ知識・技術を踏まえて、実践の観察・分析、指導計画の立案を行う。	
			英語科教育法Ⅶ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、受講者各自が教育実習で行った英語科授業の実践を振り返り、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの領域の指導と評価に焦点を当て、それぞれの実践上課題を見いだし、それらを改善するために必要な教授・学習の理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、省察等の演習を行う。	
			英語科教育法Ⅷ	英語科教員として必要とされる実践的な指導力の向上を目指す。特に目標を踏まえた、指導と評価に関する知識を身につけるとともに、その知識を授業という場で活用できるための実践力を身につける。各領域の指導と評価に焦点を当て、必要な理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、単元計画の作成等の演習を行う。	
			英語学特別演習Ⅲ	英語学の視点から文法現象をつぶさに見つめ、新しい経験的発見を引き出すための観察力を養うことを目的とする。この目的のために、(1) 代表的な先行研究による事実観察を十分に理解する、(2) その事実観察の経験的な妥当性を検討する。(1) に関しては、伝統的な先行研究のなかから受講者の興味に合わせた論文を取り上げる。(2) に関しては、洋画・電子コーパス・ネイティブチェックなど身の回りにある言語資料と照らし合わせながら検証活動を行う。	
			英語学特別演習Ⅳ	英語学の知識を使って文法現象を正しく予測し、新しい理論的分析を提案するための説明力を養うことを目的とする。この目的のために、(1) 比較的最近の英語学における理論的な動向を理解する、(2) 受講者が自分なりの新しい理論的な提案を試みる。(1) に関しては、テーマにもよるができるだけ2000年以降の研究論文を中心に取り上げる。(2) に関しては、受講者が各自の提案内容を発表し、担当教員および他の受講者との意見交換を通じて理解を深める。	
			異文化理解特別演習Ⅰ	この授業では、異文化理解、異文化コミュニケーション、アメリカ及びイギリス文化をキーワードとして、卒業論文執筆のための研究テーマ探しに繋がるよう、先にあげたキーワードに関連する様々な英語の専門書や論文を購読する。また最近の関連する英語論文を精読したり、読んだ論文をまとめたり、ディスカッションをしたりして専門的知識をさらに深めるとともに論文作成に必要な知識と技術を養うことを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	異文化理解特別演習Ⅱ	この授業では、「異文化理解特別演習Ⅰ」を踏まえ、各自が異文化理解、異文化コミュニケーション、アメリカ及びイギリス文化などのキーワードにつながる研究テーマを設定し、卒業論文執筆のために各自が選んだ研究テーマにそった先行論文や関連する論文および専門書の精読、そしてそれらの論文をまとめたり、読んだ論文に関する発表およびほかの学生たちとのディスカッションを通じて、専門的知識を深めるとともに論文作成に必要なスキルをさらに高めることを目指す。	
			英語教育学特別演習Ⅲ	本授業では、英語教育の研究とその方法についての基本を学ぶ。前半に英語教育の研究目的、意義、日本の英語教育の現状と課題、研究方法、データ収集方法、考察方法を学ぶ。後半では実際の研究論文や書籍の輪読を通じて英語教育に関連したテーマの概観を理解する。購読した論文に関する要約発表および他の学生とのディスカッションを通じて専門的知識の理解を深め、自己の追求テーマを設定する。	
			英語教育学特別演習Ⅳ	本授業前半では、英語教育学特別演習Ⅲで設定した自己の追求テーマについてその意義や目的を他の学生に紹介発表する。後半では海外及び日本における先行研究を調査する。先行研究の知見を踏まえ、自己のテーマに沿った文献調査や実験、アンケートなどを実施する。実験などから得たデータの分析を行い考察を加え、発表や報告書の作成につなげる。	
			英語科教育実践研究Ⅲ	英語教授法（特にリーディング・語彙指導）や第二言語習得に関する論文・書籍の輪読を通して、英語の指導および習得について、理論と実践の両面から考察する力を養うことを目的とする。授業では、(a) 先行研究を読み、(b) 内容について討論し、(c) 研究の発展可能性を提案するプレゼン・ディスカッションを行う。主体的・積極的に文献研究を行い、各自が問題意識を持って理論・実践上の研究課題を見つけることを目指す。	
			英語科教育実践研究Ⅳ	英語科教育実践研究Ⅲの文献研究を踏まえ、課題解決のために実証的なりサーチを行う。具体的には、英語教育・言語習得の先行研究を基にした仮説（例. ○○は効果的な読解指導法である）を検証するために、量的・質的データを収集し、客観的に分析・考察する。実験計画の立案、データ収集、分析方法、考察と、一連の研究手法を学ぶことで、卒業研究や教員として行うアクションリサーチに汎用できる実践的な教育・研究力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	教育心理学データ解析法A	<p>教育実践研究においては、それぞれの教育現場で得られた実践的な知見を他の教員と共有し蓄積することが重要視される。この授業では、得られたデータを客観的に評価し、記述するための解析方法について、可能な限り体験的に習得することをねらいとする。教育実践研究から得られたデータをどのように分析すれば良いか、その考え方や適用方法、結果の解釈の仕方について、データを実際に分析しながら学んでいく。</p>	
	教育心理学データ解析法B	<p>教育実践研究においては、それぞれの教育現場で得られた実践的な知見を他の教員と共有し蓄積することが重要視される。この授業では、教育心理学的データ解析法Aの内容をさらに深め、得られたデータを客観的に評価し、記述するための解析方法について、可能な限り体験的に習得する。教育実践研究から得られたデータをどのように分析すれば良いか、その考え方や適用方法、結果の解釈の仕方について、データを実際に分析しながら学んでいく。</p>	
	教育心理学研究法	<p>教育実践においては、ある教育的働きかけが「効果」があるのかどうかを常に検討する必要がある。この講義では、そのような効果を捉えるためにはどのようなことに留意する必要があるのかについて、研究法の観点から解説する。具体的には、実験法、調査法、観察法、面接法の4つを取り上げ、それぞれに必要な思考法を修得する。</p>	
	教育心理学実験法	<p>教育実践研究においては、客観的な知見の蓄積が重要である。この授業では、教育心理学の研究手法の一種である実験法について、演習を通して学んでいくことを目的とする。複数の心理実験を体験し、レポートにまとめることで、客観的なデータの収集方法、結果のまとめ方、報告の仕方について実践的に学習する。この授業を通して、科学的な知見を蓄積することの重要性を理解し、教員のリテラシーを身に着ける。</p>	
	教育臨床心理学A	<p>学校場面では教員が心理や福祉の専門家と多様な協働を通じて子供たちの支援に当たる必要がある。教育臨床心理学Aでは、特に子供たちの心理面のケアについて、教師として支援する方法と、他の専門家や外部機関との連携をより構築していく方法を学ぶための基盤として、教育場面で遭遇する子供に生じうる心理的問題や課題について触れ、どのような対応が考えられるかを事例をもとに理解を深める。</p>	
	教育臨床心理学B	<p>学校場面では教員が、心理や福祉の専門家と多様な協働を通じて子供たちの支援に当たる必要がある。教育臨床心理学Bでは、教育相談で扱った内容のより実践的な子供たちへの関わり方についてカウンセリングの理論を参考に解説し、実践的に子供たちの悩みを適切な成長につなげていく方法について実践的に学ぶことを目的とする。</p>	
	教授・学習心理学演習	<p>個別最適化学習に関する教授・学習心理学の理論を踏まえ、どのように個別最適化学習を実践するのかについて演習形式で学習する。学習者一人一人の能力や特性をアセスメントするための理論と方法や、アセスメント内容を踏まえた学習支援計画の立て方、学習支援の実施方法や展開、省察の仕方について学ぶ。学習内容を踏まえ、実際に個別学習支援の演習を実施し、ケース報告とケース検討を通して、実践的に学びを深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	臨床心理実習	富山県教育委員会との連携事業である「心のサポーター」の活動を行う。具体的には、富山県内の小・中学校に学生を派遣し、その中で児童生徒の悩み相談等を行う。本講義では、富山県教育委員会での事前説明会や、ロールプレイなどの実践形式の演習を含めた事前指導、ケースカンファレンスや振り返りを含めた事後指導を含む。 なお、本講義は2名の教員が事前説明会や事前事後指導を複数体制で行う。	
	教育心理学ゼミナール	教育心理学的観点から教育現象を捉え、学生自身で問題を発見し、それを解決する手法を学ぶ。具体的には、先行研究の文献購読、先行研究および教育現場での経験から導かれた問題の発見と設定、問題を解決するための方法論の立案、適切なデータ収集の方法と解析の演習、得られた結果についての適切な解釈の修得等を行う。 本講義では複数名の教員がそれぞれのゼミナールを担当し、希望する学生がそれぞれのゼミナールを受講する形式で行われる。	
	教育法規A	教職を目指す者として、教育法規に関する必要最低限の知識を習得することを目指す。 教育法規の基本原則を学ぶとともに、特に憲法と教育基本法の関係性について理解を深め、学習権や教育の機会均等について検討することで、教育法規を国民の教育を受ける権利を保障する拠り所としてとらえ、教育現場でこれらの法規を活用する方法について考察する。	
	教育法規B	教職を目指す者として、教育法規に関する必要最低限の知識を習得することを目指す。 特に、憲法・教育基本法と教育関連法規の関係性について理解を深めた上で、教育裁判と判例の形成について検討し、現代社会の急速な変化の中でおこる様々な教育上の現象と教育法規との関わりについて認識し、教育現場でこれらの法規を活用する方法について考察する。	
	教育臨床学A	現代社会の変容がもたらす学校教育の諸現象を、教師としていかに捉え、熟考し、子どもの豊かな学びを実現するための授業づくりを行うことが重要なのかについて、教育の臨床哲学(教育臨床学)の視点から考察する。主に、デューイの教育論やノディングズのケアリング論、「聴くこと」の哲学やナラティヴ・アプローチ等、教育の臨床哲学に関する基本的な考え方を理解する。	
	教育臨床学B	現代社会の変容がもたらす学校教育の諸現象を、教師としていかに捉え、熟考し、子どもの豊かな学びを実現するための授業づくりを行うことが重要なのかについて、教育の臨床哲学(教育臨床学)の視点から考察する。主に、子どもの貧困問題や外国籍児童生徒の教育、授業における対話の在り方や子ども主体の活動の教師役割等について、具体的事例を通して考察を深める。	
	教育倫理学A	教師としての倫理規範の確立や倫理的判断力の育成が目的である。ハラスメントや体罰をしてはいけないと誰もが「わかっている」にもかかわらず、そうした事例は後を絶たない。本科目では、善悪について知ることと行うことをめぐる古典的議論と接続・往復し、なぜこのようなことが起こってしまうのか考察・議論することで、教師としての倫理規範の確立を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目	教育学・心理学に関する科目 教育倫理学B	教師としての倫理規範の確立や倫理的判断力の育成が目的である。学校の道徳教育と政治的・宗教的信念の不適切な教え込みは何が違うのだろうか。本科目では、こうした教育的行為の適切さ／不適切さの境界線やその根拠を考察・議論し、また教育をめぐる倫理的論点を取り上げることで、教師としての倫理的判断力の育成を目指す。	
	教育学ゼミナール	教育学的視点から教育現象を捉え、学生自身で問題を発見し、それを解決する研究手法を学ぶ。先行研究の文献収集の仕方、文献の読み方、研究ノートの作り方等を学び、一次文献の読解・検討、事例の収集・分析・解釈等を行い、自らの研究内容を根拠をもって論理的に書き上げることを目的とする。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいて、教員や他の履修者との討論を中心に演習を行う。	
	保育士に関する科目 保育原理 I	本科目では、保育の意義及び目的、わが国における保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について扱う。保育の意義及び目的として扱うトピックは、保育の意義と目的、保育の理念と概念、子どもの最善の利益と保育、子ども家庭福祉と保育、保育の社会的役割と責任がある。次に、保育に関する法令及び制度としては、子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令、子ども・子育て支援新制度、保育の実施体系がある。最後に、保育所保育指針における保育の基本としては、保育所保育指針、保育所保育に関する基本原則、保育における養護、保育の目標、保育の内容、保育の環境・方法、子どもの理解に基づく計画・実践・記録・評価・改善の過程とその循環がある。	
	保育原理 II	本科目では、保育原理 I で扱う、保育の意義及び目的、わが国における保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本の内容の理解をもとに、それらがどのような歴史の変遷を経て現代に至っているかを理解する。具体的には、国内外の保育の思想と歴史の変遷及び国内外の保育の現状と課題について扱う。まず保育の思想と歴史の変遷において扱うトピックとしては、近代の諸外国の保育の思想と歴史、日本の保育の思想と歴史がある。次に保育の現状と課題としては、最新の諸外国の保育の現状、日本の保育の現状がある。それぞれについて、現状を取り扱いつつ、課題も明確にしたうえで、これからの保育について考察する。	
	乳児保育 I	認定こども園や保育所においては3歳未満児の保育が必要である。また、発達の連続性をふまえた教育や保育を実践するにおいても3歳未満児の発達や保育について学ぶ必要がある。授業では、3歳未満児の保育の意義や目的、役割について扱うとともに、データや資料を用いてディスカッションや調べ学習を行いながら、3歳未満児の保育の現状や課題、保育の内容や運営体制についての基本的な知識を習得する。	
	乳児保育 II	乳児保育 II の授業では、3歳未満児の発達は個人差が大きいことをふまえて、月齢や年齢ごとの身体的な成長や運動発達、言語発達、社会的発達についてDVD等の映像を視聴するなどの方法をとりながら扱う。また、子どもの発育や発達をふまえた保育とその展開について、事例や絵本・玩具等の材料を用いながらの調べ学習、グループディスカッション、乳児模型を用いた実習を行うことで、乳児保育の具体についての理解を促すことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保育士に関する科目	乳児保育Ⅲ	3歳未満児の保育に関する実践的態度や技術の習得を目指す。3歳未満児の保育の環境（子どもの生活リズムや動線を考慮したコーナーの設置や配置、玩具や遊具、絵本、安全への配慮など）を、調べ学習を通して理解する活動を行う。また、3歳未満児の保育に関する計画を立案したり、計画に基づいたシミュレーションやロールプレイ、保育実践等の結果を基にして計画の評価を行ったりする活動を通して、3歳未満児の保育への理解を深める。	
	社会的養護Ⅰ	教育者や保育者として社会的養護の過程に携わったり、養護を受ける子どもの教育や援助を行ったりすることができるための知識の習得を目指す。授業では、社会的養護の意義、理念や概念、歴史的変遷、社会的養護を必要とする子どもの現状や課題、現在の施策や制度、実施体系等について扱う。また、虐待その他の環境上の理由や非行、障害などにより社会的養護を必要とする子どもを発見し、その子どもと家庭の現状や課題を把握し、子どもについて福祉的措置を行うの流れとその根拠となる法律についても扱う。	
	社会的養護Ⅱ	社会的養護を受ける子どもたちへの理解が深まることを目指す。授業では、養護の形態には施設養護と家庭養護があること、施設養護の現状と課題、家庭養護の現状と課題、子どもの人権擁護をふまえた近年の養護形態の動向について扱う。また、社会的養護に携わる専門職と彼らに求められる役割についても学ぶ。さらに、福祉的措置として社会的養護を受けることになった子どもの生活やその後の進路について事例や統計資料等を用いながら学ぶとともに、子どもの健全な成長・発達や自立の支援についても学ぶ。	
	保育者論	本科目では、保育者の役割と倫理について、役割・職務内容と倫理について学ぶ。次に保育士の制度的位置付けについて、児童福祉法における保育士の定義と資格・要件、欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等について学ぶ。次に、保育士の専門性について、保育士の資質・能力、養護及び教育の一体的展開、家庭との連携と保護者に対する支援、計画に基づく実践と省察・評価、保育の質の向上について学ぶ。次に、保育者の協働について、保育における職員間の協働、専門職間及び専門機関との連携・協働、地域における連携・協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成については、資質向上に関する組織的取組、保育者の専門性の発達とキャリア形成、組織とリーダーシップについて学ぶ。	
	子どもの保健Ⅰ	(概要) 保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である。本講義では、子どもの健康状態を把握し、増進するための基礎を理解することを目標とし、乳幼児の発達と成長、子どもの生理機能と子どもたちの健康状態を把握する方法を講義する。 (オムニバス方式／全8回) (18 宮一志／1回～4回, 6回～8回) 子どもの健康に関する現状、乳幼児の発達と生理機能、健康状態の把握について担当する。 (10 小林真／5回) 保育所における発育測定の実際について担当する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	保育士に関する科目	子どもの保健Ⅱ (概要) 保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である。本講義では、子どもの健康状態を把握し、増進するための基礎を理解することを目標とし、子どもの免疫発達や感染症、頻度の高い疾患を概説し、安全を確保する方法を講義する。 (オムニバス方式／全8回) (18 宮一志／1回～2回, 4回～8回) 子どもの免疫発達や感染症、頻度の高い疾患、緊急時対応について担当する。 (10 小林真／3回) 保育所における感染症対策について担当する。	オムニバス方式
			子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの健やかな発育・発達のために食事の摂り方は重要である。本授業では、子どもの食生活を考える上で基盤となる栄養の基礎知識を習得すること、妊娠期（胎児期）と授乳期における栄養と食生活の特徴を理解することを到達目標とする。演習を通して、妊娠期（胎児期）から生涯を通した健康における適切な栄養摂取の重要性についての理解を深め、保育者として実践につなげていくための能力を高める。	
			子どもの食と栄養Ⅱ 本授業は、子どもの食と栄養Ⅰを履修していることを踏まえて進める。乳児期、幼児期、学童期、思春期の子どもの身体の発育ならびに心の発達における食生活の特徴について学び、その役割を主体的に考え、保育者として実践につなげていくための能力を高めることを到達目標とする。発達段階別に子どもの栄養や食生活の問題点と対策についてさまざまな資料を活用しながら演習を行い、その支援のあり方について主体的に考える態度を養う。	
			社会的養護Ⅲ 児童福祉施設で生活している子どもたちの施設養護の現状と課題を理解し、支援者による基本的な支援と連携の在り方を理解するために、施設養護の種類、施設養護のプロセス、基本的な養護援助・支援、子どもの心の援助、親子関係への援助、児童福祉施設の運営管理、児童福祉施設における支援者の資質と倫理について概説する。基本的な支援の理解につながるよう、具体的な事例や模擬ケース会議を想定した演習や討論を含めながら概説する。	
			保育実習Ⅰ この授業は保育所実習と施設実習の2つの内容からなっている。まず、保育所または幼保連携型認定こども園の0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスにおける乳幼児の発達の様相を体験的に理解する。次に保育の視点及び保育内容の指導や、養護のあり方を、実習体験を通して学ぶ。さらに実習の振り返りや保育士等からの助言指導を踏まえて部分自習・責任実習を行い、乳幼児の理解や保育の指導法への理解を深める。次に、児童福祉施設を中心とした社会福祉施設における児童や障害者に関わることを通して、社会的養護が必要な児童や障害のある児童・青年・成人の個性の理解を深める。さらに実習の振り返りや児童指導員等からの助言指導を踏まえて、福祉施設における専門的な視点のあり方を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保育士に関する科目	保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、各自の実習に向けた研究課題を設定する。複数の教員による指導を受けながら、保育所実習における研究課題を決定し、それを実現するための学び方を設置する。施設実習においては、各自が配属される様々な福祉施設（乳児院・養護施設、児童発達支援センター、多機能型障害者支援施設など）の特徴を主体的に学び、各自の実習に向けた研究課題を設定する。事後指導においては、各自の実習体験を振り返り、保育所や福祉施設からの実習評価に基づいて、今後の自らの学びと課題を明確にする。	
			臨床発達心理学Ⅰ	子どもの発達のみならずのうちに、家族関係を中心とした人間関係に起因する心の傷や、不適切な養育によって生じる脳機能の発育不全について学ぶ。また児童虐待を生じやすい4つの危険因子（親の要因・子どもの要因・家族関係の不和・社会的な孤立）について事例を通して学ぶ。これらの知識や、児童福祉論Ⅰ・Ⅱや社会的養護Ⅰ～Ⅲで学んだ知識や技能を合わせて、それぞれの危険因子に対してどのように対応すべきかを立案できるようにする。	
			臨床発達心理学Ⅱ	発達のみならずのうちに、家族関係を中心とした人間関係による心の傷や脳機能の発育不全が早期に解消されなかった場合に、その後の人格形成にどのような悪影響を及ぼすかを学ぶ。具体的にはB群パーソナリティ障害（反社会性パーソナリティ障害、自己愛性パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、演技性パーソナリティ障害）の基準と行動特徴、対応の仕方を学ぶ。またいくつかの事例を通して、パーソナリティ障害を抱える人（例えばモンスター・ペアレント）に対する関わり方の基礎的な知識・技能を習得する。	
			発達福祉統計学Ⅰ	社会科学の研究に必要な統計学の基礎知識と、統計解析ソフトウェア（SPSS）の使用方を習得する。この授業ではまず、社会科学で扱う尺度の4つの水準（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度）の特徴と可能なデータ変換について学ぶ。次に記述統計としての代表値・散布度の種類とその利用方法、探索的データ解析（箱ひげ図の活用）によるデータの概略を読み取る方法を学ぶ。また、名義尺度の関連性を検討する方法として χ^2 乗検定の原理と分析方法を学ぶ。	
			発達福祉統計学Ⅱ	この授業ではまず、推測統計である平均値に関する検定を学ぶ。具体的には2種類の平均値を検定するt検定、3種類以上の平均値を検定する分散分析の基本的な原理と、分析結果の読み取り方を学ぶ。さらに相関係数の基本的な考え方・読み取る際の留意点について学び、相関（共分散）関係に基づいた多変量解析の基礎（重回帰分析、因子分析）の基本的な考え方と分析方法を学ぶ。これらの分析について、統計ソフトウェア（SPSS）の使用法についても学び、課題学習を通して実際に分析を行ったり結果を読み取ったりする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保育士に関する科目	地域子育て支援論演習Ⅰ	<p>まず、富山市内の児童館が主宰する子育てサロンの活動に参加し、2歳児とその保護者に実際に関わる体験を積む。こうした体験学習を通して子育て支援に必要な基礎的技術を習得する。また児童館指導員からの助言指導を踏まえて、子育て支援サービスを提供する際の心構えや留意点についても学ぶ。さらに利用者へのインタビューなどを通して、利用者のニーズの把握・サービスの提供・評価のプロセスといった支援の立案と効果測定の基本的な考え方についても学ぶ。</p>	
	地域子育て支援論演習Ⅱ	<p>地域子育て支援論演習Ⅰで学んだ知識や技能を踏まえ、利用者のニーズを把握した上で児童館指導員の助言を受けながら子育てサロンの活動を実際に企画・運営する体験を積む。子育てサロンにおける2歳児とその保護者を対象とした部分保育の立案・実施・振り返りを繰り返しながら、福祉サービスを提供する際にPDCAサイクルを円滑に進めていくことの重要性を学ぶ。これらを総括して、幼稚園教諭や保育教諭に求められる保護者支援の基本的な姿勢を主体的に考え続ける力を修得する。</p>	
	保育実習Ⅱ	<p>まず保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった自らの課題を克服するためにはどうすればよいかを実習前に十分に考える。それを踏まえて、保育士・保育教諭としての専門性を高めるために、保育所または幼保連携型認定こども園の0～5歳児クラスにおける保育体験を行う。専門性を向上させるために、どの年齢の乳幼児と関わるかについても主体的に検討する。さらに実習中の体験の振り返りと保育者からの助言指導を踏まえて、各自が課題として設定した乳幼児の理解、保育内容の理解、養護についての理解をよりいっそう深める。</p>	
	保育実習Ⅲ	<p>まず保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった自らの課題を克服するためにはどうすればよいかを実習前に十分に考える。それを踏まえて、保育士・保育教諭としての専門性を高めるために、自分が実習を行う児童福祉施設（乳児院・養護施設、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、障害児入所施設等）の利用者に対する専門的な支援のあり方を体験的に学ぶ。また、実習中の体験と保育士や児童指導員等からの助言指導を踏まえて、社会的に養護が必要な児童や障害のある児童についての理解を深める。</p>	
	保育実習指導Ⅱ	<p>保育実習Ⅱに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった各自の課題を改めて検討する。複数の教員による指導を受けながら、各自の課題を解決するための保育の方法を主体的に考え、実習体験に臨む。事後指導においては、各自の実習体験を振り返るだけでなく、実習施設からの評価を反省的に受け止め、将来に向けた自らの学びの課題を明確にする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅱに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった各自の課題を改めて検討する。複数の教員による指導を受けながら、各自の課題を解決するための保育の方法を主体的に考え、実習体験に臨む。事後指導においては、各自の実習体験を振り返るだけでなく、実習施設からの評価を反省的に受け止め、将来に向けた自らの学びの課題を明確にする。	

授業科目の概要（共同学科等）				
（金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	<p>本授業では、学生諸君が大学における学習方法・目的や社会的責任を果たす上で必要な常識・知識などを学んで早期に大学生生活のありようを体得すること、さらに大学のなかに自己発見・自己開発の契機が多々存在することに気づき、それらを利用しながら将来イメージをより明確にできるようにすることを目標とする。</p> <p>具体的には、以下を学生の学修目標とする。</p> <p>①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学修態度・学習技術・生活態度及び自己管理能力を身につける</p> <p>②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する</p> <p>③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、大学4年間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようになる</p>	
		データサイエンス基礎	<p>データサイエンスの産業利用が活発な状況で、データサイエンスに関わる基本的知識の習得は重要である。本授業では、これに加え、データサイエンスの学習に必要な学内ネットワークの適切利用、セキュリティ、コンプライアンス・モラル、および基礎的情報リテラシー等を学修する。</p>	
		地域概論	<p>本授業の目標は、所属する学類（一括入試入学者にとっては該当する学域）の専門分野を社会との繋がり、地域への貢献という視点から理解し、学生としての決意を持って、大学4年間の学修をデザインできるようになること。</p> <p>この授業科目を通じて次の学修成果を獲得する。</p> <p>① 学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。</p> <p>② 自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。</p> <p>③ 将来の働く姿を描きつつ、大学4年間の学修を主体的にデザインできるようになること。</p> <p>④ 石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。</p>	
GS科目	1群（自己の立ち位置を知る）	現代世界への歴史学的アプローチ	<p>現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは、そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており、それを正しく把握できなければ、問題も正しく理解できない。したがって、現代世界の理解のためには、世界史の基本的な知識と歴史的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識を再確認しつつ、歴史学的発想法・分析視角を学ぶ。</p> <p>獲得した知識と発想法・分析視角を使って、自己の置かれた歴史的状況を正しく認識し、現代世界の問題を読み解くことができるようになることを学修目標とする。</p>	
		グローバル時代の政治経済学	<p>グローバル化が進行する現代社会において、政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあつて、学生はグローバルな政治経済に関する具体的な事例に則しながら、いかにして国際社会に平和を構築していけばいいのかという、人類共通の課題解決に向けた科学的思考を習得する。</p> <p>秩序ある国際社会の構築という、人類共通の課題解決に資する問題発見と問題解決のための科学的思考基盤の習得を学修目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る）	<p>グローバル時代の社会学</p> <p>身の回りとその背後にある社会に批判的思考を働かせてみる、社会学という学問的世界に触れる。この講義においては、各回に具体的事例に即しながら、グローバル化する社会や社会学の知識を生かして、社会の中で協働しつつ生きていくあり方を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学の重要な語句や視点について説明できる。 社会学の基本的な見方、考え方を理解している。 日常生活の中での経験を、社会学的な視点から分析できる。 新しい社会のできごとについて、自ら探求し様々な可能性を考えることができる。 E89 	
		<p>ケーススタディによる応用倫理学</p> <p>個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、医療倫理、工学倫理、企業倫理、環境倫理などの領域において、いくつかの事例を手がかりにして、倫理的問題に対するこのような取り組み方を学ぶ。</p> <p>応用倫理学を事例を通して学ぶことによって、自ら直面する倫理的問題に対して、事実認識と価値判断を区別し、自らの道徳的感覚に自覚的になることが期待される。</p>	
	地球生物圏と人間	<p>地球はその内部、表層から気圏に至るまで常に動的であり、私たちを含む生物は、その変動する地球の上に暮らしている。本授業では、地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な、地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を学ぶ。</p> <p>具体的には、以下について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球システムにおける人類の位置づけ 地球での様々な出来事とプレートテクトニクスの関連 地球のダイナミクスと人間社会への影響（特に災害） 水と大気の動きをと人間社会への影響 地球生命史の概略と生命と地球の相互作用 種の共存と生物群集の成立のしくみ 生物集団の進化の仕組み及び種の形成 遺伝情報学、分子系統学 	
	哲学（自我論）	<p>〈私〉とは何かといった自己をめぐる問いは、日常生活の中で改めて問われることはあまりないが、いざ答えようとしても容易には答えられない難問であり、しかも実は人にとってきわめて切実な問いである。</p> <p>本授業では自己をめぐる形而上学的、存在論的、認識論的な問題を、代表的な哲学者たちの見解を批判的に検討しながら考察し、自己の本質を探究することで、哲学がどのような学問であるかを知ること、自己の存在と様態、自己同一性、独我論、心身問題など自己をめぐるさまざまな哲学的問題の所在を理解すること、哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶことを目的とする。</p>	
2群（自己を知り、自己を鍛える）	<p>パーソナリティ心理学</p> <p>パーソナリティ心理学は、人間の性格に関するさまざまな問題を科学的に研究することを目的とする分野で、現代心理学のもっとも重要な研究領域の一つである。本授業ではパーソナリティとは何か、パーソナリティと性格、気質など他の類似概念との違いや、パーソナリティを客観的に測定するために開発されてきた心理学的査定の方法、パーソナリティの機能（はたらき）と構造（しくみ）に関する主要なパーソナリティ理論等について解説するとともに、パーソナリティを記述するために提唱されてきた類型論と特性論の特色について考察する等、パーソナリティ心理学の主要な理論とパーソナリティの研究方法について概観する。</p> <p>本授業では、パーソナリティに対する知識・理解を深め、科学的に考える能力を養うとともに、得た知見を基に、自己理解、他者理解を深め、人間関係の発展を目指す。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	グローバル時代の文学	<p>グローバル時代においては、様々な文学体験をすることで、自己を知り、自己を鍛えることが可能となる。世界各地の文学作品を直に読む文学体験を実践して、批判的な思考を可能にし、豊かな想像力を養うとともに、世界各地の文学作品を読解するための方法や物事を他者の視点で見ること＝自己を相対化することを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は以下のとおり。</p> <p>①作られた小説を読み、フィクション世界を自らの「心」の内部に構築できる、豊かな想像力を身に着ける。</p> <p>②世界各地の文学作品を読み、それら作品の背後（深層）にある意味（社会・文化・思想）を理解するために必要な知識と能力を獲得する。</p> <p>③文学解釈という行為を通して、物理的な対象ではない人間の「心」についての思索を深め、自己を知り、他者を知るための経験的な基盤を構築する。</p>	
	健康科学	<p>我々を取り巻く環境・生活習慣は、健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには、これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。WHOは、健康は「肉体的、精神的及び社会に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示し、「計画的な努力によって得られる状態であり、よりバランスの取れた健康的な生活を得ようとする行動そのもの」と定義している。</p> <p>本授業では、健康を守る身体メカニズムと社会の仕組みを学ぶと共に、健康的な生活を送るために必要な知識を身に付け、日常生活の中に取り入れて、実践していくことを目指す。健康を守りさらに積極的に増進するために必要な社会全体としての目標・取組から、個人として実践可能な正しい食事、運動や休養の知識、日常生活、メンタルヘルスに関する知識について学ぶ。</p>	
	細胞・分子生物学	<p>私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振る舞いや、細胞の構造と機能、その多様性を解説することにより、細胞の構造と機能制御のメカニズムを分子レベルで学習するとともに、生命科学の基礎知識を理解することを目的とする。</p>	共同
	エクササイズ&スポーツ 実技	<p>心身の鍛錬は自律の基本である。本授業では、運動を通して、身体形成の必要性を知り、体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって、自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることを目的とする。</p>	
	クリティカル・シンキング	<p>日本語は、他の言語と同様に、もちろん十分に論理的である。しかし、その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため、＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには、英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。</p> <p>本授業では、受講者間の文化的背景と価値観の多様性についての相互理解を深めた上で、批判的思考の方法や、関係する新しい概念や理論、方法を身につけ、実践的課題に取り組むことにより各人の問題解決能力の向上をめざし、クリティカル・シンキングの概念だけでなく、それを実践すること、つまり批判的に考えるとはどういうことかを学び、論理的な＜思考・表現＞の能力を高めることを目的とする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	GS科目	価値と情動の認知科学	<p>行動や表現を引き起こすのは、最終的には理性というより、行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは、往々にして非合理的な要素を多く含み、しかも行為者本人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし、他者の行動や表現を適切に理解するためには、価値や情動に関する「認知・行動」の仕組みに関する理解が必要となる。</p> <p>本授業では、人間の認知能力の様々な観点から、ヒトの認知能力には、私たちが常識的にとらえているのとは異なる意外な側面があるのだということについて、自分で考えながら、整理し、ヒトという動物である自分の認知能力についての、より深い理解を確立すること、さらに、以上のことを自分自身の言葉で説明し、表現できるようになることを目的とする。</p>	
		芸術と自己表現	<p>人間の最も根源的で洗練された自己表現は、絵画、音楽、演劇、舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に、人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては、鑑賞するにせよ創作するにせよ、自己と表現との愚直な関係が求められる。</p> <p>本授業においては、様々な芸術の実際を体験することによって、自己表現の真摯なあり方を知ることを目的とする。</p>	
		スポーツ科学	<p>本授業では、保健体育の意義や、身体の理（ことわり）と自然・生活様式などとの関係についての理解を深めるとともに、これらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。</p>	
	4群（世界とつながる）	金沢・能登と世界の地域文化	<p>グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びやすく、また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには、地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。</p> <p>本授業では、私たちの住む金沢・能登および世界の文化を事例に地域文化の豊かさと変容を学ぶとともに、それらの地域について自ら調査する。</p> <p>自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め、その内容を情報発信するとともに、それらを相対化する視点を獲得することを目的とする。</p>	
		日本史・日本文化	<p>現代社会では、人は必ず国家に帰属することが求められ、海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方、国家の歴史や文化についての一般的言説には誤りが含まれているものもあり、時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。</p> <p>本授業では、日本の古代から近現代に至る歴史と文化について、各時代ごとの重要トピックを取り上げ、それを「世界の中の日本」という視角で考察することを通じて概観することにより、日本の歴史・文化の特色を理解するのみならず、世界の他地域との差異と共通性を理解する。加えて日本の古代から近現代に至る政治・社会・文化の、変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	異文化間コミュニケーション	<p>グローバル化した社会では、自らの育った文化を知り、その特徴を自覚した上で、自らの特殊性を認め、さらに、自らと異なる文化、人種、民族への理解を深めることが重要である。</p> <p>本授業では、「①異文化と自文化に関する知識」「②異文化に対する態度」「③コミュニケーション・スキル」の異文化間コミュニケーションで特に重要視される3つの概念についての理解を深める。①の知識については、文化的価値観と非言語行動における異文化と日本文化との類似点と相違点を理解する。②の態度については、偏見や自民族中心主義に陥らないで、異文化に対する寛容で柔軟な姿勢を持つことの重要性について学ぶ。③のスキルについては、傾聴力の必要性について学習する。</p> <p>偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって、他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ、異質な他者と共生する能力を身につけることを目的とする。</p>	
	異文化体験A	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外における短期のボランティア等を通し、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>45時間相当の留学を対象とする。</p>	
	異文化体験B	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の語学学校等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>90時間相当の留学を対象とする。</p>	
	異文化体験C	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の研究機関等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>135時間相当の留学対象とする。</p>	
	異文化体験D	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>180時間相当の留学対象とする。</p>	
	異文化体験E	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>225時間相当の留学対象とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	G S 科目	4 群 (世界とつながる)	異文化体験F	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 270時間相当の留学対象とする。
			異文化体験G	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 315時間相当の留学対象とする。
			異文化体験H	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 360時間相当の留学対象とする。
			グローバル時代の国際協力	ボーダーレス化が進む国際社会では、ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。 本授業では、貧困や紛争、災害など、国際社会が直面する様々なグローバル・イシューの解決に向けて活動を展開する様々な「ボランティア」の形を知り、その独自性や課題に対する理解を深めることにより、日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか、国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を、実践例に基づきながら理解することを目的とする。
			グローバル社会と地域の課題	学生はいま学生として、あるいは将来地域社会を担っていく者として、グローバルな視野に立ちつつ、地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり、他者と協力しながらそれに取り組む力である。 本授業では、グローバル化が進行する現代社会において、どのような地域課題が発生しているのか、どのように解決をしていくべきか、そして自らどのように関わっていくのかを考え、地域社会の現状と課題を総合的に学びながら、地域の課題解決と活性化の理論と実践について理解を深めることを目的とする。
			5 群 (未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	G S 科目	統計学から未来を見る	<p>世界の人口問題とそれに伴う食料や資源、エネルギーの問題、また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など、私たちを取り巻く現状を数値化して分析し、それに基づいて未来を予測するために、統計学はすべての学問分野において必要とされている。</p> <p>本授業では、統計データに基づいて現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる諸課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることを目的とする。</p>	
		環境学とE S D	<p>気候変動等、現代社会が直面する地球環境問題の現状を把握するとともに、その解決方法と「持続可能な社会」のあり方及び実現方法を多角的に学ぶ。</p> <p>本授業では、わが国における公害問題の発生と克服、環境政策の展開について学ぶとともに、近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応、今後取り組むべき対策などを理解することによって、地球環境問題の解決と「持続可能な社会」の実現を達成するために必要な肯定的な未来志向性および環境リテラシー（環境知識、論理的・多面的・総合的思考力、創造的・実践的問題解決能力等）の向上を図ることを目的とする。</p>	
		生活と社会保障	<p>日本を含む世界の少なからぬ国々は今、人口減少、人口分布の地域的偏在、及び高齢化という局面を迎えながら、社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。</p> <p>本授業では、少子・高齢化など人口変動やグローバル化に伴う社会経済の変動のなかで、社会保障が果たす役割と課題について、国民生活の視点から検討することで、世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉えるとともに、社会保障のあゆみ、制度の概要、直面する問題、少子・高齢化のもとでの社会保障の課題について考えるための基礎知識を身につけることで、有効な解決策に向けた議論を展開することを目的とする。</p>	
		現代社会と人権	<p>未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていくうえで、人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが、現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。</p> <p>本授業では、人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ、これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は、その理解を通して、未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることを目的とする。</p>	
		インテグレートド科学	<p>物質の構成要素となる元素を対象とした科学の世界は、その構造、性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では、人類の物質に関する理解はどの様に進歩して、現代化学における物質観につながってきたのか。</p> <p>本授業では、科学的に考えるための基礎として、物質の成り立ちや基本事項について概観し、巨視的な現象と原子・分子・イオンなどの微視的な粒子の挙動との関係や、暮らしの中の色、味、匂いを題材とし、感覚発生のメカニズムや分子構造との関係について学ぶ。化学の世界に関するこうした理解を通して、多種多様な世界観が存在する現代において、客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることを目的とする。</p>	
A I 入門	<p>Artificial Intelligence (AI, 人工知能) とは何かをその歴史と実例を調査して学ぶ。AIを支える技術（コンピュータの性能、機械学習・ディープラーニング、パターン認識、自然言語処理）の進歩について理解する。AIを利用することの利点や問題点を理解し、AIの普及により変化する未来社会、AIの限界とシンギュラリティについて考察する。</p>			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS科目 6群 (新しい社会を生きる)	情報の科学	<p>世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し、今後の展望を見極めるためには、情報に踊らされることなく、正しい情報を見極めて、それを収集し発信していくことが必要である。</p> <p>本授業では、情報とは何か、情報収集・発信の有効性と危険性、情報のモラル、セキュリティなどを学ぶことによって、情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得し、研究や生活・仕事において問題発見・問題解決に役立てる情報の科学の幅広い知識を身につけることを目的とする。</p>	
	デザイン思考入門	<p>高度化・複雑化する現代社会では、狭い分野の専門知識や技術では解決できない課題に対する有効なアプローチ法が、デザイン思考 (Design Thinking) である。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くという意味ではなく、課題解決のプロセスとその設計を意味している。デザイン思考の基本的なプロセス (共感, 問題定義, アイデア創造, 試作, テスト) について、その概念を理解し、実例を検証しながら修得する。</p>	
	論理学と数学の基礎	<p>数学は多くの学問分野において、その法則を適切に表現するための言葉として用いられ、文系、理系を問わず必要なリテラシーとされている。</p> <p>本授業では、数学を活用する事例を通して、数学の基礎概念のいくつかを学ぶ。具体的には、統計を活用する例として、平均や分散と数ベクトルと内積の関連の基礎を学び、また整数を活用する例として、情報化社会に欠かせない暗号理論の基礎を学ぶ。</p> <p>学生は、数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって、数学の思考方法を習得し、根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることを目的とする。</p>	
共通教育科目 GS言語科目 (英語)	TOEIC準備 I	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な聞き取りのテクニックを学び、リスニング能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリスニングパート セクション1, 2, 3及び4対応。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力をつけることを、学習目標とする。</p>	
	TOEIC準備 II	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な英文読解のテクニックを学び、読解能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリーディングパート セクション5, 6, 及び7対応。</p> <p>読解力を磨くためのトレーニングを通じて、リーディングパートの対策を学び解答テクニックを身に付けるだけでなく、語彙や慣用句を増やすし、英文読解力をつけることを、学習目標とする。</p>	
	TOEIC準備 III	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I, IIで伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I, IIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	TOEIC準備 IV	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I～IIIを通して伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」の更なる開発と、それら能力を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I～IIIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施。</p>	
	TOEIC準備（演習）	<p>TOEIC L&Rテストにおけるハイスコア獲得のために必要なリスニング能力、リーディング能力、解答テクニック向上を目指し、実際のテストで実践できる力を育てる。基本的な試験対策と、TOEICハイスコアを獲得するために必要な言語能力を開発する。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用語の理解力等、文法力等の英語力を身につけることを、学習目標とする。</p>	
	English for Academic Purposes I	<p>このアクティブラーニングコースでは、自分のアイデアを論理的に書いて表現する方法を学ぶ。具体的には、英語で文章を書き、的確な文章構造と構成を学ぶ。</p> <p>文章の構成要素に焦点を当てることで、文章の形式を考察し、書くための構想を練る。コースの後半では、理由とたとえを用いることに焦点を当て、洗練された文章を作ることを、学習目標とする。</p>	
	English for Academic Purposes II	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、プレゼンテーションの計画、実施、評価を学習することで、人前で話す際に必要な自信を育てる。</p> <p>学生に英語で全クラスメイトの前で発表する機会を十分に与え、口頭でのコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの両方を学ぶことにより、英語での発表能力を向上させる。</p> <p>有益なプレゼンテーションを計画し発表する能力の開発やプレゼンテーションのカギとなる技術に気づき、評価することができるようになるほか、批判的思考を獲得する。</p>	
	English for Academic Purposes III	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、EAP IとEAP IIで学んだスキルを統合し、その統合したスキルを用いて学術的課題や現代の社会問題の分析する。</p> <p>このコースは主にサマリーライティング（要約文章の作成）と、授業内で読んだ教材に対して分析的な反応に焦点を当てる。</p> <p>学術論文の正確な要約ができる能力、評価分析、対照分析または相対分析等の分析手法を学ぶことで、分析的な視点を培う。</p> <p>ディスカッションの質問に対し口頭で答えることで、コミュニケーションにおける相互作用的な能力を伸ばす。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS 言語科目 (英語)	English for Academic Purposes IV	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、先のEAPの授業で学んだ能力・技術用いながらさらに発展させ、学術的テーマか現代社会の課題について小論文を書く。</p> <p>与えられたトピック、要約された様々な意見について、批判的立場で議論を交わし、系統立てて自分の意見を表現する。</p> <p>与えられたトピックについて、論文や要約及び口頭で、詳しい見解を述べるができるようになる。</p> <p>書かれている文章の内容のみならず、根底にある関心や視点に目を向けるようにする。</p> <p>アカデミックな環境で英語を使えるようにすることが期待される。</p>	
	English for Academic Purposes (Retake)	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、学術的な文章を読む練習と、グループディスカッションや発表という形で、学術文書への対処の仕方を学ぶ。</p> <p>学術論文を読むことに重点を置き、より難しい論文に取り組んでもらう。グループワークで論文の内容を把握し、ディスカッションをする。題材を探索するための基礎として論文を使い、発表をする。その中で、リスニング・スピーキング能力を伸ばし、自信を得ることが期待され、リサーチ能力を伸ばし、学術的語彙の知識を増やすことを求める。</p>	
共通教育科目 GS 言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	<p>外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力(アカデミック日本語)を獲得するため、ノートの取り方や情報検索等、複合的な能力を養成することを目的とする。</p>	
	アカデミック基礎日本語B	<p>外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力(アカデミック日本語)を獲得するため、論理的な内容の読解を中心に、レジュメの作成やプレゼンテーションなど、さらに高度で複合的な能力を養成することを目的とする。</p>	
	講義の聴解A	<p>大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーを習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。</p>	
	講義の聴解B	<p>「講義の聴解A」に引き続き行うことで、大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーをさらに高いレベルで習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。</p>	
	口頭発表A	<p>本授業では、留学生に向け、日常で使用する可能性のある内容について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議することにより、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントの理解を深めることを目的とする。</p>	
	口頭発表B	<p>本授業では、留学生に向け、大学での発表に関する内容等について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議する。「口頭発表A」からさらにアカデミックなスピーチ内容を検討することで、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントを共に討議しさらに理解を深めることを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS 言語科目（日本語）	上級読解ⅠA	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、わかりやすく説明できるようになることを目的とする。	
	上級読解ⅠB	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、説明できるのみならず、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解する等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	上級読解ⅡA	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解することを目的とする。	
	上級読解ⅡB	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深め、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解したする等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	日本語で学ぶ論理A	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。そして、実際に日本語で書かれた文章の読解を行いながら、論理の展開と構成について学ぶことにより、論理トレーニング（論証と演繹）を通じて、日本の大学での学習や研究に必要となる論理的思考力を日本語で修得することを目的とする。	
	日本語で学ぶ論理B	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。「日本語で学ぶ論理A」の内容を発展させ、否定、条件構造、推論の技術（存在文の扱い方、消去法、背理法）について学び、最後に形式論理学の基礎についても学ぶことにより、日本の大学での学習や研究に必要となる論理的思考力をさらに高度なレベルで日本語で修得することを目的とする。	
	日本事情A	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を歴史や地理等を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識を増やし、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	日本事情B	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を宗教や文化、季節感等特に日本人の内面を形成している部分を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識をより深め、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
G S 言語科目 (日本語)	アカデミック・ライティングA	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、レポート作成にかかる適切な資料の引用方法や、図表の説明の仕方を学び、自分の興味関心に従ってレポートを作成することで、資料探索や、図表の適切な説明方法とともに、レポートの基本的な表現と構成を身に着けることを目的とする。	
	アカデミック・ライティングB	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、資料等に対し考察や分析を述べたり、要約を書くことにより、文章の主となる部分を見つけ出す力を身に着けるとともに、文章を適切に引用し、考えと理由をレポートとして論理的に書くことを目的とする。	
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	文法を中心としてドイツ語の基礎を学ぶ。 文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じてドイツ語の文や表現に触れることで、ドイツ語初級文法の基本的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
	ドイツ語A1-2	本授業では、ドイツ語の初歩的な文法を学んでいく。 ドイツ語の文法は、英文法に多くの点で類似しているため、英語の知識が活用できるような方式で授業を進めていく。 最終的には、ドイツ語の基礎単語の発音ができ、辞書があれば、ドイツ語で書かれた簡単な新聞や雑誌の文章が読める程度のミニマルな文法知識を習得することを目指す。	
	ドイツ語A2-1	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 授業で取り上げる内容は下記の通り。 ドイツ語のアルファベットと発音、基本構文、自己紹介	
	ドイツ語A2-2	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 本授業で取り上げる内容は下記の通り。 趣味関する表現、将来の目標に関する表現（人称変化、前置詞等）	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ドイツ語A3-1	ドイツ語初級文法の最初舗段階の修得を目指す。 ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 自己紹介、趣味について（動詞の現在人称変化と語順）／生ツの描写・持ち物について（名詞の性と格変化等）／動詞の活用・格変化／曜日・時間・年齢の表現（前置詞、再帰代名詞、再帰動詞等）／用事・希望・過去のことを話す（過去形、現在完了形、zu不定詞等）	
	ドイツ語A3-2	ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 好みについて話す（形容詞の格変化、比較級、最上級）／部屋にある物について話す（関係代名詞、命令形）／仮定の話をする（接続法）等	
	ドイツ語A4-1	本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、趣味、家族、職業、自分にできる事できない事等、自分の身の回りのことを表現することについて学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。	
	ドイツ語A4-2	本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、買い物での場面、欲しいものの表現、気持ちの表現、指示・依頼の表現等、自分の考えを伝える表現について学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。	
	ドイツ語B-1	ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。 主に、挨拶について、バス・駅・鉄道、地図、レストラン、買い物、ホテルなど日常生活や旅行に役立つ表現を学習する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・会話で自己紹介をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・辞書を用いて平易なドイツ語の文章を読むことができる。 ・日常生活の場面での簡単な質問や指示、話、アナウンスや短い会話を理解できる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	ドイツ語B-2	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。</p> <p>主に、ドイツ語圏に関する文章を読み、旅行計画を立て、プレゼンとディスカッションを実施する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い広告などから、自分にとって大切な情報を取り出せる。 ・簡単なものであれば、所定の用紙に記入することができる。 ・短い個人的な文章を書くことができる。 	
	ドイツ語C-1	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、個人ワーク、プレゼンテーションなどを通して、日常的なコミュニケーションを簡単なドイツ語でできることを目標とする。</p>	
	ドイツ語C-2	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>街での案内や過去の出来事等について、ドイツ語を使用したコミュニケーションを学ぶことで、ドイツ語圏の文化に関心を持ち、ドイツ語のコミュニケーション能力を養成することを目的とする。</p>	
	フランス語A1-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、発音、綴り字と音声の対応、er動詞、etre, avoir, 数字、名詞のジェンダー等基本的な文法事項を学ぶ。</p>	
	フランス語A1-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。ヨーロッパ文化の一番面白いところを正確に理解し、楽しむためにもフランス語は有益なツールとなるだろう。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、ir動詞、動詞の活用、過去分詞、指示代名詞、単純未来等の文法事項を学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	フランス語A2-1	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、名前を言う・尋ねる・綴りを言う、職業・身分・国籍について、家族について、年齢の言い方、好みについて等、自分の事を話し、相手について尋ねる方法を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の発音ルールを身につけ、文字を見て発音できる。 ・基本語彙、基本表現及び文法を学習し応用することで、フランス語で身近な話題について会話ができる力を養う。 	
	フランス語A2-2	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、用紙や服装について、交通手段について、時刻や値段的尋ね方、食習慣について等、コミュニケーションをとるために必要な表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ初歩的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 ・フランスとフランス語圏について紹介する。 	
	フランス語A3-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、代名動詞、動詞の活用、強調構文、非人称構文、疑問形容詞、半過去、大過去等の文法事項を習得する。</p>	
	フランス語A3-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、指示代名詞、関係代名詞、現在分詞、比較級・最上級、条件法、接続法等の文法事項を習得する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語A4-1	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、習慣、日常の活動について、過去のこと・過去の習慣についてトピックを立て、学習する。</p>	
	フランス語A4-2	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、許可や禁止について、未来について、願望、比較、条件・仮定についてトピックを立て、学習する。</p>	
	フランス語B-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、満潮時のみ島になるモン・サン・ミッシェルに関する論説文や、「よつば」などの日本の漫画のフランス語訳をとりあげ、初級文法を復習しながら、相手の言いたいことを的確に理解し、自分の言いたいことを的確に表現する自然なフランス語が基本的にどういうものか体得することを目指す。</p>	
	フランス語B-2	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、エッフェル塔やルーブル美術館について書かれた平易な論説文などをとりあげ、フランス語話者の書いていることの真意が実感をもって分かること、こちらからフランス語話者へ効果的に意思を通じさせられるような書き方（話し方）を身につける。</p>	
	フランス語C-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、ラグビーにおける国籍や観光地におけるフランス等の論説文などをとりあげ、ネットを使わなくても、ある程度の難易度を持ったフランス語の文章を読み聞きし、理解できるようにすること。フランス語話者とコミュニケーションし、ガイドできることを目指す。また、フランス語と英語の知識を結び付け、両言語でのレベルアップを目指す。</p> <p>将来のフランス語検定試験（仏検）やフランス語圏（フランス、カナダ等）留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p>	
	初習言語科目		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語C-2	<p>総合的なフランス語力の一応の完成を目指す。フランス語でEメールを書き、ホットなラジオ・ニュースを聞き、論説文を読み、必要な文法知識の完成を目標とする。</p> <p>フランス語による国際的コミュニケーション力を磨くため、また大学卒業後も少しずつフランス語力を自力で高めるようにするための体制を整えていく。フランス語と英語の知識が有機的に結びき、両方のレベルが向上することを旨とする。フランス語圏での勉学、仕事に必要な DELF/DALF の上の級に合格する態勢についても考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む、書く、聞く能力を伸ばし、話された言葉、書かれたテキストからできるだけ情報がとれるノウハウを体得する。 ・フランス語の基礎知識をしっかりと固め、生涯のスペインでのフランス語学習の展望を得る。 ・国際的コミュニケーションの言葉としてのフランス語の広がりを知る。 ・フランス語の知識と英語の知識を有機的に結びつけて、両方のレベルを向上させる。 	
	ロシア語A1-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、ロシア語のアルファベットと発音、文法性、ロシア人の名前、簡単な現在形の肯定・否定・疑問文、形容詞、副詞、人称代名詞等、基礎的な知識や文法事項を学ぶ。</p>	
	ロシア語A1-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、名詞の複数形、現在形の動詞の人称変化、重要な不規則動詞、方向の表現、数字等、基礎的な文法事項を学ぶ。</p>	
	ロシア語A2-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 <p>本授業では、ロシア語の発音とアルファベット、挨拶、自己紹介、「これは何/誰ですか」「誰のものですか」等基本的な知識と表現を学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語A2-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、位置・場所の表現、時間についての表現、好みや能力の表現等基本的な会話表現を学ぶ。</p>	
	ロシア語A3-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>名詞、人称代名詞の単数・複数、命令形、重要な不規則動詞、形容詞・名詞・代名詞の格変化、順序数詞等</p>	
	ロシア語A3-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>重要な不規則動詞、再帰動詞、移動の動詞、時間表現、比較級・最上級、無人称文等</p>	
	ロシア語A4-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>金額を尋ねる、数字、好き嫌いについて、色の表現、所有物について等</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語A 4-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。 好き嫌いについて、方向・道案内、交通手段、天気や行動について過去形、未来形を用いた表現等</p>	
	ロシア語B-1	<p>ロシア語Aで学んだ文法の復習から、中級文法の習得を目指し、より高度な文法・表現の解説、その応用練習を行う。平易な会話の聞き取り能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の合間に、短く比較的簡単なテキストを読み、ロシア語の読解にも慣れる。 ・やや複雑な構文を使ったロシア語の文が読解できる。 ・基本語彙と平易な表現を用いてゆっくり話されるロシア語会話を、聞き取ることができる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。 時間の表現、数詞の格変化、仮定法、一般二人称、不定形の用法等</p>	
	ロシア語B-2	<p>実際にロシアに行ったら遭遇するであろうシチュエーションにおいて、ロシア語でどう表現すればよいか、実践的なロシア語の修得を目指す。</p> <p>シチュエーションごとの簡単な会話の聞き取り、ネイティブのナチュラルスピードに耳を慣らす練習をし、会話内容の理解を通して、ロシア語Aの文法の復習・発展的学習を行う。</p> <p>実際にロシアに行った場合に最低限必要なフレーズや語彙を学び、自分の言いたいことを表現するにはどのような言葉を使ったらよいかを学ぶ。またこれを応用して、日本の状況についても説明できるようになる。</p> <p>日本と異なるロシアの生活・文化様式についても解説する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア旅行で最低限必要となる語彙・表現を用いて話すことができる。（空港・ホテル・両替所・ファストフード店等での場面で） ・ごく基本的な語彙・表現の範囲であれば、ナチュラル・スピードで話される内容を把握できる。 ・ロシア語でロシアに関する情報収集を自分で行える。 	
	ロシア語C-1	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは新聞・雑誌記事、インターネット上の書き込み等を例にジャンル、テーマ等問わずに幅広い種類の文章を読むことで読解力を鍛える等、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題にも取り組むことにより、辞書を使えば新聞レベルのロシア語テキストが読解できることを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語C-2	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>授業では短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは学術論文、文学などから、ジャンル、テーマ、書かれた時期を問わず、幅広く扱う予定である。</p> <p>複雑な構文を把握できるよう、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題に取り組む。ナチュラル・スピードのロシア語の聞き取り能力を高め、また聞き取った文を自分で言えるようになることを目指す。</p>	
	中国語A1-1	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。</p> <p>発音練習、常用表現、”是”構文、動詞述語文、完了表現他</p>	
	中国語A1-2	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。</p> <p>疑問視疑問文、形容詞述語文、近未来表現、方位詞、名詞述語文、動量補語等。ディクテーションや作文も行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	中国語A 2-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするすることができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業で学習する内容は以下の通り。</p> <p>発音練習，常用表現，国籍を尋ねる トピック：「町にはホテルもお店も銀行もあます」 「どこで食事をしますか」</p>	
	中国語A 2-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするすることができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本学で学習する内容は以下の通り。</p> <p>交通手段を尋ねる，距離を表現する，日にち・月の表現 「お箸どうぞ」，「疲れたら休もう」，「北京は人も車も多い」</p>	
	中国語A 3-1	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習する内容は下記のとおり。</p> <p>結果補語，助動詞，疑問視の応用表現，方向補語，進行表現など。 ディクテーション，作文練習も行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	中国語A 3-2	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>授業で学習する内容は下記のとおり。 可能補語、比較表現、受身表現、使役表現など。 ディクテーション、作文練習も行う。</p>	
	中国語A 4-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「車で来たので飲みません」 「午後病院へ行くつもりです」 「いつから腹痛が始まりましたか」 「彼女は何をしていますか」</p>	
	中国語A 4-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「財布が見つかりました」 「壁に古い写真が貼ってある」 「このパソコンはあれより重い」 「1月1日を元旦と呼びます」 「私に切符を買わせて」 スピーチ、暗唱などの練習を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	中国語B-1	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 レストランでの会話、買い物時の会話、大学の授業について、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語B-2	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 インターネットについて、恋人に関して、転職について、日本と中国の文化・習慣比較等 作文、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語C-1	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。</p> <p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。</p> <p>授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 ・日中力国の国際交流がどのように行われるべきかについて、自分の意見を持つことができる。 <p>本授業で取り上げる内容。トピックは以下の通り。 中国国内でのニュース報道に関するHPや、動画を講読・視聴し、ディスカッションを行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	中国語C-2	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。</p> <p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは以下の通り。</p> <p>生活と健康について、男女平等、環境保護と資源節約、ビジネス中国語（財務・国際入札・待遇）</p> <p>中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。</p>	
	朝鮮語A1-1	<p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・母音と子音の組み合わせ方を理解する。 ・韓国文化について理解することができる。 	
	朝鮮語A1-2	<p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語A2-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、自己紹介等身近な事柄について日常生活の簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	朝鮮語A 2-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、道を尋ねる、電話をかける、日付を尋ねる、値段を尋ねるなど日常生活の簡単な会話ができるようになることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語A 3-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に自己紹介など日常生活の簡単な会話から、動詞の活用までを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語A 3-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>文章を理解できる力を養うと同時に、K-POPや韓国の食べ物などの題材を使用し、形容詞の活用や短文の作成ができるようになることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語A 4-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、</p> <p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、挨拶、好き嫌いを尋ねる、電話をかける等様々な日常にある様々トピックの中で簡単な会話ができる力を養う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	朝鮮語A4-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、家族の紹介、食文化比較等様々なトピックの中で簡単な日常会話ができる力を養う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をするができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語B-1	<p>朝鮮語で趣味や友人など身の回りの物事についてスピーチやディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。 	
	朝鮮語B-2	<p>朝鮮語で、訪問客に対して観光案内や日本の紹介についてスピーチとディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。 	
	朝鮮語C-1	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景や経緯及びその意義について学び、東アジアの文化交流に焦点を当てて、その意義について検討する。</p>	
	朝鮮語C-2	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景及びその意義について学び、還流の国家的戦略、将来像を考える。また、日本が世界に広めようとしている「クールジャパン」とは何か、中国の「華流」の可能性等も考える。</p> <p>東アジアの文化交流に焦点を当て、その意義を検討し、東アジアにおけるソフトパワー競争時代について考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	ギリシア語A 1-1	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・主に文字の読み方、名詞の変化、動詞の変化等の初級文法。 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。 	
	ギリシア語A 1-2	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・形容詞、前置詞の用法、動詞の変化等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。 	
	ギリシア語A 2-1	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・疑問代名詞、不定名詞等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ギリシア語A 2-2	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西歐的学問の基礎をなし、西歐文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西歐の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・第三変化名詞、流音幹動詞、接続法能動相、母音交換等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	
	ギリシア語A 3-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西歐的学問の基礎をなし、西歐文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西歐の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・接続法能動相、予想未来を示す条件文、不定法等初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる。 ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。 	
	ギリシア語A 3-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西歐的学問の基礎をなし、西歐文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西歐の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・希求法能動相等、分子の用法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる。 ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	ギリシア語A 4-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・命令法、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を讀解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。 	
	ギリシア語A 4-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・否定法、動詞の変化、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を讀解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。 	
	ギリシア語B 1	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察する。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れている芸術思想を理解すること 	
	ギリシア語B 2	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察し、芸術思想を理解する。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れている芸術思想を理解すること 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ギリシア語C-1	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>主にテキストの読解と内容に関するディスカッションを行う。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解すること 	
	ギリシア語C-2	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>主にテキストの読解と内容に関するディスカッションの後、ソクラテスの思想についてディスカッションを行う。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解すること 	
	ラテン語A1-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・動詞変化、形容詞変化、名詞変化等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目 初 習 言 語 科 目	ラテン語A1-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・指示代名詞、疑問代名詞、動詞変化等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。</p>	
	ラテン語A2-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・不定法、数詞、説速報等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。</p>	
	ラテン語A2-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・間接疑問文、条件文、比較文等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ラテン語A3-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・数詞・ギリシア系名詞の変化、非人称代名詞等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	ラテン語A3-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・同形容詞、接続法・完了・過去完了、間接疑問文等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。</p>	
	ラテン語A4-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学び終える。辞書を用いて自学自習を続けるための基礎となる 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・比較文、理由文、条件文、譲歩文等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	ラテン語A 4-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学び終える。辞書を用いて自学自習を続けるための基礎となる</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西歐的学問の基礎をなし、西歐文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西歐の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・関係文、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。 	
	ラテン語B-1	<p>比較的易しい、ローマの歴史に関わる文章を読む。ラテン語文法の理解を確実なものにするとともに、ローマノア歴史や文化についても関心をもつことが目標である。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <p>第1回から第7回まで、簡単な散文テキストを読み進めることによりラテン語の文法事項をしっかりと修得する。</p> <p>まとまった長さの簡単な原文が読めるようになる。</p> <p>テキストは以下を使用する。 M. Hammond and A. Amory, Aeneas to Augustus. (Harvard University Press)</p>	
	ラテン語B-2	<p>比較的易しい、ローマの歴史に関わる文章を読む。ラテン語文法の理解を確実なものにするとともに、ローマノア歴史や文化についても関心をもつことが目標である。ラテン詩及び中世ラテン語作品数編を選び学修する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <p>簡単な散文テキストを読み進めることにより、ラテン語の文法事項をしっかりと修得する。</p> <p>まとまった長さの簡単な原文が読めるようになる。</p> <p>使用するテキストは以下のとおり。</p> <p>第1回～第2回 M. Hammond and A. Amory, Aeneas to Augustus. (Harvard University Press) 第3回～第7回 ラテン詩および中世ラテン語作品数編</p>	
	ラテン語C-1	<p>ラテン語のまとまった原文の読解ができるようになることを目指す。</p> <p>カエサル『ガリア戦記』を最初から読み進めながら、これまでの文法学習、易しいラテン語文の読解訓練基礎に、ラテン語散文の原文をきちんと読めるようにすることを目指す。</p> <p>自分の力でラテン語散文の原文に取り組むことが出来るようになり、同時に辞書も使えるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では、ガリア戦記 (Gallic War) 第1巻のチャプター1～15までを読み、解説をする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ラテン語C-2	<p>ラテン語のまとまった原文の読解ができるようになることを目指す。</p> <p>カエサル『ガリア戦記』を最初から読み進めながら、これまでの文法学習、易しいラテン語文の読解訓練基礎に、ラテン語散文の原文をきちんと読めるようにすることを旨とする。</p> <p>自分の力でラテン語散文の原文に取り組むことが出来るようになり、同時に辞書も使えるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では、ガリア戦記 (Gallic War) 第1巻のチャプター16～30までを読み、解説をする。</p>	
	スペイン語A1-1	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。</p> <p>基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを旨とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音、数字、名詞の性、冠詞、規則動詞、tenen/haverの用法等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。 	
	スペイン語A1-2	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。</p> <p>基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを旨とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不規則動詞、前置詞、動詞の変化等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。 	
	スペイン語A2-1	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。</p> <p>スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、人物描写、家族についての表現を学び平易な文で話すことができるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では下記の文法事項・表現を学習する。</p> <p>スペイン語の発音・数字・スペル、国籍の言い方、程度を表す表現、人の描写、家族・親族、定冠詞・不定冠詞、estar、規則動詞等</p>	
	スペイン語A2-2	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。</p> <p>スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、街中の描写や、位置関係、日常生活を表す描写を学び、平易な文で話すことができるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では下記の文法事項・表現を学習する。</p> <p>位置関係、Haverの用法、mucho/poco、大学内や周辺の建物・場所を表す動詞、交通機関、街中の描写、月と季節、現在進行形等</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	スペイン語A 3-1	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	スペイン語A 3-2	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接的／間接的人称代名詞、比較表現等初級文法の修得。 ・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	スペイン語A 4-1	<p>スペイン語を学ぶなかで、異文化に触れる。</p> <p>スペイン語の正しい発音及び初歩的な会話の修得を目標とし、ペアワークやグループワークを通じて会話の練習をしながら、単語や表現力を定着させる。</p> <p>スペイン語の文章を正しく発音することを目指す。</p> <p>天気や住居のこと、料理のレシピ、レストランでの会話などについて学び、ゆっくり話される身近な話題についての簡単なことを尋ねたり、答えたりできるようになることを目指す。</p>	
	スペイン語A 4-2	<p>A3での文法の授業の内容とも関連した実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>グループによるゲーム、オーラル練習を通して単語を増やし、DVD教材などでスペイン語の表現を学び会話をステップアップしていくことを目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て正しく発音することができる。 ・自分の背景や身の回りの状況を簡単な言葉で話すことができる。 ・短いはっきりとしたメッセージ、アナウンスの要点を聞き取ることができる。 	
	スペイン語B-1	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再帰動詞、関係詞、直接法現在完了等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	スペイン語B-2	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接法過去完了、命令形、無人称表現等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
	初習言語科目 スペイン語C-1	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続法現在、命令形、接続法現在完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
	スペイン語C-2	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続法過去、条件文、接続法過去完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
自由履修科目	アントレプレナーシップ I	<p>アントレプレナーシップは、事業を新しく創造するため、高い創造意欲を持ち、リスクや困難に挑戦していく姿勢、発想、レジリエンス等を総合的に示す能力（起業家精神）を意味する。学生が入学当初に起業家精神の重要性と必要性を理解し、学生自らがモチベーションを持ちながら、大学時代に様々な機会を利用して、アントレプレナーシップを涵養する必要がある。</p> <p>本授業では、学生がアントレプレナーシップを学ぶ最初のステップとして、様々な観点から、21世紀の社会で生き抜くために、アントレプレナーシップを学ぶ機会を提供することにより、アントレプレナーの社会的意義とそのために必要な素養となるアントレプレナーシップを体得するを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	自由 履修 科目	石川県の行政	<p>本授業では、石川県の行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことにより、地方自治体が取り組む政策課題と、課題に対処するために政策が形成されて実施・評価されるプロセス（政策過程）についての理解を深めることや、地方自治・行政に関連する基礎的および実務的な知識を習得し、自ら地方自治や政策課題について深く考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>また公務員志望の学生については、行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことで、将来のキャリア形成の参考になることを期待する。</p>	
		石川県の市町	<p>本授業では、石川県の市町からのゲストスピーカーの話を聞くことで、石川県の市や町が抱える課題を理解し、その課題解決の方策や、今後の大学や学生と地域との連携のあり方を考え、各市町に提言を出せるようになることを目的とする。</p>	
		健康論実践D	<p>本授業では、調理実習等気づきをもたらすような様々な講義、実習を通して、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
		健康論実践E	<p>本授業では、角間の里において多彩なゲストスピーカーとの共同作業やグループワークを通して、教育実習や就職活動、日常の人間関係に役立つ内容を学ぶ。健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができることや社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神等を修得することを目的とする。</p>	
		現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、損害保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、損害保険の種類（火災保険・地震保険・自賠責保険・自動車保険等）とその概要について学ぶ。</p>	
		現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、生命保険や社会保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、社会保険の種類（医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険・労災保険等）とその概要と、生命保険におけるライフプランニング設計について学ぶ。</p>	
		実践アントレプレナー学	<p>アントレプレナーとは、ベンチャー企業を開業する者、また、産業構造の変革を担うベンチャー企業の実践者とも言われ、その育成および起業家精神の醸成は、国の再生と経済活性化に重要な役割をもつものとして位置づけられている。過去のベンチャーブームは、オイルショック、円高不況そしてバブル崩壊などの社会・経済の転換期と大きく関わっている。</p> <p>本授業では、大学生と就職そして起業家精神の育成の一つの方向性示すとともに、大学の勉学と研究への取り組みのあり方を解説することで、「イノベーションとは」から始めて、「産学官連携とは」「知的財産と特許とは」、さらに「ベンチャー育成と企業化とは」までを理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	クラウド時代の「ものグラミング」概論	<p>Society5.0時代を迎えるにあたって、これまで個人が余暇に楽しんでいた「ものづくり」と、仕事や趣味などで行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではなくなる。それらは渾然一体となって、相互に連携し、利活用可能となる。このような社会で必要となる技法を、「ものづくり」と「プログラミング」を掛けあわせた「ものグラミング」という言葉で表現している。</p> <p>この「ものグラミング」こそが、Society5.0に向けた人材に必要な技法であると考え、この技法を、講義と実習を通じて学ぶことを本授業の主題に据える。</p> <p>本授業では、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを講義と体験を通じて述べ、「ものグラミング」全体の理解を受講者に促すことを目的とする。</p>	
	シェルスクリプト言語論	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10、macOSなどをコマンドから操作するとき使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>POSIX環境におけるシェルスクリプトについて新しい視点で学ぶとともに、「Win/Mac/UNIXすべてで25年後も動く普遍的なプログラム」を書く方法について会得し日頃の問題解決に適用できるようになること目的とする。</p>	
	地元学A（地域資源調査）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークの基礎的な知識や技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	
	地元学B（聞き書き）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークに最も重要である、聞き込みの知識と技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	<p>近年では、インターネット上に大量の情報が集積され、これらを活用するサービスも用意されている。一方、小型のコンピュータ等が安価に普及し、これまでは手軽には手の届かなかった機器が当たり前のように利用できる。このような時代にあつては、従来なら個人が余暇に趣味で楽しんでいた「ものづくり」と、日常の仕事で行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」と、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではない。このような世界で必要となる技法を「ものづくり」と「プログラミング」を掛けあわせた「ものグラミング」という言葉で表現する。</p> <p>本授業では、「ものグラミング」のもとで、手で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを理解し、併せて、POSIX環境におけるシェルスクリプトを用いてプログラミングなどについて学ぶ。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	<p>「イノベーション」を生み出すメソッドとして世界的に注目を浴びている「デザイン・シンキング」（前例の無い問題や未知の課題に対し、最適な解決を図るための思考法）を中心に、「イノベーション」の核となる「クリエイティビティ」について理解する。</p> <p>本授業では、「デザイン・シンキング」の基本的なプロセスを理解し、複数のワークショップを実施することで、クリエイティブな考えを生み出すということ等を体感的に理解し、習得することを目的とする。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	<p>本授業では、大学の内外で行われている起業に関連したイベント・研修紹介や起業家との対話を行い、イノベーションや起業、海外経験の重要性について学ぶ。また、身に付けるべきスキルや研修機会について理解した上で、キャリアアップを図ることを目的とする海外留学計画を実際に自身で立案することにより、長期的なキャリアの形成についても学ぶ。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	<p>情報産業（IT/ICT）は、近年は電子機器（ハードウェア）と密接に関連することで、IoT（モノのインターネット）やAIという形で、新たな産業の核となりつつある。これらの分野では、テクノロジーという理系的な視点だけでなく、価値あるサービスを見出し創造するという文系的な視点も重要になる。</p> <p>本授業では、ハードウェアの試作（プロトタイプング）の習得と、それを用いたアイデア出しと試作による具体化のサイクルを通じたデザイン・シンキングを実践し、その知見を積むことを目的とする。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう4	<p>少子高齢社会となった先進諸国において、高齢者の生活を効果的に且つ低コストで支える仕組みづくりが多方面から求められている。中でも高齢者の健康問題は重要課題であり、健康寿命を延ばす医療の制度、技術、サービスの革新が期待されている。</p> <p>本授業では、現代日本における超高齢社会やそれを支える医療の現状と課題を理解し、課題解決方法の1つである医療機器・サービスの技術革新について学ぶことにより、高齢者医療を取り巻く社会的環境や多様な課題を理解し、グループワークを通して、課題解決に向けた新しい手法を主体的且つ具体的に導き出すことを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	香りと日本文化	日本三大芸道の一つである香道。香道は日本独自の香りを楽しむ芸術で、約1500年前にその歴史は始まり、約500年前には現存する形となった。 本授業では、この香道を切り口に、日本文化への理解を深めていくことを目的とする。	
	心と体の健康A	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、一元論と二元論の考え方や認知等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
	心と体の健康B	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、音楽や神経経済学等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
	地域「超」体験プログラム	本授業では、学長と一緒に「合宿」することで、金沢大学に学ぶ意義を理解する。「プログラム」では、地域の歴史や文化を学び、地域住民との交流や社会活動を通して地域理解や人間力の涵養を図るとともに、地域社会の中に身を置いて考えることを通じて各人の就業観を養うことを目的とする。	
	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	本授業では、日本の「特別の教科 道徳」、イングランドおよびデンマークでの「宗教」科目を対象として、各国の教育過程での位置づけ、教育内容、評価方法を紹介し、類似点、相違点を中心に討論を行うことで、学生の道徳教育、宗教教育の世界におけるあり方についての知識・理解を深め、そのことについて考えるきっかけを与えることを目標とする。	
	金沢の歴史と文化	金沢市内にはその歴史と文化を伝えるさまざまな石川県や金沢市の施設が存在し、観光施設としてだけではないさまざまな役割を担っている。 本授業では、そうした施設を訪ねてその担当者から直接に施設の概要・役割や職員の仕事内容等を聞き、また各施設やその所蔵品などを見たり、触れたり、体験したりすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解するとともに、こうした文化施設の有効性や今後の文化行政のあるべき姿等を考えることを目的とする。	
	日本の伝統芸能	本授業では、日本の伝統芸能の一つである能楽（能と狂言）を通して、日本の伝統文化について学ぶ。具体的には、三味線や篠笛等、伝統楽器の体験や、能や狂言の歴史的背景の学修により、日本文化への理解を深めることを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	地域創造学特別講義 C	労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、適正な労働時間や、行政から見た労働、ブラック企業等について講義する。	
	地域創造学特別講義 D	本授業では、労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、男女共同参画や労働組合の基礎知識等について講義する。	
	日本国憲法概説	本授業では、人としての基本的な権利や民主政治の講義を通して、日本国憲法の基本的な解釈・考え方を学ぶことにより、憲法の目的や人権、統治機構の基礎を理解することを目的とする。	
	日本史要説	本授業では、日本の歴史を古代から近現代に至るまで、政治・経済・社会・文化・宗教のみならず、民衆史、女性史などを含めて、相互の関連性に基づいて通観し、その過程において、周辺民族の歴史および関連性、東アジアおよび世界各地との関係性についても講義することで、日本の古代から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいか。また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義をどのように捉えればよいであろうかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	
	東洋史要説	本授業では、中国を中心にして東アジア文化圏の歴史を古代から現代までを通観し、東アジア文化圏の歴史的特質を明らかにすることにより、「東アジア、とりわけ中国や朝鮮半島における政治・社会・文化の特徴は何処に見いだせるであろうか」や「世界史のなかでの東アジアの歴史的特質と歴史的意義をどのように捉えればよいであろうか」といった課題に対し、本授業を通して理解を深めることを目的とする。	
	異文化理解のための ビデオ会議ディス カッション	本授業では、Skypeによるビデオ会議を通して、海外の大学で日本語を学ぶ大学生と、両国の社会、文化などのテーマについて日本語で深く話し合うことで、互いの国や文化を理解し、自己と自国と世界に関する見識を深めることを目的とする。	
	行政学の基礎	本授業では、行政とは何かや行政の範囲、国や地方の行政の違い等の講義を通じ、行政のしくみやはたらきについて学び、行政現象に関する基本的な事柄を、受講者に認識させ考えさせることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	ゼミ／角間の里山づくり 春編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、春の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生アイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	ゼミ／角間の里山づくり 秋編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、秋の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生アイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	コーヒーと社会	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、SDGsや社会・文化とのかかわり等について講義する、	
	コーヒーと科学	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、コーヒーにかかる抽出や焙煎、化学や健康等について講義する。	
	地学実験	わが国日本海側のほぼ中央に位置する金沢には、約2000万年前に始まる日本海の形成から現在にいたるまでの自然環境のうつりかわりが地層の中に記録として閉じこめられている。 本授業では、金沢の恵まれた地質資産を存分に活かし、これらの地層が分布する場所を実際に野外実習で訪れたり、自分で採集してきた岩石や化石を、実験室の中で顕微鏡を用いてさらに細かく観察したり、分析用試料を作成したりすることで、金沢の自然環境の地質学的なうつりかわりを理解するとともにいまの自然環境について考えることを目的とする。	
	生物学実験	本授業では、現在、生物がどのように分類されているか、それはどのような基準に基づいて行われているか等、細胞や動物・植物などの個体や組織・器官の観察、細胞が行う化学反応の観察、生態系や共生・寄生といった生物間の相互作用などを通して、生物の構造と機能の関係、生物集団の特性等を理解するとともに、さまざまな進化段階にいる生物を材料にすることで、授業で観察している材料が全生物界の中で、どのような進化的位置にいるのかを理解することを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	海洋生化学演習	<p>生化学実験では、既存の操作方法を重視し、原理をあまり理解しないで実験を行う学生が多い。しかし卒業論文実験では、既存の方法だけでは成功しない例が多い。</p> <p>本授業では、海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行うとともに、特に原理を重視した教育・指導を行い、実験の原理を理解し、実験を進めるといった姿勢を習得させることを目的とする。</p>	
	英国諸島の地史 I	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習をおし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史 I」では地球の誕生から古生代までをおもに取り扱う。</p>	
	英国諸島の地史 II	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習をおし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史 II」では、中生代から現代にかけてを取り扱う。</p>	
	環境動態学概説 I	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクス基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学 I」ではプレートテクトニクスとそれともなう自然災害問題を主に取り扱う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	環境動態学概説Ⅱ	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクス基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学Ⅱ」では地下資源とヒトの問題を主に取り扱う。</p>	
	Pythonデータ分析入門	<p>近年の情報化社会において、人工頭脳の発展もあり、一般社会においてもデータを分析する機会が増えている。日常生活にも、様々なシステムが利用されており、様々な多くのデータが蓄積されている。データ分析を行うことで、集まったデータをもとに推測したり予測を行い、物事の因果関係を分析したり、シミュレーションを行うことが可能になる。</p> <p>解析した内容から、アイデアを生み出したり、ある仮説を立てたり、マーケティング等に利用することで、企業のビジネスに活かせることも多い。それに伴い、多くのデータから何かを導こうとするデータサイエンスの存在感が増してきている。</p> <p>本授業では、プログラム言語としてPython言語を利用して、サンプルデータを用いて、データ分析の実習を行い、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることで、Python言語の基礎的な知識を理解し、データ分析を行うことが可能となり、ビッグデータの扱い方、データ分析手法、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>	
	プレゼンテーション演習A	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となることを目的とする。</p>	
	プレゼンテーション演習B	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となるとともに、PowerPoint等を使用したプレゼンテーション用資料の作成スキルの獲得や様々なシチュエーションに合わせたプレゼンテーションを準備・実践ができることを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	コンピュータグラフィックス演習Ⅰ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>コンピュータグラフィックスの基礎やアピランス、文字とフォント等について講義する。</p>	
	コンピュータグラフィックス演習Ⅱ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>演習Ⅰで学んだ基礎を基に練習課題を行うほか、3DCADによる作画等を学ぶ。</p>	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	動画配信サービスを用いた情報発信演習 B	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。さらに、「単に動画を作れば良い」と言うのではなく、作業毎のアウトカムズ作成に重点をおき、社会・企業の中で求められている（であろう）、プロジェクト立案・推進の方法も学びます。</p>	
	プログラミング演習 I	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>HTMLやCSS、PerlによるCGIの基本、インタラクティブ処理等について学ぶ。</p>	
	プログラミング演習 II	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>サブルーチンや正規表現、JavaScript等について学ぶ。</p>	
	Society5.0 概論	<p>日本政府が謳っているSociety5.0がどのようなものかを理解し、Society5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。</p>	
	英語セミナー	<p>この授業は、英語の文法や語彙をよく理解し、実生活の中で英語を学ぶことに興味のある学生を対象とし、一般的なトピックについて英語で意見を交換できるようになることと目標とする。</p> <p>授業では、意見を伝えるためだけでなく、他者と同意したり反対したりするためのフレーズや表現を学び、学んだ表現等のテクニックを用いて、導入したトピックについて、ディスカッションする。</p> <p>題材には、配布物、記事、TEDプレゼンテーションを使用し、様々なトピック、例えば、幸せについて、環境、本、映画、健康とフィットネス、社会問題を取り上げる。</p> <p>ディスカッションは少人数のグループで行い、全て英語で進行する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を主に、特にワールドミュージックとは何かから始め、カリブ海の歴史・現状とその音楽等の視点から、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を、特にコンゴとリンガラ・ポップやアフリカと日本の世界音楽について、世界音楽の問題等に主点を置き、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスⅠ－1）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、以下のような文法事項等を学習する。</p> <p>初級文法の確認、再帰代名詞、zu不定詞、形容詞の格変化、受動態、関係代名詞等</p>	
	ドイツ語A（充実クラスⅠ－2）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>文法事項の確認・練習、ドイツ語テキストの講読・読解</p>	
	ドイツ語A（充実クラスⅡ－1）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（趣味、家族、職業、買い物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスⅡ－2）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（ほしい物、自分の部屋、家事、好きな食べ物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語A（充実 クラスⅠ－1）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうち最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>フランス語の文字と発音、基本語彙、冠詞、etreとavoir、第一群規則助動詞とfaire、文型SVAとSVO、形容詞、prendre等</p>	
	フランス語A（充実 クラスⅠ－2）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうち最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>第二群規則動詞、direと文型SVOO、代名詞、rendreと文型SVOA、直接他動詞と間接他動詞、複合過去等</p>	
	フランス語A（充実 クラスⅡ－1）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、職業・身分・国籍について、住んでいる所、アルバイト、交通手段、ペット、科目や教科等についてトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語A（充実 クラスⅡ－2）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、家事・余暇・習慣・週末/休暇の予定、地理について、過去について等をトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をすることができる。 ・授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	
	中国語A（充実ク ラスⅡ－1）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。また、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。</p> <p>中国語の発音、キャンパス・学食での会話、コンビニや喫茶店での会話等</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目 中国語A（充実クラスⅡ－２）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙を定着させ、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り</p> <p>居酒屋・中華料理屋での会話、タクシー乗り場、電車の中での会話、電話をかける、温泉旅行について等</p>	
専門教育科目	学域GS科目 初學者科目	<p>アカデミックスキル</p> <p>大学で学ぶ上で欠かすことのできない主体的・自主的学習を動機づけ、初年時のみならず専門分野においても学習をデザインでき能動的に学習できる能力を育むことを目標とする。</p> <p>本授業では、学校教育が直面する問題をはじめ教員に求められる基礎的知識について講義し、その後、学生と教員および学生同士のディスカッション等を通して、大学生としての自己表現能力や日本語力、論理的な思考方法を育成する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) ※複数クラスで実施 (34 鳥居和代, 25 川幡佳一, 71 大野順子 / 1回) ガイダンス (34 鳥居和代, 66 飯島洋, 37 松原道男 / 2回, 3回)</p> <p>学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「学校に行けなかった子どもたち―戦後初期の記録映画に学ぼう」等) (34 鳥居和代, 25 川幡佳一, 71 大野順子 / 4回) 「教師になるためのノート」の活用方法を学ぶ。 (35 長谷川和志, 73 田部絢子, 71 大野順子 / 5回, 6回)</p> <p>学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「発達障害と合理的配慮」等) (26 黒田智, 25 川幡佳一, 33 土井妙子 / 7回, 8回)</p> <p>学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「教育勅語と教育基本法―教育は誰のためのもの?―」等)</p> <p>プレゼン・ディベート論</p> <p>大学で学ぶ上で欠かすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションおよびプレゼンを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。</p> <p>本授業では、学校教育が直面する問題、学校教育の今日的課題、教員に求められる基礎的知識などのテーマに基づいたグループに分かれて研究活動を行い、発表を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学域 G S 科目 学域俯瞰科目	大学・学問論	本授業では、大学における学問の淵源をたどりつつ、大学における学問は全体としてどのように構想されているかという問題について、カリキュラムの面から考え、世界各地における大学がいま直面している諸問題についてアクティブ・ラーニングの手法を活用しながら、さらに人文社会学域の学問について学生一人一人が主体的に考察していく。	
	ジェンダーと教育	ジェンダー研究の成果を紹介すると同時に、ジェンダーの視点をともにこれまでの教育のあり方を問い直すことを目的としている。学校や家族では日常的にどのような「男らしさ」「女らしさ」が生成されており、そのもとでどのような人々（子どもたち）の存在が脅かされ、どのような人々の存在が忘れ去られているのかを検討する。また、性的な抑圧を少しでも少なくしていくために、どのような社会をつくっていけばいいのか、またそのために、学校教育に何ができるのか、について考える。	共同
	異文化理解 1	単一事象的に物事を捉えるのではなく、「異文化」という関係性に視座をおいて、文化・社会を再考する。日本、中国等の各エリアにおける文化事象を「異文化理解」というコンテキストに置いて相対的な視点からとらえ直す。学生は、そのような視点から、具体的な事象をとりあげ多様な観点から観察および考察をする力が求められる。	
	異文化理解 2	単一事象的に物事を捉えるのではなく、「異文化」という関係性に視座をおいて、文化・社会を再考する。アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ等の各エリアにおける文化事象を「異文化理解」というコンテキストに置いて相対的な視点からとらえ直す。学生は、そのような視点から、具体的な事象をとりあげ多様な観点から観察および考察をする力が求められる。	
	文学概論 1	古今の世界文学の重要な作家、作品の概要に触れながら20世紀のフランスで活躍し世界に影響を及ぼした思想家＝文学研究者たちの生涯や考え方にも接し、21世紀の文学の方向性を考えていきます。20世紀までの文学者の試みを知り、文学の歩みをフランス、イギリス、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本などいくつかの文学伝統にまとめておさらいし、グローバル化した現代の世界文学のあり方について考察します。文学周辺のジャンル（映画、マンガ、歌詞など）についても適宜考察を行います。	
	文学概論 2	現代世界で広く知られる文学、文学研究のあり方、楽しみ方について理解を深めるために、文学や文学研究の方法について基礎知識を得ます。それは今日世界中のさまざまな文学を研究する際に用いられる方法論の多くが、現代フランスで活躍した人たちがフランスおよび世界の未来について真剣に考えて作り上げた思想から生まれたものだからです。そこから世界全体の未来の文学のあり方について考察します。	
	世界遺産学	日本、中国、南アジア、西アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸と、世界各地の世界遺産を取り上げる。ひとつの文化遺産の背景には、幾重にも折り重なった歴史があり、そのひとつひとつを読み解くことで、文化遺産が生み出され、受け継がれてきた背景を知る。人類が作り出した文化がいかなるものか、そして、人々はそれとどのように関わってきたかを示す文化遺産は、決して「過去の遺物」ではない。現代社会が積極的に文化を活用しようとするときに、はじめて文化遺産としての評価が与えられる。文化遺産を通して人間や社会のあり方を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学域 G S 科目 学域俯瞰科目	ルールリテラシー	<p>法令（条文）と判例（判決文）を素材として、ルール作り、ルールの改正、ルールの運用、ルールと言語の関係等を明らかにし、ルールの背後にある価値・条文の趣旨に遡ってルールの意味を考える習慣を身につける。</p> <p>なお、この科目は、「学域俯瞰（ふかん）科目」に区分されているので、文系の諸学問と法学・政治学（政策学）との接点についても言及する。例えば、法令や判例は「文字」によって作られており、よく言われるように、法学は「ことば」による説得の学問である点で、日本語（国語）学に関連するほか、中学校の社会科（公民的分野）や高等学校の現代社会、政治・経済といった科目における法関連学習（法教育）との接続とその発展という点で、教育学（社会科教育）にも関連する。</p>	
	人文社会科学における法	<p>基礎法学の概観を提供することを目的とする。基礎法学とは、法学の諸分野のうち、自国の現行法を研究対象とする実定法学（憲法学、民法学、刑法学など）を除く全ての分野を包括する総称であり、法制史学、外国法学、法理学、法社会学などが含まれる。法制史学は過去の自国または他国の法を、外国法学は外国の法を、法理学（法哲学）は国や時代が異なっても変わらない法の本質を、法社会学は社会現象としての法を対象として学ぶ。</p>	
	イメージの比較文化学	<p>世界各地の視覚イメージ、とくに宗教的な美術を中心に、人間が生み出したさまざまな文化を読み解く。イメージの背景にある思想、信仰、社会、美意識などを明らかにし、人間の文化の持つ多様性と普遍性を探る。美術史、文化史、宗教学、哲学、文学、歴史学、神話学など、人文学の複数の領域を学際的に横断しながら学んでいく。</p>	
	防災学入門	<p>地震・津波・台風等の大規模災害が相次ぐ中、災害や防災・減災に関する知識と意識をもつ人材の養成が求められる。当科目は、防災士取得に向けての入り口として、防災活動や災害ボランティアに参加する上で最低限必要な知見・技術を獲得させることを目的とし、集中講義で行う。</p> <p>また、講義だけではなく、災害ボランティア入門講習、救命救急講習、避難所運営机上訓練HUG等も行う。</p>	共同
	現代日本の文化と社会	<p>政治や経済、家族・社会関係、信仰など生活のさまざまな側面における戦後日本の変化を概観的に把握することで、現在の日本で生起しているさまざまな文化社会現象を認識し分析する上での基礎的知識を習得し、説明できるようにする。公式統計や社会調査の集計結果などの図表を読み取り、そこから社会の変化について把握するスキルを身につける。国際比較の着眼点を理解する。</p>	
	地域創造学 1	<p>地域の課題や可能性を、事例を通じて、多面的具体的に紹介し、地域への関心を高める。その際、社会学、経済学、政治学、地理学などの社会科学等にもとづく解説を行い、地域をさまざまな科学にもとづいて理解するための手がかりを提供する。</p> <p>本授業では、①コミュニティをめぐる問題（社会）では、つながりの喪失、排除と包摂、コミュニティの維持困難、共生の課題、②地域経済をめぐる問題（経済）では、グローバル化・東京一極集中と地域、観光業・創造都市の光と影、③働く人をめぐる問題（経済・労働）では、格差と絶望、労働者の人権、④行政運営にかかわる問題（政治・行政）では、広域合併のもたらしたもの、民営化の功罪、自治体と住民参画、⑤地域を襲う環境の危機（環境）では、資源争奪、異常気象の進行、漁業資源の保全、⑥地域を運営すること（政治・自治、社会）では、行政・企業・NPOの協働の意義を学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学域GS科目 データサイエンス応用系科目	学域俯瞰科目 地域創造学2	<p>地域とは何か、地域創造とはいかなる意味・意義を持つのかといった問いを考える視点を概観し、地域の構造を生活、行政、経済などとの関連で取り上げ、そのような地域を分析する手法・方法論を紹介する。具体的な目標としては、①地域とは何か、地域創造とは何かを考える視点を学ぶ、②地域の基本構造として、地域の生活構造と自治の範囲を中心に取り上げ、経済や行政等の社会制度を概観する、③地域構造形成に影響を及ぼす諸要因である自然環境、社会的インフラストラクチャー、社会資源などに言及する、④地域分析のための諸統計の活用方法と調査手法に関する基本を紹介する。</p> <p>本授業では、生活構造・生活圏、地域の構造と情報、システムとしての地域、地域コミュニティと自治、地域分析手法（質的調査）、地域解析手法（統計）を学ぶ。</p>	
		データサイエンスの技術	<p>データサイエンスは機械学習・統計学だけではなく、非常に広い範囲のコンピュータサイエンス諸分野に関連する、取扱範囲が大きな分野である。本授業では初学者がデータサイエンスを理解するうえで必要となる基礎知識全般について考察する。ソフトウェア技術、アルゴリズム、統計学の知識といった基礎的なコンピュータリテラシーのみならず、機械学習やディープラーニング、さらには最近話題となることが多いビッグデータといった話題についても考察する。</p>	
		国際経済の理論とデータ	<p>国際経済学に関するマクロ的な問題についての理論を学び、国際収支、為替レート、財政、金融政策などについての理論を理解する。</p> <p>本授業では、世界貿易概観、国民所得勘定、国際収支、外国為替市場（アセットアプローチ）、外国為替市場における均衡（アセットアプローチ）、貨幣、利子率、為替レートなどについて学修する。</p>	
		国際貿易の理論とデータ	<p>国際貿易の理論を学ぶ。本授業では、主体的な学びを重視し、テキストの割り当て箇所について担当者による口頭発表およびディスカッションを行う。内容については、①データを用いた計量経済学的な実証分析の方法について学ぶ、②データの収集、加工、ソフトウェアを用いた分析について講義を行う、③国際機関が公表している実際のデータを用いて実践的なトレーニングを行う。</p>	
		情報処理	<p>さまざまな不確定現象（経済、経営、工学、自然科学等）を確率現象として捉え、その確率現象の構造を解明し、データ解析、評価、予測の理論とモデルの構築を学修する。その理論をファイナンス、経済学、経営学で用いた応用も行う。基礎からじっくりと学び、統計解析とデータ分析に精通した専門家となる素養を身につけることを目標とする。</p>	
		計量政治分析実習	<p>計量分析とは、例えば世論調査のように、数字で表現された数量データを多くの事例や人について集めて分析することによって、社会現象を明らかにしたり、そのメカニズムを解明しようとする分析方法であり、最近では、民間企業や行政機関においても、社会現象を数量データに基づいて客観的に把握して問題解決に役立てるため、計量分析を用いた報告書の読解や、調査・分析の能力が求められるようになってきている。</p> <p>本授業では、政治関係の数量データをパソコンの表計算ソフトの「Microsoft - Excel」や統計解析ソフトの「SPSS」や「R」を使って分析する実習を通じて、社会現象の計量分析の技法の基礎を修得することを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学域 G S 科目 データサイエンス 応用系科目	ビジネス・データ分析（ビジネス・データ・サイエンス）	<p>この授業では、ビジネスに用いられる統計データであるビジネス・データ分析について学習し、ビジネス・データを正しく読み取り、活用できることを目的とする。焦点をあてるテーマは、①ビジネスと設備投資、②ビジネスと販売予測、③ビジネスと市場分析、とする。</p> <p>さらに、この授業では、統計ソフトRについて実習を通して学ぶ。</p>	
	統計データ分析の基本（多変量解析）	<p>統計学は、大学における文系・理系の双方の専門科目の基礎となる不可欠の素養である。本授業では、調査・観察・実験の際に必要な統計スキル（多変量解析編）を学習し、得られたデータを統計的に正しく推論を行う力を身に付ける。焦点をあてるテーマは、①回帰分析、②主成分分析、③因子分析、④分散分析、⑤クラスター分析、とする。</p> <p>さらに、この授業では統計ソフトRについて実習を通して学びます。</p>	
	データで考える日本の未来（データサイエンス）	<p>本授業では、地域の人口・観光・産業・農業等について地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供しているRESASからデータを収集し、地域の現状を分析するとともに、地域の課題解決に向けた政策アイデアを提案できるようになることを目標とする。</p>	
	統計ソフトRによるビッグデータ分析	<p>日米の経済や金融に関する統計データ及びビッグデータの活用方法および分析手法を学習し、国内外のデータを収集、比較、分析を通して、グローバルな経済や金融の動きをデータに基づいて俯瞰することができるようになることを目的とする。</p> <p>日本の統計データベースについては、RESAS, e-Statを活用し、米国はUSCensus, BEA, IPMUSを活用する。</p>	
	金融リテラシー	<p>個人の金融行動を通じてライフプランニング能力やキャリア開発能力を身に付けることができるための、基礎的な金融に関する知識や実践力を習得し、自立した個人として行動ができるための資質を養うことを目標とする。</p> <p>本授業では、次の内容について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと基本事項Ⅰ（金融リテラシーの基本要素） 2. 基本事項Ⅱ（基本となる生活経済知識） 3. 人生の選択 4. 収入と税・社会保険 5. 購買行動と信用履歴 6. 車の購入とペイメントオプション 7. 為替と海外旅行 8. 住宅購入とローン価値 9. リスクマネジメント（健康と病気） 10. リスクマネジメント（交通事故と損害賠償） 11. 資産管理と運用 12. 失業とセーフティネット 13. リタイアメントプログラム 14. 不確実性の理論 15. 持続可能性とパーソナルファイナンス 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学域GS科目 データサイエンス 応用系科目	白書の講読と議論	本授業では、地域の少子化問題について少子化社会対策白書を中心に現状と課題の理解を深めるとともに、統計データを収集して地域の現状を把握する。さらに、少子化対策に関する定量的な政策評価の事例を通して、EBPM (Evidence-Based Policy Making : 証拠に基づく政策立案) について学ぶ。焦点をあてるテーマは、①総人口と人口構造の推移、②出生数、出生率の推移、③婚姻・出産の状況、④結婚をめぐる意識等、⑤出産・子育てをめぐる意識等、⑥結婚や子育てに関する意識、⑦地域比較、とする。	
		地域課題解決と政策立案のための統計データ分析：EBPM (根拠に基づく政策立案)	本授業では、我が国の経済社会構造が急速に変化する中、限られた資源を有効に活用し、国民により信頼される行政を展開することを目指すための取組であるEBPM (エビデンスに基づく政策立案) について学習する。①EBPMとは何かについて説明できること、②政策評価手法について説明することができること、③データを活用して政策評価を行うことができることを目的とする。	
		統計学技能 I	一般社団法人 統計質保証推進協会が実施している統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験である「統計検定」の3級に合格すること。例えば統計検定3級では、大学基礎統計学の知識として求められる統計活用力を評価するものです。「統計検定」に関する基本的な概要および対策方法については、ガイダンスを行って、主体的に各自で準備が進められるように配慮を行う。	
		統計学技能 II	一般社団法人 統計質保証推進協会が実施している統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験である「統計検定」の2級以上に合格すること。例えば統計検定2級では、大学基礎統計学の知識と問題解決力について大学基礎課程 (1・2年次学部共通) で習得すべきことを検定するものです。「統計検定」に関する基本的な概要および対策方法については、ガイダンスを行って、主体的に各自で準備が進められるように配慮を行う	
	学域GS言語科目	学域GS言語科目 I	学域GS言語科目 I では1年次のGS言語科目で培った英語運用能力をさらに伸ばすことを目的としている。さらに、専門とする教育分野で必要となる基本的知識や概念を英語で学び、理解・表現ができるようになることを目的とする。この授業は学域GS言語科目 II と連携しており、特に学問分野の英語による基本的理解に重点を置いている。それに付随して英語の運用練習も行う。	
		学域GS言語科目 II	学域GS言語科目 II では1年次のGS言語科目で培った英語運用能力をさらに伸ばすことを目的としている。さらに、専門とする教育分野で必要となる基本的知識や概念を英語で学び、理解・表現ができるようになることを目的とする。この授業は学域GS言語科目 I と連携しており、特に学問分野に関わる内容を英語によって表現することに重点を。それに付随して分野に関する基本的概念についての英語表現も学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	共通科目	野外体験活動Ⅰ	小学校や中学校で実施されることの多い野外体験活動についてその活動の目的や学習効果につて、実際に自然体験や合宿を通して実践的に学ぶ。また、野外体験活動の指導に必要な知識や技術を、実際に児童・生徒が宿泊に利用する施設において直接活動内容についての指導を受け、子どもの発達段階に対応した活動のあり方を、学生同士のディスカッションも取り入れながら学んでいく。	
		野外体験活動Ⅱ	野外体験活動Ⅰで学んだ知識や技術、活動の在り方を実際の小学校や中学校が実施する宿泊体験活動にアシスタントとして参加することによって活かすことを目的とする。合わせて、集団行動の管理、安全確保の方策、アクシデント発生時の対応といった実際の宿泊体験活動で起こりうる事態に対処する方法論および教室外での児童・生徒たちとの接し方なども実地に学んでいく。	
		卒業研究	履修者が自ら課題を設定し、研究目的や研究方法を明らかにするために研究計画を立てる。この計画に基づき、先行研究等を踏まえた上で、指導教員のもとで研究を進めるが、その際に倫理的な配慮の重要性についても学ぶ。また、このような研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解するとともに、主体的に研究に取り組む態度や問題解決能力を習得することを目的とする。	
	専門基礎科目	教育の思想と歴史（日本）	教育の思想と実践の変化を、日本の教育の歴史の中に位置づけて考える。日本社会における古代から現代にいたるまでの教育の理念や思想・実践を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷を辿る。各時代の教育を日本社会のあり方と関連づけながら考察することによって、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識・技能を身につけ、教育の原理的問題にかかわる基礎教養を習得することが目標である。	メディア
		教職と学校	教育学、および、心理学を代表とする隣接諸学の知見を領域横断的に参照しながら教師という存在を対象化して学的にとらえることを第一の目標とする。受講者は、本講義を通じて、これまでの被教育経験からの教師像からいったん自由になり、あらためて「教師とはどういう存在か」という根本的な問いと向き合うことが求められる。 【オムニバス形式/全8回】 (78平石晃樹/1回、2回) 公教育の目的と教師の存在意義 (34鳥居和代/1回、3回) 教職の職業的特徴と教職観の変遷 (70上森さくら/5回) 学校における主権者教育 (74土屋明広/7回) 教員の日、服務上・身分上の義務、身分保障 (77原田克巳/6回) チーム学校の一員としての校外資源 (79本所恵/4回) 国際比較から見る教職 (80森慶恵/8回) 学校保健と学校安全	メディア オムニバス方式
		教育制度概論（就学保障と学校安全）	公教育制度の基本理念と基本的な制度を、就学保障と学校安全を基軸に据えて講義していく。公教育は子どもの就学を保障するために教育行政、教育課程、教科書、就学支援など様々な制度を、その基盤として子どもの安全を保障するための法制度を整備している。本講義は就学支援と学校安全に関する法制度を中心に講義することで、教職に就く者が必要とされる視点や知識を修得することを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	教育の基礎的理解に関する科目	発達と教育（自己創出としての発達）	乳幼児期から青年期までの自己創出された発達の特徴を理解するとともに、発達の状態をふまえた指導方法について概説する。前半部分では、教育を行ううえでの発達について学ぶ意義、自己創出としての発達とはどのようなものか、進化の過程でどのような能力や特性を獲得してきたのかを見ていく。後半部分では、乳幼児期、児童期、青年期の発達時期に分けて、それぞれの時期に見られる認知、社会性、人格の特徴について理解を深めていく。	メディア	
		特別支援教育概論	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育の制度と指導・支援について理解するため、本授業では、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども及び、障害はないが、特別の教育ニーズのある子ども）に対する教育の理念や特別支援教育の制度（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、特別支援教育コーディネーター、「チーム学校」による支援等）及び、指導・支援について概説する。	メディア	
		現在をつくる教育課程	本授業は、現在の教育課程がどのような歴史と理念の上に成立しているのか、その教育課程がどのように現在の教育や社会と関わっているのかを学ぶ。そのために、学習指導要領の変遷を、教育実践の具体例および各時代の社会との関わりに触れながら辿り、現在の教育や社会の成り立ちを理解する。また、国内外にある実際の教育課程の具体例を多く取り上げ、その中にある理論を学ぶ。そして実際に教育課程を実施・改善する上での重要事項や留意点など、カリキュラム・マネジメントに関わる基礎知識を具体例から学ぶ。		
	専門基礎科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論（指導法）	道徳の教科化は、読み物資料の人物の心情読解に傾斜しがちだった従来の指導法の一面性に反省を促すものであった。これを受け、本講義では道徳の多様な指導法を紹介・検討することをベースに、いわゆる定番教材を多く取り上げながら、教材研究の意義と手法、創造的な発問の必要性、指導案作成による授業の構造化の重要性等について解説する。最終的には模擬授業の実施を通じて道徳教育の実践力と授業改善の視点を涵養する。	メディア
		総合的な学習の時間教育論Ⅰ	「総合的な学習（探究）の時間」設置の意義、ねらい、内容構成について理解する。さらに、この総合的な学習（探究）の時間で最も重視すべき点の一つである探究的な学習の在り方について把握した上で、その学習の進め方に関わり、課題設定の方法、追究の方法、整理・分析・課題解決の方法、まとめ・表現の方法等について、それぞれの校種の具体例を取り上げながら、理解を深めていく。また、その際に必要となる教師の指導や支援の方法も検討することにより、実際にこの授業を実施するための基本的な力を身に付ける。		
		総合的な学習の時間教育論Ⅱ	新しい時代にふさわしい総合的な学習（探究）の時間の授業の在り方について、追究にふさわしい新しい時代に向けた課題の設定方法、追究の具体的な方法、課題解決に向けた取り組み等から検討を行い、理解を深める。さらに地域の小中高等学校における授業実践例を知るとともに、年間指導計画・学習指導案の作成方法や、学習活動における評価の考え方や方法について理解することを通して、実際にこの授業を実施するために必要な力を身に付ける。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	特別活動における評価と指導の実際	学校教育における特別活動の指導の在り様を考察していくために、社会的背景や教育政策との関連をふまえて、その位置と役割を理解しつつ、子どもたちの生きる現実を切り拓いていくための特別活動としての今日的課題を明らかにしていく。さらに、学級活動や学校行事など各活動における具体的な評価と指導の在り様や、学校外の資源の活用について、実践記録を共同で分析し合うことを通して、特別活動の指導原理の理論的・実践的な見識を深める。	
	教育方法探究	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力とは何かを、さまざまな教育論議や教育実践を通して考え、それらの能力を育成するために必要な、教育の方法に関する知識・技能を学ぶ。創造的な教育実践の思想や取り組みを学び、自分の教育実践を評価し改善する視点を持ちながら、実際の教育を計画・実施できるようになることを目指す。	メディア
	学校カウンセリング	学校教育現場において、教職員（スクールカウンセラーを含む）が向き合うこととなる主要な教育的課題の中から、いじめ、不登校、虐待、貧困をテーマとして取り上げる。統計資料から実態を把握し、関係する法令等から国が示す施策の方針と対応の指針を理解する。その上で、諸問題に関わっての児童生徒の心理的苦痛や背景要因について紹介し、教職員として児童生徒および保護者に対する指導と支援を、協働・連携の視点を含めてどのように行えばよいかを考察する。また、指導・支援を考察し、自らの技能とするために、学校カウンセリングの基本的な理論と技法を紹介する。	メディア
	子どもの生活とキャリア教育	学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むキャリア教育のために、若年労働市場の変容、格差・貧困の拡大、消費社会化、家族・地域の変容といった現代社会における諸課題と共にあるキャリア教育の課題を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付け、指導の在り方を具体的に構想する。	メディア
専門教育科目 専門基礎科目 教育実践に関する科目	教育実習A(幼・小) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、園児・児童の実態や、学校・学級経営及び幼稚園・小学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	教育実習A(中・高) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、生徒の実態や、学校・学級経営及び中学校・高等学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	
			教育実習B(小)	小学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(中・高)	中学校・高等学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(特別支援)	特別支援学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童・生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(幼)	幼稚園における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、園児と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	教職実践演習（幼・小・中・高）	<p>「履修カルテ」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己の到達点を確認するとともに、教職についての考えを深めるためのグループワークや模擬授業等を通して、教員として必要な資質・能力を確認し、それらの向上を図る。学生は、この科目を通して以下のことができるようになる。①教職に関する様々な課題についてグループで議論しつつ取り組む。②教育実習等の振り返りを行い、自分自身の資質・能力を評価して、教師になるために適切な目標を設定する。③特定の学年・教科のための指導案を書く。④授業参与観察や現職・退職教員の講義をもとに、学校での教育に関して理解を深める。とりわけ、教員として重要な(1)使命感や責任感、教育的愛情等、(2)社会性や対人関係能力、(3)児童生徒理解や学級経営等、(4)教科等の指導力の4項目に関して自己評価を行い、これらの資質・能力を身につける。</p> <p>(共同・オムニバス方式/全15回) (70 上森さくら：金大クラス/1回～10回, 12回～15回, 96 増田(田中)美奈：富大クラス/1回～10回, 12回～15回)</p> <p>教員の役割や教職に必要とされる社会性、児童生徒理解や学級経営等について講義とグループワークを行い、授業参与観察の指導をする。 (39 守屋哲治：金大クラス/1回, 11回～13回, 15 徳橋曜：富大クラス/1回, 11回～13回)</p> <p>教育実習等を振り返らせた上で、指導案の作成や検討について講義とグループワークを行い、模擬授業の助言指導を行う。</p> <p>※1回, 12回, 13回は共同で実施 1回/当該授業のオリエンテーションを共同で行う。 12回, 13回/指導案の発表に係るグループワーク及び模擬授業の指導助言等を共同で行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
			学校インターンシップⅡ（幼・小）	<p>授業補助、放課後学習、その他校務の手伝いを通して、子ども理解や教師としての指導技術、校務について学び、教師としての実践的な能力を身につける。この授業では幼稚園・小学校においてインターンとして活動し、教師の日常的職務活動を補助することを通して学級経営や子どもの支援について学び、自身の教師としての資質・能力などの向上を図る。</p>	
			学校インターンシップⅡ（中・高）	<p>授業補助、放課後学習、その他校務の手伝いを通して、子ども理解や教師としての指導技術、校務について学び、教師としての実践的な能力を身につける。この授業では中学校・高等学校においてインターンとして活動し、教師の日常的職務活動を補助することを通して学級経営や生徒の学習支援等のあり方を学び、自身の教師としての資質・能力などの向上を図る。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	国語科基礎B（書写を含む）（地域の文学を含む）	<p>小学校国語科を担当するのに必要な国文学・国語学の基礎知識の習得と書写指導の基礎を修得する。日本近代文学・日本古典文学・漢文学についての基礎的な教養を習得し、作品はいかに読むべきなのかという問題を検討する。小学校国語科を担当するのに必要な国文学・国語学の基礎知識の習得と書写指導の基礎を修得する。日本近代文学・日本古典文学・漢文学についての基礎的な教養を習得し、作品はいかに読むべきなのかという問題を検討する。また国語科高学年の書写に関する基礎知識を習得する。北陸出身、あるいはゆかりの文学者の作品についても取り上げ、地域の文学への理解と関心を深めるようにする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（66 飯島洋／1回、2回、3回、4回） 小説と詩歌を取り上げ、論理的・構造的な読解のありかたについて検討する。北陸にかかわる文学作品についても取り上げ、地域への理解を深めるようにする。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古典文学の基礎的な読解について修得する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化および、日本文化における漢語の影響について修得する。</p> <p>（24 折川司／7回、8回） 国語科書写の位置と役割および国語科書写において指導する内容について理解の深化を図る。また国語科高学年の書写に関する基礎知識を習得する。北陸出身、あるいはゆかりの文学者の作品についても取り上げ、地域の文学への理解と関心を深めるようにする。</p>	メディア オムニバス方式
	社会科基礎B（高学年の社会科と現代の教育課題）	<p>（概要）法学、地理学、哲学、日本史からそれぞれ小学校の社会科を教える上で基礎となるテーマを選び出し、解説する。授業においてはグループによる発表や討論を取り入れ、問題を参加者と協働で探究する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（68 石川多加子／1回、2回） 日本国憲法の制定過程、その基本原理、および各条文について、戦後どのような裁判が争われてきたかの事例を紹介する。</p> <p>（84 吉田国光／3回、4回） 「地理学」の方法から初等教育における社会科地理を学ぶ方法を問い直す。「知らない地域」をどのように学のか、なぜ学ぶ必要があるのかを、教えられる教師となるための方法を習得する。</p> <p>（40 山本英輔／5回、6回） 現代の環境思想を学び、環境教育を問い直す。また環境問題と食の連関を理解し、食を哲学的に考察する。</p> <p>（26 黒田智／7回、8回） 私たちが生きる現在の歴史的位置を相対化しながら、歴史を学ぶ楽しさと意義、多様な史料から構築される歴史研究の基本的な方法を理解する。</p>	メディア オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	算数科基礎B（高学年）	算数科の高学年の内容と、それに関連する事象に関する知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の主に高学年の各領域・内容に関する教育的な分析に取り組む。具体的には、数学的な概念や構造、アイディアと、それらによって説明される、日常生活や社会の事象や数学の事象との関係について、児童の学習過程を踏まえて検討する。	メディア
	理科基礎B（実践）	<p>（概要）小学校の理科授業において必要な知識・技能と実験・観察の方法を、物理・化学・生物・地学の各分野において習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（32 辻井宏之／1回，2回） 物理分野の実践について学ぶ。</p> <p>（97 小松田(佐藤)沙也加／3回，4回） 化学分野の実践について学ぶ。</p> <p>（25 川幡佳一／5回，6回） 生物分野の実践について学ぶ。</p> <p>（28 酒寄淳史／7回，8回） 地学分野の実践について学ぶ。</p>	メディア オムニバス方式
	生活科基礎B（実践）	自然体験や栽培などの様々な体験は豊かな学力形成の基盤となるが、近年の子どもたちの体験不足は指摘されて久しい。これも背景となって、とりわけ小学校生活科は体験活動が重視されている。教員になった際に授業で実施する体験活動の実践力を高めることを目的に、生活科で特に重視されている花や野菜等の栽培に関する実践を掘り下げて研究したり、地域学習等としてフィールドワークに出かけたりして、小学校教員としての具体的な授業構想が可能になる力を育成することを目標とする。	
	音楽科基礎B（実践）	<p>（概要）初級者と中級者以上にグループ分けをし、初級者ではバイエル教則本と弾き歌いの個人レッスンをし、中級者以上には、修得しているピアノの演奏技術を前提に、鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。</p> <p>（93 多賀秀紀／23 小野隆太、20 安藤常光） 初級者を担当し、バイエル教則本から14番、15番、25番、29番、40番、48番、49番、52番、56番、60番と弾き歌い（茶つみ）の個人レッスンをし。</p> <p>（64 浅井(橋場)暁子） 中級者を担当し、修得しているピアノの演奏技術を前提に、楽典基礎、基本的なカデンツの基礎と応用、借用和音の理解と利用、コードネームの基礎と習得、曲調に合わせた伴奏形のアレンジ基礎と応用、メロディー譜を用いた伴奏づけ実践、オリジナル伴奏による発表などの鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	図画工作科基礎B (実践) 小学校図画工作科における表現技能の要点理解を目標とし、中学校美術科との連結をねらいに造形遊び的・絵画的・彫刻的・デザインの・工芸工作的な図画工作科題材とその作品制作をおこなうとともに受講者自身の造形表現技能のスキルアップを図る。 (オムニバス方式/全8回) (22 大村雅章と151 江藤望/1回, 2回, 3回, 4回) 図画工作科教科書より絵画・彫刻的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、絵画・彫刻的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、絵画・彫刻的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第4回では絵画・彫刻的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 (大村雅章) 絵画 (江藤望) 彫刻 (67 池上貴之と44 鷺山靖/5回, 6回, 7回, 8回) 図画工作科教科書よりデザイン・工作工芸的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、デザイン・工作工芸的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、デザイン・工作工芸的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第8回ではデザイン・工作工芸的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 (池上貴之) デザイン (鷺山靖) 工作	オムニバス方式・共同 (金沢クラスのみ)
			家庭科基礎B (被服・家庭経営と現代の教育課題) (概要) 小学校家庭科において、「家族・家庭生活」、「消費生活・環境」および「衣食住の生活」について扱われている。家族・家庭生活、消費生活および衣生活に関する基礎的な知識を習得し、学校教育において地域・環境へ配慮した生活の送り方を念頭においた授業展開ができるようになることを授業目標とする。本授業では、小学校家庭科における家族・家庭生活、消費生活および衣生活に関する指導目標および指導内容に応じた基礎的な内容を学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (75 花輪由樹/1回, 2回, 3回, 4回) 消費生活に関する講義において、家族・家庭と暮らし、ものやお金の使い方などを解説し、これからの消費生活や地域での工夫の仕方を検討していく。 (81 森島美佳/5回, 6回, 7回, 8回) 衣生活に関する講義において、衣服の種類、役割、素材や取扱い方などを解説し、環境に配慮した衣生活における工夫の仕方を検討していく。	メディアオムニバス方式
			家庭科基礎C (実習) 学校教育で被服製作実習を展開していくために必要な基礎知識と技能を習得し、ICTを活用した適切な実習計画、材料や用具の準備および安全性に配慮した授業展開ができるようになることを授業目標とする。本授業の前半では手縫いによる製作と教示用の動画を作成し、後半では不要な布を用いたミシン縫いによる小物製作を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	<p>体育科基礎A</p> <p>(概要) 体育科教育および学校保健の各研究領域の理論を踏まえ、それを活かした授業実践について検討し、学習指導方法に関する理解を深めていく。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回) 体育科の指導方法論の「よい体育授業の条件」「運動が苦手な児童への学習指導」等に関して理解を深める。 (21 岩田英樹/5回, 6回, 7回, 8回) 体育科保健領域の「健康な生活」, 「体の発育・発達」, 「心の健康・けがの防止」, 「病気の予防」で取り扱う教材等を取り上げ、保健領域における学習方法に関する理解を深める。</p>	メディア オムニバス方式
			<p>体育科基礎B (実践)</p> <p>(概要) 本科目では体育科教育においてみんながわかり、うまくなることをめざして開発されてきた教材群を体験しながら、多様な教材群を指導する上で必要となる基礎的な戦術・技術の方法や、教材づくりの方法を理解することを目標とする。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(82 山田哲/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 「体づくりの運動」, 「器械運動」, 「水泳」の学習指導方法について演習を行う。 (36 増田和実/7回, 8回) 「ボール運動 (ゴール型)」や「ボール運動 (ネット型)」の学習指導方法について演習を行う。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			<p>英語科基礎A (理論)</p> <p>(概要) 小学校での授業実践に必要なコミュニケーション力を涵養するとともに、英語の音声・正書法や第二言語習得、児童文学などの事項を学習する。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、適宜英語による発表やディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(30 滝沢雄一/1回, 2回) コミュニケーションの構成要素、及びコミュニケーション能力、第二言語習得について学習し、それを踏まえた授業実践における言語活動のあり方について議論、考察する。 (39 守屋哲治/3回, 4回) 英語の指導の基盤となる英語の音声及び文字について、基礎となる知識、技能について解説や実技を通して学ぶ。 (72 久保拓也/5回, 6回, 7回, 8回) 英語の正書法、絵本や歌・詩などについて学習し、授業での活用について議論、検討する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科に関する科目	英語科基礎B（実践）	<p>小学校での授業実践に必要なコミュニケーション力を涵養するとともに、英語の語彙・文法や第二言語習得、異文化理解などの事項を学習する。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、適宜英語による発表やディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（30 滝沢雄一／1回，2回） クラスルーム・イングリッシュや授業で英語を話して聞かせるために必要な知識を学び、演習等を通して活用できる技能を身に付ける。</p> <p>（39 守屋哲治／3回，4回） 英語の指導の基盤となる英語の語彙や文法について、基礎となる知識、技能について解説や実技を通して学ぶ。</p> <p>（41 山本卓／5回，6回，7回，8回） 世界及び日本における英語の役割や位置づけ、異文化理解などについての知識を学び、それらを踏まえた授業について議論、検討する。</p>	メディア オムニバス方式
	専門基礎科目	初等国語科教育法Ⅰ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」を扱う。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	
	小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅱ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「読むこと」を扱い、加えて「知識及び技能」の内容や学習評価についても整理する。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	
		初等社会科教育法Ⅰ	<p>小学校の学習指導要領の「社会科」を解説する。とりわけ小学校3～4年は地域学習、5年生は産業学習、6年生は日本史と憲法学習であることを説明する。日本史は42人の具体的な名前を挙げて「例えばこの人物を教えること」と例示されており、それぞれの人物がどのような業績を上げた人物なのか、具体的な模範授業を通じて示す（例として杉田玄白、ペリー、野口英世）。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科指導法	初等社会科教育法Ⅱ	子どもの心を揺さぶるような社会科の授業はどのようにして設計されるのか、その基本的なノウハウを教授する。社会科の授業の面白さの本質は、アクティブラーニングなどの学習方法以前に、教育内容の「意外性」と「ストーリー性」であることを講義し、意外性を盛り込むためにはどのようなリサーチが必要なのかを説明する。そのうえで、実際に学生にリサーチを行わせ、模擬授業プランをレポートとして提出させる。	
	初等算数科教育法Ⅰ	算数科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域における授業の視聴とその検討を通して、個別の学習内容における児童の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科の指導法についての知見を得る。	
	初等算数科教育法Ⅱ	算数科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、算数科の授業を設計することができるようになるために、算数科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価についての知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、さらに算数科の実践研究とその課題について学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回、7回、8回) 算数科における教材研究とその方法、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価、算数科の実践研究とその課題について講義し、本科目を総括し展望を示す。 (43 米田力生／5回、6回) 算数科授業の構想と学習指導案の作成、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	初等理科教育法Ⅰ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や具体的な授業実践例を通して、理科の目標、子どもに育成する能力、指導技術、教材内容について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。とくに、小学校理科の目標については、理科を学ぶ意義について、内容については、具体的な教材を例に教材の工夫や内容区分の意義について理解する。また、理科における見方・考え方に基づく思考と問題解決の能力、さらに、主体的な学習のための工夫について授業実践事例を通して理解する。	
	初等理科教育法Ⅱ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や授業実践例を通して、理科の指導計画、指導技術、教材内容、評価方法について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。小学校の教材を例に具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。その際、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のありかたについて検討する。また、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科指導法	初等生活科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
	初等生活科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
	初等音楽科教育法Ⅰ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案の作成につなげることができる。講義では、音楽科教育に関する理論的内容を中心に扱い、授業を組織するための基礎的な内容を学修する。特に、目標論と評価論、音楽科の授業構成についての歴史の変遷を踏まえ、学習指導要領を相対化し、今後の授業のあり方を展望できるための素地を身につける。講義の期間中にはレポート課題によって、学修内容の定着をはかる。	
	初等音楽科教育法Ⅱ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案を作成し模擬授業として実践する。講義では、音楽科基礎AB及び初等音楽科教育法Ⅰでの学修をもとに、学習指導要領における教科内容やそれらを踏まえた学習指導計画を、授業構成に関する理論を援用しつつ作成できるようにする。また、模擬授業の実践を通して、授業を省察するための視点を獲得し、自律的な授業改善を実現するための素地も身につける。	
	初等図画工作科教育法Ⅰ	(概要) 小学校図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (44 鷺山靖/1回、2回、3回、4回) 算小学校図画工作科の意義、目的を学ぶ。 (151 江藤望/5回、6回、7回、8回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	初等図画工作科教育法Ⅱ	(概要) 初等図画工作科教育法Ⅰの学習に基づき、引き続き図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (151 江藤望/1回、2回、3回、4回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する (67 池上貴之/5回、6回、7回、8回) 情報機器及び教材の活用を含む基礎的な授業方法を理解するとともに模擬授業等の演習を通して授業技能を身につける。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科指導法	初等家庭科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
	初等家庭科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。この講義では、小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
	初等体育科教育法Ⅰ	(概要) 本科目では体育科教育における教科目標論、教科内容論、学習指導論、教育課程論の基礎理論を理解し、体育科教育の全体構造を理解する。 (オムニバス方式/全8回) (83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科教育に関する基本的事項である目標・内容論、学習指導要領の変遷・特徴、学習指導論等について理解する。 (21 岩田英樹/7回, 8回) 体育科保健領域における授業づくりと、模擬授業と省察を演習形式で行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	初等体育科教育法Ⅱ	(概要) 体育科教育の各領域における目標・内容・方法・評価について検討することで、各領域における具体的な指導上の留意点について理解する。 (オムニバス方式/全8回) (83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科における指導実践に関わる授業計画、学習評価を演習形式、模擬授業・省察で学習する。 (21 岩田英樹/7回, 8回) 中学年、および高学年を対象とした体育科保健領域における具体的な指導上の留意点について取り上げる。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	初等英語科教育法Ⅰ	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主にコミュニケーション、第二言語習得理論、学習指導要領、インプットとアウトプット等を中心に引き上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識を踏まえて議論できる機会を設ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	小学校の教科指導 初等英語科教育法Ⅱ	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について、主に5領域の言語活動及び評価等を中心に引き上げ、実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則を踏まえながら、模擬授業やリフレクションを通して、指導法・指導技術を確立することを目指す。	
		中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ	インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び教育課程を踏まえ、中学校・高等学校段階における特別な支援を必要とする生徒の障害等の特性と心身の発達、ならびに支援の方法を理解することを目的として、本講義では中学校・高等学校段階における個別の教育的ニーズを理解するために必要な知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	メディア
		中学校・高等学校の特別支援教育Ⅱ	インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び教育課程を踏まえ、中学校・高等学校段階における特別な支援を必要とする生徒の障害等の特性と心身の発達、ならびに支援の方法を理解することを目的として、本講義では中学校・高等学校段階における個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び家庭や関係者と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	メディア
		石川県の教育実践Ⅰ	石川県の魅力ある教育実践を主に各教科の指導法の教員が講義する。石川県は全国的にみて非常に学力の高い県である。一方で、江戸時代・加賀藩による手厚い文化政策の歴史は進取の気性をもって現在まで息づき、能登半島の里山里海は世界農業遺産に指定された豊かな生物資源や農林漁法、歴史ある農耕に関連する文化・祭礼、美しい景観をもつ。「美しい金沢・石川」の教育実践は、こういった稀な地域性を基盤としてあり、地元ならではの特色ある実践と普遍的な学力形成への取り組みについて講義する。 (オムニバス方式／全8回) (24 折川司／1回) 国語の指導法における石川県の実践的な取り組み (69 伊藤伸也／2回) 算数・数学の指導法における石川県の実践的な取り組み (37 松原道男／3回) 理科の指導法における石川県の実践的な取り組み (38 村井淳志／4回) 社会科の指導法における石川県の実践的な取り組み (45 綿引伴子／5回) 家庭科の指導法における石川県の実践的な取り組み (29 滝口圭子／6回) 幼児教育の指導法における石川県の実践的な取り組み (24 折川司／7回) 県内市町教育委員会取り組みや学校現場の最新の実践 (全員／8回 ※まとめ) 各教科の取り組みを比較し、教科を超えた多様な視点から取り組みを理解する。	メディア オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	石川県の教育実践Ⅱ	<p>「石川県の教育実践Ⅰ」に引き続き、石川県の魅力ある教育実践を主に各教科の指導法の教員が講義する。石川県は全国的にみて非常に学力の高い県である。一方で、江戸時代・加賀藩による手厚い文化政策の歴史は進取の気性をもって現在まで息づき、能登半島の里山里海は世界農業遺産に指定された豊かな生物資源や農林漁法、歴史ある農耕に関連する文化・祭礼、美しい景観をもつ。「美しい金沢・石川」の教育実践は、こういった稀な地域性を基盤としてあり、地元ならではの特徴ある実践と普遍的な学力形成への取り組みについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(44 鷺山靖／1回) 石川県教育委員会の取組や学校現場の最新の実践 (287 篠原秀夫／2回) 音楽教育の指導法における石川県の実践的な取組み (44 鷺山靖／3回) 図画工作・美術の指導法における石川県の実践的な取組み (83 横山剛士／4回) 体育の指導法における石川県の実践的な取組み (33 土井妙子／5回) 生活科の指導法における石川県の実践的な取組み (30 滝沢雄一／6回) 英語の指導法における石川県の実践的な取組み (80 森慶恵／7回) 保健指導や保健学習における石川県の実践的な取組み (全員／8回 ※まとめ) 各教科等の取組みを比較し、教科を超えた多様な視点から取組を理解する。</p>	メディア オムニバス方式
	国際化と学校教育Ⅰ	<p>学校において外国語を教えることの意味を考えるために、国際化との関連から学校教育を概観する。この授業では、海外（アメリカ・台湾・スウェーデン）の小学校における外国語教育と、日本における外国語教育の現状の比較を軸にして、日本における外国人児童に対する日本語教育の現状などとも比較しながら考察する。受講生は地域における非日本語母語話者の就学状況を調査し、学校現場の対応方策についてレポートを作成していく。</p>	メディア
	国際化と学校教育Ⅱ	<p>この授業では、国際化と学校教育の関連という視点から、二言語併用（バイリンガリズム）を軸として日本語母語話者に対する外国語教育、および非日本語母語話者に対する日本語教育について考察する。また、海外では移民の子どもに対してどのような外国語教育が行われているかを受講生はおのおの調査し、日本の現状との比較・分析等を行う。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	先進的教育科目 (共通領域)	SDGs教育実践演習Ⅰ	2015年に国連サミットで制定された持続可能な開発目標であるSDGsは、学校教育においても実施すべき必須の課題である。本授業ではまず、金沢市におけるSDGsの実践を学ぶことでSDGsへの理解を深める。次に、専攻する教科のメンバーでプロジェクトチームを編成し、その教科の視点から身近なSDGsの課題設定と課題解決に向けた具体的なプランを作成する。最後に提案したSDGsのプランが学校教育の実践にいかに関与できるかを考察する。	メディア
		SDGs教育実践演習Ⅱ	教科を横断したメンバーでグループ(計24グループ)を編成し、さまざまな専門の立場から協働してSDGsの実践に取り組む。まず、各グループで地方自治体が抱えるSDGsの課題を調査する。その課題に対して関係者にインタビュー調査を実施し、課題となっている具体的な問題を浮彫にする。さらに、課題解決に向けた具体的なプロジェクトを計画し、最後に自治体の担当者にその計画を提案する。	メディア
専門教育科目	幼児教育	幼児と健康	(概要) 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動の発達などの専門的事項についての知識・理解の獲得と指導法を身につけることを目標としている。幼児期の健康に関する現代的課題についての基本的な考え方を講義形式で学んだ後、実際に運動を体験し、幼児の多様な動きを理解し、これらの動きを引き出す環境構成について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、運動の発達について解説・実演する。 (55 西館有沙/4回, 5回) 乳幼児の怪我や病気の特徴やそのリスクについて、ヒヤリハット事例や事故事例、症例等を用いた演習を行う。また、子どもへの安全教育や安全および健康の管理について解説し、環境構成や実際の援助について演習を行う。	オムニバス方式 (富山クラスのみ)
		幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題)	領域「人間関係」の指導の前提となる乳幼児期に発達する社会性に関する専門的事項についての知識を身につけるために、乳幼児期に発達する社会性の能力および特性を取り上げる。特に幼児期に発達が著しい自己と他者の理解、他者への援助といった向社会的行動、自己主張や自己抑制を含むセルフコントロール、対人関係の葛藤場面における社会的問題解決能力の発達について概説する。上記の内容に併せて、仲間や保育者とのような関係を築くのか概説する。	メディア
		幼児と言葉	幼児期の言葉の発達に関する基礎的専門的事項について、次に、幼稚園における言語環境や言葉に関する教材について、さらに、小学校との接続を視野に入れた言葉の指導について講義する。そして、幼児期の言葉の発達を促し支える保育内容、保育における周囲の幼児とのかわり、保育者とのかわりに関する基礎的な知識や態度を伝え、具体的な保育場面を想定しながら検討する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	保育内容(健康) (健康に関する現代的課題を含む)	幼児の身体発育や精神発達、幼児期の疾病や起こりやすい事故を理解し、健康観察、保健管理・安全管理、保護者への指導について説明することができるようになることを目的とする。幼児の心身の健康から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に考えることを目指して、乳幼児期の身体発育と生理機能や運動機能、心身の健康状態とその把握、安全に対する配慮と応急処置、乳幼児の疾病の予防と対応などについて学ぶ。	メディア
			保育内容(人間関係)	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解することと、領域「人間関係」が、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものであることを理解する。くわえて、遊びの中の人とのかかわり、保育の中の協同的活動、園外での人との関わり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「人間関係」の関係について概説する。	
			人間関係の指導法	初めに領域「人間関係」のねらいと内容を習得する。次に、設定保育における人間関係の指導法(ソーシャルスキル教育・ルールのあるゲーム遊び等)の指導事例を通して、保育の指導法を学ぶ。さらに、人間関係の形成に配慮を要する幼児の特徴や、情報機器を活用した指導法を学ぶ。これらの知識を踏まえて設定保育の指導案を立案し、模擬保育を通して指導上の配慮点・留意点などを体験的に習得する。さらにいくつかの指導事例を通して、自由遊び場面における保育者の言葉かけや指導の方法を習得する。	
			保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)	幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、現代的課題も考慮しながら、子どもの環境と乳幼児期の発達との関連性を理解し、保育環境のあり方を考察することを授業目標とする。本授業では、領域「環境」のねらいと内容を踏まえた上で、事例検討や体験学習を通して、保育環境を構成する要素を知り、身近な環境を活かした保育の方法や室内外の環境構成について検討する。	メディア
			環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい、内容、指導上の留意点を理解し、保育を具体的に構想する方法を身に付けることを授業目標とする。本授業では、領域「環境」のねらい、内容、指導上の留意点等を踏まえた上で、石川などの地域の幼稚園教育実習の録画を、保育指導案と照合しながら視聴し、領域「環境」の視点から協議する。その後、保育指導案を作成し、模擬保育に基づいて討論する。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 幼児教育	保育内容(言葉) (言葉に関する現代的課題を含む)	幼稚園教育要領に示されている幼稚園教育の基本及び、領域「言葉」のねらい・内容・全体構造・指導上の留意点・評価の考え方、小学校教科等との繋がり、言葉に関する現代的課題として、障害や外国籍等により言葉に遅れや困難がある幼児の配慮や援助について解説する。また、ラーニングマップ作りを通して、領域「言葉」を中心とした幼児教育のねらいや内容、全体構造等について、言葉に関する現代的課題を含め、具体的に検討する。	メディア
	保育内容(表現) (表現に関する現代的課題を含む)	(概要) 幼児期の表現の発達を学び、「表現」の自由さや楽しさを体験的に理解し、互いの「表現」を鑑賞することの喜びを味わう。「表現」の支援、現代的課題、情報機器及び教材の活用を図る保育を考え、指導法の基礎知識・技能を身につけることを授業目標とする。 (オムニバス方式/全8回) (44 鷺山靖/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 領域「表現」の「ねらい、内容、内容の取扱い」を解説し、合奏指導の実際を説明した後、楽器の指導における情報機器の活用を検討する。また、造形表現の素材・用具、教材の特性と現代的課題を解説し、指導における情報機器及び教材の活用を検討する。 (82 山田哲/4回, 5回) 身体表現と幼児期の発達を解説し、幼児期の身体表現と表現に関する現代的課題とその指導における情報機器及び教材の活用を検討する。	メディア オムニバス方式
	幼児理解の理論と方法	幼児理解の意義、基本的な理論や態度を習得し、具体的な場面で適切な方法を選択するよう努める態度を獲得することを授業目標とする。本授業では、幼児理解の意義、理論及び方法、遊びを通しての総合的な指導、環境を通して行う教育を踏まえて適切な方法を選択することを学ぶ。そして、個と集団の関係や発達につまずきのある幼児の理解、保護者支援についての基礎知識、幼小接続期の実態と課題等について学ぶ。	
	幼児理解と相談支援	初めに幼稚園教育要領等に基づき、幼児理解の意義・必要性を学ぶ。次に、幼児理解に必要な心理学理論を学ぶ。具体的には、気質の理論・愛着の理論・学習理論(行動理論)、集団の中での幼児の関係性の発達のとらえ方を学ぶ。さらに幼児理解の方法(行動観察・チェックリスト等)について学び、こうした情報に基づいた保育カンファレンスの意義についても学ぶ。これらを踏まえて、幼児理解に基づいた保育における支援方針を立案できるようになる。さらにカウンセリングに関する基礎知識と保護者支援に関する基礎知識を習得する。	
発達心理学 I	最新の乳幼児期の発達に関する理論や知見を体系的に理解するとともに、学生自身が調べて発表することを通じて、プレゼンテーションの技術の向上も目指す。乳幼児期の発達として取り上げる内容としては、発育の基盤となる感覚と運動の発達、養育者との安定した関係を意味するアタッチメントの発達、知的な能力を含む認知の発達、人間関係などの社会性の発達、感情と自己の発達、幼児期の活動として最も重要なものとして考えられている遊びの発達をとりあげる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 幼児教育	発達心理学Ⅱ	最新の児童期以降の発達に関する理論や知見を体系的に理解するとともに、学生自身が調べて発表することを通じて、プレゼンテーションの技術の向上も目指す。児童期の発達として取り上げる内容としては、読み書き算数を含む言語と思考をめぐる発達、アイデンティティの確率に代表される青年期の心身の発達、キャリア形成と中年に聞きを含む成人期の心身の発達、死を迎えるにあたって老年期の発達、発達障が等を含む非定形の発達、発達の生物学的基礎についてとりあげる。	
	乳幼児心理学特講Ⅰ	乳幼児の心身の発達を理解する上で不可欠となる基礎知識ならびに技術を身につけるために、乳幼児の発達をとらえるための具体的な方法を概観する。特に発達には量的側面と質的側面の変化があることや、子どもの発達を理解する上での注意点について理解を深めるとともに、具体的な方法として、子どもを第三者的な視点から捉える観察法、および子どもを取り巻く社会的環境や家庭環境を理解するための調査法を取り上げ、その概要と実際について学ぶ。	
	乳幼児心理学特講Ⅱ	乳幼児の心身の発達を理解する上で不可欠となる基礎知識ならびに技術を身につけるために、乳幼児の発達をとらえるための具体的な方法を概観する。具体的な方法として、直接対面して子どもの言葉を引き出す面接法、および知能検査などの検査道具を用いて子どもの状況や得意不得意をするための診断法を取り上げ、その概要と実際について学ぶ。また、近年では、担任保育士一人で子どもを理解するのではなく、園としてチームで子どもを理解することが推奨されていることから、チームで発達を捉えるための方法についても学ぶ。	
	乳幼児心理学演習Ⅰ	乳幼児の心身の発達を理解したり、子育てや教育・保育を考えたりする上でエビデンスとなる教育・保育の統計データを読み解くことは不可欠であり、そのために必要な統計的基礎知識・技術を身につけ、自身で子どもを取り巻く生活環境と人間関係に関するデータが示す意味を読み取れるようになることを目指す。特に、エビデンスが一体何を指すのか、記述統計や推測統計の意味、教育・保育の量的データの読み解き方について、実際の教育・保育の統計データを参照しながら学んでいく。	
	乳幼児心理学演習Ⅱ	乳幼児の心身の発達を理解したり、子育てや教育・保育を考えたりする上でエビデンスとなる教育・保育の統計データを読み解くことは不可欠であり、そのために必要な統計的基礎知識・技術を身につけ、自身で子どもを取り巻く生活環境と人間関係に関するデータが示す意味を読み取れるようになることを目指す。特に、教育・保育における多変量の量的データの読み解き方や、記述されたデータ等の質的データの読み解き方について、実際の教育・保育の統計データを参照しながら学んでいく。	
特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	障害・疾病・発達困難等の特別な教育的ニーズを有する子どもの教育と発達支援について探求していくための基本的知識・理解や原理的視座の獲得を目標として、本講義では特別支援教育・特別ニーズ教育の歴史的経緯および国内外の動向を視野に入れながら、特別支援教育・特別ニーズ教育に関わる基本的理念・原理・歴史について講義を行う。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	病気・障害・不適応の発達支援論Ⅰ	病気・障害・不適応等の特別な教育的ニーズのある子ども・若者の発達の理解を深め、発達支援の必要性に関する理論・知識の習得と理解の深化を目的として、本講義では 病気・障害・不適応の当事者の手記や当事者への調査研究、国内外の動向を視野に入れながら、病気・障害・不適応の子ども・若者が有する発達上の困難と教育的ニーズを理解することに焦点をあてて講義を行う。	
		病気・障害・不適応の発達支援論Ⅱ	病気・障害・不適応等の特別な教育的ニーズのある子ども・若者の発達の理解を深め、発達支援の必要性に関する理論・知識の習得と理解の深化を目的として、本講義では 病気・障害・不適応の当事者の手記や当事者への調査研究、国内外の動向を視野に入れながら、個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係者と連携しながら組織的に対応していくために必要な理論・知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	
		知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害のある子どもの心理及び生理・病理面について、発達の観点から理解する。また、知的障害・発達障害のある子どもの心理学的特性及び生理・病理面の特徴に関する評価法を概説し、特性を踏まえた支援や配慮について検討する。	メディア
		知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害の原因の背景にある脳の発生、構造、機能について理解するとともに、その障害によって生じる疾患、やその原因・病態および評価法を概説する。	
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	特別支援教育の聴覚障害者領域の専門知識・技能を深め、聴覚障害の医療的な側面と心理的な側面について理解を深めることを目標として、本講義では音声信号の伝達経路をたどり、聞こえの仕組みと聴覚障害の発生機序およびリハビリテーションについての基本的な知識について講義を行う。また純音聴力検査の実習や簡単な手話についての学習を行う。	メディア
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	特別支援教育の聴覚障害者領域の専門知識・技能を深め、聴覚障害の医療的な側面と心理的な側面について理解を深めることを目標として、本講義では聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰの学習内容をふまえ、語音聴力検査の方法や実習、聴覚障害児の言語や認知の特性やその評価法、手話の獲得とその評価、ろう重複障害の心理的特性について講義を行う。	メディア
		知的障害教育課程・指導論Ⅱ	知的障害のある子どもの発達特性や知的障害に伴う困難性をふまえた教育内容・方法や学校教育として必要な教育実践について理解することを目標として、本講義では国内外の動向を視野に入れながら、知的障害を有する子どもの発達の理解を深め、知的障害を有する子どもが能動的に学べるような教育目標設定や教育課程編成の理論と方法について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	特別支援教育	<p>肢体不自由教育論Ⅰ (教育の現代的課題を含む)</p>	<p>この授業では「生活」と発達に焦点をあて、障害者と自己決定権の育成について考える。肢体不自由のある子どもの発達環境としての生活実態と課題、運動機能に障害がある子どもの認知発達を理解し、自己に対する適正な認識と自他理解に基づく社会的認知発達の視点から、自己決定能力を育成する「生活」のあり方と支援について講義を行う。</p>	メディア
			<p>肢体不自由教育論Ⅱ (教育の現代的課題を含む)</p>	<p>この授業では「学校教育」と発達に焦点をあてる。まずは、障害者と自己決定権について確認する。自己決定には自己認識と生活世界の知識が必要である。その上で、肢体不自由のある子どもの学習・発達環境としての教育の課題を整理する。これらを踏まえ、幼児期・小学部から高等部に至るライフステージに即した教育活動を教育課程と指導法の視点から吟味し、自己決定する力を育成する学校教育について講義を行う。</p>	メディア
			<p>聴覚障害教育課程論Ⅰ</p>	<p>特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけ、知識の獲得だけでなく、背後にある理念や制度と教育実践との関連を具体的にイメージし、自ら洞察を深めていく態度を養うことを目標とし、本講義では聴覚障害児教育における教育課程の歴史の変遷、理念、目的を概説し、聴覚障害児教育のあり方について理解を深める。。</p>	メディア
			<p>聴覚障害教育課程論Ⅱ</p>	<p>特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけ、知識の獲得だけでなく、背後にある理念や制度と教育実践との関連を具体的にイメージし、自ら洞察を深めていく態度を養うことを目標とし、本講義では聴覚障害児教育における教育課程及び指導法を概説し、聴覚障害児教育のあり方について講義を行う。</p>	メディア
			<p>聴覚障害指導法Ⅰ</p>	<p>特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけるため、この授業では教育学的、心理学的な側面から、ろう児の指導方法や心理的側面について扱う。ろう教育の歴史の変遷やろう児の言語獲得について講義を行い、聴覚障害児教育について自ら考えるために必要な基本的な知識を得る。</p>	メディア
			<p>聴覚障害指導法Ⅱ</p>	<p>特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけるため、この授業では教育学的、心理学的な側面から、ろう児の指導方法や心理的側面について扱う。ろう教育の指導方法の実際、補聴器の役割、人工内耳など聴覚障害児の教育と指導法について講義を行い、聴覚障害児教育について自ら考えるために必要な基本的な知識を得る。</p>	メディア
			<p>手話序論Ⅰ</p>	<p>近年、ろう教育の中にも手話が導入され、聴覚障害児を指導する上で教員の手話力が求められている。本講義は手話に関する基本的な知識を習得すると同時に、簡単な手話表現を学習し、以後の手話習得の意欲を高めるための講義である。手話の言語的特徴、手話と手話に関わる諸問題についての理解、自己紹介程度の簡単な手話表現の学習を主な目標とする。</p>	
			<p>手話序論Ⅱ</p>	<p>近年、ろう教育の中にも手話が導入され、聴覚障害児を指導する上で教員の手話力が求められている。本講義では手話序論Ⅰで学んだ内容をふまえ、手話の言語的特徴、手話と手話に関わる諸問題についての理解、自己紹介程度の簡単な手話表現の学習を手話スキットの練習を通して、手話文法の理解を深め、またろう者にかかわる文化や社会についてもあわせて学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	発声発語支援法Ⅰ	発声発語 (speech) の特徴や発声発語産出のメカニズム及び、聴覚障害のある児童生徒の発声発語の特徴や、評価、指導・支援方法の概要を理解するため、本授業では聴覚障害がある児童生徒の多くが困難を示す発声発語 (speech) について、生理学、言語学、心理学等の様々な側面から、その特徴やメカニズムを解説する。さらに、聴覚障害のある児童生徒の発声発語の特徴やその指導・支援の概要を解説する。	メディア
	発声発語支援法Ⅱ	聴覚障害のある児童生徒の評価、指導・支援方法及び、知的障害、言語障害等がある児童生徒の発声発語の特徴や評価、指導・支援方法を理解するため、本授業では聴覚障害のある児童生徒の発声発語 (speech) の評価、指導・支援方法について、具体例を示しながら解説する。さらに、知的障害や言語障害 (構音障害、吃音等) がある児童生徒の発声発語の特徴や評価、指導・支援方法について解説する。	メディア
	障害児教育基礎論Ⅰ	(概要) 障害のある子どもたちの教育について学ぶにあたって、各障害の基礎的な知識やそれぞれの障害児の応じた教育の現状について理解するために、本講義では、聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害について、生理、心理、教育の側面からその特性を講義する。 (オムニバス方式/全8回) 5人の特別支援教育関係教員が各障害の生理・心理・教育的側面から概説する。 (42 吉川一義/1回, 2回, 8回) 肢体不自由、病弱についての概説的な講義を行うとともに、講義の全体的なコーディネートを担当する。 (27 小林宏明/6回) 言語障害についての概説的な講義を行う。 (31 武居渡/3回, 4回) 視覚障害、聴覚障害についての概説的な講義を行う。 (85 吉村優子/7回) 発達障害に関する概説的な講義を行う。 (73 田部絢子/5回) 知的障害に関する概説的な講義を行う。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	障害児教育基礎論Ⅱ	<p>(概要) 障害のある子どもたちの教育について学ぶにあたって、子どもたちが学ぶ特別支援学校や特別支援学級の具体的な実践について現場教員から学ぶため、本講義では聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害について、特別支援学校や特別支援学級の具体的な子どもたちの姿と実践を取り上げ、講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) 各障害について、学校現場等で実際に指導にあっている教員や支援者から、各障害に応じた具体的な実践や指導について解説をする。 (42 吉川一義／4回、5回、8回) 病弱児及び肢体不自由児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。 (27 小林宏明／6回) 言語障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。 (31 武居渡／1回、2回) 視覚障害児、聴覚障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。 (85 吉村優子／第7回) 発達障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。 (73 田部絢子／3回) 知的障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p>	オムニバス方式
	ことばの障害とコミュニケーションⅠ	<p>本授業では言語やコミュニケーションに困難のある児童生徒の特徴や困難、その背景にある障害（言語障害、発達障害、知的障害、聴覚障害等）について解説する。さらに、これらの児童生徒との関わりや指導・支援における留意点について、事例を示しながら解説したり、グループディスカッションを通して具体的に検討したりする。</p>	
	ことばの障害とコミュニケーションⅡ	<p>本授業では、言語やコミュニケーションに困難のある児童生徒に対する特別支援教育の制度（通級指導、特別支援学級の弾力的運用、「チーム学校」による指導・支援等）について解説する。さらに、通級指導等で行われる個別の指導・支援の目的や内容、方法について、事例を示しながら解説したり、グループディスカッションを通して具体的に検討したりする。</p>	
	発達障害指導法Ⅰ	<p>発達障害のある子どもへの指導・支援を推進していくためには、個々の特性を理解し、特性から生じる生活上及び学習上の困難さ、支援ニーズをもとに支援を行っていく必要がある。本講義では発達障害のうち、特に自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害の定義や実態（困難さと背景要因）について概説し、発達障害のある子どもの支援の在り方、実践指導法について理解を深める。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	発達障害指導法Ⅱ	発達障害のある子どもへの指導・支援を推進していくためには、個々の特性を理解し、特性から生じる生活上及び学習上の困難さ、支援ニーズをもとに支援を行っていく必要がある。本講義では、発達障害のうち、主に学習障害、協調運動の障害等の定義や実態（困難さと背景要因）を理解し、発達障害のある子どもの支援の在り方、実践指導法について理解を深める。	
	言語障害指導法	本授業では、吃音、言語発達の遅れを中心とした言語・コミュニケーション障害のある児童生徒に対する指導・支援（在籍学級での支援及び、通級指導や自立活動などの個別の支援）評価、指導・支援の目的や内容、方法について解説する。さらに、個別の指導の実際について、教育相談等の個別の指導場面の参観・参加、言語・コミュニケーション障害のある児童生徒の指導・支援に関する文献購読を通して体験的に学修する。	
	発達障害総論	特別な支援を必要とする子どもへの教育実践には、障害の特性、心身の発達を理解する必要がある。本講義では、発達障害について、その背景となる生物学的要因、発達段階や特性に関するアセスメント法、支援法について、近年の動向を踏まえて概説する。さらに、事例を通して支援の方略を検討するとともに、各発達段階における教育的対応について学ぶ。	
	重複障害児教育Ⅰ	今日、障害者の自己決定権の尊重と生活の質が叫ばれている。自分の意思を表明することが極めて困難な障害の重い子の場合、生活の質の向上とは、どのような内容なのか。誰が何に基づいて決めるのか。この授業では、障害の重い子どもを対象に外的環境の認知を促し、対人関係の成立を援助する取り組みについての基礎を学ぶ。	メディア
	重複障害児教育Ⅱ	今日、障害者の自己決定権の尊重と生活の質が叫ばれている。自分の意思を表明することが極めて困難な重症児の場合、生活の質の向上とは、どのような内容なのか。誰が何に基づいて決めるのか。この授業では、重症児を理解すること（重複障害児教育Ⅰ）に基づき、重症児の外的環境の認知を促し、対人関係の成立を援助する取り組みについて考察する。	
	障害児教育基礎演習Ⅰ	（概要）聴覚特別支援学校、知的障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校での教育実践活動に参加し、上記の障害のある子どもへの教育の各シーンを通して、 （１）子どもの障害と心理について学ぶ、（２）教師から関わり方を学ぶ、（３）教育の問題と課題を見つけ、今後の専門課程での学修への問題意識を得る。 （42 吉川一義） 肢体不自由特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。 （27 小林宏明） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。 （31 武居渡） 聴覚障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。 （85 吉村優子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。 （73 田部絢子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目	障害児教育基礎演習Ⅱ	<p>(概要) 聴覚障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校、知的障害特別支援学校での教育実践活動に参加し、上記の障害のある子どもへの教育の各シーンを通して、(1) 子どもの障害と心理について学ぶ、(2) 教師から関わり方を学ぶ、(3) 教育の問題と課題を見つけ、今後の専門課程での学修への問題意識を得る。</p> <p>(42 吉川一義) 肢体不自由特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>(27 小林宏明) 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>(31 武居渡) 聴覚障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>(85 吉村優子) 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>(73 田部絢子) 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p>	共同
	特別支援教育学演習	<p>(概要) 本授業では、一人一人の障害の種類・程度等の困難性をふまえた教育内容・方法を理解したうえで、障害を有する子どもが能動的に学べるような教育方法を模擬的に実践し、協働省察することで特別支援教育に関わるうえでの専門的な力量を身に付ける。</p> <p>(42 吉川一義) 肢体不自由、重複障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(27 小林宏明) 言語障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(31 武居渡) 聴覚障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(85 吉村優子) 発達障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(73 田部絢子) 知的障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(18 宮一志) 病弱児の特性及び他機関との連携に関する助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 発達障害の特性及び生活支援に関する助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害の特性および指導法に関する助言指導。</p>	共同
	日本語学演習Ⅰ	<p>優れた文章を書くためには名文を読むことも大切であるが、児童・生徒をはじめ一般人にとっては名文を書くことよりも、悪文を書かないことの方が大切である。そして、自身が悪文を書かないようにするためには、身の回りの悪文に気づける能力の養成が重要である。この演習では、参考書『悪文 伝わる文章の作法』によって悪文の原因を概観し、その後は受講生が身の回りで見つけた悪文と思われるものを持ち寄って、悪文たる理由を発表し、受講生全員でそれが適切な指摘かを検討し、どのように直せば良いかについてディスカッションする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	日本語学演習Ⅱ	<p>類義語の意味分析の方法を参考文献等から学び、受講生各自が選択した類義語の意味の違いを明らかにするために、従来の国語辞典の意味記述を批判的に検討するとともに、多くの用例を採集して分析し、レジュメにまとめて発表する。そして発表内容についての他の受講生とのディスカッションを通して、ことばの意味を記述することの面白さ、難しさを知るとともに、児童・生徒にもそのような体験をさせるための基礎知識を習得する。</p>	
	日本語史Ⅰ	<p>古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。本授業では、日本語史に関する客観的な見方、音韻変化の年代および前後の変化との関係に関する知識、文字に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益でもあるので、講義ではその点にも留意する。</p>	
	日本語史Ⅱ	<p>古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。この授業では、文法・語法に関する変化、および各事項の相互関係に関する知識、書き言葉と話し言葉に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益であることに留意する。</p>	
	日本語学講読Ⅲ	<p>国語科の教員をめざす者には、日本語という言語そのものに対する深い興味と理解が求められる。そこで、本授業では世界の中の一言語としての日本語の言語的特徴について、主として現代日本語の音声・音韻に関する諸問題を概観しながら、日本語の相対的な位置づけを確認した上で、日本語学の知見の応用可能性についても検討する。それによって、国語教育に必要な日本語の基礎知識を身につけることを目的とする。</p>	
	日本語学講読Ⅳ	<p>国語科の教員をめざす者には、日本語という言語そのものに対する深い興味と理解が求められる。そこで、本授業では世界の中の一言語としての日本語の言語的特徴について、主として現代の日本語の文字・表記、そして、語彙・意味に関する諸問題を概観しながら、適宜国語教育に関わるトピックを取り上げ、日本語学の知見の応用可能性についても検討する。それによって、国語教育に必要な日本語の基礎知識を身につけることを目的とする。</p>	
	日本文学演習Ⅰ	<p>中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。おもに詩歌に関連する作品を対象とし、自分の言葉で作品の読み方をまとめていく。その過程を発表資料やレポートに書くことによって、考えを深めることを目指す。演習形式で授業を行う。それぞれ担当を定め、教員があらかじめ指定したテキストについての発表と討議をすすめていく。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	日本文学演習Ⅱ	「日本文学演習Ⅰ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につけることを目指す。教員が指定したテキスト（詩歌に関連するものを対象とする。）についての発表と討議を行う。担当者の発表を叩き台とし、教室全体で議論を交わし分析を深める。文献の入手・整理法や、立論・分析の方法などについて、模範発表や実際の発表過程で指導する。	
	日本文学演習Ⅲ	明治期から戦前昭和までの文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。作品中の言葉が担う意味を、読み手が各自恣意的に理解するのではなく、作品が書かれた時代において、また作品の文脈においていかに理解すべきかを、客観的・論理的に理解する。各界で担当者が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
	日本文学演習Ⅳ	アジア・太平洋戦争終結後の文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。戦後文学はそれ以前の文学と比較して内容の多様性が増し、方法やメタファーも多岐に亘っている。作品の言葉が持つ意味を詳細に検討し、その世界を理解する分析力を修得する。各界で担当者が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
	日本近現代文学Ⅰ	日本近現代文学が捉えた人間の生を、精緻な実証的分析と理論的枠組みの双方に目配りしながら分析する能力を修得する。日本近現代文学のテキストを、その根差す時代、社会、文化、場所をめぐる様々な問題に目を向けながら分析し、テキストの持つ世界構造を明らかにし、それが照らし出す問題について考察する。これによって小説や詩歌を精確に読解する能力を修得する。	メディア
	日本近現代文学Ⅱ	日本近現代文学の諸作品を構造や語り、細部の描写に注意しながら解釈し、文学作品が捉えた諸問題を理解し考察する能力を修得する。戦争、大災害、虐待その他個人的体験など、危機的体験の後を生きる人間の生を描いた文学テキストを取り上げ、文学を通じてこそ語られる諸問題について分析する。これによって小説や詩歌を精確に読解する能力を修得する。	
	日本古典文学Ⅰ	和歌を読み解く能力を養うことは、古典文学に対する理解を深める上でも重要なことである。なかでも勅撰集は当代の政治的・文化的潮流と強く関わっている。そこで本授業では、勅撰集成の成立事情や歌風等を起点として中古・中世和歌および各時代の著名な古典文学について学び、中学校・高等学校国語科の国文学分野で役立つ知識を身につける。	メディア
	日本古典文学Ⅱ	本授業では、「日本古典文学Ⅰ」で学んだ古典文学に関する基礎知識を活用しつつ、和歌作品の調査と分析を行う。発表担当者は事前に発表資料を示し、他の受講者はその資料を十分予習した上で発表と討議に取り組む演習形式の授業を行っていく。これらの活動を通じて、問題を自ら発見し、掘り下げ、解決していく力の獲得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	日本文学史Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	中学校、高等学校の国語科を担当するに必須の、日本文学に関する基本的な知識と読解力を得られるよう、日本文学史と日本文学をめぐる諸問題（古今、話題となっている古典不要論などの現代的な問題を含む）を概観する。本授業では、中学校、高校の古典教材に取りあげられる作品を中心に学び、伝統的言語文化と文学の特質についての理解を深めていく。	メディア
			日本文学史Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	日本近現代文学分野の基礎知識・分析能力を修得し、日本文学をめぐる諸問題について認識を深め、教育上の現代的課題に対応する力を身につける。中学校、高等学校の国語科を担当するに必須の、日本近現代文学に関する基本的な知識と読解力を修得し、日本文学史と日本文学をめぐる諸問題を概観する。その上で、文学史の視点から教育の現代的課題を分析する。	メディア
			日本文学講読Ⅰ	明治から戦前昭和にいたる小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			日本文学講読Ⅱ	アジア・太平洋戦争終結後の小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			日本文学講読Ⅲ	中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。本授業では、時代を問わず韻文やそれに関連する作品について適切に把握し、基礎的な知識を得る。また、それらを得ることによって平易な言葉で生徒に説明できること、作品の背景や韻文特有の言い回しなどについて、必要に応じて生徒に解説できることも目指す。	
			日本文学講読Ⅳ	「日本文学講読Ⅲ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。韻文はひとつひとつが短いがゆえに、複数を「集」としてまとめたり、他の作品に組み込まれたりすると、解釈が変化することがある。本授業では、そうしたテキストの構造や享受等に注意をはらいつつ読み解き、韻文やそれに関連する作品への理解を深めていく。	
			漢文学概論Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	漢文の基礎知識である経書全体を概説しつつ、特に『論語』『孟子』『荀子』を取り上げて講読する。訓読・読解を通して各時代の文化・歴史の様相とそこに表れる普遍性を考え、かつ、そこから教育上の現代的課題を見つめ直す。それによって、理論的かつ実践的に漢文を教授する力を養う。また、毎回内容に基づく小テストを実施する。基本的に講義形式だが、事前によりしっかりと準備をする必要がある。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	漢文学概論Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	<p>経書を学んだことを踏まえ、その対比として老荘思想について講読する。また、『春秋左氏伝』や『史記』などの史書を取り上げる。それぞれの訓読・読解を通して各時代の文化・歴史の様相とそこに表れる普遍性を考え、かつ、そこから教育上の現代的課題を見つめ直す。それによって、理論的かつ実践的に漢文を教授する力を養う。毎回、講義した内容に基づく小テストを実施する。基本的に講義形式だが、事前にしっかりと準備をする必要がある。</p>	メディア
	漢文学演習Ⅰ	<p>中国最古の文学である『詩経』から六朝、そして、唐代の作品のうち、しばしば教科書に教材として取り上げられている作品を演習形式で精読する。それによって、漢詩の修辞法を学び、かつ、影響を受けた後世の詩文にも触れつつ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の基礎的な知識・技能を習得する。また、発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識の基礎を形成させる。</p>	
	漢文学演習Ⅱ	<p>唐代から宋代にかけて、日本に流伝した詩人の詩文集は多く、大きな影響を及ぼした。そこで、演習形式でそれらの詩を精読し、漢詩の修辞法を学ぶ。また、漢詩に影響を受けて創作を行った日本の詩についても取り上げ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の総合的な知識・技能を習得する。発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識を深める。</p>	
	漢文学講読Ⅰ	<p>漢王朝のために匈奴に嫁いで両国の架け橋となった王昭君について扱った、漢から宋代までの歴代の作品を取り上げて講義する。基本的な中国古典の修辞法と辞書の使い方などを指導するほか、各作品の鑑賞を通して、それぞれの時代の政治の理想像や、そこに表れる志操や悲哀、普遍性を理解する。基本的に講義形式だが、事前にしっかりと準備をする必要がある。</p>	
	漢文学講読Ⅱ	<p>三国時代の蜀の宰相である諸葛亮について扱った、三国時代から宋代までの歴代の作品を取り上げて講義する。基本的な中国古典の修辞法と辞書の使い方などを指導するほか、各作品の鑑賞を通して、それぞれの時代の政治の理想像や、そこに表れる志操や悲哀、普遍性を理解する。基本的に講義形式だが、事前にしっかりと準備をする必要がある。</p>	
	書写書道基礎Ⅰ	<p>中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。教育現場におけるカリキュラムの連続性を考えて、小学校国語科書写についての知識とその指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に小中の各教育現場で教壇に立っている書写指導担当教員を複数迎えて実施する。</p>	
	書写書道基礎Ⅱ	<p>中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。教育現場におけるカリキュラムの連続性を考え、高等学校芸術科書道についての知識、指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に高等学校の教育現場で教壇に立っている芸術科書道を担当する教員を迎えて実施する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	国語科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	中等教育における学習指導要領〔国語〕の目標及び内容を整理するとともに、小学校から高等学校に至る国語科の内容的繋がりや高等学校の科目編成等について把握する。また、中学校及び高等学校における石川県の国語科指導の実践事例を聞き、内容の解説を通して、中等教育における国語科の実態を理解する。それにより、中学校及び高等学校の教員として国語科学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につける。	メディア
			国語科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	中等教育における国語科学習指導の動画を視聴し、その分析を通して、授業の展開やそれを推進する教師の言動、用いられた教材教具などの意味や価値を理解し、自らが実践する際に活かせる知識を得る。また、石川県の教育実践を踏まえて国語科の単元を構想し、学習指導案として表現することを通して、国語科教員としての授業実践の基礎力をつける。	メディア
			国語科教育法Ⅴ	中等教育における音声言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における音声言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教師としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅵ	中等教育における文字言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における文字言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教師としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅶ	パソコンやタブレット端末といった新しい教具やデジタル教材などを取り入れた国語科学習指導の現状や可能性を知り、指導事項を効率よく効果的に実現するためにどのような場でどのように活用できるかを協議する。また、アナログ教具の進化についても目を向け、特に思考ツールの活用方法について検討する。そして、情報機器や新しいアナログ教具を導入した指導構想を提案し、有効性を協議することを通して国語科教師としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅷ	中等教育、特に高等学校の国語科学習指導において誤解されやすく、苦手意識をもたれやすい「知識及び技能」の扱い方、古文の学習指導、学習評価について焦点化し、それらを行う際の留意点を理解する。そして、実際に教壇に立ったときに適切に対応できるように指導方法を考えたり、模擬評価を行ったりして国語教師としての実践力をつける。	
			国語科教育演習Ⅰ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、小学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕、特に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の学習指導・学習評価に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについてグループや全体で議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方を検討する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	国語科教育演習Ⅱ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、小学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕、特に「読むこと」と「知識及び技能」の学習指導・学習評価に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについてグループや全体で議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方を検討する。	
	国語科教育演習Ⅲ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、中学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の3領域、及び〔知識及び技能〕における特に「(3)我が国の言語文化に関する事項」の「読書」に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについて検討するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方等を検討する。	
	国語科教育演習Ⅳ	『日本語学』（明治書院）や『月刊国語教育研究』（日本国語教育学会）等に掲載された国語科教育学の実践論文の中から、高等学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の学習指導・学習評価に関するものを各自で1編選択し、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論者の主張の是非や可能性などについて議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導や学習評価の在り方等を検討する。	
	国語科実践研究Ⅰ	国語科各領域（日本文学・漢文学）専門の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かす基本的能力を修得する。教育実習に向け、小学校国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。 （オムニバス方式／全8回） （24 折川司／1回、4回、5回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、現代文及び国語と伝統文化に関する授業実践・授業研究について検討する。 （66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。 （76 原田愛／6回） 漢字文化に関する教材研究と授業実践について検討する。 （71 大野順子／7回） 国語と伝統文化に関する教材研究について検討する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	国語科実践研究Ⅱ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。教育実習に向け、中学校・高等学校の国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。 （オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、6回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／7回） 漢文分野の教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式
	国語科実践研究Ⅲ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）専門の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かす基本的能力を修得する。教育実習を受け、小学校国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。 （オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、5回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、現代文及び国語と伝統文化に関する授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化に関する教材研究と授業実践について検討する。</p> <p>（71 大野順子／7回） 国語と伝統文化に関する教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	国語教育	国語科実践研究Ⅳ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。教育実習を受け、中学校・高等学校の国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、6回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／7回） 漢文分野の教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式
		日本史学概論Ⅰ	<p>中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標としている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方と方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅱに接続するものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。</p>	
	社会科教育	日本史学概論Ⅱ	<p>中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標としている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方と方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅰを前提としたものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。</p>	
		日本史学各論（古代・中世）Ⅰ	<p>日本古代・中世史について、特に近年の研究で大きな進展がある諸問題をピックアップして学ぶ。学校教育で取り上げられることの多い史料を紹介しながら、それらのテーマを授業として実践するための工夫や方法について習得する。</p>	メディア
		日本史学各論（古代・中世）Ⅱ	<p>近年の日本史研究は、史料学の時代を迎えている。古文書・古記録や、石造物、木簡・木札・埋蔵文化財・絵画・地名・景観といった古代・中世史を考えるための多様な史料と、それを読み解くための基本的な技術とさまざまな方法について概説する。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	日本史学演習Ⅰ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある資料活用に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、日本史の文献（著書・論文）の収集と読解、研究史の整理と批判的検討を行い、日本史学的思考と叙述の方法を学ぶ。	
			日本史学演習Ⅱ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある史料読解に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、古文書・古記録を中心にくずし字（変体仮名）の判読を行い、日本史史料を読解するための基礎的技術を習得する。	
			日本史学演習Ⅲ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目標としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。史料や先行研究の読解を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆するための準備を行う。日本史学演習Ⅳに接続するものである。	
			日本史学演習Ⅳ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目的としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。日本史学演習Ⅲを前提としている。史料の輪読を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆する。	
			歴史学野外実習	地域史研究と授業実践のために、富山県、石川県、福井県を中心とする任意の地域を選定してフィールドワークを実施する。古文書・古記録や絵画・彫刻といった文化財の調査・収集、現地調査と景観復原の方法を学ぶ。合わせて、フィールドワークに関する能力を養い、授業実践に応用できるような能力を涵養する。	
			東洋史学概論Ⅰ	主に政治と社会の歴史を採りあげ、中国史・東アジア史の展開と特質を理解させる。「東洋史」の範囲について講義し、中核は中国であるが、朝鮮半島、東南アジア、南アジアとの関係にも留意すべき点を強調する。その後、中国の政治の展開、歴史の特質、中国社会の特徴などを講義する。中国史は漢民族と周辺民族との攻防が歴史の大きな部分を占め、王朝の交代が続くが、その中にも一貫した文化的技術的特質を維持している。この点を豊富な映像・文書資料を紹介しつつ詳説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	東洋史学概論Ⅱ	<p>主に経済と国際関係の歴史を採りあげ、中国史・東アジア史の展開と特質を理解させる。中国は、世界において最も早く文明を生み出した地域の一つであり、それは乾燥地帯であると同時に大河が流れているという独特の地形において、鉄器を持たない技術が濃厚を開始するうえで適した地域であった。鉄器が開発されるとより温暖な南部の開発が始まり、その後も、紙や火薬、印刷といった重要な技術開発が中国でなされた経緯や必然性について講義する。</p>	
	人文地理学概論Ⅰ	<p>本講義では、まず地理学が社会の中でどのように捉えられているのかを示し、その世俗的地理(学)観が育まれてきた背景を考える。続いて現代地理学の学問的体系を示し、初等・中等学校教育における地理学の位置付けを考える。地理学は人文社会科学と自然科学に跨る文理融合的分野であるが、それが人間社会と自然環境の相互作用をどのように捉えてきたのかを学ぶ。そして、人間社会の様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブを適用する人文地理学研究の見方・考え方・成果について、実際の研究事例を参照しながら示したい。受講者が、本講義を通じ「地理学とは何か?」という問題への一定の解答を得ることができるようにしたい。</p>	
	人文地理学概論Ⅱ	<p>人文地理学概論Ⅰの履修を前提に、人間社会を構成する様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブをどのように適用し、地理学的な研究を構築してゆくのかについて、具体的な研究を取り上げながら説明する。それによって、「地理学に何ができるのか?」という問題への何らかの解答を得たいと思う。最後に人文地理学と自然地理学を比較対照しながら、地理学の特性について再び考えたい。また、授業の中では講義のみならず、学外のフィールドワークも実施する。地域の実地観察によって、地理学的「知」を得る方法の習得を目指す。</p>	
	地誌学Ⅰ	<p>本講義ではまず、中学校・高等学校の社会科/地理歴史科地理で学ぶ「地誌」と学問としての「地誌学」の違いについて学ぶ。国内地域の研究事例を中心に取り上げながら「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性(＝地域性)を描く方法を学ぶことで、初等・中等教育で学習してきた社会科「地誌」が、どのような学問的理解のもとに成立しているのかを理解する。</p>	
	地誌学Ⅱ	<p>本講義では、社会科(地理歴史科)地理の「地誌」と「地誌学」の違いについて、世界地誌を事例に考え学ぶ。「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性(＝地域性)を描く方法を世界各地の地誌を通じて学ぶことで、暗記科目である物産地理とは異なる科学的な地誌について理解を深める。本講義を通じて、受講生が、地誌的説明の意味と方法を理解し、「ある地域の地誌を描く場合、どのような記述が的確なのか」についての的確に考え判断する能力を向上させることが、本科目の目標である。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	地理学各論Ⅰ	人文地理学・自然地理学・地誌学など地理学の諸分野の研究で、位置を含む空間情報は「地図」によって表現される。地図の無い地理学研究は考えられない。本講義では、地図の歴史・機能・役割を理解し、地図の利用・様々な地図応用の方法を習得する。さらに、地理学の学術研究のみならず行政や企業など社会全般に近年急速に普及し、今や初等・中等教育の学校現場でも地理教育の必須アイテムとなったGIS（地理情報システム）について、その原理や利用方法について学ぶ。	
			地理学各論Ⅱ	景観論、環境論、災害論、歴史地理学の各研究領域を取り上げ、それらの内容と意義を学ぶ。 とくに(1)「地域」や「空間」と並ぶ地理学の基本的概念である「景観」や「環境」についてより明確な理解を得る。(2) 今日の世界で頻発する多様な自然災害の把握や対応策に地理学がどのように関わるのかを理解する。(3) 歴史地理学という歴史的観点をもつ地理学の手法と意義を理解する。	
			自然地理学Ⅰ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、気候分野を中心に解説を行う。その上で、自然環境と人間生活との関わりについても着目しながら、自然地理学的な見方・考え方を身に着けることを目指す。また、高等学校「地理総合」必修化にあわせて、高校地理総合・地理探究における気候学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を用いながらグループワークで整理し、高校教員として自然地理学の内容をどのように教えるべきかについて考える。	
			自然地理学Ⅱ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、地形分野を中心に解説を行う。その上で、自然地理学Ⅰの学修内容も含めて、防災・減災や人間生活との関わりについても着目しながら理解を深めていく。また、高等学校「地理総合」必修化に伴い、高校地理総合・地理探究における地形・防災学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を使いながらグループワークで整理し、教員として自然地理学の内容や視点・考え方をどのように教えるかを考える。	
			地理学演習Ⅰ	初学者が地理学研究に取り組むうえで、研究テーマの設定を行うために必要な基礎的技術を学修することが、本科目の目的である。とくに、学校科目「地理」の学習内容の基礎を成す学術的な地理学的研究に取り組む際に真先に必要となる地理学固有の初歩的ないくつかの視点と技法が、本演習において習得される。具体的には、文献探索手法と文献読解による地理学的知見の取得の方法などの基礎的な見方・技法を受講者が身につけることが、期待される。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	地理学演習Ⅱ	<p>地理学研究では地域的・空間的事実を明らかにするために、実地調査や文献資料調査などの様々なやり方で定性的・定量的なデータ等を収集する。「データ」は様々な形で存在するが、それを扱うためにはデータ収集の方法、データ分析の方法、データ分析の結果を空間的に表現する方法、そこから地理学的事実を読み解く方法を理解しておく必要がある。本演習では、研究の初段階においてデータを収集・活用するために必要な基礎的見方・技法を学ぶことをその目的とする。こうした地理学の見方・技法に習熟しておくことは、中学校・高等学校で「地理」を教授する教師が授業前に行う教材研究でも有用である。本演習で習得すべき基礎的見方・技法は、具体的には、地域統計や統計分析結果を表現するために用いるベースマップ、文書資料等の収集方法とデータを用いた主題図作成法等である。本演習を修了した際には、これらがある程度習得されていることが期待される。</p>	
	地理学演習Ⅲ	<p>地理学演習Ⅰ・Ⅱから引き続き、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。本演習では、各回の授業において、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る参考文献を批判的に検討することを学ぶ。さらにフィールド調査やインドア調査等の地理学的な調査方法、地域データを分析して作成する主題図の作成方法等について、一層深く学ぶ。さらに受講者は既往研究を参照して野外調査の実践例を学ぶ。具体的には土地利用調査や聞き取り調査等の定性的調査の実践例を参考に、文献を通じてその見方や手法について理解を深めたい。さらにその内容を各人が学んだうえで、個々の見解を発表し、ディスカッションを経て、受講者間で共有する。こうした中で、受講者は相互に地理学研究の遂行能力を涵養する。</p>	
	地理学演習Ⅳ	<p>地理学演習Ⅰ～Ⅲの学修内容を引き継ぎ、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。各回の授業では、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る研究論文等の参考文献を批判的に検討すること、地理学的野外調査（フィールドワーク）の方法、既存の地域データや自ら実地収集したデータを分析して作成する主題図作成法等について、一層深く学ぶ。地理学演習Ⅲで学んだ野外調査（フィールドワーク）に関する知識・手法を活かして、本科目では、受講生は、一定の研究課題を定め、野外調査を実践する。野外調査によって得られたデータや事実を基に、受講者はデータ分析・主題図作成等の作業に取り組む。さらに、各受講者が自らの分析結果やそれに関する考察内容を相互に発表・報告し、受講者間でディスカッションを通じて共有する。それにより地理学研究における課題の発見や設定の方法、研究遂行のプロセスや技法に関する理解が涵養される。地理学演習Ⅰ～Ⅳを通じて、地理学研究の出来る・解る学校地理教師の素養を育成したい。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	地理学野外実習	地理学で不可欠な技能となる野外での観測、観察、調査を実施する。「地域」を地理学的に探求する能力のうち、とくにフィールドワークに関する能力を養う。さらに受講者が教師となった将来、フィールドワークを授業実践に応用できるような能力を涵養する。任意の地域を選定してフィールドワークを実施する。対象地域は富山県、石川県、福井県を中心とする。具体的には景観観察や聞き取り調査、土地利用調査を実施し、初学者に対するフィールドワーク入門実習である。将来、教師として科目横断的に野外観察の授業を立案できるように、現地調査は歴史学野外実習と連続・協働して1泊2日で実施する。	
			法律学概論Ⅰ	法律学入門。法とは何か、法の解釈や、刑法を初めとする主要な法律の概要等、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。法とは何か、法と道徳の違い、法の分類（公法・私法）、国家と憲法、行政と法、裁判制度、法と犯罪という側面から授業を進める。	
			法律学概論Ⅱ	法律学入門。民事法の原則、労働法、国際法の原則など、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。契約と法（民法・契約）、財産と法（民法・物権、債権）、損害賠償（民法・不法行為）、家族と法（民法・親族）、経済と法（会社法、知財法、競争法）、仕事と法（労働法）、国際社会と法（国際法）という側面から授業を進める。	
			法律学各論Ⅰ	現代社会が直面する環境問題に関して、法と行政がどのように対応しているか、市民の権利はどのように守られるかを知り、その課題を探り、環境法の基本的概念と骨子を講義する。「環境問題」とは何か、公害・環境保全史概観、環境法の基本的考え方（環境権、持続可能性、予防原則、汚染者負担原則など）、環境汚染を規制する法（大気、水質など）、自然環境の保全のための法（自然公園、生物多様性、野生動物など）、循環型社会形成のための法（廃棄物管理）、環境保護の担い手（行政、市民、NPOの役割（環境アセスメントを例に））、環境問題と訴訟という内容を取り上げる。	
			法律学各論Ⅱ	国の行政組織、国会制度などを行政法の観点から解説していく。「行政」とはどういう行為なのか、それをつかさどる「行政法」とは法体系の中でどのような位置づけなのかを講義する。次に、行政法には、行政組織法、行政作用法、行政救済法などの区別があることを詳説する。さらに、それぞれの方について、具体的に戦後日本でどのような裁判が争われたか、その判例資料に基づき、ディスカッションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	法律学演習Ⅲ	過去の行政法に関する訴訟の具体的事例を取り上げ、判例を検討し、研究者の批判を踏まえ、どのような問題点が残っているかを究明する。行政が国民の権利、学問の自由、基本的人権などの憲法諸原理と衝突した具体例を取り上げ、その判例を精査し、判例に対して研究者がどのような批判を寄せているかも併せて検討する。憲法と行政法がどのような関係にあるかを討論する。	
	法律学演習Ⅳ	地方自治の本旨、条例制定権、首長制等について検討する。憲法が地方自治についてどのように規定しているか。地方財政の悪化が地方自治の内実をどのように空洞化させているのか。その中でも主張の工夫によって注目すべき成果を上げている事例があるのか。こうした点を具体的な事例に即して討論することで、地方自治についてより発展的な理解を促す。	
	経済学概論	経済学とは、家計や企業が合理的に行動するという仮定のもとに、経済活動によってどのような社会的帰結が実現するかを理論的に分析する学問である、ということ的前提として、ミクロ経済学の分野の内容を中心に入門的な経済学を学ぶ。具体的には経済学の基本的な考え方、市場と政府の役割、需要と供給の理論、市場の効率性の理論的説明について学び、また授業内容に関する例題を受講者自身が計算して解くことで、授業内容の理解を深める。こうした学修によって、基本的な経済学の知識を修得し、身の回りの経済現象を経済学の知識を用いて理解できるようになる。	
	哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	古代ギリシアの哲学思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。哲学という学問について、科学や芸術とは異なる本質について学習しながら、哲学の特性について基本的な理解を身につける。またソクラテス以前から始まる古代ギリシアの壮大な思想史を概観することによって哲学の起源・元型を学び、かつ現代的教育状況について、古代ギリシア哲学の視点から批判的に把握する。	メディア
	哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	古代ギリシアの哲学思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。特にプラトンとアリストテレスの思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。また、Philosophy for Childrenの実践を知るとともに、哲学的な討論を経験し、現代的教育状況における哲学的問いの可能性を探究する。現代的教育問題をより根本的に分析・思考するための基礎を培う。	メディア
	倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	倫理学という学問についての基本的理解を習得する。とりわけカント倫理学や功利主義などの学説、倫理学の根本諸概念について学ぶ。さらには「人格」「他者」「責任」という概念が今日問いなおされるべきものになっていることに触れ、現代応用倫理学の諸問題を把握する。具体的に、個々人の倫理判断が鋭く問われるようなケーススタディを豊富に取り上げる。	メディア
	倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	生命倫理の諸問題について理解し、その理解をもとに自ら考察し討論する力を養う。現代応用倫理学における生命倫理の諸問題（インフォームド・コンセント、安楽死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、パーソン論、優生思想）について理解し、自ら考察することができるようにする。またこれらの諸問題に関連するかたちで、研究倫理や企業倫理、工学倫理の問題についても学ぶ。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	宗教学Ⅰ	宗教現象および三大宗教についての基礎理解を固める。グローバル化した現代社会において宗教を理解することをきわめて重要である。この講義では、呪術と宗教との異同、宗教現象の本質性格について学んだ上で、キリスト教（原始キリスト教と宗教改革）、仏教（原始仏教と大乘仏教）、イスラム教についての基礎理解を固める。なぜ宗教対立は激化する一途なのか。それは宗教に内在することなのか、それとも本質的理解が不足しているからなのか。そうしたセンシティブな論点も積極的に取り上げる。	メディア
	宗教学Ⅱ	宗教現象のなかからテーマを選び出し、それについて自ら調べ、発表を行う。グローバル化した現代社会において宗教を理解することをきわめて重要である。宗教学Ⅰでの学習を踏まえて、各自が伝統的な三大宗教に限らず広く宗教現象のなかから関心のあるテーマを選び出し、それについて自ら調べ、発表を行う。そして他の学生の発表と討論を通して、宗教についてのさらなる理解を深める。	メディア
	哲学史Ⅰ	デカルトから19世紀までの哲学の流れを概観する。17世紀から19世紀までの西洋近代哲学の流れを概観する。具体的には、デカルト、大陸合理論、イギリス経験論、カント、ドイツ観念論、ヘーゲル、19世紀の思想潮流を取り扱う。それぞれの哲学が登場する背景及びその必然性、相互の関係などを丁寧に学ぶ。こうした学習を通して、公民の「倫理」の基礎を固めるとともに、私たちの世界観を批判的に吟味することを学ぶ。	
	哲学史Ⅱ	20世紀以降の現代哲学の流れと状況を概観する。具体的には、ニーチェ、生の哲学、分析哲学、マルクス主義、実存主義、フッサールと現象学、ハイデガー、フランス現代思想を取り扱う。それぞれの哲学の搭乗にはどのような必然性があったのか。それぞれの哲学はどのように批判しあい、相互に受容しあって言ったのか。これらの学習を通して、公民の「倫理」の基礎を固めるとともに、私たちの世界観を批判的に吟味することを学ぶ。	
	哲学演習Ⅰ	『存在と時間』の概要をふまえて、2ページから27ページまで精読する。20世紀ドイツのマルティン・ハイデガーの思索を通して、世界や人間の本質について考察することを狙いとする。ハイデガーの主著『存在と時間』とはどのような著作なのか。どのような意味で20世紀哲学の頂点と言えるのか。なぜこれほど多岐にわたって影響を与え続けているのか。こうした学習によって、難解な哲学書を読解する方法を身につけ、自らの思考の幅を広げる。	
	哲学演習Ⅱ	『存在と時間』の概要をふまえて、27ページから59ページまで精読する。20世紀ドイツのマルティン・ハイデガーの思索を通して、世界や人間の本質について考察することを狙いとする。哲学演習Ⅰでの学習内容を踏まえて、ハイデガーの主著『存在と時間』とはどのような著作なのか。どのような意味で20世紀哲学の頂点と言えるのか。なぜこれほど多岐にわたって影響を与え続けているのか。こうした問いをさらに深め、難解な哲学書を読解する方法を身につけ、自らの思考の幅を広げる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	青年心理学	不登校の事例を紹介しながら、児童生徒がなぜ「学校に居場所がない」と感じるのか、その心理的メカニズムと対処実践例を豊富に紹介しながら、青年のアイデンティティ形成に関する一般的な展望を開示する。「青年」が歴史的概念であり、近代であること、青年期がどのような不安定さを抱えているか、その現象例として不登校を取り上げる。不登校は、児童・生徒が「学校に居場所がない」と感じることに起因している馬、どのようなケースでそのような事例が発生するのか、小学校の場合、中学校の場合、高等学校の場合のケーススタディを検討する。事例とアイデンティティをめぐる学説史と突き合わせることで、その意味を明らかにする。	
	社会科・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の歴史について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。歴史過程を説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。律令制の支配が北陸地域ではどのように展開したか（初期荘園の開発）、北陸地域での近世領国制、幕末維新期の北陸地域などについてはとりわけ詳しく概説する。	メディア
	社会科・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の地理について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。単に現状を説明するのではなく、それぞれの地域の営みがなぜ存在するのか、説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。日本の諸地域と世界の諸地域について全般的に概説するが、北陸地域の気候や産業動態については豊富な事例とともに詳説する。	メディア
	社会科・地歴科教育法Ⅲ	各受講生に、日本と世界の歴史について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。縄文時代については、石川県の代表的な縄文遺跡である真脇遺跡、律令制については県内の荘園跡、近世については加賀藩の資料など、生の資料を十分に消化したうえで、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
	社会科・地歴科教育法Ⅳ	各受講生に、日本と世界の地理について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。とりわけ北陸地域については、日本海側の特徴的な気候、一次産業から第三次産業までを、例えば県の農業試験場やJA、代表的な製造業などへの実地取材や調査に基づき、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
	社会科・公民科教育法Ⅲ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。「公民科とは何か」について歴史から学んだり、目標設定の異なる公民科授業類型について考えたり、また教育実習生の授業記録を視聴することによって必要とされる資質・能力を考えたりすることを通して、主体的に学ばせる。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	社会科・公民科教育 法Ⅳ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。高等学校公民科「公共」「倫理」「政治経済」それぞれの目標と内容の特性を理解させた上で、ロールプレイング教材やディベート教材の効果的な活用法を考えさせながら模擬授業を行わせ、主体的な学びを保障する。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	
		幾何学概論Ⅰ（幾何学と現代の数学教育を含む）	高等学校で学んだベクトルの概念を一般化した行列の考え方について深く理解するとともに、幾何学的に捉えることができることを目標とする。具体的には、行列の演算や基本的性質を理解するとともに、小学校の算数科における幾何学の位置づけを講義する。	メディア
		幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	幾何学概論Ⅰで学んだ行列の考え方についてさらに理解するとともに、行列式の基本的性質を理解することを目標とする。具体的には、行列式の定義および基本的な計算方法を理解する。また、基本的な性質を学習し、外積代数的側面の理解を進めるとともにその幾何学的意味についても講義する。さらには、中学・高校数学における幾何学の位置づけについて講義する。	メディア
	数学教育	線形空間論Ⅰ	内積空間の基礎的な性質を理解し、線形空間や線形写像をより視覚的、幾何学的に捉えることを目標とする。具体的には、線形写像の核や像を定義しその次元に関する性質を学ぶことで、連立一次方程式に関する理解を一段進める。内積空間については、ベクトルの長さや2つのベクトルがなす角度が初めから備わっているものではなく、内積に依存する概念であることに留意させる。また、グラム・シュミット直交化法はじめとして諸概念を幾何学的視点に重点をおき講義する。	メディア
		線形空間論Ⅱ	これまで、幾何学概論Ⅰ、Ⅱ、線形代数学Ⅰ、Ⅱおよび線形空間論Ⅰで学習してきたことを踏まえ、行列の固有値と固有ベクトルの計算を自在に行うとともに、線型写像の表現行列に应用することで、線型写像をより視覚的、幾何学的に捉えることができることを目標とする。具体的には、固有値、固有ベクトルの扱いになれ行列の対角化やケーリー・ハミルトン定理を理解できるように講義する。	メディア
		曲線論	平面曲線および空間曲線の基本的な幾何学量である曲率を定義し、それらの幾何学的意味を理解することを目標とする。具体的には、円などの身近な例について曲がり具合を表すための基本的な考え方を学ぶ。それを踏まえ、曲率を定義し様々な曲線の曲率を計算できるようにする。さらに、フレネ・セレの公式を使いこなすとともに、曲線の存在と一意性定理を通して実社会への応用例も含めて講義をする。	メディア
		曲面論	三次元ユークリッド空間内の曲面の基本的な幾何学量であるガウス曲率や平均曲率が計算でき、それらの幾何学的意味を理解することを目標とする。具体的には、平面や球面などの例を通して、曲面の曲がり具合を表すための基本的な考え方を学習する。それを踏まえ、曲面のガウス曲率や平均曲率を定義し、様々な曲面のガウス曲率と平均曲率を計算できるようにする。その際、曲面の視覚的理解を重視し講義をする。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 数学教育	位相空間論	位相空間の基礎を学ぶとともに、このような抽象化された概念を論理的に精密に取り扱えるようになることを目標とする。具体的には、位相空間を定義し具体例を数多く紹介する。その中で、距離空間についてはより詳しく講義する。また、このような一般化や抽象化の必要性についても理解できるようにする。また、コンパクト性やハウスドルフ性および連続写像について講義する。	メディア
	可微分多様体論	現代幾何学の重要概念である可微分多様体の基礎を学び、抽象化され概念を論理的に精密に取り扱えるようになることを目標とする。具体的には、可微分多様体を定義し例を数多く与える。これにより、位相空間上で微積分学を展開するための考え方を理解する。また、はめ込み等の多様体間の種々の写像を講義する。また、Lie群も紹介し数学の各分野が独立に存在するものではなく互いに密接に関連していることを学習する。	メディア
	解析学概論 I	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の基本を学習する。 最初に、関数の極限という考え方を導入し、それに基づき関数の連続性や微分可能性を定義する。次に、微分法に関するいくつかの公式や初等関数に関する導関数の公式を導く。これらの公式の導出方法を理解すること、および得られる公式を自在に利用し、様々な計算を行えるようになることが目標である。	
	解析学概論 II	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の応用を扱う。 微分法の応用は、言い換えれば平均値の定理やそこから派生する定理、あるいは平均値の定理を拡張した定理を応用することである。この講義ではロルの定理を出発点とし、各種の定理を証明し、それらを具体的な問題へ応用する方法を学習する。	
	解析学 I	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎を扱う。 最初に解析学概論Iの復習として、いくつかの初等関数に対する不定積分の公式を確認する。次に、部分積分法や置換積分法といった不定積分を計算するための道具を用意する。以上の準備の下で、有理関数の不定積分をシステムティックに求める方法を用意し、得られた方法を三角関数、指数関数、無理関数に応用する。	
	解析学 II	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎と応用を扱う。 解析学Iの学習内容を踏まえて、定積分を定義する。定積分を利用することで、図形も面積や曲線の長さを求めることが可能となる。その仕組みを確認し、応用としていくつかの不等式を導く。また、定積分の概念を拡張した広義積分とその応用についても学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	確率論概論（確率論と現代の数学教育を含む）	高等学校で学んだ確率をより厳密により深く理解することを到達目標とする。具体的には、確率の定義を厳密に行い、条件付き確率、独立事象、確率変数、分布関数について基本的な性質を講義する。また、データサイエンスの考え方を念頭におき、行列をはじめとする線形代数的な視点も加え中学・高校数学における確率論の位置づけについても講義する。	メディア
			統計学概論（統計学と現代の数学教育を含む）	推定について深く理解することを到達目標とする。特に、近年はビッグデータの利用については必須であるので、それも踏まえ標本調査、各種統計量、正規分布等について基本的性質を講義をする。また、確率論との関係も学習し、データサイエンスの考え方も念頭におき講義する。さらに、中学・高校数学における統計学の位置づけについても講義する。	メディア
			回帰分析	授業のテーマ及び到達目標は、回帰分析、統計学の考え方を理解し、推定と検定の定義を理解し、説明できるようになることである。そして相関係数と回帰直線の定義を理解し、それが説明でき、決定係数の定義を理解し、説明できるようになれば、回帰係数の区間推定と検定の問題を解くことができる。そして本授業では統計学、中でも特に回帰分析の基本を学ぶ。様々なデータを整理、分析し、背後に存在する数学的原理を見抜くことが狙いである。	メディア
			論理学	数学の基礎となる論理について厳密に学びコンピュータ分野の考え方の基礎を捉えることを目標とする。具体的には、命題論理と述語論理についてそれらの基本的な事項を学ぶ。特に、これらの扱いになれることで、対偶法や背理法等の構造を理解することで、実際の学校での授業における留意点も理解できるようにする。また、コンピュータの扱いも念頭におきブール代数や回路図についても説明する。	メディア
			集合論	現代数学の基礎となる集合や写像について厳密に扱えることを目標とする。具体的には、集合の和集合、共通集合、差集合等の基本的な扱いをベン図も使いながら講義し、写像についても単射性や全射性についても詳しく説明する。さらに、同値関係についても講義し、例えば小学校の分数の扱いについての理解が深まるようにする。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	中学校及び高等学校数学科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、中学校及び高等学校数学科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、各領域・内容における石川県の教育実践を含む学習指導の検討を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点等、数学科の指導法についての知見を得る。	メディア
			数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	中学校及び高等学校数学科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、数学科の授業を設計することができるようになるために、中学校及び高等学校数学科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価について、石川県の教育実践を含む知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、数学科の実践研究とその課題について学ぶ。	メディア
			数学科教育法Ⅴ	数学科の授業を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学科授業の分析のための枠組みを基に、各領域における授業の視聴とその分析を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点についての理解を深め、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を得る。	
			数学科教育法Ⅵ	小学校算数科、中学校高等学校数学科の教材と学習指導を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に、教育実習に向けて、受講者が協力して、各領域・内容の教材や学習指導案を検討し、模擬授業を行い、相互評価し振り返る。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」及び「図形」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。 (43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	数学科教育法Ⅶ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計し教材を開発するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に教育実習における授業の経験を振り返り、各領域・内容の学習指導の過程について検討し、そのような授業の設計の枠組みへと洗練させ、各領域・内容における教材開発に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程を検討するとともに、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練させる。</p> <p>(43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程の検討と教材開発に取り組み、数学的活動全般を通して、学生自身が主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練し構築していく。</p>	オムニバス方式
			数学科教育法Ⅷ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計するための実践的な知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みと教材開発による知見を基に、教育実習における授業の経験を振り返り、受講者が協力して、授業を構想し学習指導案として再構成し、その模擬授業を行い、相互評価し振り返る。</p>	
			算数・数学科教育論	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の教育実践とその研究の基盤となる、数学教育に関する知識及び技能や考え方を体系的に身につけ、算数・数学科教育の今日的課題の解決のための展望を得ることを目指す。そのために、小学校算数科、中学校高等学校数学科の教育実践とその研究の基盤となる数学教育論から、算数・数学科教育への視座を得て、その視座から、算数・数学科教育の今日的課題を見出し、その解決のための展望を得る。</p>	メディア
			算数・数学科授業論	<p>算数・数学科の指導法に関する知識や技能を身につけ、活用できる算数科、数学科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基にして、各領域における授業の視聴およびその検討を通して、個別の学習内容における児童、生徒の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科・数学科の指導法についての知見を得て、それを実際の授業で活用できるようになることを目指す。</p>	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 理科教育	理科内容 A (電磁気学概論と現代理科教育)	中学校・高等学校の理科教員として必要な電磁気学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる電磁気学の基礎的な概念や、基本的な問題を解く方法について学ぶ。具体的には、電磁気学の基礎的内容として、電荷に働く力、静電場の性質、ガウスの法則、電場と電位の関係、静電エネルギー、電気容量、電流と電気抵抗、電気回路などについて学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
	理科内容 A (一般物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な電磁気学の発展的内容、初等量子力学の基礎、及び波動の性質について理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる電磁気学、初等量子力学の概念や、波動の性質を理解し、基本的な問題を解く方法について学ぶ。具体的には、電磁気学の発展的内容として、磁場の発生、磁場によって生じる力、電磁誘導、交流回路について学び、音と光、波動と電磁波の関係などについて学ぶ。	メディア
	理科内容演習 A I (物理学)	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(力、物体の運動、熱、エネルギー)に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、まず物理数学の基礎を修得した上で、力と運動の関係、力のつり合い、圧力と浮力、力学的エネルギーの保存、熱伝導や熱とエネルギーの関係などについて理解を深める。	
	理科内容演習 A II (物理学)	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(電気回路、電流と磁界、光と音)に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、電磁気学においては、静電現象、電流と磁界、電気容量、電磁誘導、電磁波について学び、また、光の性質や音と波の関係について理解を深める。	
	理科実験 A I (物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(力、物体の運動、熱、エネルギー)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、測定と誤差についての基礎的な知識を学び、重力加速度、力の合成、摩擦係数などの力学的実験や、気体と液体の圧力、固体の比熱、熱の仕事当量などの熱力学的測定を行うとともに、コンピュータによるデータ処理に関する技術も修得する。	
	理科実験 A II (物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(電気回路、電流と磁界、光と音)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、電気回路製作の基本的技術を学び、電気抵抗、等電位線と電気力線、静電容量、電磁湯堂などの電磁気学の実験や、音波の共鳴や光に関する波動の測定を行うとともに、コンピュータによる機器の制御に関する技術も修得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容B（無機化学概論と現代理科教育）	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代理科教育の様々な課題について知識を深めることが必須となる。この講義では、原子の構造、化学結合、気体の性質の基礎について取り上げ、物質を構成する粒子またはその集合体について化学的性質・現象を学ぶとともに、現代理科教育の様々な課題を理解する視点を養う。	メディア
			理科内容B（物性化学）	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代の生活と化学とのかかわりを理解する視点を養うことが必須となる。この講義では、無機物質の構造と性質、バンド理論、有機化合物の構造とその反応について取り上げ、具体的な物質の性質や反応を電子状態から捉え、身近な物質・現象と結びつけて理解する視点を養う。	メディア
			理科内容演習B I（化学）	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、基礎的な知識を応用し、課題を解決する化学的思考力が必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に含まれる内容（無機化学、物理化学等）に関して、具体的な現象の観察や課題に取り組みながら化学的思考力を養い、教員になるために必要な基礎知識とそれを応用する能力を身につける。	
			理科内容演習B II（化学）	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、専門知識を深めることとその知識や情報を自ら獲得できる力を養うことが必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に関する専門知識や教材について、文献調査を行い、その内容を自ら理解、要約、説明する過程を通して、教員になるために必要な能力を身につける。	
			理科実験B I（化学）	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における化学分野の基本となる実験の指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、気体の発生とその性質の確認、滴定実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			理科実験B II（化学）	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における無機化学、物理化学、有機化学分野の実験指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、金属イオンの分析、分子量の測定、反応エンタルピーの測定、有機化合物の合成実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			理科内容C（生物多様性概論と現代理科教育）	生物分野の理科先進的教育科目として、中学校・高等学校の理科教員に必要とされる生物多様性の基礎を身に付ける。現代理科教育の課題となる生物進化についての基礎的な内容を理解したうえで、生物の構造と機能について学ぶ。具体的には、真核生物の多様性、植物の構造と機能、後生動物の多様性、脊椎動物の構造と機能、生物の生態、生物と環境などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	理科内容C（一般生物学）	メディア
	専門科目	理科内容演習C I（生物学）	
	理科教育	理科内容演習C II（生物学）	
	理科教育	理科実験C I（生物学）	
	理科教育	理科実験C II（生物学）	
	理科教育	理科内容D（地球物質科学概論と現代理科教育）	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 理科教育	理科内容D（一般地学）	本講義では中学校・高等学校の理科教員として必要な天文学の基礎について理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる現代の宇宙像の概要（太陽系の構造と天体、恒星の特徴と進化、銀河系の構造、さまざまな銀河の存在と分布、宇宙の誕生と進化）や天文学の歴史（天動説と地動説、観測技術の変遷）について学ぶ。	メディア
	理科内容演習D I（地学）	地形や地質の野外観察や地学に関する演習問題等を解くことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（地形、地質、プレートテクトニクス等）に関する観察や課題に取り組み、地学的な考え方や見方を養う。具体的には、地形および地質の野外観察、ITCを活用した古地理の推定、ボーリングデータによる地質断面図の作成、地質図からの地球史の推定、プレートの運動速度の推定、練習問題地を使った球史の復元などを行う。	
	理科内容演習D II（地学）	地学に関する課題に取り組むことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に関する単元の内容や教材について研究をする。その上で学生が地学分野に関するテーマを決めて課題設定をし、それらに取り組むことで、地学的な考え方や見方とともに教員としての資質を養う。	
	理科実験D I（地学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（地形、地層）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、地形図の基礎と読図（コンピュータの活用を含む）、測定の基礎、地質図の基礎と読図などについて学ぶ。	
	理科実験D II（地学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（気象、化石、岩石）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、身近な気象の観察（作業、データの整理と考察）、コンピュータを活用した自然災害学習、岩石の分類と標本の観察、岩石薄片の観察、化石の分類法、化石の抽出や観察などを行う。	
	理科教育法I（石川県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた生徒の自然理解、指導技術、教材内容について理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、石川県の具体的な授業実践例を通して、その特徴や教育理念も理解するようにする。とくに、中学校・高等学校における理科の目標をもとに、基本的な知識・技能と生徒の自然認識の実態、主体的な学習のための課題設定、理科学習展開の工夫について、石川県の理科の教育実践も通しながら理解する。また、中学校・高等学校の理科のカリキュラムの構成や教材、情報機器の活用について具体的な授業実践例をもとに理解する。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた授業計画と授業評価について理解するとともに、理科におけるマネジメントを理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、石川県の具体的な授業実践例を通して、理科の教材研究の工夫やSTEAM教育とSDGsに関わる教材の工夫についても理解するようにする。そして、具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。授業計画や模擬授業にあたっては、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のあり方、さらに、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	メディア
			理科教育法Ⅴ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、具体的な理科の授業設計を行い、指導技術について習得することを目的としている。とくに、中学校・高等学校の理科の目標と指導のポイント、優れた理科授業の分析と指導技術、理科の教材研究例と授業実践について具体的な実践例をもとに理解する。また、主体的な理科学習のための課題設定や、情報機器の活用を含めた理科における対話的な学び、教科横断的な理科の授業について具体的な授業実践例から理解する。	
			理科教育法Ⅵ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、授業設計と模擬授業の実施を通して理科の指導技術について習得することを目的とする。指導計画については、単元計画、本時の指導案、評価基準、授業において用いるワークシートの作成など、具体的な教材を対象に行う。その際、物理分野、化学分野、生物分野、地学分野の内容を取り上げ、その内容の特徴を生かした模擬授業の実施と模擬授業の評価を行い、模擬授業を振り返ることによって、指導計画の改善案を作成する。	
			理科教育法Ⅶ	本授業では、教育実習をふりかえりながら理科の授業改善を行い、それにもとづく模擬授業を実施することにより理科の教材開発や指導技術を習得することを目的とする。とくに、教育実習の授業と指導案について再検討し、同じ授業について指導案を再度作成し議論する。その議論の結果を踏まえ、教材について検討し授業計画を立てて模擬授業を実施する。その際、単元計画と本時の指導案の作成と教材の検討、ワークシートの作成、情報機器活用を含む教具の準備と板書計画などを考慮するようにする。	
			理科教育法Ⅷ	本授業では、日本の理科カリキュラムの変遷や世界の理科カリキュラムを概観し、カリキュラムが時代的背景によって変化し指導法も変化してきたことを理解し、これからの理科の指導のあり方について検討することを目的とする。とくに、理科カリキュラムの構成要素にもとづき、昭和20年代の生活単元学習、昭和40年代の系統的学習、昭和50年代からのゆとりのカリキュラム、平成中期から令和にかけての現代のカリキュラムを取り上げ、その背景と特徴を理解する。その際、世界の理科カリキュラムとの比較、理科のカリキュラムマネジメントの考慮などについても取り上げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科教育演習 I	本授業では、理科教育に関する研究資料やデータの分析をもとに、理科教育の研究方法について習得することを目的とする。とくに、理科の教材開発の方法について、教材開発の論文をもとに理解する。また、自然認識の調査分析の方法について、定性的分析や統計的手法を用いた定量的分析について研究論文をもとに理解する。さらに、理科授業の質的分析、量的分析の方法について理解するとともに、理科カリキュラムの分析方法について、歴史的 analysis や国際比較の分析について理解する。	
			理科教育演習 II	本授業では、理科教育に関する研究資料の分析とともに、教材開発の課題研究を通して理科教材の開発方法について習得することを目的としている。まず、教材開発の目的と意義の理解のもとに、任意の理科教材に着目し、その教材開発の先行研究について調べ、教材の意義や教材開発の方法について理解する。それをもとに、教材の設計、教材の作成を行い、教材の発表を通して改善し、改善した教材を用いた授業設計と模擬授業を行う。模擬授業を通して教材および教材を用いた授業展開の改善点を明らかにする。	
			理科教育実践研究 I	(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、授業実践のための基本的能力を修得する。 (オムニバス方式／全 8 回) (37 松原道男／1 回, 2 回) 理科カリキュラムの変遷について解説する。 (32 辻井宏之／3 回, 4 回) 理科物理領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (97 小松田(佐藤)沙也加／5 回, 6 回) 理科化学領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (25 川幡佳一／7 回) 理科生物領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (28 酒寄淳史／8 回) 理科地学領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	理科教育実践研究Ⅱ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、実際にカリキュラム(年間指導計画・単元の指導計画)を作成するときの視点や技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(37 松原道男/1回, 2回) 理科指導計画の作成と実践について解説する。</p> <p>(32 辻井宏之/3回) 理科物理領域カリキュラムの実践を学ぶ。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加/4回) 理科化学領域カリキュラムの実践を学ぶ。</p> <p>(25 川幡佳一/5回, 6回) 理科生物領域カリキュラムの実践を学ぶ。</p> <p>(28 酒寄淳史/7回, 8回) 理科地学領域カリキュラムの実践を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	理科教育実践研究Ⅲ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、授業実践のための応用的能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(37 松原道男/1回, 2回) 理科カリキュラムの構成要素について解説する。</p> <p>(32 辻井宏之/3回, 4回) 理科物理領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加/5回, 6回) 理科化学領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(25 川幡佳一/7回) 理科生物領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(28 酒寄淳史/8回) 理科地学領域カリキュラムの教材研究を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目	理科教育実践研究Ⅳ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、様々な単元における実践的なカリキュラムを作成するときの視点や技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(37 松原道男／1回, 2回) 理科カリキュラムマネジメントについて解説する。</p> <p>(32 辻井宏之／3回) 理科物理領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加／4回) 理科化学領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(25 川幡佳一／5回, 6回) 理科生物領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(28 酒寄淳史／7回, 8回) 理科地学領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	ソルフエージュⅠ	課題、宿題を通して初歩的なリズム感、聴音等の実践から始め、和声法学習へ結びつく音感を養う。また指揮法習得への初学段階をも担う。テキストには、Noel-Gallon "Vingt-cinq Lecons de Solfege" (初見視唱・視奏)、Noel-Gallon "Solfege Progressif" (聴音)をはじめ、海外のソルフエージュ教材を中心に扱い、リズムトレーニングやクレフの異なる楽譜を読む練習などを繰り返し行っていく。	
	ソルフエージュⅡ	ソルフエージュⅠで向上させたソルフエージュ能力を実践的に生かしていく練習をする。読譜能力および演奏能力を支える音感、また、自身の不得意なソルフエージュ分野における能力の更なる向上をはかることを目指す。加えて、身につけた能力をコーディネートし、演奏実技に生かしていくことを目標とし、様々な編成(声を使った作品、ボディーパーカッションを用いた作品、打楽器を用いた作品など)のアンサンブル作品の演奏に取り組む。	
歌唱法Ⅰ	声楽的な歌唱技術を身に付ける上での基礎的な知識と技能を習得することを目標とする。具体的にはコンコーネ50番の第1番から順番に取り組み、階名読みによる歌唱を基本として、正しい音程とリズムを保ちながらフレーズ感やアーティキュレーションに留意しながら歌うことができるようにする。歌詞を持たない練習曲をいかに音楽的に且つソルフエージュ的にも正しく歌唱できるように心掛ける。最終回には授業で学んだコンコーネの練習曲の中から任意の曲を課題曲に設定して試験を行い、評価を行う。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	歌唱法Ⅱ	<p>声楽的な歌唱技術を身に付ける上での基礎的な知識と技能を習得することを目標とする。具体的にはコンコーネ50番の第10番以降の楽曲に取り組み、階名読みによる歌唱を基本として、正しい音程とリズムを保ちながらフレーズ感やアーティキュレーションに留意しながら歌うことができるようにする。歌詞を持たない練習曲をいかに音楽的に且つソルフェージュ的にも正しく歌唱できるように心掛ける。最終回には授業で学んだコンコーネの練習曲の中から任意の曲を課題曲に設定して試験を行い、評価を行う。</p>	
	歌唱法Ⅲ	<p>声楽的な歌唱技術を生かして、古典イタリア歌曲の歌唱に取り組む。イタリア語が持つ言語的な特徴を活かしながら、より遠くに、より多くの人に届く発声技術と、積極的な表現力を身に付けることを目標とする。古典イタリア歌曲は声楽を志す者にとっての初歩的、基礎的な練習曲として日本の音楽教育及び芸術音楽の分野で取り上げられているが、これを声楽的また音楽的に歌うことは実は非常に難しい。上辺だけの習得に留まらず、正確な発音を伴いながら声楽的且つ音楽的に、またソルフェージュ的にも正確に歌えるようにすることを心掛ける。最終回には授業で取り組んだ楽曲の中から任意の曲を課題曲として試験を行い評価する。</p>	
	歌唱法Ⅳ	<p>声楽的な歌唱技術を生かして、古典イタリア歌曲と日本歌曲の歌唱に取り組む。日本語と外国語の発音や表現の違いを考察しながら、あらゆる言語を歌詞に持つ楽曲の歌唱と指導を行うことができるようになることを目標とする。特にイタリア語と日本語の母音の違いに留意しながら指導を行う。殊に「ウ」の母音は日本語と西洋の原語では決定的な深さの違いがあり、これを習得することが、声楽的技術を身に付ける上において最重要課題であることから、この点についてはより留意しながら日本歌曲もイタリア語の母音に近い深さを保ちながら歌えるようにすることを心掛ける。</p>	
	アンサンブルⅠ（声楽）	<p>教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。</p>	
	アンサンブルⅡ（声楽）	<p>教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	アンサンブルⅢ（声楽）	<p>教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。</p>	
	日本の伝統的歌唱法	<p>長唄の歌唱を通じて、日本の伝統的な歌唱技術を身に付けるとともに、それに不随する様々な作法を学び、日本古来の形や様式美を知ることによって、西洋音楽との違いや伝統文化の大切さを学ぶことを目標とする。長唄を歌唱する上での立ち居振る舞いや所作を身に付け、伝統的な歌唱を行う上での「形」を知ることによって、所作と歌唱技術の関係性に着眼しながら、日本古来の伝統的な歌唱の歴史的意義と存在意義を学び、それを音楽教育に如何に活かしていくべきかを考察する。</p>	
	歌唱法演習Ⅰ	<p>頭声発声を基調とした歌唱技術を身に付けるために、呼吸法と発声法を重点を置きながら、古典イタリア歌曲やトスティの歌曲を歌うことによって、技術力と表現力が融合された歌唱力を身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。</p>	
	歌唱法演習Ⅱ	<p>頭声発声を基調とした歌唱技術を身に付けるために、呼吸法と発声法を重点を置きながら、トスティの歌曲やモーツァルトのオペラ・アリアを歌うことによって、技術力と表現力が融合された歌唱力を身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。</p>	
	歌唱法演習Ⅲ	<p>頭声発声を基調とした歌唱技術をさらに発展させながら、ドイツ語やフランス語の歌曲にも取り組み、あらゆる言語に対応できるディクシオンを身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	音楽教育	歌唱法演習Ⅳ	オペラアリアの歌唱に取り組みながら、舞台表現を念頭に置いた歌唱表現、発音、演技が出来るようになることを目指す。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	
			和楽器奏法	三味線の演奏を通じて、日本の伝統的な演奏技術を身に付けるとともに、それに不随する様々な作法を学び、日本古来の形や様式美を知ることによって、西洋音楽との違いや伝統文化の大切さを学ぶことを目標とする。三味線を演奏する上での立ち居振る舞いや所作を身に付け、楽器としての取り扱いや手入れの仕方など、伝統的な演奏を行う上での「形」を知ることによって、所作と演奏技術の関係性に着眼しながら、日本古来の伝統的な奏法の歴史的意義と存在意義を学び、それを音楽教育に如何に活かしていくべきかを考察する。	
			ピアノ奏法Ⅰ	中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の基礎知識・技能の習得。スケール等の基礎的な演奏技術の習得。特に音階特有の運指を身につけ、それぞれのカデンツをスムーズに取れるよう、反復練習する。また、個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な基本的な技術を身につける。特にペダルの機能の知識を学び、その上での効果的なペダリングの使い方や、運指によってどのように弾きやすくなるか、といった効果的な選択方法、また表現技術の基礎を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	
			ピアノ奏法Ⅱ	ピアノ奏法Ⅰに引き続きピアノ演奏表現の基礎を実践的に学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の基礎知識・技能の応用と発展。ピッシナー、ツェルニー、クラマービューロー、と言った指の訓練の練習曲、すでにある程度基礎を身につけている受講生にはブラームス、ショパン、リストなどのエチュードを実力に応じて与え、反復練習させる。さらに個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な応用的な技術を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	
			ピアノ奏法Ⅲ	ピアノ奏法Ⅱに引き続き、中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を深める。ピアノ演奏表現の応用を実践的に学ぶ。バッハの平均律などを活用し、フーガの多声体の楽曲に取り組む。運指やペダリングが複雑となる多声体の楽曲の演奏技術を身につけ、表現技術の幅を広げる。基本的には受講生の実力によって、平均律曲集から3声～4声のフーガを選択させ、プレリュードとともに仕上げる。さらに個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な発展的な技術を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	ピアノ奏法Ⅳ	<p>ピアノ奏法Ⅲに引き続き中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を深める。これまで積み上げてきた演奏技術、表現技術を元に、ピアノ演奏表現の応用を発展的に学ぶ。受講生の実力によって、ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、と言った古典派の作品、またはショパンやシューマン、ブラームス、リストと言ったロマン派の作品から選択し、多彩な音色を奏するために、どのような運指やペダリングが必要になるかを考察し、最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	ピアノ奏法演習Ⅰ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能をさらに深める。ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、と言った古典派の作品、ショパンやシューマン、ブラームス、リストと言ったロマン派の作品、ドビュッシーやラベル、ラフマニノフ、スクリャービン、プロコフィエフと言った近現代の作品まで、受講者の実力に応じて卒業研究で学ぶために、その準備段階として学ぶ作品を選ぶ。譜読み、運指、ペダリング、と言った演奏技術を段階的に行うのではなく、譜読みの段階から、今後の練習法や表現法といった課題を見据えられるように研究する。特に運指はなるべく初期段階での考察が必須となるため、重点的に行う。</p>	
	ピアノ奏法演習Ⅱ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を習得する。ピアノ奏法演習Ⅰで選択した作品を、発展的に考察する。運指やペダリングは効果的な練習を積み上げるためにも初期段階にある程度決定する必要があるが、演奏技術の習熟度や、音色の多彩さを感じられるようになる、練習しているうちに変化することは必然である。複数考えられる運指やペダリングからどれを選択するかを見極めるなど、自発的に考えられるように考察する。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	ピアノ奏法演習Ⅲ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を発展的に習得する。ピアノ奏法演習Ⅱで学んだ楽曲の演奏技術、表現技術を踏まえ、受講者の実力に応じて、バロック作品から近現代作品の中から学び、ピアノ作品に対する深い理解と演奏者のより高度な演奏表現を探究する。楽曲を音楽的に仕上げるためには、個々の音楽性だけでは実現できない。その作品に対する想いを表現するために、どのような演奏技術が必要となるかを、初期段階からしかも短時間で考えられるような能力を研く。</p>	
	ピアノ奏法演習Ⅳ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を発展的に習得する。卒業研究に選んだ作品を中心に、時代的様式、作曲家固有の音楽様式を実践的に学び、演奏者固有の表現様式を研く。演奏家が存在する意義は、同じ作品でもそれぞれが、全く違う解釈を与えることにある。個々がそれぞれ異なる表現者であることを自覚し、選択した作品の歴史的な背景を調べ、過去のピアニストの演奏にはどのような特徴や個性的解釈がなされているかを研究し、個性のある演奏を表出することを目指す。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	アンサンブルⅣ（木管）	クラリネットを基礎から学ぶだけではなく、ソロ曲やアンサンブル曲を演奏し、クラリネットの演奏技術や、音楽表現などを学ぶ。そのために、吹奏楽の中心楽器となるクラリネットの楽器について、基本的な奏法から表現方法を段階的に取得していく。最終的にはピアノ伴奏に合わせたソロ演奏と、クラリネット重奏によるアンサンブル演奏を仕上げ、クラス内で発表する。テキストには、アメリカで好評を得ている「ラーン・トゥ・プレイ 最新クラリネット教本Book 1 & 2」の日本語版を使用して進めていく。	
	アンサンブルⅤ（金管）	ハ長調を基準とする鍵盤楽器、弦楽器、声楽等と、変ロ長調、ヘ長調を基準とする金管楽器とを比較し金管楽器の特性と奏法を学ぶ。合わせて金管楽器の発達過程、歴史も学ぶ。大学の保有するトランペット、ホルン、トロンボーン、チューバを用い、それぞれの楽器の特徴や手入れの仕方などを知ることから始め、それぞれの楽器で基本音階を吹けるよう練習する。最後には、金管楽器による合奏にも取り組み、合奏を通してアンサンブルの基礎を学ぶ。	
	指揮法	読譜能力を高め、アンサンブルをまとめていく基礎能力を身につける。「指揮台に立つ前の仕事」と「指揮台の上での仕事」の2つに分類される指揮者の仕事について、初めて出会う作品を楽譜から理解する能力を養うこと、また基本的なバトンテクニックを習得し、演奏家に意図を伝えられる実践力を磨く。授業は、簡単なスコアリーディング訓練、バトンテクニックの基礎練習、そして、ロールプレイングによる指揮実践によって構成される。	
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅰ	音楽理論を学ぶ上で最低限必要となる音楽能力（楽典、ソルフェージュ）についてはそれらを完成させ、「和声学」の基礎を学ぶ。音楽指導者として必要不可欠な読譜能力を習得するため、和声法の基礎を学び楽曲におけるそれらの機能を理解することを目標とする。授業の内容としては、基本位置3和音の配置、連結から、和音設定の原理、各種の調、3和音の第一・第二転回位置の使い方などを学習していく。テキストには、音楽大学の副科和声の授業などに使われている「総合和声 実技・分析・原理」（音楽之友社）を用いる。	
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅱ	音楽理論を学ぶ上で最低限必要となる音楽能力（楽典、ソルフェージュ）についてはそれらを完成させ、「和声学」の基礎を学ぶ。音楽指導者として必要不可欠な読譜能力を習得するため、和声法の基礎を学び楽曲におけるそれらの機能を理解することを目標とする。授業の内容としては、V7、V9の和音、D諸和音の総括を学習し、実際の楽曲の和声分析についても学んでいく。テキストには、音楽大学の副科和声の授業などに使われている「総合和声 実技・分析・原理」（音楽之友社）を用いる。	
音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅲ	I, IIに引き続き、和声法の基礎を学習する。実際の作品を分析し、学習した理論の実用例について学ぶ。授業の目標としては、理論の基礎を完成させること、楽曲分析などを通して、学んだ理論が実際の作品の中でどのような機能をもつのか理解できる力を養うこととしている。授業内容としては、属九の和音、D諸和音の総括、第2ドミナントの和音の学習をはじめ、ソプラノ課題を通して、借用和音や近親転調の使い方などを学んでいく。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	音楽理論及び和声学 (作曲・編曲を含む) IV	和声法の基礎を踏まえ、簡単な編曲や創作を行うこと、また実際の作品を分析し、学習した理論の実用例について学ぶことをテーマとする。授業の目標は、理論の基礎を完成させること、楽曲分析などを通して、学んだ理論が実際の作品の中でどのような機能をもつのか理解できる力を養うこととしている。授業内容としては、和声法の総括と二声対位法の基礎学習をはじめ、イタリア歌曲やピアノ・ソナタ、室内楽作品の楽曲分析に取り組む。	
	音楽史Ⅲ (日本及び世界の音楽)	この講義は、日本の音楽についての理解を深め、その歩みを辿ることにより、西洋の音楽とは違う体系を知ることが目標である。雅楽、仏教音楽、能楽、琵琶楽などを主に取り上げながら、講義だけでなく、三味線の実技を取り入れながら進めていく。日本の様々な音楽ジャンルに関する基本的な知識を身に付け、広い視野で「音楽」を捉えることができるようにする。	
	音楽史Ⅳ (日本及び世界の音楽)	この講義は、音楽史Ⅲに引き続き、日本の音楽についての理解を深め、その歩みを辿ることにより、西洋の音楽とは違う体系を知ることが目標である。歌舞伎、文楽、尺八楽を主に取り上げながら、講義だけでなく、三味線や長唄の実技を取り入れながら進めていく。日本の様々な音楽ジャンルに関する基本的な知識を身に付け、広い視野で「音楽」を捉えることができるようにする。	
	作曲 (編曲を含む) 演習Ⅰ	それまでに学習してきた理論を踏まえ、器楽独奏曲の作曲を試みる。既存の楽曲から学習した表現を模倣または引用しながら、自ら表現することの難しさと魅力を実体験することを目標とする。初めは、学生自身に最も馴染みのある楽器を選択し、独奏曲を作曲する。既成曲より、書法を学び取り、自作品の中での応用を試みる。楽器法の学習には、『管弦楽法 ウォルター・ピストン/戸田邦雄訳』など、比較的分かりやすい管弦楽法の教本を用いる。	
	作曲 (編曲を含む) 演習Ⅱ	それまでに学習してきた理論を踏まえ、歌曲の創作を試みる。既存の楽曲から学習した表現を模倣、引用しながら、自ら表現することの難しさと魅力を実体験することを目標とする。歌曲を作曲するにあたり、詩を深く読み解き、その詩の描く世界を音のイメージに置き換えていく作業を行う。完成した楽曲は、学内の発表会において自演により発表する。金田一春彦監修『新明解日本語アクセント辞典』などを用い、日本語の特徴も踏まえた上で日本歌曲の作曲に取り組む。	
	作曲 (編曲を含む) 演習Ⅲ	より高度な作曲 (編曲) 技法を習得する。作曲 (編曲を含む) 演習Ⅰと同様、既成作品の分析より実際の表現法を学び取り、それを自作の表現の中で生かすことを目標にする。作曲 (編曲を含む) 演習Ⅰ～Ⅱをふまえて、二重奏以上の室内楽作品の分析を行い、自身の表現を見つけていく。完成作品は、学内外の発表会において、自演することにより発表する。楽器の特徴については、Samuel Adlerの『THE STUDY OF ORCHESTRATION』を用いて学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	作曲（編曲を含む） 演習Ⅳ	より高度な作曲（編曲）技法を習得すること、作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅲと同様に、既成作品の分析から実際の表現法を学び取り、それを自作の表現の中で生かしていくことを目標にする。作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅲにおいて行ってきた作曲をふまえ、室内楽作品（ピアノと旋律楽器等の組み合わせ）を作曲する。完成作品は、学内外の発表会において発表することを目的とし、作曲意図を演奏で表現するという側面についても考え、学んでいく。	
	音楽科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	中学校・高等学校の学習指導要領を基に、中学校・高等学校音楽科における教科の目標、指導計画、指導内容、及び評価の方法について基礎的な知識について説明を行う。次に、「歌唱」「器楽」の分野の具体的な指導法を学ぶと共に、学習指導案の書き方について作業手順と評価基準の設定を含めて学ぶ。さらに金沢市内の中学校の授業参観も行い、指導力の基礎を培うことをめざす。	メディア
	音楽科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰの続きで、「創作」「鑑賞」の領域・分野の具体的な指導法を学ぶと共に、学習指導案を実際に書いてみる。次に、ICTを活用した授業づくり、日本の伝統音楽を扱う授業づくり、「総合的な学習の時間」と関連付けた授業づくりについて学ぶ。さらに金沢市内の県立高等学校の授業参観を行い、指導力の基礎を培うことをめざす。最後に、模擬授業に向けた準備を行う。	メディア
	音楽科教育法Ⅴ	音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を踏まえ、経験豊富な教師の授業実践を分析することにより、カリキュラムや授業の構想をしたり、学習指導案を作成する基礎力の養成をめざす。また、歌唱・合唱、器楽、創作、鑑賞、すべての領域・分野をまんべんなく取り上げ、教材研究や指導法の研究のやり方についても学ぶ。	
	音楽科教育法Ⅵ	音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を踏まえ、中学校・高等学校の音楽科の内容を対象に模擬授業を計画する。歌唱、合唱、器楽、創作、鑑賞、すべての領域・分野を対象に具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。学習指導案の作成では、具体的な教授行為まで計画する。その後、分析を行い、音楽科の授業設計や指導技術について考えることにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	音楽教育	音楽科教育法Ⅶ	音楽科教育研究の基本的な研究方法について理解し、その上で各自の研究課題に取り組むことにする。哲学的研究、心理学的研究、歴史学的研究、社会学的研究、民族学的研究、授業研究など、さまざまな研究の論文を講読し、研究討議を行う。それと並行して、各自の研究課題に取り組む準備と資料の収集を行う。	
		音楽科教育法Ⅷ	音楽科教育法Ⅶに引き続き、音楽科教育研究の基本的な研究方法について理解し、その上で各自の研究課題に取り組むようにする。さまざまな研究の論文を講読し、研究討議を行う。それと並行して、各自の研究課題に関する資料の収集を行い、研究論文をまとめる。	
	美術教育	絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	中学校、高校美術科の絵画分野の専門知識・技能を深める上で、「絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現含む）」における美術科題材を選定し、絵画制作の課題コンセプトを立案する。映像メディアを用いた課題制作と、現代美術表現における課題制作の実施を行う。映像作品やインスタレーションなどの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の可能性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		絵画Ⅰ	中学校、高校美術科の絵画分野の専門知識・技能を深める上で、絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、鉛筆や木炭を用いたデッサン、近世の絵画技法である水彩画、中世ヨーロッパに始まる油彩画を行う。デッサンや油彩画作品などの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の普遍性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		絵画Ⅱ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、中世絵画技法である、テンペラ画を学ぶ。また、版画表現では、中世ヨーロッパの銅版画を制作する。テンペラ画や版画などの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の多様性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		絵画Ⅲ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、中世絵画技法である、フレスコ画を学ぶ。また、デッサン・油彩画表現では、人体研究としてヌードモデルとした絵画を制作する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	絵画Ⅳ	<p>絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、人体研究の応用として、ヌードモデルとした大作絵画を制作する。また、中世の版画技法である西洋木版画を学ぶことで、版画表現における多様性について考察する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。</p>	
	彫刻基礎Ⅰ（現代美術表現を含む）	<p>彫刻領域における最も基本的である塑造は、美術教師が必ず習得すべき技法と言っても過言ではない。本授業では、彫刻概説として彫刻の種類や技法の観点から、現代の彫刻表現から著名な作品を取り上げ概観する。次に、古代ローマ時代の石膏像の模刻を通して、彫刻の基本的な造形技術と人体の骨格や構造的な成り立ちを学習する。また、各授業の冒頭でテーマ別発表を行い彫刻に関する基本的な知識を習得する。</p>	
	彫刻Ⅰ	<p>テラコッタの技法には数種あるが、それらの技法を紹介した上で実際の学校現場で頻繁に実施されている割り抜き法により作品制作を行う。対象は、彫刻基礎から引き続きモデルを使った頭像の制作を行うが、今回はポーズにわずかな動きを持たせることで、特に頭部と首の動き（ムーブマン）の表現に取り組む。粘土での造形後には、学校現場で生徒達の作品を焼成できるよう焼成窯の使用法と温度管理を学ぶ。焼成後には、テラコッタ特有の彩色法を学習し、作品として完成させる。</p>	
	彫刻Ⅱ	<p>彫刻Ⅰまでの授業では塑造を中心に学習してきたが、本授業では彫塑のもう1つの技法であるカービングの制作を行う。特に我が国では木彫が盛んに制作されてきた。抵抗する物質を克服しその行為を通して表現技術を発見していく制作過程の中に、大きな教育的意義があると考えられる。すぐにリセットできないカービングの技法を現代の生徒達に経験させる必要がある。本授業では、木彫制作を通して同教材に対する理解を深め、具体的な指導・評価の方法を検討する。また、この授業では制作テーマとしてリアリズムを掲げる。学校現場でも本物そっくりにつくる立体教材は頻繁に実施されている。そのためにも、本制作を通して彫刻におけるリアリズムについて知識・理解を深めるとともに、カービングによる表現技能の向上を図る。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	彫刻Ⅲ	本授業では、裸婦のモデルを通して塑造による全身像（二分の一等身）の制作を行う。その中で西洋彫刻における人体造形の基本的な構造について知識・理解を深めるとともに、これまで培った塑造技能をさらに高める。モデルのポーズはコントラポストを採用する。片足に重心をかけたこの立像のポーズは、身体全体にS字状の動きを生じさせる。これによって、ほぼ左右対称の人体の構造に、動きや筋肉の緊張、弛緩等の変化が生じるので、同ポーズは全身像を制作する上では最も基本的かつ一般的なものである。この制作を通して、彫刻の造形要素である、動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感、テクスチャー等に注目して制作を進める。	
	彫刻Ⅳ	彫刻制作研究Ⅰの授業から引き続き、等身大の裸婦像の制作に取り組む。本授業では、造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注目して制作を進めてきたが、まず第1回と2回の授業で、これらの表現ができているか確認する。次に、ボリュームと粘土のテクスチャーを意識する。そして、最終的に全体のバランスを考慮したディテールの表現にもこだわり、作品を完成させる。	
	デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	本授業では、目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える造形的な視点に基づき、デザインの基礎的表現について理解する。特に、文献研究や制作課題を通して、色彩の基礎的な知識や表現技能を身につけ、演習課題を通して基礎的な造形表現能力を養う。授業では、現代美術表現としてのデザイン領域の作品などの資料収集と発表を通して、デザイン分野の専門知識を深めるために必要な知識の獲得を求める。	
	デザインⅠ	「デザイン基礎Ⅱ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザイン基礎Ⅱ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、平面デザインを学習する。	
	デザインⅡ	「デザインⅠ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅠ」までの学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、立体デザインを学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	デザインⅢ	<p>「デザインⅡ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅡ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、映像メディアデザインを学習する。</p>	
	デザインⅣ	<p>デザインと社会のかかわりを考え、演習課題を通して実践的にデザインの社会的責任や役割を理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅢ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・プレゼンテーションを行い、ソーシャルデザインの可能性を研究する。</p>	
	工芸基礎Ⅰ	<p>美術科の工芸分野に関する基礎知識・技能を理解し、金工（鍛金技法）の体験・作品制作により理解を深める。第1回～第2回において美術科教育における工芸の取扱いとその歴史を知り、美術科学習指導要領と美術科教科書より美術科の工芸分野のスコープとシーケンスを理解する。また、石川県における工芸を概論した後、一枚の鉄板を打出により形成する技法を生み出した山田宗美とその作品を知る。第3回～第13回において工芸技法の理解・習得として金工（鍛金）を取り上げ、銅板打出井鍋を製作し、第14回には制作した銅板打出井鍋を使用して親子丼を調理・試食し、作品評価をおこなう。</p>	
	工芸論Ⅰ	<p>日本の工芸の成り立ちと素材・技法を理解することを到達目標とし、日本の工芸が世界からどのように評価されているのかを知ると共に多種多様な素材と技法の分析と合わせて、作品を鑑賞することの楽しさを通じて、工芸の歴史や素材・技法などの基本的な知識を理解する。また、講義外における美術館や博物館での作品鑑賞やワークショップ参加を通じた手の感触や使い勝手の理解も図る。</p>	
	工芸論Ⅱ	<p>日本の工芸の現況を知り、作品の鑑賞を通して魅力を味わい、教育者としてこれらを伝えることができるようになることを到達目標とし、工芸論Ⅰでの工芸の歴史や素材・技法などの基本的な情報を踏まえて、日本の風土や文化的土壌の中で発展した工芸技術を、貴重な文化財として継承する意義を問うことで、日本の工芸が置かれている現状が、身近な社会的な問題とも、密接に関わっていることを理解する。</p>	
	比較美術史Ⅰ（美術理論含む）	<p>西洋中世のキリスト教美術を軸に、イメージとその典拠となるテキスト、中世美術と近代美術、西洋美術と東洋美術の比較を通じて、美術作品中の人物や場面を描く際の約束事を理解し、図像学の基礎を身につける。また図像の典拠となる聖書の記述と作品そのものを照応し、また同一主題の作品を比較することで、個々の作品の作者が観者に伝えようとしたメッセージを読み解くことができるようになる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	比較美術史Ⅱ（美術理論含む）	西洋中世美術を軸に、中世と近代、西洋と東洋の比較を通じて、美術における時間と視覚性の問題を論じる。作品の典拠となる「物語」には時間の経過が含まれることが常であるが、二次元画面において、物語の時間がいかに処理されるのかを学ぶ。後半では、西洋中世美術と、西洋近世美術、日本・東洋美術、写真などとの比較を通じて、描かれるモチーフが各時代・地域でどのように把握されて来たのかを理解する。	
			美術実地研究	実際の美術作品を中心とした文化資源の現地調査を通して、美術科の授業における美術資源を活用した教材について考察する。国内の著名な美術作品を直に鑑賞するとともに事前調査の内容を発表することによって、文化史や美術史の理解と認識を深め、鑑賞領域の授業力の向上を目的とする。 調査する美術館及び作品を学生自らが選択し、現地調査の計画を立てる。2泊3日で実際に調査に出向き、事前調査に基づく作品説明を行う。お互いの説明内容・方法を相互評価するとともに鑑賞した作品について意見交換をおこなう。最終的に事前調査及び現地調査に基づく作品解説の教材を作成する。	
			美術科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	美術教育理論とその歴史、学習指導要領、生徒の造形表現における発達の理解、石川県の教育実践にもとづき、学習指導モデルと題材タイプを検討し、学習指導における指導言や基本的な情報機器などの教具のポイントを模擬授業（マイクロティーチング）により理解・習得する。第1回～第3回において美術科教育の理念と歴史を学び、美術科を教える信念を持つ。第4回～第6回において学習指導要領に示された美術科教育の基礎知識を学ぶ。そして、第7回～第8回において美術科における主体的・対話的で深い学びの実現にむけた指導言（説明・発問・指示・評価）の在り方や基本的な情報機器の使用方法を模擬授業（マイクロティーチング）も通じて学ぶ。	メディア
			美術科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	美術科における学習評価の基礎理論・方法を理解した上で、「学習指導モデルと題材タイプ」における「指導と評価の一体化」を図る学習評価の在り方とその方法を石川県の教育実践事例研究と模擬授業（マイクロティーチング）により理解・習得する。第1～第3回において美術科教育における学習評価の理論とその方法、学習評価の改善ポイントを石川県の教育実践事例などの検討により理解する。第4回～第5回ではテキストの事例研究により評価規準の設定とその方法や学習評価・成績評価への基本的な情報機器の活用方法を理解し、第6回～第8回においてはグループワークによって題材の学習目標・評価規準の設定など「指導と評価の計画」に基づく模擬授業（マイクロティーチング）により学びを深める。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	美術科教育法Ⅴ	<p>3年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにし、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の附属学校園での研究授業や教壇実習の記録ビデオ再生による授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/1回, 8回) 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回) 第2,5回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回) 第3,6回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回) 第4回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
		美術科教育法Ⅵ	<p>「中等美術科教育法Ⅴ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回) 「中等美術科教育法Ⅴ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回) 模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	美術科教育法Ⅶ	<p>4年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにすることにより、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の実習協力校での研究授業や教壇実習を模擬授業形式で再現する授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/1回, 8回) 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回) 第2,5回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回) 第3,6回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回) 第4回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	美術科教育法Ⅷ	<p>「中等美術科教育法Ⅶ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回) 「中等美術科教育法Ⅶ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回) 模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目 美術教育	造形教育演習Ⅰ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために、まず研究テーマを設定し、章立てを構想し、先行研究を調べた上で、研究テーマの認再確をし、研究仮説の設定を行う。	
		造形教育演習Ⅱ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅰで設定した研究テーマに基づいた研究仮説にしたがって、研究に必要な調査計画を立案して実際に予備調査を行い、結果をまとめる。	
		造形教育演習Ⅲ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅱで行った予備調査のとりまとめの結果を踏まえて分析方法を確定し、本調査を行った上で分析結果を集約して結果をまとめ考察を行う。	
		造形教育演習Ⅳ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅲで行った調査結果を分析して導き出した結果に対する考察を踏まえた上で、論文の作成を行い、発表用レジュメやプレゼンテーションの作成を行う。	
		彫刻制作研究Ⅰ	本授業での制作は、彫刻基礎から学習してきた人体彫刻の集大成となるものである。モデルをじっくり観察して、これまで学んできた彫刻の造形要素を意識した人体表現に、自らの内面的な表現を込めて等身大の全身像に取り組む。本授業では特に造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注視して制作を進める。	
		彫刻制作研究Ⅱ	彫刻制作研究Ⅰの授業から引き続き、等身大の裸婦像の制作に取り組む。本授業では、造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注目して制作を進めてきたが、まず第1回と2回の授業で、これらの表現ができてきているか確認する。次に、ポリウムと粘土のテクスチャーを意識する。そして、最終的に全体のバランスを考慮したディテールの表現にもこだわり、作品を完成させる。	
		彫刻制作研究Ⅲ	第1回目にブロンズ鑄造の真土型、ガス型、蝋型等の技法について概略を学ぶ。第2回では蝋型の原型を制作する上で、蝋素材の加工法について実際に蝋素材を扱いつながらその加工法を理解する。第三回目以降蝋原型の制作をし、鑄造工場での蝋原型をブロンズに鑄こんでもらう。その後、鑄造工業の見学を兼ねて自作ブロンズ作品の着色を学ぶ。最後に作品に台座を設置し完成させる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	彫刻制作研究Ⅳ	この授業では、これまで学んできた彫刻に関する知識・技能、そして幅広い表現力を最大限に発揮し、卒業制作として作品を完成させることを目標とする。さらに、作品を制作するだけでなく、その作品を公に発表することでアートマネジメントについても理解を深める。さらに、中間発表や展覧会場でのギャラリートークを通して、自身の造形表現を自らの言葉でプレゼンテーションできることを目標とする。また、中学校、高校美術科の彫刻分野の専門知識・技能を深める上で、彫刻制作研究Ⅲまでの幅広い学習内容をもとに彫刻表現のさらなる可能性を追求する。	
	美術史研究Ⅰ	古典古代の美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。特に作品記述や様式についての理解を含め、美術作品を鑑賞する基礎的な力を養い、人体表現の変遷について理解する。	
	美術史研究Ⅱ	西欧初期中世とビザンティンの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。キリスト教美術の成立と普及、ビザンティン聖堂装飾プログラムについて理解する。	
	美術史研究Ⅲ	西洋後期中世（ロマネスク・ゴシック）と初期ルネサンスの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。中世とルネサンスの作品を比較して中世から近世にかけて人々の思考様式が変化したことを理解する。	
	美術史研究Ⅳ	盛期・後期ルネサンスと北方ルネサンスの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。三代巨匠の作品を軸に、ルネサンス美術が広大な美術に与えた影響を理解する。	
	絵画制作研究Ⅰ	本授業での制作は、絵画基礎で学習した絵画領域におけるさまざまな造形要素を深化させる、重要な取り組みである。制作研究において、これまで学んできた絵画の造形要素を意識した構図や構成について、ドローイングによるアプローチを行う。本授業では造形における基本的な要素として、特に空間表現に関するコンポジションに重点を置き制作を進める。	
	絵画制作研究Ⅱ	絵画制作研究Ⅰで取り組んだ、構図や構成に基づいたドローイングによるコンポジションに色彩を重ね合わせることで、より具体的な表現における色彩効果について試行する。本制作では、造形要素の色彩表現に取り組むことで、より絵画空間としての表現展開を行う。彩色方法もカラードローイングを用いることで、試行錯誤の中、作品としての表現方法を捉える。	
	絵画制作研究Ⅲ	絵画制作研究Ⅱに基づき、大作における本制作を行う。制作自体、支持体や色材媒体の特性に考慮しながら、画面全体や細部のバランスについて、描画によるレイヤーを重ねて進行させる。また、色材媒体のマチエールについても、単調にならないよう配慮し、空間や色彩表現に適合させる重要性についても、学びながら追求する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	美術教育	絵画制作研究Ⅳ	絵画制作研究Ⅳでは、絵画制作研究Ⅲで行った本制作を卒業制作作品として完成させる。完成後、自身による分析を行うことで、展覧会などの制作発表の場において、作品等のアピールに活かすことを目標とする。絵画領域での知識・技能・表現力を深め、学校教育での絵画分野の専門性を視野に入れた、幅広い学習内容を取得する。	
		デザイン制作研究Ⅰ	本授業では、デザイン基礎から学習してきたデザイン領域における制作を深化させる、重要な取り組みである。制作研究において、これまで学んできたデザインの制作で学んだ思考方法や表現を用いて、個々の課題解決に最適なアプローチを行う。本授業では特に発想や構想に重点を置き授業を進める。	
		デザイン制作研究Ⅱ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰで取り組んで得られた発想や構想を精査し、個々の課題解決に最適なアプローチを探る。特に表現方法の研究・実験に重点を置き、資料研究やさまざまな材料を用いて個々の表現のあり方を探る。	
		デザイン制作研究Ⅲ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰ・Ⅱで取り組んで得られた発想や構想、個々の課題解決に最適な表現方法を用いて実際に作品の制作を行う。特に展覧会場での最適な発表方法のあり方を探り、見る人に与える印象とそのねらいについて明確にした制作に取り組む。	
		デザイン制作研究Ⅳ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで取り組んで得られた諸要素を統合し作品を完成させる。完成後、プレゼンテーション、講評会、自己分析を通して、教員として必要となるデザイン領域のさらなる知識・技術・表現力を深める。	
	保健体育	体操Ⅰ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、体ほぐし運動を中心に実技形式で授業を行う。	
		体操Ⅱ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、用具を用いた運動を中心に実技形式で授業を行う。また、運動プログラムの発表も行う。	
		器械運動Ⅰ	器械運動の基本技能を身につけること、およびマット運動や平均台運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、マット運動（接転技群：前方、接転技群：後方、ほん転技群）、平均台運動（歩行、バランス、下り）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	器械運動Ⅱ	器械運動の基本技能を身につけること。跳び箱運動や鉄棒運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、跳び箱運動（切り返し系、回転系）、鉄棒運動（上がり技群、前方支持回転群、後方支持回転群、下り技群）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	
			陸上Ⅰ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技に関する基礎理論を実践する。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
			陸上Ⅱ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技の応用的実践力を高める。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
			水泳Ⅰ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール及び平泳ぎの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
			水泳Ⅱ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
			武道AⅠ（剣道）	剣道の特性を理解し、剣道の基本技能の習得及び指導方法を習得することをねらいとする。 剣道の基本技能習得を目的として、竹刀、防具の特性や構造を理解し、使用や着用方法を学び、剣道の指導に必要な基本的な動作や技（構えと足捌き、素振り、基本動作、基本打突、しかけ技、応じ技、互角稽古）の習得と指導方法について学習する。	
			武道AⅡ（柔道）	柔道の特性を理解し、柔道の基本技能の習得及び指導方法を習得することをねらいとする。 柔道の基本技能習得を目的として、柔道の文化（礼法や柔道着の取り扱い方法）や柔道の指導に必要な基本的な動作や技（受け身、基本動作、体捌き、投げ技（膝車、支釣込足、大腰、背負投）、固め技）の習得と指導方法について学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	ダンスⅠ	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンスⅠでは主に、創作ダンスとフォークダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	ダンスⅡ	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンスⅡでは、主に現代的なリズムのダンスと創作ダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	球技（ゴール型）AⅠ（サッカー）	ゴール型球技としてサッカーを取り上げる。サッカーは11人（フットサルは5人）が協調的に関わり合うことが要求されるスポーツである。その一方で、試合の各局面では個人技術・戦術が全体の展開に影響を及ぼす競技でもある。本講では、サッカーの基本的な技術力の向上を目指しながら、サッカー競技の本質を理解し、楽しむことができることを目標とする。将来、教職（中学校・高等学校保健体育教員）に就いた際、サッカーという教材を教育現場で活用できる技術や視点の獲得も目指す。	
	球技（ゴール型）AⅡ（サッカー）	ゴール型球技としてサッカーを取り上げる。サッカーは11人（フットサルは5人）が協調的に関わり合うことが要求されるスポーツである。その一方で、試合の各局面では個人技術・戦術が全体の展開に影響を及ぼす競技でもある。本講では、サッカーの基本的な技術力を使いながら、自他の様々な特徴を活かし、コミュニケーションを図りながらゲームを進めていけるような戦術力の理解と向上を目指す。	
	球技（ネット型）AⅠ（バレーボール）	バレーボールを教える側としての力量向上のため、受講者の技能の向上およびルール、戦術の理解を深めることとする。技能面では、パス・サーブ・レシーブ・スパイクの基本的技術を身につける。技術習得に際して多様な練習方法を体験し、技能向上と技能向上のための方法論について学習する。後半は、バレーボールのルール、戦術を理解し、指導に必要な知識を身につける。ルールの理解については、ルールの工夫によるバレーボールの多様な楽しみ方を体験する	
	球技（ネット型）AⅡ（バレーボール）	バレーボールのゲームに必要なパス・サーブ・レシーブ・トス・スパイク・フォーメーションの基本的技術を身につける。バレーボールのゲームを進めるためには、ポジションごとの役割の理解、メンバー間のコミュニケーションが必要なので受講者間の相互作用を重視する。また、バレーボールは攻守の切り替えが早いスポーツで、主体的な判断が求められる。受講者の主体的判断、思考をいかに授業を進める。後半は、バレーボールのトレーニング方法を理解し、指導に必要な知識を身につける。	
	球技（ベースボール型）Ⅰ	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要なデモンストレーション能力を修得する。また、体育授業や指導現場で活用できる教授法や指導法の理論と実践を学修する。さらに、チームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通じた協同学修の価値・認識を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	球技（ベースボール型）Ⅱ	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要な審判法や大会等の企画・運営方法を修得する。また、ベースボール型球技の具体的な教材事例を実践するとともに、指導計画案の作成からと模擬授業・指導演習までを実施し、互いの成果と課題について省察を深める。	
			バイオメカニクスⅠ	バイオメカニクスの概要を理解し、基本運動を力学的観点から解釈する能力を身に着けることを目的とする。バイオメカニクスの基本的概念を概説し、骨、筋のバイオメカニクス、バイオメカニクスの原則や分析方法についてキネマティクス・キネティクスの観点から学習する。また、バイオメカニクスの観点から各種運動を理解するための基礎を習得する。	
			バイオメカニクスⅡ	バイオメカニクスの観点から各種基礎運動について理解し、解釈する能力を身に着けることを目的とする。各種基礎運動（立位姿勢、歩行動作、走行動作、跳躍動作、投動作、打動作、落下運動、滑る運動、泳動作、回転運動）について概説し、各種運動のバイオメカニクスの観点（キネマティクスの観点、キネティクスの観点、エネジェティクスの観点等）から運動を解釈する。	
			運動生理学Ⅰ（海外の先端事情を含む）	中学校や高等学校の指導要領を考慮しながら、生理学的な基礎知識の学習を通して、日頃のスポーツ活動やトレーニングの場面における身体の反応現象や適応現象について考察できるようになる。さらに、保健体育・スポーツの指導者として身体的安全面に配慮できるような基礎的知識を獲得する。主な内容として、骨や筋の構造、筋の収縮特性、運動と筋ATP代謝、運動時のホルモン分泌の他、海外の先端的研究動向等について講述する。	メディア
			運動生理学Ⅱ（海外の先端事情を含む）	中学校や高等学校の指導要領を考慮しながら、生理学的な基礎知識の学習を通して、日頃のスポーツ活動やトレーニングの場面における身体の反応現象や適応現象について考察できるようになる。さらに、保健体育・スポーツの指導者として身体的安全面に配慮できるような基礎的知識を獲得する。主な内容として、運動と呼吸・心循環、運動時のホルモン分泌、運動と骨代謝、運動による酸化ストレス応答の他、海外の先端的研究動向等について講述する。	メディア
			衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生における集団に対する健康の考え方、健康問題に対する疫学的な考え方と公衆衛生学的アプローチ、集団の健康問題を抽出するための資料としての衛生統計（人口生体統計、人口動態統計など）の活用の仕方、生活習慣と病気の関係やその予防について学習する。そのために、悪性新西武ととその予防、循環器系疾患ととその予防、公衆衛生的な立場から見た感染症ととその予防などについて取り上げる。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	衛生・公衆衛生学的な観点から、健康を支える社会制度、ライフステージ特有の健康課題（高齢期、小児期、壮年期など）、障害の考え方、食環境や生活環境など様々な環境や環境問題と健康の関係、地球規模での健康問題に対する世界的な取り組み（社会保障制度、医療保障制度、障がい者福祉、および環境保健と国際保健など）など、日常生活や社会と健康の関係について学習する。	メディア
	学校保健Ⅰ（教科横断で取り組む学校保健）	学校における保健活動（すなわち保健教育、保健管理、環境衛生の諸問題）について、教科横断で取り組む視点を踏まえ、児童生徒の健全な発育・発達という観点から総合的に考察する。また、各論として食育の推進（学校給食を含む）、健康観察と健康相談、健康診断、学校で予防すべき感染症、精神の健康、学校環境衛生などを取り上げる。	メディア
	学校保健Ⅱ（教科横断で取り組む学校保健）	学校保健では、学校における保健教育についての基礎的な理解を持つとともに、子どもや教職員の健康を「守り」、「育て」、そして「教える」ための目標設定や内容の検討、実施計画・評価について一定の見通しが持てるようになること、そして学校保健を教科横断的に進めるための基礎的理解を行う。その際、喫煙飲酒、薬物乱用の防止、がん教育、性に関する指導、安全教育などを取り上げ、模擬授業形式も行いながら進める。	メディア
	保健体育科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	保健科教育における目標、内容、方法及び評価について理解すると共に、授業計画のプロセス、授業・教材づくりのポイントと教師の指導性について、石川県の保健体育科の実践も踏まえて学習する。また、学習指導要領で取り扱われる内容について「心身機能の発達と心の健康」「障害の防止」「環境と健康」「疾病の予防」などを取り上げ、それらの指導法について解説する。	メディア
	保健体育科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	保健科教育の目標、内容、方法を中学校・高等学校学習指導要領、解説編をもとに解説する。また、学習指導要領で取り扱われる内容について、生に関する指導の内容をはじめ、性感染症とその予防、喫煙、飲酒、薬物乱用の防止、などを具体例として、実際の授業づくりでの課題、石川県での実践の現状と課題について理解を深める。	メディア
	保健体育科教育法Ⅴ	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示されたの学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。中等教育学校の保健体育科教員として学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を身につける。また、生徒の実態に合わせた効果的な指導の在り方について、グループワークに取り組みながら理解を深める。	メディア
	保健体育科教育法Ⅵ	中等教育学校の保健体育科教員として学習指導を担当する際に必要となる実践的な知識を身につける。保健体育科の計画、学習評価などに関する実践的知識を身につける。具体的には、生徒同士の相互作用の形態（学習形態）と生徒の学びに焦点をあて、体育における対話的な学びについて検討する。異質な他者との相互作用による運動・スポーツの楽しみの享受はいかにして可能になるのか。生徒の実態に合わせた効果的な指導について、グループワークに取り組みながら理解を深めていく。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	バイオメカニクス演習A	<p>バイオメカニクスの基本概念を理解し、運動を力学的に解釈すること、バイオメカニクスの研究で用いられる力学や数学の基礎を理解し、利用できる能力を身に着けることを目的とする。</p> <p>バイオメカニクスの基本概念を理解することを目的として、基本的な知識の確認と各種運動のバイオメカニクスの解釈を行う。</p> <p>力学や数学の基礎を理解することを目的として、基本的な幾何学や力学を学習し、バイオメカニクスの分析で用いる方法を習得する。</p>	
			バイオメカニクス演習B	<p>バイオメカニクスの研究で用いられる研究方法の基礎を理解し、利用できる能力を身に着けること、バイオメカニクスの研究で用いられる研究方法の基礎を理解し、実際に測定及びデータ処理を実施する能力を身に着けることを目的とする。</p> <p>研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p> <p>研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析やデータ算出を演習を通して実施することで、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p>	
			バイオメカニクス演習C	<p>バイオメカニクスの研究で用いられる三次元動作分析方法の基礎を理解し、利用できる能力を身に着けること、バイオメカニクスに関わる研究論文の作成方法について学習することを目的とする。</p> <p>三次元動作の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p> <p>研究論文作成のために先行研究の収集、整理、解釈、検討し、研究課題を設定する。また、予備実験について準備し、測定方法の妥当性について検討する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	バイオメカニクス演習D	<p>各種データ処理、分析、算出を行い、算出データの妥当性の確認し、データを解釈できる能力を身に付けること、論文の構成及びそれぞれの内容、記述方法について理解し、実際に記述する能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>データの処理や解釈する能力を身に付けることを目的として、データ処理、分析、算出を行い、それぞれの段階でのデータを確認し、その後、算出したデータを基に運動を理解する。</p> <p>論文の構成や記述について理解することを目的として、バイオメカニクス領域での研究論文の構成、記述方法について学習する。各構成要素の内容、記述方法について説明し、記述できる能力を身に付ける。</p>	
	運動生理学演習A	<p>運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探るとともに、そこで用いられている運動生理学や生化学的手法やそれによる結果の解釈についての議論を通じて、スポーツ科学や健康科学で示される知見を正しく理解できるよう学修する。</p>	
	運動生理学演習B	<p>運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探るとともに、そこで用いられている運動生理学や生化学的手法の具体的な方法について詳細に学習・実習する。それらの学習・実習を通じて、スポーツ科学や健康科学に関する様々なデータの取得方法を学修する。</p>	
	運動生理学演習C	<p>運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探り、その課題に対する解決の糸口となるデータの取得を試み、その結果の是非について議論する。こうした演習を通じて、仮説検証の実際について学修する。</p>	
	運動生理学演習D	<p>運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探り、その課題の解決の糸口となるデータの取得を試みる。仮説検証した結果と解釈（結果の是非）に関して、レポートでのまとめ方やプレゼンテーションによって効果的に伝える技術や方法について学修する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	学校保健演習 A	学校保健に関する基本概念を理解することを目的として、基本的な知識の確認と学校保健活動の実際について考察を行う。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		学校保健演習 B	学校保健に関する基礎を理解することを目的として、保健管理や保健教育で用いる指導方法等を考察する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		学校保健演習 C	研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、学校保健分野での研究での利用方法を習得する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		学校保健演習 D	研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析やデータ算出を演習を通して実施することで、学校保健分野の研究での利用方法を習得する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		保健体育科教育演習 A	保健体育科教育において生徒の豊かなスポーツライフを保証するための資質・能力の育成が喫緊の課題となっている。本科目では、先進的な体育授業実践に関する書籍・論文を講読し、体育科教育学の観点から成果と課題を整理する。具体的には、先進的な体育実践の探索、体育科教育学の文献検索方法、先進実践の成果と課題の整理の仕方について学習する。	
		保健体育科教育演習 B	生徒の豊かなスポーツライフを保証するための資質・能力の育成の場として体育授業がある。体育授業をよりよいものにしていくためには、体育授業を観察し、成果や課題を評価する力量が求められる。本科目は、体育授業の観察・評価法を学習し、体育授業を観察・評価する方法を習得する。これを通じて、体育授業の観察・評価する能力を育成する。	
		保健体育科教育演習 C	体育科教育学の研究領域は、目標論、内容論、指導論、子ども理解、学習集団論、教材づくり論等、多岐にわたる。本科目は、保健体育科教育演習A, Bを基礎に、現代の体育授業を体育科教育学の観点から検討し、受講者自身が体育科教育に関する研究テーマを設定する。これを通じて、体育授業を研究的課題として立論する力量を育成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	保健体育科教育演習 D	保健体育科教育に関する研究課題を解決する研究手法は、観察やインタビュー、質問紙調査法等、多岐にわたる。研究課題の解明には、適切な研究方法が採用されなければならない。本科目は、体育科教育学に関する先行研究および研究方法論に関する先行研究を講読し、体育科教育研究に関する研究方法を学習する。それを通じて、設定したテーマに即した研究方法について検討する。	
		家政学原論	家庭科教育の学問的基盤である「家政学」について理解し、中学校・高等学校で学ぶ家庭科の位置づけを明確にすることを授業目標とする。本授業では、実際に過去の家政学書を目にしなが、日本やアメリカの家政学について知見を得た上で家政学の学問体系を系統的に理解する。さらに、ディスカッションなども取り入れながら、家庭生活の変化、家政学における「生活」、家政学の独自性、および家政学の社会的役割の理解を深める。	メディア
	家政教育	家庭経営学Ⅰ（家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む）	家庭経営（家庭経済学を含む）の基礎理論の習得とともに現代の消費者市民社会の形成を目指し、実践に生かす力を身につけることを授業目標とする。中学校・高等学校の家庭科の教科書で取り上げられている内容を中心に、現代の家庭経営、社会経済情勢や地球環境に関わる諸課題を、具体的・日常的な問題として取り上げ、課題解決型の視点で検討する。	メディア
		家庭経営学Ⅱ	家庭経営分野の基礎理論を実践に生かす力も身につけることが望まれる。中学校・高等学校家庭科の家庭経営学分野の基礎知識・技能を身につけることを授業目標とする。授業では、中学校・高等学校家庭科の家庭経営学領域での学習内容に関する理解を深めるため、家庭経営学の基礎理論を学ぶとともに、現代社会における家庭経営の諸課題を取り上げ検討する。	メディア
		家族関係学（多様な家族と家庭科教育）	中学校・高等学校の家庭科教育で求められる家族関係領域の基礎知識を身につけ、多角的に家族や家庭を捉えながら、地域社会および世界の中での現代家族の多様性についての理解することを授業目標とする。授業では、現代社会の中で課題となっている多様な家族についての問題を取り上げながら、生涯を見通して「家族の在り方」について考え、中学校・高等学校家庭科教育で扱う家族関係領域の学習内容を検討する。	メディア
		家庭経営学演習Ⅰ	中学校・高等学校家庭科における家庭経営学領域を中心とした学習内容・指導方法を検討するために、家庭経営学の研究方法の基礎を習得することを授業目標とする。本授業では、家庭科・家庭経営学領域の知識の習得および指導に関して研究を進めるため、研究課題の設定や、調査の方法など、研究方法の基礎を学ぶ。また、予備調査の実習なども行う。	メディア
		家庭経営学演習Ⅱ	中学校および高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を深めることを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰの知識・技術を踏まえて家庭科・家庭経営学領域のさらなる知識の習得および指導に関して研究を進める。はじめに、家庭経営学に関する文献を講読し、内容の理解を深めるためのグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。その上で検討結果を省察し、家庭科教育における家庭経営学領域への展開について検討する。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 家政教育	被服学概論Ⅰ(現代の衣生活の諸問題を含む)	全受講者が衣服の分類およびデザインに関する知識を習得し、衣服の選択方法について多角的に教育現場で展開できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣服の分類、形状およびサイズについて映像や様々な型紙を提示して解説する。さらに、衣服の安全性および快適性について説明し、着用目的、健康、安全、環境および現代の衣生活における諸問題に配慮した適切な衣服の選択方法を検討する。	メディア
	被服学概論Ⅱ	衣服素材の特性および汚れの付着と除去に関する基礎知識を修得し、管理の仕方を検討できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣服素材の種類、構造、一般物性および製造工程について紹介する。そして、汚れの付着と除去のメカニズム、衣服の劣化に対する修繕法を、映像を用いて解説する。これらの基礎知識を活用し、環境へ配慮した衣生活の送り方を衣服の管理の観点から検討する。	メディア
	被服構成実習	衣服の素材、構成、製作方法と着装方法を理解し、学校教育で被服製作実習に関する授業が展開できるようになることを授業目標とする。被服製作に必要な材料、用具、採寸、製作および評価を系統的に行い、衣服製作に必要とされる知識と技術を獲得する。また、洋服(立体構成)と和服(平面構成)の違いについて、素材、用具、構成、製作方法、着装方法、管理方法を比較しながら理解を深める。	
	被服科学実験	実験を通して衣服とその素材の製造工程および物性評価を行うことにより系統的に理解し、実験結果のまとめ方、見せ方および議論の方法の修得を授業目標とする。衣生活について考える上で、衣服の性能とそれを構成する布、糸、繊維の物性について実験を通して理解することは重要である。本授業では、衣服素材の試作および評価試験を行う。さらに、得られた結果については表計算ソフトを用いてまとめ、グラフ化した上で議論する。	
	被服学演習Ⅰ	衣生活の実態と課題を調査によって明らかにし、衣生活に関する文献、デジタルコンテンツおよびアンケートの調査方法、読解方法および解析方法を修得することを授業目標とする。本授業では、学校教育における衣生活の実態と解決すべき課題について、文献やデジタルコンテンツの調査およびアンケート調査の実施により探求する。そして、調査結果を集計・解析することにより実態と課題を明らかにし、検討課題の解決法を模索する。	メディア
	被服学演習Ⅱ	被服に関する簡易的な実験を展開できるよう、そのための文献調査方法、実験計画、実験装置の試作方法および実験結果のまとめ方を修得することを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた実験計画や簡易実験装置を工夫しながら作成する。さらに、試作装置を用いて測定を行い、その結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	保育学概論Ⅰ（現代の保育学の諸問題を含む）	保育を含む福祉に関する基本的な理念や背景を学び、種々の現場における心理社会的課題を考察することを通して、保育の意義、目的、制度、内容、方法等を理解することを授業目標とする。本授業では、社会福祉及び保育に関する基礎的な理念や背景を学んだ後に、保育学の観点を踏まえつつ、家庭福祉及び児童福祉の現場において生じる現代的課題を知り、それらの課題に対する具体的な対応や支援を検討する。	メディア
	保育学概論Ⅱ（家庭看護含む）	家庭や種々の福祉施設を含む多様な保育の現場における心理社会的課題を考察し、家庭における看護の現状と課題を検討することを通して、保育の意義、目的、制度、内容、方法等を、より具体的に理解することを授業目標とする。本授業では、障害者福祉、児童虐待及び高齢者福祉のそれぞれの現場において生じる現状と課題を知り、家庭における看護の視点も踏まえながら、それらの課題に対する具体的な対応や支援を検討する。	メディア
	保育学Ⅰ	海外の保育・幼児教育との相対化を踏まえながら日本の保育を理解し、現代の子ども及び子育て家庭を取り巻く現状と課題を知り、具体的な支援につながる知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、海外の保育・幼児教育を紹介し、日本の保育を相対化しながら理解する機会を提供する。特に、幼小接続、障害のある子どもの支援に焦点を当て、それぞれの支援について具体的に協議する。	メディア
	保育学Ⅱ（実習を含む）	保育現場で活用される保育技術について、現場におけるそれらの機能も踏まえながら理解し、技術の活用の際に必要とされる知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、まず、保育技術を具体的に紹介し、次に、幼稚園参観あるいは保育実践の録画鑑賞を踏まえ、それらの技術が現場において果たす機能を協議しながら考察する。最後に、学生による保育技術の発表の機会を設け、発表内容に基づいて協議する。	メディア
	保育学演習Ⅰ	保育学周辺領域の専門的文献の講読を通して、自身の課題意識と照合しながら、現在の保育学周辺領域の課題を考察する態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、保育学周辺領域の専門的文献について、演習担当者が資料を用意して発表する。専門的文献は、全ての参加者が事前に読解してくることとする。各回のテーマについて、授業担当者が簡潔な説明及び講義をした後で、参加者全員で討論する。	メディア
	保育学演習Ⅱ	保育学周辺領域の研究論文の講読を通して、現在の保育学周辺領域の課題を相対的かつ多角的に考察する態度を身につけるとともに、研究の構造を理解することを授業目標とする。本授業では、検討論文について、演習担当者が資料を用意して発表する。検討論文については、全ての参加者が事前に読解してくることとする。各回のテーマについて、授業担当者が簡潔な説明及び講義をした後で、参加者全員で討論する。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	家政教育	家庭電気・機械・情報	家庭生活で役立つ情報・電気・機械の工学的な基礎知識を身につけることを授業到達目標とする。本授業では、家庭電気・家庭機械・情報処理に関する基礎知識を習得する。さらに、コンピュータプログラミングの概念をC言語の学習する。授業では、実際にプログラムを作成し、実行結果を確認しながら理解を深める。また、プログラミングの学習とともに、照明、電気コンセントの増設、水栓交換、排水管置換、トイレ便座の交換、エアコン除去と設置について学ぶ。	メディア
			家庭科教育法Ⅲ (石川県の教育実践を含む)	本授業のテーマは反省的实践家として活動できる中学校あるいは高等学校の家庭科教師の在り方について理解することである。本授業の到達目標は、反省的实践家としての家庭科教師として、家庭科教育の応用原理を知り、石川県での教育実践を踏まえつつ家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得することである。家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業(情報機器及び教材の活用を含む)を行う。その際、石川県に関わる授業実践についても行う。講義とともにアクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチといった学習者が主体となった活動も行う。課題等により予習・復習を促す。	メディア
			家庭科教育法Ⅳ (石川県の教育実践を含む)	本授業のテーマは反省的实践家として活動できる中学校あるいは高等学校の家庭科教師の在り方について理解することである。本授業の到達目標は、反省的实践家としての家庭科教師として、家庭科教育の応用原理を知り、石川県の教育実践を踏まえつつ家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得することである。家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法(情報機器及び教材の活用を含む)、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。その際、石川県に関わる教育実践についても行う。相互に批評・評価し、それらをもとに指導案や教材を修正する。講義とともにアクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチといった学習者が主体となった活動も行う。課題等により予習・復習を促す。	メディア
			家庭科教育法Ⅴ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法(情報機器及び教材の活用を含む)、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。食生活、衣生活、住生活分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	家庭科教育法Ⅵ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。家族・保育分野、消費生活・環境分野、福祉分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	家庭科教育法Ⅶ	授業のテーマおよび到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、3年次の教育実習をふりかえりながら、授業と指導案について再検討し、議論を踏まえて同じ授業について指導案を再度作成して議論する。実験、実習、リサーチ・討論、小・中学校家庭科授業の参与観察、情報機器及び教材の活用、といった学生が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	家庭科教育法Ⅷ	授業のテーマ及び到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、主として今日的教育課題と家庭科について学ぶ。より必要性が高まっている学習内容や学習方法を取り入れた先駆的であった授業実践を分析し、それを活かしながらカリキュラムや学習指導を構想・実践する。実験、実習、リサーチ・討論、情報機器及び教材の活用、小・中学校家庭科授業の参与観察、模擬授業といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	家庭科教育演習Ⅰ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とし、家庭科を探究的に学ぶ視点や研究方法に関する基礎的な知識やスキルを習得する。また、家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得する。 カリキュラムに関わる文献研究、質問紙や面接などの調査研究、諸外国の家庭科に関する研究、授業の実践的研究などについて、具体的な研究例をもとに検討する。また、授業づくりにかかわる教材研究の一環として実習や実験なども行う。	
	家庭科教育演習Ⅱ	家庭科教育演習Ⅰを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合のテーマ設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。 様々なテーマの研究論文を講読し、テーマに応じた研究手法の特徴について理解を深める。また、受講生自身が探究したいテーマについて、資料収集の方法や探究方法を考え、アドバイスを受けながら実践する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	家庭経営学演習Ⅲ	<p>中学校・高等学校家庭科における家庭経営学領域を中心とした学習内容および指導方法を検討するために、3年次で習得した基礎的な研究方法を展開させ、実践に結び付く考察をすすめることを授業到達目標とする。本授業では、3年次で実施した予備調査や文献講読の結果を踏まえて、研究課題の設定や、調査の方法など研究方法の再検討を行う。さらに、それをもとに家庭科・家庭経営学領域の知識の習得および指導に関する研究を展開する。</p>	
	家庭経営学演習Ⅳ	<p>これまでに学んだ中学校・高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を踏まえて、学校現場で実践可能な学習内容・指導方法を提案することを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰ～Ⅲの知識・技能を踏まえてさらに研究を展開する。グループディスカッションにより多角的な視点・他者の視点も取り入れながら、より精度の高く実践可能な研究としてまとめていく。</p>	
	被服学演習Ⅲ	<p>多様性社会におけるユニバーサルファッションやエシカルファッション等の検討課題に対して、時代に応じた様々な教材を提案できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた被服デザインの検討、設計、試作および評価を系統的に行う。これらの結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。</p>	
	被服学演習Ⅳ	<p>衣服に関する環境問題の理解と取り組みを検討する授業展開ができるよう、現状に応じた様々な提示教材を提案できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた実験計画や簡易実験装置を工夫しながら作成する。さらに、試作装置を用いて測定を行い、その結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。</p>	
	保育学演習Ⅲ	<p>保育学周辺領域の種々の研究課題について、その課題を追究する方法を具体的且つ批判的に検討し、より適切な方法を見出すことを授業到達目標とする。本授業では、データを収集する研究方法として、観察調査、質問紙調査、インタビュー調査、実験調査、文献調査などを取りあげ、研究課題と照合しながら具体化する過程も含めて協議する。更に、保育の現場においてデータを収集する上での倫理的課題についても講義を踏まえて討論する。</p>	
	保育学演習Ⅳ	<p>保育学周辺領域の種々の研究課題について、適切な方法により収集されたデータを分析し、考察するための知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、それぞれの研究方法により収集されたデータの分析と考察について、演習担当者の発表に基づきながら協議する。更に、データを収集した各種現場に対して、どのように還元していくことが望ましいのかについても討論を踏まえて検討する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	家庭科教育演習Ⅲ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集し、アドバイスを受けながら研究枠組・研究計画をたてる。予備調査も行う。	
		家庭科教育演習Ⅳ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集したり調査をしたりし、アドバイスを受けながら研究を進める。定期的に報告会を行い、受講生相互に検討し合う。	
	専門科目	英語学概論Ⅲ(応用)	音韻論・社会言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、音韻論・社会言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	
		英語学概論Ⅳ(応用)	心理言語学・応用言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、心理言語学・応用言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	
		英語音声学・文法Ⅰ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。具体的には完了形、進行形、能動態・受動態など、コミュニケーション活動で用いられることの多い構文および、英語音声の基礎的部分を解説・練習していく。	
		英語音声学・文法Ⅱ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。動詞・倒置・省略など、コミュニケーション英語で重要となる文法事項および、英語音声の単音レベルの基礎を解説・練習し、授業の中で活用についても考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	英語学演習Ⅰ（個別理論）	構造言語学および生成文法の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理するレポートを作成する。	
			英語学演習Ⅱ（個別理論）	認知言語学および言語類型論の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理する課題を行う。	
			英語文学概論Ⅰ（イギリス文学と現在の英語教育）	イギリス文学の歴史と変遷を扱い、その背後の文化と思想を理解する一方で、文学作品と英語教育との影響関係を論じる。授業ではテキストの他に実際の作品から抜粋したプリントを配布し、英語についての広範な知識の獲得を求める。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
			英語文学概論Ⅱ（アメリカ文学と現在の英語教育）	アメリカの建国から19世紀までをその文学の歴史を中心に概観する。各時代の代表的な作家の功績や作品（の抜粋）に触れることで、アメリカの文学とそれを産出した文化について深く考察する能力を養成する。毎回一人ないし二人の作家を中心に扱い、その周辺の歴史背景や文化思潮とともに講義する。受講生はグループに分かれて作品の解釈や英語教育における利用法について議論を行うことが求められる。	メディア
			英語文学概論Ⅲ（イギリス）	英語文学概説Aの内容を踏まえたイギリス文学の歴史と変遷を扱い、その背後の文化と思想を理解する。授業ではテキストの他に実際の作品から抜粋したプリントを配布し、英語についての広範な知識の獲得を求める。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
			英語文学概論Ⅳ（アメリカ）	アメリカの19世紀後半から20世紀後半までを、その文学の歴史を中心に概観する。各時代の代表的な作家の功績や作品（の抜粋）に触れることで、アメリカの文学とそれを産出した文化について深く考察する能力を養成する。毎回一人ないし二人の作家を中心に扱い、その周辺の歴史背景や文化思潮とともに講義する。受講生はグループに分かれて作品の解釈や英語教育における利用法について議論を行うことが求められる。	メディア
			英語文学演習Ⅰ（イギリス）	イギリス文学の代表的な作品を扱い、物語自体の構成要素、背後にある文化と思想、作品成立の歴史背景などを理解する。併せて、作品の文体も文法的に考察し、英語についての知識を広げる。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	英語文学演習Ⅱ（アメリカ）	英語文学（アメリカ）作品の読解を通じて様々な英語の表現に触れると共に、アメリカの文学やそれが背景とする歴史と文化について理解を深めることをテーマとする。作品読解から現れる様々な疑問について議論を重ね、作品を題材とする教材を作成するなどして将来的に受講生が行う授業に文学作品を活用するための方法を習得することを目標とする。受講者は作品を深く読解し、作品自体や作品を生み出した文化についての独自の意見を持って積極的に議論に参加することが期待される。また授業中の意見を深め、LMSへのショートペーパーで表すことが毎時間求められる。	メディア
	英語文学演習Ⅲ（イギリス）	イギリス文学の代表的な作品を扱い、その背後の文化と思想を理解する。併せて、作品の作風も考察し、英語の使われ方についての知識を広げる。テキストは他の英語文学演習で扱われるものよりも難易度の高いものとする。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
	英語文学演習Ⅳ（アメリカ）	英語文学演習Ⅱ（アメリカ）が19世紀から20世紀の短編小説の読解を行うのに対して、この授業はいわゆる“Great American Novel”と呼ばれる作品の読解を中心に行う。様々な観点からの疑問を巡るディスカッションを充実したものとできるように、受講者は作品を深く読解し、作品自体や作品を生み出した文化についての独自の意見を持って積極的に議論に参加することが期待される。また授業中の意見を深め、LMSへのショートペーパーで表すことが毎時間求められる。	メディア
	英作文Ⅰ（基礎）	英語で文章を書くための基本的な事項を学ぶ。英語のコミュニケーションに習熟し、受講生は将来自身が英語で授業を行うための英語運用力を積極的に身につける。特にこの授業では簡潔な英語で文章を構成する方法を重点的に学ぶ。パラグラフの書き方を練習することを通じ、英語という言葉とそれによる文章の論理的構造に習熟する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	英会話Ⅰ（基礎）	日常よく使われる英会話の定型表現を学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、ロールプレイ型の会話練習を行い、実際の場面のなかで活用する。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。また、毎回、前回の学習の確認クイズを行う。	
	英作文Ⅱ（応用）	英作文Ⅰ（基礎）で修得した、英語で文章を書くための基本的な事項を活用し英語運用の運用能力のさらなる発展を目指す。様々なジャンルの英語に触れることで、目的や場面、状況に応じた適切な英文を書くことができるようになる。明快な英文を用いた複数のパラグラフによる種々の課題の執筆を通じ、英文を構成する時の注意点を実践的に学んでゆく。また教室内のコミュニケーションに英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させることを同時に行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 英語教育	英会話Ⅱ(応用)	英語を使った中学校の英語授業の模擬演習を行う。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、指導案を組み立てる。作成した指導案を元に、15分程度の模擬授業を実践する。なお、教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行っていく。	
	英作文Ⅲ(応用)	英作文Ⅰ、Ⅱで学んだ事項を踏まえ、より高度な文章を英語で書くための発展的な事項を学ぶ。このクラスは特に、論理的な文章を構成する方法の修得を重視する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	英会話Ⅲ(応用)	アカデミックスピーチとディスカッションを行う。受講生は、授業計画の内容に沿ったプレゼンテーションを行い、その後全員で質疑応答をする。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施し、ディスカッションで用いる語彙の増強もはかる。	
	英作文Ⅳ(応用)	英作文ⅠからⅢにおける習得技術を基礎に、「アカデミック・ライティング」の技法を駆使しての論理的な英文エッセイを学んでいく。各自が設定したテーマに関するリサーチ方法の授業も含め、卒業論文の作成などにも援用できる実践的な授業となる。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	英会話Ⅳ(応用)	リスニング教材を使用し、留学可能なレベルのコミュニケーション力を養う。上級レベルのリスニング教材を聴き、コミュニケーション力の向上を目指す。授業はディクテーションが中心となる。自分が聞き取った内容がどれだけ書き取れるかを複数回に分けて確認し、語彙・音連結・内容などの観点から課題を分析する。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施する。	
	英語科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主に第二言語習得、学習指導要領、外国語教授法、学習者要因等を中心に引き上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識、石川県での実践の現状や課題を踏まえて議論できる機会を設ける。	メディア
	英語科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主に学習指導要領、言語形式、5領域の指導等を中心に引き上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、模擬授業や各自の経験や知識、石川県での実践の現状や課題を踏まえて議論できる機会を設ける。	メディア
	英語科教育法Ⅴ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。まず、教師の資質や授業運営などの基本的な知識を取り上げ考察する。続いて、聞くこと・読むことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	英語科教育法Ⅵ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。話すこと・書くことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。さらに、学んだ知識・技術を踏まえて、実践の観察・分析、指導計画の立案を行う。	
			英語科教育法Ⅶ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、受講者各自が教育実習で行った英語科授業の実践を振り返り、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの領域の指導と評価に焦点を当て、それぞれの実践上課題を見だし、それらを改善するために必要な教授・学習の理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、省察等の演習を行う。	
			英語科教育法Ⅷ	英語科教員として必要とされる実践的な指導力の向上を目指す。特に目標を踏まえた、指導と評価に関する知識を身につけるとともに、その知識を授業という場で活用できるための実践力を身につける。各領域の指導と評価に焦点を当て、必要な理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、単元計画の作成等の演習を行う。	
			英語学特別演習Ⅰ	対照言語学的観点から日本語と英語を対比することにより、日本語、英語の両言語をより客観的にとらえる視点を持つ。日本語と英語の言語類型論的特徴を音声・形態論・統語論・意味論の観点から対照していき、このような面の違いが実際の言語使用にどのような影響をもたらすかについて解説していく。それと並行して各自日英語対照に関するテーマを決めてレポートする。	
			英語学特別演習Ⅱ	日本語と英語の表現構造の違いに焦点を当て、客観的に同じ状況を表すのにどうして日本語と英語では異なった事態の切り取り方をするのかについて、いままで提示されてきた諸説を紹介し、具体的になぜ同じ状況を表現するときの構造が異なるのかについて、参加者同士の意見交換も交えながら掘り下げていく。また、各自表現構造の違いに関する具体的な現象をとりあげてレポートする。	
			英語文学特別演習Ⅰ	英語文学作品を学術的に読むための、伝統的な文学批評理論を学ぶ。文体論や伝記批評、物語の形態論といった伝統的な批評分野の考え方を扱い、英語文学作品の読解に援用する演習を行う。受講学生は各人の興味に合わせて、対象作品と批評方法を選び、自分で作品批評ができることを目指す。難解な英語と高度な内容を扱った、発展的内容となる。	
			英語文学特別演習Ⅱ	英語文学作品を学術的に読むための、ポスト構造主義以降の文学批評理論を学ぶ。ジェンダー論、ポスト植民地主義批評、エコロジー批評といった近年の批評理論を用いて、英語文学作品の読解演習をする。受講学生は各人の興味に合わせて、対象作品と批評方法を選び、自分で作品批評ができることを目指す。難解な英語と高度な内容を扱った、発展的内容となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	英語教育	英語教育学特別演習 I 英語科教員として様々な課題について理解したり、解決したりするためにテーマを設定し、追究しながら、研究を行うために必要な知識や技能を学ぶ。具体的には、先行研究や実践などの概観を通して、自分が追究したい研究課題の設定を行う。そして、研究課題を踏まえて、研究を進めるための研究方法やデータ収集方法、分析方法などを学ぶ。	
		英語教育学特別演習 II 英語科教員として様々な課題について理解したり、解決したりするためにテーマを設定し、追究しながら、必要な知識や技能を学ぶ。具体的には、英語科教育特別演習 I で学んだことを踏まえ、実際にその課題を追究することを通して技能を身につけていく。最終的には報告書の作成や発表を行い、そのために必要な知識や技能の習得も目指す。	
		英語科教育実践研究 I 英語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。特にこの授業は、これからの英語教育に必要な教材を自ら研究すること、また優れた教育実践に学ぶことを通じて授業案を設計・立案して、発展的な実践力を養うことを目的とする。	
		英語科教育実践研究 II 本授業では、英語教育についての歴史的に交わされてきた論争を検証し、現在の英語教育の在り方についての批判的な視点を養う。英語という言語そのものの独自性、それらを取りまく文化やイデオロギー的背景、第二言語獲得といった抽象的なテーマから、教室でいかに英語を教えるべきかという実際的な問題まで様々な話題を扱う。	
		教育・心理基礎論 A	<p>(概要) 本授業は人間の成長と発達、人間社会の形成と維持、発展に不可欠な「教育」の営みについて教育学と心理学それぞれの専門的な知見から総合的に考察することを通して、教職に就く履修者が幅広い視野と深い洞察力をもって現代の教育課題に応答するための基礎的な力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (34 鳥居和代/1回) 教育を多角的に考察する意義 (78 平石晃樹/2回) 道徳教育から見た現代の教育課題 (34 鳥居和代/3回) 教育史から見た現代の教育課題 (74 土屋明広/4回) 教育制度論から見た現代の教育課題 (33 土井妙子/5回) 教育方法学から見た現代の教育課題 (70 上森さくら/6回、7回) 教育実践教論から見た現代の教育課題 (77 原田克巳/8回) 教育臨床心理から見た現代の教育課題</p>
教育学・心理学に関する科目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	教育・心理基礎論B	<p>(概要) 本授業は人間社会と不可分な教育的営みについて、哲学、歴史学、法律学、方法学、臨床心理学など多様な専門家がそれぞれ専門的な視点から具体的な課題をまじえて議論することで、教職に就く履修者が幅広い視野と深い洞察力をもって現代の教育課題に応答する実践的な力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(34 鳥居和代／1回) 教育をめぐる現代的課題をどのように論じるか</p> <p>(78 平石晃樹／2回) 教育哲学から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(34 鳥居和代／3回) 教育史から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(74 土屋明広／4回) 教育法制度論の見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(33 土井妙子／5回, 6回) 教育方法学(学習指導を含む)から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(70 上森さくら／7回) 生活指導論のから見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(77 原田克巳／8回) 教育臨床学・学校心理学のから見た現代の教育課題に関する議論</p>	オムニバス方式
	教育学・心理学演習A	本授業は「教育・心理基礎論A」、「教育・心理基礎論B」における学習項目について履修者が、各自の問題関心に基づく深い学習と教員・他の履修者との討論を通して、教育学・心理学諸分野の高度な知識と研究手法を修得することを目的とする。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいてそれぞれ全8回の演習を行う。	
	教育学・心理学演習B	本授業は「教育・心理基礎論A」、「教育・心理基礎論B」、「教育学・心理学演習A」における学習内容を前提に、履修者が理論的、実践的、臨床的に高い専門性を修得することを目的として、履修者自ら設定した課題の研究発表、教員・他の履修者と討論を中心に進めていく。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいてそれぞれ全8回の演習を行う。	